別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基本計画											
事項	記入欄										備考
計画の区分	学部の設置										
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ ﾌﾞｯｷｮｳｷｮｳｲｸｶﾞｸｴﾝ 学校法人　佛教教育学園										
フリガナ 大学の名称	ﾌﾞｯｷｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 佛　教　大　学										
大学本部の位置	京都府京都市北区紫野北花ノ坊町96番地										
大学の目的	本学は学校教育法（昭和22年法律第26号）に基き、仏教精神により人格識見高邁にして、活動力ある人物の養成を目的とし、世界文化の向上、人類福祉の増進に貢献することを使命とする。										
新設学部等の目的	看護学部看護学科では、豊かな人間性と倫理観を基盤に人を思いやることができ、看護学を中心とする学識と基礎的な実践能力、適切なコミュニケーション力、研究的思考力を持つ人材の養成および、地域で生活する人々の健康に貢献しながら、多職種連携における役割を理解し、グローバルな視点にたって、社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心をもちつつ看護職として自己研鑽できる人材の養成を目的とする。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地		
	看護学部 看護学科	年 4	人 80	年次 人 －	人 320	学士（看護学）	保健衛生学関係（看護学関係）	年　月 第　年次 令和8年4月 第1年次	京都府京都市北区 紫野北花ノ坊町96		
	計		80	－	320						
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	佛教大学 看護学部看護学科〔定員増〕（80）（令和８年４月）（令和７年３月認可申請） 保健医療技術学部看護学科（廃止）　（△65） ※令和８年４月学生募集停止										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計						
	看護学部　看護学科	82科目	66科目	18科目	166科目	124単位					

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	看護学部　看護学科	人 10 (10)	人 6 (6)	人 7 (6)	人 10 (10)	人 33 (32)	人 0 (0)	人 88 (88)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	6 (6)	7 (6)	10 (10)	32 (32)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	9 (9)	6 (6)	7 (6)	10 (10)	32 (32)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	10 (10)	6 (6)	7 (6)	10 (10)	33 (32)			
	計	10 (10)	6 (6)	7 (6)	10 (10)	33 (32)	0 (0)	－ (－)	

既設分	仏教学部　仏教学科	6 (6)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	98 (98)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (6)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (6)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			
	文学部　日本文学科	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	104 (104)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			
	中国学科	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	80 (80)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			
	英米学科	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	80 (80)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			

既設分	歴史学部　歴史学科	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	91 (91)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			
	歴史文化学科	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	90 (90)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
設	教育学部　教育学科	14 (14)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	127 (127)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	14 (14)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	25 (25)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	14 (14)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	25 (25)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	14 (14)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	25 (25)			
	幼児教育学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	81 (81)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			

既設分	臨床心理学科	5 (5)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	82 (82)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	5 (5)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	5 (5)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			
	社会学部　現代社会学科	8 (8)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	80 (80)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (16)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	8 (8)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (16)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	8 (8)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (16)			
	公共政策学科	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	79 (79)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
	社会福祉学部　社会福祉学科	16 (16)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	147 (147)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	16 (16)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	22 (22)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	16 (16)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	22 (22)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	16 (16)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	22 (22)			

既設分	保健医療技術学部　理学療法学科	4 (4)	5 (5)	1 (1)	4 (4)	14 (14)	0 (0)	87 (87)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	5 (5)	1 (1)	4 (4)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (4)	5 (5)	1 (1)	4 (4)	14 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 (4)	5 (5)	1 (1)	4 (4)	14 (14)			
	作業療法学科	4 (4)	4 (4)	1 (1)	4 (4)	13 (13)	0 (0)	82 (82)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	4 (4)	1 (1)	4 (4)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (4)	4 (4)	1 (1)	4 (4)	13 (13)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 (4)	4 (4)	1 (1)	4 (4)	13 (13)			
	計	110 (110)	64 (64)	32 (31)	18 (18)	224 (223)	0 (0)	— (—)	
既設分	仏教学部　仏教学科【通信教育課程】	6 (6)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	24 (24)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			大学通信教育設置基準第8条第2項に規定する『昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合』 仏教学科 14人全員が通学課程を兼ねている。 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (6)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (6)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			
	文学部　日本文学科【通信教育課程】	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	27 (27)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			大学通信教育設置基準第8条第2項に規定する『昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合』 日本文学科 11人全員が通学課程を兼ねている。 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			

既設分

中国学科【通信教育課程】	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	9 (9)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			大学通信教育設置基準第8条第2項に規定する『昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合』 中国学科 10人全員が通学課程を兼ねている。 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			
英米学科【通信教育課程】	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	28 (28)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			大学通信教育設置基準第8条第2項に規定する『昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合』 英米学科 10人全員が通学課程を兼ねている。 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	3 (3)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			
歴史学部　歴史学科【通信教育課程】	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	28 (28)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			大学通信教育設置基準第8条第2項に規定する『昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合』 歴史学科 11人全員が通学課程を兼ねている。 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)			
歴史文化学科【通信教育課程】	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	31 (31)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			大学通信教育設置基準第8条第2項に規定する『昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合』 歴史文化学科 10人全員が通学課程を兼ねている。 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			

既設分

教育学部　教育学科【通信教育課程】	14 (14)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	50 (50)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	14 (14)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	25 (25)			大学通信教育設置基準第8条第2項に規定する『昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合』 教育学科 25人全員が通学課程を兼ねている。 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	14 (14)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	25 (25)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	14 (14)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	25 (25)			
幼児教育学科【通信教育課程】	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			大学通信教育設置基準第8条第2項に規定する『昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合』 幼児教育学科 10人全員が通学課程を兼ねている。 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
社会学部　現代社会学科【通信教育課程】	8 (8)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	12 (12)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (16)			大学通信教育設置基準第8条第2項に規定する『昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合』 現代社会学科 16人全員が通学課程を兼ねている。 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	8 (8)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (16)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	8 (8)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (16)			
公共政策学科【通信教育課程】	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	2 (2)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			大学通信教育設置基準第8条第2項に規定する『昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合』 公共政策学科 14人全員が通学課程を兼ねている。 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			

既設分	社会福祉学部　社会福祉学科【通信教育課程】	16 (16)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	64 (64)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	16 (16)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	22 (22)			大学通信教育設置基準第8条第2項に規定する『昼間又は夜間において授業を行う学部が通信教育を併せ行う場合』 社会福祉学科 22人全員が通学課程を兼ねている。 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 15人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	16 (16)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	22 (22)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	16 (16)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	22 (22)			
	計	87 (87)	45 (45)	21 (21)	0 (0)	153 (153)	0 (0)	― (―)	
合　　計		197 (197)	109 (109)	53 (52)	18 (18)	377 (377)	0 (0)	－ (-)	基幹教員合計377人のうち、153人が通学課程・通信教育課程を兼務している。

職　　種	専　属	その他	計
	人	人	人
事　務　職　員	162 (162)	135 (135)	297 (297)
技　術　職　員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
図　書　館　職　員	3 (3)	0 (0)	3 (3)
そ　の　他　の　職　員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
指　導　補　助　者	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	165 (165)	135 (135)	300 (300)

校地等 区分	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計
校　舎　敷　地	258,884㎡	0㎡	0㎡	258,884㎡
そ　の　他	5,231㎡	0㎡	0㎡	5,231㎡
合　計	264,115㎡	0㎡	0㎡	264,115㎡

校　舎	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計
	94,525㎡ (94,525㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	94,525㎡ (94,525㎡)

教室・教員研究室	教　室	265室	教員研究室	25室	大学全体

図書・設備 新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
看護学部看護学科	36,681〔2,545〕 (35,121〔2,506〕)	70,622〔3,306〕 (63,722 〔 3,156 〕)	338〔57〕 (332 〔 57 〕)	38,629〔36,868〕 (38,301 〔36,540〕)	2,488 (2,488)	37 (37)	電子図書・電子ジャーナルは学部等単位での特定不能なため、大学全体の数
計	36,681〔2,545〕 (35,121〔2,506〕)	70,622〔3,306〕 (63,722 〔 3,156 〕)	338〔57〕 (332 〔 57 〕)	38,629〔36,868〕 (38,301 〔36,540〕)	2,488 (2,488)	37 (37)	

スポーツ等施設	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	3845.88㎡	845.82㎡	29329.26㎡	

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
		教員１人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	－	－	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）
		共同研究費等		9500千円	9500千円	9500千円	9500千円	－	－	
		図書購入費	146,900千円	83,652千円	85,507千円	87,816千円	91,758千円	－	－	
		設備購入費	1,000,000千円	200,000千円	150,000千円	150,000千円	150,000千円	－	－	
	学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
				1,850千円	1,840千円	1,840千円	1,840千円	千円	千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、寄付金収入、手数料収入等						

大学等の名称　佛教大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
【通学課程】	年	人	年次人	人		倍		
大学院								
文学研究科								
修士課程								
仏教学専攻	2	10	－	20	修士（文学）	0.50	平成27年度	京都市北区紫野北花ノ坊町96番地
文学専攻	2	10	－	20	修士（文学）	0.55	平成27年度	同上
歴史学専攻	2	10	－	20	修士（文学）	0.75	平成27年度	同上
博士後期課程								
仏教学専攻	3	3	－	9	博士（文学）	0.77	平成27年度	同上
文学専攻	3	3	－	9	博士（文学）	0.22	平成27年度	同上
歴史学専攻	3	3	－	9	博士（文学）	0.33	平成27年度	同上
教育学研究科								
修士課程								
生涯教育専攻	2	10	－	20	修士（教育学）	0.10	平成5年度	同上
臨床心理学専攻	2	10	－	20	修士（教育学）	0.85	平成14年度	同上
博士後期課程								
生涯教育専攻	3	3	－	9	博士（教育学）	1.66	平成13年度	同上
臨床心理学専攻	3	3	－	9	博士（教育学）	0.00	平成17年度	同上
社会学研究科								
修士課程								
社会学専攻	2	5	－	10	修士（社会学）	0.90	昭和48年度	同上
博士後期課程								
社会学専攻	3	3	－	9	博士（社会学）	1.22	平成18年度	同上
社会福祉学研究科								
修士課程								
社会福祉学専攻	2	5	－	10	修士（社会福祉学）	0.50	平成18年度	同上
博士後期課程								
社会福祉学専攻	3	3	－	9	博士（社会福祉学）	1.66	平成18年度	同上
学部								
仏教学部						1.02 ≪0.99≫		京都府京都市北区紫野北花ノ坊町96番地
仏教学科	4	60	—	240	学士（文学）	1.02 ≪0.99≫	平成22年度	
文学部						1.05 ≪1.01≫		
日本文学科	4	120	—	480	学士（文学）	1.15 ≪1.11≫	平成22年度	同上
中国学科	4	50	—	200	学士（文学）	0.69 ≪0.66≫	昭和61年度	同上
英米学科	4	70	—	280	学士（文学）	1.13 ≪1.08≫	昭和50年度	同上
歴史学部						1.11 ≪1.08≫		
歴史学科	4	110	—	440	学士（文学）	1.12 ≪1.09≫	平成22年度	同上
歴史文化学科	4	70	—	280	学士（文学）	1.10 ≪1.06≫	平成22年度	同上

既設大学等の状況

	教育学部						1.08 ≪1.07≫			
	教育学科	4	130	—	520	学士（教育学）	1.05 ≪1.04≫	平成元年度	同上	
	幼児教育学科	4	80	—	320	学士（教育学）	1.11 ≪1.11≫	令和4年度	同上	
	臨床心理学科	4	80	—	320	学士（教育学）	1.10 ≪1.09≫	平成12年度	同上	
	社会学部						1.05 ≪1.03≫			
既	現代社会学科	4	200	—	800	学士（社会学）	1.05 ≪1.03≫	平成16年度	同上	
	公共政策学科	4	120	—	480	学士（社会学）	1.05 ≪1.01≫	平成16年度	同上	
	社会福祉学部						1.06 ≪1.05≫			
	社会福祉学科	4	220	—	880	学士（社会福祉学）	1.06 ≪1.05≫	平成16年度	同上	
	保健医療技術学部						1.06 ≪1.04≫		京都府京都市中京区 西ノ京東栂尾町7番地	
設	理学療法学科	4	40	—	160	学士（保健学）	1.06 ≪1.03≫	平成18年度	同上	
	作業療法学科	4	40	—	160	学士（保健学）	1.04 ≪1.01≫	平成18年度	同上	
	看護学科	4	65	—	260	学士（保健学）	1.07 ≪1.06≫	平成24年度	同上	
	【通信教育課程】 大学院									
	文学研究科									
大	修士課程									
	仏教学専攻	2	15	－	30	修士（文学）	0.36	平成27年度	京都府京都市北区 紫野北花ノ坊町96番地	
	文学専攻	2	15	－	30	修士（文学）	0.46	平成27年度	同上	
	歴史学専攻	2	15	－	30	修士（文学）	0.26	平成27年度	同上	
	博士後期課程									
	仏教学専攻	3	3	－	9	博士（文学）	1.00	平成27年度	同上	
学	歴史学専攻	3	3	－	9	博士（文学）	1.44	平成27年度	同上	
	教育学研究科									
	修士課程									
	生涯教育専攻	2	10	－	20	修士（教育学）	1.30	平成11年度	同上	
	臨床心理学専攻	3	6	－	18	修士（教育学）	1.11	平成15年度	同上	
	社会学研究科									
	修士課程									
等	社会学専攻	2	10	－	20	修士（社会学）	0.70	平成13年度	同上	
	社会福祉学研究科									
	修士課程									
	社会福祉学専攻	2	10	－	20	修士（社会福祉学）	0.55	平成18年度	同上	
	学部									
	仏教学部									
の	仏教学科	4	100	3年次 150	700	学士（文学）	0.34	平成22年度	京都市北区紫野 北花ノ坊町96番地	
	文学部									
	日本文学科	4	100	3年次 150	700	学士（文学）	0.61	平成22年度	同上	
	中国学科	4	50	3年次 50	300	学士（文学）	0.27	平成3年度	同上	
	英米学科	4	100	3年次 300	1000	学士（文学）	0.52	昭和56年度	同上	
状	歴史学部									
	歴史学科	4	100	3年次 100	600	学士（文学）	0.92	平成22年度	同上	
	歴史文化学科	4	100	3年次 250	900	学士（文学）	0.36	平成22年度	同上	
	教育学部									
	教育学科	4	400	3年次 1000	3600	学士（教育学）	0.44	平成8年度	同上	
	幼児教育学科									
況		4	50	2年次 50 3年次 100	550	学士（教育学）	0.15	令和4年度	同上	

	社会学部									
	現代社会学科	4	300	3年次 400	2000	学士（社会学）	0.09	平成16年度	同上	
	公共政策学科	4	100	3年次 300	1000	学士（社会学）	0.04	平成16年度	同上	
	社会福祉学部									
	社会福祉学科	4	200	3年次 500	1800	学士（社会福祉学）	0.25	平成16年度	同上	

既設大学等の状況										
	大学等の名称	京都華頂大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	現代生活学部						0.58			
	こども生活学科	4	50	—	260	学士（家政学）	0.62	平成23年度	京都府京都市東山区林下町3丁目456番地	令和6年度入学定員減（△30人）
	生活情報学科	4	30	—	60	学士（家政学）	0.36	令和6年度	同上	令和6年度設置
	食物栄養学科	4	60	—	240	学士（家政学）	0.59	平成28年度	同上	
	日本文化学部						0.52			
	日本文化学科	4	40	—	40	学士（文学）	0.52	令和7年度	同上	令和7年度設置

既設大学等の状況										
	大学等の名称	華頂短期大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	幼児教育学科	2	120	—	270	短期大学士（幼児教育学）	0.65	昭和28年度	京都府京都市東山区林下町3丁目456番地	令和7年度入学定員減（△30人）
	総合文化学科	2	—	—	—	短期大学士（文化学）	—	平成31年度	同上	令和7年度より学生募集停止（総合文化学科）

附属施設の概要	名　　称：総合研究所 目　　的：研究所は、仏教を中心に人文科学・社会科学および自然科学にわたって総合的な学術研究を行ない、文化の発展に寄与することを目的とする。 所 在 地：京都市北区紫野北花ノ坊町96番地 設置年月：平成3年4月 規 模 等：建物60.51㎡ 名　　称：宗教文化ミュージアム（旧名称　アジア宗教文化情報研究所） 目　　的：ミュージアムは、さまざまな宗教文化に関する調査、研究および有形・無形文化財の展示、劇場公演等を通じて、人文科学領域の研究の発展に寄与し、同時に広く一般市民に対して宗教文化に関する正しい理解を促し、且つさまざまな生涯学習の場と機会を提供することによって、社会貢献に資することを目的とする。 所 在 地：京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26 設置年月：平成15年4月 規 模 等：建物3,289.77㎡ 名　　称：法然仏教学研究センター 目　　的：センターは、佛教大学の建学の精神に則り、浄土学を中心に仏教学、人文科学、社会科学、自然科学にわたる広い視点から法然仏教学の総合的な学術研究を行ない、文化の発展に寄与することを目的とする。 所 在 地：京都市北区紫野北花ノ坊町96番地 設置年月：平成26年4月 規 模 等：建物60.51㎡	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
共通教養科目	仏教・自校教育科目群		ブッダと法然	1前	○	2			○								1	
			佛教大学の理念と歴史	1前			2		○								1	メディア
	グローバル科目群	必修外国語 英語	Intensive Reading１	1前		1				○							4	
			Intensive Reading２	1後		1				○							4	
			Integrated Communication Skills１	1前		1				○							4	
			Integrated Communication Skills２	1後		1				○							4	
			Integrated Communication Skills３	2前		1				○							4	
			Integrated Communication Skills４	2後		1				○							4	
		選択外国語 英語	General English１	1前			1			○							1	
			General English２	1前			1			○							1	
			Communication Seminar１	1前			2			○							1	
			Communication Seminar２	1前			2			○							1	
			English Lecture１	1前			2			○							1	
			English Lecture２	1前			2			○							1	
			初級英語会話１	1前			1			○							1	
			初級英語会話２	1前			1			○							1	
			Skill-building (TOEIC500) １	1前			1			○							1	
			Skill-building (TOEIC500) ２	1前			1			○							1	
			Skill-building (TOEIC600) １	1前			1			○							1	
			Skill-building (TOEIC600) ２	1前			1			○							1	
		中国語	初級中国語１	1前			1			○							1	
			初級中国語２	1前			1			○							1	
			中級中国語	1前			1			○							1	
		韓国語	初級韓国語１	1前			1			○							1	
			初級韓国語２	1前			1			○							1	
			中級韓国語	1前			1			○							1	
		ドイツ語	初級ドイツ語１	1前			1			○							1	
			初級ドイツ語２	1前			1			○							1	
			中級ドイツ語	1前			1			○							1	
		フランス語	初級フランス語１	1前			1			○							1	
			初級フランス語２	1前			1			○							1	
			中級フランス語	1前			1			○							1	
		ベトナム語	初級ベトナム語１	1前			1			○							1	
			初級ベトナム語２	1前			1			○							1	
			中級ベトナム語	1前			1			○							1	
		国際教養	異文化への扉 ―多文化共生のための外国語―	1前			2		○								1	メディア
			地球人になろう ―グローバリゼーションと文化―	1前			2		○								1	メディア
			英語圏の暮らし	1前			2		○								1	メディア
			アジアの暮らし	1前			2		○								1	メディア
			日本事情	1前			2		○								1	メディア
		海外研修	海外語学研修（英語）	1・2・3・4通			1				○						1	
			海外語学研修（中国語）	1・2・3・4通			1				○						1	
			海外語学研修（韓国語）	1・2・3・4通			1				○						1	
			海外語学研修（ベトナム語）	1・2・3・4通			1				○						1	
	データサイエンス科目群		ICTリテラシー	1前		2				○							2	
			データサイエンスの基礎を学ぶ	1後			2			○							1	
			データサイエンスの基礎を実践する	1後			1			○							1	
			統計学の基礎を学ぶ	1前			2			○							1	
			プログラミングを学ぶ	1前			2			○							1	
	初年次教育科目群		スタディ・スキルズ	1前	○	2				○				4				共同・分担
			キャリア・スキルズ1	1前	○	1				○		5	1					共同
			キャリア・スキルズ2	1後	○	1				○		5	1					共同
	キャリアスタディ科目群		マイファーストキャリア	1・2・3前・後			2		○								1	メディア
			ライフ・キャリアデザイン	1・2・3前・後			2		○								1	メディア
			キャリア形成とマネジメント	1・2・3前・後			2		○								1	メディア
			自己表現とコミュニケーション	2・3前・後			2		○								1	メディア
			職業世界を知る	2・3前・後			2		○								1	メディア
	プロジェクト科目群		プロジェクトA	2・3・4通			2			○							1	
			プロジェクトB	2・3・4通			2			○							1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
共通教養科目	自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	日本の仏教芸術とその鑑賞	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			ことばと文学	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			仏教の人間観と死生観	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			東洋と西洋における思想・哲学・宗教	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			前近代の世界・日本	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			近現代の世界・日本	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			世界の民族文化	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			世界の中の日本文化・京都文化	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
		地域と社会を学ぶ	日本国憲法	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			世界と日本の政治	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			くらしの中の経済	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			個人と社会の関係を考える	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			世界のニュースから見る日本	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			福祉と社会	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			情報・メディアと社会	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			教育事情を知る	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			文化の中から考える多文化共生	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
		人間と自然を学ぶ	数学の言葉で世界を観る	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			宇宙を考える	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			生物の世界	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			自然と地理	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			生命を考える	1・2・3・4前・後			2		○			1						メディア
			エコロジーを考える	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			心の世界を考える	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			人間の仕組みと活動	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
			病と人間の歩み	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	スポーツ		スポーツ理論	1前・後			1		○								1	
			スポーツ実技	1前・後			1				○						1	
	大学コンソーシアム		大学コンソーシアム	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			小計（88科目）	－	－	14	124	0	－			10	2	4	0		67	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門科目	学部基幹科目	医療概論	1前		1			○								1	
		小計（1科目）	－	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	1	－
	学科基礎科目	アカデミック・スキルズ	1後	○	2				○		4	4	2	3		1	共同・分担
		仏教看護	2前		1				○		1					1	共同
		基礎解剖学	1前		2			○								1	
		基礎生理学	1前		2			○								1	
		病理学概論	1後		2			○			1						
		栄養学	1後		2			○								1	
		疾病論Ⅰ	1後		2			○			1						
		疾病論Ⅱ	1後		2			○			1						
		疾病論Ⅲ	2前		2			○			1						
		疾病論Ⅳ	2前		2			○								2	オムニバス
		薬理学	2前		1			○								1	
		公衆衛生学	2前		2			○								1	
		社会福祉	1後		2			○								1	
		保健医療福祉行政論	2前		2			○			1						
		保健統計学	2後		2			○								1	
		小計（15科目）	－	－	28	0	0	－			6	4	2	3	0	9	－
	専攻科目	看護学概論	1前	○	2			○			1						
		看護実践基盤技術論	1前	○	2				○		2		2	2			共同
		フィジカルアセスメント技術	1後	○	1				○		2		2	2			共同
		生活行動援助技術論	1後	○	2				○		2		2	2			共同
		看護過程論	2前	○	1				○		2		2	2			共同
		診療援助技術論Ⅰ	2前	○	1				○		2		2	2			共同
		診療援助技術論Ⅱ	2後	○	1				○		2		2	2			共同
		基礎看護学実習Ⅰ	1後	○	1					○	2		2	2		2	共同
		基礎看護学実習Ⅱ	2前	○	2					○	2		2	9		1	共同
		コミュニティ実習	1通	○	1					○	2	1		1		1	共同
		地域・在宅看護学概論	1後	○	1			○			1	1					オムニバス
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	2前	○	2			○			1	1	1				オムニバス
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	3前	○	1				○		1	1	1	1			共同
		地域・在宅看護学実習	3後	○	2					○	1	1	1	1		1	共同
		クリティカルケア看護学Ⅰ	2後	○	2			○				1	1				オムニバス
		クリティカルケア看護学Ⅱ	3前	○	1				○			1	1	1			共同
		クリティカルケア看護学実習	3後	○	3					○		1	1	1		1	共同
		慢性看護学Ⅰ	2後	○	2			○			1		1				オムニバス
		慢性看護学Ⅱ	3前	○	1				○		1		1	1			共同
		慢性看護学実習	3後	○	3					○	1		1	1		1	共同
		老年看護学概論	2前	○	1			○			1		1	1			オムニバス
		老年看護方法論Ⅰ	2後	○	2			○			1		1	1			オムニバス
		老年看護方法論Ⅱ	3前	○	1				○		1		1	1			共同
		老年看護学実習	3後	○	3					○	1		1	1		1	共同
		小児看護学概論	2前	○	1			○				2					オムニバス
		小児看護方法論Ⅰ	2後	○	2			○				2		1			オムニバス
		小児看護方法論Ⅱ	3前	○	1				○			2		1			共同
		小児看護学実習	4前	○	2					○		2		1		1	共同
		母性看護学概論	2前	○	1			○			1		1				オムニバス
		母性看護方法論Ⅰ	2後	○	2			○			1		1	1			オムニバス
		母性看護方法論Ⅱ	3前	○	1				○		1		1	1			共同
		母性看護学実習	4前	○	2					○	1		1	1		1	共同
		精神看護学概論	2前	○	1			○			1	1		1			オムニバス
		精神看護方法論Ⅰ	2後	○	2			○			1	1		1		1	オムニバス
		精神看護方法論Ⅱ	3前	○	1				○		1	1		1			オムニバス
		精神看護学実習	4前	○	2					○	1	1		1		1	共同

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	備考
専門科目	学科専攻科目	公衆衛生看護学概論	2後	○	2			○			1	1		1			オムニバス
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	2後	○		2		○			1	1		1			オムニバス
		公衆衛生看護方法論Ⅱ	3前			2			○		2	1		1			共同
		公衆衛生看護展開論Ⅰ	3前			2			○		1	1		1			共同
		公衆衛生看護展開論Ⅱ	3前			2		○			1	1		1			オムニバス
		公衆衛生看護管理論Ⅰ	3前			2			○		1	1		1			共同
		公衆衛生看護管理論Ⅱ	3前			2		○			1	1		1			オムニバス
		公衆衛生看護活動論	4前			2			○		1	1		1			共同
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前			1				○	1	1		1		1	共同
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前			4				○	1	1		1		1	共同
		国際看護学	2前	○	1			○					1				
		災害看護学	3前	○	1			○				1					
		エンドオブライフケア論	3前	○	1			○			1		1				オムニバス
		ホリスティックケアアプローチ	3前	○	1				○		1		1				共同
		看護倫理学	4前	○	1			○			4	3					オムニバス
		看護マネジメント	4後	○	1			○				1					
		看護研究Ⅰ	4前	○	1				○		9	6	7				※講義 オムニバス・共同（一部）
		看護研究Ⅱ	4後	○	1				○		9	6	7				共同
		統合実践看護実習	4通	○	2					○	9	6	7	10			共同
		小計（55科目）	－	－	69	19	0	－			10	6	7	10	0	11	－
関連科目		生化学	1前			2		○								1	
		感染免疫学	1後			1		○								1	
		臨床心理学	2前			1		○								1	
		看護疫学	2後			2		○								1	
		看護教育学	4後	○		1		○			1						
		クリティカルケア看護実践	4後	○		1			○			1	1				共同
		臨床推論	4後	○		1		○			1						
		小計（7科目）	－	－	0	9	0	－			2	1	1	0	0	3	－
合計（166科目）			－	－	112	152	0	－			10	6	7	10	0	88	－

学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
「共通教養科目」の「仏教・自校教育科目群」から必修科目2単位、「グローバル科目群」・「必修外国語」必修科目6単位、「データサイエンス科目群」から必修科目2単位、「初年次教育科目群」から必修科目4単位、「自己形成科目群」から6単位を含み、計20単位以上を修得すること。 「専門科目」の「学部基幹科目」必修科目1単位、「学科基礎科目」必修科目28単位、「学科専攻科目」必修科目69単位および選択科目2単位、「関連科目」から4単位を含み、計104単位以上を修得すること。 「共通教養科目」「専門科目」の各要件を含み、合計124単位以上修得すること。 （履修科目の登録上の上限：50単位（年間））	１学年の学期区分	２　学　期
	１学期の授業期間	１５　　週
	１時限の授業の標準時間	９０　　分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（保健医療技術学部看護学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学共通科目	仏教		ブッダと法然	1 前	2			○								兼1
	自校教育		佛教大学の理念と歴史	1 前		2		○								兼1
	外国語	必修外国語	英語	IntensiveReading1	1 前		1		○							兼4
				IntensiveReading2	1 後		1		○							兼4
				IntegratedCommunicationSkills1	1 前		1		○							兼4
				IntegratedCommunicationSkills2	1 前		1		○							兼4
				IntegratedCommunicationSkills3	1 後		1		○							兼4
				IntegratedCommunicationSkills4	1 後		1		○							兼4
				IntermediateReading1	2 前		1		○							兼4
				IntermediateReading2	2 後		1		○							兼4
			中国語	中国語1	1 前		1		○							兼1
				中国語2	1 前		1		○							兼1
				中国語3	1 前		1		○							兼1
				中国語4	1 後		1		○							兼1
				中国語5	1 後		1		○							兼1
				中国語6	1 後		1		○							兼1
				中国語7	2 前		1		○							兼1
				中国語8	2 後		1		○							兼1
			朝鮮語	朝鮮語1	1 前		1		○							兼1
				朝鮮語2	1 前		1		○							兼1
				朝鮮語3	1 前		1		○							兼1
				朝鮮語4	1 後		1		○							兼1
				朝鮮語5	1 後		1		○							兼1
				朝鮮語6	1 後		1		○							兼1
				朝鮮語7	2 前		1		○							兼1
				朝鮮語8	2 後		1		○							兼1
			日本語	日本語1	1 前		1		○							兼1
				日本語2	1 前		1		○							兼1
				日本語3	1 前		1		○							兼1
				日本語4	1 後		1		○							兼1
				日本語5	1 後		1		○							兼1
				日本語6	1 後		1		○							兼1
				日本語7	2 前		1		○							兼1
				日本語8	2 後		1		○							兼1
		選択外国語	英語	GeneralEnglish1	1 前		1		○							兼1
				GeneralEnglish2	1 前		1		○							兼1
				CommunicationSeminar1	1 前		2	○								兼1
				CommunicationSeminar2	1 前		2	○								兼1
				EnglishLecture1	1 前		2	○								兼1
				EnglishLecture2	1 前		2	○								兼1
				初級英語会話1	1 前		1		○							兼1
				初級英語会話2	1 前		1		○							兼1
				Skill-building (TOEIC500) 1	1 前		1		○							兼1
				Skill-building (TOEIC500) 2	1 前		1		○							兼1
				Skill-building (TOEIC600) 1	1 前		1		○							兼1
				Skill-building (TOEIC600) 2	1 前		1		○							兼1
				IntensiveOverseasProgram（短期海外語学研修認定用）	1・2・3・4前・後		2			○						兼1
			中国語	初級中国語1	1 前		1		○							兼1
				初級中国語2	1 前		1		○							兼1
				中級中国語1	1 前		1		○							兼1
				中級中国語2	1 前		1		○							兼1
				中国語表現法（短期海外語学研修認定用）	1 前		2			○						兼1
			朝鮮語	初級朝鮮語1	1 前		1		○							兼1
				初級朝鮮語2	1 前		1		○							兼1
				中級朝鮮語1	1 前		1		○							兼1
				中級朝鮮語2	1 前		1		○							兼1
				朝鮮語表現法（短期海外語学研修認定用）	1 前		2			○						兼1
			ドイツ語	初級ドイツ語1	1 前		1		○							兼1
				初級ドイツ語2	1 前		1		○							兼1
				中級ドイツ語1	1 前		1		○							兼1
				中級ドイツ語2	1 前		1		○							兼1
			フランス語	初級フランス語1	1 前		1		○							兼1
				初級フランス語2	1 前		1		○							兼1
				中級フランス語1	1 前		1		○							兼1
				中級フランス語2	1 前		1		○							兼1

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（保健医療技術学部看護学科）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学共通科目	外国語	選択外国語	ベトナム語	初級ベトナム語1	1 前		1			○							兼1
				初級ベトナム語2	1 前		1			○							兼1
				中級ベトナム語1	1 前		1			○							兼1
				中級ベトナム語2	1 前		1			○							兼1
				ベトナム語表現法（短期海外語学研修認定用）	1 前		2				○						兼1
	日本語表現			専門学修のための日本語表現	1 前	2			○			2	0	2	5		
	情報処理	必修		コンピュータ・リテラシー	1 前		2		○								兼2
		選択		表計算と統計	1 前		2			○							兼1
				インターネット・プログラミング	1 前		2			○							兼1
				マルチメディアプレゼンテーション	1 前		2			○							兼1
	キャリア			キャリア形成	1 前		2		○								兼3
				組織マネジメント論	1 前		2		○								兼1
				表現技法とプレゼンテーション	2 前		2		○								兼1
				リーダーシップ論	2 前		2		○								兼1
				情報収集と問題解決	1 後		2		○								兼1
				インターンシップ	2 前		2				○						兼2
				地域活動1	2 前		1				○						兼1
				地域活動2	2 前		1				○						兼1
	スポーツ			スポーツ理論	1 前		1		○								兼1
				スポーツ実技	1 前		1			○							兼1
	日本事情			日本事情	1 前		2		○								兼1
	海外研修			短期海外語学研修（アメリカ）	1・2・3・4 集		2				○						兼1
				短期海外語学研修（オーストラリア）	1・2・3・4 集		2				○						兼1
				短期海外語学研修（中国）	1・2・3・4 集		2				○						兼1
				短期海外語学研修（韓国）	1・2・3・4 集		2				○						兼1
				短期海外語学研修（ベトナム）	1・2・3・4 集		2				○						兼1
	大学コンソーシアム			大学コンソーシアム	1・2・3・4 集		2		○								兼1
				小計（92科目）	－	69	19	0	－			2	0	2	5		兼51
	基礎領域	人間を考える		くらしの中の仏教	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				ことばと文学	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				心の世界を考える	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				人間の仕組みと活動	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
		人間の歩み		前近代の世界	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				近現代の世界	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				宗教と人間の歩み	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				病と人間の歩み	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
		人間と社会		日本国憲法	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				法律を知る	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				世界と日本の政治	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				くらしの中の経済	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				個人・集団・社会	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
		人間と自然		数の世界	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				物質の世界	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				宇宙を考える	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				生物の世界	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				自然と地理	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
				食と栄養	1・2・3・4 前・後		2		○								兼1
	応用領域	人間を考える		仏教の人間観と死生観	3・4 前・後		2		○								兼1
				人間と思想	3・4 前・後		2		○								兼1
		人間の歩み		人種・民族・国家	3・4 前・後				○								兼1
				世界の文化	3・4 前・後				○								兼1
				人間と経済活動	3・4 前・後				○								兼1
		人間と社会		世界のニュースと日本	3・4 前・後				○								兼1
				Global English Communication	3・4 前・後				○								兼1
				現代社会と福祉	3・4 前・後				○								兼1
				情報・メディアと社会	3・4 前・後				○								兼1
				教育事情を知る	3・4 前・後				○								兼1
		人間と自然		生命を考える	3・4 前・後				○			1					兼1
				エコロジーを学ぶ	3・4 前・後				○								兼1
				小計（31科目）	－	69	19	0	－			1	0	0	0		兼30

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（保健医療技術学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	学部基幹科目	医療概論	1前	1			○								兼1
		小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0		兼1
	学科基礎科目	入門ゼミ	1後	2				○		2	3		3		
		基礎解剖学	1前	2				○							兼1
		基礎生理学	1前	2			○								兼1
		栄養学	1後	2			○								兼1
		病理学概論	1後	2			○			1					
		公衆衛生学	2前	2			○								兼1
		社会福祉	1後	2			○								兼1
		生化学	1前	2			○								兼1
		疾病論Ⅰ	1後	2			○			1					
		疾病論Ⅱ	1後	2			○								兼1
		疾病論Ⅲ	2前	2			○			1					
		疾病論Ⅳ	2前	2			○								兼2
		感染免疫学	1後	1			○								兼1
		仏教看護論Ⅰ	1前	1			○								兼1
		仏教看護論Ⅱ	1前	1			○								兼1
		薬理学	2前	2											兼1
		保健統計学	2後	2											兼1
		小計（17科目）	－	27	0	0	－			3	3	0	3		兼9
	専攻科目	看護学概論	1前	2			○			1					
		看護実践基盤技術論	1前	2				○		2		1	3		
		フィジカルアセスメント技術	1後	1				○		2		1	1		兼1
		生活行動援助技術論	1後	2				○		2		1	3		
		看護過程論	1後	1				○		2		1	1		
		看護過程実践論	2前	1				○		2		1	1		
		診療援助技術論Ⅰ	2前	1				○		2		1	2		
		診療援助技術論Ⅱ	2後	1					○	2		1	3		
		基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					○	2		1	8		兼1
		基礎看護学実習Ⅱ	2前	2					○	2		1	7		兼2
		コミュニティ実習	1前・後	1			○			3	3	2	1		
		成人看護学概論	2前	1			○			1	1				
		クリティカルケア看護学Ⅰ	2後	2				○			1	1	1		
		クリティカルケア看護学Ⅱ	3前	1					○		1	1	1		
		慢性看護学Ⅰ	2後	2			○			1		1	1		
		慢性看護学Ⅱ	3前	1				○		1		1	1		
		クリティカルケア看護学実習	3後	3					○		1	1	1		
		慢性看護学実習	3後	3			○			1		1	1		
		老年看護学概論	2前	1				○			1	1	1		
		老年看護方法論Ⅰ	2後	2					○		1	1	1		
		老年看護方法論Ⅱ	3前	1			○				1	1	1		
		老年看護学実習	3後	3			○				1	1	1		
		小児看護学概論	2前	1				○			2				
		小児看護方法論Ⅰ	2後	2					○		2		1		
		小児看護方法論Ⅱ	3前	1			○				2		1		
		小児看護学実習	4前	2			○				2		1		
		母性看護学概論	2前	1				○		1		1			
		母性看護方法論Ⅰ	2後	2					○	1		1	1		
		母性看護方法論Ⅱ	3前	1			○			1		1	1		
		母性看護学実習	4前	2			○			1		1	1		
		精神看護学概論	2前	1				○		1	1		1		
		精神看護方法論Ⅰ	2後	2					○	1	1		1		兼1
		精神看護方法論Ⅱ	3前	1			○			1	1		1		
		精神看護学実習	4前	2			○			1	1		1		兼1
		地域・在宅看護学概論	1後	1				○		1	1				兼1
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	2前	1					○	1	1				兼1
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	2後	1			○			1	1				兼1

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（保健医療技術学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目	学科専攻科目	地域・在宅看護実践論	2後	1			○			1	1				兼1
		地域・在宅看護学実習	4前	2				○		1	1				兼1
		公衆衛生看護学概論	2後	2			○			1	1		1		
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	2後		2※			○		1	1		1		
		公衆衛生看護方法論Ⅱ	3前		2※		○			2	1		1		
		公衆衛生看護展開論Ⅰ	3前		2※			○		1	1		1		
		公衆衛生看護展開論Ⅱ	3前		2※			○		1	1		1		
		公衆衛生看護管理論Ⅰ	3前		2※				○	1	1		1		
		公衆衛生看護管理論Ⅱ	3前		2※				○	1	1		1		
		公衆衛生看護活動論	4前		2※		○			1	1		1		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前		1※		○			1	1		1		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		4※		○			1	1		1		
		国際看護学	3前	1				○				1			
		災害看護学	3前	1			○				1				
		看護倫理学	4前	1			○			3	4				
		看護研究Ⅰ	4前・後	1			○			7	7	5			
		看護研究Ⅱ	4後	1				○		7	7	5			
		統合実践看護実習	4前・後	2					○	7	7	5	8		兼1
		小計（55科目）	－	68	0	0	－			8	7	5	8		兼4
	関連科目	看護疫学	2後		2※		○								兼1
		臨床心理学	2前		1										兼1
		保健医療福祉行政論	2前		2※						1	1			兼1
		エンドオブライフケア論	3前		1					1					
		看護管理学	4後		1						1				
		看護教育学	4後		1		○			1					
		仏教看護論Ⅲ	3前		1		○								兼1
		仏教看護論Ⅳ	3前		1		○								兼1
		ホリスティックケアアプローチ	3前		1		○			1		1			
		クリティカルケア看護実践論	4後		1			○			1		1		
		臨床判断実践論	4後		1		○			1					
		小計（11科目）	－	0	9	0	－			3	2	2	1		兼5
合計（192科目）			－	110	180	0	－			8	7	7	10		兼93

学位又は称号	学士（保健学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
（履修方法） 全学共通科目：「仏教」から必修科目2単位、「外国語」・「必修外国語」から1語種を選択し8単位、「日本語表現」から必修科目2単位を修得すること。 全学教養科目：「基礎領域」から4単位以上、「応用領域」から4単位以上を修得すること。 学部基幹科目：必修科目1単位を修得すること。 学科基礎科目：必修科目31単位を修得すること。 学科専攻科目：必修科目68単位を修得すること。 学科専攻科目・関連科目：学科専攻科目の選択科目「公衆衛生看護方法論Ⅰ」および関連科目から4単位以上を修得すること。 以上の要件を満たし、 全学共通科目、全学教養科目から合計20単位を修得すること。 専門科目から合計104単位以上を修得すること。 全学共通科目、全学教養科目、専門科目から合計124単位を修得すること。 （履修科目の登録上の上限：50単位（年間）） （履修科目の登録上の上限：50単位（年間））	１学年の学期区分	２　学　期
	１学期の授業期間	１５　週
	１時限の授業の標準時間	９０　分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教養科目	仏教・自校教育科目群			ブッダと法然	○	本学の建学の理念である仏教精神の基礎となる仏教の祖ゴータマ・ブッダと浄土宗の開祖である法然房源空の生涯と教えを学ぶとともに、仏教の現代的意義や未来に果たすべき役割を理解することを目標とする。 最初にゴータマ・ブッダの歴史的な実像と仏教の基本思想について解説し、続いて法然の生涯と思想的特色、法然滅後の展開を明らかにする。最後に、建学の理念である仏教精神について確認するとともに、各学科の専門領域との関係についても学習する。 共通テキストを用いた座学だけでなく、学生が主体的に学習を進める形を取る。	
共通教養科目	仏教・自校教育科目群			佛教大学の理念と歴史		本学で学ぶ学生として、「建学の精神」という理念を理解し、本学が歩んできた歴史を学習し、キャンパスとその地域の自然的・社会的・歴史的環境を学ぶことによって、本学学生としての自覚と向上心を養い、成長する力を身につけることを目標とする。 佛教大学の「建学の精神」や大学の歴史、キャンパスとその地域の自然的・社会的・歴史的環境、歴史的建造物などへの知識を深め、大学生として、佛教大学生としての自覚と向上心をより一層促し、本学での学習やキャンパスライフをより充実したものにする。 講義形式は座学による知識伝達型の授業形態を中心としながらも、学生が主体的・能動的に学習を進めるかたちをとる。	
共通教養科目	グローバル科目群	必修外国語	英語	IntensiveReading1		大学生として専門学習に必要とされる英語力や、大学卒業後に社会人として必要とされる英語力を身につけるために、これまでに身につけた英語の読解力を高めることを目標とする。 英語読解力の精度を高めるために、語句や文構造の理解から、パラグラフもしくは文章全体の内容を正確に理解するための読解訓練を行う。読解の方法としては英文和訳だけではなく、内容把握の質問であったり、英語によるパラフレイズなども織り交ぜる。文法事項については、既習のものの復習も含めて、必要に応じてテキスト以外の例文も用いて詳しく説明する。また毎時間の小テスト等によって、ボキャブラリーの増強もあわせて行う。 授業形態としては受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。また、クラス編成は、新入生オリエンテーションまでに受験した英語基礎力調査の結果に基づいた習熟度別となっている。	
共通教養科目	グローバル科目群	必修外国語	英語	IntensiveReading2		「Intensive Reading 1」に引き続き、大学生として専門学習に必要とされる英語力や、大学卒業後に社会人として必要とされる英語力を身につけるために、これまでに身につけた英語の読解力を高めることを目標とする。また、1学年終了時に実施される英語基礎力調査でのリーディングスコアの上昇を目指す。 英語読解力の精度を高めるために、語句や文構造の理解から、パラグラフもしくは文章全体の内容を正確に理解するための読解訓練を行う。読解の方法としては英文和訳だけではなく、内容把握の質問であったり、英語によるパラフレイズなども織り交ぜる。文法事項については、既習のものの復習も含めて、必要に応じてテキスト以外の例文も用いて詳しく説明する。また毎時間の小テスト等によって、ボキャブラリーの増強もあわせて行う。 授業形態としては受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。クラス編成は、新入生オリエンテーションまでに受験した英語基礎力調査の結果に基づいた習熟度別となっている。	
共通教養科目	グローバル科目群	必修外国語	英語	IntegratedCommunicationSkills1		大学生として専門学習に必要とされる英語力や、大学卒業後に社会人として必要とされる英語力を身につけるために、これまでに身につけたリーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力を高めることを目標とする。 リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域のうち、とりわけインプット（速読型のリーディングとリスニング）に重点を置き、それを補完する形でアウトプット（スピーキングとライティング）の学習を行う。日本語を介さずに英語で相手の言いたいことを理解する訓練が中心となる。 教室内では、基本的に目標言語である英語を使用した授業を展開する。受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。クラス編成は、新入生オリエンテーションまでに受験した英語基礎力調査の結果に基づいた習熟度別となっている。	
共通教養科目	グローバル科目群	必修外国語	英語	IntegratedCommunicationSkills2		大学生として専門学習に必要とされる英語力や、大学卒業後に社会人として必要とされる英語力を身につけるために、これまでに身につけたリーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力を高めることを目標とする。 リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域のうち、とりわけアウトプット（スピーキングとライティング）に重点を置き、それを補完する形でインプット（速読型のリーディングとリスニング）の学習を行う。日本語を介さずに英語で自分の考えを自在に発信する訓練が中心となる。 教室内では、基本的に目標言語である英語を使用した授業を展開する。受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。クラス編成は、新入生オリエンテーションまでに受験した英語基礎力調査の結果に基づいた習熟度別となっている。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教養科目	グローバル科目群	必修外国語	英語	IntegratedCommunicationSkills3		「Integrated Communication Skills 1」に引き続き、大学生として専門学習に必要とされる英語力や、大学卒業後に社会人として必要とされる英語力を身につけるために、これまでに身につけたリーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力を高めることを目標とする。 リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域のうち、とりわけインプット（速読型のリーディングとリスニング）に重点を置き、それを補完する形でアウトプット（スピーキングとライティング）の学習を行う。日本語を介さずに英語で相手の言いたいことを理解する訓練が中心となる。 教室内では、基本的に目標言語である英語を使用した授業を展開する。受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。	
共通教養科目	グローバル科目群	必修外国語	英語	IntegratedCommunicationSkills4		「Integrated Communication Skills 2」に引き続き、大学生として専門学習に必要とされる英語力や、大学卒業後に社会人として必要とされる英語力を身につけるために、これまでに身につけたリーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力を高めることを目標とする。 リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域のうち、とりわけアウトプット（スピーキングとライティング）に重点を置き、それを補完する形でインプット（速読型のリーディングとリスニング）の学習を行う。日本語を介さずに英語で自分の考えを自在に発信する訓練が中心となる。 教室内では、基本的に目標言語である英語を使用した授業を展開する。受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	英語	General English1		これまでに身につけたリーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力を維持するとともに、さらに高めることを目標とする。 リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域のうち、とりわけインプット（リーディングとリスニング）に重点を置くが、英文の内容理解や速読だけではなく、語句や文構造の正確な理解、文法事項についての詳しい解説、ボキャブラリーの増強もあわせて行う。 授業形態としては受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	英語	General English2		「General English 1」に引き続き、リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力を維持するとともに、さらに高めることを目標とする。 リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域のうち、とりわけアウトプット（スピーキングとライティング）に重点を置き、日本語を介さずに英語で自分の考えを自在に発信する訓練が中心となる。 授業形態としては受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	英語	Communication Seminar1		リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力を高め、高度な英語力を身につけることを目標とする英語の上級クラスである。 英語で何かを学ぶことに重点をおいたオールイングリッシュの授業で、英語で書かれた文献資料の講読、教員とのディスカッションや受講生同士でのディスカッション、個人もしくはグループでのプレゼンテーションが授業の中心となる。 本授業で扱うトピックは、日常的な話題、社会的な話題とし、これらのテーマについて、高度なレベルの英語力で受信と発信ができるようになることを目指す。 担当講師は英語のネイティヴ・スピーカーで、授業はすべて英語によって行われる（日本語の使用厳禁）。授業形態としては受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。受講にあたっては、TOEIC 500点以上もしくは英検2級を取得しているか、もしくはそれと同等以上と認められる英語力を所持していることが条件となる。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	英語	Communication Seminar2		リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力を高め、高度な英語力を身につけることを目標とする英語の上級クラスである。 英語で何かを学ぶことに重点をおいたオールイングリッシュの授業で、英語で書かれた文献資料の講読、教員とのディスカッションや受講生同士でのディスカッション、個人もしくはグループでのプレゼンテーションが授業の中心となる。 本授業で扱うトピックは、受講生各自の興味のある、または専攻する分野にまつわるアカデミックなテーマとし、これらのテーマについて、高度なレベルの英語力で受信と発信ができるようになることを目指す。あわせて、独自のアカデミック・リサーチの力も要求される。 担当講師は英語のネイティヴ・スピーカーで、授業はすべて英語によって行われる（日本語の使用厳禁）。授業形態としては受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。受講にあたっては、TOEIC 500点以上もしくは英検2級を取得しているか、もしくはそれと同等以上と認められる英語力を所持していることが条件となる。	

授業科目の概要

（看護学部看護学科）

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	英語	English Lecture1		英語による講義を通じて、リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力を高め、高度な英語力を身につけることを目標とする英語の上級クラスである。 英語で何かを学ぶことに重点をおいたオールイングリッシュの授業で、英語による講義、文献資料の講読、個人もしくはグループでのプレゼンテーション、リポート作成が授業の中心となる。受講生には、資料を事前に読むこと、授業中のノートテイクの技術、プレゼンテーション力が要求される。 本授業で扱うトピックは、日常的な話題、社会的な話題とし、これらのテーマについて、高度なレベルの英語力で受信ができるようになることを目指す。 担当講師は英語のネイティヴ・スピーカーで、授業はすべて英語によって行われる（日本語の使用厳禁）。受講にあたっては、TOEIC 500点以上もしくは英検2級を取得しているか、もしくはそれと同等以上と認められる英語力を所持していることが条件となる。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	英語	English Lecture2		英語による講義を通じて、リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力を高め、高度な英語力を身につけることを目標とする英語の上級クラスである。 英語で何かを学ぶことに重点をおいたオールイングリッシュの授業で、「English Lecture 1」とは異なるテーマで、英語による講義、文献資料の講読、個人もしくはグループでのプレゼンテーション、リポート作成が授業の中心となる。受講生には、資料を事前に読むこと、授業中のノートテイクの技術、プレゼンテーション力が要求される。 本授業で扱うトピックは、人文科学、社会科学、自然科学の多岐にわたるアカデミックなテーマとし、これらのテーマについて、高度なレベルの英語力で受信ができるようになることを目指す。あわせて、独自のアカデミック・リサーチの力も要求される。 担当講師は英語のネイティヴ・スピーカーで、授業はすべて英語によって行われる（日本語の使用厳禁）。受講にあたっては、TOEIC 500点以上もしくは英検2級を取得しているか、もしくはそれと同等以上と認められる英語力を所持していることが条件となる。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	英語	初級英語会話1		英会話の基礎力を養成するクラスで、簡単な英語の文を使って自分の考えを口頭で表現できることを目標とする。 テキストで扱われているトピックや表現パターンを利用して、個別・ペア・グループでスピーキングの練習をする。 本授業で扱うトピックは、「家族」「食べ物」「時」「家」「音楽」「交通手段」「スポーツ」「数」「友人」「テレビ」「仕事」「休暇」「学校」「映画」「お金」といった日常的な話題とする。 担当講師はネイティヴ・スピーカーで、基本的に授業はすべて英語で行われるが、必要に応じて日本語での補足説明をする。受講にあたっては、英語力による受講制限を設けないが、授業内での活動に積極的に参加することが求められる。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	英語	初級英語会話2		英会話の基礎力を養成するクラスで、簡単な英語の文を使って自分の考えを口頭で表現できることを目標とする。 テキストで扱われているトピックや表現パターンを利用して、個別・ペア・グループでスピーキングの練習をする。 本授業で扱うトピックは、「レストラン」「動物」「買い物」「健康」「ファッション」「旅行」「本・雑誌・新聞」「病気」「休日」「恐れ」「デート」「結婚」「信仰」「犯罪」「意見」といった日常的な話題とする。 担当講師はネイティヴ・スピーカーで、基本的に授業はすべて英語で行われるが、必要に応じて日本語での補足説明をする。受講にあたっては、英語力による受講制限を設けないが、授業内での活動に積極的に参加することが求められる。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	英語	Skill-building (TOEIC500) 1		リスニングとリーディングの演習を通して、TOEIC Listening & Reading テストでのスコアアップ、500点到達を目指し、その基礎固めを行う。できる限り多くのTOEIC Listening & Readingテスト形式の練習問題に取り組んでもらうことに加え、英語の構造や基本的な文法についての理解を深めるとともに、語彙力の増強にも取り組んでもらう。 授業形態としては受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。英語力による履修制限を設けないが、教材のレベルはあくまでもTOEIC Listening & Reading 500点レベルであることを十分承知した上で受講すること。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	英語	Skill-building (TOEIC500) 2		リスニングとリーディングの演習を通して、TOEIC Listening & Reading テストでのスコアアップ、500点到達を目指し、実践的な形式での訓練を行う。基礎訓練としてのTOEIC Listening & Readingテスト形式の練習問題の解答、語彙力の増強に加えて、模擬テスト形式も複数回実施し、実際のTOEICテストに慣れてもらう。 授業形態としては受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。英語力による受講制限を設けないが、教材のレベルはあくまでもTOEIC Listening & Reading 500点レベルであることを十分承知した上で受講すること。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	英語	Skill-building (TOEIC600) 1		リスニングとリーディングの演習を通して、TOEIC Listening & Reading テストでのスコアアップ、600点到達を目指し、その基礎固めを行う。できる限り多くのTOEIC Listening & Readingテスト形式の練習問題に取り組んでもらうことに加え、英語の構造や基本的な文法についての理解を深めるとともに、語彙力の増強にも取り組んでもらう。 授業形態としては受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。受講にあたっては、TOEIC Listening & Readingテストで500点以上のスコアを取得しているか、または「Skill-building (TOEIC 500) 1/2」を履修済みであるか、もしくはそれに相当する英語力を所持していることが望ましい。	

授業科目の概要（看護学部看護学科）							
科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	英語	Skill-building (TOEIC600) 2		リスニングとリーディングの演習を通して、TOEIC Listening & Reading テストでのスコアアップ、600点到達を目指し、実践的な形式での訓練を行う。基礎訓練としてのTOEIC Listening & Readingテスト形式の練習問題の解答、語彙力の増強に加えて、模擬テスト形式も複数回実施し、実際のTOEICテストに慣れてもらう。 授業形態としては受講生の発表が中心となるので、受講生の積極的な参加が求められる。受講にあたっては、TOEIC Listening & Readingテストで500点以上のスコアを取得しているか、または「Skill-building (TOEIC 500) 1／2」を履修済みであるか、もしくはそれに相当する英語力を所持していることが望ましい。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	中国語	初級中国語1		選択外国語として中国語を学ぶ学生のための授業である。初修者が初歩段階の中国語能力を獲得することを目標とする。 この授業では、まず発音記号である拼音字母によって発音の基礎を修得する。また中国語は声調を持つ言語なので、声調の修得にはとくに留意させる。その後、基礎となる語彙と文法事項を中心に学習する。この授業では1000語の単語を修得することを目標とする。 初級用のテキストを用いながら、ピンインに沿った正確な発音練習と文法を学習しながら簡単な短文を音読と和訳を通して、基礎的な中国語学習を行っていく。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	中国語	初級中国語2		選択外国語として中国語を学ぶ学生のための授業である。初級中国語１に引き続き、初修者が初歩段階の中国語能力を獲得することを目標とする。 この授業では、まず発音記号である拼音字母によって発音の基礎を修得する。また中国語は声調を持つ言語なので、声調の修得にはとくに留意させる。その後、日常生活の各場面において頻用される会話文を素材に基礎的会話能力の獲得を目指し、とくに「聞く」と「話す」能力の養成に力点を置く。 初級用のテキストを用いながら、ピンインに沿った正確な発音練習を行いつつ、中国語の短文の発音練習と会話練習を繰り返し学習する。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	中国語	中級中国語		選択外国語として中国語を学ぶ学生のための授業である。初級中国語１、２に引き続き、初級段階の中国語能力を獲得することを目標とする。 この授業では発音を基本的に修得していることを前提として、とくに文法事項の修得に重点を置き、初級段階の文法事項について十全に理解することをめざす。また語彙数の増加も重要であるので、この授業では1500語～2000語程度の語彙を獲得することを目標とする。 初級から中級に移行できる内容のテキストを用いつつ、初級中国語で学習した中国語を文法事項の学習、発音練習、文章の読解などを中心に学習していく。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	韓国語	初級韓国語1		韓国語の基礎を学ぶことを目的とする。前半は、韓国語の文字と発音、発音の変化などを中心に、繰り返し書く練習・発音練習を行う。授業中、一人一人が何度も口を動かして、文字と発音に慣れるよう指導を行う。後半は、「～は～です（ではありません）」、「～に、います（あります）／いません（ありません）」など基礎的な助詞や文型の練習と、自己紹介やあいさつなど簡単な会話を修得する。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	韓国語	初級韓国語2		初級韓国語１に引き続き、韓国語の基礎を学ぶ。文字や発音を繰り返し確認しながら、助詞の使い方、動詞・形容詞の丁寧体、ヘヨ体、変則用言、過去形など用言の活用を中心に、文法の練習を繰り返し行う。また、漢数字を使った表現・固有数字を使った表現や、否定・不可能、好み・願望など、表現の幅を広げる文型を修得する。習った文型や表現を使って、自分自身のことを表現できるよう、簡単な作文や会話練習を行う。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	韓国語	中級韓国語		初級韓国語２に引き続き、韓国語で自己表現する力を育んでいく。授業では、状況や場面に適切に対応し、正しい文型と語彙を使って自分の意見や気持を述べられるようになることを目標とする。具体的には、状況を説明する、様子から推測・判断する、注意・指示を与える、他人の話を伝える、許可と禁止などの学習事項を中心に、自分の意見・考え・気持を文にまとめる他に、実践的な会話の練習をするなどして、主に、学生参加型の授業を行う。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	ドイツ語	初級ドイツ語1		はじめてドイツ語を学ぶのに適したクラスで、「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく取り入れた総合学習を行う。ドイツ語の発音と綴りの読みを練習し、基本文法を学習する。目標としては、短文の読解ができることと、簡単な日本文をドイツ語で表現できることを目指す。個別の文法事項としては、基本動詞の活用、分離動詞の用い方、名詞の性と数、冠詞、人称代名詞、命令法、前置詞、助動詞などを扱う。文法事項を使いこなしながら、受講生がドイツ語の仕組みに興味をもって学ぶことができるように工夫する。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	ドイツ語	初級ドイツ語2		ドイツ語をすこし学習したことのある人に適したクラスで、「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく取り入れた総合学習を行う。「初級ドイツ語1」を履修していることが望ましいが、反復・復習を重視しているので、若干のドイツ語の知識があれば履修できる。目標としては、発音と基本文法を修得し、長い文章の読解ができることと、ドイツ語特有の表現を使用できることを目指す。個別の文法事項としては、動詞の三基本形、完了形、関係代名詞、受動態、不定詞、再帰代名詞、再帰動詞、比較表現、代名詞、接続法などを扱う。受講生がドイツ語の仕組みを理解し、それを実際に使うことができるように工夫する。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	ドイツ語	中級ドイツ語		ドイツ語の発音と基本文法を一通り学習した人を対象としており、「初級ドイツ語1／2」を履修済みであるか、それに相当するドイツ語力を有していることが履修条件である。ドイツ語で書かれたテキストを読みながら、文法事項を確認するとともに、その内容を正確に把握することにも重点を置く。基本的文法事項の復習とともに、それに基づく応用表現を学習する。個別の文法事項としては、過去形、現在完了形、不定詞、受動態、接続詞、関係代名詞、接続法などの復習および応用表現を扱う。受講生がドイツ語特有の表現や文章構造を理解し、その知識をもって、長いテキストを読みこなすことができるように工夫する。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	フランス語	初級フランス語1		はじめてフランス語を学ぶのに適したクラスで、フランス語らしい発音で挨拶などができることと、聴解と読解に不可欠な基礎的文法事項の修得が目標となる。 本授業では、初心者向けの「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく取り入れた総合学習を行う。何よりもフランス語らしく発音できることと平易な会話表現の聞き取りに重点を置きつつ、フランス語の基礎的なしくみを学ぶ。文法事項としては、アルファベ、発音、名詞の性と数、数字、冠詞、基本動詞の活用、否定・疑問の表現、形容詞、人称代名詞などを扱う。 フランス語を「使う」授業であり、積極的な授業参加が必要。クラスのメンバーと実際にコミュニケーションをとりながら、フランス語にたくさん触れることが求められる。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	フランス語	初級フランス語2		フランス語を少し学習したことのある人に適したクラスで、「聞く」「話す」「読む」「書く」のすべての面にわたる、初級フランス語の運用能力を身につけることを目標とする。 本授業では、「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく取り入れた総合学習を行う。フランス語らしく発音できることと平易な会話表現の聞き取りに重点を置きつつ、さらに一歩進んだフランス語の基礎を学ぶ。文法事項としては、代名動詞、命令法、複合過去形、半過去形、未来形、比較表現、接続法などを扱う。 受講にあたっては、「初級フランス語１」を履修していることが望ましいが、反復・復習重視の授業であるので、若干のフランス語の知識があれば受講できる。フランス語を「使う」授業であり、積極的な授業参加が必要。クラスのメンバーと実際にコミュニケーションをとりながら、フランス語にたくさん触れることが求められる。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	フランス語	中級フランス語		フランス語の基礎を学習したことのある人に適したクラスで、フランス語の日常会話表現の運用能力を身につけることを目標とする。 本授業では、リスニングや会話、フランス語の発音、ロールプレイングに加え、基本的なフランス語の読み書き等をバランスよく取り入れた総合学習を行う。また、語学としてのフランス語学習だけではなく、フランスの歌や食事といったフランスの文化や、フランスの多様な側面も紹介する。 受講にあたっては、「初級フランス語１」「初級フランス語２」を履修していることが望ましいが、反復・復習重視の授業であるので、若干のフランス語の知識があれば受講できる。フランス語を「使う」授業であり、積極的な授業参加が必要。クラスのメンバーと実際にコミュニケーションをとりながら、フランス語にたくさん触れることが求められる。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	ベトナム語	初級ベトナム語1		選択外国語としてベトナム語を学ぶ学生のための授業である。したがって初歩段階の能力を獲得することを目標とする。ベトナム語は中国語と同じく声調をもつ言語であり、発音が難しいので、まず声調を含めた発音をしっかり身につけることをめざす。その際、ベトナム語はローマ字によって表記されるので、その表記の規則も理解させる。その後は、テキストに沿って学ぶことにより、基本語彙と基本文法の修得を目的とする。 ベトナム語の声調と発音を繰り返し練習し、正確な発音ができるように学習していく。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	ベトナム語	初級ベトナム語2		選択外国語としてベトナム語を学ぶ学生のための授業である。初級ベトナム語１に引き続き、初歩段階の能力を獲得することを目標とする。ベトナム語は中国語と同じく声調をもつ言語であり、発音が難しいので、まず声調を含めた発音をしっかり身につけることをめざす。その際、ベトナム語はローマ字によって表記されるので、その表記の規則も理解させる。その後は、テキストに沿って学ぶことにより、基本語彙と基本文法の修得を目的とする。 ベトナム語の声調と発音を繰り返し練習し、正確な発音ができるように学習していく。そのうえで、短文の発音練習と文法学習を行い、簡単な文章を表現できるように学習する。	
共通教養科目	グローバル科目群	選択外国語	ベトナム語	中級ベトナム語		選択外国語としてベトナム語を学ぶ学生のための授業である。初級ベトナム語１、２に引き続き、初級段階の能力を獲得することを目標とする。 この授業ではベトナム語の発音を一通りマスターしていることを前提とするが、授業の過程で発音を再確認して、発音を確実なものとする。そのうえで「聞く」「話す」「読む」「書く」の４つの面から初級ベトナム語の文法事項や基本語彙を修得することを目的とする。 初級から中級レベルに移行できる文章を用いて、発音練習と文章の解釈を通し、総合的な学習を行っていく。	
共通教養科目	グローバル科目群	国際教養		異文化への扉　―多文化共生のための外国語―		この授業では、「多文化共生」の第一歩として、外国語を学び、異文化について理解することの意義を考え、大学における外国語学習に明確な動機付けを与えることを目標とする。 言語と文化の間には切っても切れない密接な関係があり、異文化を本当の意味で理解するためには、外国語の学習が欠かせない。具体的事例を通して、言語の中には、それを話す人々の文化、価値観、思想などが様々な形で反映されていることを学んでいく。 講義形式は、知識伝達型の授業形態を中心としながらも、随時、ペアワークやグループワークといったアクティブラーニング的手法を用いることで、学生が主体的・能動的に学習をすすめるかたちをとる。	

授業科目の概要

（看護学部看護学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教養科目	グローバル科目群	国際教養	地球人になろう　―グローバリゼーションと文化―		政治や経済等のさまざまな分野においてグローバリゼーションが進んでいるが、この授業では、文化におけるグローバリゼーションについて考える。文化を国や地域といった壁を越えて地球規模で考えてみた場合、いろいろな疑問が浮かんでくるであろう。たとえば、日本ではこうなのに、他国ではまったく違うことはたくさんある。この文化間の違いをどのようにわれわれは受けとめればいいのであろうか。「それはそれ、これはこれ」と言ってしまえば、グローバリゼーションとはならない。われわれはどのようにして異文化を受けいれることができるのか、様々な異文化の実例を取り上げながら、各文化の違いを地球規模で考えることによって、「地球人」への第一歩としたい。	
共通教養科目	グローバル科目群	国際教養	英語圏の暮らし		「日本の常識は世界の非常識」と言われるように、日本で生活を送っていると「普通」と思っていることが、世界では案外「普通」ではないことがある。その逆もまた然り。本科目では、英語圏に留学または海外生活すると遭遇する日本との差異を学び、英語圏の「暮らし」のなかにある異文化を理解することを目的とする。 英語圏の場所をいくつかピックアップし、その場所における「暮らし」を具体的に学んでいくことで、日本との差異を知り、異文化への理解を促進していく。 講義形式で異文化への理解を促進するとともに、疑問点や文化的な差異に対して、学生が主体的に情報にアクセスし、分析する機会も設けていくかたちをとる。	
共通教養科目	グローバル科目群	国際教養	アジアの暮らし		「日本の常識は世界の非常識」と言われるように、日本で生活を送っていると「普通」と思っていることが、世界では案外「普通」ではないことがある。その逆もまた然り。本科目では、中国・韓国・ベトナムを中心とするアジアに留学または海外生活すると遭遇する日本との差異を学び、アジアの「暮らし」のなかにある異文化を理解することを目的とする。 アジアの場所をいくつかピックアップし、その場所における「暮らし」を具体的に学んでいくことで、日本との差異を知り、異文化への理解を促進していく。 講義形式で異文化への理解を促進するとともに、疑問点や文化的な差異に対して、学生が主体的に情報にアクセスし、分析する機会も設けていくかたちをとる。	
共通教養科目	グローバル科目群	国際教養	日本事情		講義を聞き、また留学生と日本人学生が互いに日本に関する様々なテーマについてディスカッションをし、その過程で、留学生それぞれの国と日本とを比較し、相対化することにより、今まで気づかなかった日本の姿を浮き彫りにし、留学生、日本人学生ともに日本について深く理解することを目標とする。 扱う内容は、世界の国々や日本の文学・文化・歴史等であり、それらについて学ぶ授業となる。 授業形態は、前半は講義形式で行うが、後半は、留学生と日本人学生が日本語を使い、協力し合いながら、発表を行うアクティブラーニング形式で行う。	
共通教養科目	グローバル科目群	海外研修	海外語学研修（英語）		本科目は、海外語学研修の認定科目であり、研修期間および研修先での修得科目・単位数に応じた単位認定を行う。 夏期休暇もしくは春期休暇期間中に実施される全学対象の短期海外英語研修プログラム。現地での英語研修に参加するだけではなく、日本での事前研修および事後研修にもすべて参加しなければならない。履修条件は特に設けていないが、海外での数週間にわたるプログラムであるので、申し込み時に面談を行い、その結果によって参加が認められる。また参加定員と最少実施人数も定められている。プログラムの開催場所・日程・内容・費用等の詳細についてはそれぞれのプログラムが実施される前の説明会にて発表する。 研修プログラムに沿って、基礎的な英語の学習、とくに発音練習と会話練習を中心とした学習を行っていく。またプログラムに沿って、文化体験や有名な観光地を巡ることで、現地の歴史や文化も体験学習していく。	
共通教養科目	グローバル科目群	海外研修	海外語学研修（中国語）		本科目は、海外語学研修の認定科目であり、研修期間および研修先での修得科目・単位数に応じた単位認定を行う。 夏期休暇もしくは春期休暇期間中に実施される全学対象の短期海外中国語研修プログラム。現地での中国語研修に参加するだけではなく、日本での事前研修および事後研修にもすべて参加しなければならない。履修条件は特に設けていないが、海外での数週間にわたるプログラムであるので、申し込み時に面談を行い、その結果によって参加が認められる。また参加定員と最小実施人数も定められている。プログラムの開催場所・日程・内容・費用等の詳細についてはそれぞれのプログラムが実施される前の説明会にて発表する。 研修プログラムに沿って、基礎的な中国語の学習、とくに発音練習と会話練習を中心とした学習を行っていく。またプログラムに沿って、文化体験や有名な観光地を巡ることで、現地の歴史や文化も体験学習していく。	
共通教養科目	グローバル科目群	海外研修	海外語学研修（韓国語）		本科目は、海外語学研修の認定科目であり、研修期間および研修先での修得科目・単位数に応じた単位認定を行う。 夏期休暇もしくは春期休暇期間中に実施される全学対象の短期海外韓国語研修プログラム。現地での韓国語研修に参加するだけではなく、日本での事前研修および事後研修にもすべて参加しなければならない。履修条件は特に設けていないが、海外での数週間にわたるプログラムであるので、申し込み時に面談を行い、その結果によって参加が認められる。また参加定員と最小実施人数も定められている。プログラムの開催場所・日程・内容・費用等の詳細についてはそれぞれのプログラムが実施される前の説明会にて発表する。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教養科目	グローバル科目群	海外研修	海外語学研修（ベトナム語）		本科目は、海外語学研修の認定科目であり、研修期間および研修先での修得科目・単位数に応じた単位認定を行う。 夏期休暇期間中に実施される全学対象の短期海外ベトナム語研修プログラム。現地でのベトナム語研修に参加するだけではなく、日本での事前研修および事後研修にもすべて参加しなければならない。履修条件は特に設けていないが、海外での数週間にわたるプログラムであるので、申し込み時に面談を行い、その結果によって参加が認められる。また参加定員と最小実施人数も定められている。プログラムの開催場所・日程・内容・費用等の詳細についてはそれぞれのプログラムが実施される前の説明会にて発表する。 研修プログラムに沿って、基礎的なベトナム語の学習、とくに発音練習と会話練習を中心とした学習を行っていく。またプログラムに沿って、文化体験や有名な観光地を巡ることで、現地の歴史や文化も体験学習していく。	
共通教養科目		データサイエンス科目群	ICTリテラシー		本科目ではOSやバージョンに囚われることなく、日常的な学習にも必要な、情報検索、文書作成、表計算、実社会で必要となるプレゼンテーションなどが行えるよう、PCとその周辺についての基本的知識と操作の修得を目標とする。 PC教室での演習を基本とし、基礎的な知識と作成方法を習得した後、グループ・ワークなどを通した相互刺激による涵養・発展を経て、プレゼンテーションによる成果発表を行う予定である。 大学で学習を効果的に進める上で、また就職後の知識基盤社会、Society5.0で必須となるICTリテラシーを習得し、基礎的な情報処理能力と応用力の定着を図る。	
共通教養科目		データサイエンス科目群	データサイエンスの基礎を学ぶ		本授業では、その名称の通りデータサイエンスの学習に必要な基礎知識・前提知識を網羅的に身につけることを目標とする。 入門レベルのテキストを踏まえて、データの特性から法制度まで幅広い内容について扱う予定である。さらに、より実務的な側面から、データサイエンスに関する近年の話題や事例を取り上げる。 授業はLMSから質問を受け付けるなどアクティブラーニングの要素も導入し、主体的・能動的な学習ができるように工夫して行う。毎回の授業後には課題に取り組むことで知識の定着を図る。	
共通教養科目		データサイエンス科目群	データサイエンスの基礎を実践する		本授業では、特定のデータセットに対して、その特徴を読み解き、それを現実現象に即して解釈する力を養い身に付けることを目標とする。 授業では、特定のデータセットを用いて、基本統計量の抽出の仕方や、初歩の多変量解析を用いたデータの特徴の析出方法を学ぶ予定である。また分析結果をビジュアル化して他者に分かりやすく伝える方法なども同時に学習する。 授業は、アクティブラーニングの要素も重視し、主体的・能動的な学習ができるように工夫して行う。また適宜、授業内容に応じた課題に取り組むことで知識の定着を図る。	
共通教養科目		データサイエンス科目群	統計学の基礎を学ぶ		本授業では、社会統計の基本的な考え方・概念を理解し、その考え方や概念を使った統計数値の読み取りや解釈が出来ることを目標とする。加えて初歩的な集計・計算・図表作成技術の習得も目指す。 講義では入門レベルのテキストを踏まえて、基礎統計量から始まり、多変量解析の初歩までの内容を扱う。また記述統計と推測統計の違いについても学習し、サンプリング理論の初歩も取り上げる予定である。 授業は、統計ソフトを用いた演習も織り交ぜ知識の定着を図る。	
共通教養科目		データサイエンス科目群	プログラミングを学ぶ		本授業では、未経験のAIとデータが駆動する社会を目前に、これらのツールを有効に活用し、あるいは推進することができるようになることを目標とする。 そのため、この社会を根本で支えているプログラミングの世界に触れ、プログラミング的思考とその手法を、具体的な素材を通して基礎力として身につけ、その応用につなげられるように学んでいく。 PC教室での演習を基本とし、基礎的な知識と作成方法を習得した後、グループ・ワークなどを通した相互刺激による涵養・発展を経て、自らのオリジナルの作品とも言える成果完成を目指し、自らの発想と工夫を持って作成に取り組む能動的な学習につなげていく。	
共通教養科目		初年次教育科目群	スタディ・スキルズ	○	（分担／16 阿部慈美、17 岡田朱民（令和8年度）、17 岡田朱民、19 髙岡寿江（令和9年度）、19 髙岡寿江、20 趙崇来（令和10年度）、20 趙崇来（令和11年度）） 大学生として、主体的・能動的・自律的に学ぶことの心構えをもち、今後の自らの学修の見通しをもつことができるようになるために、必要な知識や能力を身につけること、とりわけ、「大学生としての読み書き能力」を身につけることを目標とする。 教員や先輩の助言を得ながら、大学生として必要な学び方・調べ方・書き方を学ぶ。とくに、「大学生としての読み書き能力」の身につけるために、学術的な文章の書き方や読み方を、共通テキストにそいながら学んでいく。 共通テキストを用いた座学とともに、ペアワークやグループワークといったアクティブラーニング（的）手法を用いて、学生が主体的・能動的に学習を進めるかたちをとる。	共同・分担

授業科目の概要（看護学部看護学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教養科目	初年次教育科目群	キャリア・スキルズ1	○	社会人基礎力である「前に踏み出す力（主体性/働きかけ力/実行力）」・「考え抜く力（課題発見力/計画力/想像力）」・「チームで働く力（発信力/傾聴力/柔軟性/状況把握力/規律性/ストレスコントロール力）」を身につけることへの意識づけをすすめ、自身のキャリアデザインについて考えはじめること、ペアワークやグループワークを通し、学生間の相互理解をうながすことを目標とする。 高校生までの自分の行動や考え方を振り返り、見つめ直し、自己認識をすすめることで、社会人基礎力の必要性とその向上を意識づけしていく。とくに、これまでの経験のリフレクションとその言語化を行い、ペアワークやグループワークによって、他者に向けて表現・伝達する学習活動を通じて、経験から学び、自ら成長する力を身につける。 クラスごと、クラス合同の授業によって、共通テキストを用いた座学とともに、SAによるサポートを受けつつ、ペアワークやグループワークといったアクティブラーニング（的）手法を用いて、学生が主体的・能動的に学習を進めるかたちをとる。	共同
共通教養科目	初年次教育科目群	キャリア・スキルズ2	○	社会人基礎力である「前に踏み出す力（主体性/働きかけ力/実行力）」・「考え抜く力（課題発見力/計画力/想像力）」・「チームで働く力（発信力/傾聴力/柔軟性/状況把握力/規律性/ストレスコントロール力）」を身につけることへの意識づけをすすめ、経験から学び成長する力をベースに、学習生活・大学生活やキャリア意識をもつことを目指す。 春学期の自身の行動や考え方などを振り返り、自己のキャリアデザインについての考えを深め、ペアワークやグループワーク、グループディスカッションによって、2年生以降の学生生活・大学生活や自身のキャリアの目標と計画、キャリアへの意識をもち、経験から学び、自ら成長する力を身につける。 クラスごと、クラス合同の授業によって、共通テキストを用いた座学とともに、SAによるサポートを受けつつ、ペアワークやグループワークといったアクティブラーニング（的）手法を用いて、学生が主体的・能動的に学習を進めるかたちをとる。	共同
共通教養科目	キャリアスタディ科目群	マイファーストキャリア		キャリアビジョンを思い描くために必要な基礎的知識を獲得するとともに、見識としての「ものの見方」や思考力、合理的な判断力を身につけることをねらいとして、日々のニュースを主体的に読み解く力を養成する。ニュースで取り上げられる個々の事象にどのような意味があるのか、世の中の仕組みのなかでどのような観点で大事な事柄であるのかを、納得して理解できる自分でありたいとの学生ニーズも強い。この強いニュース理解欲求を満たしながら、同時に知識と思考力を高めつつ、自らのキャリアビジョンを構築するための思考フレームワークの定着を図る。	
共通教養科目	キャリアスタディ科目群	ライフ・キャリアデザイン		「社会・経済の動向に関する知識を広めること」を広い目的としつつも、とくに今後の人生設計のうえで欠かすことができないお金に関する知識（マネーリテラシー）の修得を中核に据えながらキャリアビジョンを描く能力を高める。とくに標準的なライフコースのイベント（就職、結婚、子の誕生、持家・不動産購入、転職、起業、病気、介護、退職、老後など）ごとの人生シナリオを履修者各自が設計しつつ、それと照らし合わせることによって、どのようなタイミングでどのようなイベントを視野に入れて資産形成をしていくべきかを実務的観点から解説する。	
共通教養科目	キャリアスタディ科目群	キャリア形成とマネジメント		人生100年時代と言われる社会において「働く」「生きる」ことの意味を理解し、主体的にキャリア形成していく力を養う。そのために、キャリア理論に基づいたワークやアセスメントツールに取り組み、自分の価値観やなりたい将来を明確にしていく。また、個人として「働く」「生きる」場としては、企業・行政機関・医療機関等の組織に属することが多いことから、組織で働くうえで求められること、組織のデザイン、内部マネジメント、意思決定、上司・同僚・部下とのコミュニケーションや、顧客等の組織外の利害関係者との関係性について理解を深める。	
共通教養科目	キャリアスタディ科目群	自己表現とコミュニケーション		他者との円滑な人間関係を築き、その関係を良好に保っていくためには「コミュニケーション能力」が必須である。本授業ではそのコミュニケーション能力を「話し方」「話の構成」「聴き方」「言葉づかい」「話す場の雰囲気づくり」「魅力的なプレゼンテーション」などのテーマごとにトータルに扱っていく。必要な知識を蓄えるだけではなく、ビデオ視聴やシチュエーション設定で実践するワークをふんだんに取り入れながら、日常的に実践に活かせる水準で確実な能力向上・定着を図る。場に応じてふさわしいコミュニケーション・スタイルを能動的に選べる水準を目指す。	
共通教養科目	キャリアスタディ科目群	職業世界を知る		様々な業界で働く企業人をゲストに招き、ゲストの仕事やプライベートの話を聴くことで、自分の今後のキャリアにおける生き方・働き方を考える参考とする。その際、業界の多様性を理解することで、就職活動での進路選択の予備知識とするとともに、業界のみならず、「職種」にも多様性があることへの理解を促し、様々な職種の特徴と自らの親和性について考える機会も持つ。ゲスト講師は「製造」「商社」「金融」「IT」「サービス」「医療福祉」「伝統産業」「公務員」「フリーランス」など様々な業界から招くこととし、職種の多様性も考慮する。	
共通教養科目	プロジェクト科目群	プロジェクトA		本授業では、受講生が「主体的・協働的に問題を発見し、その問題を解決するためのアプローチ方法を身につけること」を目標とする。教育手法として、PBL（Project Based Learning）型の授業運営を取り入れ、自発性・創造性・知識の応用力・コミュニケーションスキルなど社会人基礎力の土台として必要とされる力を、他者との協働の中で総合的に学んでいく。また、PBLのフィールドとして「地域」を設定し、そこで「チュートリアル型」あるいは「実践体験型」の課題に取り組むことで、上記の能力の涵養を図る。	

授業科目の概要

（看護学部看護学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教養科目	プロジェクト科目群		プロジェクトB		本授業では、受講生が「主体的・協働的に問題を発見し、その問題を解決するためのアプローチ方法を身につけること」を目標とする。教育手法として、PBL（Project Based Learning）型の授業運営を取り入れ、自発性・創造性・知識の応用力・コミュニケーションスキルなど社会人基礎力の土台として必要とされる力を、他者との協働の中で総合的に学んでいく。また、PBLのフィールドとして「仕事」を設定し、そこで「チュートリアル型」あるいは「実践体験型」の課題に取り組むことで、上記の能力の涵養を図る。	
共通教養科目	自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	日本の仏教芸術とその鑑賞		日本の各時代における仏教芸術の特徴について学ぶとともに、実際の鑑賞ポイントについても修得することを目標とする。 まず、仏像や仏画・建築物など、仏教美術の様々なジャンルについてその様式的特徴を学ぶ。その上で、それらの仏教美術が各時代にどのように変遷したのか、信仰や社会との関係を含めて解説し、鑑賞のポイントについても理解する。 知識を修得する座学だけでなく、実際の作品の画像などを見ながら、受講生同士の話し合いやグループワークを行うことで、学生の主体的な学習を促す。	
共通教養科目	自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	ことばと文学		文学作品を読むことを通して、人間にとってことばとは何か、語るとはどういうことか、人間はことばで何を創出してきたのかを探求する科目である。人間とことば・文学の関係について理解を深めることを目標として、古今東西の様々なジャンルの文学作品を読み、人間の言語表現の特質や、時代および社会と密接な関係を持って生み出される文学のありようについて、具体的な考察を重ねていく。	
共通教養科目	自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	仏教の人間観と死生観		仏教がどういった価値観から人間や死を捉えてきたのかを学び、それらが現代社会の諸問題とどのように関係しているのかについて理解することを目標とする。 まず、各時代・地域の仏教が人間や死をどのように理解してきたのかを解説する。その上で、現在の医療看護や災害支援などの場面において、仏教の人間観・死生観がどのように生かされているのかを説明し、それらをもとに受講生各自がこれからの自分の生き方を考えていく。 知識を修得する座学だけでなく、実際の事例をもとに、受講生同士の話し合いやグループワークを行うことで、学生の主体的な学習を促す。	
共通教養科目	自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	東洋と西洋における思想・哲学・宗教		東洋・西洋で形成されてきた様々な宗教や思想の特徴、及び類似点・相違点を考察することから、私たちが直面する内面的・社会的な問題を考えていく際の視座を形成することを目的とする。 まず、宗教や思想について概説した上で、仏教をはじめとする諸宗教や西洋・東洋における諸思想の特徴について説明する。その上で、幾つかのテーマを設定しながらその類似点や相違点を解説し、我々の抱える諸問題にそれらをどのように活かすことができるのかを考察していく。 知識を修得する座学だけでなく、実際の事例をもとに、受講生同士の話し合いやグループワークを行うことで、学生の主体的な学習を促す。	
共通教養科目	自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	前近代の世界・日本		本科目では、前近代の世界・日本の歴史に目を向け、現代の世界・日本を理解することを目標とする。 現代の世界や日本を理解するためには、当然ながらそれ以前の歴史を理解する必要がある。各地域の前近代の歴史はそれぞれ独自に歩みを進めながら、また一方で相互に交流・関係を有してきた。本科目では、前近代の世界・日本の歴史を学習し理解する。 講義形式は座学による知識伝達型の授業形態を中心とする。	
共通教養科目	自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	近現代の世界・日本		本科目では、近現代の世界・日本の歴史を学び、現代社会を理解することを目標とする。 近現代の世界や日本は、地球規模で連動しながら、その歩みを進めている。日本を含めた世界の国々・諸地域は、その国の中だけで歴史が完結せず、絶えず他の国・地域に直接・間接の影響を与え、また影響を受けつつ歴史を培ってきた。本科目では、近代・現代における世界・日本の歴史を学習し理解する。 講義形式は座学による知識伝達型の授業形態を中心とする。	
共通教養科目	自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	世界の民族文化		世界には様々な民族がいて、多様な文化がある。これらを知ることは知見を増やし、視野を広げるうえで大事なことである。しかし、文化を学ぶうえで重要なのは、その特殊性だけでなく、その成立と変容の過程、他文化との共通性を知ることにある。本科目では、世界の民族と文化を紹介し、自分たちの文化を再考しながら、多様な文化のあり方について学ぶ。	
共通教養科目	自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	世界の中の日本文化・京都文化		自国の文化の内側にのみ立つ視点からでは、自らを客観視することは難しい。海外から見た日本文化の長所・短所を意識することによってはじめて、海外に対して、それらに配慮をした振舞いをすることが可能になる。 そのように「外」からの目で日本文化をとらえなおし、自分たちが日本文化の保持者であることに誇りをもちながら、海外に日本文化の長所や世界観を主張していけるような資質の獲得をめざし、その観点から「世界の中」の日本文化を意識するような事例を提示し検討する。	
共通教養科目	自己形成科目群	地域と社会を学ぶ	日本国憲法		日本国における私たちの暮らしは、日本国憲法を基に形作られている。本科目は、受講者が、日々の暮らしや社会における諸問題と照らし合わせながら、日本国憲法を深く知り、その意義を考えることができるようになることを目的とする。日本国憲法の内容は、統治と基本的人権の保障という2つの部分から成っている。その内容について、何が、どのような目的で書かれているのかといった基礎知識の修得からはじめ、様々な学説について、実例や判例を交えながら解説し、日本国憲法の意義について深く検討していく。 受講者の皆さんが、主体的かつ計画的に、各回の学習目標に基づいた予習・復習と、演習課題等に取り組むことが求められる。	

授業科目の概要

（看護学部看護学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教養科目	自己形成科目群	地域と社会を学ぶ	世界と日本の政治		国際政治と日本政治の両方に目を向けることにより、今後ますます進むであろう「グローバル化」を客観的に受け止め、国際社会の動きとその国内への影響を結びつけられる知識の一端を身につけることを目標とする。 世界の政治を概観した後、そこで得られた知識をもとに、日本政治とこれへの国際関係からの影響を明らかにするという順番をとり､受講生が2つの「政治」のつながりの理解を可能とするよう促していく。 授業は座学が中心となるが、講義中の質疑や復習課題とそのフィードバックを通じて双方向的な学びの場となることを目指したい。	
共通教養科目	自己形成科目群	地域と社会を学ぶ	くらしの中の経済		身近なテーマを通して日本や世界の経済に関心をもち、学んだテーマについて実際の社会で課題を発見し、その解決策を自ら考え、提案できる力を身につけることを目標とする。 グローバル化、少子高齢化、デジタル化、ジェンダー平等などをキーワードとして、主に日本経済が抱える課題について理解を深めつつ、これからの暮らしのあり方を考える。 この科目はオンデマンド型オンライン授業で行われる。学生の主体的な学びの機会を確保するため、講義を終えたのちに授業の振り返りを行い、教員から出される課題を提出してその理解を確認する。	
共通教養科目	自己形成科目群	地域と社会を学ぶ	個人と社会の関係を考える		現代における個人と社会の関係のあり方について学び、諸個人のコミュニケーションや相互作用が共生社会を実現する可能性と、その際に考慮すべき事について理解する事を目標とする。 講義では個人と社会が関係する具体的な場として家族、学校、地域、職場など、さまざまな中間集団を題材とし、諸個人の意識や行動、また日本の社会やグローバルな世界がどのように変化しているかについて考察する。 授業は講義形式を基礎とするが、授業後に受講生同士が直接・間接に意見交換をし、各人が互いに相手の考えを理解する場も提供する。	
共通教養科目	自己形成科目群	地域と社会を学ぶ	世界のニュースから見る日本		この授業では、世界のニュースのなかで日本がどのように報道されているかを読み解くことにより、複眼的に、つまり日本国内のニュースとは違った視点で日本が直面する社会問題を理解することができる力を育むことを目標とする。 テレビ報道や新聞報道などのニュースの構造に注目しながら、日本が直面する社会問題が世界ではどのように捉えられているのかを学ぶ。 講義形式は、座学による知識伝達型の授業形態を中心としながらも、随時、ニュースの構造を自ら分析することで、学生が主体的・能動的に学習を進めるかたちをとる。	
共通教養科目	自己形成科目群	地域と社会を学ぶ	福祉と社会		現代社会で生じている貧困、孤立、虐待などの社会福祉学的状況や課題、現象を取り上げ、現代社会の社会問題の実相を理解していく。さらに、それらの理解をもとに、社会問題が抱える社会的背景・要因をふまえつつ、人権侵害、また個人の主体的力と関係の形成といった観点からとらえなおし、社会問題への社会福祉学的なアプローチの視点と方法を考えることのできる力を身につける。 そのために、講義形式は座学による知識伝達型の授業形態を中心としながらも、随時、ワークシートによるワークや、ワークシートをもとにしたグループワークといったように、書く技術・プレゼンの技術をより積極的な姿勢で修得できるよう、アクティブラーニング(的)手法を用いることで、学生が主体的・能動的に学習を進めるかたちをとる。	
共通教養科目	自己形成科目群	地域と社会を学ぶ	情報・メディアと社会		私たちは、新聞やテレビといったマスメディア、LINEやYouTubeといったソーシャルメディアなど、さまざまなメディアに囲まれて生活している。これらのメディアやそこでの情報（内容やコンテンツ）は、社会とともに変化しており、私たちのコミュニケーションの方法を変えてきた。 本科目では、メディアとコミュニケーションの歴史的な変遷、さまざまなメディアの特性、メディアと世論、送り手と受け手の関係性などの重要なトピックスについて学び、「情報・メディアと社会」にかかわる学問的な基礎を修得する。	
共通教養科目	自己形成科目群	地域と社会を学ぶ	教育事情を知る		これからの社会の担い手となる子どもたちをどのように育てていくのかについて、今日的な教育課題を知り、それらの理論的/実践的な解決策を考える。また、課題解決に取り組んでいる実際の教職員の姿から「教育事情」を学び取ることも目的とする。 いじめや不登校、配慮を要する児童・生徒との向き合い方など、学校教育を取り巻く問題は多種・多様となっており、指導すべき内容や指導法も変化してる。いくつかの課題を取り上げ、問題の背景、学説や解決に向けた実践事例を解説する。また、それらについての自分の考えを他の受講者と議論し、理解を深めていく。 本授業はオンデマンド配信と質問等への応答の動画配信で実施される。受講者をグループ編成し、意見の交流や zoom 等を用いたグループ活動も行う。事前配布する資料を基に予習を行うことも求められる。	
共通教養科目	自己形成科目群	地域と社会を学ぶ	文化の中から考える多文化共生		この授業では、自分たちと異なる文化や価値観を持つ人々と共に暮らす「多文化共生社会」において、お互いの文化を知り尊重し合うことの重要性を理解し、共により良い社会を築いていこうとする態度を養うことを目標とする。 日本に住む外国人の数はここ30年で3倍に増えており、日本においても、多様な国籍や出身地域、文化的背景を持つ人々との共生が避けられない現状がある。日本における外国人コミュニティの実態や、日本の地域社会における異文化理解・多文化共生のための取り組みなど、具体的な事例について理解を深めることを通して、多文化共生の現状と課題について学んでいく。 講義形式は、知識伝達型の授業形態を中心としながらも、学生が主体的・能動的に学習をすすめるかたちをとる。	

授業科目の概要 （看護学部看護学科）						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教養科目	自己形成科目群	人間と自然を学ぶ	数学の言葉で世界を観る		自然科学の基礎を支える数学について、その基礎概念を学ぶ。また、数学を学ぶ/表現することを通じて、論理的思考力、批判的思考力を養うことも目的とする。数学の言葉で世界を観ることにより、人生をより豊かなものにすることもねらいとする。 身近なところに見出される数学のいくつかを議論しながら、数学の世界をふりかえる。さらに、数学に流れる本質的な考え方を学び、世界を拡げていく。物事を大局的に捉えたり、局所的に観たりすることの重要性についても深く考えていく。 本授業はオンデマンド配信と質問等への応答の動画配信で実施される。各回の配布資料の学習目標に基づいた予習・復習と，演習課題に取り組むことが求められる。	
共通教養科目	自己形成科目群	人間と自然を学ぶ	宇宙を考える		地球を含む太陽系から遠方宇宙まで、観測結果に基づき、現在の宇宙がどのように形作られてきたのかを理解し、宇宙について様々に思いを馳せることを目的とする。 基礎的な内容から説明を積み重ねる形で講義を進めていき、時空と物質の関わりやブラックホールまで、宇宙の力学とその様相を理解していく。大小様々な天体ショーについても観測/体験していく。 本授業はオンデマンド配信と質問等への応答の動画配信で実施される。各回の配布資料の学習目標に基づいた予習・復習と、演習課題に取り組むことが求められる。また、クラフト作成の課題も予定している。	
共通教養科目	自己形成科目群	人間と自然を学ぶ	生物の世界		生物の世界について、地球史における生命の誕生・生物の進化を理解することを目的とする。また、人類の進化のプロセスを通して「いのち」の尊さを感じることもねらいとしている。 生物の進化については、始生代（太古代）からの地球史を織り交ぜながら学んでいく。また、現在の生物について、マクロ的、ミクロ的な両視点から考える。生物の進化の過程や生き残り戦略、生物の不思議等を概観する。 本授業はオンデマンド配信と質問等への応答の動画配信で実施される。各回の配布資料の学習目標に基づいた予習・復習と、演習課題に取り組むことが求められる。	
共通教養科目	自己形成科目群	人間と自然を学ぶ	自然と地理		我々が生活する地域は自然的基盤の上に成り立っており、様々な自然的要素と関係し合いながら、法則に則って時間的に空間的に変化していく。一方で、人間は自然的基盤を超えたなかで、異なる経済的、社会的、文化的な地域を作り出し、歴史的に空間的に多様な地域を形成してきた。本科目では、自然的基盤と人文的な地域の関わり合いについて学ぶ。	
共通教養科目	自己形成科目群	人間と自然を学ぶ	生命を考える		人が生きていくためには、恒常性が保たれている必要がある。 恒常性とは、生物がさまざまな環境の変化に対応することである。恒常性を維持するためにおこなわれている物質代謝（人の体の中で起こっている化学現象）、命を繋いでいくための遺伝、そして外敵から生命を守る手段である免疫の3つのテーマについて概説する。人が生きていくために持っている極めて合理的なシステムを理解できるよう出来るだけ平易な表現を用いて講義する。	
共通教養科目	自己形成科目群	人間と自然を学ぶ	エコロジーを考える		本授業では、エコロジーを理解するために必要な基礎知識・前提知識を身に付けることを目標とする。 本科目では、具体的な自然環境問題に加えて、環境保護の思想・歴史・運動などがそれを取り巻く社会とどのように関連しているのかを様々な側面から学習する予定である。 授業は知識伝達型の講義形式をベースにするが、質問あるいは議論を受け付ける機会も設け、受講者自らがエコロジーとどのように関わっているのかを主体的・能動的に理解し考察できるように工夫して行う。また、適宜。授業内容に関する課題を課すことで知識の定着を図る。	
共通教養科目	自己形成科目群	人間と自然を学ぶ	心の世界を考える		この授業では、心にまつわるさまざまなトピックスを通して、心の動きについて、心理学の観点から考える力を身に付けることを目標とする。 トピックスとして、心とは何か、心は世界をどのように感じて・・て・聴いているのか、心はどのようにさまざまな経験を記憶するのか、感情は間にどのような影響を与えるのか、心はどのように発達するのか、などが挙げられる。 座学で学ぶだけでなく、ペアワークやグループワークといったアクティブラーニング(的)手法を用いて、学生が主体的・能動的に学習を進めるかたちをとる場合もある。	
共通教養科目	自己形成科目群	人間と自然を学ぶ	人間の仕組みと活動		人が効率よく動くために必要な身体の構造と機能、身体活動、それらの評価法や障碍を生じた場合の対応について基本を学び、現代社会における運動機能の重要性を理解することを目標とする。 運動器の概観、神経系の全体像、機能評価法、運動と呼吸・循環の関連、筋力・柔軟性等の向上法、姿勢制御、運動器の疾患や外傷、超高齢社会と運動機能の関連などについて概説する。講義内容については、配布資料を示し講義していく。	
共通教養科目	自己形成科目群	人間と自然を学ぶ	病と人間の歩み		医療は、知識や技術のみならず、社会の出来事や倫理、価値観によって形づくられている。医療の歴史を振り返ることによって、時代ごとの医療の形成について理解することを目標とする。このことを踏まえて現代の医療について、医学、ヘルスケア、倫理などいろいろな面から考える。これらの内容は広範囲に渡るため、授業内容についてはテーマを絞ったもので講義し進めていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教養科目	スポーツ	スポーツ理論		スポーツ科学の知見より、スポーツ（運動）が人間に及ぼす身体的、精神的、社会的影響などについて理解すること、また生涯スポーツ・体育の視点から必要な知識や能力を身につけることを目標とする。 スポーツ（運動）の意義についての理解を深め、生涯にわたってスポーツ（運動）を楽しむ視点（する、みる、ささえる、しらべる）から、スポーツ（運動）に対する見方・考え方を涵養する。 講義形式は座学による知識伝達型の授業形態を中心としながらも、随時、ペアワークやグループワークといったアクティブラーニング（的）手法を用いることで、受講者が主体的・能動的に学習を進めるかたちをとる。	
共通教養科目	スポーツ	スポーツ実技		各種のスポーツ（運動）の実践を通して、各個人の体力維持・増進や技術の修得を目指す。また、仲間と共に練習や試合をすることにより望ましい社会性を身につけることを目標とする。 当該スポーツ（運動）に必要な基礎的技術を身につけたり、それらを活かしてゲームをしたりして当該スポーツ（運動）の技能特性に触れる。こうした活動を通してスポーツ（運動）の見方・考え方を深めたり、仲間同士の交流を通して望ましい社会性を高めたりし、今後のスポーツ（運動）への向き合い方をより充実したものにする。 授業は実技を基軸として、個人での学習、ペア学習やグループ学習を適宜、可変的に運用しながら進めていく。	
共通教養科目	大学コンソーシアム	大学コンソーシアム		京都地域を中心に大学・短期大学が大学コンソーシアム京都という組織に加盟し、単位互換制度を締結している。この単位互換制度で提供される科目は、学生の幅広い関心と興味に応じて、文化、芸術、政治、経済、自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が9テーマに分類され、講義形式の科目、実習やPBL（Project Based Learning）などを取り入れた科目など提供されている。 本科目は、本学の学生がこの単位互換制度により他大学の単位互換科目を受講し、合格評価を受けた科目に対して、単位認定を行う科目として位置づけられる。	
専門科目	学部基幹科目	医療概論		看護師・保健師を目指す学生は、まず日本の医療システムと医療倫理、医療安全管理について十分に理解しておかなければならない。医療システムについては、保健・医療のチームを構成するさまざまな職種、医療提供機関、そして日本の医療の特徴である①国民皆保険、②フリーアクセス、③現物給付制、④自由開業制について理解を深めるとともに、現在の日本の課題について考察できるようになる。次に医療の倫理について、歴史的経緯を含めて学ぶ。また医療安全管理について、①リスクマネジメント、②組織のマネジメント、③コンフリクトマネジメントを学び、良好かつ安全な医療が提供できるチームの一員となるための素養を身につける。	
専門科目	学科基礎科目	アカデミック・スキルズ	○	（分担／4 小宮敬子、5 田尻后子、10 阿部あかね、13 田野中恭子、14 長谷川由香、21 冨澤理恵、26 野口　遼、121 宇佐美智美（令和8年度）、4 小宮敬子、5 田尻后子、6 中島小乃美、10 阿部あかね、11 鬼頭泰子、13 田野中恭子、14 長谷川由香、22 早瀬麻子（令和9年度）、4 小宮敬子、5 田尻后子、6 中島小乃美、7 浜崎優子、11 鬼頭泰子、14 長谷川由香、22 早瀬麻子、27 松川泰子（令和10年度）、 4 小宮敬子、11 鬼頭泰子、13 田野中恭子、14 長谷川由香、21 冨澤理恵、22 早瀬麻子、27 松川泰子、32 吉原文子（令和11年度）） 本科目の目的は 「スタディ・スキルズ」での学びを活かしたうえで、大学で主体的・自律的に学ぶための、基本的なスキルを習得できるようになることである。特に看護職を目指す学生は、今後、看護や関連領域の論文・専門書を読むこと、看護研究に取り組むことが必要である。学生は、自ら健康・看護に関するテーマを発見し、そのテーマに応じた情報や文献の探索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの作成、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等を通して、大学での学びに必要な基礎的能力を身につける。	共同・分担
専門科目	学科基礎科目	仏教看護		仏教を理解することで看護と共通する思想に気づき、宗教文化を根底にした伝統医学の思想や看取りの営みを学ぶ中で、自己の中に人間の多様な営みを支える基盤を構築することを目的とする。既習の「釈尊のおしえ・法然のおしえ」を踏まえ、仏教の説く「人間の生を支える」という視点を明確にし、インドや中国の伝統医学が宗教文化を根底に人々の生老病死に向き合い続けてきた医療実践を知ることで、現代医学との共通性や差異に気づき看護の本質を考えることができる。 また、チベットや日本における仏教者の看取りの実践から生老病死の関係性を捉え、古代より展開されてきた仏教を根底に据えた看護・福祉・ケアの事績をたどりながら、多様な「生きざま」と「死にざま」について理解を深めていく。これらの学びを基に、現代における時事問題を取り上げ、学生同士で意見を交換する中で思考の整理を行い、各自が実践の場でどのように仏教看護を展開していくかを考える力を身につける。	共同
専門科目	学科基礎科目	基礎解剖学		解剖学では生物体の正常な形態、構造を学習することを基盤とするが、基礎解剖学は特にその基盤中の基盤の学びである。身体の構造は分子から始まり、細胞、組織、器官、（連動する働きを有する器官の集合体である）系、そして一つの身体が構成される。それぞれのレベルにおいて、「形」が構築される意義と意味があり、生命現象の基盤を知る道標とするために、これらを学び、理解する。本科目においては、「互いに学ぶ」ことを意識して、従来の座学に加えて、1つの課題をグループで掘り下げるTBL(team based learning)方式も有効利用し、看護師に必要な解剖学的知識の基盤を十二分に身につける。その知識を更に専門領域の学びに応用する力として、基礎生理学で学ぶ身体構造の機能的役割と合して生命現象を広い視野で理解する力を身につけることを目標とする。	

授業科目の概要

（看護学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科基礎科目	基礎生理学		基礎生理学は、生物体の機能、働きを研究、解析する中心的分野であり、形態・構造を学ぶ解剖学と対をなす重要な学問体系である。正常な形態と機能を学び、生命活動を理解することは、その先の病理学的、病態学的事象を理解する為の基礎となる。細胞生理学、神経生理学、電気生理学、内分泌学生理学、統合生理学など生理学の各分野の基礎的な部分をピックアップした講義により、生命体が一定の動的平衡を保ち、その平衡を守る為に様々な形で調和の取れる生命機能が多角的に動いていることを学ぶ。また、基礎解剖学で得た形態学的知識と基礎生理学で得た機能的知識のレキシブルな融合を自由な発想、感性で統合的に使える力をつける方向性を構築する。さらに、「受け身」の学びから「能動的」な学びの方向性を共有し、「考える」学習の場を構築する。	
専門科目	学科基礎科目	病理学概論		病理学は、「病気の原因、患者の徴候や症状をもたらす発生機序を研究し、臨床と基礎の架け橋となる学問」である。本科目では、看護に必要な医学の基礎知識として、病気の成り立ちとその回復過程について理解できることを目標とする。病理学の総論では、細胞・組織の損傷と修復、炎症、免疫、アレルギーと自己免疫疾患、移植と再生医療、感染症、循環障害、代謝障害、老化と死、先天異常と遺伝性疾患、腫瘍、生活習慣と環境因子による生体の障害を学ぶ。病理学の各論では、循環器系の疾患、血液・造血器系の疾患、呼吸器系の疾患、消化器系の疾患、腎・泌尿器系の疾患、生殖器および乳腺の疾患、内分泌系の疾患、脳・神経・筋肉系の疾患、骨・関節系の疾患、眼・耳・皮膚の疾患を学ぶ。	
専門科目	学科基礎科目	栄養学		栄養学は、食品やその中の成分、栄養素がどのように人間の体の中で利用され、影響を及ぼしているかを研究する学問であり、近年では栄養状態が医療行為を行う上でも重要視されている。それは、栄養が生命維持は言うに及ばず生活活動や健康の維持・増進に必要な物質を外界から取り入れてこれを利用する現象を指すからである。生体は、構成する組織、細胞レベルで栄養素を利用している。細胞内での分子レベルの代謝経路について生化学的な面から、組織レベルの消化・吸収について生理学的な面から講義で学び、理解する。さらに、個体としてこの栄養素とその利用について、健康・医療に関連した臨床的な面からも概要を理解する。さらに、今後発展が考えられるオーダーメード医療に関連する遺伝子と個人の栄養について学ぶ。	
専門科目	学科基礎科目	疾病論Ⅰ		本科目では、すべての医学・医療分野と密接に連携して、最適な診断および治療を行う実践的な臨床医学である。本科目では、看護に必要な医学の基礎知識として、内科疾患の概念、疫学、病態生理、症状、診断、検査、治療について学ぶ。対象として、循環器疾患（高血圧、心不全、虚血性心疾患、不整脈、心臓弁膜症、血管疾患など）、呼吸器疾患（肺炎、肺結核、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、肺がんなど）、消化器疾患（上部消化管疾患、下部消化管疾患、肝胆膵疾患）、代謝疾患（糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドロームなど）、血液疾患（貧血、造血器腫瘍、出血性疾患など）を扱う。看護師にとって必要な内科学の基本的な知識を習得すること、また内科領域の主な疾患の病態・診断・治療の概要を理解できることを目標にする。	
専門科目	学科基礎科目	疾病論Ⅱ		看護の展開・実践に必要な医学の基礎知識として、外科系疾患の概念、疫学、 病態生理、症状、診断、検査、治療について学ぶ。授業では創傷治癒、救急医療、麻酔、輸血などの総論に続き、各論として消化器系疾患、心・血管系疾患、呼吸器系疾患、感覚器系疾患、筋・骨格・運動器系疾患などを取り上げる。代表的な疾患の診断・治療について、外科の視点から解説し、特に治療に関連の深い機能解剖、病態生理、疾患概念を理解できることを目標にする。	
専門科目	学科基礎科目	疾病論Ⅲ		本科目では、看護に必要な医学の基礎知識として、内科疾患・小児疾患・老年疾患・皮膚疾患の概念、疫学、病態生理、症状、診断、検査、治療について学ぶ。対象として、内科疾患（脳・神経疾患、腎・尿路疾患、自己免疫・アレルギー性疾患、感染症）、小児疾患（先天異常、循環器疾患、消化器疾患、代謝疾患、脳・神経疾患、精神疾患、感染症、小児がんなど）、皮膚疾患、老年疾患（高齢者に特有の症候、老年症候群、廃用症候群など）、悪性腫瘍と緩和ケアを扱う。看護師にとって必要な内科学・小児科学・老年学・皮膚科学の基本的な知識を習得すること、また内科・小児・老年・皮膚領域の主な疾患の病態・診断・治療の概要を理解できることを目標にする。	
専門科目	学科基礎科目	疾病論Ⅳ		（概要）看護の展開に必要とされる臨床医学の領域のうち、母性と精神科の基礎知識および疾患の病態生理、症状、診断、治療について理解することを目的とする。 （オムニバス方式/全15回） ＜37 漆葉成彦/7回＞ 精神症状の状態像を理解し、精神疾患の診断と治療を概観し、各論として認知症とせん妄、アルコールや薬物の乱用/依存/中毒、統合失調症、うつ病及び双極性障害、神経症性障害、心的外傷後ストレス症、及びパーソナリティ症の診断、治療を理解する。 ＜83 楠木 泉/8回＞ 産婦人科診療を概観し、月経のメカニズムと異常の病態や更年期症候群、産科診療の異常妊娠・分娩・産褥の病態と対処、感染症と妊娠出産、胎児、新生児への影響を理解する。婦人科診療では、子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がんの病態と治療、さらに不妊症と生殖医療について考える。	オムニバス方式

授業科目の概要（看護学部看護学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科基礎科目	薬理学		薬物治療はあらゆる疾患領域において重要な役割を担っており、薬を何のために使うのか、どのように効くのか、どうして副作用が起こるのか、使う時どういう点に気をつけるべきか、という正確な知識を身につけることが医療人に求められる。しかし今、用いられている薬の有効成分は数千種類にも及び、それらをただ闇雲に覚えるだけでは知識を活かせない。本科目では薬効分類に基づいて代表的な薬物の名称、効能とその作用メカニズム、副作用や相互作用を体系的に学ぶ。さらに正しい薬の情報をどのように調べられるのかを体得する。これらの理解は看護実践において効果的かつ安全な薬物治療に貢献できる普遍的な知識となる。	
専門科目	学科基礎科目	公衆衛生学		本科目では「組織化した地域活動を通じて、疾病の予防、生命の延長、および肉体的精神的健康の確保と増進を図る科学・技術」である公衆衛生学の基本について体系的に理解する。公衆衛生学は、保健・医療に従事することを目指すすべての学生にとって、必須の領域である。 具体的には疾病対策や保健・福祉対策の現状と仕組み、疫学研究手法、主要疾病の疫学と予防などについて学習し、そのことを通して現在の世界における公衆衛生上の課題を理解し、考察する。	
専門科目	学科基礎科目	社会福祉		社会のなかで、誰もが生き生きと豊かな生活を送るため歴史的に形成 発展してきた社会福祉の制度体系や仕事として具体化される実践について学ぶ。そのために社会福祉とは何か、社会福祉の概念・理念、歴史 諸制度、また実践について検討していく。その際、歴史的に獲得されてきた生存権や生活権といった権利の体系やその意味と意義を踏まえながら、実際の仕事を通し自らの生活に関わる社会福祉についての理解を深める。こうした学習を通じて、現代社会における「生命活動」「日々の暮らし」「人生」といった人々の生活、暮らしについての実態と社会福祉の意味・意義についての検証をおこない考察する。	
専門科目	学科基礎科目	保健医療福祉行政論		本科目では、地域における保健医療福祉の課題をふまえ、保健医療および福祉に関する行政制度や政策について学ぶ。患者・地域住民の生命と暮らしの現状、保健医療福祉の歴史的背景、現在の制度構造、看護職として知っておくべき保健・医療・福祉行政に関わる基礎知識を理解する。特に、日本の保健医療福祉制度の特徴、課題、そして課題解決に向けて主体的に考える姿勢を身につける。また、地方自治体や国の役割、行政機関の機能、保健医療福祉サービスの提供方法についても具体的に学ぶ。学生はこの授業を通じて、保健医療福祉の基盤となる考え方および実践的な知識を習得し、将来の看護職として地域社会に貢献するための基礎を築く。	
専門科目	学科基礎科目	保健統計学		本科目では、看護や保健医療分野において必要な統計学の基本的な考え方、統計情報の見方、活用方法、統計手法を知る。データの収集方法や整理、分析、解釈に関する知識を習得し、統計手法を実際のデータに適用する能力を身につける。講義では、グラフや図表の作成、確率分布、仮説検定、相関と回帰分析、人口統計、保健統計調査などを学び、統計ソフトを用いた体験学習も行う。これにより、公衆衛生看護を含む看護の基盤となる保健医療分野での意思決定に役立つ統計的思考力を培う。	
専門科目	学科専攻科目	看護学概論	○	本科目では、看護の定義、歴史、看護の対象となる人の存在と看護実践、あるいは看護理論や倫理を学ぶことで、看護の専門性を考え、医療や社会における看護の役割や責任について考えることを目的とする。 特に、看護の基本概念である「人間」「健康」「環境」「看護（実践）」について深く学び、相互の関連性についても考える。３冊の書籍（「看護覚え書き」「ケアの本質」「ベッドサイドからケアの本質を問う」の抄読を通して看護学の豊かさや奥深さに気づき、看護の基本的な考え方、つまり看護の本質について考える。また、看護倫理について価値の対立によっておこる倫理的問題を取り上げ、患者の権利擁護者としての看護の役割についてより深く理解する。さらに、時代の変化に伴う医療や社会における看護の責任や課題について考える。	
専門科目	学科専攻科目	看護実践基盤技術論	○	本科目では、あらゆる健康レベルにある対象への看護実践の基盤となる基本技術を習得することを目的とする。授業内容は、看護技術の概念、観察技術、人間関係を成立・発展させるための技術（コミュニケーション技術・カウンセリング技術・リフレクション）、姿勢・動作の基本技術、活動と休息の援助技術、生活環境を整える技術、安全を守り安楽をもたらす援助技術である。これらの技術は、看護実践において複合的に適用されるため、系統的・集積的に習得することを目指す。演習を通して技術のデモンストレーション動画教材を独自に作成し、LMS（学習管理システム：Learning Management System）を使用して反転授業を展開しながら安全・安楽・自立に配慮した援助が提供できる能力を身につける。	共同
専門科目	学科専攻科目	フィジカルアセスメント技術	○	看護技術の中でも、最も重要とされる観察技術のフィジカルアセスメント技術の意義や重要性を理解し，頭部から足先までの全身状態を系統的に観察するフィジカル・イグザミネーションの基本技術（視診・触診・打診・聴診等の技術）について，講義及び学生同士のロールプレイの演習を通して習得する。また、基本技術によって得られた情報に基づいて対象の健康状態をアセスメントすることができる。学生同士では正常な健康状態を観察し、アセスメントするにとどまるため、シミュレーション学習ツールとして健康障害のVR患者を用いて仮想空間での学習を実施する体験を通して、症状を呈している患者のアセスメントの実際をより臨床に近づけて発展的な学習を行う。	共同

授業科目の概要（看護学部看護学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科専攻科目	生活行動援助技術論	○	本科目では、日常生活行動に問題をもつ患者を援助するための知識・技術・態度を習得することを目的とする。授業内容は、衣生活の援助、身体の清潔を保つ援助、食事の援助、排泄の援助の方法である。授業内容の理解、デモンストレーションの見学、演習の組み立てと実践を通して、エビデンスに基づく安全・安楽・自立に配慮した生活行動援助の基本的知識・技術・態度を身につける。技術習得にあたっては、多方向同時型デモンストレーション動画教材を独自に作成し，LMS（学習管理システム：Learning Management System）を使用して反転授業を展開しながら、臨床現場を想定したロールプレイを取り入れて確実な技術習得を図る。さらに事例患者を設定し、患者の状態をアセスメントして患者に合せた生活行動援助の方法を考え、実践できる能力を身につける。	共同
専門科目	学科専攻科目	看護過程論	○	臨床判断の最も基本となる問題解決思考を基盤とした「看護過程」の理論および方法を理解することを目的とする。専門的な看護実践の基本となるクリティカルシンキングの重要性を確認し、対象の個別性に基づいて効果的な看護実践を進めていくための基本的な思考過程、つまり「情報の整理」「アセスメント（解釈・分析・判断・推論）」「看護計画立案」「実施」「評価・修正」の思考のプロセスを展開するために必要な知識を理解する。そして、より実践的な思考の定着のために、特定の健康障害を持つペーパーペイシェントを教材として、理論的枠組みを用いて妥当なアセスメントについて理解する。また、アセスメントから導かれた看護上の問題を特定し、看護計画を立案し、生活行動の困難に注目した看護ケアを実践・評価する思考過程を理解する。	共同
専門科目	学科専攻科目	診療援助技術論Ⅰ	○	治療前は自立して行うことができていた食事や排泄、安楽な呼吸といった日常生活行動を、治療的に行う必要が生じた対象に対する援助技術を学ぶ。無菌操作をはじめ、一時的導尿、持続的導尿、経管栄養、浣腸、酸素療法、吸引療法などについて、医療器具を安全に操作し、苦痛を伴う援助を可能な限り安楽に実施するために必要な知識と技術を身につける。技術習得学習のために、独自に作成した動画を事前学習として視聴し、イメージ作りを行って演習に臨むとともに、演習後にも視聴して振り返りを行い、自己課題を明確にする。また、このような診療援助によって生活行動がどのような影響を受けるのかをアセスメントし、既習の看護技術を基にして安楽な日常生活を送るための看護を考える。	共同
専門科目	学科専攻科目	診療援助技術論Ⅱ	○	健康上の問題を持つ対象が安全・安楽に診療や検査が受けられるよう、診療や検査に関連する基本的な知識と技術を学ぶ。身体侵襲が大きく、より安全に配慮する必要がある与薬、注射、生体検査などについて学び、既習の無菌操作の技術と安全管理の知識を用いて、的確に注射器などの医療器具を扱える技術を身につける。技術習得学習のために、独自に作成した動画を事前学習として視聴し、イメージ作りを行って演習に臨むとともに、演習後にも視聴して振り返りを行い、自己課題を明確にする。また、苦痛をともなう治療や検査を受ける患者に対し、必要な看護を考える。 さらに、診療援助技術と医療事故との関係を学び、安全・安楽に実施するために知識を深め、確実な技術習得を目指す。	共同
専門科目	学科専攻科目	基礎看護学実習Ⅰ	○	本科目では、健康上に問題があり治療を受けながら療養生活をおくる患者を受け持ち、対象者との関わりを通して対象を知るとともに、対象者の視点から様々な療養の場としての病院の構造や機能を考え、看護実践の見学や実施を通して看護について理解することを目的とする。援助的関係性や対象者の健康生活や生活環境に関心を寄せ、対象理解のために既習した観察や環境整備、生活行動援助技術、コミュニケーション技法を積極的に活用し、主体的に実施する。学生は、生活行動援助を看護師とともに実践することで看護師の看護本来の機能について考え、患者－看護師の援助的関係について深く理解することができる。また、看護の対象者である患者の療養の場としての病院の構造や機能を考えることができる。さらに、チーム医療観点から看護師の役割と責務、多職種連携における看護の機能について知ることができる。	共同
専門科目	学科専攻科目	基礎看護学実習Ⅱ	○	本科目では、基礎看護学実習Ⅰの実習経験を発展させ、看護の対象者を全人的に理解し、看護過程の展開技術を用いて対象者に合わせた看護が実践できることを目的とする。学生は、健康上に問題があり、病院で療養している患者を受け持ち、人間的な関係性や援助的な関係性を形成しながら、病者として、あるいは生活者として患者を全人的な視点から捉え対象理解を深める。また、看護実践の基礎となる看護過程の思考を展開することを通して、入院生活・疾病が患者に及ぼす影響についてアセスメントし、生活行動に関連する問題に注目し、患者の健康状態に応じた看護計画を立案・実施・評価する。この学習によって、患者の健康回復・維持・促進に向かう看護の目標を考え、身体的苦痛の緩和や生活行動が整うためのより個別的な看護援助を実践する力を習得する。さらに、多職種連携の視点から医療チームの一員として、看護師の役割や責務を理解する機会となる。	共同
専門科目	学科専攻科目	コミュニティ実習	○	本科目では、生活の場である地域の現状を見ることで、地域で支え合って暮らすことについて理解する。主な内容は、地区踏査を行い、地域を見て歩き、生活している人々の暮らしを知る。老人福祉センター等では、高齢者から生活と健康についての思いを聴く。また、地域で暮らす人々や支援者の活動から、地域住民の日常生活や関連サービスについて理解を深める。これらを通して、地域で生活する人々とふれあい、看護の対象となる人々の健康と暮らしについて考えることができる。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科専攻科目	地域・在宅看護学概論	○	（概要）地域で暮らす人々の健康にかかわる在宅看護の特徴や機能、看護の役割について理解する。主な内容は、在宅看護の歴史的変遷とその背景、在宅看護の機能と特徴、在宅療養者と家族の特徴およびニーズについて理解を深める。在宅看護に関連した社会制度や地域ケアシステム、地域包括ケアにおける在宅看護の機能、役割を理解し、保健・医療・福祉の関連職種との連携協働、在宅看護の現状と課題について考えることができる。 （オムニバス方式/全8回） （3 安藤千晶/5回） 地域・在宅における看護活動に関する概念や理論を理解する。在宅看護の歴史的変遷を踏まえた保健医療サービスについて理解し、社会資源の活用や関係機関や関係職種との連携等を考えることができる。 （12 清水奈穂美/3回） 地域・在宅看護の特徴と家族看護の視点を含めた対象者への看護を理解する。訪問看護ステーションの運営を知り、生活自立支援について考えることができる。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	地域・在宅看護方法論Ⅰ	○	（概要）地域で暮らす在宅療養者と家族に対する活動の特性を踏まえ提供される看護について理解する。主な内容は、生活支援や家族支援の方法、療養者と家族の生活の場である在宅での看取り、医療的管理・安全管理に伴う看護、合併症の予防と生活指導についての知識と技術を理解する。在宅療養者と家族の暮らしを理解し、生活様式や価値観を尊重した日常生活援助方法について考えることができる。 （オムニバス方式/全15回） （3 安藤千晶/6回） 地域・在宅における療養児、難病、精神疾患・認知症の療養者への看護、家族看護、医療的管理や災害等の安全性の確保、コミュニケーションについて考えることができる。 （12 清水奈穂美/6回） 地域・在宅における看護活動、看護過程の特徴、栄養管理、褥瘡ケア、看取りについて考えることができる。 （18 駒井和子/3回） 地域・在宅における療養環境、排泄・清潔、呼吸管理について考えることができる。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	地域・在宅看護方法論Ⅱ	○	在宅における看護師の思考と判断プロセスの特徴を理解し、事例を用いた演習を通して、臨床判断の基礎的能力を身につける。主な内容は、訪問場面のVRシミュレーションを活用した情報収集や事例分析を行い、判断するために必要な情報に気づく力を養う。訪問シミュレーションを行い、在宅での基本的な訪問マナーとコミュニケーションを理解し、在宅療養者と家族の療養上の課題や看護目標、生活状況に合わせた援助方法を説明できる。グループワークを通して、これらの学習を振り返り、思考と判断プロセスにおける自己の課題について考えることができるようになる。	共同
専門科目	学科専攻科目	地域・在宅看護学実習	○	在宅ケア連携システムの概要を学ぶとともに、地域で生活している在宅療養者と家族への理解を深め、生活の場で看護実践するために必要な知識や技術を習得する。訪問看護活動における療養者と家族を総合的に理解し、それらの人々が望む生活や生き方を支える看護を実践するための基本的能力を身につける。主な内容は、訪問看護の機能および役割、看護の継続性と地域の関係機関や関係職種との連携・協働について理解し、療養者と家族の療養上の課題と援助方法について考えることができる。地域の保健・医療・福祉サービス機関と連携・協働しながら対象者と家族を健康状態や日常生活を理解し、看護職の活動について実際を知ることにより学びを深める。地域包括支援センターの機能と役割・運営、社会資源の活用を理解し、地域におけるケアマネジメントについて考えることができる。	共同
専門科目	学科専攻科目	クリティカルケア看護学Ⅰ	○	（概要）本科目では、クリティカルケア看護が治療の場や疾病の経過の概念に依らず、対象の救命とともに生活の質の向上を目指していることを学ぶ。 具体的には、急激な健康破綻を来した対象の健康問題と臨床判断に基づく看護実践について理解する。さらに、クリティカルケアに必要な理論やスキルを学び、身体侵襲が対象に及ぼす影響と回復過程に応じた看護の特徴を説明できることを目的とする。 ICT活用や共同学習、専門領域の認定看護師の参画等により、臨場感を持ちながらながら看護の役割を考察できる力を身につける。 （オムニバス方式/全15回） （15 利木佐起子/14回） クリティカルケア看護の対象の病態や治療の及ぼす影響を理解するとともに、回復促進のために必要な治療と安楽を両立できる力を身につける。 （20 趙崇来/1回） 手術により排泄路変更となった対象の生活再構築に向けての継続看護について理解する。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	クリティカルケア看護学Ⅱ	○	クリティカルケア看護学Ⅰを踏まえ、事例を基に周術期各期（術前・術中・術後）の看護を具体的に理解する。看護実践場面を想定し、身体侵襲の影響と回復過程に沿った看護実践能力向上に繋がるアセスメント力、臨床判断能力を修得する。さらにクリティカルケア看護に含まれるICU看護・急変時看護の専門性についても知る。 認定看護師（救急看護）や特定看護師を招聘したシミュレーション演習、ロールプレイ、グループワークを中心とした共同学習、ICT教材の活用によりクリティカルケア看護の役割を理解する。	共同

授業科目の概要（看護学部看護学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科専攻科目	クリティカルケア看護学実習	○	クリティカルケア看護学Ⅰ・Ⅱを踏まえ、急激な健康破綻を来した対象のクリティカルケアが必要な状況を理解するとともに、身体侵襲からの回復促進や社会生活の再構築に向けた看護実践に必要な基礎的能力を修得する。クリティカルケア看護が必要とされる特徴的な場（手術室、ICU等）、多職種連携、対象の生活の場に応じた継続看護についても理解する。 また、具体的な看護実践場面の振り返りから、臨床判断や多職種連携の中での看護の役割を理解する。	共同
専門科目	学科専攻科目	慢性看護学Ⅰ	○	（概要）生活習慣病やがん・難病など慢性的な経過をたどる健康障害を有する人が急増している。本科目では、それら慢性の病気をもち生活する人や緩和ケアを必要とする人とその家族の身体的・心理社会的特徴を理解し、対象に応じた看護を提供するために、病態生理や治療などの基礎知識をふまえた看護の方法や慢性看護の基盤となる理論とその活用方法を理解する。 （オムニバス方式／全15回） （1 藪下八重/11回） 慢性の病気をもつということや慢性性とは何かを思考し、慢性看護・がん看護を理解する。代表的な慢性の健康障害や治療・検査が及ぼす患者・家族の生活への支障、災害時の備え、緩和ケアの国内外の現状と倫理的課題を理解するとともに、慢性看護に活用できる理論や概念を学ぶ。 （19 髙岡寿江/4回） 慢性の消化機能障害や造血機能障害などをもつ患者・家族、化学療法を受ける患者・家族の特徴と看護を学び、慢性の病気をもつ人とその家族への支援を考える。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	慢性看護学Ⅱ	○	本科目では、慢性看護学Ⅰに続き、、慢性看護の対象となるさまざまな健康障害をもつ患者・家族の特徴を理解し、セルフケア支援や緩和ケアに必要な知識やコミュニケーションなどの看護技術をロールプレイや演習・グループディスカッションを通して習得する。また、慢性の健康障害をもつ事例を用いて、対象理解から看護の実践・リフレクションに至るまでの思考プロセスを臨床判断モデルを活用したシミュレーション演習で学び、臨床判断を行うための基礎的能力を身につける。	共同
専門科目	学科専攻科目	慢性看護学実習	○	本科目では、慢性看護学Ⅰ・Ⅱをふまえて、慢性の病気をもち、生涯にわたり病気のコントロールが重要となる患者や人生の最終段階（終末期）にある患者とその家族を対象とした看護実践に必要な知識・技術・態度を、実践を通して修得する。 既習の理論や知識・技術、臨床判断の思考プロセスを活用しながら、対象の状況を体験的に理解し、症状緩和や心理的安寧を図るとともに、患者・家族が折り合いをつけながら療養を継続できるよう支援するための看護実践能力を養う。また、慢性看護に求められる倫理的行動や看護の継続性、多職種連携・協働の実際についてもチーム医療の現場で理解する。	共同
専門科目	学科専攻科目	老年看護学概論	○	（概要）本科目では、地域・在宅・療養の場など様々な場で暮らす高齢者の看護実践者となるために、高齢者の心身の特徴と多様な健康・生活ニーズについて学び老年看護の特性・独自性を理解し、高齢者の健康とその人らしい生活を支える老年看護実践の基盤となる力を身につける。動画教材やICT等の教材を用い、アクティブラーニング型授業によって高齢者の心身の特徴と多様な健康・生活ニーズについて能動的に学び、老年看護の特性・独自性について理解を深める。 （オムニバス方式/全8回） （2 濱吉美穂/5回） 高齢者看護に関する概念と役割、看護実践の在り方等を理解する。 （16 阿部慈美/2回） 高齢者の心身の特徴や老年症候群の症状を自ら調査し、理解する。 （28 丸繁裕太/1回） 高齢者看護の特性と独自性について理解し、言語化する力を身につける。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	老年看護方法論Ⅰ	○	（概要）本科目では、老年期に起こりやすい心身の健康障害の特徴を想定しながら身体・心理・社会的側面を包括的に評価する方法を理解し、具体的な看護援助について学習する中で、老年看護を行う視点と臨床判断力・倫理観を身につける。また、認知症者を含む高齢者への具体的な看護援助や、コミュニケーション方法について事例を基に学び、老年看護に必要な多職種との協働の在り方について理解できるようになる。 （オムニバス方式/全15回） （2 濱吉美穂/8回） 高齢期に多い疾患の看護について、臨床判断からの看護展開および多職種協働を学ぶ。 （16　阿部慈美/6回） 認知症を中心とした高齢者に多い症候の看護について、臨床判断からの看護展開を学ぶ。 （28　丸繁裕太/1回） 急性期医療現場における高齢者看護について臨床判断からの看護展開を学ぶ。	オムニバス方式

授業科目の概要

（看護学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科専攻科目	老年看護方法論Ⅱ	○	本科目では、老年期に起こりやすい症状や高齢者のセルフケア能力について理解し、健康障害をもつ高齢者の看護に必要な知識や援助技術を習得する。健康障害を抱える高齢者の代表的な事例を取り上げ、老年期の特徴および対象の発達段階をとらえた健康障害の理解と、看護過程の展開方法について学ぶ。老年期に起こりやすい症状等についての特徴的な事例を用いながら反転授業・協働学習を交えながら臨床判断モデルを使って老年期の特徴や健康障害についての理解を深め、多職種連携を踏まえた看護展開方法を身につける。到達目標は、①臨床判断における気づき、解釈、省察したことを言語化することができること ②看護実践をリフレクションすることができること③多職種連携を考慮した高齢者看護実践の方法を提案することができること、の3点とする。	共同
専門科目	学科専攻科目	老年看護学実習	○	本科目では、地域包括ケアシステムのもと、療養の場や地域における認知症高齢者に対して、医療チームの一員としてケアマネジメントできる基礎的能力を身につける。療養の場として地域包括ケア病棟・回復期ケア病棟に入院する認知症高齢者への退院支援、そして地域における介護老人福祉施設に入所する認知症高齢者への看護実践を多職種と協働しながら実習を行い、個別性のある看護援助の展開を行う。特に認知症高齢者を受け持ち、認知症看護の実践力を高めると共に家族を含めた看護援助や在宅療養を見据えた援助の必要性についても理解し、高齢者を取り巻く保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割や責務を理解する。	共同
専門科目	学科専攻科目	小児看護学概論	○	（概要）少子社会では、学生は子どもと関わる機会も少なく、小児看護の対象である子どもを理解することが難しい。この授業の目的は、小児看護の対象である子どもとその家族について理解できるようになることである。 主な内容として、子どもの権利、小児看護の変遷と課題、子どもの成長・発達段階と特徴に応じた支援、小児看護の機能と役割、小児看護が展開される場の多様性について学ぶ。成長・発達については、DVD等を活用して、各発達段階が具体的にイメージができるように構成する。また、現代社会における子どもとその家族の健康上の課題や関連する施策についてまとめ、発表することで学びを共有する。 （オムニバス方式/全8回） （14 長谷川由香/7回 ） 小児看護の目的と役割、子どもの成長発達と他職種との連携を踏まえた支援の在り方を学ぶ。 （11 鬼頭泰子/１回） 日本を含む国際社会における子どもの権利について理解を進める。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	小児看護方法論Ⅰ	○	（概要）子どもは成長・発達の過程にあり、特有の反応を示すため、その特徴を理解していないと適切な看護は提供できない。この授業の目的は、さまざまな状況や健康障がいが子どもとその家族に及ぼす影響を踏まえ、対象に応じた看護援助の方法について理解できるようになることである。 講義を通して、子どもの主要な症状と看護、診療場面で必要なケア技術、予防接種と感染症、障がいのある子どもと家族の看護、様々な場で生活する子どもと家族を支える多職種連携について学び、看護の役割について理解する。 （オムニバス方式/全15回） (11 鬼頭泰子/8回) 子どもの主要な症状（発熱、呼吸困難等）や障がいのある児やその家族の支援について学ぶ。 （14 長谷川由香/5回） 診療場面で必要なケア技術を学ぶ。 （25 中谷香/2回） 予防接種や感染症における子どもやその家族の看護を学ぶ。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	小児看護方法論Ⅱ	○	子どもとの援助関係を形成していくには、遊びやコミュニケーション、プレパレーションの技術が不可欠である。この授業の目的は、健康障がいをもつ子どもの成長発達と健康回復を促進するために必要な知識や技術を演習を通して習得できるようになることである。 特に、健康障がいをもつ子どもと援助関係を形成するために必要な遊びやコミュニケーション、プレパレーションの技術の看護実践能力を習得するためにロールプレイを取り入れる。子どもの代表的な疾患事例を取り上げ、子どもの特徴および発達段階、疾患・治療、子どもを取り巻く家族の状況、子どもの安全等を考慮したうえで、看護の展開方法について学ぶ。本演習では、ICTや共同学習を活用しながら、臨床判断能力を養う。	共同
専門科目	学科専攻科目	小児看護学実習	○	実習の目的は、「子どもの権利」の尊重を基盤にして、健康な子どもを理解するとともに、健康を障害された子どもとその家族に応じた看護実践に必要な知識や技術を習得することである。 こども園・幼稚園実習では、地域で生活する子どもとの関わりを通して、健康な子どもの成長・発達の特徴を理解するとともに、コミュニケーション力を養う。病院実習では、健康障がいや入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、アセスメントを通して、臨床判断能力を養う。また、子どもと家族を支えるために必要な多職種連携について理解する。学内実習では、ICTや共同学習を活用しながら、臨床判断能力を養う。	共同

授業科目の概要（看護学部看護学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科専攻科目	母性看護学概論	○	（概要）母性看護の概念、歴史的変遷、関係法規を踏まえて女性のライフサイクルにおける各期に健康上の特性、看護の役割や課題について学習する。 （オムニバス方式/全8回） （5 田尻后子/6回） 母性看護の基本的考え方、母性とは何かを概観し、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション、LGBTQの権利、家族計画と受胎調節、国際社会と在日外国人などについて思考する。母性看護の歴史的変遷、母子保健統計などを読みとき現状や今後の支援の在り方を学ぶ。 （22 早瀬麻子/2回） 女性のライフステージ各期についての特徴や看護について学ぶ。特にプレコンセプションについて学生自身が興味ある内容（月経困難症、性感染症、人工妊娠中絶、喫煙、DVなど）を調べ意見交換しながら対象の理解やその特徴と看護を学ぶ。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	母性看護方法論Ⅰ	○	（概要）正常な妊産褥婦の身体的・心理的・社会的な特徴と胎児、新生児の成長発達、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児の生理的変化について学ぶ。また、妊娠から産褥1ヵ月迄の事例を用いて妊産褥婦の情報収集、アセスメント、統合について対象理解する。各期における観察方法や安全、安楽で適切な看護ケアを学ぶ。予期せぬ事例（早産、死産、障害児等）、帝王切開の手術方法や麻酔、手術前後の妊産褥婦、胎児、新生児の看護ケアについて理解を深める。 （オムニバス方式/全15回） （5 田尻后子/5回） 分娩期、産褥期の看護と看護過程について理解する。 （22 早瀬麻子/5回） 妊娠期の看護と看護過程、予期せぬ事例について理解する。 （23 岡崎翠/5回） 新生児期の看護と看護過程、帝王切開の看護について理解する。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	母性看護方法論Ⅱ	○	事例を取りあげ、対象（母子）についての妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の各期のアセスメントと全体像を捉え、支援の内容を考える。加えて、退院後（2週間、1か月から3か月）の生活について考え、地域で行われている母子育児支援内容について調べ、事例に即した看護ケア、母子、家族支援についてグループで発表し、ディスカッションする。また母乳育児支援活動の現状と看護についての説明を受け継続的な母乳育児支援について理解を深める。	共同
専門科目	学科専攻科目	母性看護学実習	○	母性看護学実習として、妊娠・分娩・産褥各期にある女性と新生児およびその家族を対象とし、ウェルネスの観点から健康の維持増進および健康上の課題を解決するための基本的な実践能力を習得する。また、地域における母性看護の役割や継続的な看護の重要性を理解する。実際には病院実習（4～5日）において褥婦と新生児を受け持ち母児一対として、また妊婦や産婦を受け持ち胎児の状況を含めて看護過程を展開する。産科外来やNICU/GCUで看護ケアについても学ぶ。助産院実習（2～3日）では、助産院の役割や母乳育児支援、妊婦健診や家庭訪問、産後ケア、性教育などについて学び、地域における母性看護の役割や妊産褥婦を取り巻く多職種連携の必要性を理解する。	共同
専門科目	学科専攻科目	精神看護学概論	○	（概要）精神看護が疾患を持つ人のみならず健康な人や、地域における人々のこころの健康も対象にしているため精神の健康を理解するための諸概念を学ぶ。また、ライフサイクルや家族、集団、社会の中で生きることが精神の健康に及ぼす影響や、精神保健医療の概要（歴史経過や関連法規を含む）、精神障害当事者が地域で暮らす経験について理解する。 （オムニバス方式/全8回） (4 小宮敬子/4回) 精神看護の理念、こころのしくみとはたらきの諸概念を理解する。また精神保健領域、精神障害当事者が地域で暮らす経験について学ぶ。 （10 阿部あかね/3回） 災害看護におけるこころのケア、ストレス・危機理論、看護師のメンタルヘルスを学ぶ。また精神医療と看護の歴史的変遷、精神科関係法規を学び、精神医療における倫理的課題を理解する。 （30 山岸若菜/1回） 精神科領域における家族の影響や役割と家族ケアについて学ぶ。	オムニバス方式

授業科目の概要（看護学部看護学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科専攻科目	精神看護方法論Ⅰ	○	（概要）精神科における検査や治療、リハビリテーション等、精神医療の基礎知識をふまえながら、主な精神疾患をとりあげ、そのアセスメントや看護のポイントを理解する。また、自己のコミュニケーションを振り返り、援助関係について理解を深める。 （オムニバス方式/全15回） （4 小宮敬子/6回） 精神科における検査や治療、薬物療法、主な疾患（統合失調症、依存症）とその看護を学ぶ。 （10 阿部あかね/6回） 精神症状と状態像、主な疾患（気分障害、器質性精神疾患）とその看護を学ぶ。また対人関係論においてプロセスレコードを用いて自己のコミュニケーションを振り返り、患者―看護師関係について理解する。 （30 山岸若菜/2回） 主な疾患（パーソナリティ障害・発達障害、青年期特有の精神疾患）とその看護を学ぶ。 （51 中西英一/1回） 精神科におけるリハビリテーションの概念や、その土台となる考え方、リハビリテーションの技法について学ぶ。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	精神看護方法論Ⅱ	○	（概要）主な精神疾患事例をグループワークにて検討する。模擬カルテ（MEDI　EYE）を用い、主な精神疾患の各患者の情報収集、アセスメント、看護目標と看護計画を疾患の経過とともに検討する。心理・社会面、ライフサイクル等も合わせ、多角的な視点から問題を吟味し、看護問題の抽出や退院後の地域での暮らしを含めた看護計画を立案する。 (オムニバス方式/全8回) （4 小宮敬子/2回） 統合失調症事例の急性期（入院時）、回復期、退院準備期ごとに看護問題を抽出し、看護計画を立案できる。 （10 阿部あかね/4回） 気分障害事例を検討し、観察の視点、看護計画、再発予防と職場復帰を考慮した看護計画を立案できる。アルコール依存症事例から、離脱症状の予防を含めた急性期看護のポイント、アルコールプログラムや自助グループを活用した再飲酒予防を立案できる。 （30 山岸若菜/2回） 強迫性障害事例を検討し、不安症状と生活上の困難に対応した看護計画を立案できる。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	精神看護学実習	○	精神の健康に障害を持つ対象者を身体的、心理・社会的側面等、多面的に理解し、人権を擁護しながら地域生活へつなげていくための看護実践に必要な知識や技術を学ぶ。 対象者との対人関係のプロセスを振り返り、治療的関係の重要性を学ぶ。また、精神科医療における治療や治療環境の特殊性を理解し、看護師の役割や責務を理解する。さらに、精神障害者の退院促進と地域生活支援の方法、看護師と他職種との連携や家族への支援について理解する。	共同
専門科目	学科専攻科目	公衆衛生看護学概論	○	（概要）公衆衛生看護の概念、目的、対象と方法を学ぶ科目である。授業の概要は、公衆衛生看護の歴史的変遷、公衆衛生看護の概念、公衆衛生看護の意義を知り、保健・医療・福祉との関連から公衆衛生看護の位置づけを理解する。また、公衆衛生看護活動の展開の場とその業務概要を把握し、地域における健康問題が起こる背景および公衆衛生看護の活動の概要を学ぶことである。 (オムニバス方式/全15回) （7 浜崎優子/13回） 公衆衛生看護の歴史的変遷、公衆衛生看護の概念、公衆衛生看護の意義、地域で生活している人々への看護について概観する。対象、活動の場(保健所、学校保健)、理論、支援方法、公衆衛生看護が展開される場の特性と業務概要を理解する。 （13 田野中恭子/1回） 保健師の活動の場である産業保健師について、展開方法や業務概要を学ぶ （27 松川泰子/1回） 保健師の活動の場である市町村保健師活動について、展開方法や業務概要を学ぶ	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科専攻科目	公衆衛生看護方法論Ⅰ	○	（概要）地域で生活する人々のライフサイクルや健康状態に応じた基本的な支援の考え方やアプローチ方法、法的根拠、施策の概要について理解する。具体的には親子、成人、高齢者、障害、精神、難病、感染症の特徴と課題、各施策や保健活動を取り上げる。対象となる個人・家族、集団、組織、地域全体を対象にした公衆衛生看護活動と役割について学ぶ。これにより地域で生活する人々はもちろん入院中の患者の理解と必要な支援を行うための基礎知識を身につける。 （オムニバス方式／/全15回） （7 浜崎優子/2回） 高齢者や結核への保健活動について理解する。 （13 田野中恭子/11回） 対象別の保健活動の概要や家族支援、成人や障害、精神障害等の健康状態に応じた基本的な支援の考え方やアプローチ方法、法的根拠、施策についての理解する。 （27 松川泰子/2回） 母子保健、歯科保健活動について理解する。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	公衆衛生看護方法論Ⅱ		人々が自らの健康に関心をもち維持増進を行い、生活の質を高めていくことができるために必要な理論や支援方法を理解する。授業では生活習慣や保健行動に関する基本的な知識を修得したうえで、保健指導や健康相談に関する理論と展開方法を知る。また、健康教育の理論や技術、教育媒体、展開方法について理解する。実際に健康教育の企画から実施、評価までのプロセスと方法を修得するとともに、多様な健康教育方法の機会や方法についても理解する。	共同
専門科目	学科専攻科目	公衆衛生看護展開論Ⅰ		個人・家族を単位とした援助の基本と重要性を理解し、家庭訪問、乳幼児健康診査の展開方法を学ぶ科目である。授業の概要は、様々な健康段階にある人々の健康的な生活を支援するために必要な技術を学習する。家族を単位とした援助の基本と重要性を理解し、家庭訪問の展開方法を学ぶ。また、健康診査について学ぶことである。到達目標は、①乳幼児の発育・発達とそのアセスメント方法について説明できる。②育児に関する悩みや課題について理解し、課題の解決に向けた保健指導技術を説明できる。③健康診査、家庭訪問における基本的な展開方法を説明できる。④乳幼児健康診査、家庭訪問における基本的な保健指導技術について理解できる。の4項目である。	共同
専門科目	学科専攻科目	公衆衛生看護展開論Ⅱ		（概要）学校保健・産業保健における対象の理解と施策、保健活動を理解する。学校保健では児童・生徒の発達課題や特徴、健康課題を理解し、個人・家族、学校組織を対象とした学校保健活動の展開、養護教諭の役割を学ぶ。産業保健では労働者の健康生活の特徴や健康課題を理解し、施策に関する知識を修得したうえで、労働者個人・集団、組織を対象とした保健活動、産業保健師の役割について学ぶ。これらを通して公衆衛生看護の各場、対象への支援を展開できる基礎を身につける。 （オムニバス方式/全15回） （7 浜崎優子/1回） 対象に応じた支援展開の理解をすすめる。 （13 田野中恭子/12回） 学校保健・産業保健の対象者の特徴や健康課題、保健活動の展開について理解をすすめる。 （27 松川泰子/2回） 学校保健における健康診断や環境衛生について理解をすすめる。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	公衆衛生看護管理論Ⅰ		コミュニティーアズパートナーモデルを基本とした地域診断について、母子保健を中心に学ぶ科目である。授業の概要は、人口静態・動態などの既存資料および地区踏査によって把握した地域の特性をアセスメントする。次に、母子保健に関して、健康状態に関する既存資料を収集・アセスメントする。地域の特性や健康状態の結果から母子保健における健康課題を抽出するといった地域診断の一連のプロセスをグループワークを通して学ぶ。到達目標は、①地区踏査を含む地域診断の一連のプロセスを指導のもと実施できる。②課題解決のための活動計画を策定、展開、評価する一連の看護過程について理解を深める。の2項目である。	共同
専門科目	学科専攻科目	公衆衛生看護管理論Ⅱ		（概要）地域保健活動計画、施策化、公衆衛生看護管理の諸相、健康危機管理、地域ケアシステムについて学ぶ科目である。授業の概要は、公衆衛生看護を展開する自治体の組織や財政のしくみ、地域住民および関係機関や他職種との連携、施策化、地域ケアシステムの構築について理解する。また、公衆衛生看護管理の諸相を理解し管理的立場にある者の役割を通してリーダーシップについて学ぶ。次に自然災害発生や感染症を含む健康危機管理体制の実際についてシミュレーション教育を通して学ぶことである。 (オムニバス方式/全15回) （7 浜崎優子/13回） 公衆衛生看護を展開する自治体の組織や財政のしくみ、公衆衛生看護管理の諸相について理解し、施策化や地域ケアシステムの構築等について学ぶ。自然災害時の保健師の役割や国際保健についても理解する。 （13 田野中恭子/1回） 平常時における健康危機管理について理解する。 （27 松川泰子/1回） 健康危機管理における保健師活動の実際について理解する。	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科専攻科目	公衆衛生看護活動論		実習地域の特性、健康状態に関する情報を整理し、健康課題および事業案を考える科目である。授業の概要は、地域の健康課題を把握し、問題解決のための地域保健活動を実践するための能力を身につける。そのために、地域特性をふまえた地域診断のプロセスを学び、地域診断に基づく事業計画案を策定、展開、評価する視点と方法を学ぶことである。到達目標は、①行政保健実習地の地域診断を実施し、地域の特性や健康状態を分析できる。②母子保健、成人保健、高齢者保健など各分野の健康課題を抽出できる。③実習地において最も優先順位の高い健康課題の解決に向けた事業計画案を作成できる。④地域診断結果を発表できる。の4項目である。	共同
専門科目	学科専攻科目	公衆衛生看護学実習Ⅰ		学校の生徒および労働者の生活や環境の特徴を理解した上で、各対象に応じた保健活動を学ぶ実習である。具体的には、産業保健実習では、産業保健の現場の見学・体験を通じて、労働者の健康の視点から就労生活と健康問題について学ぶ。労働と健康問題の関連を考えながら、個人・集団・組織への支援の展開を学ぶ。学校保健実習では、学校の教育計画・運営組織を知り、学校保健の位置づけ、目標、計画について学ぶ。また、生徒の生活と環境、健康課題を学び、学校保健の意義や保健活動、養護教諭の役割を理解する。	共同
専門科目	学科専攻科目	公衆衛生看護学実習Ⅱ		保健師として地域における個人・家族、集団、組織、地域の健康の維持・増進に寄与できる基礎的能力を養う実習である。具体的には、実習を通して、保健所や市町村で行われる公衆衛生看護活動の見学、体験を通して、地域住民の生活と地域の健康課題を理解する。また、各種保健事業を通じて、個人・家族・集団のセルフケア能力を高めるための援助方法を学ぶ。さらに、地域の社会資源との協働と保健師の役割を理解する。最終的に、公衆衛生看護学実習での学びを通じて、公衆衛生看護の意義、保健師の役割と責務を考える。	共同
専門科目	学科専攻科目	国際看護学	○	諸外国の社会・経済・教育・文化的な背景の相違の理解のもとに、世界の健康問題を外観し、看護の現状・課題について学ぶ。また、開発途上国の人々の主な健康課題と、貧困を基盤とする健康に影響を与える要因について構造的に理解し、国際援助の実際について学ぶ。多文化共生社会における日本の医療の現状や、多様な価値観、看護職に求められる能力について理解する。また、共同学習を取り入れ、保健・医療・福祉の国際比較によって健康格差を理解し、国内外における看護職の役割について考察を深める。	
専門科目	学科専攻科目	災害看護学	○	本科目では、災害における看護の必要性や役割を理解することをテーマとする。具体的には、災害看護の対象者や被災者特性に応じた看護、災害予防と応急処置の方法、トリアージ、災害復旧・復興各期における対策の概要や看護の役割を理解する。災害が被災者・支援者へ及ぼす長期的な影響を理解し、両者の生活やQOL向上に向けての支援について考察できる力を身につける。また、国際的な視野で災害看護を考察できることをめざす。 ICTや共同学習、災害看護実践者（DMAT隊員）の参画などにより災害看護の理解を深める。	
専門科目	学科専攻科目	エンドオブライフケア論	○	（概要）本科目では、エンドオブライフケアを必要とする人々とその家族に対するケアとして、必要な知識・技術・態度を修得する。具体的には、自分も含めた人の死についての考えを内省しながら死生観を養うとともに、死を意識した人々に対する全人的苦痛の緩和や意思決定支援、家族ケアやグリーフ・ビリーブメントケア、多職種によるエンドオブライフケアのあり方について学ぶ。 （オムニバス方式/全8回） （2 濱吉美穂/5回） エンドオブライフケアの概念やスピリチュアルペイン、意思決定支援・ACPについての概念理解を深める。また意思決定支援としてのACP実践を能動的に学ぶ体験を基に、自身の死生観を醸成し、患者の意思決定支援実践力を身につける。 （19 髙岡寿江/3 回） エンドオブライフケアを必要とする人の全人的苦痛についての理解を深め、全人的苦痛への支援について学ぶ。	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	ホリスティックケアアプローチ	○	人を身体（body）、心（mind）と魂（spirit）が統合され、社会や自然環境との調和の中で生きている全体論（holism）としての存在ととらえ、科学的視点をもちつつ「癒しの技」を用いてケアをするホリスティックナーシングについて学ぶ。そして、既習の看護理論、看護技術、統合医療としての補完・代替療法、さらに本学の特徴である仏教看護論をふまえて、ホリスティックナーシングとして実践していくための知識・技術・態度を発展的に学ぶ。 「触れる」ことによって生じる身体変化についてエビデンスを踏まえて理解し、効果的に手を使う方法を習得する。また、対象をケアするとともに、看護師自身もセルフケアできるようホリスティックケアアプローチとしてのリラクセーション法やナーシングマッサージの演習を通して、知識と技術を習得する。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科専攻科目	看護倫理学	○	（概要）看護職者として、医療現場で直面する倫理課題に気づく感性を養い、それを吟味し、実際に取るべき行動を選択してゆくための思考方法を学ぶ。 （オムニバス方式/全8回） （1 藪下八重/1回） 慢性看護領域における倫理課題と看護について学ぶ （2 濱吉美穂/1回） 老年看護学領域における倫理課題と看護について学ぶ （4 小宮敬子/1回） 倫理とは何か、倫理原則について、とるべき行動を選択するための「4分割」「4ステップモデル」「意思決定の10ステップ」について学ぶ （5 田尻后子/1回） 母性看護学領域における倫理課題と看護について学ぶ （10 阿部あかね/2回） 精神看護学領域における倫理課題と看護について学ぶ。また第8回（最終回）は、1事例を取り上げ「4ステップモデル」を用いた具体的な支援の方法を学ぶ。 （14 長谷川由香/1回） 小児看護学領域における倫理課題と看護について学ぶ	オムニバス方式
専門科目	学科専攻科目	看護マネジメント	○	本科目では、看護実践と看護マネジメントの関係を理解することを目的とする。具体的には、マネジメント実践に必要な理論（組織論、リーダーシップ理論など）や看護管理プロセスについて学び、管理的な視点から看護実践を振り返ることが看護の質保証に繋がることを理解する。さらに、看護をめぐる社会の動向や医療などの諸制度を学ぶことで、今日的な課題や社会情勢を看護の役割・機能の視点から分析し、保健医療システムの中で質の高い看護を効果的に提供できることを理解する。	
専門科目	学科専攻科目	看護研究Ⅰ	○	（概要）看護における研究の意義と目的、リサーチクエスチョンの重要性、研究デザインの概要と方法論、看護研究のトピックス、看護研究における倫理的配慮、研究成果の公表の必要性、看護専門職者として研究に関する生涯学習の必要性を理解する。 また、ICT活用による適切な文献検索やクリティークの方法、研究テーマの絞込み、研究計画書の作成、研究倫理審査申請書（模擬）作成、事例研究・学術論文のまとめ方など、一連の研究プロセスを講義と課題学習を通して学ぶ。（オムニバス方式/全15回） （1 藪下八重/７回） 「看護研究とは何か、なぜ学ぶのか」の導入から一連の研究プロセスを学ぶ。 （2 濱吉美穂　1回） 文献クリティークの実践をグループワーク演習する。 （1 藪下八重・2 濱吉美穂・3 安藤千晶・4 小宮敬子・5 田尻后子・6 中島小乃美・7 浜崎優子・9 山本直美・10 阿部あかね・11 鬼頭泰子・12 清水奈穂美・13 田野中恭子・14 長谷川由香・15 利木佐起子・16 阿部慈美・17 岡田朱民・18 駒井和子・19 髙岡寿江・20 趙崇来・21 冨澤理恵・22 早瀬麻子・33末安民生/7回）（共同） 各領域ゼミで研究テーマを絞込み、研究計画書を作成する。	オムニバス方式・共同（一部） 講義　16時間 演習　14時間
専門科目	学科専攻科目	看護研究Ⅱ	○	看護研究Ⅱでは、文献レビューによって精錬した各自のリサーチクエスチョンを明らかにする一連の体験学習を通して、看護研究に取り組む基本的態度および臨床看護実践の質改善と向上に資する基礎的能力を養う。 具体的には、看護研究Ⅰで作成した各自の研究計画書を基に、研究における倫理原則を遵守し、統合実践看護実習等で研究的取り組みや看護を実践する。得られた結果を卒業論文（事例研究や研究レポート）としてまとめ、成果を報告する。	共同
専門科目	学科専攻科目	統合実践看護実習	○	看護学の学習を土台に、学生各自が選定した医療や看護の今日的テーマ・課題を各自の学習課題として明確にし、探求する実践過程を通して、看護実践能力の向上を図る。さらに、保健・医療チームの一員としての行動を心がけ、多職種との連携・協働を含む専門的な実践活動を主体的に学ぶことにより看護観を深め、自己の看護活動の発展の方向を考えるきっかけとする。 学習テーマ・実習計画に応じて実施した看護実践は実践レポートとしてまとめ、その成果を学内で発表する。	共同
専門科目	関連科目	生化学		人間が健康に生きていくためには，全身的恒常性を保つことが大切である。恒常性を維持するため，常に外界との間で物質交換がおこなわれており，それが化学的・物理的法則に基づいて繰り返される様々な化学反応に依存したものであることを，生化学の講義から学ぶ。原子の性質、その結合様式について、また生体分子の構造と化学的性質についての基礎的知識を身につけ、さらに生体触媒である酵素の役割を中心とした生体エネルギー獲得過程と代謝経路，遺伝情報の伝達等について学ぶ。近年は、遺伝子診断が広範に実施され、遺伝子治療や再生医療も臨床応用されようとしている。医療従事者として必要とされる基礎的知識を修得し，あわせて高度先端医療に関わる生命倫理についても理解する。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	関連科目	感染免疫学		種々の新興および再興感染症の流行に対応する必要性から、感染症の原因、およびその対策についての知識の習得は重要である。そこで、ヒトの免疫システムについて生化学的、遺伝学的な面からの講義で学び、感染症の原因となる病原微生物、ウイルスの分類および性質についてその概要を理解する。また、疾患やアレルギー・免疫疾患の近年の傾向を知り、在宅および病院・施設内において発生する感染症疾患やアレルギー・免疫疾患に関する問題を理解する。それらの予防対策と対処方法についても、具体的注意点や他職種との連携の仕方などの講義で学習する。さらにがん治療、移植、再生医療などの先端医療と免疫との関りについても学ぶ。	
専門科目	関連科目	臨床心理学		心理学の基礎的知識を踏まえて、人間理解を深めることを目的に、人の存在を個としてのみでなく、関係性から捉える視点を身につける。またライフステージ（胎生期～死）を縦軸に、様々な領域（医療・福祉・教育・司法・産業）を横軸に心理臨床学的支援の実際を概観し、多職種連携と地域支援という視座の必要性を認識する。 具体的には、心理学の基本的知識の確認とともに、様々な心理的支援（心理検査、心理療法、リラクセーションなど）を学習し、異なる分野（PT,OT,NS)を専攻する受講生による体験を踏まえた意見交換から多職種連携の重要性を学ぶ。	
専門科目	関連科目	看護疫学		看護疫学では、健康と疾病の分布、原因、予防について学ぶ。主な内容には、疫学の歴史と概念、集団の健康状態を把握するための疾病頻度の指標、疫学調査のデザイン、データ収集と解釈の方法、因果関係の立証が含まれる。具体的なテーマとしては、スクリーニングと疾病登録、母子やがん、循環器疾患の疫学、感染症やアウトブレイクの疫学、さらに社会・政策・看護疫学等について学ぶ。授業では公衆衛生の基盤となる疫学の考え方や手法等を修得することにより、科学的な疾病対策等をよりよく理解するとともにその評価についても学ぶ。これにより、看護職としての疫学的視点からの問題解決能力を高め、より効果的な看護や社会の健康問題解決に貢献できるための基礎を身につける。	
専門科目	関連科目	看護教育学	○	生涯教育の観点から基礎教育の意味、現任教育の意味について考え、自己の看護師としてのキャリア教育について理解することを目的とする、まず、看護（学）教育を歴史的観点から看護学教育制度の変遷とその背景について知り、現在の看護学教育に対する社会的ニーズと複雑な看護学教育課程の現状を整理し、今後の課題を明確にするとともに、看護学教育が大学教育を推奨する意義について理解する。また、看護学において、看護基礎教育のみならず、看護専門職の質向上のための継続教育・卒後教育のあり方を考える。これらの学習を通して、看護職としての自己の将来像を描く（キャリアデザイン）き、専門職のキャリア発達について考える。	
専門科目	関連科目	クリティカルケア看護実践	○	クリティカルな状態にある対象への看護場面を想定し、より良い看護を探求する。臨床推論に基づく対象理解と適切な看護実践について検討する。既存のガイドラインを理解した上で、治療優先の環境下においても、対象ニーズの充足や安楽ケアとの共存について考察できる力を身につける。 文献検討、グループワークによる共同学習、ICT、シミュレータ教材活用によりクリティカルケア看護場面を再現し、個別看護を創意工夫する力を身につける。クリティカルケア看護実践者の体験を共有し、看護の現状や多職種連携、臨床判断の実際について理解する。	共同
専門科目	関連科目	臨床推論	○	臨床推論とは、看護師が患者の健康状態を評価し、適切なケアを提供するために行う思考過程のことを指す。看護における臨床推論は、患者の症状や訴え、医療履歴、検査結果などの情報を総合的に分析し、問題を特定し、適切な看護介入を選択するために重要である。臨床推論のプロセスは、情報収集、問題の特定、仮説の立案、介入の計画と実施、そして評価と再評価から構成される。臨床推論は、患者の個別性を尊重しながら、科学的根拠に基づいたケアを提供するための重要なスキルである。本科目では、事例を通じて臨床推論の基礎を学ぶ。そして、患者の症状と診察所見、検査データなどから患者の健康状態を評価して、適切なケアを提供できるようになることを目標とする。	

学校法人佛教教育学園　設置認可等に関わる組織の移行表

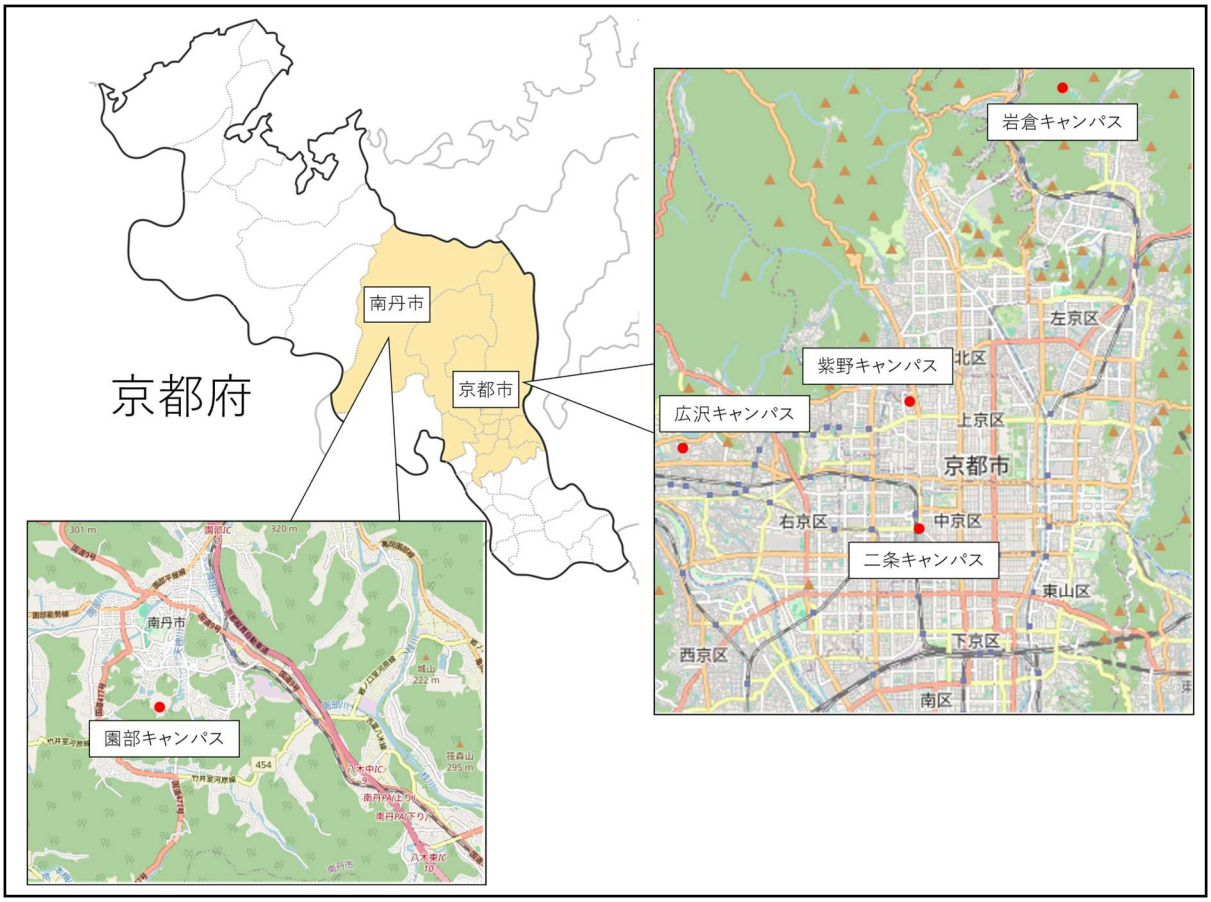
令和7年度	入学定員	編入学定員		収容定員	令和8年度	入学定員	編入学定員		収容定員	変更の事由
佛教大学					佛教大学					
【通学課程】					【通学課程】					
仏教学部					仏教学部					
仏教学科	60		－	240	仏教学科	60		－	240	
文学部					文学部					
日本文学科	120		－	480	日本文学科	120		－	480	
中国学科	50		－	200	中国学科	50		－	200	
英米学科	70		－	280	英米学科	70		－	280	
歴史学部					歴史学部					
歴史学科	110		－	440	歴史学科	110		－	440	
歴史文化学科	70		－	280	歴史文化学科	70		－	280	
教育学部					教育学部					
教育学科	130		－	520	教育学科	130		－	520	
幼児教育学科	80		－	320	幼児教育学科	80		－	320	
臨床心理学科	80		－	320	臨床心理学科	80		－	320	
社会学部					社会学部					
現代社会学科	200		－	800	現代社会学科	200		－	800	
公共政策学科	120		－	480	公共政策学科	120		－	480	
社会福祉学部					社会福祉学部					
社会福祉学科	220		－	880	社会福祉学科	220		－	880	
保健医療技術学部					保健医療技術学部					
理学療法学科	40		－	160	理学療法学科	40		－	160	
作業療法学科	40		－	160	作業療法学科	40		－	160	
看護学科	65		－	260		0		－	0	令和8年4月学生募集停止
					看護学部					
					看護学科	80		－	320	学部の設置（届出）
計	1,455			5,820	計	1,470			5,880	
【通信教育課程】					【通信教育課程】					
仏教学部					仏教学部					
仏教学科	100	3年次	150	700	仏教学科	100	3年次	150	700	
文学部					文学部					
日本文学科	100	3年次	150	700	日本文学科	100	3年次	150	700	
中国学科	50	3年次	50	300	中国学科	50	3年次	50	300	
英米学科	100	3年次	300	1,000	英米学科	100	3年次	300	1,000	
歴史学部					歴史学部					
歴史学科	100	3年次	100	600	歴史学科	100	3年次	100	600	
歴史文化学科	100	3年次	250	900	歴史文化学科	100	3年次	250	900	
教育学部					教育学部					
教育学科	400	3年次	1,000	3,600	教育学科	400	3年次	1,000	3,600	
幼児教育学科	50	2年次	50	550	幼児教育学科	50	2年次	50	550	
		3年次	100				3年次	100		
社会学部					社会学部					
現代社会学科	300	3年次	400	2,000	現代社会学科	300	3年次	400	2,000	
公共政策学科	100	3年次	300	1,000	公共政策学科	100	3年次	300	1,000	
社会福祉学部					社会福祉学部					
社会福祉学科	200	3年次	500	1,800	社会福祉学科	200	3年次	500	1,800	
計	1,600	2年次	50	13,150	計	1,600	2年次	50	13,150	
		3年次	3,300				3年次	3,300		
佛教大学大学院					佛教大学大学院					
【通学課程】					【通学課程】					
文学研究科					文学研究科					
仏教学専攻(M)	10		－	20	仏教学専攻(M)	10		－	20	
仏教学専攻(D)	3		－	9	仏教学専攻(D)	3		－	9	
文学専攻(M)	10		－	20	文学専攻(M)	10		－	20	
文学専攻(D)	3		－	9	文学専攻(D)	3		－	9	
歴史学専攻(M)	10		－	20	歴史学専攻(M)	10		－	20	
歴史学専攻(D)	3		－	9	歴史学専攻(D)	3		－	9	
教育学研究科					教育学研究科					
生涯教育専攻(M)	10		－	20	生涯教育専攻(M)	10		－	20	
生涯教育専攻(D)	3		－	9	生涯教育専攻(D)	3		－	9	
臨床心理学専攻(M)	10		－	20	臨床心理学専攻(M)	10		－	20	
臨床心理学専攻(D)	3		－	9	臨床心理学専攻(D)	3		－	9	
社会学研究科					社会学研究科					
社会学専攻(M)	5		－	10	社会学専攻(M)	5		－	10	
社会学専攻(D)	3		－	9	社会学専攻(D)	3		－	9	
社会福祉学研究科					社会福祉学研究科					
社会福祉学専攻(M)	5		－	10	社会福祉学専攻(M)	5		－	10	
社会福祉学専攻(D)	3		－	9	社会福祉学専攻(D)	3		－	9	
計	81			183	計	81			183	
【通信教育課程】					【通信教育課程】					
文学研究科					文学研究科					
仏教学専攻(M)	15		－	30	仏教学専攻(M)	15		－	30	
仏教学専攻(D)	3		－	9	仏教学専攻(D)	3		－	9	
文学専攻(M)	15		－	30	文学専攻(M)	15		－	30	
歴史学専攻(M)	15		－	30	歴史学専攻(M)	15		－	30	
歴史学専攻(D)	3		－	9	歴史学専攻(D)	3		－	9	
教育学研究科					教育学研究科					
生涯教育専攻(M)	10		－	20	生涯教育専攻(M)	10		－	20	
臨床心理学専攻(M)	6		－	18	臨床心理学専攻(M)	6		－	18	
社会学研究科					社会学研究科					
社会学専攻(M)	10		－	20	社会学専攻(M)	10		－	20	
社会福祉学研究科					社会福祉学研究科					
社会福祉学専攻(M)	10		－	20	社会福祉学専攻(M)	10		－	20	
計	87			186	計	87			186	

学校法人佛教教育学園　設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
京都華頂大学				京都華頂大学				
現代生活学部				現代生活学部				
こども生活学科	50	－	200	こども生活学科	50	－	200	
生活情報学科	30	－	120	生活情報学科	30	－	120	
食物栄養学科	60	－	240	食物栄養学科	60	－	240	
日本文化学部				日本文化学部				
日本文化学科	40	－	160	日本文化学科	40	－	160	
計	180		720	計	180		720	
華頂短期大学				華頂短期大学				
幼児教育学科	120	－	240	幼児教育学科	120	－	240	
計	120		240	計	120		240	

校地校舎等の図面

（１）京都府内における位置関係の図面

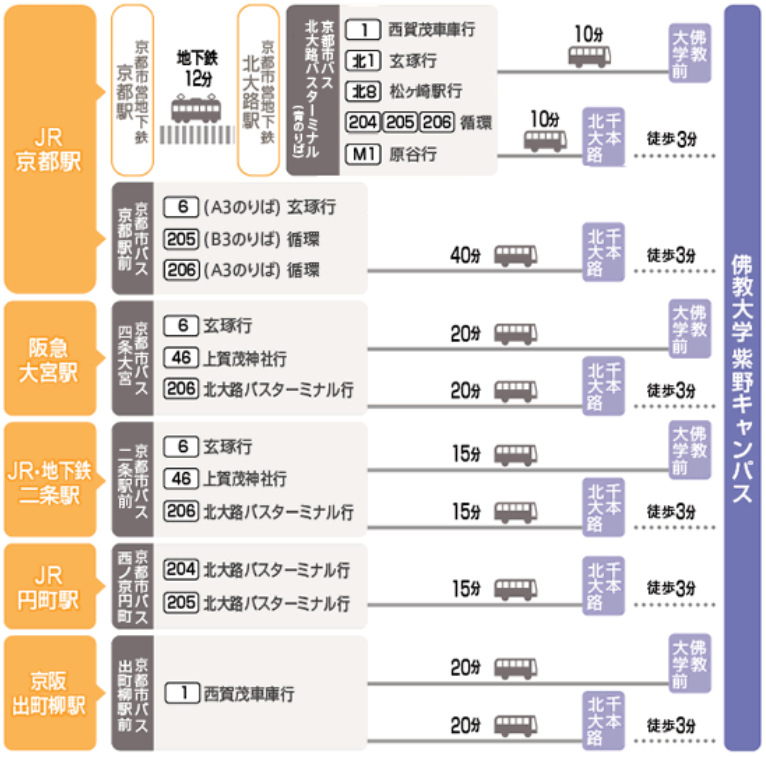


（２）最寄りの駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面

〔紫野キャンパス〕

〒603-8301　京都市北区紫野北花ノ坊町 96

Tel : 075-491-2141（代表）

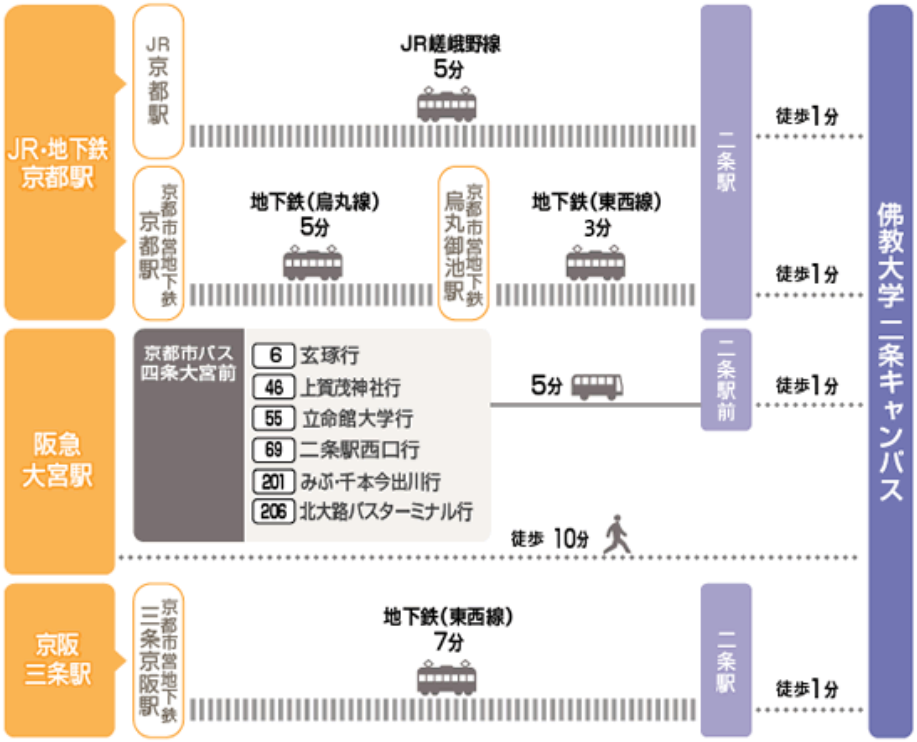


〔二条キャンパス〕

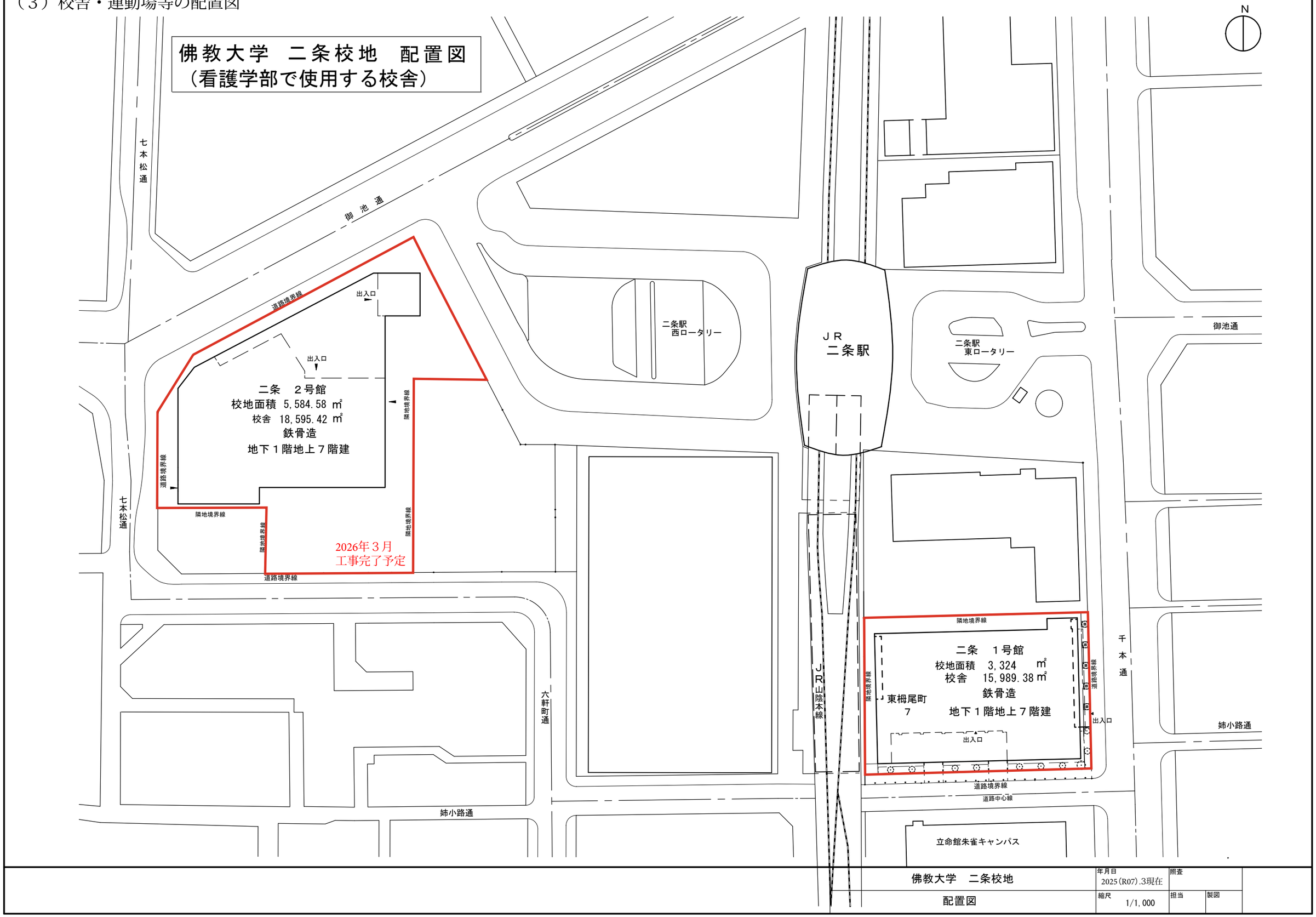
〒604-8418　京都市中京区西ノ京東栂尾町 7

Tel : 075-491-2141（代表）

Tel : 075-366-5660（直通）

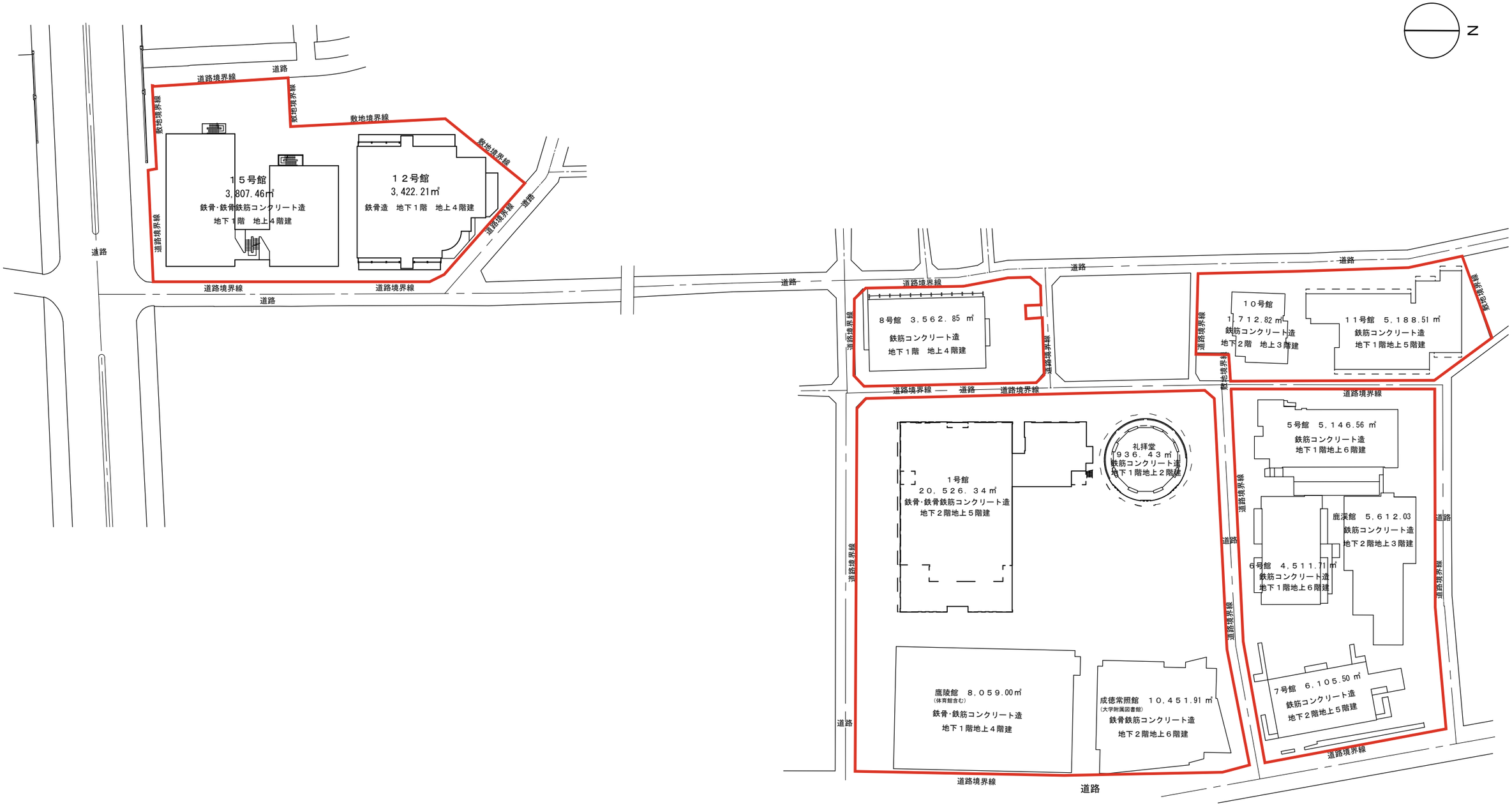


（3）校舎・運動場等の配置図



（3）校舎・運動場等の配置図

佛教大学 紫野校地 全体配置図

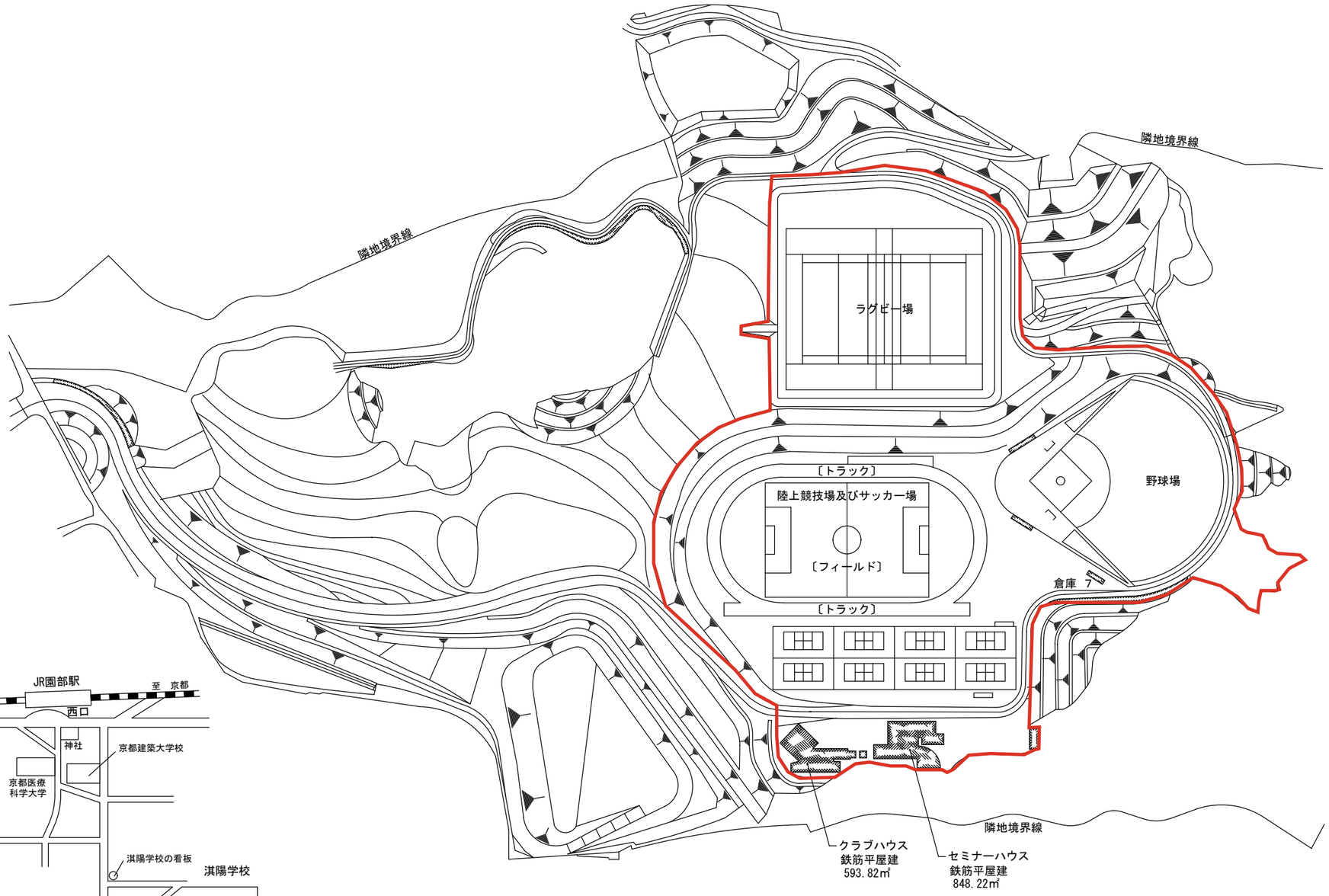


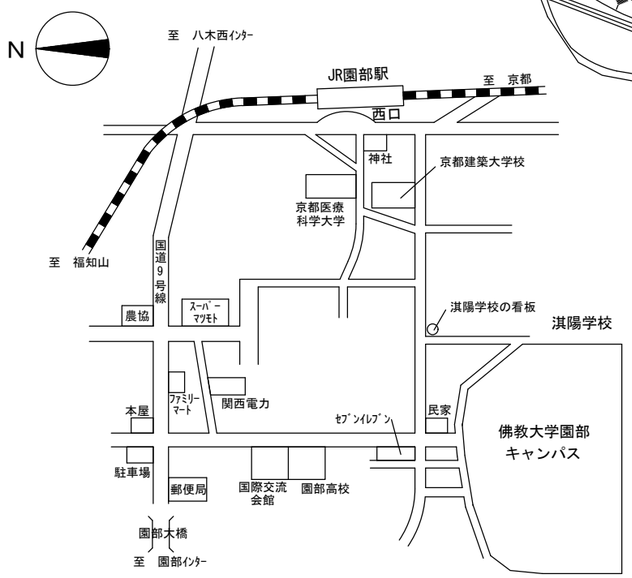
佛教大学　紫野校地所在地　京都市北区紫野北花ノ坊町96番地

佛教大学　紫野校地	年月日	照査		
全体配置図	2025（R7）.3現在	担当	製図	
	縮尺 1/1,500			

（3）校舎・運動場等の配置図

園　部　校　地



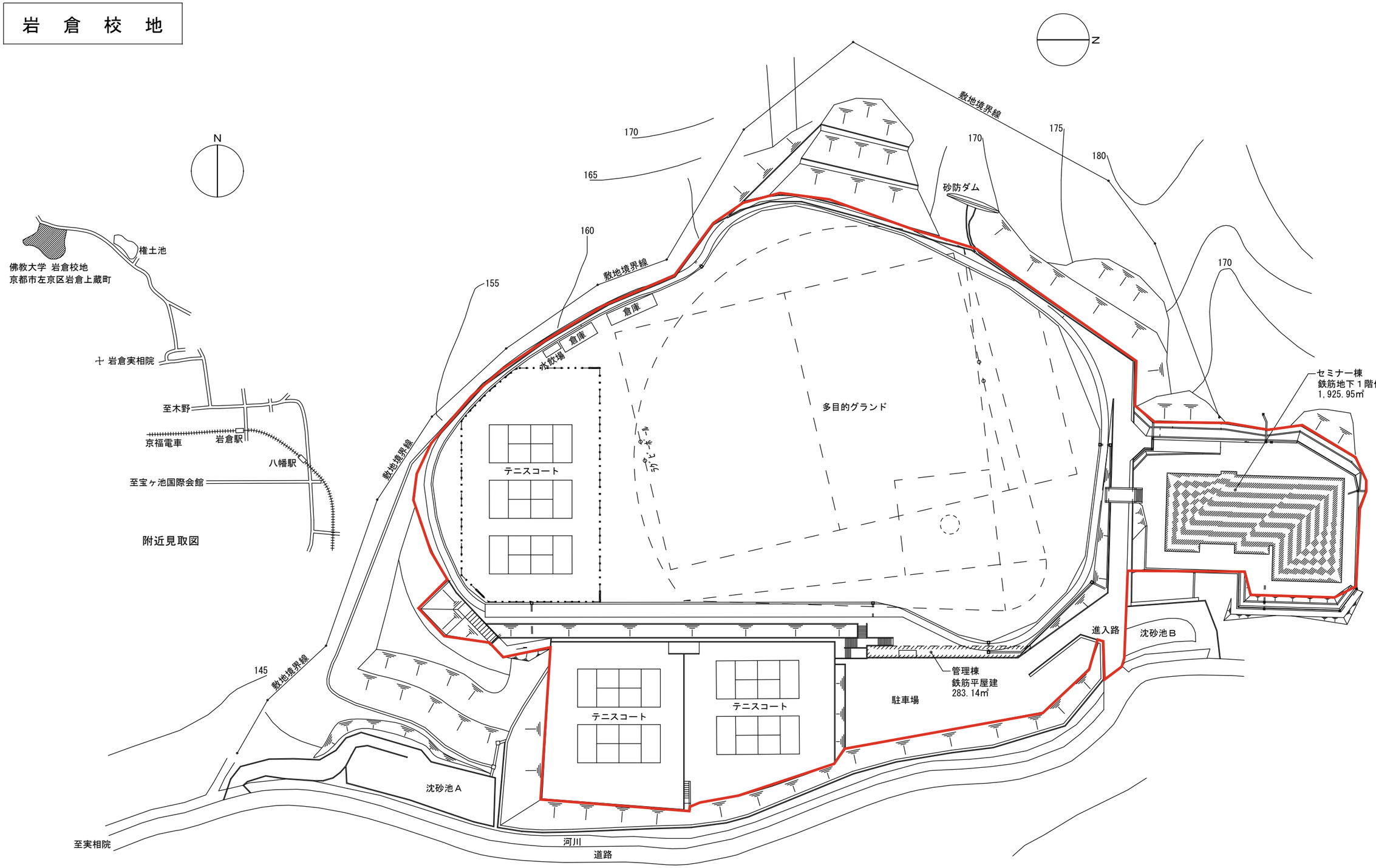


園部校地所在地　京都府南丹市園部町

	佛教大学　園部校地	年月日 2025(R7).3現在	照査	
	配置図　付近見取図	縮尺	担当	製図

（３）校舎・運動場等の配置図

岩　倉　校　地

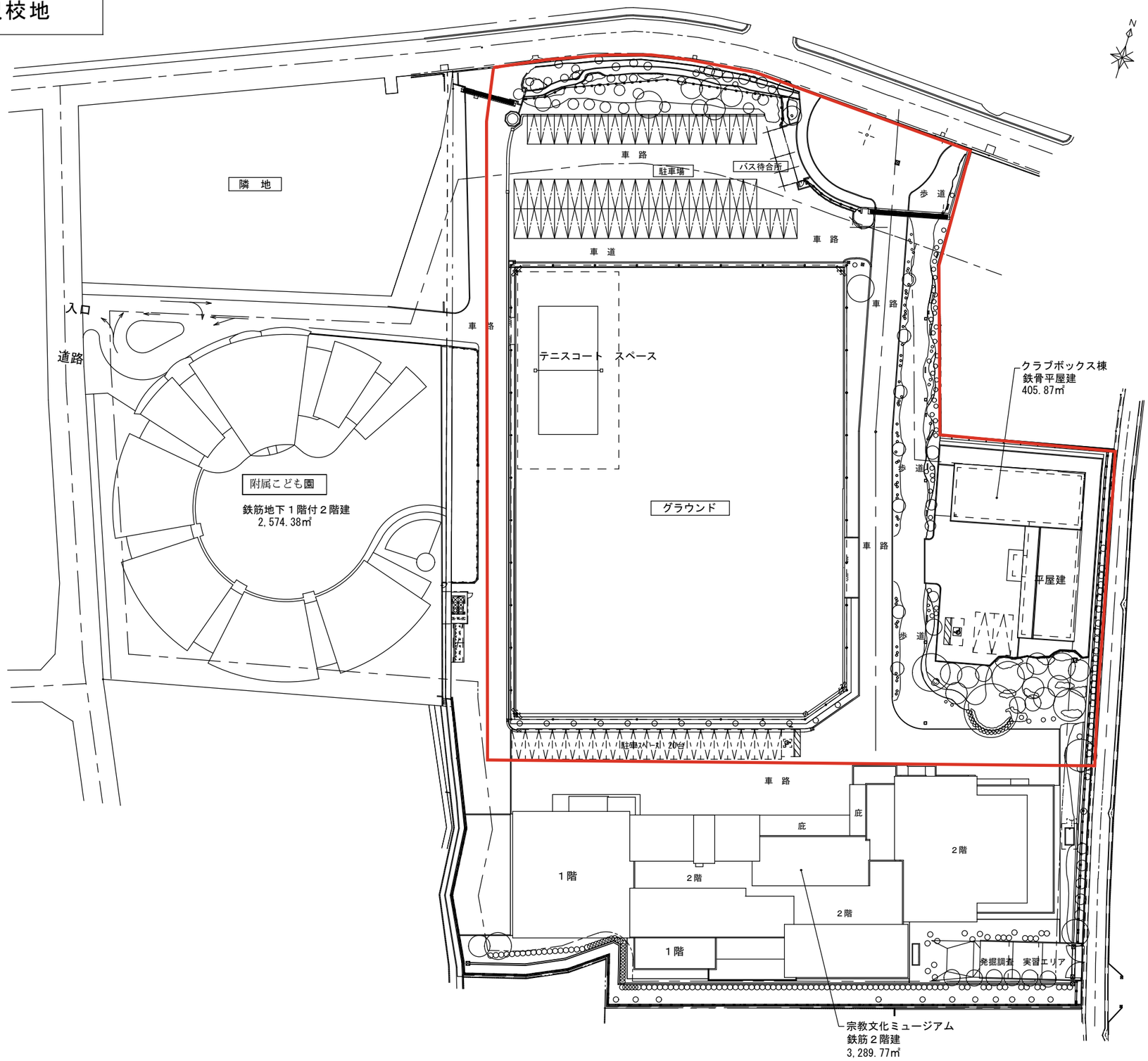


配置図

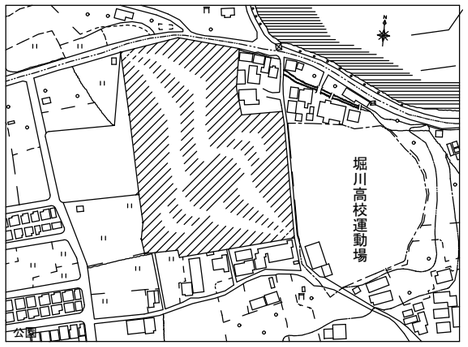
	佛教大学　岩倉校地	年月日 2025(R7).3現在	照査	
	配置図　付近見取図	縮尺	担当	製図

（３）校舎・運動場等の配置図

広沢校地



附近見取図　S=1/2500



配　置　図　　S=1/800

広沢校地所在地　京都市右京区嵯峨西裏町

	佛教大学　広沢校地	年月日 2025（R7）. 3現在	照査	
	配置図	縮尺 1/800	担当	製図

佛 教 大 学 学 則 （案）

第１章　大学の目的使命

第１条　本学は学校教育法（昭和22年法律第26号）に基き，仏教精神により人格識見高邁にして，活動力ある人物の養成を目的とし，世界文化の向上，人類福祉の増進に貢献することを使命とする。

第１条の２　本学は，人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を各学部・学科ごとに定め，公表するものとする。

第１条の３　本学は教育研究の向上を図り，第１条の目的を達成するため，自らの点検・評価を行なう。

２　前項の目的を達成するため，点検・評価の項目，実施体制は，別にこれを定める。

３　前２項の点検・評価の結果について，政令で定める期間ごとに，文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

第２章　学部および学科組織

第２条　本学に仏教学部，文学部，歴史学部，教育学部，社会学部，社会福祉学部，保健医療技術学部および看護学部を置く。

２　仏教学部に仏教学科を置く。

３　文学部に日本文学科，中国学科および英米学科を置く。

４　歴史学部に歴史学科および歴史文化学科を置く。

５　教育学部に教育学科，幼児教育学科および臨床心理学科を置く。

６　社会学部に現代社会学科および公共政策学科を置く。

７　社会福祉学部に社会福祉学科を置く。

８　保健医療技術学部に理学療法学科，作業療法学科を置く。

９　看護学部に看護学科を置く。

第３条　本学に大学院を置く。

２　削除

３　本学に別科（仏教専修）を置く。

４　本学に附属こども園を置く。

５　仏教学部，文学部，歴史学部，教育学部，社会学部，社会福祉学部および大学院に通信教育課程を置く。

６　大学院学則，附属こども園園則ならびに別科（仏教専修）および通信教育課程に関する規程は，別にこれを定める。

第３章　授業科目

第４条　削除

２　削除

３　削除

４　削除

５　本学の授業科目の区分は，共通教養科目および専門科目とする。

６　削除

第４条の２　仏教学部仏教学科，文学部日本文学科，中国学科，英米学科，歴史学部歴史学科，歴史文化学科，教育学部教育学科，幼児教育学科，臨床心理学科，社会学部現代社会学科，公共政策学科，社会福祉学部社会福祉学科の共通教養科目の授業科目，単位および履修方法等を別表第１の５のとおり定める。

２　保健医療技術学部理学療法学科，作業療法学科および看護学部看護学科の共通教養科目の授業科目，単位および履修方法等を別表第１の６のとおり定める。

第５条　削除

２　削除

３　削除

４　削除

第５条の２　仏教学部仏教学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第２の２のとおり定める。

第６条　削除

第７条　削除

第８条　削除

第８条の２　削除
第８条の３　文学部日本文学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第４の３のとおり定める。
第９条　文学部中国学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第５のとおり定める。
第10条　文学部英米学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第６のとおり定める。
第10条の２　歴史学部歴史学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第６の２のとおり定める。
第10条の３　歴史学部歴史文化学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第６の３のとおり定める。
第11条　削除
第12条　教育学部教育学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第７のとおり定める。
第12条の２　教育学部幼児教育学科の専門科目は学部基幹科目,学科基礎科目,学科専攻科目および関連科目とし,その授業科目,単位および履修方法等を別表第7の2のとおり定める。
第13条　削除
第13条の２　教育学部臨床心理学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第８の２のとおり定める。
第14条　削除
第15条　削除
第16条　削除
第16条の２　削除
第16条の３　社会学部現代社会学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第11の３のとおり定める。
第16条の４　社会学部公共政策学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第11の４のとおり定める。
第16条の５　社会福祉学部社会福祉学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第11の５のとおり定める。
第16条の６　保健医療技術学部理学療法学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第11の６のとおり定める。
第16条の７　保健医療技術学部作業療法学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第11の７のとおり定める。
第16条の８　看護学部看護学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第11の８のとおり定める。
第17条　本学において，教育職員免許状の取得資格を得ようとする者は，第30条の規定によるほか，教育職員免許法（昭和24年法律第147号）および教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所定の単位を修得しなければならない。
２　教育職員免許状取得に関わる科目の修得は，別表第12のとおりとする。
第18条　本学の学部学科で取得できる教育職員免許状の種類および教科は次のとおりである。

仏教学部　仏教学科
　中学校教諭１種免許状「社会」「宗教」
　高等学校教諭１種免許状「地理歴史」「公民」「宗教」
文学部　日本文学科
　中学校教諭１種免許状「国語」
　高等学校教諭１種免許状「国語」「書道」
文学部　中国学科
　中学校教諭１種免許状「国語」「中国語」
　高等学校教諭１種免許状「国語」「中国語」
文学部　英米学科
　中学校教諭１種免許状「英語」
　高等学校教諭１種免許状「英語」
歴史学部　歴史学科
　中学校教諭１種免許状「社会」
　高等学校教諭１種免許状「地理歴史」「公民」

歴史学部　歴史文化学科
　中学校教諭１種免許状「社会」
　高等学校教諭１種免許状「地理歴史」「公民」
教育学部　教育学科
　小学校教諭１種免許状
　中学校教諭１種免許状「社会」
　中学校教諭１種免許状「数学」
　高等学校教諭１種免許状「数学」
　特別支援学校教諭１種免許状（知的障害者に関する教育の領域）
　（肢体不自由者に関する教育の領域）
　（病弱者に関する教育の領域）
教育学部　幼児教育学科
　幼稚園教諭１種免許状
教育学部　臨床心理学科
　中学校教諭１種免許状「社会」
　高等学校教諭１種免許状「公民」
社会学部　現代社会学科
　中学校教諭１種免許状「社会」
　高等学校教諭１種免許状「地理歴史」「公民」「情報」
社会学部　公共政策学科
　中学校教諭１種免許状「社会」
　高等学校教諭１種免許状「地理歴史」「公民」
社会福祉学部　社会福祉学科
　中学校教諭１種免許状「社会」
　高等学校教諭１種免許状「地理歴史」「公民」「福祉」

第19条　小学校，中学校および高等学校教諭の普通免許状を有し，別表第13に定める単位を修得した者は，学校図書館法（昭和28年法律第185号）および学校図書館法施行規則（昭和29年文部省令第33号）に基き，学校図書館司書教諭の資格が得られる。

第20条　本学において，第30条の規定によるほか別表第14に定める単位を修得した者は，図書館法（昭和25年法律第118号）および図書館法施行規則（昭和25年文部省令第27号）に基き，図書館司書の資格が得られる。

第21条　本学において，第30条の規定によるほか別表第15に定める単位を修得した者は，社会教育法（昭和24年法律第207号）および社会教育主事講習等規程（昭和26年文部省令第12号）に基き，社会教育主事の資格が得られる。

第22条　本学において，第30条の規定によるほか別表第16に定める単位を修得した者は，博物館法（昭和26年法律第285号）および博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）に基き，博物館学芸員の資格が得られる。

第23条　社会福祉学部社会福祉学科および教育学部幼児教育学科において，第30条の規定によるほか別表第17に定める単位を修得したものは，保育士の資格が得られる。なお，保育士養成課程に関する細則については，別にこれを定める。

第24条　社会福祉学部社会福祉学科において，第30条の規定によるほか別表第18に定める単位を修得した者は，社会福祉士および介護福祉士法（昭和62年法律第30号）第７条第１号の有資格者として社会福祉士試験の受験資格が得られる。

第24条の２　社会福祉学部社会福祉学科において，第30条の規定によるほか別表第18の２に定める単位を修得した者は，精神保健福祉法（平成９年法律第131号）第７条第１号の有資格者として精神保健福祉士試験の受験資格が得られる。

第24条の３　保健医療技術学部理学療法学科において，第30条の規定による所定の単位を修得した者は，理学療法士及び作業療法士法（昭和40年法律第137号）第11条第１号の有資格者として理学療法士国家試験の受験資格が得られる。

第24条の４　保健医療技術学部作業療法学科において，第30条の規定による所定の単位を修得した者は，理学療法士及び作業療法士法（昭和40年法律第137号）第12条第１号の有資格者として作業療法士国家試験の受験資格が得られる。

第24条の５　看護学部看護学科において，第30条の規定による所定の単位を修得した者は，保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）第21条第１号の有資格者として看護師国家試験の受験資格が得られる。

第24条の６　看護学部看護学科において，第30条の規定によるほか別表18の３に定める単位を修得した者は，保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）第19条の有資格者として保健師国家試験の受験資格が得られる。

第25条　本学において，浄土宗教師資格ならびに学階資格，浄土宗開教使資格および浄土宗社会教化主事資格を取得しようとする者の専門科目の修得は，別表第19のとおりとする。

第25条の２　教育学部臨床心理学科における公認心理師法（平成27年法律第68号）に基く公認心理師国家試験の受験資格取得に関する科目を別表第19の２に定める。なお，公認心理師国家試験の受験資格取得に関する細則については，別にこれを定める。

第25条の３　本学において，学校司書の資格を取得しようとする者の専門科目の修得は，別表第19の３のとおりとする。

第25条の４　本学において，社会調査士の資格を取得しようとする者の専門科目の修得は，別表第19の４のとおりとする。

第25条の５　本学において，グローカルプロジェクトマネジャー(GPM)の資格を取得しようとする者の専門科目の修得は，別表19の５のとおりとする。

第25条の６　本学において，レクリエーション・インストラクターの資格を取得しようとする者の専門科目の修得は，別表第19の６のとおりとする。

第25条の７　本学において，レクリエーション・コーディネーター（教育コース）の資格を取得しようとする者の専門科目の修得は，別表第19の７のとおりとする。

第25条の８　本学において，日本語教師の資格を取得しようとする者の専門科目の修得は，別表第19の8のとおりとする。

第25条の９　保健医療技術学部理学療法学科および作業療法学科において，公認初・中級パラスポーツ指導員の資格を取得しようとする者の専門科目の修得は，別表第19の9のとおりとする。

第26条　削除

第４章　履修方法，単位の認定および卒業

第27条　本学の学部修業年限は４年とし，８年を超えて在学することはできない。在学年限を超えた者は退学とする。

第28条　削除

第28条の２　１年間の授業を行なう期間は，35週にわたることを原則とする。

２　各授業科目の授業は，15週にわたる期間を単位として行なうことを原則とする。但し，各学部教授会が教育上特に必要があり，かつ，十分な教育効果をあげることができると認めるときは，この限りではない。

第29条　仏教学部，文学部，歴史学部，教育学部，社会学部，社会福祉学部の授業科目の単位数は，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，次のとおりとする。

(1)　講義，講読および演習については，15時間の授業をもって１単位とする。

(2)　外国語については，30時間の授業をもって１単位とする。

(3)　実習，実験および実技については，30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。

(4)　前各号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は，第３号に規定する基準を考慮し，本学が定める。

２　保健医療技術学部，看護学部の授業科目の単位数は，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，１単位の授業時間数は，講義および外国語については，15時間から30時間，演習については15時間から45時間，実験，実技および実習については，30時間から45時間の範囲とする。なお，１つの授業科目について，講義，外国語，演習，実験，実技および実習を併用する場合については，前項第４号を準用する。

３　文部科学大臣が別に定めるところにより，前各項の授業を，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行なう教室等以外の場所で履修させることができる。

４　第１項および第２項の授業を，外国において履修させることができる。前項の規定により，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても，同様とする。

５　第１項および第２項の規定にかかわらず，卒業論文等については，これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

第29条の２　本学は，学生に対して，授業の方法および内容ならびに学期間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2　本学は，学修の成果に係る評価および卒業の認定にあたっては，客観性および厳格性を確保するため，学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに，当該基準にしたがって適切に行なうものとする。

第30条　各学部学科の学生は，第４条の２から第16条の８までの規定に従って，合計124単位以上を履修しなければならない。

2　各学年，学期における履修登録単位数の上限を22単位とし，年間の履修登録単位数の上限は44単位とする。

なお，保健医療技術学部，看護学部は，各学年，学期における履修登録単位数の上限を 26 単位とし，年間の履修登録単位数の上限は 50 単位とする。

第30条の２　各学部教授会が教育上有益と認めるときは，他学科固有の専門科目を当該学科の専門科目として履修させることができる。

2　削除

第30条の３　各学部教授会が教育上有益と認めるときは，本学の通信教育の課程または，他の大学もしくは短期大学との協議に基き，学生にその授業科目を履修させることができる。

2　前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は，各学部教授会の議に基き60単位を限度として，本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

3　前２項の規定は，学生が外国の大学等に留学する場合に準用する。この場合，認定することのできる単位数は，前項の単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

4　前３項の実施に関して必要な事項については，別にこれを定める。

第31条　第17条から第24条の２および第25条，第25条の３から第25条の７までの資格を得るための単位履修は，４ケ年の在学期間中においては，その中の２資格を得るための単位しか履修できない。

第32条　単位認定は，試験その他の大学が定める適切な方法により学修の成果を評価し行なう。

2　前項の規定にかかわらず，集中講義の単位認定は，当該年度の３月末とする。

3　卒業論文等の審査方法等については，別にこれを定める。

第33条　授業科目の成績は100点を満点とし，60点以上を合格とする。

第34条　定期の期末試験に欠席した者には，本人の願い出により，各学部教授会が欠席の理由を正当と認めた場合，追試験を行なうことがある。

第35条　本学学部に４年以上在学し，第30条，第30条の２，第30条の３および第32条の定めるところにより所定の単位を修得した者は卒業とし，卒業証書を授与する。

2　卒業の時期は，３月または９月の年２回とする。

第36条　本学学部を卒業した者は，別に定める佛教大学学位規程により，学士の学位を授与することができる。

第５章　学年，学期および休業日

第37条　学年は，４月１日に始まり翌年３月31日に終わる。

第38条　学年を分けて，春学期および秋学期の２学期とする。

春学期　４月１日から９月19日まで

秋学期　９月20日から翌年３月31日まで

第39条　休業日を次のとおり定める。但し，休業日でも実習その他の授業を課すことがある。

(1)　日曜日
(2)　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
(3)　創立記念日（10月23日）
(4)　夏期休業日　８月６日から８月31日まで
(5)　冬期休業日　12月26日から１月５日まで
(6)　春期休業日　３月19日から３月26日まで

2　学長は大学評議会の議を経て休業日を変更し，または臨時に休業日を定めることができる。

第６章　入学，退学，休学，復学，転学および転科

第40条　入学の時期は，学年の始めとする。但し，教育上支障がないときは，秋学期の始めに入学させることができる。

第41条　本学の学生定員を次のとおり定める。

学部	学科	学生定員		
		入学定員	編入学定員	収容定員
仏教学部	仏教学科	60名		240名

文学部	日本文学科	120名		480名
	中国学科	50名		200名
	英米学科	70名		280名
歴史学部	歴史学科	110名		440名
	歴史文化学科	70名		280名
教育学部	教育学科	130名		520名
	幼児教育学科	80名		320名
	臨床心理学科	80名		320名
社会学部	現代社会学科	200名		800名
	公共政策学科	120名		480名
社会福祉学部	社会福祉学科	220名		880名
保健医療技術学部	理学療法学科	40名		160名
	作業療法学科	40名		160名
看護学部	看護学科	80名		320名
合計		1,470名		5,880名

2　社会福祉学部社会福祉学科および教育学部幼児教育学科に保育士養成課程を設置する。なお，保育士養成課程に関する細則は，別にこれを定める。

第42条　本学に入学することのできる者は，次の各号の一に該当する者でなければならない。

(1)　高等学校もしくは中等教育学校卒業者

(2)　通常の課程による12年の学校教育を修了した者および通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者

(3)　外国において，学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5)　文部科学大臣の指定した者

(6)　高等学校卒業程度認定試験（平成17年文部科学省令第１号）に合格した者（旧課程による大学入学資格検定（昭和26年文部省令第13号）に合格した者を含む。）

(7)　大学において，相当の年齢に達し，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

第43条　入学は選考のうえ，これを許可する。

2　選考は，学力試験および出身学校長から提出される調査書等必要書類または出身学校長から提出される調査書等必要書類によるものとする。

第44条　入学志願者は，本学所定の入学願書および出身学校長から提出される調査書等必要書類を入学検定料とともに，指定期日までに本学学長宛に提出しなければならない。

第45条　入学を許可された者は，所定の誓約証書（保証人連署）を指定期日までに提出し，入学宣誓式に出席のうえ，入学宣誓をしなければならない。理由なく無届で入学宣誓式を欠席した者は入学許可を取り消す。

第46条　やむを得ない事由により，休学または退学を希望する者は，その事由を明記し，学長に願い出て許可を得なければならない。

2　休学は，所定の手続期間内に願い出なければならない。

第47条　休学または退学を願い出る場合は，学費または在籍料の納入その他の義務を完了しなければならない。

第48条　休学した者は，翌学期または翌年度，原学年次に復学するものとする。

2　その他，学籍異動に関しては，別に定める。

第49条　次の各号の一に該当する者で本学への編入学を志望する者については選考のうえ，別に定めるところにより相当年次に入学を許可することがある。但し，仏教学部仏教学科，文学部英米学科，歴史学部歴史学科，教育学部教育学科，臨床心理学科，社会福祉学部社会福祉学科については入学年次を３年次とする。また，現に他の大学に在籍する者については，その学長の許可を得ていなければならない。

(1)　大学を卒業した者

(2)　大学を中途退学（第１学年または第２学年を修了）した者
(3)　短期大学，高等専門学校，国立工業教員養成所または国立養護教諭養成所を卒業した者
(4)　専修学校の専門課程（修業年限が２年以上であること，その他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る）を修了した者
(5)　学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第92条の３に定める従前の規程による高等学校，専門学校または教員養成諸学校等の課程を修了し，または卒業した者
(6)　文部科学省令によって大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

２　大学を卒業し編入学を希望する本学の学部学科の科目を32単位以上履修している者が，編入学を志望し選考のうえ入学が許可された場合の入学年次は４年次とすることができる。

３　編入学が許可された者の入学前の既修得単位については，教育上有益と認められる場合，本学において修得したものとして認定することができる。

４　単位の認定方法については，別にこれを定める。

第49条の２　大学または短期大学（外国の大学等を含む）を卒業または中途退学した者で，新たに本学の第１年次に入学した学生が当該卒業または中途退学した大学または短期大学において既に修得した単位については，各学部教授会が教育上有益と認めるとき，別に定めるところにより30単位を限度に卒業所要単位として認定することができる。但し，在学年数は短縮しない。

２　本学の第１年次に入学した学生が，本学の科目履修生として既に修得した単位については，別に定めるところにより卒業所要単位として認定することができる。但し，在学年数は短縮しない。

第50条　学生が他の大学に転学しようとするときは，事由を附して学長に願い出て許可を得なければならない。

第51条　在籍する学科から他の学部・学科に転部・転科を志望する者は，選考のうえ許可することがある。

第７章　学費

第52条　入学志願者は入学検定料を，入学を許可された者は入学金その他必要な納付金を別表第21に定めるとおり納めなければならない。編入学および再入学の場合もこれに準ずる。

第53条　授業料等学費の種類および金額は，別表第22のとおり定める。なお，学費は指定された期日までに納入しなければならない。

２　前項のほか，教育後援会費，同窓会費等および教育実習，保育士実習等を履修する者は，別に定めるところにより諸費用を納入しなければならない。

第54条　休学中の学費は，徴収しない。但し，在籍料を納めなければならない。

２　いったん納めた学費等は，返還しない。

第55条　学費または在籍料を納入せず，督促してもなお納付しない者は除籍する。但し，除籍された者は，除籍年度内の学期ごとに定められた復籍手続期間内に復籍を願い出ることができる。なお，除籍年度内の復籍手続期間を超えて願い出る場合は，所定の手続期間内に再入学を願い出ることができる。

第８章　教職員組織および学部教授会，学部教育課程委員会，大学評議会

第56条　本学に学長，副学長および学部長を置く。

第57条　本学に専任の教育職員（教授・准教授・講師および助教），事務職員（事務員・技能員・医務員および用務員）および学医を置く。

２　前項以外に，契約講師等を置くことができる。

３　事務組織に関する規程は，別にこれを定める。

第58条　授業科目は，その学科ごとに基幹教員がこれを担当することを原則とする。但し，基幹教員以外の教員が担当することがある。

第59条　各学部に，教授会および教育課程委員会を置く。

２　各学部教授会は，当該学部に所属する専任の教授，准教授および講師をもって構成する。

３　各学部教授会は学部長がこれを招集し，学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
(1)　学生の入学，卒業および課程の修了に関する事項
(2)　学位の授与に関する事項
(3)　前二号に掲げるもののほか，教育研究に関する重要な事項で，教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

４　各学部教授会は，前項に規定するもののほか，学長等がつかさどる次に掲げる教育研究に関する事項について審議し，学長等の求めに応じ，意見を述べることができる。
(1)　教育課程に関する事項
(2)　学生の退学，休学，復学，留学，転学，転部・転科および転籍等の学籍異動に関する事項

(3)　学生の試験および成績の判定に関する事項
(4)　学生の生活指導および援助に関する事項
(5)　専任教員の人事に関する事項
(6)　学生の賞罰に関する事項
(7)　学部諸規程の改廃に関する事項
(8)　大学の諸規程において，学部教授会の議を経ることを必要と定められた事項
(9)　その他，学部の教育，研究および運営に関する重要な事項

5　学部教授会の構成および運営に関する事項については，別にこれを定める。
6　各学部教育課程委員会は，当該学部に教育課程に責任を持つ基幹教員をもって構成する。
7　各学部教育課程委員会は，学部長がこれを招集し，学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
8　学部教育課程委員会の構成および運営に関する事項については，別にこれを定める。

第60条　本学の事務遂行に関する事項を審議するために部局長会を設ける。

第61条　本学の運営に関する重要な事項を審議するために大学評議会を設ける。

2　大学評議会は学長がこれを招集し，次の事項について審議する。
(1)　大学全体の基本的な事項
(2)　学則の改正および学内諸規程の制定改廃に関する事項
(3)　学部，学科等教育組織の設置および廃止に関する事項
(4)　教職員の人事枠に関する事項
(5)　学長からの諮問事項
(6)　学部，その他学内諸機関との連絡調整に関する事項
(7)　大学の中・長期的な展望に関する事項
(8)　学長選挙に関する事項
(9)　名誉教授，名誉博士の授与に関する事項
(10)　その他，大学運営に関する重要な事項

3　大学評議会の構成員および運営については，別にこれを定める。

第61条の２　本学は，授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究を実施するものとする。

第９章　附属施設および公開講座

第62条　本学に次の附属施設・附置機関を置く。
(1)　附属図書館
(2)　高大連携センター
(3)　宗教教育センター（宗門後継者養成道場含む）
(4)　健康管理センター
(5)　学生相談センター
(6)　学生支援センター
(7)　教職支援センター
(8)　専門職キャリアサポートセンター
(9)　国際交流センター
(10)　法然仏教学研究センター
(11)　総合研究所
(12)　臨床心理学研究センター
(13)　宗教文化ミュージアム
(14)　社会連携センター
(15)　オープンラーニングセンター
(16)　人権教育センター

2　前項附属施設・附置機関に関する規程については，別にこれを定める。

第63条　各学部教授会で必要と認めたときは，公開講座を開設する。

第10章　科目履修生，特別科目履修生，外国人留学生および外国人特別生

第64条　１授業科目または数授業科目を選択して履修することを志願する者があるときは，学生の修業を妨げない限り，選考のうえ科目履修生として履修を許可することがある。

2　科目履修生としての在学年数は，第27条に規定する在学年数として換算することはできない。

3　科目履修生に関する規程については，別にこれを定める。

第64条の２　他の大学の学生で，本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは，当該他大学との協議に基き，特別科目履修生として履修を許可することができる。
２　特別科目履修生に関する規程については，別にこれを定める。
第65条　削除
第66条　削除
第67条　削除
第68条　削除
第69条　削除
第70条　削除
第71条　外国人で，本学において教育を受けることを目的とし，第42条の規定により入学を志願する者があるときは，選考のうえ，外国人留学生として入学を許可する。外国人留学生の規程については，別にこれを定める。
２　第42条に規定する入学資格のない外国人で当該外国公館の推薦のある者は，選考のうえ，外国人特別生として入学を許可することができる。
第72条　削除
第73条　外国人特別生で所定の課程を修了した者には修了証書を授与する。
第74条　外国人留学生および外国人特別生については，本章に規定するもののほか，本学則の他の各条項を準用する。

第11章　寄宿寮および保健施設

第75条　本学に寄宿寮を設け，本学の教育方針に従い特別の訓育をほどこす。
２　寄宿寮には寮監を置き寮の指導運営にあたる。
第76条　教職員および学生の健康増進をはかるために毎年定期検診を行ない，必要に応じ随時検診等を行なう。
第77条　本学に健康管理センターを設け，教職員および学生の健康管理を行なう。

第12章　賞罰

第78条　操行淳良，成績優秀な者には，当該学部教授会の議を経て，学長が褒状を授与する。
第79条　学生が本学の学則および諸規程に背き，学生の本分に反し，懲戒を要すると認められるときは，各学部教授会の議を経て学長がこれを懲戒する。
２　懲戒は，訓戒，謹慎，停学および退学とする。
第80条　前条に規定する退学は，次の事項に該当する者について行なう。
(1)　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
(2)　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
(3)　正当の理由なくして出席正常でない者
(4)　大学の秩序を乱し，その他学生としての本分に反した者
第81条　懲戒処分を受けた者で，謹慎，悔悟の実が認められた場合は，当該学部教授会の議を経て学長がその処分を軽減または免除することがある。

附　則

第１条　本学則は，昭和24年４月１日から施行する。
第２条　本学則は，昭和26年７月25日から改正施行する。
第３条　本学則は，昭和28年４月１日から改正施行する。
第４条　本学則は，昭和29年４月１日から改正施行する。
第５条　本学則は，昭和32年４月１日から改正施行する。但し，昭和29年度・昭和30年度入学者は年額14,000円とする。
第６条　本学則は，昭和34年４月１日から改正施行する。但し，昭和34年度以前の入学者は年額15,000円とする。
第７条　本学則は，昭和36年４月１日から改正施行する。但し，昭和35年度以前の入学者については，第33条の授業料の金額を準用しない。
第８条　本学則は，昭和38年４月１日から改正施行する。但し，昭和37年度以前の入学者は第39条の授業料の金額を準用しない。
第９条　本学則は，昭和39年４月１日から改正施行する。但し，昭和38年度以前の入学者は第39条の授業料の金額を準用しない。

第10条　本学則は，昭和40年４月１日から改正施行する。但し，昭和39年度以前の入学者は第38条の授業料の金額を準用しない。
第11条　本学則は，昭和41年４月１日から改正施行する。
第12条　本学則は，昭和42年４月１日から改正施行する。
第13条　本学則は，昭和43年４月１日から改正施行する。
第14条　本学則は，昭和44年４月１日から改正施行する。
第15条　本学則は，昭和45年４月１日から改正施行する。
第16条　本学則は，昭和46年４月１日から改正施行する。
第17条　本学則は，昭和47年４月１日から改正施行する。
第18条　本学則は，昭和48年４月１日から改正施行する。
第19条　本学則は，昭和49年４月１日から改正施行する。
第20条　本学則は，昭和50年４月１日から改正施行する。
第21条　本学則は，昭和51年４月１日から改正施行する。
第22条　本学則は，昭和52年４月１日から改正施行する。
第23条　本学則は，昭和53年４月１日から改正施行する。但し，昭和52年度以前の入学者は第48条の学費の金額を準用しない。
第24条　本学則は，昭和54年４月１日から改正施行する。
第25条　本学則は，昭和55年４月１日から改正施行する。
第26条　本学則は，昭和56年４月１日から改正施行する。但し，昭和55年度以前の入学者は第48条の学費の金額を準用しない。
第27条　本学則は，昭和57年４月１日から改正施行する。但し，昭和55年度以前の入学者は第48条の学費の金額を準用しない。なお，復学者についてはこの限りでない。
第28条　本学則は，昭和58年４月１日から改正施行する。但し，昭和55年度以前の入学者は第48条の学費の金額を準用しない。なお，復学者についてはこの限りでない。
第29条　本学則は，昭和59年４月１日から改正施行する。但し，昭和55年度以前の入学者は第48条の学費の金額を準用しない。なお，復学者についてはこの限りでない。
第30条　本学則は，昭和60年４月１日から改正施行する。但し，昭和55年度以前の入学者は第48条の学費の金額を準用しない。なお，復学者についてはこの限りでない。
第31条　本学則は，昭和61年４月１日から改正施行する。但し，昭和55年度以前の入学者は第50条の学費の金額を準用しない。なお，復学者についてはこの限りでない。但し，第38条の規定にかかわらず，昭和61年度から昭和71年度までの間の入学定員は次のとおりとする。

学部・学科		入学定員
文　学　部	仏　教　学　科	150名
	史　　学　　科	150名
	国　文　学　科	120名
	英　文　学　科	90名
	教　育　学　科	130名
社　会　学　部	社会福祉学科	200名
	社　会　学　科	270名

第32条　本学則は，昭和62年４月１日から改正施行する。但し，昭和55年度以前の入学者は第50条の学費の金額を準用しない。なお，復学者についてはこの限りでない。
第33条　本学則は，昭和63年４月１日から改正施行する。但し，昭和55年度以前の入学者は第51条の学費の金額を準用しない。なお，復学者についてはこの限りでない。
第34条　本学則は，平成元年４月１日から改正施行する。但し，昭和55年度以前の入学者は第53条の学費の金額を準用しない。なお，復学者についてはこの限りでない。文学部教育学科は平成元年４月から学生募集を停止し，在学生の卒業をもって廃止する。第41条ならびに附則第31条の規定にかかわらず，平成元年度から平成８年度までの間，教育学部教育学科，社会学部社会学科・社会福祉学科の入学定員を次のとおりとする。

学部	学科	入学定員
教　育　学　部	教　育　学　科	80名
社　会　学　部	社　会　学　科	200名
	社会福祉学科	170名

第35条　本学則は，平成２年４月１日から改正施行する。

第36条　本学則は，平成３年４月１日から改正施行する。但し，高等学校教諭１種免許状「地理歴史」「公民」については平成２年度入学者から適用する。なお，第41条の規定にかかわらず，文学部中国文学科，教育学部生涯学習学科ならびに社会学部応用社会学科の平成３年度から平成11年度までの間の入学定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員
文　学　部	中国文学科	60名
教育学部	生涯学習学科	80名
社会学部	応用社会学科	140名

第37条　本学則は，平成４年４月１日から改正施行する。但し，平成３年度以前の入学者については，第23条の規定にかかわらず従前の規定とする。

第38条　本学則は，平成５年４月１日から改正施行する。なお，平成５年４月１日をもって第５条から第16条に定める教育課程に全学年一斉に移行する。平成４年度以前入学者に対する移行・経過措置については，別にこれを定める。

第39条　本学則は，平成６年４月１日から改正施行する。

第40条　本学則は，平成７年４月１日から改正施行する。

第41条　本学則は，平成８年２月１日から改正施行する。

第42条　本学則は，平成８年４月１日から改正施行する。

第43条　本学則は，平成９年４月１日から改正施行する。なお，第41条の規定にかかわらず，平成９年度から平成11年度までの間，文学部仏教学科・史学科・国文学科・英文学科，教育学部教育学科，社会学部社会学科・社会福祉学科の入学定員を次のとおりとする。また，平成８年度以前の入学者については，第８条および第10条の規定にかかわらず従前の規定とする。第５条，第20条，第21条および第22条に定める教育課程における平成８年度以前の入学者に対する移行･経過措置については,別にこれを定める。

学部	学科	入学定員
文　学　部	仏教学科	150名
	史学科	150名
	国文学科	120名
	英文学科	90名
教育学部	教育学科	80名
社会学部	社会学科	200名
	社会福祉学科	170名

第44条　本学則は，平成９年10月15日から改正施行する。

第45条　本学則は，平成10年４月１日から改正施行する。

第46条　本学則は，平成11年４月１日より改正施行する。なお，教育学部社会教育学科は，改正後の第２条第３項の規定にかかわらず，平成11年３月31日に当該学部・学科に在学する者が当該学部・学科に在学しなくなる日までの間，存続するものとする。

第47条　本学則は，平成12年４月１日から改正施行する。なお，平成12年度から平成15年度までの間，文学部仏教学科・史学科・日本語日本文学科・中国語中国文学科・英語英米文学科，教育学部教育学科・生涯学習学科，社会学部社会学科・応用社会学科・社会福祉学科の入学定員は次のとおりとする。また，平成11年度以前の入学者については，第６条，第８条，第９条，第10条，第12条，第13条，第14条，第16条，第17条，第19条および第24条の２の規定にかかわらず従前の規定とする。但し，第24条の２の社会学部社会福祉学科は，平成12年度以降入学者は適用しない。

学部	学科	入学定員			
		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
文学部	仏教学科	146名	142名	138名	134名
	史学科	148名	146名	144名	142名
	日本語日本文学科	116名	112名	108名	104名
	中国語中国文学科	58名	56名	54名	52名
	英語英米文学科	86名	82名	78名	74名

教育学部	教育学科	78名	76名	74名	72名
	生涯学習学科	76名	72名	68名	64名
社会学部	社会学科	198名	196名	194名	192名
	応用社会学科	138名	136名	134名	132名
	社会福祉学科	160名	150名	140名	130名

第48条　本学則は，平成13年４月１日から改正施行する。なお，文学部国文学科・中国文学科・英文学科は，改正後の第２条第２項の規定にかかわらず平成13年３月31日に当該学部・学科に在学する者が当該学部・学科に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。また，第18条の教育職員免許状の教科「情報」と「福祉」は，平成12年度第１学年次入学者から適用し，この教科に関する科目は平成13年度から開講する。

第49条　本学則は，平成14年４月１日から改正施行する。但し，平成14年３月31日以前に入学した者については，なお従前の規定による。

第50条　本学則は，平成15年４月１日から改正施行する。但し，平成15年３月31日以前に入学した者については，なお従前の規定による。

第51条　本学則は，平成16年４月１日から改正施行する。但し，平成16年３月31日以前に入学した者については，なお従前の規定による。また，文学部仏教学科，史学科，日本語日本文学科，教育学部生涯学習学科，社会学部社会学科，応用社会学科，社会福祉学科および健康福祉学科は，平成16年４月第１学年次入学者より学生募集を停止し，在学生の卒業をもって廃止する。

なお，文学部中国語中国文学科，英語英米文学科は，改正後の第２条第２項の規定にかかわらず平成16年３月31日に当該学部・学科に在学する者が当該学部・学科に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

第52条　本学則は，平成17年４月１日から改正施行する。但し，教育学部教育学科で取得できる中学校，高等学校教諭１種免許状「数学」に関わる科目については，平成17年度から開講し，平成16年度第１学年次入学者から履修できるものとする。

第53条　本学則は，平成18年４月１日から改正施行する。

第54条　本学則は，平成19年４月１日から改正施行する。但し，第18条に規定する特別支援学校教諭一種免許状については，平成19年度第１学年次入学者から適用し，平成18年度以前入学者は，従前の規定による。また，第25条に規定する浄土宗教師資格ならびに学階資格に係わる別表第19については，平成18年度第１年次入学者から適用し，平成17年度以前入学者は従前の規定による。

第55条　本学則は，平成20年４月１日から改正施行する。

第56条　本学則は，平成21年４月１日から改正施行する。

第57条　本学則は，平成22年４月１日から改正施行する。但し，平成22年３月31日以前に入学した者については，なお従前の規定による。

また，文学部人文学科は，平成22年４月第１学年次入学者より学生募集を停止し，在学生の卒業をもって廃止する。

第58条　本学則は，平成23年４月１日から改正施行する。但し，第13条の２に規定する教育学部臨床心理学科に係わる別表第８の２，第24条の２に規定する精神保健福祉士試験の受験資格に係わる別表第18の２，第25条の規定する浄土宗教師資格ならびに学階資格に係わる別表第19については，平成22年度第１学年次入学者から適用し，平成21年度以前入学者は従前の規定による。

第59条　本学則は，平成24年４月１日から改正施行する。但し，平成24年３月31日以前に入学した者については，なお従前の規定による。また，第12条に規定する教育学部教育学科に係わる別表７については平成23年度第１学年次入学者から適用し，平成22年度以前入学者は従前の規定による。

第60条　本学則は，平成25年４月１日から改正施行する。但し，第16条の４に規定する社会学部公共政策学科に係わる別表第11の４については，平成23年度第１学年次入学者から適用し，平成22年度以前入学者は従前の規定による。

第61条　本学則は，平成26年４月１日から改正施行する。但し，平成26年３月31日以前に入学した者については，従前の規定による。また，第16条の８に規定する保健医療技術学部看護学科に係わる別表11の８については平成24年度第１学年次入学者から適用する。

第62条　本学則は，平成27年４月１日から改正施行する。

第63条　本学則は，平成28年４月１日から改正施行する。

第64条　本学則は，平成29年４月１日から改正施行する。

第65条　本学則は，平成30年４月１日から改正施行する。

第66条　本学則は，平成31年４月１日から改正施行する。但し，平成31年３月31日以前に入学した者については，なお従前の規定による。

第67条　本学則は，令和２年４月１日から改正施行する。但し，令和２年３月31日以前に入学した者については，従前の規定による。
なお，第52条，第53条の１に規定する入学金ならびに授業料に係わる別表第21，別表第22については，令和２年度第１学年次入学から適用し，平成31年度以前入学者は，従前の規定による。

第68条　本学則は，令和３年４月１日から改正施行する。但し，第16条の５に規定する社会福祉学部社会福祉学科に係わる別表11の５，第24条に規定する社会福祉士国家試験受験資格に係わる別表18，第24条の２に規定する精神保健福祉士国家試験受験資格に係わる別表第18の２については，令和３年度第１学年次入学者から適用し，令和２年度以前入学者は従前の規定による。また，第47条，第54条および第55条に規定する在籍料の納付は令和４年４月１日休学者から適用する。

第69条　本学則は、令和４年４月１日から改正施行する。但し、令和４年３月31日以前に入学した者については、従前の規定による。また、仏教学部仏教学科、文学部英米学科、歴史学部歴史学科、教育学部教育学科、教育学部臨床心理学科および社会福祉学部社会福祉学科の編入学定員については、令和６年４月第３学年次編入学者より学生募集を停止する。

第 70 条　本学則は、令和５年４月１日から改正施行する。 但し，第 10 条の２に規定する歴史学部歴史学科に係わる別表第６の２、および第 10 条の３に規定する歴史学部歴史文化学科に係わる別表第６の３ については，平成 31 年度第１学年次入学者から適用する。また、第 12 条に規定する別表第７については，令和４年度入学者から適用し，令和３年度以前入学者は，従前の規定による。

第 71 条　本学則は，令和６年４月１日から改正施行する。但し，令和６年３月 31 日以前に入学した者については、従前の規定による。

第 72 条　本学則は，令和７年４月１日から改正施行する。但し，令和７年３月 31 日以前に入学した者については、従前の規定による。

第 73 条　本学則は，令和８年４月１日から改正施行する。但し，令和８年３月 31 日以前に入学した者については 従前の規定による。なお，保健医療技術学部看護学科は，第２条第８項の規定にかかわらず，令和８年３月 31 日に当該学部・学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間，存続するものとする。

別表第1　削除

別表第1の2　削除

別表第1の3　削除

別表第1の4　削除

別表第1の5（第4条の2関係）共通教養科目
（仏教学部・文学部・歴史学部・教育学部・社会学部・社会福祉学部）

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
	仏教・自校教育科目		ブッダと法然	2	1	2			1科目2単位を履修すること。
			佛教大学の理念と歴史	2	1		2		
	グローバル科目群	必修外国語	英語 Intensive Reading1	1	1		1		1語種を選択し，選択した語種の8科目8単位を履修すること。但し日本語については留学生のみ履修を可とする。
			英語 Intensive Reading2	1	2		1		
			英語 Integrated Communication Skills1	1	1		1		
			英語 Integrated Communication Skills2	1	2		1		
			英語 Integrated Communication Skills3	1	3		1		
			英語 Integrated Communication Skills4	1	4		1		
			英語 Intermediate Reading1	1	3		1		
			英語 Intermediate Reading2	1	4		1		
			中国語1	1	1		1		
			中国語2	1	1		1		
			中国語3	1	2		1		
			中国語4	1	2		1		
			中国語5	1	3		1		
			中国語6	1	3		1		
			中国語7	1	4		1		
			中国語8	1	4		1		
			韓国語 朝鮮語1	1	1		1		
			韓国語 朝鮮語2	1	1		1		
			韓国語 朝鮮語3	1	2		1		
			韓国語 朝鮮語4	1	2		1		
			韓国語 朝鮮語5	1	3		1		
			韓国語 朝鮮語6	1	3		1		
			韓国語 朝鮮語7	1	4		1		
			韓国語 朝鮮語8	1	4		1		
			日本語1	1	1		1		
			日本語2	1	1		1		
			日本語3	1	1		1		
			日本語4	1	2		1		
			日本語5	1	2		1		
			日本語6	1	2		1		
			日本語7	1	3		1		
			日本語8	1	4		1		
		選択外国語	英語 General English1	1	1		1		
			英語 General English2	1	1		1		
			英語 Communication Seminar1	2	1		2		
			英語 Communication Seminar2	2	1		2		
			英語 English Lecture1	2	1		2		
			英語 English Lecture2	2	1		2		
			英語 初級英語会話1	1	1		1		
			英語 初級英語会話2	1	1		1		
			英語 Skill-building（TOEIC500）1	1	1		1		
			英語 Skill-building（TOEIC500）2	1	1		1		
			英語 Skill-building（TOEIC600）1	1	1		1		
			英語 Skill-building（TOEIC600）2	1	1		1		
			中国語 初級中国語1	1	1		1		
			中国語 初級中国語2	1	1		1		
			中国語 中級中国語	1	1		1		
			韓国語 初級韓国語1	1	1		1		
			韓国語 初級韓国語2	1	1		1		
			韓国語 中級韓国語	1	1		1		
			ドイツ語 初級ドイツ語1	1	1		1		
			ドイツ語 初級ドイツ語2	1	1		1		
			ドイツ語 中級ドイツ語	1	1		1		
			フランス語 初級フランス語1	1	1		1		
			フランス語 初級フランス語2	1	1		1		
			フランス語 中級フランス語	1	1		1		
			ベトナム語 初級ベトナム語1	1	1		1		
			ベトナム語 初級ベトナム語2	1	1		1		
			ベトナム語 中級ベトナム語	1	1		1		

共通教養科目	グローバル科目群	国際教養	異文化への扉 ―多文化共生のための外国語―	2	1		2		
			地球人になろう ―グローバリゼーションと文化―	2	1		2		
			英語圏の暮らし	2	1		2		
			アジアの暮らし	2	1		2		
			日本事情	2	1		2		
		海外研修	海外語学研修(英語)A	2	1		2		
			海外語学研修(英語)B	2	1		2		
			海外語学研修(英語)C	2	1		2		
			海外語学研修(英語)D	2	1		2		
			海外語学研修(英語)E	2	1		2		
			海外語学研修(英語)F	1	1		1		
			海外語学研修(英語)G	1	1		1		
			海外語学研修(中国語)A	2	1		2		
			海外語学研修(中国語)B	2	1		2		
			海外語学研修(中国語)C	2	1		2		
			海外語学研修(中国語)D	1	1		1		
			海外語学研修(中国語)E	1	1		1		
			海外語学研修(韓国語)A	2	1		2		
			海外語学研修(韓国語)B	2	1		2		
			海外語学研修(韓国語)C	2	1		2		
			海外語学研修(韓国語)D	1	1		1		
			海外語学研修(韓国語)E	1	1		1		
			海外語学研修(ベトナム語)A	2	1		2		
			海外語学研修(ベトナム語)B	2	1		2		
			海外語学研修(ベトナム語)C	2	1		2		
			海外語学研修(ベトナム語)D	1	1		1		
			海外語学研修(ベトナム語)E	1	1		1		
		データサイエンス科目群	ICTリテラシー	2	1	2			1科目2単位を履修すること。
			データサイエンスの基礎を学ぶ	2	2		2		
			データサイエンスの基礎を実践する	1	2		1		
			統計学の基礎を学ぶ	2	1		2		
			プログラミングを学ぶ	2	1		2		
		初年次教育科目群	スタディ・スキルズ	2	1	2			3科目4単位を履修すること。
			キャリア・スキルズ1	1	1	1			
			キャリア・スキルズ2	1	2	1			
			数学の基礎とその活用	2	1		2		
			生体の科学Ⅰ(生物・化学)	2	1		2		
			生体の科学Ⅱ(物理)	1	1		1		
		キャリアスタディ科目群	マイファーストキャリア	2	1		2		
			ライフ・キャリアデザイン	2	1		2		
			キャリア形成とマネジメント	2	1		2		
			自己表現とコミュニケーション	2	3		2		
			職業世界を知る	2	3		2		
			キャリア実習	2	3		2		
			キャリア実習(教職)1	4	3		4		
			キャリア実習(教職)2	4	5		4		
		プロジェクト科目群	プロジェクトA	2	3		2		
			プロジェクトB	2	3		2		
	自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	日本の仏教芸術とその鑑賞	2	1		2		6単位以上を履修すること。
			ことばと文学	2	1		2		
			仏教の人間観と死生観	2	1		2		
			東洋と西洋における思想・哲学・宗教	2	1		2		
			前近代の世界・日本	2	1		2		
			近現代の世界・日本	2	1		2		
			世界の民族文化	2	1		2		
			世界の中の日本文化・京都文化	2	1		2		
		地域と社会を学ぶ	日本国憲法	2	1		2		
			世界と日本の政治	2	1		2		
			くらしの中の経済	2	1		2		
			個人と社会の関係を考える	2	1		2		
			世界のニュースから見る日本	2	1		2		
			福祉と社会	2	1		2		
			情報・メディアと社会	2	1		2		
			教育事情を知る	2	1		2		
			文化の中から考える多文化共生	2	1		2		
		人間と自然を学ぶ	数学の言葉で世界を観る	2	1		2		
			宇宙を考える	2	1		2		
			生物の世界	2	1		2		
			自然と地理	2	1		2		
			生命を考える	2	1		2		
			エコロジーを考える	2	1		2		
			心の世界を考える	2	1		2		
			人間の仕組みと活動	2	1		2		
			病と人間の歩み	2	1		2		
	スポーツ		スポーツ理論	1	1		1		
			スポーツ実技	1	1		1		
	大学コンソーシアム		大学コンソーシアム	2	1		2		

別表第1の6（第4条の2 第2項関係）共通教養科目
（保健医療技術学部・看護学部）

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
共通教養科目	仏教・自校教育科目群		ブッダと法然	2	1	2			1科目2単位を履修すること。
			佛教大学の理念と歴史	2	1		2		
	グローバル科目群	必修外国語 英語	Intensive Reading1	1	1	1			6科目6単位を履修すること。
			Intensive Reading2	1	2	1			
			Integrated Communication Skills1	1	1	1			
			Integrated Communication Skills2	1	2	1			
			Integrated Communication Skills3	1	3	1			
			Integrated Communication Skills4	1	4	1			
		選択外国語 英語	General English1	1	1		1		
			General English2	1	1		1		
			Communication Seminar1	2	1		2		
			Communication Seminar2	2	1		2		
			English Lecture1	2	1		2		
			English Lecture2	2	1		2		
			初級英語会話1	1	1		1		
			初級英語会話2	1	1		1		
			Skill-building（TOEIC500）1	1	1		1		
			Skill-building（TOEIC500）2	1	1		1		
			Skill-building（TOEIC600）1	1	1		1		
			Skill-building（TOEIC600）2	1	1		1		
		中国語	初級中国語1	1	1		1		
			初級中国語2	1	1		1		
			中級中国語	1	1		1		
		韓国語	初級韓国語1	1	1		1		
			初級韓国語2	1	1		1		
			中級韓国語	1	1		1		
		ドイツ語	初級ドイツ語1	1	1		1		
			初級ドイツ語2	1	1		1		
			中級ドイツ語	1	1		1		
		フランス語	初級フランス語1	1	1		1		
			初級フランス語2	1	1		1		
			中級フランス語	1	1		1		
		ベトナム語	初級ベトナム語1	1	1		1		
			初級ベトナム語2	1	1		1		
			中級ベトナム語	1	1		1		
		国際教養	異文化への扉 ―多文化共生のための外国語―	2	1		2		
			地球人になろう ―グローバリゼーションと文化―	2	1		2		
			英語圏の暮らし	2	1		2		
			アジアの暮らし	2	1		2		
			日本事情	2	1		2		
	海外研修		海外語学研修（英語）A	2	1		2		
			海外語学研修（英語）B	2	1		2		
			海外語学研修（英語）C	2	1		2		
			海外語学研修（英語）D	2	1		2		
			海外語学研修（英語）E	2	1		2		
			海外語学研修（英語）F	1	1		1		
			海外語学研修（英語）G	1	1		1		
			海外語学研修（中国語）A	2	1		2		
			海外語学研修（中国語）B	2	1		2		
			海外語学研修（中国語）C	2	1		2		
			海外語学研修（中国語）D	1	1		1		
			海外語学研修（中国語）E	1	1		1		
			海外語学研修（韓国語）A	2	1		2		
			海外語学研修（韓国語）B	2	1		2		
			海外語学研修（韓国語）C	2	1		2		
			海外語学研修（韓国語）D	1	1		1		
			海外語学研修（韓国語）E	1	1		1		
			海外語学研修（ベトナム語）A	2	1		2		
			海外語学研修（ベトナム語）B	2	1		2		
			海外語学研修（ベトナム語）C	2	1		2		
			海外語学研修（ベトナム語）D	1	1		1		
			海外語学研修（ベトナム語）E	1	1		1		
	データサイエンス科目群		ICTリテラシー	2	1	2			1科目2単位を履修すること。
			データサイエンスの基礎を学ぶ	2	2		2		
			データサイエンスの基礎を実践する	1	2		1		
			統計学の基礎を学ぶ	2	1		2		
			プログラミングを学ぶ	2	1		2		
	初年次教育科目群		スタディ・スキルズ	2	1	2			3科目4単位を履修すること。
			キャリア・スキルズ1	1	1	1			
			キャリア・スキルズ2	1	2	1			
			数学の基礎とその活用	2	1		2		
			生体の科学Ⅰ（生物・化学）	2	1		2		
			生体の科学Ⅱ（物理）	1	1		1		

キャリアスタディ科目群		マイファーストキャリア	2	1		2		
		ライフ・キャリアデザイン	2	1		2		
		キャリア形成とマネジメント	2	1		2		
		自己表現とコミュニケーション	2	3		2		
		職業世界を知る	2	3		2		
		キャリア実習	2	3		2		
		キャリア実習(教職)1	4	3		4		
		キャリア実習(教職)2	4	5		4		
プロジェクト科目群		プロジェクトA	2	3		2		
		プロジェクトB	2	3		2		
自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	日本の仏教芸術とその鑑賞	2	1		2		6単位以上を履修すること。
		ことばと文学	2	1		2		
		仏教の人間観と死生観	2	1		2		
		東洋と西洋における思想・哲学・宗教	2	1		2		
		前近代の世界・日本	2	1		2		
		近現代の世界・日本	2	1		2		
		世界の民族文化	2	1		2		
		世界の中の日本文化・京都文化	2	1		2		
	地域と社会を学ぶ	日本国憲法	2	1		2		
		世界と日本の政治	2	1		2		
		くらしの中の経済	2	1		2		
		個人と社会の関係を考える	2	1		2		
		世界のニュースから見る日本	2	1		2		
		福祉と社会	2	1		2		
		情報・メディアと社会	2	1		2		
		教育事情を知る	2	1		2		
		文化の中から考える多文化共生	2	1		2		
	人間と自然を学ぶ	数学の言葉で世界を観る	2	1		2		
		宇宙を考える	2	1		2		
		生物の世界	2	1		2		
		自然と地理	2	1		2		
		生命を考える	2	1		2		
		エコロジーを考える	2	1		2		
		心の世界を考える	2	1		2		
		人間の仕組みと活動	2	1		2		
		病と人間の歩み	2	1		2		
スポーツ		スポーツ理論	1	1		1		
		スポーツ実技	1	1		1		
大学コンソーシアム		大学コンソーシアム	2	1		2		

別表第2（第6条関係）（文学部仏教学科） 削除

別表第2の2（第5条の2関係）（仏教学部仏教学科）

系列区分			授業科目の名称	単位数	セメス始ス	必修/選択/自由 必修	選択	自由	備考
学科専門科目	学部基幹科目		ブッダの生涯と教え	2	1	2			必修科目4科目8単位および選択科目のうち1科目2単位以上、合計5科目10単位以上を履修すること。
			法然の生涯と教え	2	2	2			
			仏教研究への道案内	2	3	2			
			仏教学の基礎	2	1	2			
			浄土学の基礎	2	2		2		
			仏教文化学の基礎	2	2		2		
	学科基礎科目		入門ゼミ	2	1	2			必修科目2科目4単位および選択科目のうち3科目6単位以上、合計5科目10単位以上を履修すること。
			基礎ゼミ	2	4	2			
			古文入門	2	1		2		
			古文上級	2	2		2		
			漢文入門	2	1		2		
			漢文上級	2	2		2		
			サンスクリット語入門	2	3		2		
			サンスクリット語上級	2	4		2		
			パーリ語	2	5		2		
			チベット語	2	5		2		
	学科専攻科目	共通	予備ゼミ1	2	5	2			必修科目5科目14単位を含み、合計9科目22単位以上を履修すること。
			予備ゼミ2	2	6	2			
			卒論ゼミ1	2	7	2			
			卒論ゼミ2	2	8	2			
			卒業論文	6	8	6			
			宗教史	2	1		2		
			日本仏教史（仏教伝来～平安）	2	1		2		
			日本仏教史（鎌倉以降）	2	2		2		
			中国仏教史	2	1		2		
			インド仏教史	2	1		2		
			アジア仏教史（チベット・東南アジア）	2	2		2		
			アジア仏教史（韓国）	2	3		2		
			浄土教史	2	3		2		
			浄土宗史	2	4		2		
		思想・歴史コース	仏教学研究（初期・部派）	2	3		2		研究科目5科目10単位以上、講読科目2科目4単位以上、演習科目を2科目4単位以上、合計9科目18単位以上を履修すること。
			仏教学研究（大乗・チベット）	2	3		2		
			仏教学研究（中国）	2	4		2		
			仏教学研究（日本）	2	4		2		
			仏教学講読（初期・部派）	2	4		2		
			仏教学講読（大乗・チベット）	2	4		2		
			仏教学講読（中国）	2	5		2		
			仏教学講読（日本）	2	5		2		
			仏教学演習（初期・部派）	2	5		2		
			仏教学演習（大乗・チベット）	2	5		2		
			仏教学演習（中国）	2	6		2		
			仏教学演習（日本）	2	6		2		
		文学・芸術コース	仏教文化学研究（インド・中国）	2	3		2		
			仏教文化学研究（日本）	2	4		2		
			仏教美術研究（インド・中国）	2	4		2		
			仏教美術研究（日本）	2	5		2		
			伝統文化研究（茶道）	2	3		2		
			伝統文化研究（華道）	2	3		2		
			伝統文化研究（書道）	2	4		2		
			伝統文化研究（儀礼・音楽）	2	4		2		
			仏教書誌学研究	2	3		2		
			仏教文化学講読	2	4		2		
			仏教文化学演習	2	5		2		
		僧侶養成コース	浄土三部経研究1（無量寿経）	2	3		2		
			浄土三部経研究2（観経・阿弥陀経）	2	4		2		
			浄土学研究	2	3		2		
			浄土宗学研究	2	4		2		
			選択集研究1	2	4		2		
			選択集研究2	2	5		2		
			法然門流研究	2	4		2		
			浄土学講読	2	4		2		
			浄土宗学講読	2	5		2		
			浄土学演習	2	5		2		
			浄土宗学演習	2	6		2		

学科専門科目	関連科目	哲学概論	2	2		2		
		仏教哲学(インド)	2	3		2		
		仏教哲学(中国・日本)	2	4		2		
		倫理学概論	2	1		2		
		宗教学概論	2	1		2		
		仏教と現代社会の諸問題	2	2		2		
		人権同和教育(仏教と人権)	2	2		2		
		仏教と文学	2	3		2		
		仏教と文化財	2	4		2		
		宗派仏教	2	4		2		
		仏教フィールドワーク	2	3		2		
		開教概論1(歴史と基礎知識)	2	3		2		
		開教概論2(方法と実践)	2	4		2		
		開教英語	2	3		2		
		仏蹟研修	2	3		2		
		仏教インターンシップ	2	3		2		
		宗教法制	2	3		2		
		日本史概論	2	1		2		
		東洋史概論	2	1		2		
		西洋史概論	2	1		2		
		日本史特論	2	2		2		
		人文地理学1	2	3		2		
		人文地理学2	2	4		2		
		自然地理学1	2	3		2		
		自然地理学2	2	4		2		
		地誌学1	2	3		2		
		地誌学2	2	4		2		
		法律学概論1	2	1		2		
		法律学概論2	2	2		2		
		国際政治学	2	1		2		
		法式実習1	1	1			1	
		法式実習2	1	2			1	
		法務実習(初級)1	2	1			2	
		法務実習(初級)2	2	2			2	
		日常勤行式の解説	2	1			2	
		伝道学1(念仏講話)	2	3			2	
		伝道学2	2	4			2	
		詠唱1	1	3			1	
		詠唱2	1	3			1	
		伝書1	2	4			2	
		伝書2	2	5			2	
		円頓戒1	2	4			2	
		円頓戒2	2	5			2	
		法務実習(中級)1	1	4			1	
		法務実習(中級)2	1	4			1	
		法務実習(上級)1	1	6			1	
		法務実習(上級)2	1	6			1	
		法務実習(特級)1	1	7			1	
		法務実習(特級)2	1	7			1	

別表第3　削除

別表第4　削除

別表第4の2　削除

別表第4の3（第8条の3関係）（文学部日本文学科）

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
学科専門科目	学部基幹科目	中国語と中国文化	2	1		2		「中国語と中国文化」または「英語と英米文化」のいずれか1科目2単位および「世界の言語と文化（朝鮮語）」・「世界の言語と文化(ベトナム語)」・「世界の言語と文化(フランス語)」・「世界の言語と文化(ドイツ語)」のうち2科目4単位以上，合計3科目6単位以上を履修すること。
		英語と英米文化	2	1		2		
		世界の言語と文化（朝鮮語）	2	1		2		
		世界の言語と文化（ベトナム語）	2	1		2		
		世界の言語と文化（フランス語）	2	1		2		
		世界の言語と文化（ドイツ語）	2	1		2		
	学科基礎科目	入門ゼミ	2	1	2			必修科目4科目8単位および選択科目のうち5科目10単位以上，合計9科目18単位以上を履修すること。
		漢文学1	2	3		2		
		漢文学2	2	4		2		
		書道1	2	1		2		
		書道2	2	2		2		
		日本文学概論1	2	1		2		
		日本文学概論2	2	2		2		
		日本文学史1	2	3		2		
		日本文学史2	2	4		2		
		日本語学概論1	2	3		2		
		日本語学概論2	2	4		2		
		京都と文学（古典）	2	1		2		
		京都と文学（近・現代）	2	2		2		
		日本文学初学び	2	1	2			
		文献学入門（版本）	2	1	2			
		文献学（古筆）	2	2	2			
		文学概論1	2	3		2		
		文学概論2	2	4		2		
		日本語文法1	2	1		2		
		日本語文法2	2	2		2		
		言語学概論1	2	3		2		
		言語学概論2	2	4		2		
		中国書道史	2	3		2		
		日本書道史	2	4		2		
		書道文化入門	2	1		2		
		ことばと表現（古典）	2	1		2		
		ことばと表現（近・現代）	2	2		2		
	学科専攻科目	日本文学講読（上代）	2	2		2		必修科目6科目12単位および卒業論文または卒業研究のいずれかを選択したうえで，卒業論文選択者は選択科目のうち11科目22単位以上，卒業研究選択者は選択科目のうち12科目24単位以上，合計40単位以上を履修すること。
		日本文学講読（中古）	2	2		2		
		日本文学講読（中世）	2	2		2		
		日本文学講読（近世）	2	2		2		
		日本文学講読（近・現代）	2	2		2		
		日本文学作品研究（上代）	2	2		2		
		日本文学作品研究（中古）	2	2		2		
		日本文学作品研究（中世）	2	2		2		
		日本文学作品研究（近世）	2	2		2		
		日本文学作品研究（近・現代）	2	2		2		
		漢文基礎	2	2		2		
		日本語学講読	2	2		2		
		日本語学作品研究	2	2		2		
		書道文化講読	2	2		2		
		書道文化作品研究	2	2		2		
		日本文学特講（上代）	2	3		2		
		日本文学特講（中古）	2	3		2		
		日本文学特講（中世）	2	3		2		
		日本文学特講（近世）	2	3		2		
		日本文学特講（近・現代）	2	3		2		

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
	学科専攻科目	日本文学特殊研究(上代)	2	3		2		
		日本文学特殊研究(中古)	2	3		2		
		日本文学特殊研究(中世)	2	3		2		
		日本文学特殊研究(近世)	2	3		2		
		日本文学特殊研究(近・現代)	2	3		2		
		日本語学特講	2	3		2		
		日本語学特殊研究	2	3		2		
		書道文化特講	2	3		2		
		書道文化特殊研究	2	3		2		
		書論	2	3		2		
		日文実践演習1	2	3	2			
		日文実践演習2	2	4	2			
		専門ゼミ1	2	5	2			
		専門ゼミ2	2	6	2			
		卒業研究ゼミ1	2	7	2			
		卒業研究ゼミ2	2	8	2			
		卒業論文	6	8		6		
		卒業研究	4	8		4		
		日本文学情報処理	2	2		2		
		比較文学	2	3		2		
専門科目	関連科目	書道3	2	3		2		キャリアプログラム科目のうち1科目2単位を含み履修すること。
		書道4	2	4		2		
		書誌学	2	3		2		
		美術史1	2	3		2		
		美術史2	2	4		2		
		日本語教育教材・教具法	2	3		2		
		日本語教授法1	2	4		2		
		日本語教授法2	2	5		2		
		日本語教育教壇実習1	1	5		2		
		日本語教育教壇実習2	1	6		2		
		日本語教育文法1	2	3		2		
		日本語教育文法2	2	4		2		
		日文キャリアプログラム(国語科教員系)	2	5		2		
		日文キャリアプログラム(文芸創作系)	2	5		2		
		日文キャリアプログラム(書道創作系)	2	5		2		
		日文キャリアプログラム(日本語教員系)	2	5		2		
		日文キャリアプログラム(出版情報系)	2	5		2		

別表第5（第9条関係）（文学部中国学科）

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
学科専門科目	学部基幹科目		中国語と中国文化	2	1		2		必修科目1科目2単位および「世界の言語と文化（朝鮮語）」・「世界の言語と文化(ベトナム語)」・「世界の言語と文化(フランス語)」・「世界の言語と文化(ドイツ語)」のうち2科目4単位以上，合計3科目6単位以上を履修すること。
			英語と英米文化	2	1	2			
			世界の言語と文化(朝鮮語)	2	1		2		
			世界の言語と文化(ベトナム語)	2	1		2		
			世界の言語と文化(フランス語)	2	1		2		
			世界の言語と文化(ドイツ語)	2	1		2		
	学科基礎科目		中国学科入門ゼミ	2	1	2			必修科目13科目26単位および以下を含み，合計40単位以上を履修すること。 ・「中国古典文学史1」および「中国古典文学史2」または「中国現代文学史1」および「中国現代文学史2」のいずれか2科目4単位を履修すること。 ・「漢語聴説実践」・「現代名作導読」・「古典名作導読」のうち1科目2単位以上を履修すること。
			中国学科基礎ゼミ	2	2	2			
			中国語聴解1	2	3	2			
			中国語聴解2	2	4	2			
			中国語入門1	2	1	2			
			中国語入門2	2	1	2			
			中国語概論1	2	2	2			
			中国語概論2	2	2	2			
			中国語基礎演習1	2	3	2			
			中国語基礎演習2	2	4	2			
			中国思想史1	2	3	2			
			中国思想史2	2	4	2			
			中国学科発展ゼミ	2	3	2			
			中国古典文学史1	2	3		2		
			中国古典文学史2	2	4		2		
			中国現代文学史1	2	3		2		
			中国現代文学史2	2	4		2		
			中国近現代史	2	3		2		
			漢語聴説実践	2	4		2		
			現代名作導読	2	4		2		
			古典名作導読	2	4		2		
			中国文学研究基礎1	2	3		2		
			中国文学研究基礎2	2	3		2		
			中国思想研究基礎1	2	4		2		
			中国思想研究基礎2	2	4		2		
			中国語作文	2	4		2		
			HSK演習（基礎）	2	4		2		
			中国語現地研修A	2	4		2		
	学科専攻科目	コミュニケーション系	漢語会話演習（HSK5級）1	2	5		2		「コミュニケーション系」または「文献系」のいずれかを選択したうえで，以下のとおり履修すること。 ・「コミュニケーション系」選択者は漢語会話演習のうち3科目6単位，漢語表現法演習のうち3科目6単位，合計12単位以上および共通科目の必修科目3科目6単位，「高級漢語聴説」・「高級漢語閲読（現代）」・「高級漢語閲読（古典）」のうち1科目2単位以上を含み，「卒業論文」または「卒業研究」を選択履修したうえで，合計26単位以上を履修すること。 ・「文献系」選択者は6科目12単位以上および共通科目の必修科目3科目6単位，「高級漢語聴説」・「高級漢語閲読（現代）」・「高級漢語閲読（古典）」のうち1科目2単位以上を含み，「卒業論文」または「卒業研究」を選択履修したうえで，合計26単位以上を履修すること。
			漢語会話演習（HSK5級）2	2	5		2		
			漢語会話演習（中検2級）1	2	5		2		
			漢語会話演習（中検2級）2	2	5		2		
			漢語会話演習（HSK6級）1	2	5		2		
			漢語会話演習（HSK6級）2	2	5		2		
			漢語表現法演習（演講）1	2	5		2		
			漢語表現法演習（演講）2	2	5		2		
			漢語表現法演習（聴力）1	2	5		2		
			漢語表現法演習（聴力）2	2	5		2		
			漢語表現法演習（会話）1	2	5		2		
			漢語表現法演習（会話）2	2	5		2		
		文献系	漢語現代文献演習（文学）1	2	5		2		
			漢語現代文献演習（文学）2	2	5		2		
			漢語現代文献演習（思想）1	2	5		2		
			漢語現代文献演習（思想）2	2	5		2		
			漢語現代文献演習（文化）1	2	5		2		
			漢語現代文献演習（文化）2	2	5		2		
			漢語現代文献演習（時事）1	2	5		2		
			漢語現代文献演習（時事）2	2	5		2		
			漢語古典文献演習（文学）1	2	5		2		
			漢語古典文献演習（文学）2	2	5		2		
			漢語古典文献演習（思想）1	2	5		2		

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
			漢語古典文献演習(思想)2	2	5		2		
			漢語古典文献演習(文化)1	2	5		2		
			漢語古典文献演習(文化)2	2	5		2		
			漢語古典文献演習(散文)1	2	5		2		
			漢語古典文献演習(散文)2	2	5		2		
専門科目	学科専攻科目	共通	高級漢語聴説	2	5		2		
			高級漢語閲読(現代)	2	5		2		
			高級漢語閲読(古典)	2	5		2		
			中国語情報処理演習	2	6		2		
			HSK演習(発展)	2	5		2		
			中国語現地研修B	2	5		2		
			卒業予備ゼミ	2	6	2			
			卒業研究ゼミ1	2	7	2			
			卒業研究ゼミ2	2	8	2			
			卒業論文	6	8		6		
			卒業研究	4	8		4		
	関連科目		中国語学研究1	2	3		2		
			中国語学研究2	2	3		2		
			異文化理解「中国」1	2	3		2		
			異文化理解「中国」2	2	4		2		
			日中比較文化研究1	2	3		2		
			日中比較文化研究2	2	3		2		
			中国文化研究1	2	3		2		
			中国文化研究2	2	3		2		
			東北アジア史	2	4		2		
			東洋文化史	2	3		2		
			西洋文化史	2	4		2		
			東洋史特講(古代)1	2	3		2		
			東洋史特講(古代)2	2	4		2		
			東洋史特講(中世・近世)1	2	3		2		
			東洋史特講(中世・近世)2	2	4		2		
			東洋史特講(近代・現代)1	2	3		2		
			東洋史特講(近代・現代)2	2	4		2		
			書道1	2	1		2		
			書道2	2	2		2		
			漢文学1	2	3		2		
			漢文学2	2	4		2		
			漢文講読	2	2		2		
			仏教と文学	2	3		2		
			言語学概論1	2	3		2		
			言語学概論2	2	4		2		
			日本語学概論1	2	3		2		
			日本語学概論2	2	4		2		
			日本語文法1	2	1		2		
			日本語文法2	2	2		2		
			日本文学史1	2	3		2		
			日本文学史2	2	4		2		
			文学概論1	2	3		2		
			文学概論2	2	4		2		
			中国仏教史	2	1		2		
			浄土教史	2	3		2		

別表第6（第10条関係）（文学部英米学科）

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
専門科目	学部基幹科目		中国語と中国文化	2	1	2			必修科目1科目2単位および「世界の言語と文化（朝鮮語）」・「世界の言語と文化(ベトナム語)」・「世界の言語と文化(フランス語)」・「世界の言語と文化(ドイツ語)」のうち2科目4単位以上，合計3科目6単位以上を履修すること。
			英語と英米文化	2	1		2		
			世界の言語と文化(朝鮮語)	2	1		2		
			世界の言語と文化(ベトナム語)	2	1		2		
			世界の言語と文化(フランス語)	2	1		2		
			世界の言語と文化(ドイツ語)	2	1		2		
	学科基礎科目		英米学科入門ゼミ	2	1	2			19科目28単位を履修すること。
			English Conversation1	1	1	1			
			English Conversation2	1	1	1			
			English Conversation3	1	3	1			
			English Conversation4	1	3	1			
			English Listening Skills1	1	1	1			
			English Listening Skills2	1	1	1			
			English Listening Skills3	1	3	1			
			English Writing1	1	1	1			
			English Writing2	1	1	1			
			English Writing3	1	3	1			
			英語学概論	2	1	2			
			英語文学論1	2	1	2			
			英語文学論2	2	1	2			
			英文法	2	3	2			
			英語演習1	2	3	2			
			英語演習2	2	3	2			
			Advanced Conversation1	2	5	2			
			Advanced Conversation2	2	5	2			
	学科専攻科目	研究演習	Academic Reading1	2	5	2			必修科目10科目24単位および選択科目のうち36単位以上，合計60単位以上を履修すること。
			Academic Reading2	2	5	2			
			Academic Writing1	2	5	2			
			Academic Writing2	2	5	2			
			卒業研究予備ゼミ	2	6	2			
			卒業研究ゼミ1	2	7	2			
			卒業研究ゼミ2	2	8	2			
			卒業論文	6	8	6			
		海外研修	Study Abroad1	2	3	2			
			Study Abroad2	2	5		2		
			Study Abroad Project1	2	4	2			
			Study Abroad Project2	2	5		2		
		英語文化系	言語学概論	2	3		2		
			英語学研究	2	3		2		
			英語文学研究1	2	3		2		
			英語文学研究2	2	3		2		
			英語圏文化の理解	2	3		2		
			英語圏言語文化論	2	5		2		
			英語圏社会文化論	2	5		2		
			西洋言語文化論	2	3		2		
			西洋社会文化論	2	3		2		
		英語コミュニケーション系	EAP(English for Academic Purposes)1	2	1		2		
			EAP(English for Academic Purposes)2	2	3		2		
			Kyoto Studies	2	3		2		
			Japanese Studies	2	3		2		
			フランス語コミュニケーション（初級）	2	3		2		
			フランス語コミュニケーション（中級）	2	3		2		
			Intensive English1	1	4		1		
			Intensive English2	1	4		1		
			Intensive English3	1	4		1		
			Intensive English4	1	4		1		
			Intensive Speaking1	1	4		1		
			Intensive Speaking2	1	4		1		
			Intensive Speaking3	1	4		1		
			Intensive Speaking4	1	4		1		
			Intensive Listening1	1	4		1		
			Intensive Listening2	1	4		1		
			Intensive Writing1	1	4		1		
			Intensive Writing2	1	4		1		
			Academic Lecture1	2	4		2		

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
		英語コミュニケーション系	Academic Lecture2	2	4		2		
			Academic Lecture3	2	4		2		
			Academic Lecture4	2	4		2		
			Academic Lecture(Advanced)1	2	5		2		
			Academic Lecture(Advanced)2	2	5		2		
			Academic Lecture(Advanced)3	2	5		2		
			Academic Lecture(Advanced)4	2	5		2		
			Academic Seminar1	2	4		2		
			Academic Seminar2	2	4		2		
			Academic Seminar3	2	4		2		
			Academic Seminar4	2	4		2		
			Academic Seminar(Advanced)1	2	5		2		
			Academic Seminar(Advanced)2	2	5		2		
			Academic Seminar(Advanced)3	2	5		2		
			Academic Seminar(Advanced)4	2	5		2		
			Advanced TOEIC	2	5		2		
			Advanced TOEFL	2	5		2		
			Business Communication	2	5		2		
			通訳演習	2	5		2		
			Advanced Grammar	2	5		2		
			Media English	2	5		2		
		英語教職系	英語教育入門	2	1		2		
			英語科教職論	2	5		2		
			英語科教職演習	2	5		2		

別表第6の2（第10条の2関係）（歴史学部歴史学科）

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
専門科目	学部基幹科目		歴史学概論	2	1	2			必修科目5科目10単位および選択科目のうち1科目2単位以上，合計6科目12単位以上を履修すること。
			外国の歴史と文化	2	2		2		
			歴史学とコンピュータ	2	2		2		
			歴史文化概論	2	3	2			
			日本史概論	2	1	2			
			東洋史概論	2	1	2			
			西洋史概論	2	1	2			
			歴史地理学	2	2		2		
	学科基礎科目		入門ゼミ	2	1	2			必修科目7科目14単位および選択科目のうち3科目6単位以上，合計10科目20単位以上を履修すること。
			歴史学研究法ゼミ1	2	3	2			
			歴史学研究法ゼミ2	2	4	2			
			日本史特論	2	2	2			
			東洋史特論	2	2	2			
			西洋史特論	2	2	2			
			日本文化史	2	4	2			
			東洋文化史	2	3		2		
			西洋文化史	2	4		2		
			日本思想史	2	3		2		
			東洋思想史	2	4		2		
			西洋思想史	2	3		2		
			東北アジア史	2	4		2		
			社会経済史	2	3		2		
			交渉・交流史	2	4		2		
	学科専攻科目	共通	発展研究ゼミ1	2	5	2			5科目14単位を履修すること。
			発展研究ゼミ2	2	6	2			
			卒業研究ゼミ1	2	7	2			
			卒業研究ゼミ2	2	8	2			
			卒業論文	6	8	6			
		日本史領域	日本史基礎史料講読(古代・中世)	2	3		2		「日本史領域」・「東洋史領域」・「西洋史領域」のうち1領域を選択したうえで，以下のとおり履修すること。 ・「日本史領域」もしくは「東洋史領域」の選択者は，基礎史料講読1科目2単位以上，史料講読のうち2科目4単位以上，特講のうち2科目4単位以上を含み，合計10科目20単位以上を履修すること。 ・「西洋史領域」の選択者は，基礎英語文献講読もしくは基礎演習を1科目2単位以上，演習のうち2科目4単位以上，特講のうち2科目4単位以上を含み，合計10科目20単位以上を履修すること。
			日本史基礎史料講読(近世)	2	3		2		
			日本史基礎史料講読(近代・現代)	2	3		2		
			日本史史料講読(古代・中世)1	2	4		2		
			日本史史料講読(古代・中世)2	2	5		2		
			日本史史料講読(近世)1	2	4		2		
			日本史史料講読(近世)2	2	5		2		
			日本史史料講読(近代・現代)1	2	4		2		
			日本史史料講読(近代・現代)2	2	5		2		
			日本史特講(古代・中世)1	2	3		2		
			日本史特講(古代・中世)2	2	4		2		
			日本史特講(近世)1	2	3		2		
			日本史特講(近世)2	2	4		2		
			日本史特講(近代・現代)1	2	3		2		
			日本史特講(近代・現代)2	2	4		2		
			日本史特講(宗教・文化)1	2	3		2		
			日本史特講(宗教・文化)2	2	4		2		
		東洋史領域	東洋史基礎史料講読	2	3		2		
			東洋史史料講読(前近代)1	2	4		2		
			東洋史史料講読(前近代)2	2	5		2		
			東洋史史料講読(近現代)1	2	4		2		
			東洋史史料講読(近現代)2	2	5		2		
			東洋史特講(古代)1	2	3		2		
			東洋史特講(古代)2	2	4		2		
			東洋史特講(中世・近世)1	2	3		2		
			東洋史特講(中世・近世)2	2	4		2		
			東洋史特講(近代・現代)1	2	3		2		
			東洋史特講(近代・現代)2	2	4		2		

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
		西洋史領域	西洋史基礎英語文献講読	2	3		2		
			西洋史基礎演習	2	3		2		
			西洋史演習(前近代)1	2	4		2		
			西洋史演習(前近代)2	2	5		2		
			西洋史演習(近現代)1	2	4		2		
			西洋史演習(近現代)2	2	5		2		
			西洋史特講(前近代)1	2	3		2		
			西洋史特講(前近代)2	2	4		2		
			西洋史特講(近現代)1	2	3		2		
			西洋史特講(近現代)2	2	4		2		
			西洋史特講(エリア)1	2	3		2		
			西洋史特講(エリア)2	2	4		2		
専門科目		発展	日本古代中世古文書演習1	2	6		2		
			日本古代中世古文書演習2	2	7		2		
			日本近世古文書演習1	2	6		2		
			日本近世古文書演習2	2	7		2		
			東洋史発展史料講読1	2	6		2		
			東洋史発展史料講読2	2	7		2		
			西洋史発展英語文献講読1	2	6		2		
			西洋史発展英語文献講読2	2	7		2		
			西洋史史料講読(外書)1	2	6		2		
			西洋史史料講読(外書)2	2	7		2		
			歴史文化発展演習1	2	6		2		
			歴史文化発展演習2	2	7		2		
	関連科目		史学史	2	3		2		4科目8単位以上を履修すること。
			西洋芸術史	2	3		2		
			和装の文化	2	3		2		
			古文書基礎演習1	2	4		2		
			古文書基礎演習2	2	5		2		
			英語文献講読1	2	4		2		
			英語文献講読2	2	5		2		
			古文書実習	2	6		2		
			伝統文化研修	2	3		2		
			京都学研修	2	3		2		
			文化財学特論	2	3		2		
			京都学入門	2	5		2		
			京都学演習	2	6		2		
			地域文化概論	2	4		2		
			民俗文化概論	2	4		2		
			芸術文化概論	2	4		2		
			政治文化史	2	4		2		
			宗教文化	2	3		2		
			地誌学1	2	3		2		
			地誌学2	2	4		2		
			自然地理学1	2	3		2		
			自然地理学2	2	4		2		
			人文地理学1	2	3		2		
			人文地理学2	2	4		2		
			経済地理学	2	3		2		
			フィールドワーク入門	2	2		2		
			歴史学フィールドワーク	2	3		2		
			日本史臨地研修	2	3		2		
			外国史臨地研修	2	3		2		
			考古学	2	4		2		
			民俗学	2	3		2		
			文化人類学	2	4		2		
			法律学概論1	2	1		2		
			法律学概論2	2	2		2		
			国際政治学	2	1		2		
			哲学概論	2	2		2		
			宗教学概論	2	1		2		
			倫理学概論	2	1		2		
			博物館学Ⅰ	2	3		2		

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
		生涯学習概論	2	2			2	
		博物館学Ⅱ	2	4			2	
		博物館学Ⅲ	2	5			2	
		博物館学Ⅳ	2	3			2	
		博物館学Ⅴ	2	4			2	
		博物館学Ⅵ	2	5			2	
		博物館実習講義	1	6			1	
		博物館実習Ⅰ	1	7			1	
		博物館実習Ⅱ	1	7			1	
		博物館実習Ⅲ	1	8			1	
		視聴覚教育メディア論	2	3			2	

別表第6の3（第10条の3関係）（歴史学部歴史文化学科）

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
学科専門科目	学部基幹科目		歴史学概論	2	1	2			必修科目5科目10単位および選択科目のうち1科目2単位以上，合計6科目12単位以上を履修すること。
			外国の歴史と文化	2	2		2		
			歴史学とコンピュータ	2	2		2		
			歴史文化概論	2	1	2			
			日本史概論	2	1	2			
			東洋史概論	2	3	2			
			西洋史概論	2	3	2			
			歴史地理学	2	2		2		
	学科基礎科目		入門ゼミ	2	1	2			必修科目8科目16単位および選択科目のうち2科目4単位以上，合計10科目20単位以上を履修すること。
			歴史文化研究法ゼミ1	2	3	2			
			歴史文化研究法ゼミ2	2	4	2			
			地域文化概論	2	2	2			
			民俗文化概論	2	2	2			
			芸術文化概論	2	2	2			
			歴史文化臨地研修	2	2	2			
			考古学	2	4		2		
			民俗学	2	3		2		
			文化人類学	2	4		2		
			西洋芸術史	2	3		2		
			政治文化史	2	4		2		
			フィールドワーク基礎論	2	3	2			
			人文地理学1	2	3		2		
			人文地理学2	2	4		2		
			経済地理学	2	3		2		
	学科専攻科目	共通	発展研究ゼミ1	2	5	2			5科目14単位を履修すること。
			発展研究ゼミ2	2	6	2			
			卒業研究ゼミ1	2	7	2			
			卒業研究ゼミ2	2	8	2			
			卒業論文	6	8	6			
		地域文化領域	地域文化基礎演習	2	3		2		「地域文化領域」・「民俗文化領域」・「芸術文化領域」のうち1領域を選択したうえで，選択した領域の6科目12単位，異なる領域の基礎演習1科目2単位および特講のうち1科目2単位以上を含み，合計10科目20単位以上を履修すること。
			地域文化演習1	2	4		2		
			地域文化演習2	2	5		2		
			地域文化特講1	2	3		2		
			地域文化特講2	2	4		2		
			フィールドワーク演習（地域文化）	2	5		2		
		民俗文化領域	民俗文化基礎演習	2	3		2		
			民俗文化演習1	2	4		2		
			民俗文化演習2	2	5		2		
			民俗文化特講1	2	3		2		
			民俗文化特講2	2	4		2		
			フィールドワーク演習（民俗文化）	2	5		2		
		芸術文化領域	芸術文化基礎演習	2	3		2		
			芸術文化演習1	2	4		2		
			芸術文化演習2	2	5		2		
			芸術文化特講1	2	3		2		
			芸術文化特講2	2	4		2		
			フィールドワーク演習（芸術文化）	2	5		2		
		発展	歴史文化資料研究1	2	6		2		
			歴史文化資料研究2	2	7		2		
			歴史文化発展演習1	2	6		2		
			歴史文化発展演習2	2	7		2		
			日本史基礎史料講読（古代・中世）	2	5		2		
			日本史基礎史料講読（近世）	2	5		2		
			日本史基礎史料講読（近代・現代）	2	5		2		
			日本古代中世古文書演習1	2	6		2		
			日本古代中世古文書演習2	2	7		2		
			日本近世古文書演習1	2	6		2		
			日本近世古文書演習2	2	7		2		
			東洋史基礎史料講読	2	5		2		
			東洋史発展史料講読1	2	6		2		
			東洋史発展史料講読2	2	7		2		
			西洋史基礎英語文献講読	2	5		2		
			西洋史発展英語文献講読1	2	6		2		

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
			西洋史発展英語文献講読2	2	7		2		
			西洋史史料講読(外書)1	2	6		2		
			西洋史史料講読(外書)2	2	7		2		
専門科目	関連科目		伝統文化研修	2	3		2		4科目8単位以上を履修すること。
			京都学研修	2	3		2		
			文化財学特論	2	3		2		
			京都学入門	2	5		2		
			京都学演習	2	6		2		
			地誌学1	2	3		2		
			地誌学2	2	4		2		
			自然地理学1	2	3		2		
			自然地理学2	2	4		2		
			英語文献講読1	2	4		2		
			英語文献講読2	2	5		2		
			ワークショップ実習	2	5		2		
			フィールドワーク発展演習(地域文化)	2	6		2		
			フィールドワーク発展演習(民俗文化)	2	6		2		
			フィールドワーク発展演習(芸術文化)	2	6		2		
			日本史特論	2	2		2		
			東洋史特論	2	4		2		
			西洋史特論	2	4		2		
			史学史	2	3		2		
			日本文化史	2	4		2		
			東洋文化史	2	3		2		
			西洋文化史	2	4		2		
			日本思想史	2	3		2		
			東洋思想史	2	4		2		
			西洋思想史	2	3		2		
			東北アジア史	2	4		2		
			社会経済史	2	3		2		
			交渉・交流史	2	4		2		
			宗教文化	2	4		2		
			和装の文化	2	3		2		
			法律学概論1	2	1		2		
			法律学概論2	2	2		2		
			国際政治学	2	1		2		
			哲学概論	2	2		2		
			宗教学概論	2	1		2		
			倫理学概論	2	1		2		
			博物館学Ⅰ	2	3		2		
			生涯学習概論	2	2			2	
			博物館学Ⅱ	2	4			2	
			博物館学Ⅲ	2	5			2	
			博物館学Ⅳ	2	3			2	
			博物館学Ⅴ	2	4			2	
			博物館学Ⅵ	2	5			2	
			博物館実習講義	1	6			1	
			博物館実習Ⅰ	1	7			1	
			博物館実習Ⅱ	1	7			1	
			博物館実習Ⅲ	1	8			1	
			視聴覚教育メディア論	2	3			2	

別表第7（第12条関係）（教育学部教育学科）

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
	学部基幹科目	教育原論	2	1	2			3科目5単位を履修すること。
		教育相談の理論及び方法	2	3	2			
		特別な教育的ニーズの理解とその支援	1	3	1			
	学科基礎科目	入門ゼミ	2	1	2			必修科目5科目10単位および選択科目のうち5科目10単位以上，合計10科目20単位以上を履修すること。
		教育学基礎演習1	2	3	2			
		教育学基礎演習2	2	4	2			
		教育心理学	2	1	2			
		教育心理学2	2	2		2		
		教育社会学	2	1	2			
		教育社会学2	2	2		2		
		教育哲学	2	2		2		
		教育史	2	1		2		
		教育人間学	2	3		2		
		教育行政学	2	1		2		
		教育行政学2	2	2		2		
		臨床教育学	2	3		2		
		学校経営論	2	3		2		
		学級経営論	2	3		2		
		発達心理学	2	3		2		
		比較教育学	2	3		2		
		教育法規	2	3		2		
		教育評価論	2	3		2		
		学校教育職入門	2	1		2		
		特別支援教育総論	2	3		2		
	学科専攻科	教育学演習1	2	5	2			必修科目5科目14単位を含み30単位以上を履修すること。
		教育学演習2	2	6	2			
		卒業論文演習1	2	7	2			
		卒業論文演習2	2	8	2			
		卒業論文	6	8	6			
		人権(同和)教育	2	3		2		
		ICTの活用及び教育	2	3		2		
		学校教育課程論	2	3		2		
		教育方法論(ICT活用含む)	2	3		2		
		教育方法論(ICT活用含む)2	2	4		2		
		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2	2		2		
		特別活動の指導法	2	3		2		
		道徳の理論及び指導法	2	3		2		
		総合的な学習の時間の指導法	2	3		2		
		国際理解教育演習	2	3		2		
		初等教育内容国語	2	1		2		
		初等教育内容社会	2	1		2		
		初等教育内容算数	2	1		2		
		初等教育内容理科	2	1		2		
		初等教育内容生活	2	1		2		
		初等教育内容音楽	2	1		2		
		初等教育内容図画工作	2	1		2		
		初等教育内容家庭	2	1		2		
		初等教育内容体育	2	1		2		
		初等教育内容外国語	2	1		2		
		初等国語教育法	2	3		2		
		初等社会教育法	2	3		2		
		初等算数教育法	2	3		2		
		初等理科教育法	2	3		2		
		初等生活教育法	2	3		2		
		初等音楽教育法	2	3		2		
		初等図画工作教育法	2	3		2		
		初等家庭教育法	2	3		2		
		初等体育教育法	2	3		2		
		初等外国語教育法	2	3		2		
		中等教科教育法社会1	2	3		2		
		中等教科教育法社会2	2	4		2		
		中等教科教育法社会3	2	3		2		
		中等教科教育法社会4	2	4		2		
		中等教科教育法数学1	2	3		2		
		中等教科教育法数学2	2	4		2		
		中等教科教育法数学3	2	3		2		
		中等教科教育法数学4	2	4		2		
		日本史概論	2	1		2		
		日本史特論	2	2		2		
		東洋史概論	2	1		2		
		西洋史概論	2	1		2		
		法律学概論1	2	1		2		

	目	法律学概論2	2	2		2		
		国際政治学	2	1		2		
		社会学概論	2	1		2		
		経済学概論	2	1		2		
		哲学概論	2	2		2		
		宗教学概論	2	1		2		
		倫理学概論	2	1		2		
		代数学概論1	2	1		2		
		代数学概論2	2	2		2		
		代数学特論1	2	3		2		
		代数学特論2	2	4		2		
		代数学演習	2	3		2		
		幾何学概論1	2	1		2		
		幾何学概論2	2	2		2		
		幾何学特論1	2	3		2		
		幾何学特論2	2	4		2		
		幾何学演習	2	3		2		
		解析学概論1	2	1		2		
		解析学概論2	2	2		2		
		解析学特論1	2	3		2		
		解析学特論2	2	4		2		
		解析学演習	2	3		2		
		確率論1	2	1		2		
		確率論2	2	2		2		
		基礎統計学1	2	3		2		
		基礎統計学2	2	4		2		
		確率論演習	2	3		2		
		基礎統計学演習	2	5		2		
		プログラミング1	2	3		2		
		プログラミング2	2	3		2		
		データ解析演習	2	4		2		
		数学特別演習	2	5		2		
		特別支援教育基礎理論	2	3		2		
専門科目		特別支援教育基礎理論2	2	3		2		
		知的障害児の心理	2	3		2		
		知的障害児の生理・病理	2	3		2		
		肢体不自由児の心理・生理・病理	2	3		2		
		病弱虚弱児の心理・生理・病理	2	3		2		
		知的障害教育Ⅰ	2	3		2		
		知的障害教育Ⅱ	2	3		2		
		肢体不自由児の指導法	2	3		2		
		病弱虚弱児の指導法	2	3		2		
		視覚障害教育総論	2	3		2		
		聴覚障害教育総論	2	3		2		
		重複障害・発達障害児の指導法	2	3		2		
		教育原論2	2	2		2		
		現場体験実習1	1	1		1		
		現場体験実習2	1	2		1		
		現場体験実習3	1	3		1		
		現場体験実習4	1	4		1		
		教職実践演習(教諭)	2	8		2		
		教育職インターンシップ1	2	3		2		
		教育職インターンシップ2	2	5		2		
		教育職インターンシップ・イクステンション1	2	4		2		
		教育職インターンシップ・イクステンション2	2	6		2		
		臨床心理学	2	3		2		
		ピアノ指導1	1	1		1		
		ピアノ指導2	1	2		1		
		ピアノ指導3	1	3		1		
		ピアノ指導4	1	4		1		
		生涯学習概論	2	2		2		
		生涯学習概論2	2	3		2		
		社会教育演習	2	5		2		
		社会教育課題研究	2	3		2		
		社会教育特殊講義	2	3		2		
		男女共同参画論	2	3		2		
		NPO法人マネジメント論	2	3		2		
		図書館概論	2	3		2		
		博物館学Ⅰ	2	3		2		
		図書館情報技術論	2	3		2		
		図書館制度・経営論	2	3		2		
		図書館サービス概論	2	3		2		
		情報サービス論	2	3		2		
		児童サービス論	2	3		2		
		情報サービス演習1	2	5		2		
		情報サービス演習2	2	5		2		
		図書館情報資源概論	2	3		2		
		情報資源組織論	2	3		2		

	関連科目	情報資源組織演習1	2	5		2		
		情報資源組織演習2	2	5		2		
		図書・図書館史	2	3		2		
		図書館情報資源特論	2	3		2		
		図書館サービス特論	2	3		2		
		図書館総合演習	2	5		2		
		図書館基礎特論	1	7		1		
		学校経営と学校図書館	2	3		2		
		学校図書館メディアの構成	2	3		2		
		学習指導と学校図書館	2	3		2		
		読書と豊かな人間性	2	3		2		
		情報メディアの活用	2	3		2		
		レクリエーション実技	1	3		1		
		レクリエーション指導実習	1	3		1		
		レクリエーション概論	2	3		2		
		宗教教育論	2	3		2		
		視聴覚教育メディア論	2	3		2		
		仏教音楽教育論	2	1		2		
		中等教科教育法社会・地理歴史1	2	3			2	
		中等教科教育法社会・地理歴史2	2	4			2	
		中等教科教育法社会・公民1	2	3			2	
		中等教科教育法社会・公民2	2	4			2	
		中等教科教育法国語1	2	3			2	
		中等教科教育法国語2	2	4			2	
		中等教科教育法国語3	2	3			2	
		中等教科教育法国語4	2	4			2	
		中等教科教育法書道1	2	3			2	
		中等教科教育法書道2	2	4			2	
		中等教科教育法英語1	2	3			2	
		中等教科教育法英語2	2	4			2	
		中等教科教育法英語3	2	3			2	
		中等教科教育法英語4	2	4			2	
		中等教科教育法中国語1	2	3			2	
		中等教科教育法中国語2	2	4			2	
		中等教科教育法中国語3	2	3			2	
		中等教科教育法中国語4	2	4			2	
		中等教科教育法宗教1	2	3			2	
		中等教科教育法宗教2	2	4			2	
		中等教科教育法宗教3	2	3			2	
		中等教科教育法宗教4	2	4			2	
		中等教科教育法情報1	2	3			2	
		中等教科教育法情報2	2	4			2	
		中等教科教育法福祉1	2	3			2	
		中等教科教育法福祉2	2	4			2	
		教育実習(小)1	4	5			4	
		教育実習(小)2	2	5			2	
		教育実習(小)3	2	5			2	
		教育実習指導(小)	1	5			1	
		教育実習(幼・小)1	2	5			2	
		教育実習(幼・小)2	2	5			2	
		教育実習指導(幼・小)	1	5			1	
		教育実習(小・中)1	2	5			2	
		教育実習(小・中)2	2	5			2	
		教育実習指導(小・中)	1	5			1	
		教育実習(中・高)1	2	6			2	
		教育実習(中・高)2	2	6			2	
		教育実習指導(中・高)	1	5			1	
		教育実習(特支)	2	6			2	
		教育実習指導(特支)	1	5			1	
		社会教育実習	1	5			1	
		図書館実習	1	7			1	
		介護等体験指導	1	3			1	
		介護等体験	1	4			1	

別表第7の2（第12条の2関係）（教育学部幼児教育学科）

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスタ	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
専門科目	学部基幹科目	教育原論	2	1	2			3科目5単位を履修すること。
		教育相談の理論及び方法	2	3	2			
		特別な教育的ニーズの理解とその支援	1	3	1			
	学科基礎科目	入門ゼミ	2	1	2			必修科目8科目16単位および選択科目のうち2科目4単位以上，合計10科目20単位以上を履修すること。
		教育学基礎演習1	2	3	2			
		教育学基礎演習2	2	4	2			
		教育心理学	2	1	2			
		教育心理学2	2	2		2		
		教育社会学	2	1	2			
		教育社会学2	2	2		2		
		教師・保育者論	2	2	2			
		幼児教育・保育課程論	2	2	2			
		幼児理解及び保育相談	2	3	2			
		保育原理	2	1		2		
		教育哲学	2	2		2		
		教育史	2	1		2		
		教育人間学	2	3		2		
		教育行政学	2	1		2		
		教育行政学2	2	2		2		
		臨床教育学	2	3		2		
		学校経営論	2	3		2		
		学級経営論	2	3		2		
		発達心理学	2	3		2		
		比較教育学	2	3		2		
		教育法規	2	3		2		
		教育評価論	2	3		2		
		障害教育総論	2	3		2		
	学科専攻科目	教育学演習1	2	5	2			必修科目12科目28単位および○印科目のうち5科目10単位を含み38単位以上を履修すること。
		教育学演習2	2	6	2			
		卒業論文演習1	2	7	2			
		卒業論文演習2	2	8	2			
		卒業論文	6	8	6			
		保育の内容及び方法	2	3	2			
		○幼児と健康	2	1		2		
		○幼児と人間関係	2	1		2		
		○幼児と環境	2	1		2		
		○幼児と言葉	2	1		2		
		○幼児と表現（造形）	2	1		2		
		○幼児と表現（音楽）	2	1		2		
		○幼児と表現（身体）	2	1		2		
		保育内容の理論と方法「健康」	2	3	2			
		保育内容の理論と方法「人間関係」	2	3	2			
		保育内容の理論と方法「環境」	2	3	2			
		保育内容の理論と方法「言葉」	2	3	2			
		保育内容の理論と方法「造形表現」	2	3	2			
		保育内容の理論と方法「音楽表現」	2	3	2			
		保育内容の理論と方法「身体表現」	2	3		2		
		人権(同和)教育	2	3		2		
		ICTの活用及び教育	2	3		2		
		国際理解教育演習	2	3		2		
		子ども家庭福祉	2	2		2		

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスタ	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
目	学科専攻科目	社会福祉援助技術論1	2	3		2		
		子ども家庭支援論	2	5		2		
		社会的養護1	2	3		2		
		子ども家庭支援の心理学	2	3		2		
		子どもの保健	2	3		2		
		子どもの食と栄養	2	5		2		
		乳児保育1	2	3		2		
		乳児保育2	1	5		1		
		子どもの健康と安全	1	5		1		
		障害児保育	2	3		2		
		社会的養護2	1	5		1		
		子育て支援	1	3		1		
		保育実習1A	2	6		2		
		保育実習1B	2	6		2		
		保育実習指導1(事前)	1	5		1		
		保育実習指導1(事後)	1	6		1		
		保育実践演習	2	8		2		
		ピアノ指導1	1	1		1		
		ピアノ指導2	1	2		1		
		ピアノ指導3	1	3		1		
		ピアノ指導4	1	4		1		
		保育実習2	2	7		2		
		保育実習指導2	1	7		1		
		保育実習3	2	7		2		
		保育実習指導3	1	7		1		
	関連科目	教育原論2	2	2		2		
		教育実習(幼)1	4	5		4		
		教育実習(幼)2	2	5		2		
		教育実習(幼)3	2	5		2		
		教育実習(幼・小)1	2	5		2		
		教育実習(幼・小)2	2	5		2		
		教育実習指導(幼)	1	5		1		
		教育実習指導(幼・小)	1	5		1		
		教職実践演習(教諭)	2	8		2		
		保育・教職実践演習(教諭)	2	8		2		
		現場体験実習1	1	1		1		
		現場体験実習2	1	2		1		
		現場体験実習3	1	3		1		
		現場体験実習4	1	4		1		
		教育職インターンシップ1	2	3		2		
		教育職インターンシップ2	2	5		2		
		教育職インターンシップ・イクステンション1	2	4		2		
		教育職インターンシップ・イクステンション2	2	6		2		
		レクリエーション実技	1	3		1		
		レクリエーション指導実習	1	3		1		
		レクリエーション概論	2	3		2		
		宗教教育論	2	3		2		
		視聴覚教育メディア論	2	3		2		
		仏教音楽教育論	2	1		2		

別表第8　削除

別表第8の2（第13条の2関係）（教育学部臨床心理学科）

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
専門科目	学部基幹科目	教育原論	2	1	2			3科目5単位を履修すること。
		教育相談の理論及び方法	2	3	2			
		特別な教育的ニーズの理解とその支援	1	3	1			
	学科基礎科目	入門ゼミ	2	1	2			11科目22単位を履修すること。
		心理学史	2	1	2			
		基礎心理学	2	1	2			
		心理学概論	2	1	2			
		臨床心理学史	2	1	2			
		臨床心理学概論	2	1	2			
		心理学研究法	2	1	2			
		心理学統計法1	2	1	2			
		心理学統計法2	2	2	2			
		臨床心理学基礎ゼミ1	2	3	2			
		臨床心理学基礎ゼミ2	2	4	2			
	学科専攻科目	公認心理師の職責	2	5		2		必修科目14単位を含み67単位以上を履修すること。
		心理学実験1	1	3		1		
		心理学実験2	1	5		1		
		知覚・認知心理学	2	3		2		
		学習・言語心理学	2	3		2		
		感情・人格心理学	2	3		2		
		神経・生理心理学	2	3		2		
		社会・集団・家族心理学	2	3		2		
		発達心理学	2	3		2		
		障害者・障害児心理学	2	5		2		
		心理的アセスメント	2	3		2		
		心理学的支援法（力動的アプローチ）	2	3		2		
		心理学的支援法（行動的アプローチ）	2	5		2		
		健康・医療心理学	2	3		2		
		福祉心理学	2	5		2		
		教育・学校心理学	2	5		2		
		司法・犯罪心理学	2	5		2		
		産業・組織心理学	2	3		2		
		人体の構造と機能及び疾病	2	3		2		
		精神疾患とその治療	2	5		2		
		関係行政論	2	3		2		
		心理演習1	1	3		1		
		心理演習2	1	5		1		
		心理演習3	1	5		1		
		心理演習4	1	5		1		
		心理実習1	1	6		1		
		心理実習2	1	7		1		
		少年法	2	3		2		
		家族関係論	2	3		2		
		地域支援論	2	5		2		
		カウンセリング論	2	5		2		
		思春期の心	2	3		2		
		非行臨床心理学	2	3		2		
		子どもの心理臨床	2	3		2		
		心理療法論（箱庭療法論）	2	5		2		
		心理療法論（応用行動分析）	2	5		2		
		臨床心理学特殊講義	2	5		2		
		質問紙法実習	1	5		1		
		統計リメディアル	2	7		2		
		心理学外書講読	2	3		2		
		臨床心理学ゼミ1	2	5	2			
		臨床心理学ゼミ2	2	6	2			

学科専門科目		卒業研究ゼミ1	2	7	2			
		卒業研究ゼミ2	2	8	2			
		卒業論文	6	8	6			
	関連科目	日本史概論	2	1		2		
		東洋史概論	2	1		2		
		西洋史概論	2	1		2		
		日本史特論	2	2		2		
		法律学概論1	2	1		2		
		法律学概論2	2	2		2		
		倫理学概論	2	1		2		
		哲学概論	2	2		2		
		宗教学概論	2	1		2		
		国際政治学	2	1		2		
		社会学概論	2	1		2		
		経済学概論	2	1		2		
		自然地理学1	2	3		2		
		自然地理学2	2	4		2		
		地誌学1	2	3		2		
		地誌学2	2	4		2		

別表第9～別表第11の2 削除

別表第11の3（第16条の3関係）（社会学部現代社会学科）

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
専門科目	学部基幹科目		現代社会論	2	2	2			必修科目2科目4単位および選択科目のうち2科目4単位以上，合計4科目8単位以上を履修すること。
			公共性と社会	2	1	2			
			現代思想	2	1		2		
			環境社会システム論	2	1		2		
			現代日本社会史	2	2		2		
			現代市民論	2	2		2		
			20世紀の歴史	2	1		2		
	学科基礎科目		現代社会学入門ゼミ	2	1	2			必修科目3科目6単位および選択科目のうち6科目12単位以上，合計9科目18単位以上を履修すること。
			社会学史（古典）	2	3	2			
			社会学史（現代）	2	4	2			
			現代社会学講読	2	3		2		
			社会学原論	2	3		2		
			社会思想史	2	3		2		
			社会心理学	2	3		2		
			家族社会学	2	3		2		
			文化人類学	2	3		2		
			コミュニケーションと社会	2	3		2		
			社会調査論1	2	3		2		
			社会調査論2	2	4		2		
			現代社会学特殊講義1	2	3		2		
			現代社会学特殊講義2	2	4		2		
			現代社会学外国文献研究1	2	3		2		
			現代社会学外国文献研究2	2	4		2		
	学科専攻科目	共通	現代社会学ゼミ1	2	5	2			5科目12単位を履修すること。
			現代社会学ゼミ2	2	6	2			
			現代社会学卒業研究ゼミ1	2	7	2			
			現代社会学卒業研究ゼミ2	2	8	2			
			卒業リポート	4	8	4			
		文化・国際コース	○文化社会学	2	3		2		「文化・国際コース」・「共生・臨床社会コース」・「情報・メディアコース」のいずれか1コースを選択し，選択したコースのうち○印科目を含み8科目16単位以上を履修したうえで，合計13科目26単位以上を履修すること。
			現代文化論	2	3		2		
			消費文化論	2	3		2		
			社会意識論	2	3		2		
			宗教社会学	2	3		2		
			現代宗教論	2	3		2		
			○国際社会論	2	3		2		
			現代国家論	2	3		2		
			異文化理解	2	3		2		
			エリアスタディ	2	3		2		
			グローバル化論	2	3		2		
			文化・国際特殊講義1	2	3		2		
			文化・国際特殊講義2	2	3		2		
			文化・国際特殊講義3	2	3		2		
			文化・国際特殊講義4	2	3		2		
		共生・臨床社会コース	○共生の社会学	2	3		2		
			社会階層論	2	3		2		
			ジェンダー論	2	3		2		
			マイノリティ論	2	3		2		
			○臨床社会学	2	3		2		
			社会病理学	2	3		2		
			逸脱行動論	2	3		2		
			家族病理と臨床	2	3		2		
			学校病理と臨床	2	3		2		
			地域病理と臨床	2	3		2		
			保健医療社会学	2	3		2		
			カウンセリング論	2	3		2		
			共生・臨床社会特殊講義1	2	3		2		
			共生・臨床社会特殊講義2	2	3		2		
			共生・臨床社会特殊講義3	2	3		2		
			共生・臨床社会特殊講義4	2	3		2		

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
専門科目	学科専攻科目	情報・メディアコース	○情報・メディアとコミュニケーション	2	3		2		
			○情報社会論	2	3		2		
			マスコミ論	2	3		2		
			地域情報論	2	3		2		
			広告・広報論	2	3		2		
			メディア・リテラシー	2	3		2		
			デジタル・メディア論	2	3		2		
			メディア文化論	2	3		2		
			情報通信ネットワーク論	2	3		2		
			情報システム論	2	3		2		
			情報・メディア特殊講義1	2	3		2		
			情報・メディア特殊講義2	2	3		2		
			情報・メディア特殊講義3	2	3		2		
			情報・メディア特殊講義4	2	3		2		
			情報・メディア実習1	1	3		1		
			情報・メディア実習2	1	4		1		
	関連科目		日本史概論	2	1		2		
			東洋史概論	2	1		2		
			西洋史概論	2	1		2		
			日本史特論	2	2		2		
			人文地理学1	2	3		2		
			人文地理学2	2	4		2		
			自然地理学1	2	3		2		
			自然地理学2	2	4		2		
			地誌学1	2	3		2		
			地誌学2	2	4		2		
			社会学概論	2	1		2		
			法律学概論1	2	1		2		
			法律学概論2	2	2		2		
			倫理学概論	2	1		2		
			哲学概論	2	2		2		
			宗教学概論	2	1		2		
			経済学概論	2	1		2		
			プロジェクト演習	2	3		2		
			社会調査法演習1	2	5		2		
			社会調査法演習2	2	5		2		
			基礎統計学1	2	3		2		
			基礎統計学2	2	4		2		
			データ解析演習	2	6		2		
			調査研究演習1	2	5		2		
			調査研究演習2	2	6		2		
			調査研究演習3	1	5		1		
			グローカル人材PBL	2	5		2		
			地域経済論	2	3		2		
			NPO法人マネジメント論	2	3		2		
			中小企業論	2	3		2		
			女性史	2	3		2		
			現代社会と女性	2	3		2		
			情報産業と職業	2	3		2		
			情報メディアと社会	2	3		2		
			ジャーナリズム論	2	3		2		
			放送論	2	3		2		
			情報システム実習	1	5		1		
			情報ビジネス	2	5		2		
			情報犯罪論	2	3		2		
			情報通信ネットワーク実習	1	5		1		
			コンピュータ論	2	1		2		
			京都の産業	2	3		2		
			国際政治学	2	1		2		
			日本仏教史(仏教伝来～平安)	2	1		2		
			日本仏教史(鎌倉以降)	2	2		2		
			中国仏教史	2	1		2		

別表第11の4（第16条の4関係）（社会学部公共政策学科）

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
専門科目	学部基幹科目		現代社会論	2	2	2			必修科目2科目4単位および選択科目のうち2科目4単位以上を履修すること。
			公共性と社会	2	1	2			
			現代思想	2	1		2		
			環境社会システム論	2	1		2		
			現代日本社会史	2	2		2		
			現代市民論	2	2		2		
			20世紀の歴史	2	1		2		
	学科基礎科目		公共政策学入門ゼミ	2	1	2			必修科目3科目6単位および選択科目のうち6科目12単位以上を履修すること。
			公共政策学(概論)	2	3	2			
			公共政策学(各論)	2	4	2			
			法学入門1	2	1		2		
			法学入門2	2	2		2		
			経済学入門1	2	1		2		
			経済学入門2	2	2		2		
			公共政策学特殊講義1	2	3		2		
			公共政策学特殊講義2	2	4		2		
			公共政策学外国文献研究1	2	3		2		
			公共政策学外国文献研究2	2	4		2		
			公共政策学講読	2	3		2		
			公共政策学フィールドワーク入門	2	3		2		
			公共政策学フィールドワーク実習1	1	5		1		
			公共政策学フィールドワーク実習2	1	6		1		
	学科専攻科目	共通	公共政策学ゼミ1	2	5	2			5科目12単位を履修すること。
			公共政策学ゼミ2	2	6	2			
			公共政策学卒業研究ゼミ1	2	7	2			
			公共政策学卒業研究ゼミ2	2	8	2			
			卒業リポート	4	8	4			
		地域政治コース	行政法(総論)	2	3		2		「地域政治コース」・「地域経済コース」のいずれかを選択し，選択したコースのうち○印科目を含み20単位以上を履修したうえで，合計13科目26単位以上を履修すること。
			行政法(行政救済法・行政組織法)	2	3		2		
			民法(総則・物権)	2	3		2		
			民法(債権・親族・相続)	2	3		2		
			労働法(集団的労働関係法)	2	3		2		
			労働法(個別的労働関係法)	2	3		2		
			社会保障法	2	3		2		
			地域社会学	2	3		2		
			刑法	2	5		2		
			商法	2	5		2		
			○地域政策論	2	3		2		
			地方自治法	2	3		2		
			行政学(概論)	2	3		2		
			行政学(各論)	2	3		2		
			政治社会学	2	3		2		
			政治過程論	2	3		2		
			住民自治論	2	3		2		
			コミュニティ論	2	3		2		
			地域政治特殊講義1	2	3		2		
			地域政治特殊講義2	2	3		2		
			地域政治特殊講義3	2	3		2		
			地域政治特殊講義4	2	3		2		
		地域経済コース	ミクロ経済学1	2	3		2		
			ミクロ経済学2	2	3		2		
			マクロ経済学1	2	3		2		
			マクロ経済学2	2	3		2		
			地方財政論	2	3		2		
			財政学	2	3		2		
			公共経済学	2	3		2		
			○地域経済論	2	3		2		
			社会的企業論	2	3		2		
			社会政策	2	3		2		
			会計学	2	5		2		
			経営学	2	5		2		
			環境政策論	2	3		2		
			環境社会学	2	3		2		

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
						必修	選択	自由	
専門科目	学科専攻科目	地域経済コース	環境技術論	2	3		2		
			地球環境論	2	3		2		
			環境評価論	2	3		2		
			都市環境論	2	3		2		
			都市計画論	2	3		2		
			地域経済特殊講義1	2	3		2		
			地域経済特殊講義2	2	3		2		
			地域経済特殊講義3	2	3		2		
			地域経済特殊講義4	2	3		2		
	関連科目		日本史概論	2	1		2		
			東洋史概論	2	1		2		
			西洋史概論	2	1		2		
			日本史特論	2	2		2		
			人文地理学1	2	3		2		
			人文地理学2	2	4		2		
			自然地理学1	2	3		2		
			自然地理学2	2	4		2		
			地誌学1	2	3		2		
			地誌学2	2	4		2		
			法律学概論1	2	1		2		
			法律学概論2	2	2		2		
			哲学概論	2	2		2		
			宗教学概論	2	1		2		
			倫理学概論	2	1		2		
			政治学概論	2	1		2		
			経済学概論	2	1		2		
			社会学概論	2	1		2		
			公務員演習1(数的推理・判断推理)	2	3		2		
			公務員演習2(文章理解・資料解釈)	2	3		2		
			公務員演習3(社会・人文・自然)	2	3		2		
			中小企業論	2	3		2		
			プロジェクト演習	2	3		2		
			異文化理解	2	3		2		
			グローバル化論	2	3		2		
			コミュニケーションと社会	2	3		2		
			共生の社会学	2	3		2		
			グローカル人材PBL	2	5		2		
			社会調査論1	2	3		2		
			社会調査論2	2	4		2		
			社会調査法演習1	2	5		2		
			社会調査法演習2	2	5		2		
			基礎統計学1	2	3		2		
			基礎統計学2	2	4		2		
			データ解析演習	2	6		2		
			調査研究演習1	2	5		2		
			調査研究演習2	2	6		2		
			調査研究演習3	1	5		1		
			国際政治学	2	1		2		
			NPO法人マネジメント論	2	3		2		
			民法概論	2	5		2		
			労働法概論	2	5		2		
			刑法概論	2	5		2		
			京都の産業	2	3		2		
			日本仏教史(仏教伝来～平安)	2	1		2		
			日本仏教史(鎌倉以降)	2	2		2		
			中国仏教史	2	1		2		

別表第11の5（第16条の5関係）（社会福祉学部社会福祉学科）

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
専門科目	学部基幹科目	現代の社会問題	2	1	2			3科目6単位を履修すること。
		福祉とケアの倫理	2	1	2			
		人権と福祉	2	1	2			
	学科基礎科目	社会福祉入門ゼミ	2	1	2			必修科目3科目6単位および選択科目のうち「社会福祉学専門ゼミ1.2」または「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク演習（専門）1」のいずれか2科目4単位を含み9科目18単位以上，合計12科目24単位以上を履修すること。
		社会福祉原論	2	2	2			
		社会福祉史	2	2	2			
		ソーシャルワークの基盤と専門職	2	1		2		
		ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2	2		2		
		ソーシャルワークの理論と方法1	2	3		2		
		ソーシャルワークの理論と方法2	2	4		2		
		社会福祉援助技術論1	2	3		2		
		社会的養護1	2	3		2		
		教育と福祉	2	4		2		
		社会福祉法	2	3		2		
		社会保障論1	2	3		2		
		社会保障論2	2	4		2		
		高齢者福祉論	2	2		2		
		障害児者福祉論	2	2		2		
		児童・家庭福祉論	2	2		2		
		貧困に対する支援	2	3		2		
		精神保健福祉の原理1	2	1		2		
		精神保健福祉の原理2	2	2		2		
		精神保健の課題と支援1	2	1		2		
		精神保健の課題と支援2	2	2		2		
		人間発達論	2	2		2		
		現代家族論	2	2		2		
		仏教福祉論	2	2		2		
		保育福祉入門	1	1		1		
		保育原理	2	2		2		
		教育原論	2	3		2		
		保育の心理学	2	2		2		
		子ども家庭福祉	2	2		2		
		社会福祉学専門ゼミ1	2	3		2		
		社会福祉学専門ゼミ2	2	4		2		
		ソーシャルワーク演習	2	3		2		
		ソーシャルワーク演習（専門）1	2	4		2		
	学科専攻科目	卒業研究ゼミ1	2	7	2			必修科目2科目4単位および選択科目のうち「社会福祉学専門ゼミ3」または「ソーシャルワーク演習（専門）2」のいずれか1科目2単位を含み9科目18単位以上，合計11科目22単位以上を履修すること。
		卒業研究ゼミ2	2	8	2			
		卒業リポート	4	8		4		
		社会福祉学専門ゼミ3	2	5		2		
		ソーシャルワーク演習（専門）2	2	5		2		
		ソーシャルワーク演習（専門）3	2	7		2		
		ソーシャルワーク演習（専門）4	2	7		2		
		教育福祉演習	2	6		2		
		キャリアスタディ	1	6		1		
		精神保健福祉援助演習1	2	5		2		
		精神保健福祉援助演習2	2	5		2		
		精神保健福祉援助演習3	2	7		2		
		社会福祉調査の基礎	2	3		2		
		医学概論	2	5		2		
		保健医療と福祉	2	3		2		
		地域福祉と包括的支援体制1	2	3		2		
		地域福祉と包括的支援体制2	2	4		2		
		ソーシャルワークの理論と方法3	2	5		2		
		ソーシャルワークの理論と方法4	2	7		2		
		福祉行財政と福祉計画	2	3		2		
		福祉サービスの組織と経営	2	5		2		
		社会福祉の原理と政策1	2	7		2		
		社会福祉の原理と政策2	2	8		2		
		権利擁護を支える法制度	2	5		2		
		刑事司法と福祉	2	5		2		

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
専門科目	学科専攻科目	アジアの社会と福祉	2	2		2		
		欧米の社会と福祉	2	3		2		
		高齢者ケア論	2	3		2		
		障害児者ケア論	2	3		2		
		児童ケア論	2	3		2		
		精神保健福祉制度論	2	5		2		
		精神医学1	2	3		2		
		精神医学2	2	4		2		
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)1	2	5		2		
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)2	2	7		2		
		精神障害リハビリテーション論	2	7		2		
		介護概論	2	4		2		
		障害児臨床論	2	3		2		
		医療福祉論	2	4		2		
		福祉と協同の思想	2	3		2		
		現代福祉社会論	2	3		2		
		社会政策論1	2	3		2		
		社会政策論2	2	4		2		
		自治体福祉政策論	2	3		2		
		医療政策	2	4		2		
		日本社会福祉史	2	3		2		
		欧米社会福祉史	2	3		2		
		リハビリテーション論	2	5		2		
		心身ケア論	2	3		2		
		居住福祉論	2	3		2		
		国際福祉論	2	3		2		
		保育者論	2	3		2		
		子ども家庭支援の心理学	2	3		2		
		子どもの理解と援助	1	3		1		
		子どもの保健	2	3		2		
		子どもの食と栄養	2	5		2		
		子ども家庭支援論	2	5		2		
		保育の計画と評価	2	5		2		
		保育内容総論	1	3		1		
		保育内容演習「健康」	1	3		1		
		保育内容演習「人間関係」	1	3		1		
		保育内容演習「環境」	1	3		1		
		保育内容演習「言葉」	1	3		1		
		保育内容演習「表現」	1	3		1		
		乳児保育1	2	3		2		
		乳児保育2	1	5		1		
		子どもの健康と安全	1	5		1		
		障害児保育	2	3		2		
		社会的養護2	1	5		1		
		子育て支援	1	3		1		
		保育内容の理解と方法1	1	2		1		
		保育内容の理解と方法2	1	3		1		
		保育内容の理解と方法3	1	2		1		
		保育内容の理解と方法4	1	3		1		
		保育実践演習	2	8		2		

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
専門科目	関連科目	心理学と心理的支援	2	3		2		
		社会学と社会システム	2	3		2		
		介護技術指導	1	5		1		
		学童保育概論	2	3		2		
		社会福祉特別講義	2	7		2		
		ピアノ1	1	2		1		
		ピアノ2	1	3		1		
		ピアノ3	1	4		1		
		仏教保育論	2	3		2		
		保育内容特別演習1	2	3		2		
		保育内容特別演習2	2	7		2		
		国際社会福祉特殊講義	2	1		2		
		国際社会福祉研修1	2	1		2		
		国際社会福祉研修2	2	3		2		
		社会福祉総合実習	2	5		2		
		社会福祉総合実習指導	2	5		2		
		職業指導	2	3		2		
		教育心理学	2	2		2		
		発達心理学	2	3		2		
		日本史概論	2	1		2		
		日本史特論	2	2		2		
		東洋史概論	2	1		2		
		西洋史概論	2	1		2		
		地誌学1	2	3		2		
		地誌学2	2	4		2		
		自然地理学1	2	3		2		
		自然地理学2	2	4		2		
		人文地理学1	2	3		2		
		人文地理学2	2	4		2		
		法律学概論1	2	1		2		
		法律学概論2	2	2		2		
		国際政治学	2	1		2		
		社会学概論	2	1		2		
		経済学概論	2	1		2		
		哲学概論	2	2		2		
		宗教学概論	2	1		2		
		倫理学概論	2	1		2		
		社会心理学	2	3		2		
		日本仏教史(仏教伝来～平安)	2	1		2		
		日本仏教史(鎌倉以降)	2	2		2		
		中国仏教史	2	1		2		
		ソーシャルワーク実習指導1	2	4			2	
		ソーシャルワーク実習指導2	2	5			2	
		ソーシャルワーク実習指導3	2	6			2	
		ソーシャルワーク実習1	2	4			2	
		ソーシャルワーク実習2	4	5			4	
		精神保健福祉援助実習指導1	2	5			2	
		精神保健福祉援助実習指導2	2	7			2	
		精神保健福祉援助実習指導3	2	8			2	
		精神保健福祉援助実習1	3	6			3	
		精神保健福祉援助実習2	2	7			2	
		保育実習1A	2	6			2	
		保育実習1B	2	6			2	
		保育実習指導1(事前)	1	5			1	
		保育実習指導1(事後)	1	6			1	
		保育実習2	2	7			2	
		保育実習3	2	7			2	
		保育実習指導2	1	7			1	
		保育実習指導3	1	7			1	

別表第11の6（第16条の6関係）（保健医療技術学部理学療法学科）

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
専門科目	学部基幹科目	医療概論	1	1	1			1科目1単位を履修すること。
	学科基礎科目	入門ゼミ	2	2	2			必修科目33科目52単位を履修すること。
		リハビリテーション医学概論	1	1	1			
		公衆衛生学	1	2	1			
		基礎解剖学	2	1	2			
		解剖学	4	2	4			
		解剖学実習	1	3	1			
		基礎生理学	2	1	2			
		生理学	4	2	4			
		生理学実習	1	3	1			
		病理学概論	1	4	1			
		感染管理学	1	2	1			
		基礎運動学	2	2	2			
		基礎運動学演習	1	3	1			
		基礎運動学実習	1	4	1			
		内科学Ⅰ	2	3	2			
		内科学Ⅱ	2	3	2			
		精神医学	2	4	2			
		臨床心理学	2	4	2			
		神経内科学Ⅰ	1	3	1			
		神経内科学Ⅱ	1	3		1		
		整形外科学Ⅰ	2	3	2			
		整形外科学Ⅱ	2	4		2		
		脳神経外科学	1	3	1			
		小児科学	1	4	1			
		画像診断学	1	4	1			
		救急医学	1	4	1			
		薬理学	1	5	1			
		栄養学	1	2	1			
		理学療法学概論	1	1	1			
		理学療法研究法	2	5	2			
		理学療法研究法演習Ⅰ	2	6	2			
		理学療法評価学Ⅰ	2	2	2			
		理学療法評価学Ⅱ	2	3	2			
		理学療法評価学演習Ⅰ	1	4	1			
		理学療法評価学演習Ⅱ	1	4	1			
	学科専攻科目	運動療法学	2	4	2			必修科目26科目49単位を履修すること。
		運動療法学実習	1	5	1			
		運動器系理学療法学	2	5	2			
		運動器系理学療法学演習	1	6	1			
		中枢神経系理学療法学	2	5	2			
		中枢神経系理学療法学演習	1	6	1			
		内部障害理学療法学Ⅰ	1	5	1			
		内部障害理学療法学Ⅱ	1	5	1			
		内部障害理学療法学演習	1	6	1			

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
専門科目	学科専攻科目	神経筋障害理学療法学	1	5	1			
		神経筋障害理学療法学演習	1	6	1			
		装具学	2	5	2			
		義肢学	1	6	1			
		物理療法学	2	5	2			
		物理療法学演習	1	6	1			
		日常生活動作学	1	5	1			
		小児理学療法学	1	5	1			
		地域リハビリテーション論	2	2	2			
		地域理学療法学	1	5	1			
		健康増進理学療法	1	6	1			
		福祉用具論	1	4		1		
		臨床バイオメカニクス	1	6		1		
		理学療法技術論Ⅰ	2	4		2		
		理学療法技術論Ⅱ	1	6		1		
		臨床基礎実習	2	4	2			
		臨床評価実習	4	6	4			
		総合臨床実習Ⅰ	7	7	7			
		総合臨床実習Ⅱ	7	7	7			
		理学療法研究法演習Ⅱ	2	8	2			
		臨床理学療法特論Ⅰ	1	6	1			
		臨床理学療法特論Ⅱ	1	8		1		
	関連科目	生化学	2	1		2		2単位以上履修すること。
		高齢者ケア論	2	3		2		
		障害児者ケア論	2	3		2		
		居住福祉論	2	3		2		
		精神保健福祉論	2	3		2		
		医学一般	2	3		2		
		精神科リハビリテーション学	1	5		1		
		神経リハビリテーション学	2	4		2		
		健康科学論	2	5		2		
		スポーツ理学療法学Ⅰ	1	5		1		
		スポーツ理学療法学Ⅱ	1	8		1		
		地域ケア論	1	8		1		
		障がい者スポーツ論	2	1			2	
		障がい者スポーツ演習	2	2			2	

別表第11の7（第16条の7関係）（保健医療技術学部作業療法学科）

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
専門科目	学部基幹科目	医療概論	1	1	1			1科目1単位を履修すること。
	学科基礎科目	入門ゼミ	2	2	2			必修科目38科目55単位を履修すること。
		リハビリテーション医学概論	1	1	1			
		基礎解剖学	2	1	2			
		解剖学	4	2	4			
		解剖学実習	1	3	1			
		基礎生理学	2	1	2			
		生理学	4	2	4			
		生理学実習	1	3	1			
		病理学概論	1	4	1			
		公衆衛生学	1	2	1			
		感染管理学	1	2	1			
		基礎運動学	1	2	1			
		基礎運動学演習	1	2	1			
		内科学Ⅰ	2	3	2			
		内科学Ⅱ	2	3	2			
		精神医学	2	4	2			
		臨床心理学	2	4	2			
		神経内科学Ⅰ	1	3	1			
		神経内科学Ⅱ	1	3		1		
		整形外科学Ⅰ	2	3	2			
		整形外科学Ⅱ	2	4		2		
		脳神経外科学	1	3	1			
		小児科学	1	4	1			
		画像診断学	1	4	1			
		救急医学	1	4	1			
		薬理学	1	5	1			
		栄養学	1	2	1			
		基礎作業学	2	3	2			
		基礎作業学演習	1	4	1			
		作業療法学概論	2	1	2			
		作業療法研究方法論	1	6	1			
		作業療法管理運営論	2	6	2			
		作業療法評価学総論	1	3	1			
		作業療法評価学演習	1	5	1			
		日常生活機能評価学演習	1	4	1			
		感覚・運動系評価学演習	1	3	1			
		精神・社会系評価学演習	1	4	1			
		発達系評価学演習	1	3	1			
		高次脳機能系評価学演習	1	5	1			
		作業療法コミュニケーション学	1	3	1			
		作業療法特論	2	6		2		
	学科専攻科目	感覚・運動系作業治療学Ⅰ	2	4	2			21科目47単位を履修すること。
		感覚・運動系作業治療学Ⅱ	2	5	2			
		感覚・運動系作業治療学演習	1	6	1			
		精神・社会系作業治療学	2	5	2			
		精神・社会系作業治療学演習	1	6	1			

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
専門科目	学科専攻科目	発達系作業治療学	2	5	2			
		発達系作業治療学演習	1	6	1			
		高次脳機能系作業治療学	2	6	2			
		地域作業治療学	2	3	2			
		地域作業治療学演習	1	8	1			
		老年期作業治療学	2	4	2			
		生活行為援助論	1	5	1			
		生活行為援助論演習	1	5	1			
		リハビリテーション工学演習	1	6	1			
		臨床見学実習	1	1	1			
		地域実習Ⅰ	1	4	1			
		臨床評価実習	3	6	3			
		総合臨床実習Ⅰ	8	7	8			
		総合臨床実習Ⅱ	8	7	8			
		地域実習Ⅱ	3	8	3			
		卒業研究	2	8	2			
		作業療法総合演習	1	8		1		
	関連科目	生化学	2	1		2		1科目1単位以上履修すること
		高齢者ケア論	2	3		2		
		障害児者ケア論	2	3		2		
		居住福祉論	2	3		2		
		精神保健福祉論	2	3		2		
		医学一般	2	3		2		
		精神科リハビリテーション学	1	5		1		
		健康科学論	2	5		2		
		障がい者スポーツ論	2	1			2	
		障がい者スポーツ演習	2	2			2	

別表第11の8（第16条の8関係）（看護学部看護学科）

系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由			備考
					必修	選択	自由	
専門科目	学部基幹科目	医療概論	1	1	1			1科目1単位を履修すること。
	学科基礎科目	アカデミック・スキルズ	2	2	2			15科目28単位を履修すること。
		仏教看護	1	3	1			
		基礎解剖学	2	1	2			
		基礎生理学	2	1	2			
		病理学概論	2	2	2			
		栄養学	2	2	2			
		疾病論Ⅰ	2	2	2			
		疾病論Ⅱ	2	2	2			
		疾病論Ⅲ	2	3	2			
		疾病論Ⅳ	2	3	2			
		薬理学	1	3	1			
		公衆衛生学	2	3	2			
		社会福祉	2	2	2			
		保健医療福祉行政論	2	3	2			
		保健統計学	2	4	2			
	学科専攻科目	看護学概論	2	1	2			必修科目69単位を履修すること。 なお，「保健師国家試験受験資格」を希望する場合は，選択科目9科目19単位をあわせて履修すること。
		看護実践基盤技術論	2	1	2			
		フィジカルアセスメント技術	1	2	1			
		生活行動援助技術論	2	2	2			
		看護過程論	1	3	1			
		診療援助技術論Ⅰ	1	3	1			
		診療援助技術論Ⅱ	1	4	1			
		基礎看護学実習Ⅰ	1	2	1			
		基礎看護学実習Ⅱ	2	3	2			
		コミュニティ実習	1	1	1			
		地域・在宅看護学概論	1	2	1			
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	2	3	2			
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	5	1			
		地域・在宅看護学実習	2	6	2			
		クリティカルケア看護学Ⅰ	2	4	2			
		クリティカルケア看護学Ⅱ	1	5	1			
		クリティカルケア看護学実習	3	6	3			
		慢性看護学Ⅰ	2	4	2			
		慢性看護学Ⅱ	1	5	1			
		慢性看護学実習	3	6	3			
		老年看護学概論	1	3	1			
		老年看護方法論Ⅰ	2	4	2			
		老年看護方法論Ⅱ	1	5	1			

専門科目	学科専攻科目	老年看護学実習	3	6	3			
		小児看護学概論	1	3	1			
		小児看護方法論Ⅰ	2	4	2			
		小児看護方法論Ⅱ	1	5	1			
		小児看護学実習	2	7	2			
		母性看護学概論	1	3	1			
		母性看護方法論Ⅰ	2	4	2			
		母性看護方法論Ⅱ	1	5	1			
		母性看護学実習	2	7	2			
		精神看護学概論	1	3	1			
		精神看護方法論Ⅰ	2	4	2			
		精神看護方法論Ⅱ	1	5	1			
		精神看護学実習	2	7	2			
		公衆衛生看護学概論	2	4	2			
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	2	4		2		
		公衆衛生看護方法論Ⅱ	2	5		2		
		公衆衛生看護展開論Ⅰ	2	5		2		
		公衆衛生看護展開論Ⅱ	2	5		2		
		公衆衛生看護管理論Ⅰ	2	5		2		
		公衆衛生看護管理論Ⅱ	2	5		2		
		公衆衛生看護活動論	2	7		2		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	1	7		1		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	7		4		
		国際看護学	1	3	1			
		災害看護学	1	5	1			
		エンドオブライフケア論	1	5	1			
		ホリスティックケアアプローチ	1	5	1			
		看護倫理学	1	7	1			
		看護マネジメント	1	8	1			
		看護研究Ⅰ	1	7	1			
		看護研究Ⅱ	1	8	1			
		統合実践看護実習	2	7	2			
	関連科目	生化学	2	1		2		学科専攻科目の選択科目「公衆衛生看護方法論Ⅰ」および関連科目から 合計6単位以上を履修すること。 「保健師国家試験受験資格」を希望する場合、「看護疫学」を履修すること。
		感染免疫学	1	2		1		
		臨床心理学	1	3		1		
		看護疫学	2	4		2		
		看護教育学	1	8		1		
		クリティカルケア看護実践	1	8		1		
		臨床推論	1	8		1		

別表第12（第17条関係）（教育職員免許状取得に関わる科目）

中学校・高等学校

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
中等教科教育法社会1 中等教科教育法社会2 中等教科教育法社会3 中等教科教育法社会4 中等教科教育法社会・地理歴史1 中等教科教育法社会・地理歴史2 中等教科教育法社会・公民1 中等教科教育法社会・公民2 中等教科教育法国語1 中等教科教育法国語2 中等教科教育法国語3 中等教科教育法国語4 中等教科教育法書道1 中等教科教育法書道2 中等教科教育法英語1 中等教科教育法英語2 中等教科教育法英語3 中等教科教育法英語4 中等教科教育法中国語1 中等教科教育法中国語2 中等教科教育法中国語3 中等教科教育法中国語4 中等教科教育法宗教1 中等教科教育法宗教2 中等教科教育法宗教3 中等教科教育法宗教4 中等教科教育法数学1 中等教科教育法数学2 中等教科教育法数学3 中等教科教育法数学4 中等教科教育法情報1 中等教科教育法情報2 中等教科教育法福祉1 中等教科教育法福祉2	中8 ・ 高4		中等教科教育法は、受けようとする免許教科ごとに，中一種の場合は1・2・3・4の4科目8単位，高一種の場合は1・2の2科目4単位を履修すること。 但し、中学校社会と高校地歴を取得希望する場合は、「中等教科教育法社会1」「中等教科教育法社会2」「中等教科教育法社会・地理歴史1」「中等教科教育法社会・地理歴史2」の4科目8単位、中学校社会と高校公民を取得希望する場合は、「中等教科教育法社会1」「中等教科教育法社会2」「中等教科教育法社会・公民1」「中等教科教育法社会・公民2」の4科目8単位を履修すること。
教育原論 教育原論2	2	 2	
学校教育職入門	2		
教育行政学 教育行政学2 教育社会学 教育社会学2 比較教育学	 2 	2 2 2 2	
教育心理学 教育心理学2 発達心理学	2 	 2 2	
特別な教育的ニーズの理解とその支援	1		
学校教育課程論	2		
道徳の理論及び指導法		2	中一種の場合は必修とする。
総合的な学習の時間の指導法	2		
特別活動の指導法	2		
教育方法論（ICT活用含む） 教育方法論（ICT活用含む）2 教育評価論 ICTの活用及び教育	2 	 2 2 2	
生徒指導･進路指導の理論及び方法	2		
教育相談の理論及び方法	2		

教育実習（小･中）1		2	中一種の場合，教育実習（小・中）1・教育実習（小・中）2または教育実習（中・高）1・教育実習（中・高）2の2科目4単位の選択必修とする。
教育実習（小･中）2		2	
教育実習（中･高）1		2	高一種の場合，教育実習（中･高）1または教育実習（中･高）2の1科目2単位の選択必修とする。
教育実習（中･高）2		2	
教育実習指導（小･中）		1	中一種の場合，教育実習指導（小･中）または教育実習指導（中・高）の1科目1単位の選択必修とする。
教育実習指導（中･高）		1	高一種の場合，教育実習指導（中・高）の1科目1単位の必修とする。
教職実践演習（教諭）	2		
合　　計	中一種:38単位 高一種:30単位		

小　　学　　校

授　業　科　目	単位数		備　　考
	必修	選択	
初等教育内容国語		2	5科目10単位の選択必修とする。
初等教育内容社会		2	
初等教育内容算数		2	
初等教育内容理科		2	
初等教育内容生活		2	
初等教育内容音楽		2	
初等教育内容図画工作		2	
初等教育内容家庭		2	
初等教育内容体育		2	
初等教育内容外国語		2	
初等国語教育法	2		
初等社会教育法	2		
初等算数教育法	2		
初等理科教育法	2		
初等生活教育法	2		
初等音楽教育法	2		
初等図画工作教育法	2		
初等家庭教育法	2		
初等体育教育法	2		
初等外国語教育法	2		
教育原論	2		
教育原論2		2	
学校教育職入門	2		
教育行政学		2	
教育行政学2		2	
教育社会学	2		
教育社会学2		2	
比較教育学		2	
教育心理学	2		
教育心理学2		2	
発達心理学		2	
特別な教育的ニーズの理解とその支援	1		
学校教育課程論	2		
道徳の理論及び指導法	2		
総合的な学習の時間の指導法	2		
特別活動の指導法	2		
教育方法論（ICT活用含む）	2		
教育方法論（ICT活用含む）2		2	
教育評価論		2	

ICTの活用及び教育		2	
生徒指導･進路指導の理論及び方法	2		
教育相談の理論及び方法	2		
教育実習（小）1		4	教育実習（小）1、教育実習（小）2・教育実習（小）3、教育実習（幼・小）1・教育実習（幼・小）2、教育実習（小・中）1・教育実習（小・中）2のいずれか4単位の選択必修とする。
教育実習（小）2		2	
教育実習（小）3		2	
教育実習（幼・小）1		2	
教育実習（幼・小）2		2	
教育実習（小・中）1		2	
教育実習（小・中）2		2	
教育実習指導（小）		1	教育実習指導（小）、教育実習指導（幼・小）、教育実習指導（小・中）のいずれか1科目1単位の選択必修とする。
教育実習指導（幼・小）		1	
教育実習指導（小・中）		1	
教職実践演習（教諭）	2		
合　　計	60		

幼　　稚　　園

授　業　科　目	単　位　数		備　　考
	必修	選択	
幼児と健康		2	5科目10単位の選択必修とする。
幼児と人間関係		2	
幼児と環境		2	
幼児と言葉		2	
幼児と表現（造形）		2	
幼児と表現（音楽）		2	
幼児と表現（身体）		2	
保育内容の理論と方法「健康」	2		
保育内容の理論と方法「人間関係」	2		
保育内容の理論と方法「環境」	2		
保育内容の理論と方法「言葉」	2		
保育内容の理論と方法「造形表現」	2		
保育内容の理論と方法「音楽表現」	2		
保育内容の理論と方法「身体表現」		2	
教育原論	2		
教育原論2		2	
教師・保育者論	2		
教育行政学		2	
教育行政学2		2	
教育社会学	2		
教育社会学2		2	
比較教育学		2	
教育心理学	2		
教育心理学2		2	
発達心理学		2	
特別な教育的ニーズの理解とその支援	1		
幼児教育・保育課程論	2		
保育の内容及び方法	2		
教育評価論		2	
ICTの活用及び教育		2	
幼児理解及び保育相談	2		
教育実習（幼）１		4	
教育実習（幼）２		2	
教育実習（幼）３		2	
教育実習（幼・小）１	2		
教育実習（幼・小）２	2		
教育実習指導（幼）		1	
教育実習指導（幼・小）	1		
教職実践演習（教諭）		2	教職実践演習（教諭）または保育・教職実践演習（教諭）の1科目2単位の選択必修とする。
保育・教職実践演習（教諭）		2	
合　　計	44		

特別支援学校

授　業　科　目	単位		備考
	必修	選択	
特別支援教育総論	2		
特別支援教育基礎理論		2	
特別支援教育基礎理論２		2	
知的障害児の心理	2		
知的障害児の生理・病理	2		
肢体不自由児の心理・生理・病理	2		
病弱虚弱児の心理・生理・病理	2		
知的障害教育Ⅰ	2		
知的障害教育Ⅱ	2		
肢体不自由児の指導法	2		
病弱虚弱児の指導法	2		
視覚障害教育総論	2		
聴覚障害教育総論	2		
重複障害・発達障害児の指導法	2		
教育実習(特支)	2		
教育実習指導(特支)	1		
合　　計	27		

別表第13（第19条関係）（学校図書館司書教諭資格）

学校図書館司書教諭に関する専門科目

法　定　基　準	単位	授　業　科　目　名	単　位		備　考
			必修	選択	
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2		必修科目5科目10単位を履修すること。
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2		
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2		
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2		
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2		
計	10	合　　計	10		

別表第14（第20条関係）（図書館司書資格）

図書館司書に関する専門科目

群	法　定　基　準	単位	授　業　科　目	単　位		備　考
				必修	選択	
甲群	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2		
	図書館概論	2	図書館概論	2		
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2		
	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2		
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2		
	情報サービス論	2	情報サービス論	2		
	児童サービス論	2	児童サービス論	2		
	情報サービス演習	2	情報サービス演習1	2		
			情報サービス演習2	2		
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2		
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	2		
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習1	2		
			情報資源組織演習2	2		
	小　　計	22	小　　計	26		
乙群	図書・図書館史	1	図書・図書館史		2	2科目2単位以上選択履修すること。 ただし，「図書館実習」を登録するには，「図書館基礎特論」を合わせて登録履修すること。
	図書館情報資源特論	1	図書館情報資源特論		2	
	図書館施設論	1	本学基準授業科目設定なし		2	
	図書館サービス特論	1	図書館サービス特論		2	
	図書館総合演習	1	図書館総合演習		2	
	図書館基礎特論	1	図書館基礎特論		1	
	図書館実習	1	図書館実習		1	
	小　　計	2	選択科目2科目2単位以上			
計		24	28単位以上			

別表第15（第21条関係）（社会教育主事資格）

社会教育主事に関する専門科目

法定基準		本学基準			備考
科目	単位	授業科目	単位		
			必修	選択	
生涯学習概論	4	生涯学習概論	2		
		生涯学習概論２	2		
生涯学習支援論	4	レクリエーション概論	2		
		男女共同参画論	2		
社会教育経営論	4	教育行政学	2		
		NPO法人マネジメント論	2		
社会教育特講	8	教育原論		2	
		教育社会学		2	
		人権（同和）教育		2	
		教育心理学		2	
		図書館概論		2	
		博物館学Ⅰ		2	
社会教育実習	1	社会教育実習	1		
社会教育演習 社会教育実習 社会教育課題研究 のうち一以上の科目	3	社会教育演習	2		
		社会教育課題研究	2		
	24	計	25		

別表第16（第22条関係）（博物館学芸員資格）

博物館学芸員に関する専門科目

区分	法定基準	単位	授業科目		単位 必修	単位 選択	備考
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論		2		・「博物館実習講義」，「博物館実習Ⅰ」，「博物館実習Ⅱ」，及び「博物館実習Ⅲ」は段階履修すること。 従って「博物館実習講義」1単位を未履修の場合，「博物館実習Ⅰ」の登録履修はできない。
	博物館概論	2	博物館学Ⅰ		2		
	博物館経営論	2	博物館学Ⅱ		2		
	博物館資料論	2	博物館学Ⅲ		2		
	博物館資料保存論	2	博物館学Ⅳ		2		
	博物館展示論	2	博物館学Ⅴ		2		
	博物館教育論	2	博物館学Ⅵ		2		
	博物館実習	3	博物館実習講義		1		
			博物館実習Ⅰ		1		
			博物館実習Ⅱ		1		
			博物館実習Ⅲ		1		
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論		2		
	小計	19	小計		20		
選択科目			文化史	日本史概論		2	文化史，美術史，考古学，民俗学の4領域のうちの3領域以上にわたって履修し、各領域につき4単位以上，計12単位以上を履修すること。
				日本思想史		2	
				日本文化史		2	
				東洋史概論		2	
				東北アジア史		2	
				東洋文化史		2	
				東洋思想史		2	
				西洋史概論		2	
				西洋文化史		2	
				西洋思想史		2	
			美術史	西洋美術史		2	
				芸術文化概論		2	
			考古学	考古学		2	
				文化財学特論		2	
			民俗学	民俗学		2	
				民俗文化概論		2	
			3領域以上12単位以上				
		19	32単位以上				

別表第17（第23条関係）（保育士資格）

保育士に関する専門科目

〔教育学部幼児教育学科適用〕

法定基準					授業科目	単位	備考
区分	系列	教科目	単位 設置	単位 履修			
必修科目	保育の本質・目的に関する科目	保育原理(講義)	2	2	保育原理	2	
		教育原理(講義)	2	2	教育原論	2	
		子ども家庭福祉(講義)	2	2	子ども家庭福祉	2	
		社会福祉(講義)	2	2	社会福祉援助技術論1	2	
		子ども家庭支援論(講義)	2	2	子ども家庭支援論	2	
		社会的養護Ⅰ(講義)	2	2	社会的養護1	2	
		保育者論(講義)	2	2	教師・保育者論	2	
	保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学(講義)	2	2	教育心理学	2	
		子ども家庭支援の心理学(講義)	2	2	子ども家庭支援の心理学	2	
		子どもの理解と援助(演習)	1	1	幼児理解及び保育相談	2	
		子どもの保健(講義)	2	2	子どもの保健	2	
		子どもの食と栄養(演習)	2	2	子どもの食と栄養	2	
	保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価(講義)	2	2	幼児教育・保育課程論	2	
		保育内容総論 (演習)	1	1	保育の内容及び方法	2	
		保育内容演習(演習)	5	5	保育内容の理論と方法「健康」	2	
		保育内容の理解と方法(演習)	4	4	保育内容の理論と方法「人間関係」	2	
					保育内容の理論と方法「環境」	2	
					保育内容の理論と方法「言葉」	2	
					保育内容の理論と方法「音楽表現」	2	
					保育内容の理論と方法「造形表現」	2	
					保育内容の理論と方法「身体表現」	2	
		乳児保育Ⅰ(講義)	2	2	乳児保育1	2	
		乳児保育Ⅱ(演習)	1	1	乳児保育2	1	
		子どもの健康と安全(演習)	1	1	子どもの健康と安全	1	
		障害児保育(演習)	2	2	障害児保育	2	
		社会的養護Ⅱ(演習)	1	1	社会的養護2	1	
		子育て支援(演習)	1	1	子育て支援	1	
	保育実習	保育実習Ⅰ (実習)	4	4	保育実習1A	2	
					保育実習1B	2	
		保育実習指導Ⅰ (演習)	2	2	保育実習指導1(事前)	1	
					保育実習指導1(事後)	1	
	総合演習	保育実践演習 (演習)	2	2	保育・教職実践演習(教諭)	2	いずれかを選択履修
					保育実践演習	2	
	小計		51	51		58	
選択必修科目	保育の本質・目的に関する科目		15単位以上	6単位以上	教育行政学	2	
					教育社会学	2	
					比較教育学	2	
					臨床教育学	2	
	保育の対象の理解に関する科目				発達心理学	2	
					特別な教育的ニーズの理解とその支援	1	
	保育の内容・方法に関する科目				ピアノ指導1	1	
					ピアノ指導2	1	
					ピアノ指導3	1	
					ピアノ指導4	1	
	保育実習	保育実習Ⅱ (実習)	2	3単位以上	保育実習2	2	
		保育実習指導Ⅱ (演習)	1		保育実習指導2	1	
		保育実習Ⅲ (実習)	2		保育実習3	2	
		保育実習指導Ⅲ (演習)	1		保育実習指導3	1	
	小計		18以上	9以上	小計	21	
合計			69以上	60以上	合計 67単位以上		

〔社会福祉学部社会福祉学科適用〕

法定基準					授業科目	単位	備考
区分	系列	教科目	単位 設置	単位 履修			
必修科目	保育の本質・目的の関する科目	保育原理(講義)	2	2	保育原理	2	
		教育原理(講義)	2	2	教育原論	2	
		子ども家庭福祉(講義)	2	2	子ども家庭福祉	2	
		社会福祉(講義)	2	2	社会福祉援助技術論1	2	
		子ども家庭支援論(講義)	2	2	子ども家庭支援論	2	
		社会的養護Ⅰ(講義)	2	2	社会的養護1	2	
		保育者論(講義)	2	2	保育者論	2	
	保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学(講義)	2	2	保育の心理学	2	
		子ども家庭支援の心理学(講義)	2	2	子ども家庭支援の心理学	2	
		子どもの理解と援助(演習)	1	1	子どもの理解と援助	1	
		子どもの保健(講義)	2	2	子どもの保健	2	
		子どもの食と栄養(演習)	2	2	子どもの食と栄養	2	
	保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価(講義)	2	2	保育の計画と評価	2	
		保育内容総論(演習)	1	1	保育内容総論	1	
		保育内容演習 (演習)	5	5	保育内容演習「健康」	1	
					保育内容演習「人間関係」	1	
					保育内容演習「環境」	1	
					保育内容演習「言葉」	1	
					保育内容演習「表現」	1	
		保育内容の理解と方法(演習)	4	4	保育内容の理解と方法1	1	
					保育内容の理解と方法2	1	
					保育内容の理解と方法3	1	
					保育内容の理解と方法4	1	
		乳児保育Ⅰ(講義)	2	2	乳児保育1	2	
		乳児保育Ⅱ(演習)	1	1	乳児保育2	1	
		子どもの健康と安全(演習)	1	1	子どもの健康と安全	1	
		障害児保育(演習)	2	2	障害児保育	2	
		社会的養護Ⅱ(演習)	1	1	社会的養護2	1	
		子育て支援(演習)	1	1	子育て支援	1	
	保育実習	保育実習Ⅰ (実習)	4	4	保育実習1A	2	
					保育実習1B	2	
		保育実習指導 (演習)	2	2	保育実習指導1(事前)	1	
					保育実習指導1(事後)	1	
	総合演習	保育実践演習 (演習)	2	2	保育・教職実践演習(教諭)	2	いずれかを選択履修
					保育実践演習	2	
	小計		51	51		51	
選択必修科目	保育の本質・目的に関する科目		15単位以上	6単位以上	現代の社会問題	2	
					福祉とケアの倫理	2	
					人権と福祉	2	
					保育福祉入門	1	
	保育の対象の理解に関する科目				教育心理学	2	
					障害児臨床論	2	
	保育の内容・方法に関する科目				保育内容特別演習1	2	
					保育内容特別演習2	2	
					ピアノ1	1	
					ピアノ2	1	
					ピアノ3	1	
	保育実習	保育実習Ⅱ (実習)	2	3単位以上	保育実習2	2	
		保育実習指導Ⅱ (演習)	1		保育実習指導2	1	
		保育実習Ⅲ (実習)	2		保育実習3	2	
		保育実習指導Ⅲ (演習)	1		保育実習指導3	1	
	小計		18以上	9以上	小計	24	
合計			69以上	60以上	合計 60単位以上		

別表第18（第24条関係）（社会福祉士国家試験受験資格）

社会福祉士国家試験受験資格を得るための専門科目

指定科目	授業科目	単位		備考
		必修	選択	
医学概論	医学概論	2		
心理学と心理的支援	心理学と心理的支援	2		
社会学と社会システム	社会学と社会システム	2		
社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策1	2		
	社会福祉の原理と政策2	2		
社会福祉調査の基礎	社会福祉調査の基礎	2		
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職	2		
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2		
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法1	2		
	ソーシャルワークの理論と方法2	2		
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法3	2		
	ソーシャルワークの理論と方法4	2		
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉と包括的支援体制1	2		
	地域福祉と包括的支援体制2	2		
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	2		
社会保障	社会保障論1	2		
	社会保障論2	2		
高齢者福祉	高齢者福祉論	2		
障害者福祉	障害児者福祉論	2		
児童・家庭福祉	児童・家庭福祉論	2		
貧困に対する支援	貧困に対する支援	2		
保健医療と福祉	保健医療と福祉	2		
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	2		
刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	2		
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習	2		
ソーシャルワーク演習（専門）	ソーシャルワーク演習（専門）１	2		
	ソーシャルワーク演習（専門）２	2		
	ソーシャルワーク演習（専門）３	2		
	ソーシャルワーク演習（専門）４	2		
ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導1	2		
	ソーシャルワーク実習指導2	2		
	ソーシャルワーク実習指導3	2		
ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習1	2		
	ソーシャルワーク実習2	4		
計		70		

別表第18の2（第24条の2関係）（精神保健福祉士国家試験受験資格）

精神保健福祉士国家試験受験資格を得るための専門科目

指定科目	授業科目	単位		備考
		必修	選択	
医学概論	医学概論	2		
心理学と心理的支援	心理学と心理的支援	2		
社会学と社会システム	社会学と社会システム	2		
社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策1	2		
	社会福祉の原理と政策2	2		
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉と包括的支援体制1	2		
	地域福祉と包括的支援体制2	2		
社会保障	社会保障論1	2		
	社会保障論2	2		
障害者福祉	障害児者福祉論	2		
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	2		
刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	2		
社会福祉調査の基礎	社会福祉調査の基礎	2		
精神医学と精神医療	精神医学1	2		
	精神医学2	2		
現代の精神保健の課題と支援	精神保健の課題と支援1	2		
	精神保健の課題と支援2	2		
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職	2		
精神保健福祉の原理	精神保健福祉の原理1	2		
	精神保健福祉の原理2	2		
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法1	2		
	ソーシャルワークの理論と方法2	2		
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法（専門）1	2		
	ソーシャルワークの理論と方法（専門）2	2		
精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーション論	2		
精神保健福祉制度論	精神保健福祉制度論	2		
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習	2		
ソーシャルワーク演習（専門）	精神保健福祉援助演習1	2		
	精神保健福祉援助演習2	2		
	精神保健福祉援助演習3	2		
ソーシャルワーク実習指導	精神保健福祉援助実習指導1	2		
	精神保健福祉援助実習指導2	2		
	精神保健福祉援助実習指導3	2		
ソーシャルワーク実習	精神保健福祉援助実習1	3		
	精神保健福祉援助実習2	2		
計		71		

別表第18の3（第24条の6関係）（保健師国家試験受験資格）

教育内容		授業科目	単位		備考
			必修	選択	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護学概論	2		
	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護方法論Ⅰ	2		
		公衆衛生看護方法論Ⅱ	2		
	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護展開論Ⅰ	2		
		公衆衛生看護展開論Ⅱ	2		
	公衆衛生看護管理論	公衆衛生看護管理論Ⅰ	2		
		公衆衛生看護管理論Ⅱ	2		
		公衆衛生看護活動論	2		
疫学		看護疫学	2		
保健統計学		保健統計学	2		
保健医療福祉行政論		公衆衛生学	2		
		保健医療福祉行政論	2		
公衆衛生看護学実習	個人・家族・集団・組織の支援実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ	1		
	公衆衛生看護活動展開論実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4		
	公衆衛生看護管理論実習				

別表第19（第25条関係）（浄土宗教師資格等）

浄土宗教師資格に関する専門科目

	宗定基準						本学基準				
	科目	僧階		教階	学階		授業科目	入行資格	少・輔・得 最低修得単位	少・輔・擬 最低修得単位	備考
		律師	少僧都	輔教	得業	擬講					
浄土学に関する科目	法然上人の生涯と思想	12	12			6	法然の生涯と教え	●	2	2	
	浄土学の基礎						浄土学の基礎	●	2	2	
	三部経の思想						浄土三部経研究1（無量寿経）	●	2	2	
	浄土宗日常勤行式の解説						日常勤行式の解説	●	2	2	
	浄土教の歴史						浄土教史	○（※1）	2（※1）	2（※1）	※1の内、いずれか1科目2単位を選択履修
	選択集の思想						選択集研究1	●	2	2	
	浄土宗の歴史						浄土宗史	○（※1）	2（※1）	2（※1）	※1の内、いずれか1科目2単位を選択履修
	浄土教の思想と展開（三部経・選択集・三巻書・円頓戒等）		12				浄土三部経研究2（観経・阿弥陀経）		2	2	
							選択集研究2		2	2	
							伝書2		2	2	
							円頓戒2		2	2	
							浄土学研究		4	10	擬講取得希望者は，5科目10単位を選択履修 得業取得希望者は，2科目4単位を選択履修
							浄土宗学研究				
							浄土学講読				
							浄土宗学講読				
							浄土学演習				
							浄土宗学演習				
	法然門下の思想						法然門流研究				
仏教学に関する科目	釈尊の生涯と思想	6	6			4	ブッダの生涯と教え	●	2	2	
	仏教学の基礎						仏教学の基礎	●	2	2	
	日本仏教の歴史と教え						日本仏教史（仏教伝来～平安）	●	2	2	
							仏教学研究（日本）			2	擬講取得希望者は，1科目2単位を選択履修
							仏教学講読（日本）				
							仏教学演習（日本）				
							仏教文化学研究（日本）				
							仏教文化学講読				
							仏教文化学演習				
	仏教の受容と展開		6				仏教学研究（初期・部派）		6	8	擬講取得希望者は，「日本仏教史（鎌倉以降）」を含み4科目8単位を選択履修 得業取得希望者は，「日本仏教史（鎌倉以降）」を含み3科目6単位を選択履修
							仏教学研究（大乗・チベット）				
							仏教学研究（中国）				
							仏教学講読（初期・部派）				
							仏教学講読（大乗・チベット）				
							仏教学講読（中国）				
							仏教学演習（初期・部派）				
							仏教学演習（大乗・チベット）				
							仏教学演習（中国）				
	仏教史						日本仏教史（鎌倉以降）				
							インド仏教史				
							アジア仏教史（チベット・東南アジア）				
							アジア仏教史（韓国）				
							中国仏教史				
							宗教史				
	各宗の概要等						宗派仏教				
現代社会と教団に関する科目	現代社会と人間	6	6								
	浄土宗と加行（伝法と円頓戒）						伝書1	●	2	2	
							円頓戒1	●	2	2	
	宗教法制						宗教法制	●	2	2	
	仏教と人権						人権（同和）教育	●	2	2	
	仏教の儀礼と儀式						伝統文化研究（茶道）		4	4	「仏教と現代社会の諸問題」を含み2科目4単位を選択履修
							伝統文化研究（華道）				
							伝統文化研究（書道）				
							伝統文化研究（儀礼・音楽）				
	宗教学・社会福祉学・臨床心理学等の概論科目			4			宗教学概論				
							哲学概論				
							倫理学概論				
							現代社会と福祉				
							心の世界を考える				
							仏教と現代社会の諸問題				

僧侶の実践に関する科目	法式(初級)	12	12				法式実習1	●	1	1		
							法式実習2	●	1	1		
							法務実習(初級)1	●	2	2		
							法務実習(初級)2	●	2	2		
	法式(上級)						法務実習(中級)1	●	1	1		
							法務実習(中級)2	●	1	1		
							法務実習(上級)1	●	1	1		
							法務実習(上級)2	●	1	1		
							法務実習(特級)1					
							法務実習(特級)2					
	伝道Ⅰ(念仏講話)						伝道学1(念仏講話)	●	2	2		
	詠唱						詠唱1	●	1	1		
							詠唱2	●	1	1		
	伝道Ⅱ			2			伝道学2		2	2		
上記単位以外の条件								加行入行年度の春学期までに●印および○印の科目を履修すること ○印は、対象科目の内1科目を履修すること	別表1	別表2		

別表1

①必修48単位選択16単位計64単位を履修すること
②佛教大学を卒業または佛教大学大学院を修了すること

別表2

①必修48単位選択26単位計74単位を履修すること
②浄土学若しくは仏教学関連の卒業論文、修士論文を提出し、合格すること
③佛教大学を卒業または佛教大学大学院を修了すること

浄土宗開教使に関する専門科目

区分	宗定基準 科目	授業科目	単位 必修	単位 選択	備考
1	開教概論	開教概論1(歴史と基礎知識) 開教概論2(方法と実践)	2 2		
2	キリスト教神学	宗教学概論 宗教史 西洋史概論		2 2 2	2科目4単位を選択履修すること
3	英会話	開教英語 Integrated Communication Skills1 Integrated Communication Skills2 初級英語会話1 初級英語会話2	2	 1 1 1 1	必修科目1科目2単位を含み、4単位を選択履修すること
4	時事英語	世界のニュースと日本	2		
5	英作文	Academic Writing1 Academic Writing2 英文法		2 2 2	2科目4単位を選択履修すること
6	宗教教育	宗教教育論 視聴覚教育メディア論 生涯学習概論 仏教と現代社会の諸問題		2 2 2 2	2科目4単位を選択履修すること
7	書道 音楽 美術 仏教芸術 詠唱	書道1 書道2 伝統文化研究(書道) 伝統文化研究(儀礼・音楽) 仏教美術研究(インド・中国) 仏教美術研究(日本) 仏教文化学研究(インド・中国) 仏教文化学研究(日本) 仏教と文化財 詠唱1 詠唱2		2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1	2科目4単位を選択履修すること

浄土宗社会教化主事資格

宗定基準 科目	宗定基準 単位	授業科目	単位 必修	単位 選択	備考
社会教化概論	4	人権(同和)教育 仏教と現代社会の諸問題	2 2		
社会教化各論	12	宗教法制 教育原論 教育心理学 教育社会学 生涯学習概論 社会教育特殊講義 宗派仏教 仏教と文化財 仏教の人間観と死生観 くらしの中の仏教	2	 2 2 2 2 2 2 2 2 2	必修科目1科目2単位を含み、6科目12単位を選択履修すること
社会教化実習	4	伝道学1(念仏講話) 伝道学2	2 2		

別表第19の２（第25条の２関係）（公認心理師国家試験受験資格）

公認心理師国家試験受験資格を得るための専門科目

法定基準		本学基準			備考
科目		授業科目	単位		
			必修	選択	
1	公認心理師の職責	公認心理師の職責	2		
2	心理学概論	心理学概論	2		
3	臨床心理学概論	臨床心理学概論	2		
4	心理学研究法	心理学研究法	2		
5	心理学統計法	心理学統計法1	2		
		心理学統計法2	2		
6	心理学実験	心理学実験1	1		
		心理学実験2	1		
7	知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2		
8	学習・言語心理学	学習・言語心理学	2		
9	感情・人格心理学	感情・人格心理学	2		
10	神経・生理心理学	神経・生理心理学	2		
11	社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2		
12	発達心理学	発達心理学	2		
13	障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2		
14	心理的アセスメント	心理的アセスメント	2		
15	心理学的支援法	心理学的支援法（力動的アプローチ）※		2	※心理学的支援法（力動的アプローチ）又は心理学的支援法（行動的アプローチ）の内、1科目2単位を選択し履修すること。
		心理学的支援法（行動的アプローチ）※		2	
16	健康・医療心理学	健康・医療心理学	2		
17	福祉心理学	福祉心理学	2		
18	教育・学校心理学	教育・学校心理学	2		
19	司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2		
20	産業・組織心理学	産業・組織心理学	2		
21	人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2		
22	精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2		
23	関係行政論	関係行政論	2		
24	心理演習	心理演習1	1		
		心理演習2	1		
25	心理実習	心理実習1	1		
		心理実習2	1		

別表第19の3（第25条の３関係）（学校司書資格）

学校司書に関する専門科目

区分	モデルカリキュラムにおける科目名		本学基準			備考
	科目	単位	授業科目	単位 必修	単位 選択	
学校図書館の運営・管理・サービスに関する科目	学校図書館概論	2	学校経営と学校図書館	2		
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2		
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2		
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	2		
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習１	2		
		2	情報資源組織演習２	2		
	学校図書館サービス論	2	図書館サービス特論	2		
	学校図書館情報サービス論	2	情報サービス論	2		
		2	情報サービス演習１	2		
児童生徒に対する教育支援に関する科目	学校教育概論	2	教育原論	2		
			教育心理学	2		
			特別な教育的ニーズの理解とその支援	1		
			幼児教育・保育課程論		2	1科目2単位を選択履修すること
			学校教育課程論		2	
	学習指導と学校図書館	2	学校指導と学校図書館	2		
	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2		
			計	29		

別表第19の4（第25条の４関係）（社会調査士資格）

社会調査士に関する専門科目

指定カリキュラム		本学基準			備考
領域	科目	授業科目	単位		
			必修	選択	
A	社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査論１	2		
B	調査設計と実施方法に関する科目	社会調査論２	2		
C	基本的な資料とデータの分析に関する科目	基礎統計学１	2		
D	社会調査に必要な統計学に関する科目	基礎統計学２	2		
E	多変量解析の方法に関する科目	社会調査法演習１		2	「社会調査法演習１」「社会調査法演習２」のどちらか2単位を修得すること
F	質的な調査と分析の方法に関する科目	社会調査法演習２		2	
G	社会調査を実際に経験し学習する科目	調査研究演習１	2		「調査研究演習１」「調査研究演習２」及び「調査研究演習３」を登録するには、A～D領域から、3科目以上履修すること
		調査研究演習２	2		
		調査研究演習３	1		
		計	15		

別表第19の5（第25条の５関係）（グローカルプロジェクトマネジャー（GPM））

グローカルプロジェクトマネジャー（GPM）に関する専門科目

本学基準				備考
授業科目		単位		
		必修	選択	
コミュニケーションと社会		2		
グローバル化論		2		
プロジェクト演習		2		
京都の産業		2		
A群	共生の社会学		2	A群・B群から各１科目以上を含み2科目4単位以上を選択履修
	異文化理解		2	
B群	地域経済論		2	
	中小企業論		2	
	NPO法人マネジメント論		2	
グローカル人材PBL		2		
合計		14		

別表第19の6（第25条の６関係）（レクリエーション・インストラクター資格）

レクリエーション・インストラクターに関する専門科目

指定科目		本学基準			備考
		授業科目	単位		
			必修	選択	
理論科目	レクリエーション概論	レクリエーション概論	2		
	楽しさと心の元気づくりの理論				
	レクリエーション支援理論				
	レクリエーション支援のプログラム				
実技科目	レクリエーション支援の方法	レクリエーション実技	1		
	レクリエーション活動の習得	スポーツ実技	1		
	レクリエーション支援の実施				
実習科目	現場実習	レクリエーション指導実習	1		
		計	5		

別表第19の7（第25条の7関係）（レクリエーション・コーディネーター（教育コース）資格）

レクリエーション・コーディネーターに関する専門科目

指定科目	本学基準 授業科目	単位 必修	単位 選択	備考
レクリエーション支援の理念と方法 （レクリエーション概論、楽しさと心の元気づくりの理論、レクリエーション支援理論、レクリエーション支援のプログラム、レクリエーション支援の方法、レクリエーション活動の習得、レクリエーション支援の実施）	スポーツ理論	1		
	スポーツ実技	1		
	レクリエーション実技	1		
	レクリエーション指導実習	1		
活動領域および支援対象の理解　（活動領域の理解）	学校教育職入門		2	1科目2単位を選択履修すること
	教師・保育者論		2	
	教育原論	2		
	教育社会学	2		
（支援対象の理解）	教育相談の理論及び方法		2	1科目2単位を選択履修すること
	幼児理解及び保育相談		2	
	教育心理学	2		
レクリエーション・コーディネート技術 （事業でのレクリエーション・インストラクション技術の活用、事業やプログラムの意図に応じたレク活動のアレンジ・創作、事業の企画と運営）	学校教育課程論		2	1科目2単位を選択履修すること
	幼児教育・保育課程論		2	
	初等教育内容体育		2	1科目2単位を選択履修すること
	幼児と表現（身体）		2	
	初等体育教育法		2	1科目2単位を選択履修すること
	保育内容の理論と方法「身体表現」		2	
レクリエーション・コーディネート演習	レクリエーション概論	2		
現場実習	教育実習（幼・小）1		2	※教育職インターンシップ、学校ボランティア活動をもって「現場実習」に読み替えることができる。その場合、事後リポート等において取り組み内容、成果、課題を提出すること。 2単位以上履修すること
	教育実習（幼・小）2		2	
	教育実習（小・中）1		2	
	教育実習（小・中）2		2	
	計	24		

別表第19の8（第25条の8関係）（日本語教師資格）

区分	本学基準			備考
	授業科目	単位		
		必修	選択	
社会・文化・地域	日文キャリアプログラム（日本語教員系）	2		必修1科目2単位を含み、選択履修すること。
	ことばと表現（近・現代）		2	
	日本文学概論１		2	
	日本文学概論２		2	
	文学概論１		2	
	文学概論２		2	
	日本文学史１		2	
	日本文学史２		2	
	日本事情		2	
	比較文学		2	
言語と社会	人種・民族・国家		2	1科目2単位以上を選択履修すること。
	世界の文化		2	
言語と心理	教育心理学		2	1科目2単位以上を選択履修すること。
	教育心理学２		2	
	発達心理学		2	
	心の世界を考える		2	
言語と教育	日本語教育教材・教具法	2		5科目8単位を履修すること。
	日本語教授法１	2		
	日本語教授法２	2		
	日本語教育教壇実習１	1		
	日本語教育教壇実習２	1		
言語	日本語教育文法１	2		必修2科目4単位を含み、選択履修すること。
	日本語教育文法２	2		
	日本語文法１		2	
	日本語文法２		2	
	言語学概論１		2	
	言語学概論２		2	
	日本語学概論１		2	
	日本語学概論２		2	
	計	26		

別表第19の9（第25条の9関係）（公認パラスポーツ指導員資格）

公認初級パラスポーツ指導員資格に関する専門科目

〔保健医療技術学部理学療法学科適用〕

基準カリキュラム	開講科目名	単位	
		必修	選択
・スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質 ・パラスポーツの意義と理念 ・パラスポーツ推進の取り組み ・パラスポーツに関する諸施策 ・各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 ・全国障害者スポーツ大会の概要	障がい者スポーツ論	2	
・コミュニケーションスキルの基礎	理学療法技術論Ⅰ	2	
・障がいのある人との交流	地域リハビリテーション論	2	
・安全管理	救急医学	1	
・各障がいの理解	リハビリテーション医学概論	1	
	小児科学	1	
	精神医学	2	
	内科学Ⅰ	2	
	内科学Ⅱ	2	
	内部障害理学療法学Ⅰ	1	
	内部障害理学療法学Ⅱ	1	
	日常生活動作学	1	
	小児理学療法学	1	
	運動器系理学療法学	2	
	神経筋障害理学療法学	1	

〔保健医療技術学部作業療法学科適用〕

基準カリキュラム	開講科目名	単位	
		必修	選択
・スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質 ・パラスポーツの意義と理念 ・パラスポーツ推進の取り組み ・パラスポーツに関する諸施策 ・各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 ・全国障害者スポーツ大会の概要	障がい者スポーツ論	2	
・コミュニケーションスキルの基礎	作業療法コミュニケーション学	1	
・障がいのある人との交流	感覚・運動系作業治療学Ⅰ	2	
・安全管理	救急医学	1	
・各障がいの理解	リハビリテーション医学概論	1	
	小児科学	1	
	精神医学	2	
	内科学Ⅰ	2	
	内科学Ⅱ	2	
	発達系作業治療学	2	
	感覚・運動系作業治療学Ⅰ	2	
	高次脳機能系評価学演習	1	

公認中級パラスポーツ指導員資格に関する専門科目

〔保健医療技術学部理学療法学科適用〕

基準カリキュラム	開講科目名	単位	
		必修	選択
・スポーツの意義と価値 ・障がい各論（視覚障がい／聴覚・音声言語障がい） ・全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義 ・全国障害者スポーツ大会の実施競技と障害区分 ・全国障害者スポーツ大会選手団編成とスタッフの役割	障がい者スポーツ論	2	
・公認パラスポーツ指導員としてのキャリア形成 ・地域におけるパラスポーツ振興 ・障がい者のスポーツ指導における留意点 ・全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 ・最重度の障がい者のスポーツの実際 （重症心身障がい児・者を含む）	障がい者スポーツ演習	2	
・身体の仕組みと体力づくり	基礎解剖学	2	
	解剖学	4	
	生理学	4	
	基礎運動学	2	
	基礎運動学演習	1	
・救急処置法	救急医学	1	
・リスクマネジメント	臨床理学療法特論Ⅰ	1	
	理学療法技術論Ⅰ	2	
・スポーツ心理学Ⅰ	臨床心理学	2	
・障がい各論	整形外科学Ⅰ	2	
	リハビリテーション医学概論	1	
	神経内科学Ⅰ	1	
	脳神経外科学	1	
	小児科学	1	
	精神医学	2	
	日常生活動作学	1	
	小児理学療法学	1	
	運動器系理学療法学演習	1	
	神経筋障害理学療法学演習	1	
	内部障害理学療法学演習	1	
	理学療法評価学演習Ⅱ	1	
・補装具の理解	装具学	2	
	義肢学	1	
・発育・発達に応じた指導法	小児理学療法学	1	

〔保健医療技術学部作業療法学科適用〕

基準カリキュラム	開講科目名	単位	
		必修	選択
・スポーツの意義と価値 ・障がい各論（視覚障がい／聴覚・音声言語障がい） ・全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義 ・全国障害者スポーツ大会の実施競技と障害区分 ・全国障害者スポーツ大会選手団編成とスタッフの役割	障がい者スポーツ論	2	
・公認パラスポーツ指導員としてのキャリア形成 ・地域におけるパラスポーツ振興 ・障がい者のスポーツ指導における留意点 ・全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 ・最重度の障がい者のスポーツの実際 （重症心身障がい児・者を含む）	障がい者スポーツ演習	2	
・身体の仕組みと体力づくり	基礎解剖学	2	
	解剖学	4	
	生理学	4	
	基礎運動学	1	
	基礎運動学演習	1	
・救急処置法	救急医学	1	
・リスクマネジメント	感覚・運動系作業治療学Ⅰ	2	
	作業療法管理運営論	2	
・スポーツ心理学Ⅰ	臨床心理学	2	
・障がい各論	整形外科学Ⅰ	2	
	リハビリテーション医学概論	1	
	神経内科学Ⅰ	1	
	脳神経外科学	1	
	小児科学	1	
	精神医学	2	
	発達系作業治療学	2	
	精神・社会系作業治療学	2	
	生活行為援助論演習	1	
	感覚・運動系作業治療学演習	1	
・補装具の理解	リハビリテーション工学演習	1	
・発育・発達に応じた指導法	発達系評価学演習	1	

別表第20　削除

別表第21（第52条関係）（入学検定料および入学金）

種　　類	金　　額
入学検定料	35,000円
入　学　金	250,000円

別表第22（第53条関係）（授業料等学費の種類および金額）

種　　類	金　　額	備　　考
（第1学年次）		
授業料		
仏教学部・文学部・歴史学部・社会学部・社会福祉学部	870,000円	
教育学部	920,000円	
保健医療技術学部・看護学部	1,350,000円	
教育充実費		
仏教学部・文学部・歴史学部・社会学部・社会福祉学部	100,000円	
教育学部	130,000円	
保健医療技術学部・看護学部	250,000円	

種　　類	金　　額	備　　考
（第2学年次以降毎学年次）		
授業料		
仏教学部・文学部・歴史学部・社会学部・社会福祉学部	910,000円	
教育学部	960,000円	
保健医療技術学部・看護学部	1,390,000円	
教育充実費		
仏教学部・文学部・歴史学部・社会学部・社会福祉学部	310,000円	
教育学部	340,000円	
保健医療技術学部	400,000円	

変更事項を記載した書類

下記のとおり、佛教大学学則の一部変更を行う。

① 看護学部看護学科設置に伴い、条文および別表の修正、追加を行う。

【変更条文・別表】

佛教大学学則　第 2 条、第 2 条第 8 項、第 4 条第 5 項、第 4 条第 6 項、第 4 条の 2、第 4 条の 2 第 2 項、第 16 条の 8、第 24 条の 5、第 24 条の 6、第 29 条第 2 項、第 30 条第 2 項、第 30 条の 2、第 41 条、第 58 条、第 59 条
第 8 章
別表第 1 の 5、別表第 1 の 6、別表第 11 の 8、別表 21、別表 22

【追加条文・別表】

佛教大学学則　第 2 条第 9 項、第 59 条第 6 項、第 59 条第 7 項、第 59 条第 8 項

上記の学則改正に伴い、附則条文を追加する。

【追加条文】　附則第 73 条

学 則 新 旧 対 照 表

<table>
<tr><th>新　　学　　則</th><th>旧　　学　　則</th><th>備　考　欄</th></tr>
<tr><td>

佛 教 大 学 学 則

第1条　（ 省 略 ）

第2条　本学に仏教学部，文学部，歴史学部，教育学部，社会学部，社会福祉学部**，保健医療技術学部および看護学部**を置く。
2 ～ 7　（ 省 略 ）

8　保健医療技術学部に理学療法学科，作業療法学科を置く。

9　看護学部に看護学科を置く。

第3章　授業科目

第4条

1 ～ 4　（ 省 略 ）

5　本学の授業科目の区分は、共通教養科目および専門科目とする。

6　削除

第4条の2　仏教学部仏教学科，文学部日本文学科，中国学科，英米学科，歴史学部歴史学科，歴史文化学科，教育学部教育学科，幼児教育学科，臨床心理学科，社会学部現代社会学科，公共政策学科，社会福祉学部社会福祉学科の**共通教養科目**の授業科目，単位および履修方法等を別表第１の５のとおり定める。

</td><td>

佛 教 大 学 学 則

第1条　（ 省 略 ）

第2条　本学に仏教学部，文学部，歴史学部，教育学部，社会学部，社会福祉学部および**保健医療技術学部**を置く。
2 ～ 7　（ 省 略 ）

8　保健医療技術学部に理学療法学科，作業療法学科**および看護学科**を置く。

第3章　授業科目

第4条

1 ～ 4　（ 省 略 ）

5　仏教学部仏教学科，文学部日本文学科，中国学科，英米学科，歴史学部歴史学科，歴史文化学科，教育学部教育学科，幼児教育学科，臨床心理学科，社会学部現代社会学科，公共政策学科および社会福祉学部社会福祉学科における授業科目の区分，目標等は，次の表のとおりとする。

大区分	小区分	科目内容	備　考		
全学共通科目		建学の精神に基づく科目，および現代社会における基礎的人間力の基盤をなすリテラシーやコミュニケーション能力等の養成を目指す科目	必修14単位以上を履修すること	左の条件を満たして合計30単位以上を履修のこと	左の条件を満たし124単位以上を履修のこと
全学教養科目		人間とその社会、さらには自然を含めた世界が本質的に持つ多様性について理解し、視野の広さを身につけた人材の養成を目指す科目	8単位以上を履修すること		
専門科目	学部基幹科目	学部の学びの基幹をなす科目	各学部学科の指定する履修要件を満たして合計94単位以上を履修すること		
	学科基礎科目	学科専門の学びの基礎をなす科目			
	学科専攻科目	学科専門の学びの中核をなす科目			
	関連科目	学部・学科で学んだ内容に関連して学びを深める科目			

6　保健医療技術学部理学療法学科，作業療法学科および看護学科における授業科目の区分，目標等は次の表のとおりとする。

大区分	小区分	科目内容	備　考		
全学共通科目		建学の精神に基づく科目，および現代社会における基礎的人間力の基盤をなすリテラシーやコミュニケーション能力等の養成を目指す科目	必修14単位以上を履修すること	左の条件を満たして合計20単位以上を履修のこと	左の条件を満たし124単位以上を履修のこと
全学教養科目		人間とその社会、さらには自然を含めた世界が本質的に持つ多様性について理解し、視野の広さを身につけた人材の養成を目指す科目	4単位以上を履修すること		
専門科目	学部基幹科目	学部の学びの基幹をなす科目	各学科の指定する履修要件を満たして合計104単位以上を履修すること		
	学科基礎科目	学科専門の学びの基礎をなす科目			
	学科専攻科目	学科専門の学びの中核をなす科目			
	関連科目	学部・学科で学んだ内容に関連して学びを深める科目			

第4条の2　仏教学部仏教学科，文学部日本文学科，中国学科，英米学科，歴史学部歴史学科，歴史文化学科，教育学部教育学科，幼児教育学科，臨床心理学科，社会学部現代社会学科，公共政策学科，社会福祉学部社会福祉学科の**全学共通科目・全学教養科目**の授業科目，単位および履修方法等を別表第１の５のとおり定める。

</td><td>

字句追加

字句削除

項文追加

項文修正および表削除

項文削除および表削除

字句修正

</td></tr>
</table>

2　保健医療技術学部理学療法学科，作業療法学科，**看護学部**看護学科の**共通教養科目**の授業科目，単位および履修方法等を別表第 1 の 6 のとおり定める。	2　保健医療技術学部理学療法学科，作業療法学科および看護学科の全学共通科目・全学教養科目の授業科目，単位および履修方法等を別表第 1 の 6 のとおり定める。	字句追加・修正
第 5 条　～　第 16 条の 7　（　省　略　）	**第 5 条　～　第 16 条の 7**　（　省　略　）	
第 16 条の 8　**看護**学部看護学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第 11 の 8 のとおり定める。	**第 16 条の 8**　**保健医療技術**学部看護学科の専門科目は学部基幹科目，学科基礎科目，学科専攻科目および関連科目とし，その授業科目，単位および履修方法等を別表第 11 の 8 のとおり定める。	字句修正
第 17 条　～　第 24 条の 4　（　省　略　）	**第 17 条　～　第 24 条の 4**　（　省　略　）	
第 24 条の 5　**看護**学部看護学科において，第 30 条の規定による所定の単位を修得した者は，保健師助産師看護師法（昭和 23 年法律第 203 号）第 21 条第 1 号の有資格者として看護師国家試験の受験資格が得られる。	**第 24 条の 5**　**保健医療技術**学部看護学科において，第 30 条の規定による所定の単位を修得した者は，保健師助産師看護師法（昭和 23 年法律第 203 号）第 21 条第 1 号の有資格者として看護師国家試験の受験資格が得られる。	字句修正
第 24 条の 6　**看護**学部看護学科において，第 30 条の規定によるほか別表 18 の 3 に定める単位を修得した者は，保健師助産師看護師法（昭和 23 年法律第 203 号）第 19 条の有資格者として保健師国家試験の受験資格が得られる。	**第 24 条の 6**　**保健医療技術**学部看護学科において，第 30 条の規定によるほか別表 18 の 3 に定める単位を修得した者は，保健師助産師看護師法（昭和 23 年法律第 203 号）第 19 条の有資格者として保健師国家試験の受験資格が得られる。	字句修正
第 25 条　～　第 28 条　（　省　略　）	**第 25 条　～　第 28 条**　（　省　略　）	
第 29 条　仏教学部，文学部，歴史学部，教育学部，社会学部，社会福祉学部の授業科目の単位数は，1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，次のとおりとする。 (1)　講義，講読および演習については，15 時間の授業をもって 1 単位とする。 (2)　外国語については，30 時間の授業をもって 1 単位とする。 (3)　実習，実験および実技については，30 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。 (4)　前各号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は，第 3 号に規定する基準を考慮し，本学が定める。	**第 29 条**　仏教学部，文学部，歴史学部，教育学部，社会学部，社会福祉学部の授業科目の単位数は，1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，次のとおりとする。 (1)　講義，講読および演習については，15 時間の授業をもって 1 単位とする。 (2)　外国語については，30 時間の授業をもって 1 単位とする。 (3)　実習，実験および実技については，30 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。 (4)　前各号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は，第 3 号に規定する基準を考慮し，本学が定める。	
2　保健医療技術学部**，看護学部**の授業科目の単位数は，1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，1 単位の授業時間数は，講義および外国語については，15 時間から 30 時間，演習については 15 時間から 45 時間，実験，実技および実習については，30 時間から 45 時間の範囲とする。なお，1 つの授業科目について，講義，外国語，演習，実験，実技および実習を併用する場合については，前項第 4 号を準用する。 3　～　5　（　省　略　）	2　保健医療技術学部の授業科目の単位数は，1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，1 単位の授業時間数は，講義および外国語については，15 時間から 30 時間，演習については 15 時間から 45 時間，実験，実技および実習については，30 時間から 45 時間の範囲とする。なお，1 つの授業科目について，講義，外国語，演習，実験，実技および実習を併用する場合については，前項第 4 号を準用する。 3　～　5　（　省　略　）	字句追加
第 30 条　各学部学科の学生は，第 4 条の 2 から第 16 条の 8 までの規定に従って，合計 124 単位以上を履修しなければならない。 2　各学年，学期における履修登録単位数の上限を 22 単位とし，年間の履修登録単位数の上限は 44 単位とする。 なお，保健医療技術学部**，看護学部**は，各学年，学期における履修登録単位数の上限を 26 単位とし，年間の履修登録単位数の上限は 50 単位とする。	**第 30 条**　各学部学科の学生は，第 4 条の 2 から第 16 条の 8 までの規定に従って，合計 124 単位以上を履修しなければならない。 2　各学年，学期における履修登録単位数の上限を 22 単位とし，年間の履修登録単位数の上限は 44 単位とする。 なお，保健医療技術学部は，各学年，学期における履修登録単位数の上限を 26 単位とし，年間の履修登録単位数の上限は 50 単位とする。	字句追加
第 30 条の 2　各学部教授会が教育上有益と認めるときは，他学科固有の専門科目を当該学科の専門科目として履修させることができる。	**第 30 条の 2**　各学部教授会が教育上有益と認めるときは，他学科**(理学療法学科・作業療法学科・看護学科を除く)**固有の専門科目を当該学科の専門科目として履修させることができる。	字句削除
第 30 条の 3　～　第 40 条　（　省　略　）	**第 30 条の 3　～　第 40 条**　（　省　略　）	
第 41 条　本学の学生定員を次のとおり定める。	**第 41 条　本学の学生定員を次のとおり定める。**	

学部	学科	学生定員		
		入学定員	編入学定員	収容定員
仏教学部	仏教学科	60 名		240 名
文学部	日本文学科	120 名		480 名
	中国学科	50 名		200 名
	英米学科	70 名		280 名
歴史学部	歴史学科	110 名		440 名
	歴史文化学科	70 名		280 名
教育学部	教育学科	130 名		520 名
	幼児教育学科	80 名		320 名
	臨床心理学科	80 名		320 名
社会学部	現代社会学科	200 名		800 名
	公共政策学科	120 名		480 名
社会福祉学部	社会福祉学科	220 名		880 名
保健医療技術学部	理学療法学科	40 名		160 名
	作業療法学科	40 名		160 名
看護学部	看護学科	80 名		320 名
合計		1,470 名		5,880 名

第 42 条　～　第 55 条　（　省　略　）

第 8 章　教職員組織および学部教授会，**学部教育課程委員会**，大学評議会

第 56 条　～　第 57 条の 3　（　省　略　）

第 58 条　授業科目は，その学科ごとに**基幹教員**がこれを担当することを原則とする。但し，**基幹教員以外**の教員が担当することがある。

第 59 条　各学部に，教授会**および教育課程委員会**を置く。

2　～　3　（　省　略　）

4　各学部教授会は，前項に規定するもののほか，学長等がつかさどる次に掲げる教育研究に関する事項について審議し，学長等の求めに応じ，意見を述べることができる。
(1)　教育課程に関する事項
(2)　学生の退学，休学，復学，留学，転学，転部・転科および転籍等の学籍異動に関する事項
(3)　学生の試験および成績の判定に関する事項
(4)　学生の生活指導および援助に関する事項
(5)　専任教員の人事に関する事項
(6)　学生の賞罰に関する事項
(7)　学部諸規程の改廃に関する事項
(8)　大学の諸規程において，学部教授会の議を経ることを必要と定められた事項
(9)　その他，学部の教育，研究および運営に関する重要な事項

5　学部教授会の構成および運営に関する事項については，別にこれを定める。
6　各学部教育課程委員会は，当該学部に教育課程に責任を持つ基幹教員をもって構成する。
7　各学部教育課程委員会は，学部長がこれを招集し，学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
8　学部教育課程委員会の構成および運営に関する事項については，別にこれを定める。

第 60 条　～　第 81 条　（　省　略　）

附　則

第 1 条　～　第 71 条　（　省　略　）

第 72 条　本学則は，令和 7 年 4 月 1 日から改正施行する。但し，令和 7 年 3 月 31 日以前に入学した者については、従前の規定による。

学部	学科	学生定員		
		入学定員	編入学定員	収容定員
仏教学部	仏教学科	60 名		240 名
文学部	日本文学科	120 名		480 名
	中国学科	50 名		200 名
	英米学科	70 名		280 名
歴史学部	歴史学科	110 名		440 名
	歴史文化学科	70 名		280 名
教育学部	教育学科	130 名		520 名
	幼児教育学科	80 名		320 名
	臨床心理学科	80 名		320 名
社会学部	現代社会学科	200 名		800 名
	公共政策学科	120 名		480 名
社会福祉学部	社会福祉学科	220 名		880 名
保健医療技術学部	理学療法学科	40 名		160 名
	作業療法学科	40 名		160 名
	看護学科	65 名		260 名
合計		1,455 名		5,820 名

第 42 条　～　第 55 条　（　省　略　）

第 8 章　教職員組織および学部教授会，大学評議会　　字句追加

第 56 条　～　第 57 条の 3　（　省　略　）

第 58 条　授業科目は，その学科ごとに**専任の教授または准教授**がこれを担当することを原則とする。但し，**専任の講師，助教または兼任**の教員が担当することがある。　　字句修正

第 59 条　各学部に，教授会を置く。　　字句追加

2　～　3　（　省　略　）

4　各学部教授会は，前項に規定するもののほか，学長等がつかさどる次に掲げる教育研究に関する事項について審議し，学長等の求めに応じ，意見を述べることができる。
(1)　教育課程に関する事項
(2)　学生の退学，休学，復学，留学，転学，転部・転科および転籍等の学籍異動に関する事項
(3)　学生の試験および成績の判定に関する事項
(4)　学生の生活指導および援助に関する事項
(5)　専任教員の人事に関する事項
(6)　学生の賞罰に関する事項
(7)　学部諸規程の改廃に関する事項
(8)　大学の諸規程において，学部教授会の議を経ることを必要と定められた事項
(9)　その他，学部の教育，研究および運営に関する重要な事項

5　学部教授会の構成および運営に関する事項については，別にこれを定める。

表修正

第73条　本学則は，令和８年４月１日から改正施行する。但し，令和８年３月31日以前に入学した者については，従前の規定による。 なお，保健医療技術学部看護学科は，第２条第８項の規定にかかわらず，令和８年３月31日に当該学部・学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間，存続するものとする。		附則条文追加
別表第１の２　～　別表１の４　（　省　略　）	別表第１の２　～　別表１の４　（　省　略　）	
別表第１の６（第４条の２第２項関係）　共通教養科目 （保健医療技術学部・看護学部）	別表第１の６（第４条の２第２項関係）全学共通科目・全学教養科目 （保健医療技術学部）	条文および別表修正
別表第２　～　別表第11の７　（　省　略　）	別表第２　～　別表第11の７　（　省　略　）	
別表第11の8（第16条の8関係）（看護学部看護学科）	別表第11の８（第16条の８関係）（保健医療技術学部看護学科）	別表修正

学 則 新 旧 対 照 表

新　学　則								旧　学　則								備　考
別表第1～別表第1の4　（ 省　略 ） **別表第1の5（第4条の2関係）共通教養科目** **（仏教学部・文学部・歴史学部・教育学部・社会学部・社会福祉学部）**								**別表第1～別表第1の4　（ 省　略 ）** **別表第1の5（第4条の2関係）全学共通科目・全学教養科目** **（仏教学部・文学部・歴史学部・教育学部・社会学部・社会福祉学部）**								項文および別表修正
系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由 必修	必修/選択/自由 選択	必修/選択/自由 自由	備考	系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由 必修	必修/選択/自由 選択	必修/選択/自由 自由	備考
共通教養科目	仏教・自校教育科目群		ブッダと法然	2	1	2			1科目2単位を履修すること。	全学共通科目	仏教		ブッダと法然	2	1	2			1科目2単位を履修すること。
			佛教大学の理念と歴史	2	1		2				自校教育		佛教大学の理念と歴史	2	1		2		
	グローバル科目群	必修外国語	英語	Intensive Reading1	1	1		1		1語種を選択し，選択した語種の8科目8単位を履修すること。但し日本語については留学生のみ履修を可とする。	外国語	必修外国語	英語	Intensive Reading1	1	1		1		1語種を選択し，選択した語種の8科目8単位を履修すること。但し日本語については留学生のみ履修を可とする。
				Intensive Reading2	1	2		1						Integrated Communication Skills1	1	1		1		
				Integrated Communication Skills1	1	1		1						Integrated Communication Skills2	1	1		1		
				Integrated Communication Skills2	1	2		1						Integrated Communication Skills3	1	2		1		
				Integrated Communication Skills3	1	3		1						Integrated Communication Skills4	1	2		1		
				Integrated Communication Skills4	1	4		1						Intermediate Reading1	1	3		1		
				Intermediate Reading1	1	3		1						Intermediate Reading2	1	4		1		
				Intermediate Reading2	1	4		1						中国語1	1	1		1		
			中国語	中国語1	1	1		1						中国語2	1	1		1		
				中国語2	1	1		1						中国語3	1	1		1		
				中国語3	1	2		1						中国語4	1	2		1		
				中国語4	1	2		1						中国語5	1	2		1		
				中国語5	1	3		1						中国語6	1	2		1		
				中国語6	1	3		1						中国語7	1	3		1		
				中国語7	1	4		1						中国語8	1	4		1		
				中国語8	1	4		1						朝鮮語1	1	1		1		
			韓国語	朝鮮語1	1	1		1						朝鮮語2	1	1		1		
				朝鮮語2	1	1		1						朝鮮語3	1	1		1		
				朝鮮語3	1	2		1						朝鮮語4	1	2		1		
				朝鮮語4	1	2		1						朝鮮語5	1	2		1		
				朝鮮語5	1	3		1						朝鮮語6	1	2		1		
				朝鮮語6	1	3		1						朝鮮語7	1	3		1		
				朝鮮語7	1	4		1						朝鮮語8	1	4		1		
				朝鮮語8	1	4		1						日本語1	1	1		1		
			日本語	日本語1	1	1		1						日本語2	1	1		1		
				日本語2	1	1		1						日本語3	1	1		1		
				日本語3	1	1		1						日本語4	1	2		1		
				日本語4	1	2		1						日本語5	1	2		1		
				日本語5	1	2		1						日本語6	1	2		1		
				日本語6	1	2		1						日本語7	1	3		1		
				日本語7	1	3		1						日本語8	1	4		1		
				日本語8	1	4		1						General English1	1	1		1		文学部および歴史学部は「必修外国語」とは別の1語種を選択し，選択した語種のうちそれぞれ以下のとおり履修すること。 「英語」選択者は「GeneralEnglish1・2」の2科目2単位を履修すること。 「中国語」選択者は「初級中国語1・2」の2科目2単位を履修すること。 「朝鮮語」選択者は「初級朝鮮語1・2」の2科目2単位を履修すること。 「ドイツ語」選択者は「初級ドイツ語1・2」の2科目2単位を履修すること。 「フランス語」選択者は「初級フランス語1・2」の2科目2単位を履修すること。 「ベトナム語」選択者は「初級ベトナム語1・2」の2科目2単位を履修すること。
		選択外国語	英語	General English1	1	1		1				選択外国語	英語	General English2	1	1		1		
				General English2	1	1		1						Communication Seminar1	2	1		2		
				Communication Seminar1	2	1		2						Communication Seminar2	2	1		2		
				Communication Seminar2	2	1		2						English Lecture1	2	1		2		
				English Lecture1	2	1		2						English Lecture2	2	1		2		
				English Lecture2	2	1		2						初級英語会話1	1	1		1		
				初級英語会話1	1	1		1						初級英語会話2	1	1		1		
				初級英語会話2	1	1		1						Skill-building（TOEIC500）1	1	1		1		
				Skill-building（TOEIC500）1	1	1		1						Skill-building（TOEIC500）2	1	1		1		
				Skill-building（TOEIC500）2	1	1		1						Skill-building（TOEIC600）1	1	1		1		
				Skill-building（TOEIC600）1	1	1		1						Skill-building（TOEIC600）2	1	1		1		
				Skill-building（TOEIC600）2	1	1		1						Intensive Overseas Program（短期海外語学研修認定用）	2	1		2		
			中国語	初級中国語1	1	1		1					中国語	初級中国語1	1	1		1		
				初級中国語2	1	1		1						初級中国語2	1	1		1		
				中級中国語	1	1		1						中級中国語1	1	1		1		
			韓国語	初級韓国語1	1	1		1						中級中国語2	1	1		1		
				初級韓国語2	1	1		1						中国語表現法（短期海外語学研修認定用）	2	1		2		
				中級韓国語	1	1		1						初級朝鮮語1	1	1		1		
			ドイツ語	初級ドイツ語1	1	1		1						初級朝鮮語2	1	1		1		
				初級ドイツ語2	1	1		1						中級朝鮮語1	1	1		1		
				中級ドイツ語	1	1		1						中級朝鮮語2	1	1		1		
			フランス語	初級フランス語1	1	1		1						朝鮮語表現法（短期海外語学研修認定用）	2	1		2		
				初級フランス語2	1	1		1						初級ドイツ語1	1	1		1		
				中級フランス語	1	1		1						初級ドイツ語2	1	1		1		
			ベトナム語	初級ベトナム語1	1	1		1						中級ドイツ語1	1	1		1		
				初級ベトナム語2	1	1		1						中級ドイツ語2	1	1		1		
				中級ベトナム語	1	1		1						初級フランス語1	1	1		1		
		国際教養		異文化への扉　―多文化共生のための外国語―	2	1		2						初級フランス語2	1	1		1		
				地球人になろう　―グローバリゼーションと文化―	2	1		2						中級フランス語1	1	1		1		
				英語圏の暮らし	2	1		2						中級フランス語2	1	1		1		
				アジアの暮らし	2	1		2						初級ベトナム語1	1	1		1		
				日本事情	2	1		2						初級ベトナム語2	1	1		1		
		海外研修		海外語学研修（英語）A	2	1		2						中級ベトナム語1	1	1		1		
				海外語学研修（英語）B	2	1		2						中級ベトナム語2	1	1		1		
				海外語学研修（英語）C	2	1		2						ベトナム語表現法（短期海外語学研修認	2	1		2		
				海外語学研修（英語）D	2	1		2				日本語表現		専門学修のための日本語表現	2	1	2			1科目2単位を履修すること。
				海外語学研修（英語）E	2	1		2				情報処理	必修情報処理	コンピュータ・リテラシー	2	1	2			1科目2単位を履修すること。
				海外語学研修（英語）F	1	1		1					選択情報処理	表計算と統計	2	1		2		
				海外語学研修（英語）G	1	1		1						インターネット・プログラミング	2	1		2		
				海外語学研修（中国語）A	2	1		2						マルチメディアプレゼンテーション	2	1		2		
				海外語学研修（中国語）B	2	1		2					キャリア	キャリア形成	2	1		2		
				海外語学研修（中国語）C	2	1		2						組織マネジメント論	2	1		2		
				海外語学研修（中国語）D	1	1		1						表現技法とプレゼンテーション	2	3		2		
				海外語学研修（中国語）E	1	1		1						リーダーシップ論	2	3		2		
				海外語学研修（韓国語）A	2	1		2						情報収集と問題解決	2	2		2		
				海外語学研修（韓国語）B	2	1		2						インターンシップ	2	3		2		
				海外語学研修（韓国語）C	2	1		2						地域活動1	1	3		1		
				海外語学研修（韓国語）D	1	1		1						地域活動2	1	3		1		
				海外語学研修（韓国語）E	1	1		1					スポーツ	スポーツ理論	1	1		1		
				海外語学研修（ベトナム語）A	2	1		2						スポーツ実技	1	1		1		
				海外語学研修（ベトナム語）B	2	1		2				日本事情		日本事情	2	1		2		
				海外語学研修（ベトナム語）C	2	1		2					海外研修	短期海外語学研修（英語）1	2	1		2		
				海外語学研修（ベトナム語）D	1	1		1						短期海外語学研修（英語）2	2	1		2		
				海外語学研修（ベトナム語）E	1	1		1						短期海外語学研修（英語）3	2	1		2		
		データサイエンス科目群		ICTリテラシー	2	1	2			1科目2単位を履修すること。				短期海外語学研修（英語）4	2	1		2		
				データサイエンスの基礎を学ぶ	2	2		2						短期海外語学研修（中国語）1	2	1		2		
				データサイエンスの基礎を実践する	1	2		1						短期海外語学研修（中国語）2	2	1		2		
				統計学の基礎を学ぶ	2	1		2						短期海外語学研修（中国語）3	2	1		2		
				プログラミングを学ぶ	2	1		2						短期海外語学研修（中国語）4	2	1		2		
		初年次教育科目群		スタディ・スキルズ	2	1	2			3科目4単位を履修すること。				短期海外語学研修（朝鮮語）1	2	1		2		
				キャリア・スキルズ1	1	1	1							短期海外語学研修（朝鮮語）2	2	1		2		
				キャリア・スキルズ2	1	2	1							短期海外語学研修（朝鮮語）3	2	1		2		
				数学の基礎とその活用	2	1		2						短期海外語学研修（朝鮮語）4	2	1		2		
				生体の科学Ⅰ（生物・化学）	2	1		2						短期海外語学研修（ベトナム語）1	2	1		2		
				生体の科学Ⅱ（物理）	1	1		1						短期海外語学研修（ベトナム語）2	2	1		2		
		キャリアスタディ科目群		マイファーストキャリア	2	1		2						短期海外語学研修（ベトナム語）3	2	1		2		
				ライフ・キャリアデザイン	2	1		2						短期海外語学研修（ベトナム語）4	2	1		2		
				キャリア形成とマネジメント	2	1		2				大学コンソーシアム		大学コンソーシアム	2	1		2		
				自己表現とコミュニケーション	2	3		2					人間を考える	くらしの中の仏教	2	1		2		4単位以上を履修すること。
				職業世界を知る	2	3		2						ことばと文学	2	1		2		
				キャリア実習	2	3		2						心の世界を考える	2	1		2		
				キャリア実習（教職）1	4	3		4						人間の仕組みと活動	2	1		2		
				キャリア実習（教職）2	4	5		4												

学 則 新 旧 対 照 表

新学則									旧学則									備考
共通教養科目	プロジェクト科目群		プロジェクトA	2	3		2		全学教養科目	基礎領域	人間の歩み	前近代の世界	2	1		2		
			プロジェクトB	2	3		2					近現代の世界	2	1		2		
	自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	日本の仏教芸術とその鑑賞	2	1		2					宗教と人間の歩み	2	1		2		
			ことばと文学	2	1		2					病と人間の歩み	2	1		2		
			仏教の人間観と死生観	2	1		2				人間と社会	日本国憲法	2	1		2		
			東洋と西洋における思想・哲学・宗教	2	1		2					法律を知る	2	1		2		
			前近代の世界・日本	2	1		2					世界と日本の政治	2	1		2		
			近現代の世界・日本	2	1		2					くらしの中の経済	2	1		2		
			世界の民族文化	2	1		2					個人・集団・社会	2	1		2		
			世界の中の日本文化・京都文化	2	1		2				人間と自然	数の世界	2	1		2		
		地域と社会を学ぶ	日本国憲法	2	1		2					物質の世界	2	1		2		
			世界と日本の政治	2	1		2					宇宙を考える	2	1		2		
			くらしの中の経済	2	1		2					生物の世界	2	1		2		
			個人と社会の関係を考える	2	1		2					自然と地理	2	1		2		
			世界のニュースから見る日本	2	1		2					食と栄養	2	1		2		
			福祉と社会	2	1		2			応用領域	人間を考える	仏教の人間観と死生観	2	5		2		4単位以上を履修すること。
			情報・メディアと社会	2	1		2					人間と思想	2	5		2		
			教育事情を知る	2	1		2				人間の歩み	人種・民族・国家	2	5		2		
			文化の中から考える多文化共生	2	1		2					世界の文化	2	5		2		
		人間と自然を学ぶ	数学の言葉で世界を観る	2	1		2					人間と経済活動	2	5		2		
			宇宙を考える	2	1		2				人間と社会	世界のニュースと日本	2	5		2		
			生物の世界	2	1		2					Global English Communication	2	5		2		
			自然と地理	2	1		2					現代社会と福祉	2	5		2		
			生命を考える	2	1		2					情報・メディアと社会	2	5		2		
			エコロジーを考える	2	1		2					教育事情を知る	2	5		2		
			心の世界を考える	2	1		2				人間と自然	生命を考える	2	5		2		
			人間の仕組みと活動	2	1		2					エコロジーを学ぶ	2	5		2		
			病と人間の歩み	2	1		2											
	スポーツ		スポーツ理論	1	1		1											
			スポーツ実技	1	1		1											
	大学コンソーシアム		大学コンソーシアム	2	1		2											

項文および別表修正

別表第1の6（第4条の2 第2項関係）共通教養科目
（保健医療技術学部・看護学部）

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由 必修	選択	自由	備考
共通教養科目	仏教・自校教育科目群		ブッダと法然	2	1	2			1科目2単位を履修すること。
			佛教大学の理念と歴史	2	1		2		
	グローバル科目群	必修外国語 英語	Intensive Reading1	1	1	1			6科目6単位を履修すること。
			Intensive Reading2	1	2	1			
			Integrated Communication Skills1	1	1	1			
			Integrated Communication Skills2	1	2	1			
			Integrated Communication Skills3	1	3	1			
			Integrated Communication Skills4	1	4	1			
		選択外国語 英語	General English1	1	1		1		
			General English2	1	1		1		
			Communication Seminar1	2	1		2		
			Communication Seminar2	2	1		2		
			English Lecture1	2	1		2		
			English Lecture2	2	1		2		
			初級英語会話1	1	1		1		
			初級英語会話2	1	1		1		
			Skill-building(TOEIC500)1	1	1		1		
			Skill-building(TOEIC500)2	1	1		1		
			Skill-building(TOEIC600)1	1	1		1		
			Skill-building(TOEIC600)2	1	1		1		
		中国語	初級中国語1	1	1		1		
			初級中国語2	1	1		1		
			中級中国語	1	1		1		
		韓国語	初級韓国語1	1	1		1		
			初級韓国語2	1	1		1		
			中級韓国語	1	1		1		
		ドイツ語	初級ドイツ語1	1	1		1		
			初級ドイツ語2	1	1		1		
			中級ドイツ語	1	1		1		
		フランス語	初級フランス語1	1	1		1		
			初級フランス語2	1	1		1		
			中級フランス語	1	1		1		
		ベトナム語	初級ベトナム語1	1	1		1		
			初級ベトナム語2	1	1		1		
			中級ベトナム語	1	1		1		
		国際教養	異文化への扉 ―多文化共生のための外国語―	2	1		2		
			地球人になろう ―グローバリゼーションと文化―	2	1		2		
			英語圏の暮らし	2	1		2		
			アジアの暮らし	2	1		2		
			日本事情	2	1		2		
		海外研修	海外語学研修(英語)A	2	1		2		
			海外語学研修(英語)B	2	1		2		
			海外語学研修(英語)C	2	1		2		
			海外語学研修(英語)D	2	1		2		
			海外語学研修(英語)E	2	1		2		
			海外語学研修(英語)F	1	1		1		
			海外語学研修(英語)G	1	1		1		
			海外語学研修(中国語)A	2	1		2		
			海外語学研修(中国語)B	2	1		2		
			海外語学研修(中国語)C	2	1		2		
			海外語学研修(中国語)D	1	1		1		
			海外語学研修(中国語)E	1	1		1		
			海外語学研修(韓国語)A	2	1		2		
			海外語学研修(韓国語)B	2	1		2		
			海外語学研修(韓国語)C	2	1		2		
			海外語学研修(韓国語)D	1	1		1		
			海外語学研修(韓国語)E	1	1		1		
			海外語学研修(ベトナム語)A	2	1		2		
			海外語学研修(ベトナム語)B	2	1		2		
			海外語学研修(ベトナム語)C	2	1		2		
			海外語学研修(ベトナム語)D	1	1		1		
			海外語学研修(ベトナム語)E	1	1		1		
	データサイエンス科目群		ICTリテラシー	2	1	2			1科目2単位を履修すること。
			データサイエンスの基礎を学ぶ	2	2		2		
			データサイエンスの基礎を実践する	1	2		1		
			統計学の基礎を学ぶ	2	1		2		
			プログラミングを学ぶ	2	1		2		
	初年次教育科目群		スタディ・スキルズ	2	1	2			3科目4単位を履修すること。
			キャリア・スキルズ1	1	1	1			
			キャリア・スキルズ2	1	2	1			
			数学の基礎とその活用	2	1		2		
			生体の科学Ⅰ(生物・化学)	2	1		2		
			生体の科学Ⅱ(物理)	1	1		1		
			マイファーストキャリア	2	1		2		
			ライフ・キャリアデザイン	2	1		2		

別表第1の6（第4条の2第2項関係）全学共通科目・全学教養科目
（保健医療技術学部）

系列区分			授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由 必修	選択	自由	備考
全学共通科目	仏教		ブッダと法然	2	1	2			1科目2単位を履修すること。
	自校教育		佛教大学の理念と歴史	2	1		2		
	外国語 必修外国語	英語	Intensive Reading1	1	1		1		1語種を選択し，選択した語種の8科目8単位を履修すること。但し日本語については留学生のみ履修を可とする。
			Intensive Reading2	1	2		1		
			Integrated Communication Skills1	1	1		1		
			Integrated Communication Skills2	1	1		1		
			Integrated Communication Skills3	1	2		1		
			Integrated Communication Skills4	1	2		1		
			Intermediate Reading1	1	3		1		
			Intermediate Reading2	1	4		1		
		中国語	中国語1	1	1		1		
			中国語2	1	1		1		
			中国語3	1	1		1		
			中国語4	1	2		1		
			中国語5	1	2		1		
			中国語6	1	2		1		
			中国語7	1	3		1		
			中国語8	1	4		1		
		朝鮮語	朝鮮語1	1	1		1		
			朝鮮語2	1	1		1		
			朝鮮語3	1	1		1		
			朝鮮語4	1	2		1		
			朝鮮語5	1	2		1		
			朝鮮語6	1	2		1		
			朝鮮語7	1	3		1		
			朝鮮語8	1	4		1		
		日本語	日本語1	1	1		1		
			日本語2	1	1		1		
			日本語3	1	1		1		
			日本語4	1	2		1		
			日本語5	1	2		1		
			日本語6	1	2		1		
			日本語7	1	3		1		
			日本語8	1	4		1		
	外国語 選択外国語	英語	General English1	1	1		1		文学部および歴史学部は「必修外国語」とは別の1語種を選択し，選択した語種のうちそれぞれ以下のとおり履修すること。 「英語」選択者は「GeneralEnglish1・2」の2科目2単位を履修すること。 「中国語」選択者は「初級中国語1・2」の2科目2単位を履修すること。 「朝鮮語」選択者は「初級朝鮮語1・2」の2科目2単位を履修すること。 「ドイツ語」選択者は「初級ドイツ語1・2」の2科目2単位を履修すること。 「フランス語」選択者は「初級フランス語1・2」の2科目2単位を履修すること。 「ベトナム語」選択者は「初級ベトナム語1・2」の2科目2単位を履修すること。
			General English2	1	1		1		
			Communication Seminar1	2	1		2		
			Communication Seminar2	2	1		2		
			English Lecture1	2	1		2		
			English Lecture2	2	1		2		
			初級英語会話1	1	1		1		
			初級英語会話2	1	1		1		
			Skill-building(TOEIC500)1	1	1		1		
			Skill-building(TOEIC500)2	1	1		1		
			Skill-building(TOEIC600)1	1	1		1		
			Skill-building(TOEIC600)2	1	1		1		
			Intensive Overseas Program(短期海外語学研修認定用)	2	1		2		
		中国語	初級中国語1	1	1		1		
			初級中国語2	1	1		1		
			中級中国語1	1	1		1		
			中級中国語2	1	1		1		
			中国語表現法(短期海外語学研修認定用)	2	1		2		
		朝鮮語	初級朝鮮語1	1	1		1		
			初級朝鮮語2	1	1		1		
			中級朝鮮語1	1	1		1		
			中級朝鮮語2	1	1		1		
			朝鮮語表現法(短期海外語学研修認定用)	2	1		2		
		ドイツ語	初級ドイツ語1	1	1		1		
			初級ドイツ語2	1	1		1		
			中級ドイツ語1	1	1		1		
			中級ドイツ語2	1	1		1		
		フランス語	初級フランス語1	1	1		1		
			初級フランス語2	1	1		1		
			中級フランス語1	1	1		1		
			中級フランス語2	1	1		1		
		ベトナム語	初級ベトナム語1	1	1		1		
			初級ベトナム語2	1	1		1		
			中級ベトナム語1	1	1		1		
			中級ベトナム語2	1	1		1		
			ベトナム語表現法(短期海外語学研修	2	1		2		
	日本語表現		専門学修のための日本語表現	2	1	2			1科目2単位を履修すること。
	情報処理 必修情報処理		コンピュータ・リテラシー	2	1		2		
	選択情報処理		表計算と統計	2	1		2		
			インターネット・プログラミング	2	1		2		
			マルチメディアプレゼンテーション	2	1		2		

学 則 新 旧 対 照 表

新 学 則										旧 学 則										備 考
共通教養科目	キャリアスタディ科目群		キャリア形成とマネジメント	2	1		2			全学共通科目	キャリア		キャリア形成	2	1		2			
			自己表現とコミュニケーション	2	3		2						組織マネジメント論	2	1		2			
			職業世界を知る	2	3		2						表現技法とプレゼンテーション	2	3		2			
			キャリア実習	2	3		2						リーダーシップ論	2	3		2			
			キャリア実習(教職)1	4	3		4						情報収集と問題解決	2	2		2			
			キャリア実習(教職)2	4	5		4						インターンシップ	2	3		2			
	プロジェクト科目群		プロジェクトA	2	3		2						地域活動1	1	3		1			
			プロジェクトB	2	3		2						地域活動2	1	3		1			
	自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	日本の仏教芸術とその鑑賞	2	1		2		6単位以上を履修すること。		スポーツ		スポーツ理論	1	1		1			
			ことばと文学	2	1		2						スポーツ実技	1	1		1			
			仏教の人間観と死生観	2	1		2				日本事情		日本事情	2	1		2			
			東洋と西洋における思想・哲学・宗教	2	1		2				海外研修		短期海外語学研修(英語)1	2	1		2			
			前近代の世界・日本	2	1		2						短期海外語学研修(英語)2	2	1		2			
			近現代の世界・日本	2	1		2						短期海外語学研修(英語)3	2	1		2			
			世界の民族文化	2	1		2						短期海外語学研修(英語)4	2	1		2			
			世界の中の日本文化・京都文化	2	1		2						短期海外語学研修(中国語)1	2	1		2			
		地域と社会を学ぶ	日本国憲法	2	1		2						短期海外語学研修(中国語)2	2	1		2			
			世界と日本の政治	2	1		2						短期海外語学研修(中国語)3	2	1		2			
			くらしの中の経済	2	1		2						短期海外語学研修(中国語)4	2	1		2			
			個人と社会の関係を考える	2	1		2						短期海外語学研修(朝鮮語)1	2	1		2			
			世界のニュースから見る日本	2	1		2						短期海外語学研修(朝鮮語)2	2	1		2			
			福祉と社会	2	1		2						短期海外語学研修(朝鮮語)3	2	1		2			
			情報・メディアと社会	2	1		2						短期海外語学研修(朝鮮語)4	2	1		2			
			教育事情を知る	2	1		2						短期海外語学研修(ベトナム語)1	2	1		2			
			文化の中から考える多文化共生	2	1		2						短期海外語学研修(ベトナム語)2	2	1		2			
		人間と自然を学ぶ	数学の言葉で世界を観る	2	1		2						短期海外語学研修(ベトナム語)3	2	1		2			
			宇宙を考える	2	1		2						短期海外語学研修(ベトナム語)4	2	1		2			
			生物の世界	2	1		2				大学コンソーシアム		大学コンソーシアム	2	1		2			
			自然と地理	2	1		2				全学教養科目	基礎領域	人間を考える	くらしの中の仏教	2	1		2		4単位以上を履修すること。
			生命を考える	2	1		2							ことばと文学	2	1		2		
			エコロジーを考える	2	1		2							心の世界を考える	2	1		2		
			心の世界を考える	2	1		2							人間の仕組みと活動	2	1		2		
			人間の仕組みと活動	2	1		2						人間の歩み	前近代の世界	2	1		2		
			病と人間の歩み	2	1		2							近現代の世界	2	1		2		
	スポーツ		スポーツ理論	1	1		1							宗教と人間の歩み	2	1		2		
			スポーツ実技	1	1		1							病と人間の歩み	2	1		2		
	大学コンソーシアム		大学コンソーシアム	2	1		2						人間と社会	日本国憲法	2	1		2		
														法律を知る	2	1		2		
														世界と日本の政治	2	1		2		
														くらしの中の経済	2	1		2		
														個人・集団・社会	2	1		2		
													人間と自然	数の世界	2	1		2		
														物質の世界	2	1		2		
														宇宙を考える	2	1		2		
														生物の世界	2	1		2		
														自然と地理	2	1		2		
														食と栄養	2	1		2		
												応用領域	人間を考える	仏教の人間観と死生観	2	5		2		
														人間と思想	2	5		2		
													人間の歩み	人種・民族・国家	2	5		2		
														世界の文化	2	5		2		
														人間と経済活動	2	5		2		
													人間と社会	世界のニュースと日本	2	5		2		
														Global English Communication	2	5		2		
														現代社会と福祉	2	5		2		
														情報・メディアと社会	2	5		2		
														教育事情を知る	2	5		2		
													人間と自然	生命を考える	2	5		2		
														エコロジーを学ぶ	2	5		2		

学 則 新 旧 対 照 表

新　学　則								旧　学　則								備　考
別表第11の8（第16条の8関係）（看護学部看護学科）								**別表第11の8（第16条の8関係）（保健医療技術学部看護学科）**								項文および別表修正
系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由 必修	選択	自由	備考	系列区分		授業科目の名称	単位数	履修開始セメスター	必修/選択/自由 必修	選択	自由	備考	
	学部基幹科目	医療概論	1	1	1			1科目1単位を履修すること。		学部基幹科目	医療概論	1	1	1			1科目1単位を履修すること。	
	学科基礎科目	アカデミック・スキルズ	2	2	2			15科目28単位を履修すること。		学科基礎科目	入門ゼミ	2	2	2			17科目31単位を履修すること。	
		仏教看護	1	3	1						基礎解剖学	2	1	2				
		基礎解剖学	2	1	2						基礎生理学	2	1	2				
		基礎生理学	2	1	2						栄養学	2	2	2				
		病理学概論	2	2	2						病理学概論	2	2	2				
		栄養学	2	2	2						公衆衛生学	2	3	2				
		疾病論Ⅰ	2	2	2						社会福祉	2	2	2				
		疾病論Ⅱ	2	2	2						生化学	2	1	2				
		疾病論Ⅲ	2	3	2						疾病論Ⅰ	2	2	2				
		疾病論Ⅳ	2	3	2						疾病論Ⅱ	2	2	2				
		薬理学	1	3	1						疾病論Ⅲ	2	3	2				
		公衆衛生学	2	3	2						疾病論Ⅳ	2	3	2				
		社会福祉	2	2	2						感染免疫学	1	2	1				
		保健医療福祉行政論	2	3	2						仏教看護論Ⅰ	1	1	1				
		保健統計学	2	4	2						仏教看護論Ⅱ	1	1	1				
											薬理学	2	3	2				
											保健統計学	2	4	2				
専門科目	学科専攻科目	看護学概論	2	1	2			必修科目69単位を履修すること。 なお，「保健師国家試験受験資格」を希望する場合は，選択科目9科目19単位をあわせて履修すること。	専門科目	学科専門科目	看護学概論	2	1	2			必修科目46科目68単位を履修すること。 なお，「保健師国家試験受験資格」を希望する場合は，選択科目9科目19単位をあわせて履修すること。		
		看護実践基盤技術論	2	1	2						看護実践基盤技術論	2	1	2				
		フィジカルアセスメント技術	1	2	1						フィジカルアセスメント技術	1	2	1				
		生活行動援助技術論	2	2	2						生活行動援助技術論	2	2	2				
		看護過程論	1	3	1						看護過程論	1	2	1				
		診療援助技術論Ⅰ	1	3	1						看護過程実践論	1	3	1				
		診療援助技術論Ⅱ	1	4	1						診療援助技術論Ⅰ	1	3	1				
		基礎看護学実習Ⅰ	1	2	1						診療援助技術論Ⅱ	1	4	1				
		基礎看護学実習Ⅱ	2	3	2						基礎看護学実習Ⅰ	1	2	1				
		コミュニティ実習	1	1	1						基礎看護学実習Ⅱ	2	3	2				
		地域・在宅看護学概論	1	2	1						コミュニティ実習	1	1	1				
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	2	3	2						成人看護学概論	1	3	1				
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	5	1						クリティカルケア看護学Ⅰ	2	4	2				
		地域・在宅看護学実習	2	6	2						クリティカルケア看護学Ⅱ	1	5	1				
		クリティカルケア看護学Ⅰ	2	4	2						慢性看護学Ⅰ	2	4	2				
		クリティカルケア看護学Ⅱ	1	5	1						慢性看護学Ⅱ	1	5	1				
		クリティカルケア看護学実習	3	6	3						クリティカルケア看護学実習	3	6	3				
		慢性看護学Ⅰ	2	4	2						慢性看護学実習	3	6	3				
		慢性看護学Ⅱ	1	5	1						老年看護学概論	1	3	1				
		慢性看護学実習	3	6	3						老年看護方法論Ⅰ	2	4	2				
		老年看護学概論	1	3	1						老年看護方法論Ⅱ	1	5	1				
		老年看護方法論Ⅰ	2	4	2						老年看護学実習	3	6	3				
		老年看護方法論Ⅱ	1	5	1						小児看護学概論	1	3	1				
		老年看護学実習	3	6	3						小児看護方法論Ⅰ	2	4	2				
		小児看護学概論	1	3	1						小児看護方法論Ⅱ	1	5	1				
		小児看護方法論Ⅰ	2	4	2						小児看護学実習	2	7	2				
		小児看護方法論Ⅱ	1	5	1						母性看護学概論	1	3	1				
		小児看護学実習	2	7	2						母性看護方法論Ⅰ	2	4	2				
		母性看護学概論	1	3	1						母性看護方法論Ⅱ	1	5	1				
		母性看護方法論Ⅰ	2	4	2						母性看護学実習	2	7	2				
		母性看護方法論Ⅱ	1	5	1						精神看護学概論	1	3	1				
		母性看護学実習	2	7	2						精神看護方法論Ⅰ	2	4	2				
		精神看護学概論	1	3	1						精神看護方法論Ⅱ	1	5	1				
		精神看護方法論Ⅰ	2	4	2						精神看護学実習	2	7	2				
		精神看護方法論Ⅱ	1	5	1						地域・在宅看護学概論	1	2	1				
		精神看護学実習	2	7	2						地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	3	1				
		公衆衛生看護学概論	2	4	2						地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	4	1				
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	2	4		2					地域・在宅看護実践論	1	4	1				
		公衆衛生看護方法論Ⅱ	2	5		2					地域・在宅看護学実習	2	7	2				
		公衆衛生看護展開論Ⅰ	2	5		2					公衆衛生看護学概論	2	4	2				
		公衆衛生看護展開論Ⅱ	2	5		2					公衆衛生看護方法論Ⅰ	2	4		2			
		公衆衛生看護管理論Ⅰ	2	5		2					公衆衛生看護方法論Ⅱ	2	5		2			
		公衆衛生看護管理論Ⅱ	2	5		2					公衆衛生看護展開論Ⅰ	2	5		2			
		公衆衛生看護活動論	2	7		2					公衆衛生看護展開論Ⅱ	2	5		2			
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	1	7		1					公衆衛生看護管理論Ⅰ	2	5		2			
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	7		4					公衆衛生看護管理論Ⅱ	2	5		2			
		国際看護学	1	3	1						公衆衛生看護活動論	2	7		2			
		災害看護学	1	5	1						公衆衛生看護学実習Ⅰ	1	7		1			
		エンドオブライフケア論	1	5	1						公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	7		4			
		ホリスティックケアアプローチ	1	5	1						国際看護学	1	5	1				
		看護倫理学	1	7	1						災害看護学	1	5	1				
		看護マネジメント	1	8	1						看護倫理学	1	7	1				
		看護研究Ⅰ	1	7	1						看護研究Ⅰ	1	7	1				
		看護研究Ⅱ	1	8	1						看護研究Ⅱ	1	8	1				
		統合実践看護実習	2	7	2						統合実践看護実習	2	7	2				
	関連科目	生化学	2	1		2		学科専攻科目の選択科目「公衆衛生看護方法論Ⅰ」および関連科目から 合計6単位以上を履修すること。 「保健師国家試験受験資格」を希望する場合、「看護疫学」を履修すること。		関連科目	看護疫学	2	4		2		学科専攻科目の選択科目（公衆衛生看護方法論Ⅰ）および関連科目から4単位以上履修すること。	
		感染免疫学	1	2		1					臨床心理学	1	3		1			
		臨床心理学	1	3		1					保健医療福祉行政論	2	3		2			
		看護疫学	2	4		2					エンドオブライフケア論	1	5		1			
		看護教育学	1	8		1					看護管理学	1	8		1			
		クリティカルケア看護実践	1	8		1					看護教育学	1	8		1			
		臨床推論	1	8		1					仏教看護論Ⅲ	1	5		1			
											仏教看護論Ⅳ	1	5		1			
											ホリスティックケアアプローチ	1	5		1			
											クリティカルケア看護実践論	1	8		1			
											臨床判断実践論	1	8		1			

学 則 新 旧 対 照 表

新　学　則	旧　学　則	備考
別表第20　削除	別表第20　削除	
別表第21（第52条関係）（入学検定料および入学金）	別表第21（第52条関係）（入学検定料および入学金）	
種　類 / 金　額 入学検定料 35,000円 入　学　金 **250,000円**	種　類 / 金　額 入学検定料 35,000円 入　学　金 **200,000円**	入学金金額修正
別表第22（第53条関係）（授業料等学費の種類および金額）	別表第22（第53条関係）（授業料等学費の種類および金額）	
	種　類 / 金　額 / 備　考 **授業料（第1学年次）** 仏教学部・文学部・歴史学部・社会学部・社会福祉学部 870,000円 教育学部 920,000円 保健医療技術学部 1,350,000円 **設備費** 仏教学部・文学部・歴史学部・教育学部・社会学部・社会福祉学部 200,000円 保健医療技術学部 400,000円 備考：平成11年度以降の授業料は，毎年度の国家公務員の給与改定に関する人事院勧告指数（ベースアップ率・定期昇給率）に教育研究条件改善費の率（5%以内）を加算し，前年度の授業料に乗じて計算されたものとする。	表削除
	種　類 / 金　額 / 備　考 **授業料（第2学年次以降毎学年次）** 仏教学部・文学部・歴史学部・社会学部・社会福祉学部 910,000円 教育学部 960,000円 保健医療技術学部 1,390,000円 **設備費** 仏教学部・文学部・歴史学部・教育学部・社会学部・社会福祉学部 200,000円 保健医療技術学部 400,000円 備考：平成11年度以降の授業料は，毎年度の国家公務員の給与改定に関する人事院勧告指数（ベースアップ率・定期昇給率）に教育研究条件改善費の率（5%以内）を加算し，前年度の授業料に乗じて計算されたものとする。	表削除
種　類 / 金　額 / 備　考 **（第1学年次）** 仏教学部・文学部・歴史学部・社会学部・社会福祉学部 870,000円 教育学部 920,000円 保健医療技術学部・看護学部 1,350,000円 **教育充実費** **仏教学部・文学部・歴史学部・社会学部・社会福祉学部** 100,000円 教育学部 130,000円 保健医療技術学部・看護学部 250,000円		表追加
種　類 / 金　額 / 備　考 **（第2学年次以降毎学年次）** 仏教学部・文学部・歴史学部・社会学部・社会福祉学部 910,000円 教育学部 960,000円 保健医療技術学部・看護学部 1,390,000円 **教育充実費** **仏教学部・文学部・歴史学部・社会学部・社会福祉学部** 310,000円 教育学部 340,000円 保健医療技術学部・看護学部 450,000円		表追加

○学部教授会規程

昭和61年４月１日

第１条　本規程は，佛教大学学則（以下「学則」という。）第59条に基き，学部教授会の構成および運営について必要な事項を定める。

第２条　学部教授会は，当該学部に所属する専任の教授，准教授および講師をもって構成する。

２　学部教授会は，必要に応じて前項に掲げる構成員以外の者を出席させ，報告および説明または意見を求めることができる。但し，議決には加えない。

３　新採用人事および昇任人事に関する学部教授会は，教授人事には教授，准教授人事には准教授以上，講師・助教人事には講師以上の者をもって構成する。

第３条　学部教授会は，学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1)　学生の入学，卒業および課程の修了に関する事項

(2)　学位の授与に関する事項

(3)　前二号に掲げるもののほか，教育研究に関する重要な事項で，教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

２　学部教授会は，前項に規定するもののほか，学長等がつかさどる次に掲げる教育研究に関する事項について審議し，学長等の求めに応じ，意見を述べることができる。

(1)　教育課程に関する事項

(2)　学生の退学，休学，復学，留学，転学，転部・転科および転籍等の学籍異動に関する事項

(3)　学生の試験および成績の判定に関する事項

(4)　学生の生活指導および援助に関する事項

(5)　学生の賞罰に関する事項

(6)　専任教員の人事に関する事項

(7)　学部諸規程の改廃に関する事項

(8)　大学の諸規程において，学部教授会の議を経ることを必要と定められた事項

(9)　学部の自己点検・評価に関する事項

(10)　その他，学部の教育，研究および運営に関する重要な事項

３　前項第６号の人事に関する規程は，別にこれを定める。

第４条　学部長は，学部教授会において選挙によって選出する。学部長の選出に関する規程

は，別にこれを定める。

２　学部長は，学部の運営を行なうために学部運営会議を設ける。学部運営会議は，学部長および学生支援担当主任，教育推進担当主任，研究推進担当主任，生涯学習担当主任をもって構成する。

３　学部長は，学部構成員の中から各担当主任を指名し，教授会の承認を得る。また，学部長が指名する担当主任は学部長に事故あるとき，その職務を代行する。

第５条　学部教授会は，大学評議会の評議員を選挙によって選出する。

第６条　学部教授会は，学内委員会の委員を互選する。

２　学部教授会は，学部内の諸問題を検討するために，学部内に委員会を設けることができる。

第７条　学部教授会は，原則として月２回定例で開催し，学部長がこれを招集する。但し，学部長が必要と認めたときは，臨時に開催することができる。

２　学部教授会は，構成員の３分の１以上の要求があったとき，臨時に開催しなければならない。

３　学長は，必要と認めたとき，学部教授会あるいは合同学部教授会の招集を学部長に要請し，または学部教授会あるいは合同学部教授会に出席して意見を聴くことができる。

第８条　学部教授会は，休職および学外研修中の者を除く構成員の３分の２以上の出席がなければ，開催することができない。

第９条　学部教授会に議長，副議長，書記２名を置く。

２　議長は，構成員の選挙によって選出する。任期は１年とする。但し，再任は妨げない。

３　副議長および書記は議長が指名し，学部教授会の承認を得る。副議長は議長を補佐し，書記は学部教授会議事録（以下「議事録」という。）の作成等に関する事務を処理する。なお任期は１年とする。但し，再任を妨げない。

４　議事録は，次回の学部教授会において承認を受け，議長が署名する。なお議事録は，学部長が保管し，構成員の要求があるときは，これを提示しなければならない。

第10条　学部長は，学部教授会の議案を構成員に事前に通告しなければならない。但し，緊急の事項についてはこの限りではない。

２　学部教授会に対する議案の提出は，原則として学部運営会議を構成する各担当主任が行なう。なお，教員人事に関する事項，大学評議会に関する事項および大学全体に関する事項等の議案の提出は，学部長が行なう。但し，緊急の事項については，この限りではない。

第11条　学部教授会の議決は，出席者の過半数の賛成を必要とし，可否同数の場合は，議

長の決するところによる。

２　教員人事に関する事項および本規程の改廃は，出席者の３分の２以上の賛成を必要とする。

３　構成員本人の不利益に属する事項の議決は，出席者の４分の３以上の賛成を必要とする。

４　学部教授会の議決について，特別の利害関係を有する者は退席し，議決権を行使することはできない。

第12条　各学部教授会の間で異なる議決がなされた場合，その議案を提出した学内委員会で再度審議し，各学部教授会に再度はかる。これでもなお異なる議決がなされた場合は，大学評議会の議を経て，学長が決定する。

第13条　第７条第３項による合同学部教授会の運営は，本規程を準用するものとする。

第14条　本規程の改廃は，各学部教授会の議を経て，大学評議会の承認を得なければならない。

附　則

第１条　削除

第２条　本規程は，昭和61年４月１日から施行する。

第３条　本規程は，昭和63年４月１日から改正施行する。

第４条　本規程は，平成元年４月１日から改正施行する。

第５条　本規程は，平成８年２月１日から改正施行する。

第６条　本規程は，平成９年４月１日から改正施行する。

第７条　本規程は，平成15年４月１日から改正施行する。

第８条　本規程は，平成18年４月１日から改正施行する。

第９条　本規程は，平成19年４月１日から改正施行する。

第10条　本規程は，平成21年４月１日から改正施行する。

第11条　本規程は，平成24年４月１日から改正施行する。

第12条　本規程は，平成27年４月１日から改正施行する。

○学部教育課程委員会規程

令和8年４月１日

第１条 本規程は，佛教大学学則（以下「学則」という。）第59条に基き，学部教育課程委員会（以下「委員会」という。）の構成および運営について必要な事項を定める。

第２条　委員会は，当該学部の基幹教員をもって構成する。

２　委員会は，必要に応じて構成員以外の者を出席させ，報告および説明または意見を求めることができる。但し，議決には加えない。

３　委員会は，教育推進部学部事務課の所管とする。

第３条　委員会に委員長と副委員長および書記２名を置く。

２　委員長は学部長とし，副委員長および書記２名は委員長が指名し，委員会の承認を得る。副委員長は委員長を補佐し，書記は委員会議事録（以下「議事録」という。）の作成等に関する事務を処理する。

第４条　委員会は委員長が招集し，会務を統括する。

２　委員会は，休職および学外研修中の者を除く構成員の３分の２以上の出席がなければ開催することができない。

第５条　委員会は，次に掲げる事項について審議を行ない，その結果を学部教授会へ提出しなければならない。

(1)　学部の教育課程の編成に関する事項

(2)　学部の教育課程に関する自己点検・評価およびその結果に基づく改善・向上に関する事項

(3)　その他，学部の教育課程に関する必要な事項

第６条　委員会の議決は，出席者の過半数の賛成を必要とし，可否同数の場合は，委員長の決するところによる。

第７条　本規程の改廃は，委員会および各学部教授会の議を経て，大学評議会の承認を得なければならない。

附　則

第１条　本規程は，令和８年４月１日から施行する。

看護学部の設置の趣旨　目次

（１）設置の趣旨及び必要性 ..... ｐ．５

①沿革及び建学の精神 ..... ｐ．５

②設置の趣旨及び必要性　 ..... ｐ．５

１）設置の趣旨 ..... ｐ．５

２）全国的な看護師等不足の現状 ..... ｐ．５

３）４年制大学における看護養成教育の必要性 ..... ｐ．７

③教育理念・目的方針 ..... ｐ．７

④養成する人材像 ..... ｐ．８

⑤組織として研究対象とする中心的学問分野 ..... ｐ．８

⑥看護学部が定める３つのポリシー ..... ｐ．９

１）卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） ..... ｐ．９

２）教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） ｐ.10

３）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） ｐ.11

⑦養成する人材像と３つのポリシーとの相関について ｐ.11

（２）学部・学科の特色 ｐ.12

①仏教精神に基づく教育 ｐ.12

②社会のニーズに応じた実践的教育課程 ｐ.12

③豊富な経験をもつ教員陣と研究機会 ｐ.12

④地域貢献と実践的学び ｐ.12

⑤国際的な視野の拡充 ｐ.13

（３）学部、学科の名称及び学位の名称 ｐ.13

（４）教育課程の編成の考え方及び特色 ｐ.13

①教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） ｐ.13

②教育課程編成の考え方 ｐ.16

１）体系性について（科目区分の関係・教育課程の体系性） ｐ.16

２）教育課程編成（教育課程の内容・具体的な科目名・授業時間数の考え方） p.18
３）教育課程編成上の具体的な工夫 p.20
（５）教育方法、履修指導方法及び卒業要件 p.21
①教育方法 p.21
１）授業の内容に応じた授業の方法 p.21
２）教育方法の特色 p.23
②履修指導方法 p.24
③履修モデルの提示 p.24
④成績評価 p.25
⑤履修上の上限単位数 p.25
⑥保健師国家試験受験資格課程の履修 p.25
⑦卒業要件 p.26
（６）多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合
の具体的計画 p.26
（７）実習の具体的計画 p.27
①実習の基本方針 p.27
②実習の目的 p.27
③実習の目標 p.27
④実習の展開 p.28
⑤実習実施資格判定 p.29
⑥実習先の確保状況 p.29
⑦実習先との契約内容 p.29
⑧実習水準の確保の方策 p.30
１）実習調整検討会の設置 p.30
２）実習共通要項の作成 p.30
３）実習指導方法 p.30
４）臨地実習指導者研修会の開催 p.31

⑨実習先との連携体制 p.31
１）実習担当教員と臨地実習指導者の役割と責任 p.31
２）役割分担 p.31
⑩実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入） p.32
１）感染予防対策 p.32
２）保険等の加入について p.33
⑪事前・事後における指導計画 p.33
１）実習前の指導計画 p.33
２）実習後の指導計画 p.33
⑫教員及び助手の配置並びに巡回指導計画 p.33
⑬実習施設における指導者の配置計画 p.34
⑭成績評価体制及び単位認定方法 p.34
⑮実習先が遠隔地の場合、その意義や指導計画等の配慮 p.35
（８）企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する
場合の具体的計画 p.35
①研修先の確保の状況 p.35
②研修先との連携体制 p.36
③成績評価体制及び単位認定方法 p.36
④その他特記事項（危機管理対策） p.36
（９）取得可能な資格 p.36
(10) 入学者選抜の概要 p.37
①入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） p.37
②入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）と教育課程編成・実施の方針
（カリキュラム・ポリシー）の相関関係 p.37
③入学者選抜の実施方法等 p.38
④入学者選抜実施体制 p.43
(11) 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色 p.43

①教員組織の考え方 p.43
②教員の年齢構成及び学位所持 p.44
１）年齢構成 p.44
２）学位所持 p.45
③中心となる研究分野 p.45
④教員と事務職員の連携体制 p.47
(12) 研究の実施についての考え方、体制、取組 p.48
(13) 施設、設備等の整備計画 p.49
①校地、運動場の整備計画 p.49
②校舎等施設の整備計画 p.49
③図書等の資料及び図書館の整備計画 p.50
１）図書資料の収書方針 p.50
２）図書館の整備方針 p.51
(14) 管理運営 p.52
(15) 自己点検・評価 p.54
(16) 情報の公表 p.56
(17) 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等 p.64
(18) 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 p.66
①教育課程内の取り組みについて p.66
②教育課程外の取り組みについて p.67
③適切な体制の整備について p.67

看護学部看護学科の設置の趣旨

（１）設置の趣旨及び必要性

①沿革及び建学の精神

佛教大学は、明治元（1868）年知恩院山内に仏教講究の場として仮勧学場を設けたことを起点とし、学制上の高等教育機関としては、専門学校令に基づき、大正元（1912）年の私立高等学院として出発したことを起源とする大学である。建学の精神に「仏教精神により人格識見高邁にして、活動力ある人物の育成を目的とし、世界文化の向上、人類福祉の増進に貢献することを使命とする」を掲げ、それを具現化すべく、教育・研究活動の充実に努めてきた。

開学以来、人文社会科学系の総合大学として発展してきたが、平成 18（2006）年には、これまでに高い社会的評価を得てきた社会福祉や教育の分野と有機的に教育連携ができる新たな教育分野として保健医療技術学部を開設し、理学療法学科と作業療法学科の２学科を設置、そして、平成 24（2012）年には、保健医療技術学部看護学科を設置し、建学の理念である「仏教精神」に基づく教育・社会福祉・保健医療の分野で社会に貢献できる有為な人材の養成にも力を入れてきた。

②設置の趣旨及び必要性

１）設置の趣旨

佛教大学は地域密着型の大学を標榜し、建学の精神を常に新しい時代の要請に対応させながら教育分野の充実に鋭意努力し、特に建学の理念である「仏教精神」に基づく教育・社会福祉・保健医療の分野で社会に貢献できる有為な人材を養成している。

現代の超高齢社会では「保健・医療・福祉」領域において、ヒューマンケアの中核的担い手としての質の高い看護職を養成することが急務となってきている。我が国は、地域医療および高齢者医療施策、生活習慣病予防や新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）等の感染症対策の強化、さらには介護予防や災害対策等、様々な課題に直面している。今後、より一層高齢化が進む中で、保健・医療・福祉・介護の需要が急増し、その一方で労働人口が減少することによる社会的課題（いわゆる 2040 年問題）に対処するための中核的な人材の確保も急務となってきている。

このような状況を踏まえ、本学の建学の理念を具現化し、本学の人材養成の目的と有機的に教育連携ができる新たな教育分野として、看護学部看護学科を設置するものである。本学部は、保健医療福祉の需要の増大や高度に進歩した医療技術に十分対応ができ、かつ地域保健・地域医療に貢献できる質の高い看護職を養成することを目的とする。

２）全国的な看護師等不足の現状

看護師等の人材確保の促進に関する法律（平成４年法律第 86 号）第３条第５項に基づき、令和 5（2023）年 10 月に文部科学省・厚生労働省告示第８号により告示された「看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針」によると、令和７（2025）年における看護師等の需要数の推計値は、約 180.2 万人とされており、令和２（2020）年の看護師

等の就業者数（173.4 万人）よりも増員が必要となっている。また、令和４（2022）年度における看護師及び准看護師の有効求人倍率は 2.20 倍で、職業計の 1.19 倍よりも高くなっており、看護師等について不足傾向にあるといえる。

さらに、総務省統計局等の調査によると、生産年齢人口は令和２（2020）年の 7,509 万人から令和 22（2040）年には 6,213 万人へと急激に減少すると推計され、現役世代が急減するとともに高齢化が進行し、看護職の需要の増大が見込まれる。

また、『「2040 年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」に基づくマンパワーのシミュレーション』（2018 年５月）の「現状投影ベース」等に基づく看護職員の需要推計では、訪問看護を含む介護分野での需要の増大等に伴い、令和 22（2040）年には看護職員の需要が増大すると推計されている。【図１】

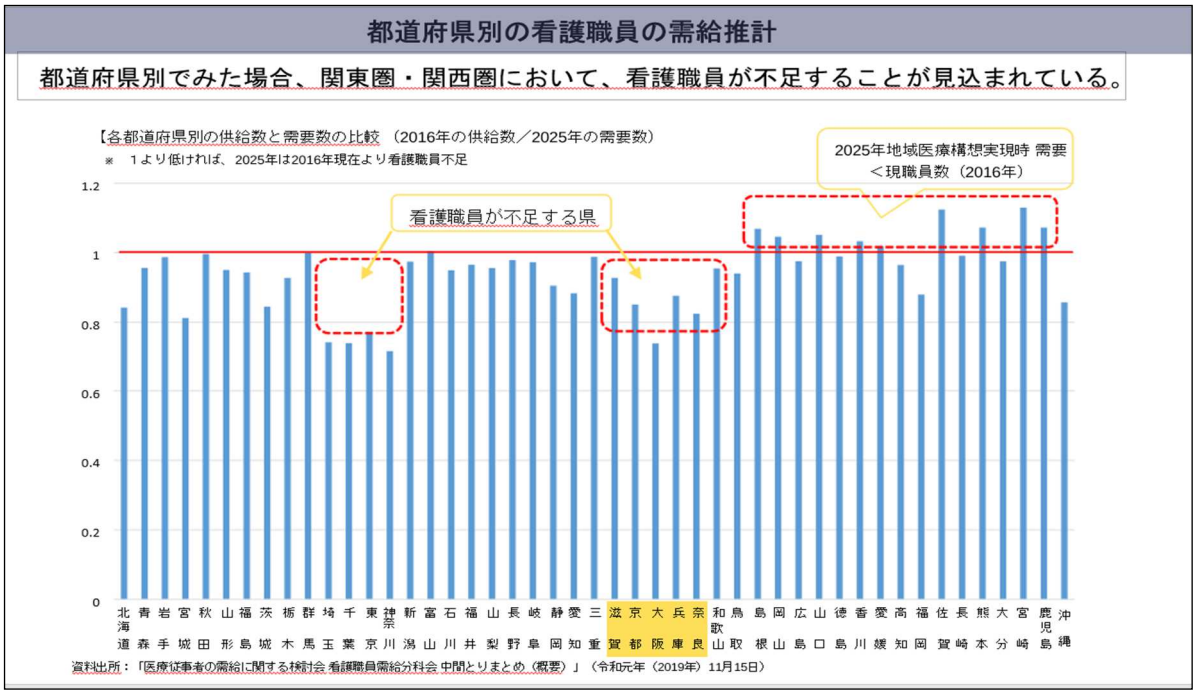
【図 1】「現状投影ベース」等に基づく看護職員の需給推計

『「2040 年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」に基づくマンパワーのシミュレーション』（2018 年 5 月 21 日厚生労働省）

出典：看護師等（看護職員）の確保を巡る状況：第２回看護師等確保基本指針検討部会 参考資料 2,p8, http://www.mhlw.go.jp/content/108000000/001118192.pdf.2024.6.30.

一方、令和７（2025）年の需給推計によると都道府県別にみた場合、都市部では依然として令和７（2025）年の都道府県全体としての看護師等の需要数がその供給数を上回り、看護師等の不足傾向が見込まれている。なかでも大阪や京都府内の特に北部地域の看護師等の不足は深刻である。【図２】

【図２】　都道府県別の看護職員の需給推計



３）４年制大学における看護養成教育の必要性

近年の COVID-19 の感染拡大や相次ぐ自然災害にみる健康被害、超高齢多死社会の進行と地域医療の推進、医療職者の働き方改革、情報通信技術（Information and Communication Technology：以下、ICT）の普及による医療分野におけるデジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation：以下、DX）の導入等、人々の健康と、健康を守る医療システムや最先端技術をめぐる課題に対応していく看護職の養成が目指されている。前身の保健医療技術学部看護学科においてもこれらに取り組んできたが、看護学部看護学科の設置により、さらに独自の教育課程や教育内容の専門的かつ現実的な運営が可能となることから、４年制大学の看護学部として、科学的根拠に基づき、幅広い学問領域の看護教育が実現でき、社会から要請されている諸問題に対応していくことのできる看護職養成のニーズに一段と貢献できる。また、教育課程、実習形態の変更改定や、専門的研究の追求、様々な補助金申請への意思決定が迅速に行える等、より一層教育や研究の質と効率を高めることができる。今回の看護学部開設に伴い、４年制大学における看護養成教育の必要性について京都府との懇談を通して意思疎通を図っている。

③教育理念・目的方針

看護学部においては、次のような教育理念・目的で教育を行う。

ア）社会のニーズに応じたより質の高い看護基礎教育の追求

豊かな人間性と倫理観に基づく多様な価値観を育み、社会のニーズや高度医療技術に対応し多様な場面で専門性の高い看護実践ができる看護職を養成するために、質の高い看護基礎教育を追求する。そのために、トランスレーショナル・リサーチの思考をもって教育効果を評価し、より質の高い看護基礎教育を目指す。

イ）保健・医療・福祉の質の向上、地域包括ケアシステムを基盤とした地域共生社会の実現に向けて中核として活躍できる人材の養成

仏教学等の他学部にある近接関連領域と連携した専門職連携教育の実践により、保健・医療・福祉の質の向上、地域包括ケアシステムを基盤とした地域共生社会の実現に向けて中核として活躍する人材を養成する。

ウ）生涯学習に向けた継続的な支援

看護基礎教育を基盤に、看護学部独自のホームカミングデーの開催等卒業後のキャリアアップに向けた継続的な教育体制を構築し、専門職者として生涯にわたる自己研鑽を継続できるように支援する。

④養成する人材像

看護学部は、平成 24（2012）年 4 月の保健医療技術学部看護学科開設から令和 5（2023）年までの間に 583 人の卒業生を輩出してきた。卒業生の多くが病院等の臨床現場や地域において看護師・保健師（以下、看護職）として活躍を続けている。今後は 18 歳人口の減少により看護職養成者数の絶対数減少が見込まれるが、超高齢多死社会において地域医療構想が推進される中で、多様な場面で専門性の高い看護実践ができる人材養成はわが国においての重要な課題である。よって多様な場で自らの強い意志をもって活躍できる看護職の継続的な養成は必要不可欠である。看護職員需給見通しに対する検討会報告書にも「看護基礎教育の質の担保を図ることが看護師の人材定着促進にも効果がある」と示されていることから、より質の高い看護実践力を身につけられる看護基礎教育を提供する場の確保が必要である。

従って、新たに看護学部としてより学問的な立ち位置を高めた形で看護基礎教育提供の場を再構築すると共に、養成する学生の受け入れ定員を増加することは社会的な意義も大きい。なお、学部化にあたって本学部の養成する人材像は以下に示すとおりである。

＜看護学部の養成する人材像＞

豊かな人間性と倫理観を基盤に看護職として人を思いやり共感できる人材を養成する。あわせて、看護学の学識と基礎的な看護実践能力、対象を理解し支援するためのコミュニケーション力、多職種と協働する力、自己研鑽する力、研究的思考やグローバルな視点を備え、地域社会や人々の健康に貢献できる人材を養成する。

⑤組織として研究対象とする中心的学問分野

本学部における中心的な研究領域は看護学である。しかし、本学の建学理念である仏教精神に基づく本学部の養成する人材像を鑑み、研究対象領域は保健・医療・福祉、地域社会における健康の保持増進や疾病予防、超高齢化社会における支援システムの構築、AI 活用によるケアシステムの構築等広範囲に及び、看護学だけでなく他分野と連携した研究が重要となる。地域社会における看護の役割の強化が求められている中、看護学の視点から実践的研究を推進する。さらに、本学の強みとして、他学問領域との協働による仏教看護や、ホリスティックケアの教育および研究を行う中で「看護学」の視点を広げ、多職種と共に学部横断的研究を行い、多死社会を見据えて共同研究を行なう等、この優位性を最大限に活かした教育、

研究活動を行なっている。また、国際的な災害医療研究や、アジアの宗教文化を背景とする伝統医療と看護の研究を含め、グローバルな保健医療課題に対する研究にも積極的に取り組むことで看護学の発展に寄与していく方針である。

⑥看護学部が定める３つのポリシー

１）卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学部では「佛教大学の卒業認定・学位授与の方針」「養成する人材像」に基づき、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）として、７項目を設定し、学士課程を通じて所定の課程を修め、124 単位を修得することによって学位を授与する。

＜佛教大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

【仏教精神】

大学 DP１：仏教精神に基づく４つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力、を身につけ、専攻する学問分野の知識や技能と統合して活用することができる

【知識・理解×汎用的技能】

大学 DP２：社会人として必要な幅広い教養や、専攻する学問分野の体系的な理解に不可欠な多様な知識・技能を身につけ、活用することができる　①多文化・異文化に関する知識により、多様な視点で物事を考えることができる　②文化、自然、社会に関する知識により、体系的に物事を考えることができる　③ICT を活用して、多様な情報を収集・分析し、効果的に活用することができる　④自己理解を深め、職業観をもち、自らのキャリアを決定することができる

大学 DP３：専攻する学問分野における専門的な知識や技能を修得し、社会における諸問題を把握･解決するために､その知識･技能を活用することができる　①専門領域に必要な基礎的な知識や視点を習得している　②専門領域の深い知識や技能を習得している　③情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができる　④社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができる

【態度・志向性】

大学 DP４：社会の一員としての意識をもち、自らを律し、他者と協調・協働することで、専攻する学問分野で身につけた知識や技能等をもとに、社会に貢献することができる

【学びと成長への内発的動機】

大学 DP５：目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、自らの振り返りによりそれまでの体験･実践･身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び、ともに成長することができる

＜看護学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

【仏教精神】

DP１：豊かな人間性と倫理観を基盤に、看護職として人を思いやり共感できる

【知識・理解×汎用的技能】

DP２:看護学および隣接領域に関する知識と基礎的な看護実践能力を身につけている

DP３：グローバルな視点をもち、地域社会やあらゆる環境下において地域で生活する人々の健康に貢献できる力を身につけている

【態度・志向性】

DP４：看護の対象を理解し支援するための適切なコミュニケーション力を身につけている

DP５：多職種連携における看護職の役割を理解し協働できる

DP６：よりよい看護を追求するための研究的思考を身につけている

【学びと成長への内発的動機】

DP７：社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心をもち自己研鑽する力を備えている

（資料１：カリキュラムマップ）

２）教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学部では、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき入学した学生が卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識や能力を修得できるために、次に掲げる教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）５項目に添った教育課程を編成し実施する。

＜看護学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

CP１：社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するために、仏教関連科目をはじめとした科目を配置する

CP２:社会環境の中で存在する人間を包括的(全人的)に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を配置する

CP３：多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目を配置する

CP４：看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する

CP５：より良い看護を探求し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目を配置する

全ての開講科目について、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これらをシラバスに明記して学生に周知し、学修成果を厳格かつ公正に評価することにより、仏教精神を基盤に社会のニーズに応じた質の高い看護基礎教育を実現する。学生の学修成果は、定期試験、課題、発表等を用いて多角的な観点から評価する。また、臨地実習においては、学生が提出する記録物、実習態度等をふまえ、実習目標の達成度を総合的に評価する。

教育方法として、講義では、看護および多分野にわたる学問を通じ、看護職に必要な

知識を体系的に学ぶ。演習では、学内で模擬実践を行い、看護技術やコミュニケーションスキル等を実践的に修得する。また、シミュレーション学習を中心とした、現場に近い環境での学修を行う。臨地実習では、病院や施設での体験学習を通じ、看護を支える思考とともに知識技術を活用し看護実践能力の向上を目指す。看護職に必要な知識、技術、態度を総合的に養成するため、講義、演習、実習を組み合わせて多面的に教育している。

（資料２：教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）と授業科目の対比表）

３）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

看護学部では豊かな人間性と倫理観をもち、看護学の向上に努めて社会に貢献できる看護職を養成するため、以下のアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）６項目を掲げる。

＜知識・技能＞

AP１：看護学を学ぶために必要な基礎学力を備え、学習を継続する力を持っている人

AP２：看護職に求められるスキルを高め、地域で生活する人々の健康に貢献したいという意欲がある人

＜思考力・判断力・表現力＞

AP３：看護学を学び、豊かな感性と論理的に考え判断する力、情報を活用する力を身につけようと努力できる人

AP４：他者の考えを知るとともに、自分の考えを自分の言葉で表現できる人

＜主体的に取り組む態度＞

AP５：人への深い関心をもち、人の可能性を信じ、自分も他者も大切にできる人

AP６：他者を思いやることができ、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる人

⑦養成する人材像と３つのポリシーとの相関について

看護学部は、豊かな人間性と倫理観を基盤に看護職として人を思いやり共感できる人材を養成する。あわせて、看護学の学識と基礎的な看護実践能力、対象を理解し支援するためのコミュニケーション力、多職種と協働する力、自己研鑽する力、研究的思考やグローバルな視点を備え、地域社会や人々の健康に貢献できる人材を養成する。

この人材養成の方針は、本学の建学の理念である仏教精神の４つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤としている。これらと学力の３要素の観点から整理し直したものが、看護学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）である。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）では、養成する人材像を細分化し、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）と相関させている。

看護職として基盤となる豊かな人間性と倫理観を備えて人を思いやり共感できることをDP１として位置づけ、CP１が相関する。看護学の学識と基礎的な看護実践能力の養成については、看護学だけでなく隣接領域に関する知識と看護実践能力（知識・技術・態度）としてDP２を規定し、CP２・３を対応させている。対象を理解し支援するためのコミュニケーショ

ン力は看護職としての基本的要件であり、他者との良質なコミュニケーション能力を有することと相関する DP４とし、CP４を対応させている。多職種と協働できる力、自己研鑽する力、研究的思考やグローバルな視点を備え地域社会や人々の健康に貢献できることは、医療の発展や社会の変化を捉えてさらに広い視点に立って看護職の職責を果たすべく自己研鑽できる意志を有することに関連して DP３・５・６・７を規定した。これらは CP２・３・４・５とともに、DP７では CP１とも相関する。

上記の看護学部の人材養成の方針の実現および「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー)」に基づく教育課程を履修し「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー)」に定められた学修目標を達成するためには、修業年限内で学修活動に用いることができる学生の時間は有限であるという視点から、「入学者受入れの方針」を策定する必要があり、入学前にどのような資質・能力等を身に付けていることを求めるのかについて、「学力の３要素」と 関連付けて整理しながら、「入学者受入れの方針」において具体的に示した。

（資料３：養成する人材像と３つのポリシーとの相関図）

（２）学部・学科の特色

看護学部は、文部科学省中央教育審議会の答申「我が国の高等教育の将来像」（2005 年１月 28 日）に基づき、大学の７つの機能のうち、「③幅広い職業人養成」「⑤特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究」「⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等)」を有している。本学部・学科の特色は以下の通りである。

①仏教精神に基づく教育

佛教大学の建学の理念である「仏教精神」を基盤に、人々の「生きる」を支援する専門職者を養成する。社会福祉学科や理学療法学科・作業療法学科といった福祉領域やリハビリテーション領域と連携し、人間の尊厳を重視し、高い理念、倫理、規範に裏付けられたヒューマンケアの中核的担い手として、看護の新たな価値を創造する人材を養成する。

②社会のニーズに応じた実践的教育課程

前身の保健医療技術学部看護学科の教育方針に基づき、社会の状況とニーズに応じた教育課程を提供している。１年次から地域で実習を行い、地域で生活する人々を知るとともにコミュニケーション技術を学修する。さらに AR・VR や ICT の活用、基幹教員による視聴覚動画を用いたシミュレーション教育等、質の高い実践的な教育を推進する。

③豊富な経験をもつ教員陣と研究機会

実践経験豊富な教員陣が教育し、学生は多様な経験と専門知識を学ぶことができる。教員の研究活動も盛んで、学生には研究への参加機会が多く提供され、看護学の発展に貢献する意識や批判的思考、問題解決能力を身につける環境が整っている。シミュレーション教育に関する新たなツール開発は、他機関との共同研究を通じて成果を学会等で発信している。

④地域貢献と実践的学び

地域と連携し公開講座や災害支援活動等社会貢献を進めている。今後、地域ボランティアサークルとの協力や「まちの保健室」の設置を予定しており、学生は実際の地域課題に取り組むことで実践的な学びを深めることができる。また、災害支援の経験をもつ教員による災害看護の学びの機会も提供する。

⑤国際的な視野の拡充

国際看護を学び、学内の制度を活用して短期留学を行う学生もいる。異文化理解や国際的な保健医療の知識を深めることで、視野を広げ多様な人々への理解と支援の必要性について考える機会を提供する。

（３）学部、学科の名称及び学位の名称

本学は開学以来、時代の変遷とともに絶えず福祉の理念を追い求め、建学の精神「仏教精神」による社会福祉の専門職や実践者の養成に鋭意取り組んできた。この長年の確たる実績を礎として、より現代社会の要請に応えるべく、平成 18（2006）年に「保健医療技術学部」を設置し、理学療法学科および作業療法学科から卒業生を輩出し、「保健・医療・福祉」領域において、ヒューマンケアの中核的担い手となる看護職を養成すべく、平成 24（2012）年に看護学科を新設した。

現在の超高齢化社会において看護職の役割も変化しつつある中、それらの社会的ニーズに対応すべく看護実践能力の向上をめざした看護学教育を学部として行うため、この度、学部学科の名称を「看護学部看護学科」とし、学位を「学士（看護学）」とする。

（４）教育課程の編成の考え方及び特色

①教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学部では、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき入学した学生が卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識や能力を修得できるために、次に掲げる教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）５項目に添った教育課程を編成し実施する。

＜看護学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

CP１：社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するために、仏教関連科目をはじめとした科目を配置する

CP２:社会環境の中で存在する人間を包括的(全人的)に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を配置する

CP３：多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目を配置する

CP４：看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する

CP５：より良い看護を探求し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目を配置する

全ての開講科目について、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これらをシラバスに明記して学生に周知し、学修成果を厳格かつ公正に評価することにより、仏教精神を基盤に社会のニーズに応じた質の高い看護基礎教育を実現する。学生の学修成果は、定期試験、課題、発表等を用いて多角的な観点から評価する。また、臨地実習においては、学生が提出する記録物、実習態度等をもとに、実習目標の達成度を総合的に評価する。

教育方法として、講義では、看護および多分野にわたる学問を通じ、看護職に必要な知識を体系的に学ぶ。演習では、学内で模擬実践を行い、看護技術やコミュニケーションスキル等を実践的に修得する。また、シミュレーション学習を中心とした、現場に近い環境での学修を行う。臨地実習では、病院や施設での体験学習を通じ、看護を支える思考とともに知識技術を活用し看護実践能力の向上を目指す。看護職に必要な知識、技術、態度を総合的に養成するため、講義、演習、実習を組み合わせて多面的に教育している。

看護学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）との相関は以下のとおりである。

看護学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、前掲の養成する人材像を、学力の３要素、ならびに本学の建学の理念である仏教精神の観点から整理し直したものである。卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、基本的に教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の教育内容、教育方法の全体と相関するが、その相関の度合いは項目によって差がある。

DP１「豊かな人間性と倫理観を基盤に、看護職として人を思いやり共感できる(仏教精神)」は、CP１と直接に相関するとともに、すべての教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の根幹をなす。

DP２の「看護学および隣接領域に関する学識と基礎的な看護実践能力を身につけている（知識・理解・汎用的技能)」は、CP２・３と相関し、DP３の「グローバルな視点をもち、地域社会やあらゆる環境下において地域で生活する人々の健康に貢献できる力を身につけている（知識・理解・汎用的技能)」もCP２・３・４と相関する。CP２・３では、基礎的な内容から複雑な学修へと発展していく。

さらに DP４「看護の対象を理解し支援するための適切なコミュニケーション力を身につけている（態度・志向性)」は、CP４と相関し、おもに臨地実習科目において培っていく。DP５「多職種連携における看護職の役割を理解し協働できる（態度・志向性)」も、CP４に相関し、さらに発展・深化したものとなる。

また､DP６「よりよい看護を追求するための研究的思考を身につけている(態度･志向性)」は、CP５に相関し、一連の研究プロセスを踏襲する。

DP７「社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心をもち自己研鑽する力を備えている（学びと成長への内発的動機)」は、CP１・５と相関し、４年間のなかで発展させていくとともに、生涯学習につなげることを意図している。

以上の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）との相関は、カリキュラムツリーに示す。

（資料４：カリキュラムツリー）

＜DP と CP の相関表＞

ディプロマ・ポリシー	ディプロマ・ポリシーに相関する カリキュラム・ポリシー
DP１：豊かな人間性と倫理観を基盤に、看護職として人を思いやり共感できる	CP１：社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するために、仏教関連科目をはじめとした科目を配置する
DP２：看護学および隣接領域に関する知識と基礎的な看護実践能力を身につけている	CP２：社会環境の中で存在する人間を包括的（全人的）に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を配置する CP３：多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目を配置する
DP３：グローバルな視点をもち、地域社会やあらゆる環境下において地域で生活する人々の健康に貢献できる力を身につけている	CP２：社会環境の中で存在する人間を包括的（全人的）に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を配置する CP３：多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目を配置する CP４：看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する
DP４：看護の対象を理解し支援するための適切なコミュニケーション力を身につけている	CP４：看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する
DP５：多職種連携における看護職の役割を理解し協働できる	CP４：看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する
DP６：よりよい看護を追求するための研究的思考を身につけている	CP５：より良い看護を探求し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目を配置する
DP７：社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心をもち自己研鑽する力を備えている	CP１：社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するために、仏教関連科目をはじめとした科目を配置する CP５：より良い看護を探求し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目を配置する

（資料１：カリキュラムマップ）

（資料３：養成する人材像と３つのポリシーとの相関図）

②教育課程編成の考え方

１）体系性について（科目区分の関係・教育課程の体系性）

看護学部の教育課程は、全学の「共通教養科目」と看護学の学問的な「専門科目」の２つの科目区分に大別され、「専門科目」はさらに「学部基幹科目」「学科基礎科目」「学科専攻科目」「関連科目」の４つの科目区分で構成される。

教育課程の編成に際しては、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に規定された看護師教育の各分野の教育内容と単位数（102 単位）を満たす科目、および大学が規定する科目を必修科目としている。さらに看護学の学びを深化させる「関連科目」を効果的に配置している。

看護学部における主要授業科目は、共通教養科目では、建学の理念を学ぶ「ブッダと法然」、「初年次教育科目群」の「スタディ・スキルズ」、また、社会人として必要な教養や知識・技能を身につけるための「キャリア・スキルズ１」「キャリア・スキルズ２」としており、全てを基幹教員が担当する。

専門科目での主要授業科目は、「学士（看護学）」の学位取得のために必要となる最低限の科目を設定しており、学科基礎科目では１年生ゼミとなる「アカデミック・スキルズ」、学科専攻科目は保健師国家試験受験資格関連の科目を除き、全てを主要授業科目に位置づけ、関連科目では、「看護教育学」「クリティカルケア看護実践」「臨床推論」とし、これらの科目は看護学部の基幹教員が担当している。

（資料５：教育課程と指定規則との対比表）

各科目区分の関係、および体系性は、以下のとおりである。

共通教養科目は、建学の理念に基づく科目と現代に対応した人間力の涵養を目指す科目として全学に共通して提供される教養科目群であり、看護学部の教育課程の土台となる（CP１と関連）。共通教養科目は、「仏教・自校教育科目群」「グローバル科目群」「データサイエンス科目群」「初年次教育科目群」「キャリアスタディ科目群」「プロジェクト科目群」「自己形成科目群」「スポーツ」「大学コンソーシアム」の科目群で構成されている。現代の社会変化に対応した活動、さらには国際的な活動も視野に入れた知識が教養として必要であり、本学の教育基盤である仏教精神を教授する仏教関連科目が教養に位置づいていることで、共通教養科目が単に知識と技能だけではなく、精神（スピリチュアル）をも含めた幅広い知識として看護学の学修とのつながりをもつ。

専門科目は、「学部基幹科目」、「学科基礎科目」、「学科専攻科目」、「関連科目」の４つの科目区分で構成され、「学部基幹科目」は医療専門職として人の健康や命を扱う医療という分野に足を踏み入れる、いわゆる入り口に立つ重要な科目として配置している（CP１）。

「学科基礎科目」には、本学の仏教精神を看護学と融合させる科目、および看護学の基礎教育に求められる専門職としての多くの知識・能力を修得するための科目を配置している。看護職をめざす学生の基本的な学びのスキルをはじめ、人の健康と生活を守る看護学の基盤の知識となる医学や福祉等関連領域の科目を配置する（CP１・２）。

「学科専攻科目」では、「学科基礎科目」での学修を基盤に、仏教精神を看護実践に具現化する科目、看護学の９領域（基礎看護学、地域・在宅看護学、クリティカルケア看護学、慢性看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、公衆衛生看護学）の知識

と技術を修得する講義・演習科目（CP２・３）、および学修の深化・統合とともに、多職種と連携する力を身につける臨地実習に関連した科目（CP４）を配置する。さらに、それらの学修を経て、大学教育における看護学の探求の集大成となる科目を配置する（CP５）。保健師国家試験受験資格課程（以下、保健師課程）に関する専門科目もこの「学科専攻科目」に含まれる（CP２・３・４・５）。

「関連科目」は、看護学の学びをさらに発展・深化させるための科目や、より臨床実践的な科目を選択科目として配している（CP２・３・５）。

このように、看護学部の教育課程は学部基幹科目や学科基礎科目を学びの基盤とし、臨地実習科目を含めた学科専攻科目でその専門性を修得し、関連科目で更にその学びが深化するよう、体系的に構成されている。

履修順序（配当年次）は、CP に基づき以下の編成としている。

１年次は、仏教関連科目をはじめとする全学の共通教養科目とともに、看護学の基盤となる学部基幹科目や学科基礎科目、学科専攻科目を配している（CP１・CP２）。学科基礎科目・学科専攻科目ともに、CP１に基づき１年次に学修した各学問領域の基本的知識・技術（CP２）がその後の学期・学年の進行とともに徐々に段階的に深化・発展できることを見通し配置している。また、学科専攻科目では、早期から地域社会における人々の健康と生活を知り看護学への導入を図る目的で、CP２に基づき地域での臨地実習科目を１年次前期に配している。病や障害を抱える人を対象とする病院施設での臨地実習は、医学や看護学の基礎的知識を学修後の１年次後期の履修としている（CP４）。

２年次は、仏教関連科目での学びを学科基礎科目につなぎ学修する（CP１）。また、CP２を構成する学科基礎科目や学科専攻科目の学修も並行する。学科専攻科目ではさらに、看護の対象や場が拡大する CP３へと学修が発展し、各専門領域の基礎的な看護実践能力を修得する概論や方法論等が臨地実習体験（CP４）を挟んで前期から後期へとつながる。グローバルな視点をもつことを意図した科目も、その後の各専門領域の学修で培えるように２年次に配置している（CP３）。

３年次も、仏教精神を引き継ぎ CP１に関連した癒しのケアや人の死に向き合うケアを学ぶ学科専攻科目を配置する（CP２・３）。さらに、各専門領域の学修を発展させる CP３と CP４に基づき、様々な人々の健康・生活課題を多角的に分析する力を強化し、多職種連携を学び実践力を養う科目で構成する。災害における看護の必要性や危機的状況下での看護活動を理解する学科専攻科目も配置する。

４年次では、仏教精神に基づく学修を臨地実習のなかで具現化し倫理的な感受性を高める学科専攻科目（CP１）とともに、引き続き臨地実習で看護実践能力を培い、その後に集大成となる統合的な臨地実習科目（CP４）を配置する。さらに、CP５に基づき看護学研究活動の基盤となる科目を１年間通して配置し大学教育における看護学の探求の集大成を図るとともに、研究的思考や自己研鑽する力が身につくことをめざす。また、関連科目（選択科目）として、より質の高い看護提供のための管理的視点や教育、臨床実践的な判断を学ぶ科目等も配置する（CP３）。

さらに、１年次から４年次にかけて保健師国家試験受験資格課程の選択科目群として公衆衛生看護学に関連した科目を配置している。

（資料４：カリキュラムツリー）

２）教育課程編成（教育課程の内容・具体的な科目名・授業時間数の考え方）

【共通教養科目】

看護学部では、CP１に基づき看護学部の教育課程の土台となる下記の「共通教養科目」を必修としている。

本学の建学の理念である仏教精神を学ぶ「仏教・自校教育科目群」の「ブッダと法然」、「グローバル科目群」の必修外国語である英語６科目、「データサイエンス科目群」では看護の現場や研究で必要となる情報リテラシーを学ぶ「ICT リテラシー」、「初年次教育科目群」の「スタディ・スキルズ」、また、社会人として必要な教養や知識・技能を身につけるための「キャリア・スキルズ１」「キャリア・スキルズ２」２科目、全 11 科目 14 単位であり、その他、「自己形成科目群」から、６単位の選択履修を課している。

保健師国家試験受験資格・養護教諭課程では、さらに「スポーツ」の２科目の履修が必要となる。

その他の選択科目では、「グローバル科目群」の選択外国語として、英語・中国語・朝鮮語・ドイツ語・フランス語・ベトナム語といった多彩な語種を学ぶことができ、国際教養や海外研修といった異文化を学ぶ科目も充実している。「データサイエンス科目群」では、統計学等を学ぶこともできる。

本学では、「共通教養科目」は本学の大学教育における基盤を形成し、幅広い視野（教養）をもった人材養成を目的とした科目群と位置づけ、大学 DP１、大学 DP２とも強く相関している。

【専門科目】

専門科目は、「学部基幹科目」「学科基礎科目」「学科専攻科目」「関連科目」で構成される。

「学部基幹科目」は、「医療概論」１科目であり、CP１に基づき初年次に配置している。「医療概論」は、医療専門職として人の健康や命を扱う医療という分野に足を踏み入れる、いわゆる専門科目の入り口に立つ重要な科目である。医療システムや医療の倫理、医療安全管理等について学び、保健医療チームの一員となるための素養を身につける基盤となる科目であり、全専門科目に発展的に関連していく（DP１～７）。

「学科基礎科目」の必修 15 科目（28 単位）では、CP１と CP２に基づき看護職に求められる多くの基礎的知識・能力を修得する。大学における専門学修のための基礎的能力の開発を促し、看護学の学修を始めるための素養を喚起する「アカデミック・スキルズ」（DP７）をはじめ、人々の健康に関与する看護学の基礎的知識として必要な医学や福祉等隣接領域の科目を配する。具体的には、「基礎解剖学」「基礎生理学」「病理学概論」「栄養学」「疾病論（Ⅰ～Ⅳ）」「薬理学」「公衆衛生学」、「社会福祉」、「保健医療福祉行政論」「保健統計学」である。これらは、DP２および DP３につながる。加えて、本学の理念である仏教精神を看護学と融合させる「仏教看護」を配し、人間の多様な営みを支える基盤を構築する。「仏教看護」は、さらに次の「学科専攻科目」の「エンドオブライフケア論」、「ホリス

ティックケアアプローチ」において具現化し、臨地実習科目においても看護実践能力として身につけることができる（DP１）。

「学科専攻科目」は、55 科目（88 単位）を配置している。CP２から CP３へと展開する看護学の９領域（基礎看護学、地域・在宅看護学、クリティカルケア看護学、慢性看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、公衆衛生看護学）は、領域ごとに講義科目（概論等）と演習科目（技術論や方法論等）、臨地実習に関連した科目で構成する。各領域の講義科目と演習科目では、基礎看護学での看護の本質や基本的技術・態度の学修を基盤に、多様な看護の場における対象の特性やニーズに応じた看護を展開する能力の修得へと科目を展開していく。これらはグローバルな視点で地域社会や人々の健康に貢献できることをめざす「国際看護学」、「災害看護学」とも連動する（DP２・DP３）。

臨地実習科目では、１年次に早期体験実習として地域で暮らす人々を知り、生活者として理解することを目的とした「コミュニティ実習」を配置する（CP２）。その後２年次にかけて CP４に基づく「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」を配置し、疾患をもつ対象の理解、問題解決思考を用いた基礎的な看護実践の土台を構築する。その土台の上に、３年次からの各専門領域の実習（地域・在宅看護学、クリティカルケア看護学、慢性看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学）を配置している（CP４）。各専門領域の臨地実習では、対象を理解し支援するためのコミュニケーション力を養う（DP４）とともに、学修した知識や技術・態度を統合し、様々な環境下における人々の健康を考え貢献できる力、多職種連携の役割を理解し協働できる力を養う（DP５）。また、臨床推論に基づいた科学的な看護実践能力の修得を図る機会とする（DP２）。保健師課程では、「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」を配置している。

また、「学科専攻科目」では、４年次に、応用的・発展的な看護実践能力と倫理的な感受性を高める「看護倫理学」(CP１)、より質の高い看護提供のための管理的視点を学ぶ「看護マネジメント」(CP３)、CP５に基づく大学教育における看護学の探求の集大成となる「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」と「統合実践看護実習」を配置している。「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」および「統合実践看護実習」では各領域の実習科目で経験した看護の現象をリフレクションし探求することに始まり、学生個々の関心テーマに沿って看護の現象を明らかにする研究的な取り組みを体験的に学修する。これらの科目は、豊かな人間性と倫理観を基盤として（DP１）、社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心をもち自己研鑽する力（DP７）や、さまざまな看護の現象を探求しより良い看護を追求するための研究的思考を養成し（DP６）、看護学部の人材養成の目的に適った教育課程となっている。

関連科目は、関連分野の科目として、CP２や CP３に関連する「生化学」「感染免疫学」「臨床心理学」「看護疫学」「看護教育学」、さらに応用的な看護実践能力の修得につながる臨床実践的な科目として「クリティカルケア看護実践」「臨床推論」を配置している（DP２、DP７）。全７科目（９単位）から４単位以上の修得が卒業要件となっている。

【授業時間数の考え方】

看護学部看護学科に配置する授業科目の単位数及び、授業時間数の考え方は、大学設置基準第 21 条に基づき、１単位は、教室等での授業時間と準備学修や復習の時間を合わせ

て 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを基準とする。本学部では、以下のように授業時間数を定める。

①「講義・講義及び演習」については 15 時間から 30 時間までの範囲を１単位とする。

②「実習（学外で行われる臨地実習）・実習及び実技」については 30 時間から 45 時間の範囲を１単位とする。

さらに、講義・演習・臨地実習の科目の特性に鑑み、45 時間の学修を必要とする内容を踏まえ、授業形態ごとに単位数と時間数を設定する。

３）教育課程編成上の具体的な工夫

ア）仏教精神に基づく人間性を滋養する独自の教育

社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するために、仏教関連科目として、１年次は「ブッダと法然」、２年次は「仏教看護」、３年次は「エンドオブライフケア論」や「ホリスティックケアアプローチ」を配し、仏教精神に基づく人の心に寄り添った看護の実践へと繋がる教育課程を編成している。

イ）地域で生活する人々の健康に貢献できる教育

社会環境の中で存在する人間を包括的（全人的）に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を早期より配している。１年次では、地域で生活する人々を知る「コミュニティ実習」や看護を考える「地域・在宅看護学概論」、２年次以降では、地域で生活する人々の健康に関与することを重視した科目「地域・在宅看護学方法論Ⅰ」「保健医療福祉行政論」「公衆衛生学」「公衆衛生看護学概論」等を配している。看護の対象は地域社会やそこで生活する多様な人々であり、その人々の健康に関与することが重要であることを早期に意識できる教育課程としている。また、保健師課程では、２年次終了後に選考試験を実施し、３年次からの２年間にわたる公衆衛生看護学に関する教育を編成している。

ウ）多様な人々やあらゆる看護の場に対応できる教育

多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目として、各専門領域の科目に加えて、２年次に「国際看護」、３年次に「災害看護」を配し、看護職としてグローバルな視点をもち、どのような環境下にあっても看護を展開する基礎的能力が修得できる教育課程となるように編成している。

エ）学生の学修段階に応じた臨地実習教育

看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目では、１年次に「基礎看護学実習Ⅰ」、２年次に「基礎看護学実習Ⅱ」を体験した後に１年間かけて各専門領域の講義や演習で学びを深め、その学修を具現化する各専門領域の臨地実習を３年次後期から 4 年次前期に配置している（「地域・在宅看護学実習」「クリティカルケア看護学実習」「慢性看護学実習」「老年看護学実習」「精神看護学

実習」「母性看護学実習」「小児看護学実習」)。さらに、それらの学びを統合し自身の学習テーマをもって臨む「統合実践看護実習」を４年次後期に配し、習熟度に合わせた実習となる教育課程を編成している。保健師課程では、上述の看護師課程の臨地実習に加えて、４年次前期に「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」を配している。

オ）探究心・研究的思考を育む教育

より良い看護を探求し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目として、１年次より初年次教育（「キャリア・スキルズ１・２」や「アカデミック・スキルズ」）を配し、２年次に「保健統計学」および選択科目としての「看護疫学」、４年次に「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」を配し、研究的思考が体験的に身につく教育課程を編成している。「看護研究Ⅰ」と「看護研究Ⅱ」では、「統合実践看護実習」での看護実践等を含む一連の看護研究プロセスを修得し、卒業後の実践・研究活動の基盤を醸成する。さらに、学生が“自分をデザインする力”を育み、“なりたい自分”を創造する機会を得ることにつながる。

（５）教育方法、履修指導方法及び卒業要件

①教育方法

看護学部では、８学部 15 学科を擁する総合大学としての強みを生かし、全学共通教養科目については、建学の理念に基づいた全学統一の教育方法を実施し、教育の質を担保する。同時に看護学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために、学生に対し以下のような教育方法を実施する。

１）授業の内容に応じた授業の方法

ア）全学共通教養科目

建学の理念である「仏教精神」について理解を深める「ブッダと法然」については、看護学部が開設される令和８（2026）年度から、学部横断型のクラス編成をやめ、学部ごとのクラス編成に変更し、建学の理念と学部教育との関係がより明確になるような授業へと改編する。

さらに初年次教育として、入学当初より大学での自律的な学び方を修得するための科目として「スタディ・スキルズ」を配置し、80 人の学生への講義形式でのスキルの教授と共に、少人数での協働学習法等を用いながら、基本的な学び方（読む・聴く・書く・調べてまとめる等）を入学直後の段階で理解する。また、通年開講のキャリアデザイン科目として、「キャリア・スキルズ１」「キャリア・スキルズ２」を配置し、自分自身のキャリア形成に関して、80 人の学生への講義形式での教授に加え、少人数ディスカッション形式で主体的に“自分をデザインする力”を育む授業を実施する。

また、グローバル化に対応できる人材養成のために、１年生、２年生の段階で必修科目として配置している英語科目の「Integrated Communication Skills１・２・３・４」と「Intesive Reading１・２」は、英語の習熟度別に 10 人程度の学生数でのクラス編成での授業を展開する。他学科と混合のクラス編成にて、主に英会話を中心とした内容の授業と英文の読解力を高めるための授業を実施する。

加えて、高度な情報化社会に適応できる人材を養成するために、情報処理に関する必修科目として「ICT リテラシー」を配置している。本科目では 80 人の学生を対象とし学部単位のクラス編成で ICT の活用に特化した専門の教員による講義と演習を実施することから、看護学部の教育内容や卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に配慮した授業を実施する。

イ）専門科目

専門科目においては、「講義科目」・「演習科目」・「実習科目」に分類して授業を展開する。

「講義科目」は基本的には学生 80 人を対象として授業を実施するが、学生の習熟度を高めるために、講義科目内でも一部演習・協働学習の形態を組み合わせた授業を展開する。「演習科目」では、学生 80 人で演習授業を展開している。実技演習や注射針等を使用するような危険度の高い内容等を取り扱う演習科目については、1 グループの人数を変動させ、安全かつ学生の学修効果が十分に得られるようなグループ編成にて演習を展開する。「実習科目」では、実習の対象者や実習場所等によって変動するが、原則として５～９人の学生を１グループとし臨地実習指導者と連携しながら指導にあたる。

学部基幹科目として配置している「医療概論」は「講義科目」であるが、保健・医療・福祉の統合が求められる社会状況を踏まえ、多職種が協働し、健康問題に取り組むための方法を修得するために、一部協働学習やグループディスカッションを取り入れた教育を実施する。

学科基礎科目は主に「講義科目」であり、80 人の学生を対象に授業を展開する。「基礎解剖学」「基礎生理学」「疾病論Ⅰ～Ⅳ」「薬理学」「公衆衛生学」「社会福祉」「保健医療福祉行政論」「保健統計学」といった科目を配置し、人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度等、座学による学修が中心となる。一部、動画教材を用いたアクティブラーニングや ICT を活用した授業を展開することで、習熟度を高める。

学科専攻科目では、「講義科目」と「演習科目」「実習科目」を配置している。講義科目として配置している「看護学概論」「地域・在宅看護学概論」「地域・在宅看護方法論Ⅰ」「クリティカルケア看護学Ⅰ」「慢性看護学Ⅰ」「老年看護学概論」「老年看護方法論Ⅰ」「小児看護学概論」「小児看護方法論Ⅰ」「母性看護学概論」「母性看護方法論Ⅰ」「精神看護学概論」「精神看護方法論Ⅰ」「公衆衛生看護学概論」では、80 人の学生を対象に主に講義形態の授業展開にて、基礎的な看護実践能力（知識・技術・態度）を身につける。「講義科目」の授業ではあるが、知識修得だけでなく思考力を高めるために、一部協働学習やグループディスカッションを取り入れて、学生の習熟度を高める授業方法を取り入れる。また、「国際看護学」「災害看護学」「エンドオブライフケア論」「看護倫理学」「看護マネジメント」は基本的に 80 人の学生を対象とした「講義科目」であるが、世界の健康問題と看護の現状・課題を体感的に理解するために、また災害時、災害復旧時、復興各期における看護の役割を理解するために、エンドオブライフ期にある患者への看護の理解を深めるために、積極的に現場で活躍しているゲストスピーカーを招聘する等、

より臨場感を感じられる授業展開を行う。加えて、一部動画教材を用いたアクティブラーニングやICTを活用した授業、協働学習を取り入れて、主体的な学びを醸成する。

「演習科目」である「看護実践基盤技術論」「フィジカルアセスメント技術」「生活行動援助技術論」「診療援助技術論」「ホリスティックケアアプローチ」は、看護の基礎となる知識と技術を身につける科目として１グループ 10～12 人程度の少人数グループにて演習を展開する。「地域・在宅看護方法論Ⅱ」では、80 人の対象学生を４人の基幹教員が担当し、１グループ 20 人程度での演習を展開する。「クリティカルケア看護学Ⅱ」「慢性看護学Ⅱ」「老年看護方法論Ⅱ」「小児看護方法論Ⅱ」「母性看護方法論Ⅱ」「精神看護方法論Ⅱ」においても、グループ学習やシミュレーション教育を取り入れた演習を展開する。

学科専攻科目の中の「実習科目」である「コミュニティ実習」「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「地域・在宅看護学実習」「クリティカルケア看護学実習」「慢性看護学実習」「老年看護学実習」「小児看護学実習」「精神看護学実習」「母性看護学実習」は、看護の対象者を病院や施設内だけでなく、地域における多様な場で生活する生活者と捉え、各領域において、原則５～９人を１グループとした少人数でのグループ実習を展開する。

看護学研究活動の基盤づくりに向けて段階的に進められる「アカデミック・スキルズ」「看護研究Ⅰ・Ⅱ」は、ゼミ形式で実施する。「アカデミック・スキルズ」は、1 グループ 10 人程度、「看護研究Ⅰ・Ⅱ」は、1 グループ４～５人の少人数で個人ワーク・発表・グループディスカッションを繰り返しながら展開する。

また、保健師課程では、「公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ」「公衆衛生看護方法論Ⅱ」「公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ」「公衆衛生看護活動論」「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」等の講義科目や演習科目、実習科目が含まれる。これらの科目では、最大 17 人の学生に対し、教員３～４人が担当し、１グループ４～５人という少人数制で手厚い講義・演習・実習を展開する。

２）教育方法の特色

講義形式の科目に関しては、座学での知識教授の授業形態に留まらず、積極的に動画教材やICTを活用した反転授業やアクティブラーニングを取り入れる。

具体的には、本学ではe-learningシステムである「B-net Portal」や「Google Classroom」を全学的に活用しており、「Google Classroom」を使った学生へのタイムラグのない情報提供や反転授業のためのオンデマンド授業動画の事前アップロード、「Google Forms」を活用した授業内での学生の意見発表等、ICT を活用して学生の思考力や発言力を高める工夫を行っている。

また、演習形式の科目においては、授業科目の特性に応じて、ロールプレイや模擬患者、シミュレータ、AR・VR 等を活用したシミュレーション教育を積極的に取り入れている。臨地実習前のAR・VRを用いたシミュレーション教育では、学生がより臨場感をもって対象者への看護をイメージしながら看護技術を修得できるように支援する。特に各専門分野の講義・演習科目においては、複数の基幹教員で協働学習を進め、学生の主体的な学びを構築する。さらに、ゲストスピーカー（看護の実践家や患者当事者等）の招聘を積極的に行い、保健医療福祉の各専門分野の最新内容に配慮した教育方法を取り入れる。ゲストスピーカ

ーが授業を担当する場合は、シラバスで授業の学修目標・授業計画を共有するとともに十分な準備を行い教育効果の向上を図る。

②履修指導方法

履修指導は新入生履修ガイダンス内で、STUDY GUIDE（履修要項）を用いて教員による大学の授業や単位の概念、卒業要件、必要単位数、履修登録方法や履修上の注意点について説明する。その際、看護師および保健師・養護教諭等、希望取得資格別の履修モデルを提示し、時間割作成の具体例を説明する。履修登録に使用する学生ポータルサイト（B-net Portal）の紹介とその利用方法も説明し、履修ガイダンス後にも教員による履修相談会の時間を設け、履修における相談対応を行う。

また、本学は担任制度を設けており、１年次から４年次まで、学期のオリエンテーション内で各担任から履修指導を行い、科目の単位取得状況や履修上の問題の有無を把握し、助言・指導を行う。担任を中心に、学生の学修状況に合わせた個別面談・個別指導も行い、全学年に対してオフィスアワーを設定し、学生からの修学上の相談に応じる体制を整えている。臨地実習においては、実習実施資格に必要となる履修科目とその判定基準について説明する。臨地実習科目ごとのオリエンテーションを実施し、実習の目的の理解を深める。

③履修モデルの提示

看護学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、学生が４年間に履修が必要な科目や履修順序を一覧にし、履修モデル（看護師、保健師、保健師・養護教諭）として学生に示す。履修モデルは、学生が資格取得に必要な科目や卒業要件となる科目および関連する選択科目を分かり易く一覧に示したものである。学生一人ひとりが主体的に履修計画を組み立てていくための参考資料として提供する。

１）看護師国家試験受験資格

履修モデル１は、看護師国家試験受験資格を取得する履修モデルである。卒業要件単位は 124 単位となる。

２）保健師国家試験受験資格

履修モデル２は、看護師および保健師国家試験受験資格を取得するモデルである。両資格をあわせて取得するためには、卒業要件単位 124 単位に加え、17 単位が必要となり、合計 141 単位となる。

３）保健師国家試験受験資格・養護教諭２種免許状取得資格

履修モデル３は、看護師および保健師国家試験受験資格と養護教諭２種免許状を取得するモデルである。両資格および養護教諭２種免許状をあわせて取得するためには、卒業要件単位 124 単位に加え、19 単位が必要となり、合計 143 単位となる。

（資料６：看護学部看護学科　履修モデル）

④成績評価

学生の学修成果を適切に評価し、学修目標の達成状況を把握するため、成績評価基準を明確に定めている。評価は以下の５段階（Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ）および未受検Ｘ,評価対象外Ｎである。各評価に対応する点数およびグレード・ポイント（Grade Point：以下、GP）は以下の通りである。

Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃが合格、Ｄおよび未受検Ｘ,評価対象外Ｎが不合格となる。

点数	成績評価	GP
100～90	S	4
89～80	A	3
79～70	B	2
69～60	C	1
59～０	D	0
未受検	X	0
評価対象外	N	0

GPA（Grade Point Average）は、科目ごとの成績評価からそれぞれの GP を求め、単位あたりの平均値を算出する。学期ごとおよび在籍期間中の通算 GPA を成績通知書、成績証明書に記載する。GPA により学生の学期ごとの学修成果と推移が明確になる。

成績評価および GPA は以下の目的で活用する。

・細やかな学修指導への活用

・学生へのフィードバックを通じた学修意欲の向上

・無理な履修計画や安易な履修登録の自己規制

・保健師国家試験受験資格課程の選考試験における学業成績

これらの仕組みにより、学生が自主的かつ計画的に学修を進める環境を整備する。

⑤履修上の上限単位数

学生が科目ごとに必要な学修時間を確保し、学修成果を十分に得られるようにするため、１セメスターあたりの履修単位の上限を 26 単位、年間の履修単位の上限を 50 単位とする。これは、教育課程上の配慮、授業時間外に必要な学修の促進等の取り組みを保障するためのものである。上限を設けることで、学生が適切な学修計画を立て、深い理解と知識の定着を図ることを目指す。

⑥保健師国家試験受験資格課程の履修

本学部では、保健師国家試験受験資格課程の受講は、選択（選抜制）とする。定員を 17 人とし、指定科目の単位を修得している受講希望者に対し、第２学年終了後に選考試験を実施する。選考方法は、第２学年終了時までの学業成績、および面接試験による総合判定によって行うものとする。保健師国家試験に合格し保健師の登録をしたものは、都道府県労働局への申請により第一種衛生管理者の免許を取得することができる。また、保健師国家試験に合格し保健師の登録をした者で、文部科学省令（教育職員免許法施行規則第 66 条の６）に定

める科目を修得した者は、都道府県教育委員会への申請により養護教諭２種免許状を取得することができる。

⑦卒業要件

看護学部の卒業要件単位数は 124 単位以上とする。卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、科目区分ごとに必要単位数を定める。

共通教養科目では、「仏教・自校教育科目群」から必修科目２単位、「グローバル科目群」・「必修外国語」から必修科目６単位、「データサイエンス科目群」から必修科目２単位、「初年次教育科目群」から必修科目４単位、「自己形成科目群」から６単位を含み、計 20 単位以上を修得することとする。

専門科目については、「学部基幹科目」から必修科目１単位、「学科基礎科目」から必修科目 28 単位、「学科専攻科目」から必修科目 69 単位および選択科目２単位、「関連科目」から４単位を含み、計 104 単位以上を修得することとする。

以上より「共通教養科目」「専門科目」の各要件を含み、合計 124 単位以上を履修することを設定した。

（６）多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学ではメディアを活用した授業（学則第 29 条第３項に規定）を全学的に推進しており、共通教養科目の「自己形成科目群」に属する科目の全て（26 科目）、仏教・自校教育科目群の一部（１科目）、国際教養の全て（５科目）、キャリアスタディ科目群の全て（５科目）において非同期型のオンデマンド授業を展開している。

当該科目では全面的にオンデマンド授業となることから、原則として教室は使用せず、学生が学びたい場所で学ぶことを可能とした。ただし、受講生の学修状況等により個別のフォローが必要となった場合は、リアルタイム型のオンライン授業、あるいは補講日等を利用した対面授業を実施する場合もある。

実施方法は、音声付きのスライド資料等を配信するのではなく、スタジオ設備等の録画機材を活用して作成した、教員の映像付きの講義映像を使用することを基本としている。あわせて学習管理システム（Learning Management System：LMS）を使用した質疑応答や、受講生同士の議論の場を設け、深く学修できる環境を整えている。

オンデマンド授業の運営にあたっては、教育推進機構が作成する『オンデマンド授業のガイドライン』を、科目担当教員に配付し、所謂、一方通行の授業ではなく、オンデマンド授業であっても質疑応答や課題のフィードバックをし、同時双方向性を担保するとともに、対面と遜色のない授業が実施できるように、統一した授業運営を心掛けている。

さらに、オンデマンドコンテンツの配信のタイミングについては、原則として月曜日もしくは金曜日の午前９時に設定しており、シラバスにもその旨を明記するようにしている。これにより、受講生が学修の計画を立て易くなり、学修意欲低下の抑止に繋がっている。

授業に関する質問については、研究室や講師控室でのオフィスアワーの時間を設け対応している。

なお、本学では、令和４（2022）年度より学生に個人端末を必携化しているため、オンデマンド授業における学修は基本的に受講生個人の端末で行うことになるが、そのような学修スタイルに不慣れな学生に対しては、「なんでも相談窓口」にて必要な学修支援を行うとともに、質問が集中する学期初めのオリエンテーションの時期には、ICT サポート支援の窓口を別途設け、SA による個別支援を実施する等、学修支援体制も整えている。

（７）実習の具体的計画

①実習の基本方針

看護学部では、高い看護実践能力を習得するため、「生きた臨床」での学びとして臨地実習に最も重点を置く。臨地実習を通して看護を支える思想とともに、知識・技術の習得から看護実践能力の向上までを目指す。その際、本学の建学の理念でもある仏教精神に基づき、看護の対象となる人々の「生きる」と「健康」を第一義と考えた看護実践を行う。

②実習の目的

臨地実習では、さまざまな場で生活する人のあらゆる健康レベル、発達段階に対して、講義・演習で学んだ各看護学等の統合した知識・技術を、対象への実際的な関わりを通して実践し、対象に応じた総合的な看護実践能力と専門職としての倫理観・態度を養成することを目的とする。

臨地実習は、人材養成の目的である「豊かな人間性と倫理観を基盤に看護職として人を思いやり、共感できる人材」として、基礎的な看護実践能力、対象を理解し支援するためのコミュニケーション力、多職種と協働する力、自己研鑽する力、研究的思考やグローバルな視点を備え、地域社会や人々の健康に貢献ができる看護職を養成すべく、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現する上で、極めて重要な科目である。

（資料７：科目別実習計画）

③実習の目標

１）さまざまな実習経験を通して、個々の対象を尊重しながら、主体的に発展的な人間関係を築くよう努め、対象を総合的に理解する能力を養う。

２）看護の対象となる人々を全人的、総合的に理解するとともに、健康レベルやライフステージにおける心身の状態や生活を理解し、その対象に応じた適切な看護を科学的な判断に基づいて実践する能力を養う。

３）看護に求められる高い職業倫理を身につけ、かつ人としての権利である人権を踏まえたヒューマンケアを実践する能力を養う。

４）地域における生活者と触れ合うことを通して、地域コミュニティに関する理解や在宅看護における種々の課題や問題点を把握する能力を養う。

５）保健・医療・福祉分野における関連職種の役割や活動を理解し、多職種との連携や社会資源の活用を通して、看護師としての役割と責務を考える。

６）実習を通して看護職としての自己覚知の確立と看護実践能力の充実・向上を図るために、研究的視点とそのための研究倫理をもつことの重要性を理解する。

④実習の展開

看護学実習の展開は、１年次から４年次の各期に、様々な場所でライフステージや健康レベルの違う対象と向き合うことにより、看護実践能力を高め、主体的に学び続ける態度を養うことができるように、次の４段階に分けて行う。

各実習科目における実習計画については、資料７に示すとおりである。

（資料７：科目別実習計画）

（実習の展開）

年次別	実習の内容	実習科目	単位数
１年次	１年次は、早期体験実習としてコミュニティ実習を配置し、地域で暮らす人々を知り、生活者として理解する。基礎看護学実習Ⅰは、病院や病棟の療養環境について理解し、患者と同じ立場で医療を考えながら、看護の役割を考える。	コミュニティ実習 基礎看護学実習Ⅰ	1 1
２年次	基礎看護学実習Ⅱは、疾患をもつ対象の理解、看護過程の展開による基礎的な看護実践能力を養う。	基礎看護学実習Ⅱ	2
３年次	３年次からは各専門領域の実習（地域・在宅看護学、クリティカルケア看護学、慢性看護学、老年看護学）を配置し、疾患や対象、看護の場の違い等から、看護の役割や継続看護について理解を深める。また、臨床推論に基づいた科学的な看護実践能力の習得を図る機会とする。全実習を通して様々な健康レベルの人々の価値観や考え方にふれ、自己の看護実践を振り返り、看護観や倫理観を高める。	地域・在宅看護学実習 クリティカルケア看護学実習 慢性看護学実習 老年看護学実習	2 3 3 3
４年次	母性・小児・精神看護学の３領域において、対象や場の違いに応じた実習を通して、看護の専門性の理解と実践能力を習得する。また、実践者としての自己を振り返り、看護観や倫理観を高める。	母性看護学実習 小児看護学実習 精神看護学実習	2 2 2
	選択　保健師国家試験受験資格課程の公衆衛生看護学実習は、地域社会における個人・家族・集団・組織を含む地域の健康の維持・増進に焦点をあて、地域特性をふまえた健康問題の把握、地域保健活動の計画・実践・評価を行い、地域保健活動の展開能力を高める。	公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ	1 4

	統合実践看護実習は、４年間の学修の集大成として理論と実践の統合を図る。自らが関心をもったテーマを持ち、関連するフィールドで実習を行うことで、総合的実践能力を高める。	統合実践看護実習	2

⑤実習実施資格判定

各段階の実習は、実習以外の講義・演習等の学修進度も踏まえて段階的に実施されるため、履修するにあたっては、実習までに必要な科目の単位を修得し、実習実施資格を満たしている必要がある。実習資格判定は教授会で行われ、学生には大学から通知される。具体的な実習実施資格判定基準は、資料８のようになる

（資料８：実習実施資格判定基準表）

⑥実習先の確保状況

京都府・市の高度先端医療を担う大学の医学部附属病院をはじめ、京都府・市の中核病院や総合病院の他、精神科専門病院等各実習領域の目的・目標に合致した施設を確保している。その他、介護老人福祉施設、幼稚園、訪問看護ステーション、地域包括支援センター等、様々な場や対象に応じた看護を学ぶことができるように十分な施設数を確保している。

保健師国家試験受験資格課程（以下、保健師課程）においては、京都府内の保健所及び市町村、京都市の保健福祉センター、学校・産業保健関連施設等を確保している。保健所・市町村等の実習施設は京都府内の広域に配置されており、京都府担当課の調整により遠隔地の施設で実習を行う場合がある。細かな遠隔地における実習で宿泊が必要な場合、事前に十分なオリエンテーションを実施し、円滑に実習が進むよう計画する。

（資料９：実習施設一覧）

（資料 10：実習施設の承諾書）

（資料 11：看護学部看護学科実習受入施設所在地）

⑦実習先との契約内容

実習施設に所定の協定書や実習要項がある場合には、内容検討のうえ、原則として実習施設の定めに従う。協定書の内容は、実習委託の内容、実習謝礼金、学生の遵守義務、保険加入、実習中の負傷・疾病、事故発生時の対応等である。

実習中の事故防止のために、科目責任者および実習担当教員は各実習オリエンテーション等において「実習共通要項」をもとに、事故（アクシデント）と、一歩間違えば事故につながる可能性の高い出来事（インシデント）について説明し、事故防止行動がとれるよう丁寧に説明する。また、臨地実習において学生は対象者の個人情報に触れるだけでなく、学修の過程で実習記録をまとめるため、学生自身の個人的体験も記載される。これらのことから実習科目責任者および実習担当教員は、「個人情報保護法」（2022 年改正）と、日本看護協会「看護職の倫理綱領（日本看護協会 2021 年）」を十分に理解した上で、学生に個人情報の取り扱いに関して教育的に関わることが求められる。特に、実習記録に関しては、個人情報の漏洩

防止のために慎重な取り扱いが求められるため、「実習記録の取り扱い」（資料 14 実習共通要項 p. 7）に従って対応を徹底する。

ソーシャルメディア（以下、SNS）の利用にあたっては、「実習共通要項」に注意事項を掲載してオリエンテーション時に説明するとともに、グループワークを行い SNS の危険性について学生間で話し合う機会を設ける。

事故や情報漏洩等の事象が生じた場合には、対象者および学生の安全を確保し、緊急時の連絡体制に基づいて連絡・相談・報告を行い対応する。事態が落ち着いた後に、十分な振り返りを行い、事故防止の視点で「インシデント・アクシデント報告書」を作成する。

（資料 12：臨地実習における個人情報の取り扱いに関する基本方針）

（資料 13：実習中の事故に関する取り決め）

（資料 14：実習共通要項）

⑧実習水準の確保の方策

実習水準の確保のために、学生に対しては実習実施資格判定基準を設け、必要な単位を修得した上で実習科目が履修できることを条件とする。また、実習調整検討会を設置し、実習施設と連携をとって指導にあたる。

１）実習調整検討会の設置

看護学科の実習運営に関する重要事項を審議するため、各実習科目担当者（教授、准教授、講師、助教）からなる実習調整検討会を学内に設置する。実習調整検討会では、実習の運営・実施、実習指導体制の整備、実習における医療情報管理、実習にかかわる感染対策物品をはじめとする物品管理、看護技術教育の検討、実習における感染予防・事故対策、その他看護学実習に関することについて審議し、看護学科会議の議を経る。また、教員間の相互の連携が円滑に進展するように連絡調整を行い、各看護学実習における教育の質を保つとともに、各実習施設との連絡・調整にもあたる。

２）実習共通要項の作成

実習調整検討会では、全ての実習科目に共通する事項をまとめた「実習共通要項」を作成するとともに、目的・目標、実習方法、感染対策、実習上の注意事項、心構え等を学生があらかじめ理解できるよう学生に事前配付し、実習オリエンテーションを行う。個々の学生の抗体価検査結果やワクチン接種状況等を記載し、感染対策の自己管理状況が把握できるよう準備する。学生はその要項に沿って実習前の十分な学内演習を行い、一定の看護実践能力が備わっているか各看護学担当教員のチェックを受けたうえで実習に臨む。学生は常に実習共通要項を携帯し、内容を確認できるようにする。また、実習共通要項は実習施設にも配付する。

（資料 14：実習共通要項）

３）実習指導方法

実習グループは学修効果を高めるために概ね４～８人の編成とする。実習指導は、各看護学を担当し高い実践能力をもつ教員、各実習施設の臨地実習指導者が行う。臨地実習指

導者には、厚生労働省若しくは都道府県が実施している「実習指導者講習会」又はこれに準ずる者が実施している研修を受けた看護師等を配置し、教員と連携して指導にあたる。臨地実習では、学生が実習体験を通した学びを統合することを重視し、カンファレンスには教員と臨地実習指導者がともに参加し、学生のカンファレンス運用のサポートを行う。

４）臨地実習指導者研修会の開催

実習調整検討会を中心に、各実習施設の指導者やスタッフを対象とした研修会を開催する。看護現場からの情報をもとに実習の目的、実習の内容、指導方法、目標や到達レベル等について検討や見直しを図り、実習の質の向上を図る。教員と実習施設のスタッフが学生の看護実践能力の到達目標に共通認識をもつことにより実習の教育効果向上を狙う。

⑨実習先との連携体制

１）実習担当教員と臨地実習指導者の役割と責任

学生への教育的な指導は実習担当教員が責任をもつが、各実習施設における患者・利用者への直接的な関わりについては、臨地実習指導者の責任のもとで協力を得ながら行う。医療機関の他、訪問看護ステーション、保健所・保健センター等の実習施設においても、実習指導者講習の受講者を中心とした臨地実習指導者、あるいは十分な臨床経験をもつ専門家が、臨地実習指導者として実習担当教員と連携し指導にあたる。臨地実習指導者は臨地での看護の指導に責任をもつとともに、看護職としてのロールモデルを示し、学生への動機付けを行う。

２）役割分担

ア）実習科目責任者の役割

実習科目責任者は、各実習施設に実習共通要項を配付したうえで、実習担当教員および臨地実習指導者と連携し、実習の計画・実施・評価について責任をもつ。適宜、担当教員や臨地実習指導者と情報交換を行い、実習全体の把握と学生および教員への指導･助言を行う。

イ）実習担当教員の役割

実習指導体制は、実習の内容及び実習場所に応じて、引率指導と巡回指導の形態をとる。引率指導は、１施設に教員１～４人を配置し、指導者と協力して指導を行う。原則として実習担当教員は、教育全体に責任をもつ立場で、学生が講義・演習での学びを臨床でどのように発展させているか、あるいは実践の場でどのような学習の転移をもたらしているのかを見届ける。

教員の役割は基本的に以下の４点になる。

・実習の基本方針・目的・目標を臨地実習指導者に説明する
・学生と臨地実習指導者の連絡や調整を行う
・学修上の指導や助言を行う
・学生の学習態度および問題発生時に対応する

ウ）臨地実習指導者の役割

臨地実習指導者は、実習目的・目標計画に基づき、実習指導を実施する。

・指導計画の修正および学生の看護実践における指導や助言を行う
・学修プロセスにおけるスタッフ間の連絡や調整を行う
・患者ケアに責任を持ち、患者の安全を守る
・指導上で得た情報を活用し、学修プロセスの評価に参加する
・自己啓発に努め、看護師としてのロールモデルを示す

⑩実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入）

１）感染予防対策

学校保健安全法施行規則第18条に定めている学校において予防すべき感染症ほか、血液を介する感染症（Ｂ型肝炎）の予防対策を合わせて実施する。入学時の健康診断で学生の感染症の免疫獲得状況と感染の有無について把握し、予防接種を推奨する。実習に向けての感染予防は、標準予防策（スタンダードプリコーション）を原則とする。

実習に際しては、基本的な感染防止対策の学修を事前に行い、学生が留意事項をふまえた上で、安全に実習に臨むことができるようにサポートする。

①免疫獲得状況と感染の有無の把握について

検査項目として、１年生については小児感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体価検査、Ｂ型肝炎抗原・抗体検査、QFT検査を実施し、全学年について胸部Ｘ線検査を毎年１回実施する。

②予防接種について

ワクチン予防可能疾患として、実習までに麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・Ｂ型肝炎・インフルエンザの予防接種を学生に推奨する。なお、予防接種は任意での接種を原則とする。感染症予防上、予防接種の必要性・効果・副反応等について、学生自身および保護者が十分理解した上で判断し、各自の責任のもとに個別に行う。学生は、検査や定期健康診断の結果を確認し、大学の健康管理センターへ報告する。

③学校の予防すべき感染症発症時の対応について

大学は学校感染症等の発生に対して、学校保健安全法に基づいて対応する。また、学校感染症に感染した疑いがある学生は通学や実習を見合わせ、速やかに医師の診察を受け、学校感染症と診断された場合は大学に連絡する。

④学生自身の感染対策

・自分の健康状態を知り、自己の健康管理に留意し生活リズムを整える
・実習２週間前から実習終了後１週間までは「健康状態自己管理表」を記載し、自己の健康状態把握に努める
・風邪やインフルエンザ等に罹患した場合は担当教員に報告し、速やかに医療機関を受診する。また、学校保健安全法や医師の指示に基づいて行動する
・標準予防策（スタンダードプリコーション）を徹底する
・対象者の感染症に対する情報収集を行い、感染症をもつ対象者のケアを行う場合は、実習施設の対策に準じた防御体制をとる
・手指に傷を作らない。傷がある場合には手袋をつける等して対処する
・接触感染・空気感染・飛沫感染等の感染経路別対策を徹底する。また、感染源となる可能性のあるものの取り扱いは、各実習施設で定められた方法に従う

・感染源となる血液・体液・分泌物等に暴露・接触したと判断される場合は、速やかに教員または臨地実習指導者に報告し、病院の対応マニュアル等の指示に従って必要な処置を受ける

（資料15：基本的な感染症対策）

２）保険等の加入について

学生は、学生自身のけが等に適用される傷害保険に加入するとともに、学生が患者に対して加害者になった場合の賠償責任保険や、学生自身が患者から感染症等の危害を受けた場合に適応される補償制度等に加入する。

⑪事前・事後における指導計画

１）実習前の指導計画

臨地実習に際しては、対象者の人権に配慮し、また対象者に不利益が生じないような実習となるように指導する。

各実習開始時にオリエンテーションを行い、実習の意義・目的、実習の到達目標、実習施設についての理解、実習に必要な知識・技術の確認、実習計画書の作成等の説明を行い、自ら学ぶ姿勢の養成に努める。患者を受けもつ実習では、各実習施設において臨地実習指導者が受け持ち患者のオリエンテーションを行い、学生が患者の事前情報収集を円滑にできるようにサポートする。見学実習では各実習施設において、臨地実習指導者あるいは教員がオリエンテーションを行い、学生が施設の概要・特徴を理解できるようにサポートする。

２）実習後の指導計画

臨地実習終了日に、臨地実習指導者とともに最終カンファレンスを開く。これは学生にとっては、実習体験の共有化および実習の学びを深める機会となり、教員や臨地実習指導者にとっては、指導に対する評価の機会となる。さらに教員は実習記録をもとに学生と個別面談し、学生が実習内容を自ら振り返り、次の実習に向けた課題が明確にできるようなサポートをする。提出された実習記録には日々コメントを入れ、レポート提出を課す実習の場合には教員が後日レポートにコメントをして返却する。

⑫教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

○実習科目責任者は、各実習施設に実習共通要項を配付したうえで、実習目標や実習内容および学生の学修状況を十分説明し、臨地実習指導者の理解が得られるよう努め、臨地実習指導者と連携し、実習の計画・実施・評価について責任をもつ。実習指導には教員と臨地実習指導者があたる。指導に際しては、学生及び対象者の安全の確保を考慮し、当該施設の看護の質を保証しながら実習目標が達成できるよう配慮する。助教が実習指導を行う場合は、学内または実習施設で学生への指導のサポートや臨地実習指導者との関係調整にあたる。

○実習指導体制は、実習の内容及び実習場所に応じて引率指導と巡回指導の形態をとる。引率指導は実習人数に応じて１施設に教員１～４人を配置し、実習施設の臨地実習指導

者と協力して指導を行う。巡回指導は実習グループごとに教員１人を配置し、臨地実習指導者と役割分担し、連携をとりながら巡回して指導を行う。助教が実習指導を行う場合は、講師以上の教員と同じ施設で実習指導を行うよう配置し、常に相談できるような体制をとる。あるいは複数配置できない場合や巡回指導を行う場合は、実習科目責任者が適宜、実習施設へ赴いて共に指導にあたる。

コミュニティ実習、地域・在宅看護学実習については、複数の施設において同時に実習を進行させるため、巡回指導の形態をとる。移動には公共交通機関を利用し、教員１人あたり２～３施設を巡回指導する。事前に臨地実習指導者や学生との連絡体制等について調整し、臨地実習指導者と密に連携を取りながら実習内容や指導形態等の調整を行う。保健師課程においては、京都府担当課の指示により遠隔地の施設で実習となる場合、実習指導教員が事前に宿泊先と実習施設を訪問し、交通手段・交通経路等を確認することで安全を確保している。また、教員の移動の負担を考慮し、実習期間を集中させることで、大学との行き来が最小限になるよう工夫している。施設担当者とも事前に打ち合わせを行い、連絡体制の構築・連携を図りながら実習指導にあたる。

（資料 16：年次別実習指導体制（教員配置））

（資料 17：実習科目別指導体制（教員配置））

（資料 18：科目担当時間割表）

⑬実習施設における指導者の配置計画

学生への教育的な指導は教員が責任をもつが、各実習施設における入院患者や入所者・来所者への直接的な関わりについては、臨地実習指導者の責任のもとで協力を得ながら行う。医療機関の他、訪問看護ステーション、保健所・保健センター等の実習施設においても、厚生労働省若しくは都道府県が実施している「実習指導者講習会」又はこれに準ずる者が実施している研修会を受講した臨地実習指導者、あるいは十分な専門的知識を有し、実務経験をもつ者が臨地実習指導者として教員と連携し指導にあたる。臨地実習導者はベッドサイドでの看護の指導に責任をもつとともに、看護師としてのロールモデルを示し、学生への動機付けを行う。

⑭成績評価体制及び単位認定方法

実習の成績評価は、実習指導を行った教員と臨地実習指導者が事前学修状況、出席状況、実習内容、実習記録、実習態度等をふまえて協議する。学生は自己評価を行なったのちに、実習指導教員と面談を行い、共に実習での取り組みを振り返り実習目標到達度を確認する。実習担当教員は総合的に実習目標の達成度を評価し、科目担当教員で評価の妥当性を検討し、最終的に実習科目責任者が単位認定を行う。

各実習における評価点は、学内授業と同様に 100 点満点で評価し、S（100～90 点）、A（89～80 点）、B（79～70 点）、C（69～60 点）を合格、D（59～0 点）、X（単位登録のみで未履修）、N（評価対象外）を不合格とする。

⑮実習先が遠隔地の場合、その意義や指導計画等の配慮

現在承諾を得ているほとんどの実習施設は、京都市内を中心に確保されており、看護学部のある二条キャンパスからの交通の利便性も考慮した立地にある。しかし、小児・母性・精神領域等、実習施設数が少ない上、多くの教育機関と実習施設を共有する場合は、近隣県で実習を行う場合があるが、交通の利便性に配慮できる施設となるよう努める。

また、保健所・市町村等の実習施設は、京都府下の広域に配置されており、公共交通機関を利用して移動する。「公衆衛生看護学実習Ⅱ」を選択する学生については、京都府担当課の調整により遠隔地の施設で実習を行う場合がある。遠隔地における実習も、原則として引率指導を行う。担当教員は、事前事後の打ち合わせや実習期間中の学修支援に関して、実習施設や臨地実習指導者との連絡を密にとり、実習が円滑に進むように努める。また、何らかの事情で不在となる場合、学生の指導、相談については、実習用携帯電話やメール等を活用してすぐに連絡がとれるようにする。非常時には、実習科目責任者が対応する。

（資料 11：看護学部看護学科実習受入施設所在地）

（８）企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

共通教養科目のグローバル科目群の海外語学科目として、「海外語学研修（英語）」、「海外語学研修（中国語）」、「海外語学研修（韓国語）」、「海外語学研修（ベトナム語）」を配置している。

海外語学研修は、１セメスター未満の短期留学を指し、夏期休暇期間もしくは春期休暇期間を利用し、研修を実施している。現地での生きた外国語の習得と総合的な語学力の向上を図り、現地の人々とコミュニケーションをとることにより見聞を広め、文化や歴史に触れることを目的としている。また、他学部の学生同士の交流を図るとともに、国際感覚を磨き、日本との相違を再認識し、学生の成長を促す貴重な体験の機会を提供している。

（資料 19：海外語学研修参加者数）

①研修先の確保の状況

海外語学研修実施にあたり、本学と各大学との間で取り交わしている、本学学生を受け入れるための協定書もしくは覚書に基づき、研修先を確保している。海外語学研修先の大学（国・地域）は、以下のとおりである。

令和２（2020）年度から令和４（2022）年度については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から実施を全面中止もしくは一部中止とし、オンライン研修に切り替える等の対応を行ったが、毎年度全学部の学生を対象に参加希望者を募り、研修を実施している。

語種	学校名（国／地域）	期間
英語	College of the Desert（アメリカ／カリフォルニア）	約 20 日間
	Deakin University（オーストラリア／メルボルン）	約 40 日間
	University of Canterbury CCEL Christchurch（ニュージーランド／クライストチャーチ）	約 25 日間
	University of Malta（マルタ共和国／バレッタ）	約 20 日間
中国語	北京語言大学（中国／北京）	約 10 日間

	慈済大学（台湾／花蓮）	約 20 日間
韓国語	東國大学校（韓国／ソウル）	約 15 日間
ベトナム語	HUTECH（ベトナム／ホーチミン）	約 10 日間

②研修先との連携体制

担当教員および国際交流課職員と現地担当者との綿密な連絡体制を構築し、事前のオンラインでの打ち合わせや研修中の学生の状況把握を行っており、緊急時には、状況に応じて担当教員および国際交流課職員を現地に派遣する等の体制を構築している。

③成績評価体制及び単位認定方法

海外語学研修では、事前学修、現地の講師による授業を受講するほか、教室外プログラムへの参加、帰国後のリポート課題・参加報告書の内容を基に、担当教員が成績評価と単位認定を行う。認定単位数は、各プログラムにおける事前学修および現地での学修時間数に基づき行っている。

単位認定にあたっては、原則本学教職員による引率を行わないため、事前に現地担当者との打ち合わせにおいて、科目の到達目標・成績評価基準を明示したうえで評価を依頼している。評価状況に応じて、必要な場合は現地担当者とオンライン等で状況確認を行い、科目担当者による成績評価と単位認定を行うこととしている。

④その他特記事項（危機管理対策）

海外研修に際して、海外の受け入れ大学およびエージェント会社の現地担当者による対応に加えて、海外アシスタンスサービス会社との業務委託契約を取り交わし、研修先および周辺地域の安全状況等の情報収集を行い、事前に安全が確保できていることを確認している。また、研修に参加する学生には、事前研修やガイダンスの場において、研修時の注意事項や緊急時の連絡方法等について指導するとともに、海外旅行保険の加入を義務付けている。また、外務省海外渡航登録サービス「たびレジ」への登録を義務付け、各自が研修地域の最新情報を入手できるよう配慮している。

また、学内においては、緊急事態連絡網を作成し、研修の延期・中止の判断をはじめ、緊急時に直ちに対応内容を協議できる体制を構築している。

（９）取得可能な資格

看護師国家試験受験資格	看護師課程の所定の単位を修得により、資格取得
保健師国家試験受験資格	定員 17 人の選抜制 保健師課程の所定の単位を修得により、資格取得

本学部においては、上記のとおり、本学学則第 24 条の５に基づき、卒業に必要な単位を修得することにより、全員が卒業と同時に看護師国家試験受験資格を取得できる。

また、保健師国家試験受験資格については、毎年度入学者に対し、最大 17 人の定員を設け、別に定める内規【資料 20】に従い、履修者選考試験を実施している。履修者選考試験に合格し、

本学学則第 24 条の６に規定した単位を修得した場合、保健師国家試験受験資格を取得できる。教育課程と指定規則等との対比表は、【資料５】のとおりである。

なお、既に保健医療技術学部看護学科として、保健師学校ならびに看護師学校としての指定を受けているため、事前の文部科学省高等教育局医学教育課による指導に基づき、学生受入れ予定前年度にあたる令和７（2025）年５月末に学則（入学定員および教育課程）変更に係る変更承認申請を提出する予定である。

また、保健師国家試験に合格し保健師の登録をした者で、文部科学省令（教育職員免許状施行規則第 66 条の６）に定める科目「日本国憲法」２単位，「スポーツ理論」１単位，「スポーツ実技」１単位,「Integrated Communication Skills１」１単位,「Integrated Communication Skills２」１単位，「ICT リテラシー」２単位を修得することにより、養護教諭二種免許状の申請ならびに取得が可能である。

（資料 20：保健師国家試験受験資格課程の履修に関する内規）

（１０）入学者選抜の概要

①入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学部では、本学が既に置く医学リハビリテーション領域、教育関連領域とともにこれまでの伝統をさらに発展させ、人間の尊厳の重視と、高い理念、倫理、規範に裏づけられた崇高な精神とともに、ヒューマンケアの中核的担い手として看護の新たな価値を創造する力を有する人材の養成を目的とする。

このことを踏まえ、本学部は、豊かな人間性と倫理観を持ち、看護学の向上に努めて社会に貢献できる看護師、保健師を育成するため、次のような人を求めている。

＜知識・技能＞

AP１：看護学を学ぶために必要な基礎学力を備え、学修を継続する力を持っている人

AP２：看護職に求められるスキルを高め、地域で生活する人々の健康に貢献したいという意欲がある人

＜思考力・判断力・表現力＞

AP３：看護学を学び、豊かな感性と論理的に考え判断する力、情報を活用する力を身につけようと努力できる人

AP４：他者の考えを知るとともに、自分の考えを自分の言葉で表現できる人

＜主体的に取り組む態度＞

AP５：人への深い関心をもち、人の可能性を信じ、自分も他者も大切にできる人

AP６：他者を思いやることができ、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる人

②入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）と教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の相関関係

本学部では、養成する人材像に向け、入学希望者に対して「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を示し、入学後の学修に要する資質・能力等に照らして、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めている。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）は、本学の「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を基とした教育課程を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを、「学力の３要素」と関連付けながら整理したものである。

その関係については、資料３：養成する人材像と３つのポリシーとの相関図に示している。

（資料３：養成する人材像と３つのポリシーとの相関図）

③入学者選抜の実施方法等

入学者選抜においては、大学入学者選抜実施要項とともに、前述した本学部のアドミッション・ポリシーに基づき、総合型選抜（自己推薦制）、指定校MU選抜、指定校高大連携選抜、同窓選抜、学校推薦型選抜（公募制）、一般選抜（A 日程・B 日程・C 日程）および大学入学共通テスト利用選抜（前期・後期）を実施する。各入学者選抜区分による募集人員及び選抜方法の詳細は以下のとおりである。

１）選抜区分および募集人員

選抜区分		募集人員
①総合型選抜（自己推薦制）		9 人
②指定校MU選抜		16 人
③指定校高大連携選抜		7 人
④同窓選抜		1 人
⑤学校推薦型選抜（公募制）		16 人
⑥一般選抜	A 日程	9 人
	B 日程	13 人
	C 日程	2 人
⑦大学入学共通テスト利用選抜	前　期	5 人
	後　期	2 人

２）選抜方法及び試験教科・科目

ア）総合型選抜（自己推薦制）

【選抜方法】

一次選考「書類選考」および二次選考「面接」で選抜、一次選考合格者を対象に「個人面接」の得点で合否を判定

【試験教科・科目】

一次選考：書類選考（調査書、自己推薦書、出願資格申告書、学習・活動成果報告書等）

二次選考：個人面接

イ）指定校MU選抜

本学で指定した高等学校を対象に行う併願制の入学試験制度

【選抜方法】

基礎能力試験（英語・国語）および面接で選抜し、その結果および出願書類等を総合的に評価して合否を判定

【試験教科・科目】

基礎能力試験（国語・英語 60 分）、個人面接

ウ）指定校高大連携選抜

本学で指定した高等学校を対象に行う専願制の入学試験制度

【選抜方法】

小論文および面接で選抜し、その結果および出願書類等を総合的に評価して合否を判定

【試験教科・科目】

小論文（60 分）、個人面接

エ）同窓選抜

同窓生・在学生の親族、および本学附属幼稚園卒園者を対象に行う併願制の入学試験制度

【選抜方法】

基礎能力試験（英語・国語）および面接で選抜し、その結果および出願書類等を総合的に評価して合否を判定

【試験教科・科目】

基礎能力試験（国語・英語 60 分）、個人面接

オ）学校推薦型選抜（公募制）

出身学校長が作成した推薦書を必要書類とし、本学の教育課程を修めるに十分であると学校長が認め推薦した者を出願資格とする入学試験制度

【選抜方法】

基礎評価方式：基礎能力試験（英語・選択（※選択は国語、数学より 1 科目））を 80 分で実施し、2 科目の合計 200 点満点で判定

総合評価方式：基礎能力試験の合計 200 点満点に加え、調査書記載の高等学校全体の学習成績の状況を 20 倍したもの(100 点満点)の合計 300 点満点で判定

【試験教科・科目】

基礎能力試験（英語・選択（※選択は国語、数学より 1 科目））80 分

カ）一般選抜（A 日程、B 日程、C 日程）

✧ 一般選抜（A 日程）

【選抜方法】

英語・選択（※選択は国語、数学より 1 科目）の試験を 80 分で実施し、2 科目の合計 200 点満点で判定

【試験教科・科目】

英語、選択（※選択は国語、数学より 1 科目）80 分

✧ 一般選抜（B 日程）

【選抜方法】

スタンダード 3 科目方式：国語、選択（※選択は数学、生物、化学より 1 科目）、英語の試験を各 60 分で実施し、3 科目の合計 300 点満点で判定

高得点科目重視方式　：スタンダード 3 科目方式に追加して利用、高得点の 1 科目を 2 倍し、その他の科目との合計 400 点満点で判定

【試験教科・科目】

国語、選択（※選択は数学、生物、化学より 1 科目）、英語、各 60 分

✧　一般選抜（C 日程）

【選抜方法】

スタンダード 2 科目方式：英語・選択（※選択は国語、数学より 1 科目）の試験を 80 分で実施し、2 科目の合計 200 点満点で判定

共通テスト併用方式　：スタンダード 2 科目方式に追加して利用、「大学入学共通テストの高得点 1 教科 1 科目（国語、数学、理科、情報のいずれか 1 科目）」の点数を合計した 300 点満点で判定

【試験教科・科目】

英語、選択（※選択は国語、数学より 1 科目）80 分

※共通テスト併用方式：国語、数学、理科、情報の中で、最も高得点の 1 科目

キ）大学入学共通テスト利用選抜（前期・後期）

✧　大学入学共通テスト利用選抜（前期）

【選抜方法】

外国語（英語）200 点と国語、数学、理科、情報より高得点の 2 教科 2 科目 200 点の 3 教科 3 科目合計 400 点満点で判定

【試験教科・科目】

外国語（英語）・国語、数学、理科、情報

✧　大学入学共通テスト利用選抜（後期）

【選抜方法】

外国語（英語）200 点と国語、数学、理科、情報より高得点の 1 教科 1 科目 100 点の 2 教科 2 科目合計 300 点満点で判定

【試験教科・科目】

外国語（英語）・国語、数学、理科、情報

3）アドミッション・ポリシーの各項目と入学者選抜方法との整合性

本学部のアドミッション・ポリシーと入学者選抜方法との関係性については、以下の「アドミッション・ポリシーと入学者選抜方法との対応表」に示している。

【アドミッション・ポリシーと入学者選抜方法との対応表】

アドミッション・ポリシー	①総合型選抜	②指定校MU選抜	③指定校高大連携選抜	④同窓選抜	⑤学校推薦型選抜（公募制）	⑥一般選抜	⑦大学入学共通テスト利用選抜
AP①	○	○	○	○	○	○	○
AP②	○	○	○	○	○		
AP③	○	○	○	○	○		
AP④	○	○	○	○	○		
AP⑤	○	○	○	○			
AP⑥	○	○	○	○	○		

〈AP①〉看護学を学ぶために必要な基礎学力を備え、学習を継続する力をもっている人

〈AP②〉看護職に求められるスキルを高め、地域で生活する人々の健康に貢献したいという意欲がある人

〈AP③〉看護学を学び、豊かな感性と論理的に考え判断する力、情報を活用する力を身につけようと努力できる人

〈AP④〉他者の考えを知るとともに、自分の考えを自分の言葉で表現できる人

〈AP⑤〉人への深い関心をもち、人の可能性を信じ、自分も他者も大切にできる人

〈AP⑥〉他者を思いやることができ、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる人

ア）総合型選抜

看護学を学ぶために必要な基礎学力と継続する力を持ち、論理的に考える力を有するかについて、「調査書」で確認する〈AP①〉。看護職としてのスキルを高め、地域の人々の健康に貢献したいという意欲を有するかについて、「自己推薦書」、「学習・活動成果報告書」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP②〉。看護学を学び、豊かな感性と高い思考力、判断力を身につけようと努力する力を有するかについて、「自己推薦書」、「学習・活動成果報告書」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP③〉。相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現する力を有するかについて、「自己推薦書」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP④〉。人に深い関心をもち、人の可能性を信じ、自分も他者も大切にできる力を有するかについて、「面接」の選抜方法で確認する〈AP⑤〉。人を思いやり、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる力を有するかについて、「面接」の選抜方法で確認する〈AP⑥〉。

イ）指定校MU選抜

看護学を学ぶために必要な基礎学力と継続する力を持ち、論理的に考える力を有するかについて、「調査書」、「基礎能力試験」の選抜方法で確認する〈AP①〉。看護職としてのスキルを高め、地域の人々の健康に貢献したいという意欲を有するかについて、「推薦書」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP②〉。看護学を学び、豊かな感性と高い思考

力、判断力を身につけようと努力する力を有するかについて、「推薦書」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP③〉。相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現する力を有するかについて、「推薦書」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP④〉。人に深い関心をもち、人の可能性を信じ、自分も他者も大切にできる力を有するかについて、「面接」の選抜方法で確認する〈AP⑤〉。人を思いやり、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる力を有するかについて、「推薦書」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP⑥〉。

ウ）指定校高大連携選抜

看護学を学ぶために必要な基礎学力と継続する力を持ち、論理的に考える力を有するかについて、「調査書」、「小論文」の選抜方法で確認する〈AP①〉。看護職としてのスキルを高め、地域の人々の健康に貢献したいという意欲を有するかについて、「推薦書」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP②〉。看護学を学び、豊かな感性と高い思考力、判断力を身につけようと努力する力を有するかについて、「小論文」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP③〉。相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現する力を有するかについて、「小論文」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP④〉。人に深い関心をもち、人の可能性を信じ、自分も他者も大切にできる力を有するかについて、「面接」の選抜方法で確認する〈AP⑤〉。人を思いやり、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる力を有するかについて、「推薦書」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP⑥〉。

エ）同窓選抜

看護学を学ぶために必要な基礎学力と継続する力を持ち、論理的に考える力を有するかについて、「調査書」、「基礎能力試験」の選抜方法で確認する〈AP①〉。看護職としてのスキルを高め、地域の人々の健康に貢献したいという意欲を有するかについて、「推薦書」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP②〉。看護学を学び、豊かな感性と高い思考力、判断力を身につけようと努力する力を有するかについて、「推薦書」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP③〉。相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現する力を有するかについて、「推薦書」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP④〉。人に深い関心をもち、人の可能性を信じ、自分も他者も大切にできる力を有するかについて、「面接」の選抜方法で確認する〈AP⑤〉。人を思いやり、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる力を有するかについて、「推薦書」、「面接」の選抜方法で確認する〈AP⑥〉。

オ）学校推薦型選抜（公募制）

看護学を学ぶために必要な基礎学力と継続する力を持ち、論理的に考える力を有するかについて、「調査書」、「基礎能力試験」の選抜方法で確認する〈AP①〉。看護職としてのスキルを高め、地域の人々の健康に貢献したいという意欲を有するかについて、「推薦書」で確認する〈AP②〉。看護学を学び、豊かな感性と高い思考力、判断力を身につけようと努力する力を有するかについて、「推薦書」で確認する〈AP③〉。相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現する力を有するかについて、「推薦書」で確認す

る〈AP④〉。人を思いやり、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる力を有するかについて、「推薦書」で確認する〈AP⑥〉。

カ）一般選抜

看護学を学ぶために必要な基礎学力と継続する力を持ち、論理的に考える力を有するかについて、「学科試験」の選抜方法で確認する〈AP①〉。

キ）共通テスト利用選抜

看護学を学ぶために必要な基礎学力と継続する力を持ち、論理的に考える力を有するかについて、「大学入学共通テストの結果」で確認する〈AP①〉。

④入学者選抜実施体制

入学者の選抜は、大学設置基準第 2 条の 2 および大学入学者選抜実施要項に基づき、「佛教大学入学者選抜規程」により、責任体制として総括責任者に学長、実施責任者に入学機構長を置いている。なお、入学者の選抜に関する業務の統一的な計画・実施のために，入学機構会議を設置しており、入学者選抜試験当日の運営等の実務を遂行するために、入試本部を設けている。また、合格者の決定は、入学機構会議において公正かつ厳正に実施し、最終的な決定は各学部教授会の審議を経て学長が行っている。

（資料 21：佛教大学入学者選抜規程）

（１１）教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

①教員組織の考え方

本学部の教育理念・目的は、社会のニーズに応じたより質の高い看護基礎教育の追求、保健・医療・福祉の質の向上、地域包括ケアシステムを基盤とした地域共生社会の実現に向け中核的に活躍できる人材養成、生涯学習に向けた継続的な支援である。これらの教育理念・目的を基に、豊かな人間性と倫理観をもち、看護学の向上に努めて社会に貢献できる人材を養成するため、教員組織を以下のようにする。

本学部の基幹教員は 33 人で、32 人は看護職、1 人は医系科目を担当する医師で構成する。看護の専門分野は、保健師助産師看護師学校指定規則に定める看護教員に関する規定に基づき、基礎看護学、地域・在宅看護学、クリティカルケア看護学、慢性看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、公衆衛生看護学の 9 分野とし、それぞれ基幹教員を配して教育・研究にあたる。

これらの基幹教員が、学科専攻科目の主要授業科目を担当して教育・研究にあたる。また、各専門分野には看護の専門分野関連の実務経験を 3 年以上有する助教を採用し配している。

さらに、他学部の基幹教員が基幹教員以外の教員として関わる。また、基幹教員以外の教員の非常勤講師については、教育・研究・臨床等の分野において、顕著な実績のある人材を採用する。

超高齢社会が今後も継続すると予測される中、「保健・医療・福祉」分野においてヒューマンケアの中核的担い手としての質の高い看護職を養成することは本学部の責務である。看護基礎教育の質担保には、本学部の基幹教員に加え、日々発展している医療に携わる実践者

との協働が不可欠である。そのためには、学内外を問わず適切な人材確保が必須となり、非常勤講師やゲストスピーカーとして招聘する。

これらの人材活用による臨場感を伴う教育効果は高く、認定看護師・専門看護師等卒業後のキャリアアップの選択肢にもなり得る。さらに、卒業後の多職種連携（IPW：Inter Professional Work）に繋がる専門職連携教育（IPE：Inter Professional Education）としても意義がある。

（資料 22：2026 年度ゲストスピーカー予定）

②教員の年齢構成及び学位所持

１）年齢構成

基幹教員数については、完成年度には、教授 10 人、准教授６人、講師７人、助教 10 人の 33 人体制を編成し、届出年度の教員数に対して３人の増員を行い、入学定員を 15 人増やした１学年 80 人の学生数に対しても、教育研究水準、及び教育研究活動に支障のない教員体制を編成している。

＜完成年度までの　看護学部教員数＞

	令和 8 年度 (2026 年度)	令和 9 年度 (2027 年度)	令和 10 年度 (2028 年度)	令和 11 年度 (2029 年度)
教授	10 人	10 人	10 人	10 人
准教授	６人	６人	６人	６人
講師	６人	７人	７人	７人
助教	10 人	10 人	10 人	10 人
合計	32 人	33 人	33 人	33 人

教授クラスは 60 代の教育・研究歴豊かな人材を配置し、准教授、講師クラスは 40 代から 50 代の中堅層を配置し、助教は全員５年以上の臨床歴をもつ 30 前半から 50 代を中心に配置する。

＜職位別年齢分布＞

	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-64 歳	65-69 歳	70 歳以上	合計
教授			２人		４人	４人	10 人
准教授			４人		１人	１人	６人
講師		２人	２人	３人			７人
助教	５人	２人	２人	１人			10 人
合計	５人	４人	10 人	４人	５人	５人	33 人

本学の教員における定年は 70 歳と規定されており、本学部でも令和９（2027）年度をもって、教授３人・准教授１人・客員教授１人の計５人が定年年齢を迎えるが、佛教大学特別任用教員規程第４条第３項、佛教大学客員教授規程第２条第１項、および佛教大学の教

員の任期に関する規程第２条第２項を適用し、引き続き、特別任用教員もしくは客員教員として完成年度まで雇用する。

再雇用を行った場合の教員の平均年齢は、開設年度である令和８（2026）年度は 56 歳であるのに対し、完成年度の令和 11（2029）年度は 58.4 歳となるが、教育の質に大きな影響はないと考える。

完成年度の令和 11（2029）年度をもって退職となる教員の後任補充については、完成年度における教員の専門分野・職位・年齢等の構成人数を考慮したうえで、できる限り若手教員の採用に努め、33 人体制を維持する。

（資料23：佛教大学就業規程）
（資料24：佛教大学定年規程）
（資料25：佛教大学特別任用教員規程）
（資料26：佛教大学客員教授規程）
（資料27：佛教大学の教員の任期に関する規程）

２）学位所持

教授から講師までの学位については、博士（15 人）、修士（11 人）、学士（１人）の学位をもった教員を配置する。また、その経歴としては高等教育機関での教育研究活動に従事していた教員、その他に病院や臨床の現場で十分な経験・実績をもつ教員を配置している。

また、助教については、ほぼ全員が修士以上の学位を持ち、臨床経験５年以上の経歴、さらに教育業績または研究業績を有する者を中心に編成している。

完成年度後の新規採用教員についても、質の高い教育を提供するため、優れた教育業績または研究業績を有する教員を配置できるように進めたい。

③中心となる研究分野

本学部における教員組織の中心的な研究領域は「看護学」である。しかし、現代において「保健・医療・福祉」領域の一体化が強く求められており、看護学も単に医療施設内に留まるものではなく、これらの領域を統合した研究の推進が急務となっている。特に、「予防医療」、「地域医療」、および「高齢化社会に向けた医療・福祉の課題解決」、さらには「人を中心とした医療と療養支援システムの構築」等、他分野との連携を通じた研究の重要性がますます高まっている。

今後の看護学研究においては、これまでの病院中心のケアモデルを超え、地域社会における看護の役割の強化が求められている。また、AI やデジタル技術の進展を踏まえ、これらを活用した新たなケア技術やシステムの開発も重要なテーマとなる。具体的には、AI を活用した患者の状態モニタリングや、デジタル技術を駆使した遠隔ケアの実践、さらにシミュレーション教育を通じて看護師の臨床判断力を強化する取り組みや保健師教育の強化を目指した取り組みが期待されている。

これらの新しい技術を駆使して教育、研究を行いつつも臨床現場での実習やフィールドワークを通じて得られる知見を活用し、「看護学」の視点から実践的な研究を推進する。

さらに、本学の強みとして、他学問領域との協働による仏教看護や、ホリスティックケアの教育および研究を行う中で「看護学」の視点を広げ、多職種と共に学部横断的研究を行い、

多死社会を見据えて共同研究を行なう等、この優位性を最大限に活かした教育、研究活動を行なっている。また、国際的な災害医療研究や、アジアの宗教文化を背景とする伝統医療と看護の研究を含め、グローバルな保健医療課題に対する研究にも積極的に取り組むことで、看護学の発展に寄与していく方針である。

専門分野の教育・研究内容

分野	主たる教育・研究内容
基礎看護学	看護専門職として、その基盤となる普遍的看護役割と責任が理解でき、どのような健康状態であっても、どのような場であっても看護を必要とする人たちに対して、安全で安楽な看護が提供できるように実践能力の修得における基本的な看護技術や看護理論や普遍的な看護の概念を追求することに関する教育、研究を行う。
クリティカルケア看護学	クリティカルケアが必要な対象は、生命の危機状態や救命困難等心身の危機状態にある。高度な医療実践の中で全人的苦痛や意思決定困難さと向き合い、適切な看護を実践することが対象の Quality of Life・Quality of Death の向上に繋がる。倫理的葛藤の中で多職種と協働しながら看護の役割を果たすことの必要性を認識し、より良い看護実践に繋がる基礎的能力を養成するための教育、研究を行う。
慢性看護学	慢性看護学は、生活習慣病やがん、難病等慢性の病気をもち生活する人や緩和ケアを必要とする人とその家族の身体的・心理社会的状況や病の体験を理解し、対象に応じた看護を提供する。その慢性看護の基盤となる理論の理解と実践への活用、倫理的意思決定、セルフマネジメント支援や症状緩和、災害対策も含めた療養支援、退院支援（継続看護）、患者教育等をテーマに、対象理解と看護実践力を養成する教育、研究を行う。
老年看護学	老年期にある人々は、人生の最終段階において加齢に伴う心身機能の衰退に向き合いつつ、長い生活史の中で個別的な能力を獲得し多様な力を有する存在であると捉える。よって、自立支援やフレイル予防の観点を踏まえつつ、身体・精神・社会的側面から包括的に老年期の人々とその家族を理解し、健康レベルや生活の場と状況に応じた看護を展開するための教育、研究を行う。特に、超高齢社会の課題でもある認知症を抱える高齢者への看護に関する教育、研究を重点的に行う。
小児看護学	子どもは一人の主体者であるが、家族等主たる養育者のもとで成長・発達を遂げ、人との相互作用を持ちながら、社会の一員になっていく。日々、成長・発達し続ける子どもとその家族の特性を理解し、「子どもの権利」の尊重を基盤とし、多職種と協働しながら、さまざまな心身の健康レベルや多様な場、あらゆる状況に応じた看護が展開できる能力を養成するための教育、研究を行う。
母性看護学	母性看護の対象は、周産期にある女性とその子ども、将来子どもを産み育てる女性および過去にその役目を果たした女性であり、加えて生殖や育児のパートナーとしての男性とその家族である。家族のライフサイクルにおける健康上の特性を基に生涯にわたり健康維持、増進、疾病予防への看護を実践する。また、女性を取り巻く社会の現状は多岐に亘り、性の多様性、国際化、児童虐待等も含めたリプロダクティブヘルス/ライツの視点に立った教育、研究を行う。
精神看護学	精神の発達過程と健康、ならびにライフサイクルや対人関係等精神の健康に影響を及ぼす要因を理解する。そのうえで様々な状況下にある人の精神的な健康状態を生物学（身体）的視点、心理・社会学（精神・環境）的視点でとらえる。そして、社会の一員としてその

	人が望む生活がおくれるよう、人権擁護の観点もふまえつつ、看護を展開する能力を養成するための教育、研究を行う。
地域・在宅看護学	地域で生活する人々の健康にかかわる地域・在宅看護の特徴や機能、看護の役割について理解し、地域社会のあらゆる健康レベルに対応できる能力、地域・在宅看護に関連した社会制度や地域ケアシステムにおける保健・医療・福祉等との連携や協働ができる力を養成するための教育、研究を行う。
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学は、地域社会の健康促進と疾病予防を支援するための知識と技術を提供する分野である。具体的には、地域住民の健康リスクを評価し予防活動や保健指導を行う。また、疫学、健康政策、地域保健の実態調査を通じて地域社会の健康課題に対する効果的な介入方法を明らかにし、実践的な解決策を提案する。このように、地域住民の健康増進や疾病予防を目的として、教育・研究を行う。

④教員と事務職員の連携体制

本学部の教育研究活動および学生支援の運営においては、教員と事務職員が適切に役割分担し、相互に協力しながら、組織的かつ効果的な連携体制を構築することを基本方針としている。これにより、教育・研究の質を高めるとともに、学生支援の充実を図る。

教育面では、学部全体の教育計画を統括する教育推進機構を設置し、各教員が専門分野を活かしながら協働し、教育内容の改善と向上を図る。また、教員間の連携および教員と事務職員の協働を強化するため、定期的な会議やファカルティ・ディベロップメント（Faculty Development、FD）を実施し、教育の質保証と継続的な発展に努めていく。

研究活動に関しては、看護学の臨床応用や地域医療への貢献を視野に入れた研究活動を支援するため、学内に研究推進機構を設け、教員と事務職員が一体となって研究環境の整備や科学研究費助成事業（科研費）等外部資金の獲得に取り組む体制を整えている。

教員と事務職員との協働については、教学、学生支援、研究支援、実習調整等、それぞれの専門分野に応じた適切な業務分担を行い、学部全体の運営が円滑に進むようにしている。具体的には、カリキュラム運営に関する事務支援、実習施設との調整、学生の履修・進路相談等、教員と事務職員が連携を密にしながら支援体制を構築する。また、教員・事務職員間の情報共有を促進するため、定期的な連絡会や業務改善会議を開催し、組織的な連携を強化する。

厚生補導についても、学生の学修環境および生活支援を充実させるため、学生相談室を設置し、学修・生活・キャリア支援を一体的に行う。教員が学生の学修支援を行う一方で、事務職員が生活面や就職活動に関する支援を担当し、学生が安心して学修に取り組める環境を整えている。また、学生の精神的健康を支援するため、専門のカウンセラーと連携し、必要に応じて適切な支援を提供できる体制を確保する。

このように、本学部では、教員と事務職員がそれぞれの専門性を生かしながら協働し、組織的かつ効果的な連携体制を構築することで、教育・研究の充実と学生支援の強化を図っている。これにより、質の高い看護教育を提供し、社会に貢献できる人材を養成することを目指している。

（１２）研究の実施についての考え方、体制、取組

本学部では質の高い看護学分野の研究を行い、その成果を看護学の発展と看護実践の質向上に寄与することを目的とする。

研究活動に関しては、看護学の発展に資する研究を推進するため、学内の研究支援組織を活用しながら、学部内外の研究者と連携し、共同研究や学会発表、論文投稿を奨励する。

現在看護学が取り扱う課題は、医療や福祉といった近接領域で解決できない課題が山積している。社会状況をみても医療福祉の社会経済的コスト、人々の健康を守り地域生活を支える制度やその人材養成、医療福祉従事者の働き方や労働改革、AI 等テクノロジーの活用、頻発する自然災害や国際的人道支援等多岐にわたっており、これらは解決していかねばならない喫緊の課題である。本学部ではこれらの課題に専門分野ごとに各教員ならびに学生とともに研究を進めていく。

これらを推進していく環境として、まず本学が総合大学であり他学問領域（仏教学、教育学、社会学、社会福祉学）と協働し領域横断的に、多角的な視点とアプローチで研究に取り組める点があげられる。例えば仏教学は人々の生が多様化する社会で人々の死生や幸福を考える価値観の在り方等を、教育学は人材を養成する術を、社会学や社会福祉学は今後の超高齢多死社会や労働人口減少社会への社会制度や支援、ケアの在り方等、これら他学問領域の多角的な視座を看護研究に与えてくれることは大きな利点である。本学にはすでに法然仏教学研究センターや臨床心理学研究センター、さらには総合研究所が設置されており、学内外の広範な研究分野から研究者が集い、他領域学問の研究者の知的資源を結集し、現代社会のさまざまな課題に応えるべく「共同研究」を推進している。

次に、研究支援体制として、研究推進に係る全学的な業務を行なうため、研究推進機構を設置し、組織的且つ総合的な研究推進事業を行なっている。研究推進機構は「研究推進部」（事務局）、「社会連携センター」、「法然仏教学研究センター」、「総合研究所」、「臨床心理学研究センター」、「宗教文化ミュージアム」で構成され、実務は、機構長、部長をはじめ事務職員が担っており、科研費助成事業をはじめとする外部資金獲得、ならびに学内の研究助成費や事業により研究者支援が行われている。これにより本学の科学研究費助成事業の代表者の採択件数は、2020 年の 64 件から年々増加し、2024 年には 83 件となっており、このうち本学部では 14 件である。また、これらの研究成果を発信する学部論集の発行、Web 媒体である佛教大学研究活動報（『manako』）による研究者の研究活動の定期的なアウトプット、刊行物発刊の支援制度があり、研究成果を継続的に広く社会に発信しつづけている。

産学官公連携については、本学は近隣地域の市区町村や社会福祉協議会、企業や商店街との協定を締結している。これらの人的交流、知的資源の交流をとおして地域の活性化と地域住民が安心と安全のある暮らしを送ることができるよう、取り組みと研究をすすめている。このような環境下で保健医療技術学部看護学科も教育と地域に根差した看護研究を行っており、今後、その研究成果を地域ボランティアサークルとの連携や「まちの保健室」の設置を構想している。

（１３）施設、設備等の整備計画

①校地、運動場の整備計画

佛教大学の校地は、紫野校地、二条校地、岩倉校地、園部校地、広沢校地の５つの校地を有し、附置研究所敷地を含め、総面積は 264,115 ㎡（基準外 5,231 ㎡を含む）である。このうち、校舎等の敷地として 51,583 ㎡、運動場敷地として 212,532 ㎡を有している。

今回、設置する看護学部看護学科の授業実施にあたって、校舎敷地は二条校地を使用することになる。二条校地は現在 7,475 ㎡を有している。

二条校地は、講義室・演習室、実験・実習室（体育等の授業を行える実習系施設を含む）、研究室、図書室、食堂等の厚生補導施設を設け、学生の学修スペースや休息の場を確保しながら機能的に配している。また、二条校地よりスクールバスで 20 分ほどの場所に広沢グランド（広沢校地 17,067 ㎡）を有している。広沢校地の他に、主として課外活動の運動場敷地として、中心校地の紫野校地からスクールバスで、約 25 分のところに岩倉校地（53,424 ㎡）を有し、400m トラック・多目的グラウンド（野球場・サッカー場・ラグビー場兼用）・テニスコート（7 面）を整備しており、約 60 分のところに園部校地（145,841 ㎡）を有し、野球場、陸上競技場兼サッカー場、ラグビー場、テニスコート（8 面）を整備している。学生の使用に際しては、定期的なスクールバスの運行により、校地間の移動に問題は生じていない。

今回、看護学部看護学科の設置にあたっては、既設学部との校地を共用するものであるが、大学設置基準には充分適合している。

②校舎等施設の整備計画

佛教大学の校舎等については、総床面積として 94,525.70 ㎡を有している。

このうち、大学設置基準に示された講義室等の基準内施設としては、講義室棟、研究室棟を中心に現在、講義室・演習室 171 室、実験・実習室（情報処理学習室、語学学習施設を含む）94 室を有し、十分な教室研究施設を整備している。

ゼミ等少人数授業のための演習室をはじめ、講義室については、さまざまな受講者数に対応した規模別の小教室・中教室・大教室を配置し、かつ、すべての教室に PC 等視聴覚教材に対応した教育機器を整備し、いずれの教室からもネットワーク接続できるよう無線アンテナを配備し、学生所有の BYOD 端末の接続を可能にしている。

また、看護学における各領域に応じた実習室を配しており、その他、学生が他者と協働しながら思考力や判断力を養うことを目的とするアクティブラーニング教育に適した学修環境を整備できるよう計画している。

教員の研究室は、１室約 27 ㎡を基準とし、講師以上の基幹教員全員に各 1 室を基本的に配備し、学内 LAN に接続できる無線アンテナを各研究室に配備して BYOD 化を推進するネットワークを構築している。

また、教室や研究室以外においても学生支援のための無線アンテナを配備し、学生の休息の場や自由にパソコンを使用できるスペースを設ける等、学生の教育・研究環境の向上に配慮した施設・設備の整備を適宜行っている。

なお、今回設置する看護学部看護学科の授業を実施する二条校地の整備については、開設前年度と開設年度に 1 号館の改修工事を行い、講義室・演習室 57 室、実験・実習室 29 室、

看護学部、社会福祉学部および保健医療技術学部の教員のための教員研究室計 88 室を有し、大学設置基準に定められた図書室、医務室、事務室、会議室、学生自習室・控室についても整備される。また、教室稼働率については、最大 44%を想定しており、理学療法学科、作業療法学科と共有したとしても十分な教室が確保されている。

（資料 28：教室配当一覧（時間割））

③図書等の資料及び図書館の整備計画

佛教大学附属図書館は、建学の理念に基づき、学生の学修活動や教員の教育・研究活動をサポートし、地域社会に貢献するために、必要な図書資料の収集と迅速な整理に努め、閲覧に供することを目的としている。館内設備・備品等の点検・整備を行い、よりよい利用環境を提供することに努めている。

令和６（2024）年５月１日現在の蔵書数は、一般教育図書 204,010 冊（うち外国書 44,602 冊）、専門教育図書 924,341 冊（うち外国書 191,708 冊）、貴重書 2,317 冊（うち外国書 210 冊）の合計 1,130,668 冊となっている。

１）図書資料の収書方針

図書館においては、アメリカ図書館協会図書館蔵書・整理作業部会編『ALA 蔵書の管理と構成のためのガイドブック』所収の「蔵書方針書作成のガイド」にある「コンスペクタス方式のレベル表」を参考とし、『日本十進分類表（NDC）新訂 10 版』を基本においた「研究テーマ/NDC 分類別収書基準」を定め、図書資料の収集を行っている。

この収書基準では、学部学生の学修、修士課程学生の学修計画、図書館利用者の高度な自主研究のニーズを支援するレベルと、学位（博士）論文の執筆や独創的な研究を支援するレベルに比重がおかれ、学部学生の学修に必要な基本図書や、設置されている学部学科ならびに大学院各専攻の教育研究用図書資料の収集整備に対応している。

また、研究用図書資料としては、建学の理念と結びつく仏教学の領域、なかでも浄土宗関連の典籍をはじめとした仏書や、京都学、近世庶民史料、西洋史等といった研究領域ごとにテーマを設定して、重点的かつ体系的な蔵書構築を前提とした収書方針をとっている。

図書や学術雑誌の整備に関しては、近年の電子化の潮流を踏まえ、いわゆる「紙」の資料に加え、「電子」の資料についても積極的に整備を進めている状況にある。図書については、和書及び洋書のいずれにおいても、利用者の必要とする資料が確実に入手できるような EBA（Evidenced Based Acquisitions）や Mediated DDA（Mediated Demand Driven Acquisitions）と呼ばれるような仕組みを導入し、積極的に運用する段階にある。学術雑誌については、大学図書館コンソーシアム連合 JUSTICE の枠組みを利用して、必要な資料について価格上昇を抑える形で契約できるよう尽くしている。

また、国立情報学研究所が提供する CiNii Articles、CiNii Books、IRDB を用いてオープンソース型のコンテンツを積極的に利用者に提供しているほか、NII-REO で提供されている Oxford University Press 等の学術雑誌のバックファイル等を購入することで、利用者へのアクセス提供を行っている。一方で、本学の図書に関する書誌・所蔵データを NACSIS-CAT を通じて、他大学と共有しているほか、本学の機関リポジトリである BAKER のデータを IRDB に提供している。

なお、令和６（2024）年５月１日現在提供される電子コンテンツの提供タイトル数は、電子ブック 384,945 タイトル、電子ジャーナル 38,034 タイトル、データベース 24 タイトルである。今後も、学部学科に見合った電子コンテンツの選定に努め、利用者の利便性を図りつつ提供を行う予定である。

２）図書館の整備方針

紫野キャンパス図書館は、平成９（1997）年４月に竣工開館し、地上５階、地下２階、総延面積 10,451.91 ㎡、収蔵可能冊数 100 万冊、座席数 945 席の規模であり、地下１階の貴重書庫と地下 2 階を除いてはすべて開架方式を採用している。利用者への対応は１階の総合カウンターにおいて、館内案内・閲覧・貸出・返却・レファレンス・相互利用等の業務を集中して行っており、開館日数は日曜・祝日を含み 308 日で、通学・通信教育両課程の学生や教職員、一般の利用者の活用の便を図っている。特に全国に所在する通信教育課程の学生に対しては、送本貸出制度等を導入している（現在はコロナ禍を経て、通学課程学生にも拡大）ほか、身体に障害を持つ利用者のために、図書資料の音声代読システム、拡大読書機等を配置して、利用に供している。

１階は文庫・新書を中心とした学生用基本図書、書誌・目録等を排架している。地下１階から地上３階までは、内国書を収書基準である NDC 分類によって排架するとともに、各階の分野に応じた参考図書を配備しており、地上４階は中国書、洋書、年鑑、白書、統計類、研究誌や紀要等の学術雑誌類を排架している。

なお、地下１階の貴重書庫（完全閉架式）には和古書・漢籍・洋書・軸装資料・古文書・古地図等貴重な図書資料を収蔵しており、地下２階は閉架式書庫として研究誌、紀要を中心とする学術雑誌のバックナンバーと、中国書、洋書を排架して、大学院生、研究生、研究員、教職員（非常勤講師を含む）の利用を可能にしている。

現在二条キャンパス１号館７階に設置する図書室（座席数 91 席・図書 19,079 冊・雑誌 403 種類・視聴覚資料 358 本・蔵書検索・ポータルサイト端末・貸出式ノートパソコンを設置）は、保健医療技術学部理学療法学科、作業療法学科、看護学科といった保健衛生学系の学科を設置・運営するにあたり、学生の学修支援や教員の教育・研究活動の基盤として重要な役割を果たしている。特に、各学科においては国家資格の取得を前提とした専門的な学びが求められるため、基礎から応用まで体系的に学べるよう各学科の専門書を中心に蔵書整備を行っている。参考調査業務も二条図書室独自で対応しており、停滞のないサービスに努めている。

なお、二条キャンパス図書室は、令和８（2026）年４月看護学部看護学科設置に伴い、現在建設中の二条キャンパス２号館６階（2,250.70 ㎡）に移転する計画である。

二条キャンパス２号館の図書室の座席数は 198 席で、情報検索用端末として、蔵書検索・ポータルサイト端末、貸出式ノートパソコンを設置予定である。図書資料については地下 1 階書庫とあわせて、図書約 122,000 冊、雑誌 300 種類、新聞 16 紙が収蔵可能である。また、資格取得を希望する学生が多いことから、個人およびグループが集中して学習・研究に取り組むスペースを確保する予定である。

図書館システムについては、令和２（2020）年３月より、クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社「Alma」を利用している。本システムは図書館における紙の図書の

図書受入・目録作成といったバックヤード作業から、電子ブック・電子ジャーナルの包括的管理ならびに貸出返却・図書館間の相互貸借といった図書館利用者に直接かかわるサービス業務までを網羅するクラウドサービスであり、本学図書館では本サービスを利用して、蔵書データベースの構築を行い、蔵書検索を提供している。

学術情報へのアクセスに関しては、日本で最初に導入したウェブスケールディスカバリーサービス「お気軽検索」を核とした図書館ウェブサイト BIRD を運営することで、利用者が迷いなく、自らの必要とする情報に行き着ける体制を整えている。学術情報へのアクセスに関する対応については、BIRD を経由することで、佛教大学附属図書館で提供し得るほぼ全ての学術情報に一元的にアクセスできる環境を実現している。

また、遠隔地に居住する通信教育課程の学生が、図書館の蔵書を気軽に利用できるよう、郵送での「送本貸出・返却」を行える利用環境を整えている。現在はコロナ禍を経て、通学課程学生にも拡大している。その他、「電子」の資料が自宅から利用できるリモートアクセスサービスと、それに付随するさまざまなウェブサービスを整えており、非来館型図書館としての環境整備も積極的に進めている。なお、リモートアクセスサービスについては、通信教育課程のみならず、全大学構成員が利用可能である。

その他、国内諸機関との協力体制については、京都府内公立図書館・読書施設等との間において、平成 29（2017）年９月より、京都府立図書館が運営する京都府立図書館総合目録ネットワーク（K-Libnet）を利用した連携を試行し、平成 30（2018）年４月より正式に開始した。これは、府立図書館が運行する連絡協力車を図書館間の資料運搬に利用する等、調査研究を目的とした資料の相互貸借に係る利便性の向上を図ることを目的としたものである。元来、図書館間には相互利用を目的とした貸借制度があるが、公共図書館との連携という取り組みははじめてのこととなる。大学図書館には所蔵の少ない一般書や地域に根ざした資料等容易に取寄せることができるという特徴と、府立図書館が運行する連絡協力車を利用することにより、運搬に関わる費用が発生せず、通常利用者負担となる送料が不要であることの特徴を有する等利用者へのメリットも大きい。

今後「Alma」を中心としたシステム構成を継続し、かかるシステムが有する機能を十分に利用できる環境を整えること、その上で「佛教大学図書館ポータルサイト」等、周辺部のシステムを拡充していくことを前提に整備を進める。

大学図書館として、今後も学術情報等の拡充に努め、同時に、環境としての施設の整備を進めるものである。

（１４）管理運営

「学則」に基づき「佛教大学規程」において、学長は、大学を代表し、教学および管理運営のすべてを統轄し、副学長は、学長を助け、命を受けて教学および管理運営に関する学長の職務を遂行する。また、学部長・大学院研究科長は、教学に関する事項を統括して学部・大学院研究科の運営に対して責任を負うとともに、学部・研究科における教育・研究活動を統括することを定めている。

教学面における管理運営体制については、「学則」、「教授会規程」および「教育課程委員会規程」において規定している。

教授会は、当該学部に所属する専任の教授，准教授および講師をもって構成され、主に、以下の事項について審議を行う。

(1) 学生の入学，卒業および課程の修了に関する事項
(2) 学位の授与に関する事項
(3) 教育課程に関する事項
(4) 学生の退学，休学，復学，留学，転学，転部・転科および転籍等の学籍異動に関する事項
(5) 学生の試験および成績の判定に関する事項
(6) 学生の生活指導および援助に関する事項
(7) 学生の賞罰に関する事項
(8) 専任教員の人事に関する事項
(9) 学部諸規程の改廃に関する事項
(10) 大学の諸規程において，学部教授会の議を経ることを必要と定められた事項
(11) 学部の自己点検・評価に関する事項
(12) その他，学部の教育，研究および運営に関する重要な事項

教育課程委員会は、当該学部の基幹教員をもって構成され、以下の事項について審議を行い学部教授会へ報告する。

(1) 学部の教育課程の編成に関する事項
(2) 学部の教育課程に関する自己点検・評価およびその結果に基づく改善・向上に関する事項
(3) その他，学部の教育課程に関する必要な事項

本学は、これらの規程のもと、適切に運営されており、教学に関わる事項はすべて教授会で厳正に審議されており、令和８（2026）年度からの本学での基幹教員制度導入後は、教授会および教育課程委員会で厳正に審議されるよう準備を進めている。教員人事については、教員選考委員会の議を経て、教授会で採用の可否、昇格の適否を審議し、出席者の３分の２以上の賛成をもって決定している。また、各学部には学部運営を担う学部運営会議が設けられているほか、教学にかかる事項を円滑に処理するために、教授会の補助的な審議機関として全学的な各種委員会が設置されている。各種委員会で審議された案件が、学部運営会議で検討され、学部教授会へと上程されている。全学的な各種委員会には、各学部から各担当主任や学部選出委員が参加しており、教学事項の全学的な運営と学部間の調整機能を果たしている。この全学的な各種委員会制度と学部教授会が一体的に運営されることによって、教学事項における全学的な意思形成と各学部の自治的運営が担保されている。また、これら各種学内委員会委員の選出に当たっては、特定の教員に役割が集中しないように、多くの教員が分担するよう図っている。

（資料 29：佛教大学規程）

（１５）自己点検・評価

本学では、佛教大学学則第１条および佛教大学大学院学則第１条の目的を達成するために、本学の教育研究、組織運営等について質の保証を行うとともに、改善・向上に取り組むことを佛教大学における内部質保証と位置づけ、その一環として自己点検・評価を実施している。この取り組みを推進するために、以下のとおり内部質保証の方針を定めている。

①基本的な考え方と内部質保証の実施体制

１）建学の理念・目的、教育研究上の目的の実現に向けて、大学レベル、全学共通レベル、各学部・研究科・部局等の組織単位レベル、各教職員の個人レベルで、教育研究、組織運営について質の保証を行うとともに、改善・向上に取り組む。

２）教育研究、組織運営について内部質保証を推進するために、教育研究活動、組織運営等の適切性・有効性を検証し、自己点検・評価を行うとともに、機関別認証評価および外部評価（プログラム別評価、第三者評価等）を定期的に実施する。

３）大学全体の内部質保証に責任を負う組織として、学長を長とする質保証推進委員会を設ける。

４）質保証推進委員会は、自己点検評価委員会の自己点検・評価結果、機関別認証評価および外部評価（プログラム別評価、第三者評価等）結果に基づき、関係する委員会等を通じて、各組織に対して改善・向上に向けた取り組みを指示する。

５）実施した自己点検・評価結果、機関別認証評価および外部評価結果を含む内部質保証の取り組みについて、学内外に公表する。

②質保証と点検・評価

教育研究、組織運営の質保証を行うために、以下に掲げる12の領域について、毎年度自己点検（モニタリング）を行う。また、これらの結果に基づき、定期的に自己評価（レビュー）を行うとともに、その結果を活用して機関別認証評価および外部評価を実施する。

１）教育課程・学習成果
２）教職課程
３）その他諸資格課程等
４）学生支援
５）学生の受け入れ
６）教員組織
７）研究活動
８）教育研究組織
９）社会連携・社会貢献
10）教育研究等環境
11）大学運営・財務
12）内部質保証システム

③点検・評価の手続き

１）自己点検・評価

・毎年度の自己点検（モニタリング）および定期的な自己評価（レビュー）を実施し、その結果を取りまとめ質保証推進委員会に提出する組織として自己点検評価委員会を設ける。

・自己点検評価委員会は、各レベルにおける自己点検・評価の実施を当該の組織に指示する。

・指示を受けた当該の組織は、自己点検評価委員会の指定する点検・評価項目に応じて、毎年度の自己点検（モニタリング）および定期的な自己評価（レビュー）を実施し、その結果を自己点検評価委員会に提出する。

２）機関別認証評価および各種外部評価

・自己点検評価委員会の定期的な自己点検・評価および各種外部評価の結果を基に、質保証推進委員会が大学全体でのメタ評価を行い、機関別認証評価を実施する。

・諸資格等の個別の領域について、自己点検評価委員会の定期的な自己点検・評価を踏まえ、当該領域の主体となる組織が中心となりメタ評価を行い、質保証推進委員会の承認を経て、各種認証評価機関における外部評価（プログラム別評価）を実施する。

・質保証推進委員会が定める特定領域について、自己点検評価委員会の定期的な自己点検・評価を踏まえ、質保証推進委員会が当該領域のメタ評価を行い、第三者による外部評価を実施する。

以上のとおり、本学における内部質保証の方針を定めているが、自己点検・評価における実施方法や評価項目については、内部質保証の方針の「２．質保証と点検・評価」で示しているとおりである。また、実施体制と結果の活用・方法については、方針の「１．基本的な考え方と内部質保証の実施体制」で示しているとおりである。

（資料 30：自己点検評価シート）

具体的には、大学レベルとして、各学部・研究科等の組織単位レベルおよび機構や各種委員会等の全学共通レベルで実施された自己点検・評価における結果を活用し、質保証推進委員会において大学全体としての課題等を明確にしたうえで、学内の関連組織等に対して、改善・向上に向けた取り組みを指示し、その進捗確認等を行って、PDCA サイクルを稼働させている。また、自己点検・評価を実施する際には、年度当初に各組織が当該年度の活動目標を設定し、その達成状況を見ることで自己点検・評価を行うことを基本としている。さらに、教職員個人レベルでの自己点検･評価に関して､教員の場合には授業に関する学生からの｢授業アンケート｣をセメスターごとに実施し､その結果をフィードバックすることで教育活動の検証と改善に活用している。また、職員の場合には事務職員面接規程に基づく面接を行い、個人の目標設定ならびにその達成状況に関する進捗状況や課題点等を把握し､業務改善や能力開発等に役立てている。

機関別の認証評価に関して、本学は大学基準協会で受審しており、平成 18（2006）年度に第１期、平成 24（2012）年度に第２期、そして令和元（2019）年度に第３期の認証評価を受審し、いずれにおいても「大学基準に適合している」との認定を受けている。また、機関別の認証評価とは別に、特定の領域における分野別の評価を受審している。具体的には、一般財団法人地域人材開発機構によるグローカルプロジェクトマネージャー（GPM）資格プログラムに関する社会的認証を令和３（2021）年度に、一般財団法人リハビリテーション教育評価機構による理学療法士作業療法士の教育評価を令和２（2020）年度に、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による第一種指定大学院の認証に関する継続手続きを令和元（2019）年度に、それに伴う中間評価を令和４（2022）年度に、それぞれ受審し適合の認証等を受けている。

その他、教育職員免許法施行規則第 22 条の６に基づく教員の資質向上の取り組みとして、教職課程に関する自己点検・評価、理学療法士・作業療法士養成施設指導ガイドラインに基づく自己点検・評価を実施し、その結果をホームページで公表している。

また、内部質保証の方針や、自己点検・評価報告書、機関別認証評価等の結果等についても、ホームページ等で広く社会に公表している。

（資料 31：事務職員面接規程）

（１６）情報の公表

本学は、教育研究活動をはじめ、地域連携・社会貢献・国際交流等に関する多様な取り組みとその成果、さらに財務状況や管理運営の状況について、『佛教大学総合案内』をはじめとする各種刊行物や大学ホームページ等を通じて積極的に情報を公開し、高等教育機関としての社会的説明責任を果たしている。また、迅速かつ広範な情報発信を実現する手段として、公式 SNS（X、Facebook、Instagram 等）も活用し、社会との双方向的なコミュニケーションの構築にも努めている。

これらの広報活動を通じて、学内外のステークホルダーに対して本学の理念や方針、具体的な取り組みを明確に示すことにより、社会的信頼のさらなる向上を図っている。

なお、学校教育法第 113 条および学校教育法施行規則第 172 条の２に基づく教育研究活動等に関する情報については、大学ホームページ上において情報公開ページに集約し、公表している。公表にあたっては、情報の網羅性および閲覧の利便性に十分配慮し、誰もが容易にアクセスできる環境を整備している。

佛教大学　情報公開のページ

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/data/

（ホーム>大学案内>情報公開）

公式 SNS（ソーシャルメディアアカウント）

・Facebook　（https://www.facebook.com/bukkyo.univ）
・X　（https://x.com/bukkyo_univ）
・Instagram　（https://www.instagram.com/bukkyouniversity/）
・YouTube　（https://www.youtube.com/user/BukkyoUniversity）

【学部】

ア　大学の教育研究上の目的及び３つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること

・学部・学科、研究科・専攻（教育研究上の目的、3 ポリシー含む）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy

（ホーム>大学案内>教育研究上の目的と 3 ポリシー）

イ　教育研究上の基本組織に関すること

・学部・学科、研究科・専攻（教育研究上の目的、3 ポリシー含む）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy

（ホーム>大学案内>教育研究上の目的と 3 ポリシー）

・教員組織、教員が有する学位及び業績（教員一覧）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/faculty/teacher/

（ホーム>学部・大学院>教員紹介）

ウ　教育研究実施組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

・教育・研究組織図

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/outline/education/

（ホーム>大学案内>大学概要>教育・研究組織図）

・事務組織図

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/outline/affairs/

（ホーム>大学案内>大学概要>事務組織図）

・役職者/教員・職員数（階層別教員数含む）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_kyouin_syokuin.pdf

（ホーム>大学案内>大学概要>教員・職員数（階層別教員数含む））

・教員紹介（学位・研究課題等）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/faculty/teacher/

（ホーム>大学案内>情報公開>教員紹介（学位・研究課題等））

・研究者データベース（学位・業績等）

https://b-netrx.bukkyo-u.ac.jp/gyoseki/japanese/index.html

（ホーム>大学案内>情報公開>研究者データベース）

・専任教員年齢構成

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/full-time_teacher_age.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>専任教員年齢構成）

エ　入学者に関する受入れ方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

・学力検査の内容および試験問題

→現在、著作権処理を行っており、掲載は令和 7 年 7 月頃を予定している。

掲載予定 URL：（https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/data/）

（ホーム>大学案内>情報公開>学力検査の内容および試験問題）

・合否判定の方法及び基準

https://www.bukkyo-u.ac.jp/find/exam/admission/#p01

（佛教大学入試情報サイト>トップ>入試情報・学費・奨学金>入試方式）

・出願および受験に関する注意事項（配慮を必要とする方）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_exam_precautions.pdf

（佛教大学入試情報サイト>トップ>入試情報・学費・奨学金>入試方式）

・配慮決定通知（受験上の配慮内容）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_consideration.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>配慮決定通知（受験上の配慮内容））

・入学志願者の進学先の選択に資する情報

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_univ2024_exam-admission.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>入学志願者の進学先の選択に資する情報）

・入学者に関する受入れ方針（教育研究上の目的と３ポリシー/大学・各学部学科・各研究科専攻）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy

（ホーム>大学案内>教育研究上の目的と３ポリシー）

・入学者の数（入試・入学状況）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_univ2024_exam-admission.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>入学者の数（入試・入学状況））

・在籍学生数

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_zaisekigakusei.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>在籍学生数）

・退学者数・除籍者数・中退率

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/dropouts.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>退学者数・除籍者数・中退率）

・留年者数

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/repeat_year.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>留年者数）

・卒業者・学位授与者・修了者

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_sotugyo_gakuisyuryo.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>卒業者・学位授与者・修了者）

・進路決定状況

https://www.bukkyo-u.ac.jp/career/data/decision.html

（ホーム>就職・キャリア・就職・進路状況データ>進路決定状況）

オ　授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

・シラバス

https://b-netrx.bukkyo-u.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006

（ホーム>学生生活>授業・履修について>SYLLABUS（講義概要））

・授業の方法・内容・年間授業計画（授業・履修について）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/course/

（ホーム>学生生活>授業・履修について）

・履修要項

https://www.bukkyo-u.ac.jp/students/studyguide/

（ホーム>在校生の方>履修要項）

・学年暦

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/outline/calendar/

（ホーム>大学案内>大学概要>学年歴）

・在学生カレンダー

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/support/calendar/

（ホーム>学生生活サポート>学生生活>在学生カレンダー）

カ　学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

・学修成果に係る評価、卒業・修了判定の基準（授業・履修について）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/course/

（ホーム>学生生活>授業・履修について）

・履修要項

https://www.bukkyo-u.ac.jp/students/studyguide/

（ホーム>在校生の方>履修要項）

・学位規程

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/support/knowledge/reiki_int/reiki_honbun/u021RG00000006.html

（ホーム>大学案内>情報公開>学位規程）

キ　校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

・土地・建物面積

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_tochi_tatemono.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>土地・建物面積）

・キャンパス

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/access/

（ホーム>大学案内>アクセス・キャンパス一覧）

・附置機関

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/facilities/

（ホーム>大学案内>附置機関）

・蔵書冊数（図書館）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_tosyokan.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>蔵書冊数）

・蔵書冊数（宗教文化ミュージアム）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_syukyobunkam.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>蔵書冊数）

・校舎等の耐震化率

https://efbes.ac.jp/about/summary/

（学校法人佛教教育学園ホームページ>TOP>学園の紹介>法人概要）

ク　授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

・学費、入学検定料、その他徴収する費用（佛教大学　学費・所費一覧表）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/scholarship/enumeration/

（ホーム>学生生活>学費・奨学金>学費・諸費一覧表）

・財務に関する情報

学校法人佛教教育学園財務状況

https://efbes.ac.jp/about/summary/

（学校法人佛教教育学園ホームページ>TOP>学園の紹介>法人概要）

佛教大学・佛教大学附属こども園財務状況

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_zaimuzyokyo.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>佛教大学・佛教大学附属こども園財務状況）

ケ　大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

・学生生活サポート

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/support/

（ホーム>学生生活>学生生活サポート）

・教員免許状・資格取得に向けた支援体制

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/certificate/

（ホーム>学生生活>教員免許状・資格取得に向けた支援体制）

・健康管理センター

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/support/sodan/health/

（ホーム>学生生活>学生生活サポート>なんでも相談窓口>健康管理センター）

・学生相談センター

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/support/sodan/student/

（ホーム>学生生活>学生生活サポート>なんでも相談窓口>学生相談センター）

・障害学生支援

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/support/disability/

（ホーム>学生生活>学生生活サポート>障害学生支援）

・人権教育センター

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/support/sodan/humanrights/

（ホーム>学生生活>学生生活サポート>なんでも相談窓口>人権教育センター）

・国際交流センター

https://www.bukkyo-u.ac.jp/international/

（ホーム>国際交流・留学）

・宗教教育センター

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/outline/sentiment/event/

（ホーム>大学案内>大学概要>宗教情操行事>宗教教育センター行事紹介）

・社会連携センター

https://www.bukkyo-u.ac.jp/institution/community/

（ホーム>研究・社会連携>社会連携センターの取り組み）

・宗門後継者養成道場

https://www.bukkyo-u.ac.jp/cultivation/dojo/

（ホーム>浄土宗教師養成（宗門後継者道場）>宗門後継者養成道場について）

・困ったとき、悩んでいるときの相談

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/uploads/support_knowledge_guide09.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>困ったとき、悩んでいるときの相談）

コ　その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報）

・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報（学部）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/study_information.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報（学部））

・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報（大学院）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/study_information_graduate-school.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報（大学院））

コ　その他（学則等各種規程）

・学則、規程集

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/support/knowledge/reiki_int/reiki_menu.html

（ホーム>大学案内>情報公開>学則・規程集）

コ　その他（設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書）

・設置認可申請書、届出書等

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/data/notification/

（ホーム>大学案内>情報公開>設置認可申請書、届出書等）

・学部学科設置等に係る履行状況報告書

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/data/report/

（ホーム>大学案内>情報公開>学部学科設置に係る履行状況報告書）

コ　その他（自己点検・評価報告書，　認証評価の結果等）

・自己点検・評価への取り組み

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/activity/approach/

（ホーム>大学案内>大学の取り組み>自己点検・評価への取り組み）

・理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに基づく自己評価書

理学療法学科

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_rigakuryoho-review.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに基づく自己評価書（理学療法学科））

作業療法学科

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_sagyoryoho-review.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに基づく自己評価書（作業療法学科））

・教職課程自己点検・結果報告書

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_report-teacher13.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>職課程自己点検・結果報告書）

コ　その他（総合案内）

・総合案内 2024

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_univ2024.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>総合案内 2024）

・総合案内 2023

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_univ2023.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>総合案内 2023）

・総合案内 2022

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_univ2022.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>総合案内 2022）

コ　その他（国際交流・社会連携に関する情報）

・海外の協定相手校

https://www.bukkyo-u.ac.jp/international/academic-exchange/

（ホーム>国際交流・留学>国際学術交流）

・産官学連携

https://www.bukkyo-u.ac.jp/institution/business/iga/

（ホーム>研究・社会連携>連携事業>産学官公連携）

コ　その他

・寄附行為、役員等名簿、役員報酬基準

https://www.efbes.ac.jp/summary/

（学校法人佛教教育学園ホームページ>TOP>学園の紹介>法人概要）

・教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に規定する情報

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/data/report-teacher/

（ホーム>大学案内>情報公開>教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に規定する情報）

・大学等における修学の支援に関する法律の確認に係る申請書

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/data/law-application/

（ホーム>大学案内>情報公開>大学等における修学の支援に関する法律の確認に係る申請書）

・数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

https://www.bukkyo-u.ac.jp/faculty/feature/mdash/

（ホーム>学部・大学院>学びの特色>数理・データサイエンス・AI 教育プログラム）

【大学院】

○研究科、専攻又は学生の履修上の区分ごとの、当該大学院に入学した者のうち標準修業年限以内で修了した者の占める割合その他学位授与の状況に関すること

・研究科、専攻又は学生の履修上の区分ごとの、当該大学院に入学した者のうち標準修業年限以内で修了した者の占める割合

【通学課程】標準修業年限以内で修了した者の割合

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_tsugaku-ratio.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>研究科、専攻又は学生の履修上の区分ごとの、当該大学院に入学した者のうち標準修業年限以内で修了した者の占める割合）

【通信教育課程】標準修業年限以内で修了した者の割合

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_tsushin-ratio.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>研究科、専攻又は学生の履修上の区分ごとの、当該大学院に入学した者のうち標準修業年限以内で修了した者の占める割合）

・標準修業年限以内で修了せずに退学した者の割合

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_leave-ratio.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>標準修業年限以内で修了せずに退学した者の割合）

・学位取得のために要した年数ごとの修了者数

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_degree-acquisition.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>学位取得のために要した年数ごとの修了者数）

・修了者を分母とした進路ごとの修了者の割合

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_completed-course-ratio.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開>修了者を分母とした進路ごとの修了者の割合）

・学位授与の状況―授与者数

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/uploads/data_bestower.pdf

（ホーム>大学案内>情報公開学位授与の状況―授与者数>）

・学位授与の状況―卒業認定・学位授与の方針

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/

（ホーム>大学案内>情報公開>学位授与の状況―卒業認定・学位授与の方針）

・学位授与の状況―授業および研究指導の方法・内容・計画

https://b-netrx.bukkyo-u.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006

（ホーム>大学案内>情報公開>学位授与の状況―授業および研究指導の方法・内容・計画）

○学位論文に係る評価に当たっての基準に関すること

・履修要項（大学院）

https://www.bukkyo-u.ac.jp/students/studyguide/

（ホーム>在校生の方>履修要項）

・佛教大学学位規程

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/support/knowledge/reiki_int/reiki_honbun/u021RG00000006.html

（ホーム>大学案内>情報公開>佛教大学学位規程）

・佛教大学学位規程細則

https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/support/knowledge/reiki_int/reiki_honbun/u021RG00000007.html

（ホーム>大学案内>情報公開>佛教大学学位規程細則）

（１７）教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、授業方法・内容の改善ならびに教員の教育能力・資質の向上を図り、教育の質を高める組織的な取り組みや活動等を推進することを目的に、FD 活動に積極的に取り組んでいる。また、大学教育の質を更に高めるため、学生の学修状況やニーズを正確に捉え、より良い教育の開発を目指している。

FD 活動を実施する組織として、専任職員を配した事務組織である教育推進課を配置している。教育推進課による取り組みは、①英語基礎力調査、②基礎学力テスト、③卒業時アンケート、④企業調査、⑤授業アンケート、⑥新入生歓迎オリエンテーション、⑦FD 研修会の開催、⑧学外研修会への参加支援、⑨刊行物の発行とホームページへの掲出、⑩e-Learning の推進等である。

①英語基礎力調査については、教学面における実態調査として新１年生と新２年生を対象に実施し、②基礎学力テストについては、１年生～３年生を対象に実施している。英語基礎力調査は、調査結果を習熟度別のクラス編成に基づく英語授業の実施に活用し、基礎学力テストは、「協調的に問題を解決する力」を思考力、姿勢・態度、経験の観点で把握し、入学時からの伸長や推移を確認している。また、思考力上昇の傾向を学科ごとに把握することによって、各学科の学びに不足している学習への取り組み等を検証している。

③卒業時アンケートについては、大学生活の学修を振り返ることで、学修成果の把握や身についた力を確認し、卒業後の進路先で役立ててもらうことを目的として卒業時に実施している。④企業調査は、卒業生の就職先への企業調査を通じて、人材育成の達成度の検証と本学における課題を明らかにし、学部・学科へフィードバックを行うことにより、教育の質向上を目指している。

②基礎学力テスト、③卒業時アンケート、④企業調査は、「学修実態調査」として、「在学中」と「卒業後」の２つの側面から多角的に調査、分析することで、客観的に教育成果と課題を検証し、学修成果の可視化とこれからの本学における必要な取り組みを検討している。

⑤授業アンケートについては、全科目を対象に、学期末に学生による授業アンケートを実施し、学生からの意見・要望を把握し、授業の工夫や改善に役立てるとともに、その改善がどの

ような効果をもたらしたか等の分析を行い、分析結果に基づいた授業方法の改善やシラバスへの反映を行っている。

⑥新入生歓迎オリエンテーションについては、新入生の多様化により、初年次から学修への取り組みがうまく進まない学生が増える中、学生同士や教員との交流により、学修意欲を促進させる貴重な場となっている。参加者アンケートや実施報告書からも、友達づくりや孤立学生の防止、教員との交流等、大学教育への接続に寄与する取り組みとなっている。

⑦FD 研修会の開催、⑧学外研修会への参加支援、⑨刊行物の発行とホームページへの掲出は、全学的な FD 活動の啓発と意識喚起ならびに、本学の取り組みを学内外へ報告、広報することを目的として実施している。

⑦FD 研修会の開催については、教授法の開発や授業改善といったミクロレベルの FD から、カリキュラムの体系化やディプロマ・ポリシー達成へ向けた課題解決といったミドルレベルの FD まで、幅広く取り組んでいる。また、学部ごとの学びの質を向上させる取り組みを検討するきっかけとして、学部 FD 研究会を開催している。 さらに、その成果を、各種報告書や学内での研修会等さまざまな機会を設け、還元できるよう努めている。

⑧学外研修会への参加支援については、FD に関する認識を深め、教育改善につなげることを目的として、専任教員を対象に国内における FD 関連の研修会等の案内、参加費用の支援を行っている。また、参加後は、参加報告書の提出を必須としており、FD 関連機関誌、ホームページ等へ掲載している。

⑩e-Learning の推進については、Google Classroom によって、遠隔授業（オンデマンド型）の動画コンテンツ、小テスト、リポート課題等、シラバスに沿った授業が展開されている。「Google Classroom」を使用した遠隔授業（オンデマンド型）では、学生から質問を受け付ける「質問コーナー」を科目ごとに設けることによって、学生が教員に質問する機会を確保し、遠隔授業における学生と教員の双方向性を担保している。さらに、対面授業の補完資料や動画、事前・事後学修課題をアップロードする等、反転授業にも活用されている。

なお、これらの取り組みについて教育推進機構会議や FD 研修会、学内での報告会等を通じて教育活動の検証を行い、学部・学科から検証結果をフィードバックしてもらい、より一層有効な取り組みを目指している。

また、事務職員における研修においては、本学の建学の精神に基づき、教育と訓練によって必要な知識と技能を修得させ、職員の能力・資質の向上と自己啓発を促し、本学の教育研究活動等の適切且つ効果的な運営および業務の推進を図る人材を養成することを目的としている。

研修は以下の区分に基づいて実施しており、大学研修においては、年 3 回の必須研修に加え、勤務年数および職能に応じて年 1 回から 6 回の研修を実施している。また、管理職者については、年 1 回の役職研修の受講を義務付けている。

・大学研修

大学職員として職務を遂行するにあたり、各職能および役職位に必要な知識・技能を習得し、職務遂行能力の向上および大学の管理・運営の向上を目指すことを目的とし、大学が有機的に計画する研修

・部署研修

日常業務に密着した実践的な知識・技能を習得し、職務遂行能力の向上を目指すことを目的とし、各部署が有機的に計画する研修

・自己啓発研修

職員が自発的に職務遂行上必要な知識・技能等を習得することを目的とし、個人が有機的に計画する研修

（資料 32:事務職員研修規程）

（１８）社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

①教育課程内の取り組みについて

教育課程内では、各学部の専門科目を中心として、社会と主体的に関わっていくための教養を養う「共通教養科目」において、「仏教・自校教育科目群」「グローバル科目群」「データサイエンス科目群」「初年次教育科目群」「キャリア科目群」「プロジェクト科目群」「自己形成科目群」を設けている。

「仏教・自校教育科目群」では、建学の精神、および建学の精神に基づく本学の教育理念や人材養成の目的、教育方針等の理解を通じて、基礎的人間力の養成を目指し、「グローバル科目群」では、社会人基礎力の構成要素の一つである基礎語学力の向上を目指すとともに、グローバルコンピテンシーの涵養を目指す科目を設けている。

また、「初年次教育科目群」では、「スタディ・スキルズ」（２単位）、「キャリア・スキルズ１」「キャリア・スキルズ２」（各１単位）を必修科目とし、「スタディ・スキルズ」では、大学での学び方を理解するとともに、図書館や ICT 機器を使った学習資源の利用方法、社会人基礎力に通じる読み・書き・思考の基礎的能力・資質の涵養を図っている。

「キャリア・スキルズ１」「キャリア・スキルズ２」では、１～２年次の早期から、学生一人ひとりの職業観を育成し、自らのキャリアを自ら決定できる力を養い、社会にスムーズに移行して貢献できる力を付けることを目指している。また、自己理解を深め、社会や自然を知り、自立した大人になるために必要な知識やスキルを理論的・実践的・体系的に身につけられるよう、講義や演習を通して理論と実践を融合しながら学んでいる。さらに、リフレクションによる学生の学修歴の振り返り、アセスメント結果に基づいた自己分析・理解による自己認識とキャリアパスに対する意識の涵養を図るとともに、傾聴・グループワーク・課題への取り組み方を初年次段階に涵養している。

「データサイエンス科目群」では、社会にあふれるデータを読み解き、あらゆる学問や産業分野における課題発見や課題解決および新たな知見を引き出すことを目指し、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（MDASH）」に基づいたカリキュラムを展開している。

「プロジェクト科目群」では、主体的・協働的に問題を発見し、その問題を解決するためのアプローチ方法を身につけることを目的として、PBL（Project Based Learning）型の授業運営を取り入れ、自発性・創造性・知識の応用力・コミュニケーションスキル等社会人基礎力の土台として必要とされる力を、他者との協働の中で総合的に学んでいる。

最後に「自己形成科目群」は、「文化と芸術を学ぶ」「地域と社会を学ぶ」「人間と自然を学ぶ」の３領域で構成し、学問知や社会的な知識を幅広く習得するとともに、知識の活用、探求のきっかけとなる科目を設けている。

（資料 33:進路就職状況）

②教育課程外の取り組みについて

進路就職課では、進路・就職に関する知識修得のための講座、講演、ガイダンスの開催や進路・就職先を紹介・斡旋する業務を行っている。また、進路・就職先が学生に求める知識や能力・技術を、学生が正課授業で修得することが困難な場合、正課外において職業能力開発プログラムを編成し、運営する業務を行っている。

特に、各学部の教育課程内のカリキュラムを考慮し、本学の特性である福祉・教育・保健医療・公務員等の進路を領域別に４年間で、学生自身が自ら職業選択し将来に向け修学できるコースを編成している。また、学部学科との連携のもと、１年生からの継続的な取り組みとしてキャリアガイダンスを実施し、低学年からの就業意識の向上に重点を置いた支援事業を推進している。

③適切な体制の整備について

佛教大学におけるキャリア教育は、大学全体で取り組む課題であり、すべての教職員がその内容を理解し、支援することが必要となる。学内組織としては、学生支援機構、教育推進機構を中心とし、「キャリア教育」に関して審議検討した内容を全学部教授会において審議ならびに報告したうえで学部学科と連携し、さらには全学的な取り組みに繋げている。

相談体制として、就職や進学において、学生が抱えている固有の背景を理解し、大学のキャリア教育だけでは対処できない問題について、きめ細かく対応できるよう、社会での豊富な実務経験と専門的知識をもったキャリアアドバイザーを配置している。

学生の相談項目は、自己概念の明確化、キャリア目標設定、就職能力の向上等、基本的なキャリア形成の問題から実際的な企業訪問、エントリーシート作成、筆記試験、面接試験の対応等の支援にまで及んでいる。また、キャリアアドバイスを通して、学生の家庭問題や交友関係の悩み、学修不適応等という「心の問題」にかかわることもあり、必要な場合、学生相談センターと連携し迅速な対応を行っている。加えて必要に応じで、外部の支援機関との連携も行っている。

このように学生にとって常に相談できるキャリアアドバイザー制度は、様々な専門分野に応じた相談に対応しており、適切に機能している。さらに令和２（2020）年度よりオンラインによる相談も開始し、学生にとってより活用しやすい環境を整備している。

なお、面談内容は、学内ポータルサイトの学生プロファイルとして記録し、キャリアアドバイザー間の情報共有はもちろんのこと、ゼミ担当教員や他部署との情報共有を図ることにより、大学全体で支援できる体制を構築し、個々の状況に応じたきめ細かな支援に繋げている。

設置の趣旨を記載した書類
資料目次

資料 1　カリキュラムマップ・・・

資料 33　進路就職状況・・・

【資料1】

カリキュラムマップ

区分	科目名	開始セメスター	DP1 豊かな人間性と倫理観を基盤に、看護職として人を思いやり共感できる	DP 2 看護学および隣接領域に関する知識と基礎的な看護実践能力を身につけている	DP 3 グローバルな視点をもち、地域社会やあらゆる環境下において生活する人々の健康に貢献できる力を身につけている	DP 4 看護の対象を理解し支援するための適切なコミュニケーション力を身につけている	DP 5 多職種連携における看護職の役割を理解し協働できる	DP 6 よりよい看護を追求するための研究的思考を身につけている	DP 7 社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心をもち、自己研鑽する力を備えている
学部基幹科目	医療概論	1	○	◎					
学科基礎科目	アカデミック・スキルズ	2	○						◎
	仏教看護	3	◎		△	○			
	基礎解剖学	1		◎					
	基礎生理学	1		◎					
	病理学概論	2		◎				○	△
	栄養学	2		◎					
	疾病論Ⅰ	2		◎					△
	疾病論Ⅱ	2		◎				○	△
	疾病論Ⅲ	3		◎					△
	疾病論Ⅳ	3		◎					△
	薬理学	3		◎				○	
	公衆衛生学	3		◎	△			○	
	社会福祉	2		◎	○				△
	保健医療福祉行政論	3		◎					○
	保健統計学	4		◎				○	
学科専攻科目	看護学概論	1	○	◎					
	看護実践基盤技術論	1	△	◎		○			
	フィジカルアセスメント技術	2		◎		○			
	生活行動援助技術論	2		◎		○			
	看護過程論	3		◎				○	
	診療援助技術論Ⅰ	3		◎		○			
	診療援助技術論Ⅱ	4		◎		○			
	基礎看護学実習Ⅰ	2	○			◎			
	基礎看護学実習Ⅱ	3	○	◎					
	コミュニティ実習	1通	△		○	◎			
	地域・在宅看護学概論	2		◎	○				
	地域・在宅看護方法論Ⅰ	3		○	◎		△		
	地域・在宅看護方法論Ⅱ	5		○	◎	△			
	地域・在宅看護学実習	6			◎		○		
	クリティカルケア看護学Ⅰ	4		◎				○	△
	クリティカルケア看護学Ⅱ	5		◎				○	△
	クリティカルケア看護学実習	6		◎			△	○	
	慢性看護学Ⅰ	4		◎					
	慢性看護学Ⅱ	5		◎					

カリキュラムマップ

区分	科目名	開始セメスター	DP1 豊かな人間性と倫理観を基盤に、看護職として人を思いやり共感できる	DP 2 看護学および隣接領域に関する知識と基礎的な看護実践能力を身につけている	DP 3 グローバルな視点をもち、地域社会やあらゆる環境下において生活する人々の健康に貢献できる力を身につけている	DP 4 看護の対象を理解し支援するための適切なコミュニケーション力を身につけている	DP 5 多職種連携における看護職の役割を理解し協働できる	DP 6 よりよい看護を追求するための研究的思考を身につけている	DP 7 社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心をもち、自己研鑽する力を備えている
専攻科目	慢性看護学実習	6		◎		○	△		
	老年看護学概論	3		◎					
	老年看護方法論Ⅰ	4		◎		○			
	老年看護方法論Ⅱ	5		◎					
	老年看護学実習	6		◎			○		
	小児看護学概論	3		○		◎			
	小児看護方法論Ⅰ	4		◎					
	小児看護方法論Ⅱ	5		◎		○			
	小児看護学実習	7		◎		○			
	母性看護学概論	3		○		◎			
	母性看護方法論Ⅰ	4		◎		○			
	母性看護方法論Ⅱ	5		◎		○			
	母性看護学実習	7		◎		○			
	精神看護学概論	3		○		◎			
	精神看護方法論Ⅰ	4		◎				○	
	精神看護方法論Ⅱ	5		◎		○			
	精神看護学実習	7		◎		○			
	公衆衛生看護学概論	4		◎				○	
	公衆衛生看護方法論Ⅰ	4		○		◎			
	公衆衛生看護方法論Ⅱ	5			◎				
	公衆衛生看護展開論Ⅰ	5			◎	○			
	公衆衛生看護展開論Ⅱ	5			◎	○			
	公衆衛生看護管理論Ⅰ	5			◎				△
	公衆衛生看護管理論Ⅱ	5			◎				△
	公衆衛生看護活動論	7			◎				○
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	7			◎	○			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	7			◎	○			
	国際看護学	3			◎				○
	災害看護学	5			◎				○
	エンドオブライフケア論	5	◎				○		
	ホリスティックケアアプローチ	5	◎	○					
	看護倫理学	7	◎						
	看護マネジメント	8					○		◎
	看護研究Ⅰ	7						◎	
	看護研究Ⅱ	8						◎	
	統合実践看護実習	4通					○	◎	

カリキュラムマップ

区分	科目名	開始セメスター	DP1 豊かな人間性と倫理観を基盤に、看護職として人を思いやり共感できる	DP 2 看護学および隣接領域に関する知識と基礎的な看護実践能力を身につけている	DP 3 グローバルな視点をもち、地域社会やあらゆる環境下において生活する人々の健康に貢献できる力を身につけている	DP 4 看護の対象を理解し支援するための適切なコミュニケーション力を身につけている	DP 5 多職種連携における看護職の役割を理解し協働できる	DP 6 よりよい看護を追求するための研究的思考を身につけている	DP 7 社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心をもち、自己研鑽する力を備えている
関連科目	生化学	1		◎					
	感染免疫学	2		◎					
	臨床心理学	3	○			◎			
	看護疫学	4			○			◎	
	看護教育学	8							◎
	クリティカルケア看護実践	8						◎	
	臨床推論	8		◎					

【資料2】

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）と授業科目の対比表

区分	科目名	開始セメスター	CP1 社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するために、仏教関連科目をはじめとした科目を配置する。	CP2 社会環境の中で存在する人間を包括的（全人的）に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を配置する。	CP3 多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目を配置する。	CP4 看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する。	CP5 より良い看護を探求し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目を配置する。
学部基幹科目	医療概論	1	◎				
学科基礎科目	アカデミック・スキルズ	2	◎				
	仏教看護	3	◎				
	基礎解剖学	1		◎			
	基礎生理学	1		◎			
	病理学概論	2		◎			
	栄養学	2		◎			
	疾病論Ⅰ	2		◎			
	疾病論Ⅱ	2		◎	○		
	疾病論Ⅲ	3		◎	○		
	疾病論Ⅳ	3		◎	○		
	薬理学	3		◎			
	公衆衛生学	3		◎			
	社会福祉	2		◎			
	保健医療福祉行政論	3		◎			
	保健統計学	4					◎
学科専攻科目	看護学概論	1		◎			
	看護実践基盤技術論	1		◎	○		
	フィジカルアセスメント技術	2		◎	○		
	生活行動援助技術論	2		◎	○		
	看護過程論	3		◎	○		
	診療援助技術論Ⅰ	3		○	◎		
	診療援助技術論Ⅱ	4		○	◎		
	基礎看護学実習Ⅰ	2				◎	
	基礎看護学実習Ⅱ	3				◎	
	コミュニティ実習	1通		◎		○	
	地域・在宅看護学概論	2		◎			
	地域・在宅看護方法論Ⅰ	3			◎		
	地域・在宅看護方法論Ⅱ	5			◎		
	地域・在宅看護学実習	6				◎	
	クリティカルケア看護学Ⅰ	4			◎		
	クリティカルケア看護学Ⅱ	5			◎		
	クリティカルケア看護学実習	6				◎	
	慢性看護学Ⅰ	4			◎		
	慢性看護学Ⅱ	5			◎		

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）と授業科目の対比表

区分	科目名	開始セメスター	CP1 社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するために、仏教関連科目をはじめとした科目を配置する。	CP2 社会環境の中で存在する人間を包括的（全人的）に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を配置する。	CP3 多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目を配置する。	CP4 看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する。	CP5 より良い看護を探求し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目を配置する。
学科専攻科目	慢性看護学実習	6				◎	
	老年看護学概論	3			◎		
	老年看護方法論Ⅰ	4			◎		
	老年看護方法論Ⅱ	5			◎		
	老年看護学実習	6				◎	
	小児看護学概論	3			◎		
	小児看護方法論Ⅰ	4			◎		
	小児看護方法論Ⅱ	5			◎		
	小児看護学実習	7				◎	
	母性看護学概論	3			◎		
	母性看護方法論Ⅰ	4			◎		
	母性看護方法論Ⅱ	5			◎		
	母性看護学実習	7				◎	
	精神看護学概論	3			◎		
	精神看護方法論Ⅰ	4			◎		
	精神看護方法論Ⅱ	5			◎		
	精神看護学実習	7				◎	
	公衆衛生看護学概論	4		◎			
	公衆衛生看護方法論Ⅰ	4			◎		
	公衆衛生看護方法論Ⅱ	5			◎		
	公衆衛生看護展開論Ⅰ	5			◎		
	公衆衛生看護展開論Ⅱ	5			◎		
	公衆衛生看護管理論Ⅰ	5			◎		
	公衆衛生看護管理論Ⅱ	5			◎		
	公衆衛生看護活動論	7			◎		
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	7				◎	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	7				◎	
	国際看護学	3			◎		
	災害看護学	5			◎		
	エンドオブライフケア論	5			◎		
	ホリスティックケアアプローチ	5		◎			
	看護倫理学	7	◎			○	
	看護マネジメント	8			◎		
	看護研究Ⅰ	7					◎
	看護研究Ⅱ	8					◎
	統合実践看護実習	4通				◎	○

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）と授業科目の対比表

区分	科目名	開始セメスター	CP1 社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するために、仏教関連科目をはじめとした科目を配置する。	CP2 社会環境の中で存在する人間を包括的（全人的）に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を配置する。	CP3 多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目を配置する。	CP4 看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する。	CP5 より良い看護を探求し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目を配置する。
関連科目	生化学	1	◎				
	感染免疫学	2	◎				
	臨床心理学	3		◎			
	看護疫学	4					◎
	看護教育学	8			◎		
	クリティカルケア看護実践	8			◎		○
	臨床推論	8			◎		

養成する人材像と3つのポリシーとの相関図

【資料3】

養成する人材像：
豊かな人間性と倫理観を基盤に看護職として人を思いやり共感できる人材を養成する。あわせて、看護学の学識と基礎的な看護実践能力、対象を理解し支援するためのコミュニケーション力、多職種と協働する力、自己研鑽する力、研究的思考やグローバルな視点を備え、地域社会や人々の健康に貢献できる人材を養成する。

卒業認定・学位授与の方針（DP）	教育課程編成・実施の方針（CP）
【仏教精神】 1）豊かな人間性と倫理観を基盤に、看護職として人を思いやり共感できる	①社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するために、仏教関連科目をはじめとした科目を配置する
【知識・理解×汎用的技能】 2）看護学および隣接領域に関する知識と基礎的な看護実践能力を身につけている	②社会環境の中で存在する人間を包括的(全人的)に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を配置する
	③多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目を配置する
【知識・理解×汎用的技能】 **3**）グローバルな視点をもち、地域社会やあらゆる環境下において地域で生活する人々の健康に貢献できる力を身につけている	②社会環境の中で存在する人間を包括的(全人的)に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を配置する ③多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目を配置する
	④看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する
【態度・志向性】 **4**）看護の対象を理解し支援するための適切なコミュニケーション力を身につけている	④看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する
【態度・志向性】 **5**）多職種連携における看護職の役割を理解し協働できる	④看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する
【態度・志向性】 **6**）よりよい看護を追求するための研究的思考を身につけている	⑤より良い看護を探求し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目を配置する
【学びと成長への内発的動機】 **7**）社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心をもち、自己研鑽する力を備えている	①社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するために、仏教関連科目をはじめとした科目を配置する ⑤より良い看護を探求し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目を配置する

教育課程編成・実施の方針（CP）	入学者受入れの方針（AP）
①社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するために、仏教関連科目をはじめとした科目を配置する	**＜知識・技能＞** 1：看護学を学ぶために必要な基礎学力を備え、学習を継続する力をもっている人
②社会環境の中で存在する人間を包括的(全人的)に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を配置する	2：看護職に求められるスキルを高め、地域で生活する人々の健康に貢献したいという意欲がある人
③多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目を配置する。	**＜思考力・判断力・表現力＞** 3：看護学を学び、豊かな感性と論理的に考え判断する力、情報を活用する力を身につけようと努力できる人
④看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する	4：他者の考えを知るとともに、自分の考えを自分の言葉で表現できる人
⑤より良い看護を探求し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目を配置する	**＜主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度＞** 5：人への深い関心をもち、人の可能性を信じ、自分も他者も大切にできる人 6：他者を思いやることができ、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる人

カリキュラムツリー
（保健師課程含む）

【養成する人材像】
豊かな人間性と倫理観を基盤に看護職として人を思いやり共感できる人材を養成する。あわせて、看護学の学識と基礎的な看護実践能力、対象を理解し支援するためのコミュニケーション力、多職種と協働する力、自己研鑽する力、研究的思考やグローバルな視点を備え、地域社会や人々の健康に貢献できる人材を養成する。

【資料4】

AP | CP | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | DP

【看護学部教育課程の土台となる全学DPおよび相関するCPの共通教養科目＊】
DP1：仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力、を身につけ、専攻する学問分野の知識や技能と統合して活用することができる．➡「仏教・自校教育科目群：**ブッダと法然**」
DP2：社会人として必要な幅広い教養や、専攻する学問分野の体系的な理解に不可欠な多様な知識・技能を身につけ、活用することができる：次の①～④のことができる．
①多文化・異文化に関する知識により、多様な視点で物事を考える ➡「グローバル科目群：必修外国語（**英語**）」 ②文化、自然、社会に関する知識により、体系的に物事を考える ➡「自己形成科目群：選択科目」 ③ICT を活用して、多様な情報を収集・分析し、効果的に活用する ➡「データサイエンス科目群：**ICTリテラシー**」
④. 自己理解を深め、職業観を持ち、自らのキャリアを決定する ➡「初年次教育科目群：**スタディ・スキルズ、キャリア・スキルズⅠ，キャリア・スキルズⅡ**」

1)知識・技能

AP１：看護学を学ぶために必要な基礎学力を備え、学習を継続する力をもっている人
AP２：看護職に求められるスキルを高め、地域で生活する人々の健康に貢献したいという意欲がある人

2)思考力・判断力・表現力

AP３：看護学を学び、豊かな感性と論理的に考え判断する力、情報を活用する力を身につけようと努力できる人
AP４：他者の考えを知るとともに、自分の考えを自分の言葉で表現できる人

3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

AP５：人への深い関心をもち、人の可能性を信じ、自分も他者も大切にできる人
AP６：他者を思いやることができ、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる人

CP１：社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するために、仏教関連科目をは**じめとした科目**を配置する。①

CP２：社会環境の中で存在する人間を包括的（全人的）に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を配置する。②

CP３：多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目を配置する。③

CP４：看護の知識と技術を統合し対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する。④

CP５：より良い看護を探求し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目を配置する。⑤

<全学> ＊ ブッダと法然 ①
仏教看護 ①
エンドオブライフケア論 ③
ホリスティックケアアプローチ ②
看護倫理学 ①
医療概論 ①
国際看護学 ③
災害看護学 ③
社会福祉
基礎解剖学 基礎生理学
病理学概論 栄養学 疾病論Ⅰ・Ⅱ
薬理学 疾病論Ⅲ・Ⅳ
生化学
感染免疫学 ②
臨床心理学 ②
臨床推論 ③
看護学概論 ②
看護実践基礎技術論
生活行動援助技術論 ②
ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ技術
看護過程論 ②
診療援助技術論Ⅰ ③
診療援助技術論Ⅱ ③
コミュニティ実習 ②
地域・在宅看護学概論 ②
地域・在宅看護方法論Ⅰ ③
老年看護学概論
小児看護学概論
母性看護学概論
精神看護学概論 ③
ｸﾘﾃｨｶﾙｹｱ看護学Ⅰ
慢性看護学Ⅰ
老年看護方法論Ⅰ
小児看護方法論Ⅰ
母性看護方法論Ⅰ
精神看護方法論Ⅰ ③
地域・在宅看護方法論Ⅱ
ｸﾘﾃｨｶﾙｹｱ看護学Ⅱ
慢性看護学Ⅱ
老年看護方法論Ⅱ
小児看護方法論Ⅱ
母性看護方法論Ⅱ
精神看護方法論Ⅱ ③
保健医療福祉行政論
公衆衛生学
公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護方法論Ⅰ
保健統計学
看護疫学
公衆衛生看護方法論Ⅱ
公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ ③
保健師課程
公衆衛生看護活動論 ③
公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ ④
基礎看護学実習Ⅰ ④
基礎看護学実習Ⅱ ④
地域・在宅看護学実習
ｸﾘﾃｨｶﾙｹｱ看護学実習
慢性看護学実習
老年看護学実習 ④
小児看護学実習
母性看護学実習
精神看護学実習 ④
統合実践看護学実習 ④
<全学> ＊ スタディ・スキルズ ①
<全学> ＊ ICTリテラシー ①
アカデミック・スキルズ ①
看護研究Ⅰ ⑤
看護研究Ⅱ ⑤
<全学> ＊ キャリア・スキルズⅠ ①
<全学> ＊ キャリア・スキルズⅡ ①
看護マネジメント ③
ｸﾘﾃｨｶﾙｹｱ看護実践 ③
看護教育学 ③

紫文字は学科基礎科目　緑文字は関連科目

DP１：豊かな人間性と倫理観を基盤に、看護職として人を思いやり共感できる
【仏教精神】 CP１

DP２：看護学および隣接領域に関する知識と基礎的な看護実践能力を身につけている
【知識・理解×汎用的技能】
CP２．３．

DP３：グローバルな視点をもち、地域社会やあらゆる環境下において生活する人々の健康に貢献できる力を身につけている
【知識・理解×汎用的技能】
CP２．３．４

DP４：看護の対象を理解し支援するための適切なコミュニケーション力を身につけている
【態度・志向性】CP４

DP５：多職種連携における看護職の役割を理解し協働できる
【態度・志向性】CP４

DP６：よりよい看護を追求するための研究的思考を身につけている
【態度・志向性】
CP ５

DP７：社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心をもち自己研鑽する力を備えている
【学びと成長への内発的動機】
CP１，５

教育課程と指定規則との対比表

【資料5】

【2026年度以降第1学年次入学者適用】

（看護師学校）（保健師学校）（佛教大学）（看護学部看護学科）

区分			授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表３（看護師課程） 基礎分野 科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能	疾病の成り立ちと回復の促進	健康支援と社会保障制度	専門分野 基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	臨地実習 基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	計	別表１（保健師課程） 公衆衛生看護学 公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論	疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	臨地実習 公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習	公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護活動展開論実習	公衆衛生看護管理論実習	計
					必修	選択			14		16		6	11	6(4)	6	4	4	4	4	4	3	2	4	2	2	2	2	102(100)	2	16（14）			2	2	4(3)	2	3		31(28)
																						23（※）																	
共通教養科目	仏教・自校教育科目群		ブッダと法然	1前	2		15	必修科目を含み、20単位以上修得すること（自己形成科目群から6単位以上を修得すること）。		②																														
			佛教大学の理念と歴史	1前		2	15			②																													
	グローバル科目群	必修外国語 英語	Intensive Reading１	1前		1	30		①																													
			Intensive Reading２	1後		1	30		①																													
			Integrated Communication Skills１	1前		1	30		①																													
			Integrated Communication Skills２	1後		1	30		①																													
			Integrated Communication Skills３	2前		1	30		①																													
			Integrated Communication Skills４	2後		1	30		①																													
		選択外国語 英語	General English１	1前		1	30		①																													
			General English２	1前		1	30		①																													
			Communication Seminar１	1前		2	15		②																													
			Communication Seminar２	1前		2	15		②																													
			English Lecture１	1前		2	15		②																													
			English Lecture２	1前		2	15		②																													
			初級英語会話１	1前		1	30		①																													
			初級英語会話２	1前		1	30		①																													
			Skill-building（TOEIC500） １	1前		1	30		①																													
			Skill-building（TOEIC500） ２	1前		1	30		①																													
			Skill-building（TOEIC600） １	1前		1	30		①																													
			Skill-building（TOEIC600） ２	1前		1	30		①																													
		中国語	初級中国語１	1前		1	30		①																													
			初級中国語２	1前		1	30		①																													
			中級中国語	1前		1	30		①																													
		韓国語	初級韓国語１	1前		1	30		①																													
			初級韓国語２	1前		1	30		①																													
			中級韓国語	1前		1	30		①																													
		ドイツ語	初級ドイツ語１	1前		1	30		①																													
			初級ドイツ語２	1前		1	30		①																													
			中級ドイツ語	1前		1	30		①																													
		フランス語	初級フランス語１	1前		1	30		①																													
			初級フランス語２	1前		1	30		①																													
			中級フランス語	1前		1	30		①																													
		ベトナム語	初級ベトナム語１	1前		1	30		①																													
			初級ベトナム語２	1前		1	30		①																													
			中級ベトナム語	1前		1	30		①																													
		国際教養	異文化への扉 —多文化共生のための外国語—	1前		2	15			②																												
			地球人になろう —グローバリゼーションと文化—	1前		2	15			②																												
			英語圏の暮らし	1前		2	15			②																												
			アジアの暮らし	1前		2	15			②																												
			日本事情	1前		2	15			②																												

区分			授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表３（看護師課程） 基礎分野 科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能	疾病の成り立ちと回復の促進	健康支援と社会保障制度	専門分野 基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	臨地実習 基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	計	別表１（保健師課程） 公衆衛生看護学 公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論	疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	臨地実習 公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習	公衆衛生看護活動展開論実習	公衆衛生看護管理論実習	計
					必修	選択																																		
					14				16				6	11	6(4)	6	4	4	4	4	4	3	2	4	2	2	2	2	102(100)	2	16（14）			2	2	4(3)	2	3		31(28)
																								23（※）															
共通教養科目	グローバル科目群	海外研修	海外語学研修（英語）	1・2・3・4通		1	15			①																													
			海外語学研修（中国語）	1・2・3・4通		1	15			①																													
			海外語学研修（韓国語）	1・2・3・4通		1	15			①																													
			海外語学研修（ベトナム語）	1・2・3・4通		1	15			①																													
	データサイエンス科目群		ICTリテラシー	1 前	2		15		②																														
			データサイエンスの基礎を学ぶ	1 後		2	15		②																														
			データサイエンスの基礎を実践する	1 後		1	15		①																														
			統計学の基礎を学ぶ	1 前		2	15		②																														
			プログラミングを学ぶ	1 前		2	15		②																														
	初年次教育科目群		スタディ・スキルズ	1 前	2		15		②																														
			キャリア・スキルズ1	1 前	1		15		①																														
			キャリア・スキルズ2	1 後	1		15		①																														
	キャリアスタディ科目群		マイファーストキャリア	1・2・3前・後		2	15			②																													
			ライフ・キャリアデザイン	1・2・3前・後		2	15			②																													
			キャリア形成とマネジメント	1・2・3前・後		2	15			②																													
			自己表現とコミュニケーション	2・3前・後		2	15			②																													
			職業世界を知る	2・3前・後		2	15			②																													
	プロジェクト科目群		プロジェクトA	2・3・4通		2	15			②																													
			プロジェクトB	2・3・4通		2	15			②																													
	自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	日本の仏教芸術とその鑑賞	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			ことばと文学	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			仏教の人間観と死生観	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			東洋と西洋における思想・哲学・宗教	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			前近代の世界・日本	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			近現代の世界・日本	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			世界の民族文化	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			世界の中の日本文化・京都文化	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
		地域と社会を学ぶ	日本国憲法	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			世界と日本の政治	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			くらしの中の経済	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			個人と社会の関係を考える	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			世界のニュースから見る日本	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			福祉と社会	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			情報・メディアと社会	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			教育事情を知る	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			文化の中から考える多文化共生	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
		人間と自然を学ぶ	数学の言葉で世界を観る	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			宇宙を考える	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			生物の世界	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			自然と地理	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			生命を考える	1・2・3・4前・後		2	15			②																													
			エコロジーを考える	1・2・3・4前・後		2	15			②																													

区分		授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表３（看護師課程） 基礎分野 科学的思考の基盤	基礎分野 人間と生活・社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	専門分野 基礎看護学	専門分野 地域・在宅看護論	専門分野 成人看護学	専門分野 老年看護学	専門分野 小児看護学	専門分野 母性看護学	専門分野 精神看護学	専門分野 看護の統合と実践	臨地実習 基礎看護学	臨地実習 地域・在宅看護論	臨地実習 成人看護学	臨地実習 老年看護学	臨地実習 小児看護学	臨地実習 母性看護学	臨地実習 精神看護学	臨地実習 看護の統合と実践	計	別表１（保健師課程） 公衆衛生看護学 公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護学 個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護学 公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護学 公衆衛生看護管理論	疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	臨地実習 公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習	臨地実習 公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護活動展開論実習	臨地実習 公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護管理論実習	計
								14		16		6	11	6（4）	6	4	4	4	4	4	3	2	4	2	2	2	2	102（100）	2	16（14）			2	2	4（3）	2	3		31（28）
																					23（※）																
共通教養科目	自己形成科目群 人間と自然を学ぶ	心の世界を考える	1・2・3・4前・後		2	15			②																											
		人間の仕組みと活動	1・2・3・4前・後		2	15			②																											
		病と人間の歩み	1・2・3・4前・後		2	15			②																											
	スポーツ	スポーツ理論	1 前・後		1	15		①																												
		スポーツ実技	1 前・後		1	30		①																												
	大学コンソーシアム	大学コンソーシアム	1・2・3・4前・後		2	15			②																											
小計							20		20		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
専門科目	学部基幹科目	医療概論	1 前	1		15	必修1単位		①																			1										0
	基礎科目	アカデミック・スキルズ	1 後	2		15	必修28単位	②																				28										6
		仏教看護	2 前	1		30			①																												
		基礎解剖学	1 前	2		15				②																											
		基礎生理学	1 前	2		15				②																											
		病理学概論	1 後	2		15					②																										
		栄養学	1 後	2		15				②																											
		疾病論Ⅰ	1 後	2		15					②																										
		疾病論Ⅱ	1 後	2		15					②																										
		疾病論Ⅲ	2 前	2		15					②																										
		疾病論Ⅳ	2 前	2		15					②																										
		薬理学	2 前	1		15					①																										
		公衆衛生学	2 前	2		15						②																										
		社会福祉	1 後	2		15						②																										
		保健医療福祉行政論	2 前	2		15						②																										
		保健統計学	2 後	2		15		②																													
小計							29		5		17	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	4	0	0		
専門科目	専攻科目	看護学概論	1 前	2		15	[看護師学校] 必修69単位						②																									
		看護実践基盤技術論	1 前	2		30							②																									
		フィジカルアセスメント技術	1 後	1		30	[保健師学校] 必修69単位および※印の科目を含み、合計88単位						①																									
		生活行動援助技術論	1 後	2		30							②																									
		看護過程論	2 前	1		30							①																									
		診療援助技術論Ⅰ	2 前	1		30							①																									
		診療援助技術論Ⅱ	2 後	1		30							①																									
		基礎看護学実習Ⅰ	1 後	1		45															①																	
		基礎看護学実習Ⅱ	2 前	2		45															②																	
		コミュニティ実習	1 通	1		45																①																
		地域・在宅看護学概論	1 後	1		15								①																								
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	2 前	2		15								②																								
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	3 前	1		30								①																								
		地域・在宅看護学実習	3 後	2		45																②																
		クリティカルケア看護学Ⅰ	2 後	2		15									②																							
		クリティカルケア看護学Ⅱ	3 前	1		30									①																							
		クリティカルケア看護学実習	3 後	3		45																	③															
		慢性看護学Ⅰ	2 後	2		15									②																							
		慢性看護学Ⅱ	3 前	1		30									①																							
		慢性看護学実習	3 後	3		45																	③															

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表３（看護師課程） 基礎分野 科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能	疾病の成り立ちと回復の促進	健康支援と社会保障制度	専門分野 基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	臨地実習 基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	計	別表１（保健師課程） 公衆衛生看護学 公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論	疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	臨地実習 公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習	公衆衛生看護活動展開実習	公衆衛生看護管理論実習	計
	教育課程 ＼ 指定規則の教育内容																																				
							14		16		6	11	6(4)	6	4	4	4	4	4	3	2	4	2	2	2	2	102(100)	2	16（14）			2	2	4(3)	2	3		31(28)
																				23（※）																	
専門科目	老年看護学概論	2 前	1		15										①																						
	老年看護方法論Ⅰ	2 後	2		15										②																						
	老年看護方法論Ⅱ	3 前	1		15										①																						
	老年看護学実習	3 後	3		45																		③														
	小児看護学概論	2 前	1		15											①																					
	小児看護方法論Ⅰ	2 後	2		15											②																					
	小児看護方法論Ⅱ	3 前	1		15											①																					
	小児看護学実習	4 前	2		45																			②				69(＊2) ＊推奨科目 公衆衛生看護方法論Ⅰ											
	母性看護学概論	2 前	1		15												①																					
	母性看護方法論Ⅰ	2 後	2		15												②																					
	母性看護方法論Ⅱ	3 前	1		15												①																					
	母性看護学実習	4 前	2		45																				②													
	精神看護学概論	2 前	1		15													①																				
	精神看護方法論Ⅰ	2 後	2		15													②																				
	精神看護方法論Ⅱ	3 前	1		15													①																				
	精神看護学実習	4 前	2		45																					②												
	公衆衛生看護学概論	2 後	2		15								②															②										
	公衆衛生看護方法論Ⅰ	2 後		2 ※	15								＊②															2	②									
	公衆衛生看護方法論Ⅱ	3 前		2 ※	30																								②								
	公衆衛生看護展開論Ⅰ	3 前		2 ※	15																								②								
	公衆衛生看護展開論Ⅱ	3 前		2 ※	30																								②								
	公衆衛生看護管理論Ⅰ	3 前		2 ※	15																									②							
	公衆衛生看護管理論Ⅱ	3 前		2 ※	15																									②							
	公衆衛生看護活動論	4 前		2 ※	15																									②							
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4 前		1 ※	45																													①			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4 前		4 ※	45																													4	④	4	
	国際看護学	2 前	1		15														①																			
	災害看護学	3 前	1		15														①																			
	エンドオブライフケア論	3 前	1		15														①																			
	ホリスティックケアアプローチ	3 前	1		15							①																									
	看護倫理学	4 前	1		15							1							①																			
	看護マネジメント	4 後	1		15														①																			
	看護研究Ⅰ	4 前	1		30														①																			
	看護研究Ⅱ	4 後	1		30														①																			
	統合実践看護実習	4 通	2		45																						②										
	小計					69(＊2)	0		0		0	11	6(＊2)	6	4	4	4	4	7	3	3	9	2	2	2	2		2	14			0	0	0	1	4		
関連科目	生化学	1 前		2	15	［看護師学校］学科専攻科目の「公衆衛生看護方法論Ⅰ」および関連科目から4単位以上（合計6単位以上）［保健師学校］※印の科目を含み、4単位以上			＊②																															
	感染免疫学	1 後		1	15					＊①																											
	臨床心理学	2 前		1	15			＊①																													
	看護疫学	2 後		2 ※	15		＊②																					4(＊1) ＊推奨科目 臨床推論					②						
	看護教育学	4 後		1	15														＊①																			
	クリティカルケア看護実践	4 後		1	15									＊①																							
	臨床推論	4 後		1	15														＊①																			
	小計					4	0		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0			2	0	0	0	0		
卒業要件単位数						124																															29
保健師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数																																					

看護学部看護学科　履修モデル1（看護師）

学年		1年次								2年次								3年次								4年次								単位数合計	卒業所要単位
科目区分		1セメスター				2セメスター				3セメスター				4セメスター				5セメスター				6セメスター				7セメスター				8セメスター					
		科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間		
共通教養科目	仏教・自校教養科目群	ブッタと法然	2		30																													2	20*1)
	必修外国語	Intensive Reading 1	1		30	Intensive Reading 2	1		30	Integrated Communication	1		30	Integrated Communication Skills 4	1		30																	6	
		Integrated Communication Skills 1	1		30	Integrated Communication Skills 2	1		30																										
	データサイエンス科目群、他	ICTリテラシー	2		30																													2	
	初年次教育	スタディ・スキルズ	2		30																													4	
		キャリア・スキルズ１	1		15	キャリア・スキルズ２	1		15																										
	自己形成科目群	選択枠科目		2	30	選択枠科目		2	30					選択枠科目		2	30																	6	
	小計		**9**	**2**	195		**3**	**2**	105		**1**	**0**	30		**1**	**2**	60																	**20**	
専門科目	学部基幹	医療概論	1		15																													1	104
	学科基礎	基礎解剖学	2		30	アカデミック・スキルズ	2		30	仏教看護	1		30	保健統計学	2		30																	28	
		基礎生理学	2		30	病理学概論	2		30	疾病論Ⅲ	2		30																						
						栄養学	2		30	疾病論Ⅳ	2		30																						
						疾病論Ⅰ	2		30	薬理学	1		15																						
						疾病論Ⅱ	2		30	公衆衛生学	2		30																						
						社会福祉	2		30	保健医療福祉行政論	2		30																						
	学科専攻 講義・演習科目	看護学概論	2		30	フィジカルアセスメント技術	1		30	看護過程論	1		30	診療援助技術論Ⅱ	1		30	地域・在宅看護方法論Ⅱ	1		30					看護倫理学	1		15	看護マネジメント	1		15	71	
		看護実践基盤技術論	2		60	生活行動援助技術論	2		60	診療援助技術論Ⅰ	1		30	クリティカルケア看護学Ⅰ	2		30	クリティカルケア看護学Ⅱ	1		30					看護研究Ⅰ	1		30	看護研究Ⅱ	1		30		
						地域・在宅看護学概論	1		15	地域・在宅看護方法論Ⅰ	2		30	慢性看護学Ⅰ	2		30	慢性看護学Ⅱ	1		30														
										老年看護学概論	1		15	老年看護方法論Ⅰ	2		30	老年看護方法論Ⅱ	1		15														
										小児看護学概論	1		15	小児看護方法論Ⅰ	2		30	小児看護方法論Ⅱ	1		15														
										母性看護学概論	1		15	母性看護方法論Ⅰ	2		30	母性看護方法論Ⅱ	1		15														
										精神看護学概論	1		15	精神看護方法論Ⅰ	2		30	精神看護方法論Ⅱ	1		15														
										国際看護学	1		15	公衆衛生看護学概論	2		30	災害看護学	1		15														
														公衆衛生看護方法論Ⅰ		2	30	エンドオブライフケア論	1		15														
																		ホリスティックケアアプローチ	1		15														
	学科専攻 実習科目	コミュニティ実習(通年)	1		45	基礎看護学実習Ⅰ	1		45	基礎看護学実習Ⅱ	2		90									地域・在宅看護学実習	2		90	小児看護学実習	2		90	統合実践看護実習(通年)	2		90		
																						クリティカルケア看護学実習	3		135	母性看護学実習	2		90						
																						慢性看護学実習	3		135	精神看護学実習	2		90						
																						老年看護学実習	3		135										
	関連科目 選択	選択科目(生化学)		2	30	選択科目(感染免疫学)		1	15					選択科目(臨床心理学)		1	15																	4*2)	
	小計		**10**	**2**	240		**17**	**1**	345		**21**	0	420		**17**	**3**	315		10	0	195		11	0	495		8	0	315		4	0	135	**104**	
合計			19	4	435		20	3	450		22	0	450		18	5	375		10	0	195		11	0	495		8	0	315		4	0	90	**124**	124以上
単位合計数			23				23				22				23				10				11				8				4				

＊1）共通教養科目では、必修科目以外に、自己形成科目群（選択科目）から 6単位以上の修得が必要．また、この選択科目は4セメスターまでに修得することがのぞましい．
＊2）専門科目の関連科目（選択科目）では、**4**単位以上の修得が必要（上記のモデルでは、生化学、感染免疫学、臨床心理学の3科目4単位で例示）.なお、各関連科目の配置は、推奨する履修セメスターを示している．

看護学部看護学科　履修モデル2（看護師+保健師）

学年		1年次								2年次								3年次								4年次								単位数合計	卒業所要単位
科目区分		1セメスター				2セメスター				3セメスター				4セメスター				5セメスター				6セメスター				7セメスター				8セメスター					
		科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間		
共通教養科目	仏教・自校教養科目群	ブッタと法然	2		30																													2	20*1)
	必修外国語	Intensive Reading 1	1		30	Intensive Reading 2	1		30	Integrated Communication	1		30	Integrated Communication Skills 4	1		30																	6	
		Integrated Communication Skills 1	1		30	Integrated Communication Skills 2	1		30																										
	ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ科目群、他	ICTリテラシー	2		30																													2	
	初年次教育	スタディ・スキルズ	2		30																													4	
		キャリア・スキルズ１	1		15	キャリア・スキルズ２	1		15																										
	自己形成科目群	選択枠科目		2	30	選択枠科目		2	30					選択枠科目		2	30																	6	
	小計		**9**	**2**	195		**3**	**2**	105		**1**	**0**	30		**1**	**2**	60																	**20**	
専門科目	学部基幹	医療概論	1		15																													1	104
	学科基礎	基礎解剖学	2		30	アカデミック・スキルズ	2		30	仏教看護	1		30	保健統計学	2		30																	28	
		基礎生理学	2		30	病理学概論	2		30	疾病論Ⅲ	2		30																						
						栄養学	2		30	疾病論Ⅳ	2		30																						
						疾病論Ⅰ	2		30	薬理学	1		15																						
						疾病論Ⅱ	2		30	公衆衛生学	2		30																						
						社会福祉	2		30	保健医療福祉行政論	2		30																						
	学科専攻科目 講義・演習科目	看護学概論	2		30	フィジカルアセスメント技術	1		30	看護過程論	1		30	診療援助技術論Ⅱ	1		30	地域・在宅看護方法論Ⅱ	1		30					看護倫理学	1		15	看護マネジメント	1		15	88	
		看護実践基盤技術論	2		60	生活行動援助技術論	2		60	診療援助技術論Ⅰ	1		30	クリティカルケア看護学Ⅰ	2		30	クリティカルケア看護学Ⅱ	1		30					看護研究Ⅰ	1		30	看護研究Ⅱ	1		30		
						地域・在宅看護学概論	1		15	地域・在宅看護方法論Ⅰ	2		30	慢性看護学Ⅰ	2		30	慢性看護学Ⅱ	1		30														
										老年看護学概論	1		15	老年看護方法論Ⅰ	2		30	老年看護方法論Ⅱ	1		15														
										小児看護学概論	1		15	小児看護方法論Ⅰ	2		30	小児看護方法論Ⅱ	1		15														
										母性看護学概論	1		15	母性看護方法論Ⅰ	2		30	母性看護方法論Ⅱ	1		15														
										精神看護学概論	1		15	精神看護方法論Ⅰ	2		30	精神看護方法論Ⅱ	1		15														
										国際看護学	1		15	公衆衛生看護学概論	2		30	災害看護学	1		15														
																		エンドオブライフケア論	1		15														
																		ホリスティックケアアプローチ	1		15														
														※公衆衛生看護方法論Ⅰ		2	30	※公衆衛生看護方法論Ⅱ	2		60					※公衆衛生看護活動論	2		30						
																		※公衆衛生看護展開論Ⅰ	2		30														
																		※公衆衛生看護展開論Ⅱ	2		30														
																		※公衆衛生看護管理論Ⅰ	2		30														
																		※公衆衛生看護管理論Ⅱ	2		30														
	学科専攻科目 実習科目	コミュニティ実習(通年)	1		45	基礎看護学実習Ⅰ	1		45	基礎看護学実習Ⅱ	2		90									地域・在宅看護学実習	2		90	小児看護学実習	2		90	統合実践看護実習(通年)	2		90		
																						クリティカルケア看護学実習	3		135	母性看護学実習	2		90						
																						慢性看護学実習	3		135	精神看護学実習	2		90						
																						老年看護学実習	3		135										
																										※公衆衛生看護学実習Ⅰ	1		45						
																										※公衆衛生看護学実習Ⅱ	4		180						
	関連科目 選択	選択科目(生化学)		2	30									※看護疫学		2	30																	4*2)	
	小計		**10**	**2**	240		**17**	**0**	330		**21**	0	420		**17**	**4**	330		20	0	375		11	0	495		15	0	570		**4**	**0**	15	**121**	
合計			19	4	435		20	2	435		22	0	450		18	6	390		20	0	375		11	0	495		15	0	570		4	0	15	**141**	124以上
単位合計数			23				22				22				24				20				11				15				4				

※保健師課程必修科目（選考：最大17名）

＊1）共通教養科目では、必修科目以外に、自己形成科目群（選択科目）から６単位以上の修得が必要．また、この選択科目は4セメスターまでに修得することが望ましい．

＊2）専門科目の関連科目（選択科目）では、**4**単位以上の修得が必要（上記のモデルでは、生化学、看護疫学の2科目４単位で例示）．なお、各関連科目の配置は、推奨する履修セメスターを示している．

看護学部看護学科　履修モデル3（保健師+養護教諭）

学年		1年次								2年次								3年次								4年次								単位数合計	卒業所要単位
科目区分		1セメスター				2セメスター				3セメスター				4セメスター				5セメスター				6セメスター				7セメスター				8セメスター					
		科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間	科目名称	必	選	時間		
共通教養科目	仏教・自校教養科目群	ブッタと法然	2		30																													2	20*1)
	必修外国語	Intensive Reading 1	1		30	Intensive Reading 2	1		30	Integrated Communication	1		30	Integrated Communication Skills 4	1		30																	6	
		Integrated Communication Skills 1	1		30	Integrated Communication Skills 2	1		30																										
	ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ科目群、他	ICTリテラシー	2		30					✤スポーツ理論		1	15	(✤スポーツ実技)		1	30																	4	
	初年次教育	スタディ・スキルズ	2		30																													4	
		キャリア・スキルズ 1	1		15	キャリア・スキルズ 2	1		15																										
	自己形成科目群	✤日本国憲法		2	30	選択枠科目		2	30					選択枠科目		2	30																	6	
	小計		**9**	**2**	195		**3**	**2**	105		**1**	**1**	45		**1**	**3**	90																	**22**	
専門科目	学部基幹	医療概論	1		15																													1	104
	学科基礎	基礎解剖学	2		30	アカデミック・スキルズ	2		30	仏教看護	1		30	保健統計学	2		30																	28	
		基礎生理学	2		30	病理学概論	2		30	疾病論Ⅲ	2		30																						
						栄養学	2		30	疾病論Ⅳ	2		30																						
						疾病論Ⅰ	2		30	薬理学	1		15																						
						疾病論Ⅱ	2		30	公衆衛生学	2		30																						
						社会福祉	2		30	保健医療福祉行政論	2		30																						
	学科専攻科目 講義・演習科目	看護学概論	2		30	フィジカルアセスメント技術	1		30	看護過程論	1		30	診療援助技術論Ⅱ	1		30	地域・在宅看護方法論Ⅱ	1		30					看護倫理学	1		15	看護マネジメント	1		15	88	
		看護実践基盤技術論	2		60	生活行動援助技術論	2		60	診療援助技術論Ⅰ	1		30	クリティカルケア看護学Ⅰ	2		30	クリティカルケア看護学Ⅱ	1		30					看護研究Ⅰ	1		30	看護研究Ⅱ	1		30		
						地域・在宅看護学概論	1		15	地域・在宅看護方法論Ⅰ	2		30	慢性看護学Ⅰ	2		30	慢性看護学Ⅱ	1		30														
										老年看護学概論	1		15	老年看護方法論Ⅰ	2		30	老年看護方法論Ⅱ	1		15														
										小児看護学概論	1		15	小児看護方法論Ⅰ	2		30	小児看護方法論Ⅱ	1		15														
										母性看護学概論	1		15	母性看護方法論Ⅰ	2		30	母性看護方法論Ⅱ	1		15														
										精神看護学概論	1		15	精神看護方法論Ⅰ	2		30	精神看護方法論Ⅱ	1		15														
										国際看護学	1		15	公衆衛生看護学概論	2		30	災害看護学	1		15														
																		エンドオブライフケア論	1		15														
																		ホリスティックケアアプローチ	1		15														
														※公衆衛生看護方法論Ⅰ		2	30	※公衆衛生看護方法論Ⅱ	2		60					※公衆衛生看護活動論	2		30						
																		※公衆衛生看護展開論Ⅰ	2		30														
																		※公衆衛生看護展開論Ⅱ	2		30														
																		※公衆衛生看護管理論Ⅰ	2		30														
																		※公衆衛生看護管理論Ⅱ	2		30														
	学科専攻科目 実習科目	コミュニティ実習(通年)	1		45	基礎看護学実習Ⅰ	1		45	基礎看護学実習Ⅱ	2		90									地域・在宅看護学実習	2		90	小児看護学実習	2		90	統合実践看護実習(通年)	2		90		
																						クリティカルケア看護学実習	3		135	母性看護学実習	2		90						
																						慢性看護学実習	3		135	精神看護学実習	2		90						
																						老年看護学実習	3		135										
																										※公衆衛生看護学実習Ⅰ	1		45						
																										※公衆衛生看護学実習Ⅱ	4		180						
	関連科目 選択	選択科目(生化学)		2	30									※看護疫学		2	30																	4*2)	
	小計		**10**	**2**	240		**17**	**0**	330		**21**	0	420		**17**	**4**	330		20	0	375		11	0	495		15	0	570		**4**	**0**	135	**121**	
合計			19	4	435		20	2	435		22	1	465		18	7	420		20	0	375		11	0	495		15	0	570		4	0	135	**143**	124以上
単位合計数			23				22				23				25				20				11				15				4				

✤養護教諭 要履修科目　※保健師課程必修科目

＊1）共通教養科目では、必修科目以外に、自己形成科目群（選択科目）から 日本国憲法を含む6単位以上の修得が必要．また、この選択科目は4セメスターまでに修得することが望ましい．

＊2）専門科目の関連科目（選択科目）では、4単位以上の修得が必要（上記のモデルでは、生化学、看護疫学の2科目4単位で例示）．なお、各関連科目の配置は、推奨する履修セメスターを示している．

【資料 7】

科 目 別 実 習 計 画

No.1

実習科目	コミュニティ実習		
実習単位	1 単位（45 時間）		
実習時期	1 年次　通年	実習期間	5 日間
実習目的・目標	目的：地域で生活する人々を知ると共に、地域の暮らしを理解し、地域におけるさまざまな場での看護の基礎を学ぶ。 目標： 1．地域を見て歩き、生活している人々の暮らしについて知ることができる。 2．高齢者から生活と健康についての話を聴き、高齢者の思いや考えを知ることができる。 3．地域で暮らす人々や支援者の活動から、地域住民の日常生活や関連サービスについて知ることができる。 4．地域で生活する人々とふれあい、看護の対象となる人々の健康と暮らしについて考えることができる。		
実習方法	1．地区踏査・フィールドワーク 地域を歩くことで、地域での暮らしを観察し、フォトボイスを用いて、健康と暮らしについて考える。また、地域で暮らす人々との対話やインタビューを行う。介護予防等の社会資源を知り、支援者の活動について話をきく。 2．老人福祉センターの活動への参加 各施設 8 名を配置する。老人福祉センターのレクリエーションに参加し、高齢者から生活や健康についての思いや話を聴く。また、老人福祉センターの機能や役割について施設長よりオリエンテーションを受ける。 3．実習最終日にグループごとに学びを発表し、理解を深める。 ※実習スケジュールについては次頁別表参照		
実習場所	1．地区踏査・フィールドワーク：大学周辺 1 グループ 8 名×10 グループ 計 80 名 2．老人福祉センター 京都市左京老人福祉センター（1 日）　8 名×2 回　16 名 京都市山科中央老人福祉センター（1 日）　8 名×2 回　16 名 京都市醍醐老人福祉センター（1 日）　8 名×2 回　16 名 京都市下京老人福祉センター（1 日）　8 名×2 回　16 名 京都市右京中央老人福祉センター（1 日）　8 名×2 回　16 名 計 80 名		
実習指導形態	地区踏査・フィールドワークは教員が指導を行う。老人福祉センターでは施設長による指導および教員が各施設を巡回し、指導を行う。		
実習指導教員	教授 1 名（安藤千晶）、客員教授 1 名（末安民生）、准教授 1 名（清水奈穂美）、		

	助教１名（山本真子）、非常勤１名（明田朋子）　　計５名
単位認定と評価	出席日数、実習内容、実習態度、実習記録から実習目標の達成の程度を実習科目担当責任者が評価し、単位を認定する

【別表】実習スケジュール

実習場所と日程		実習内容
学内	１日目	・オリエンテーション ・実習準備 実習目標の記載の指導を受け、地区踏査の準備、インタビュー計画、老人福祉センター等の実習に向けた事前準備をする。
臨地実習	２日目	・老人福祉センター 各種事業に参加している高齢者とのコミュニケーションからその人の生活や考えを知る
	３日目	・地区踏査 フォトボイスを用いて、担当する地域の生活に関連する各種情報を知り整理する
	４日目	・フィールドワーク 地域で暮らす人々へのインタビュー 介護予防等の社会資源や支援者の活動を知り、地域の健康課題について考える
学内	５日目	実習のまとめ 実習報告会

科 目 別 実 習 計 画

No.2

実習科目	基礎看護学実習Ⅰ		
実習単位	１単位（45 時間）		
実習時期	１年次　後期	実習期間	１週間
実習目的・目標	目的：対象者との関わりを通して対象を知るとともに、対象者の視点から様々な療養の場としての病院の構造や機能を考えることができる。また、看護実践の見学や実施を通して看護について考えることができる。 目標：１．対象者とのコミュニケーションや観察を通して看護の対象を理解する。 ２．看護師の看護実践の見学を通して、看護の実際を知る。 ３．看護師と共に看護実践を安全・安楽に実施でき、看護技術の意味を考えることができる。 ４．対象者の視点から病院や病棟の構造と機能を知り、対象者を中心とした医療チームにおける看護の役割がわかる。 5. 看護倫理を踏まえた態度で実習に取り組むことができる。 6. 実習での活動を振り返り、看護について考える。		
実習方法	１．学生１グループを 4～6 名とし、各病院の各病棟に配置する。 ２．日常生活の援助が必要な患者を１名受け持つ。 ３．実習初日に病院や病棟、患者についてオリエンテーションを受ける。 ４．患者の状態に合わせて実習計画を立て、教員または臨地実習指導者の指導を受けながら看護師の看護実践を見学、あるいは、臨床指導者とともにケアを実施する。 ５．カンファレンスを行い日々の学びを振り返りながら、実習全体での学びをメンバーと共に深める。 ※実習スケジュールについては次頁別表参照		
実習場所	京都市立病院　20 名 京都第一赤十字病院　27 名 市立大津市民病院　15 名 洛和会丸太町病院　12 名 京都南病院　6 名 計 80名		
実習指導形態	１．病棟ごとに病院看護師の中から臨地実習指導者を配置する。 ２．２週に分かれ、１週ずつ学生 1～2 グループに対し、教員１名を配置。実習期間中、実習施設内で学生と行動をともにして指導する。 ３．実習担当教員は教育全体を把握し実習を推進する。臨地実習指導者は日常の看護業務の中で具体的な患者ケアをとおして実習指導を行う。		
実習指導教員	教授２名（山本直美、中島小乃美）、　講師２名（岡田朱民、冨澤理恵）、助教２名（野口遼、吉原文子）、非常勤２名（奥村祐香、田中亮子） 計 8名		
単位認定と評価	事前学習内容、出席日数、実習内容、取り組み姿勢、実習記録から実習目標の達成の程度を実習科目担当責任者が総合的に評価し、単位を認定する。		

【別表】基礎看護学実習Ⅰ　実習スケジュール

曜日	実習場所	実習内容
月	大学	実習オリエンテーション、病院・病棟別オリエンテーション
火	病院	病院オリエンテーション、病院施設見学 病棟オリエンテーション、患者紹介、患者への挨拶 受け持ち患者とのコミュニケーション、カンファレンス
水	病院	受け持ち患者の看護援助を見学・一部実施、コミュニケーションと観察を通して対象の状態を知る、カンファレンス
木	病院	受け持ち患者とのコミュニケーションと観察を通して対象の状態を知る、受け持ち患者の看護援助を看護師と共に実施する 最終カンファレンスで実習での学びを振り返り、ディスカッションを通して学びを深める
金	大学	午前：実習の振り返り（目的、目標に照らして） 午後：記録の整理、個別面談

科 目 別 実 習 計 画

No.3

実習科目	基礎看護学実習Ⅱ		
実習単位	２単位（90 時間）		
実習時期	２年次　前期	実習期間	２週間
実習目的・目標	目的：看護の対象者を全人的に理解し、看護過程の展開技術を用いて対象者に合わせた看護が実践できる。 目標：1. 看護の視点で情報を収集し、対象者を全人的に理解できる。 2. 対象者の健康状態を回復・維持・促進するための看護計画が立案できる。 3. 対象者の健康状態に応じた看護を実践し、評価・修正できる。 4. 対象者を中心とした協働の在り方が理解できる。 5. 看護倫理を踏まえた態度で実習に取り組むことができる. 6. 看護実践を整理し、明確になった自己の課題と看護観が表現できる。		
実習方法	１．学生１グループを 4～6 名とし、各病院の各病棟に配置する。 ２．日常生活の援助が必要な患者を１名受け持つ。 ３．実習初日に病棟や患者についてオリエンテーションを受ける。 ４．毎日、患者の状態に合わせて実習計画を立て、教員または臨地実習指導者の指導を受けながらケアを実施する。 ５．患者の健康状態をアセスメントし、患者に合わせた看護計画を立案し、臨地実習導者の指導を受けながら看護を実施し、評価する。 6. カンファレンスを行い、指導者とともに看護実践を振り返り、メンバーと共有することで学びを深める。 ※実習スケジュールについては次頁別表参照		
実習場所	大津赤十字病院　13 名 京都府立医科大学附属病院　16 名 京都市立病院　20 名 京都第一赤十字病院　13 名 洛和会丸太町病院　12 名 京都南病院　6 名 計 80 名		
実習指導形態	１．病棟ごとに病院看護師の中から臨臨地実習指導者を配置する。 ２．学生 1～2 グループに対し、教員１名を配置。実習期間中、実習施設で学生と行動をともにして指導を行う。 ３．実習担当教員は教育全体を把握し実習を推進する。臨地実習指導者は日常の看護業務の中で具体的な患者ケアをとおして実習指導を行う。		
実習指導教員	教授２名（山本直美、中島小乃美）、講師２名（岡田朱民、冨澤理恵）、助教９名（鈴木皓一朗、野口遼、中谷香、山本真子、吉原文子、山岸若菜、山岡怜未、丸繁裕太、岡崎翠）、非常勤１名（田中亮子） 計 14 名		
単位認定と評価	事前学習内容、出席日数、実習内容、取り組み姿勢、実習記録から実習目標の達成の程度を実習科目担当責任者が評価し、単位を認定する。		

【別表】基礎看護学実習Ⅱ　実習スケジュール

週	曜日	実習場所	実習内容
第1週	月	大学	午前：実習オリエンテーション、全体オリエンテーション 午後：病院・病棟別オリエンテーション
	火	病院	病院・病棟オリエンテーション、電子カルテの使用方法習得 患者紹介、対象理解に必要な情報収集、看護実践の見学
	水	病院 （大学）※	患者の状況把握・情報収集、病棟指導者の看護実践の見学 病棟指導者とともに援助の実施
	木	大学 （病院）※	情報整理、患者の全体関連図の作成、問題の明確化
	金	病院	患者の状況把握・情報収集、看護計画の実行可能性の検討 病棟指導者とともに看護実践、看護実践の評価と実践の振り返り、中間カンファレンス
第2週	月	病院	患者の状況把握・情報収集、看護計画の実行可能性の検討 病棟指導者とともに看護実践、看護実践の評価と実践の振り返り
	火	病院	看護過程の見直し、看護計画の充実、評価修正
	水	病院	患者の状況把握・情報収集、看護実践の評価と実践の振り返り 看護計画の実施と評価、修正、最終カンファレンス
	木	大学	記録の整理、情報整理・アセスメント記録の完成、看護計画の評価
	金	大学	午前：記録の整理、午後：個別面談

※気象状況により変更する場合がある。

科 目 別 実 習 計 画

No.4

実習科目	地域・在宅看護学実習		
実習単位	2 単位（90 時間）		
実習時期	3 年次　後期	実習期間	2 週間
実習目的 ・目標	目的： １．在宅で生活する対象者とその家族を総合的に理解し、それらの人々が望む生活や生き方を支える看護を実践するための基本的能力を養う。 ２．地域の保健・医療・福祉サービス機関と連携・協働しながら対象者とその家族を支える看護職の活動について理解する。 目標： １．在宅で生活している療養者とその家族の健康状態と生活状況を理解できる。 ２．療養者とその家族の療養上の課題と援助方法を考えることができる。 ３．訪問看護の機能および役割を理解できる。 ４．看護の継続性と地域の関係機関や関係職種との連携・協働について理解できる。 ５．在宅で生活している高齢者とその家族の健康状態や日常生活を理解できる。 ６．地域包括支援センターの機能および役割を理解できる。		
実習方法	１．各施設に学生を 2～3 名ずつ配置する。 ２．実習各週の初日に、各施設のオリエンテーションを受ける。 ３．訪問看護師と同行訪問し、療養者と家族への看護を実践する。 ４．地域包括支援センターの多職種連携・協働等の機能や役割を理解した上で、個人・集団への支援や専門職会議等の活動に参加する。 ５．実習最終日にカンファレンスを実施し、実習の学びを深める。 ※実習スケジュールについては次頁別表参照 ※個別支援から地域支援の看護実践を学ぶために 1 週目に訪問看護ステーション実習、2 週目に地域包括支援センターの実習を行う。		
実習場所	１．訪問看護ステーション（1 週間） 訪問看護ステーション・マム　2 名×1 回　2 名 訪問看護ステーション太秦安井　2 名×1 回　2 名 吉祥院訪問看護ステーション　3 名×1 回　3 名 訪問看護ステーションえいむ　2 名×2 回　4 名 訪問看護ステーションゆりかもめ　2 名×2 回　4 名 訪問看護ステーションゆい　2 名×1 回　2 名 訪問看護ステーションひまわり　3 名×2 回　6 名 訪問看護ステーション右京医師会　2 名×3 回　6 名 ステーションイルカ　2 名×2 回　4 名 訪問看護ステーションひなた　3 名×4 回　12 名		

	訪問看護ステーション絆　2名×3回　6名 ピース・トラスト訪問看護ステーション　2名×3回　6名 訪問看護ステーションさいきょう　3名×4回　12名 訪問看護ステーションそうま　2名×4回　8名 訪問看護ステーションみなみ　3名×1回　3名 計 80 名
	２．地域包括支援センター（1 週間） 京都市境谷地域包括支援センター　2～3 名×4 回　10 名 京都市原谷地域包括支援センター　2 名×1 回　2 名 京都市修徳地域包括支援センター　2 名×4 回　8 名 京都市西院地域包括支援センター　2 名×2 回　4 名 京都市紫野地域包括支援センター　2 名×2 回　4 名 京都市本能地域包括支援センター　2～3 名×4 回　10 名 京都市西ノ京地域包括支援センター　2 名×4 回　8 名 京都市醍醐南部地域包括支援センター　2 名×1 回　2 名 京都市東山地域包括支援センター　2 名×2 回　4 名 京都市御池地域包括支援センター　2 名×4 回　8 名 京都市仁和地域包括支援センター　2 名×4 回　8 名 京都市陶化地域包括支援センター　2 名×2 回　4 名 京都市葛野地域包括支援センター　2 名×4 回　8 名 計 80 名
実習指導形態	各施設の看護師・保健師・ケアマネジャー・社会福祉士等の指導を受けるとともに、教員が各施設を巡回し、指導を行う。
実習指導教員	教授 1 名（安藤千晶）、准教授 1 名（清水奈穂美）、講師 1 名（駒井和子）、助教 1 名（山本真子）、非常勤 1 名（明田朋子） 計 5 名
単位認定と評価	出席日数、実習内容、実習態度、実習記録から実習目標の達成の程度を実習科目担当責任者が評価し、単位を認定する

【別表】地域・在宅看護学実習　実習スケジュール

曜日		月	火	水	木	金
1週目		学内	訪問看護ステーション			
	午前	オリエンテーション	・挨拶 ・施設内オリエンテーション ・同行訪問等 ・記録 ・ミニカンファレンス	・同行訪問等 ・記録 ・ミニカンファレンス	・同行訪問等 ・記録 ・ミニカンファレンス	・同行訪問等 ・記録 ・まとめカンファレンス
	午後	事前学習				
2週目		学内	地域包括支援センター			学内
	午前	・訪問看護ステーションまとめ ・個人記録提出	・挨拶 ・施設内オリエンテーション ・同行訪問他 ・記録 ・ミニカンファレンス	・同行訪問他 ・記録 ・ミニカンファレンス	・同行訪問他 ・記録 ・まとめカンファレンス	・地域包括支援センターまとめ
	午後	・地域包括支援センターオリエンテーション ・事前学習（個人面談）				・実習報告会 ・個人記録提出（個人面談）

科 目 別 実 習 計 画

No.5

実習科目	クリティカルケア看護学実習		
実習単位	3 単位（135 時間）		
実習時期	3 年次　後期	実習期間	3 週間
実習目的・目標	目的：急激な健康破綻を来した対象のクリティカルケアが必要な状況を理解し，侵襲からの回復促進，社会生活への適応に向けての看護を実施する基礎的能力を養う。 目標：　１．クリティカルケア看護が必要な対象のニーズ・看護を理解する。 ２．クリティカルケア看護が必要とされる特徴的な場を理解する。 ３．クリティカルケア看護実践における多職種連携を理解する。		
実習方法	１．学生１グループを 8～10 名とし、各病院に配置する。 ２．病棟実習２週間、見学実習１週間の実習を行う。 ３．実習初日に病院のオリエンテーションを受ける。 ４．病棟実習では、手術予定の患者を受け持ち、周術期看護を展開する。 見学実習では、クリティカルケア看護の実践場面を見学する。 ５．日々の実習を振り返り、今後の看護に活かすとともに、自身の課題を見いだす。 ６．実習最終日に文献を用いたカンファレンスを実施し、クリティカルケア看護の学びを深める。 ※実習スケジュールについては次頁別表参照		
実習場所	大津赤十字病院　8 名×3 回：24 名　3 週間/回 京都府立医科大学附属病院　8～10 名×1 回：8 名　3 週間/回 京都市立病院　8～10 名×3 回：24 名　3 週間/回 大阪府済生会吹田病院　8 名×3 回：24 名　3 週間/回 計 80 名		
実習指導形態	１．病棟ごとに病院看護師の中から臨地実習指導者を配置する。 ２．学生 1 グループ（8～10 名）に対し、教員 1 名を配置する。 ３．教員または臨地実習指導者が直接的な看護実践の指導を行う。		
実習指導教員	准教授 1 名（利木佐起子）、講師 1 名（趙崇来）、助教 1 名（鈴木皓一朗）、非常勤 1 名（北村多江） 計 4 名		
単位認定と評価	出席日数、実習内容、実習態度、実習記録から実習目標の達成の程度を実習科目担当責任者が評価し、単位を認定する。		

【別表】クリティカルケア看護学実習　実習スケジュール

	曜	場所	実習内容	備考
第1週	月	学内	実習オリエンテーション、演習	事前学習提出
	火	病院	病院・病棟オリエンテーション 見学実習：手術室，ICU，など	
	水	病院		
	木	病院		
	金	病院	受け持ち患者紹介、看護実践・評価	
第2週	月	病院		
	火	病院		
	水	学内		
	木	病院	中間カンファレンス	中間評価
	金	病院		
第3週	月	病院		
	火	病院		
	水	病院	最終カンファレンス	最終評価
	木	学内	学びの共有，実習の振り返り， 面接，合同カンファレンス	
	金	学内		15 時：記録提出

科 目 別 実 習 計 画

No.6

実習科目	慢性看護学実習		
実習単位	3 単位（135 時間）		
実習時期	3 年次　秋学期	実習期間	3 週間
実習目的・目標	目的：　慢性の病気をもち、生涯にわたり病気のコントロールが重要となる患者や人生の最終段階（終末期）にある患者とその家族を対象とした看護実践に必要な知識・技術・態度を、実践を通して修得する。 既習の理論や知識・技術、臨床判断の思考プロセスを活用しながら、対象の状況を体験的に理解し、症状緩和や心理的安寧を図るとともに、患者・家族が折り合いをつけながら療養を継続できるよう支援するための看護実践能力を養う。また、慢性看護に求められる倫理的行動や看護の継続性、多職種連携・協働の実際についてもチーム医療の現場で理解する。 目標：１．看護実践者としての役割と責任を自覚し、倫理的態度を身につける。 ２．慢性病をもつ患者や人生の最終段階にある患者を「その人」として知る。 ３．その人らしい療養生活が営めるようにかかわる。 ４．保健医療福祉に携わる一員として、看護の継続性や多職種間における連携の必要性を理解する。 ５．慢性の病気をもつ患者や人生の最終段階にある患者とその家族を対象とした看護への理解を深める。		
実習方法	１．学生１グループを 8～10 名とし、各病院の各病棟に配置する。 ２．実習初日に病院・病棟や担当患者についてオリエンテーションを受ける。 ３．原則として慢性病をもつ患者もしくは人生の最終段階にある患者１名を受け持ち、その方の状況やニーズに応じた看護を考え実践する。 ４．看護師のケア場面を見学し、その言動の意味を考え看護師の思考を学ぶ。 ５．日々、リフレクションの機会をもち、次の看護につなげる。 ６．半日程度、外来や患者支援センター等でのチーム医療における多職種間の協働・連携およびその継続看護の実際とその必要性について学ぶ。 ７．倫理事例やまとめのカンファレンスを通して学びを共有し理解を深める。 ※実習スケジュールについては次頁別表参照		

実習場所	大津赤十字病院 京都府立医科大学附属病院 京都市立病院 大阪府済生会吹田病院	8名×2回 16名　3週間/回 8名×3回 24名　3週間/回 8名×4回 32名　3週間/回 8名×1回　8名　3週間/回 計 80名
実習指導形態	１．病棟ごとに病院側が臨地実習指導者を配置する。 ２．学生１グループ８名に対し、教員１名を配置する。 ３．教員または臨地実習指導者が直接的な看護実践の指導を行う。	
実習指導教員	教授１名（藪下八重)、講師１名（高岡寿江)、助教１名（山岡怜未)、非常勤１名（小江美奈子） 計 4名	
単位認定と評価	事前学習の状況、実習内容、実習記録、最終レポートをもとに、実習目標の到達度を総合的に評価し、単位を認定する	

【別表】慢性看護学実習　　実習スケジュール

	曜	場所	実習内容	備考
第1週	月	学内	実習オリエンテーション	自己目標の提出
	火	病院	病院・病棟オリエンテーション　患者紹介	
	水		情報収集/分析　ケアの見学・実施	
	木	学内	情報のアセスメント 患者の全体像（関連図）の作成	
	金	病院	看護実践・リフレクション ケースカンファレンス（関連図）	
第2週	月	病院	看護計画の立案・実施・評価	実習目標の中間評価
	火			
	水	学内	看護計画の追加・修正 倫理カンファレンス準備　面談	
	木	病院	看護実践・リフレクション 倫理カンファレンス	
	金			
第3週	月	病院	看護実践・リフレクション 看護サマリ作成	
	火			
	水	病院	看護実践・リフレクション 病棟最終カンファレンス	
	木	学内	学内最終カンファレンス	実習目標の最終評価
	金		記録整理　面談	記録提出

・病棟実習日は、毎日「デイリーカンファレンス」をもつ.

・実習期間中に半日程度、病棟外（＊）での継続看護実習を行う.

＊入退院ｾﾝﾀｰ、患者支援ｾﾝﾀｰ、化学療法ｾﾝﾀｰ、看護外来、緩和ｹｱﾁｰﾑ（ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ参加)、外来診療の場など

科 目 別 実 習 計 画

No.7

実習科目	老年看護学実習		
実習単位	3 単位（135 時間）		
実習時期	3 年次　後期	実習期間	3 週間
実習目的・目標	目的：地域包括ケアシステムのもと、地域や療養の場における認知症高齢者に対して、医療チームの一員としてケアマネジメントできる基礎的能力を身に着ける 目標：1）老年期の特徴を踏まえたヘルスアセスメントができる。 2）生活者としての高齢者を理解できる。 3）認知症高齢者を総合的に理解できる。 4）認知症ケアの実践による効果が理解できる。 5）高齢者看護における学際的アプローチの必要性が理解できる。		
実習方法	療養の場である地域包括ケア病棟・回復期ケア病棟に入院する認知症高齢者の在宅退院支援と、地域の介護老人施設に入所する認知症高齢者に対して多職種専門職との協働を意識しながら看護を展開する。 ・　病院実習スタートグループは 7.5 日間の病院臨地実習後に施設実習へ移行し 7.5 日間の施設実習を行う。施設実習スタートグループは 7.5 日間の施設臨地実習後、7.5 日間の病院実習へ移行する。 ＊病院スタート G：病院実習 7.5 日間→施設実習 7.5 日間 ＊施設スタート G：施設実習 7.5 日間→病院実習 7.5 日間 ※実習スケジュールについては次頁別表参照		
実習場所	1．病院（1.5 週間） 京都民医連中央病院　　8 名×8 回 64 名 京都民医連あすかい病院　8 名×2 回 16 名 計 80 名 2．施設（1.5 週間） 和順の里　　8 名×10 回 80 名 計 80 名		
実習指導形態	1．施設または病棟ごとに、臨地実習指導者を配置する。 2．施設実習・病院実習共に、学生 1 グループに対し、教員 1 名を配置する。 3．教員または臨地実習指導者が直接的な看護実践の指導を行う。		
実習指導教員	教授 1 名（濱吉美穂）、講師 1 名（阿部慈美）、助教 1 名（丸繁裕太）、非常勤 1 名（吉行紀子） 計 4 名		
単位認定と評価	出席日数、実習内容、実習態度、実習記録から実習目標の達成の程度を実習科目担当責任者が評価し、単位を認定する。		

【別表】老年看護学実習　病院・高齢者施設実習（3 週間）スケジュール

	A グループ（8～9 名）病院実習 ⇒ 特養		B グループ（8～9 名）特養 ⇒ 病院実習
月	学内オリエンテーション・演習・GW フィジカルアセスメント・環境整備演習 AR によるコミュニケーション演習 受け持ち患者の基礎情報からの学習	月	学内オリエンテーション・演習・GW 高齢者施設に関する事前学習と発表 アクティビティケア/PEAP に関する講義と AR によるコミュニケーション演習
火	病院実習（情報整理用紙の整理） ①「気づき」までを情報整理する ＊日々のカンファでリフレクション	火	施設実習（特養）臨地実習初日 ①施設オリ、多職種講和、担当利用者決定・情報収集（学生 2 名に対して 1 名の利用者） ②看護ケアの見学 ③担当利用者のケアはできるだけ一緒に実施
水	学内（情報整理用紙＋看護上の課題整理） ②看護上の課題までを整理して仕上げる （印刷して次の日のカンファの準備）	水	学内 ・担当利用への援助の方針検討 ・アクティビティケア内容の検討
木	病院実習 ③中間カンファレンス	木	施設実習 ⑤中間カンファレンス （ケアのポイントとアクティビティケア内容案をプレゼンして意見を頂く）
金	病院実習 支援計画実践	金	施設実習 ・担当利用者へのケア見学・実施 ・フロアでのアクティビティケアの検討
月	病院実習 支援計画実践	月	施設実習 ⑥フロアでのアクティビティケアの提供
火	病院実習 支援計画実践　④最終報告会 ＊看護実践の評価と実習の学びを発表	火	施設実習 ⑦最終報告会（学生の学びの発表）
水	学内オリエンテーション・演習・GW 高齢者施設に関する事前学習と発表 アクティビティケア/PEAP に関する講義 AR によるコミュニケーション演習	水	学内オリエンテーション・演習・GW フィジカルアセスメント・環境整備演習 AR によるコミュニケーション演習 受け持ち患者の基礎情報からの学習
木	施設実習（特養）臨地実習初日 ①施設オリ、多職種講和、担当利用者決定・情報収集（学生 2 名に対して 1 名の利用者） ②看護ケアの見学 ③担当利用者のケアはできるだけ一緒に実施	木	病院実習（情報整理用紙の整理） ①「気づき」までを情報整理する ＊日々のカンファでリフレクション
金	学内 ・担当利用者への援助の方針検討 ・アクティビティケア内容の検討	金	学内（情報整理用紙＋看護上の課題整理） ②看護上の課題までを整理して仕上げる （印刷して次の日のカンファの準備）
月	施設実習 ⑤中間カンファレンス （ケアのポイントとアクティビティケア内容をプレゼンし意見を頂く）	月	病院実習 ③中間カンファレンス
火	施設実習 ・担当利用者へのケアの見学・実施 ・アクティビティケアの検討	火	病院実習 支援計画実践
水	施設実習 ⑥フロアでのアクティビティケアの提供	水	病院実習 支援計画実践
木	施設実習 ⑦最終報告会（学生の学びの発表）	木	病院実習 支援計画実践　④最終報告会 ＊看護実践の評価と実習の学びを発表
金	学内まとめ 個人面談（自己評価表を基に）最終レポート作成	金	学内まとめ 個人面談（自己評価表を基に）最終レポート作成

科 目 別 実 習 計 画

No.8

実習科目	小児看護学実習		
実習単位	2 単位（90 時間）		
実習時期	4 年次　前期	実習期間	2 週間
実習目的・目標	目的 :「子どもの権利」の尊重を基盤にして、健康な子どもを理解するとともに、健康を障害された子どもとその家族に応じた看護実践に必要な知識や技術を学ぶ。 目標：　1．子どもへの関心を深め、子どもとの関係が築ける。 2．健康な子どもの成長・発達の特徴を理解する。 3．健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響について理解する。 4．健康障害をもつ子どもと家族のアセスメント（分析・解釈）を行い、必要な看護援助を理解する。 5.子どもの安全な生活とその保持について理解し､事故を防止する。 6．医療チームの一員として、看護師の役割や責務を理解する。 7．地域・在宅で生活する健康障害をもつ子どもと家族への必要な支援について理解する。		
実習方法	1．学生 1 グループを 5～6 名とし、こども園・幼稚園および病院に 1 週間ずつ配置する。 2．実習初日にこども園・幼稚園または病棟のオリエンテーションを受ける。 3．子どもへの看護ケアの見学及び実践を通じて、子どもやその家族にとって必要な看護について日々の記録から振り返る。 4．日々のカンファレンスや最終日のまとめのカンファレンスを通して、学びを深める。 ※実習目標に準じて、こども園・幼稚園、病院の順に実習を行うが、施設の都合により、病院実習がこども園・幼稚園実習より先となる場合もある。 ※実習スケジュールについては次頁別表参照		
実習場所	1．こども園・幼稚園（1 週間） 佛教大学附属こども園　　14～15 名×2 回、11 名×3 回、6 名×3 回　74 名 華頂短期大学附属幼稚園　6×1 回　6 名 計 80 名 2．病院（1 週間） 済生会吹田病院　5～6 名×5 回　29 名 京都第一赤十字病院　6 名×2 回　12 名 大津赤十字病院　4 名×1 回　4 名 滋賀県立総合病院　5～6 名×6 回　35 名 計 80 名		

実習指導形態	（病院）１．病棟ごとに病院看護師の中から臨床指導者を配置する。 ２．学生１グループ（5～6名）に対し、１名の教員を配置する。 ３．日々の看護ケアについては、臨床指導者や受け持ち患児の日々の担当看護師、教員が直接的な看護実践の指導を行う。 （こども園・幼稚園） 教員が各施設を巡回し、指導を行う。
実習指導教員	准教授２名（長谷川由香、鬼頭泰子） 助教１名（中谷香)、非常勤１名（河野優那） 計 4名
単位認定と評価	出席日数、実習内容、実習態度、実習記録から実習目標の達成の程度を実習科目担当責任者が評価し、単位を認定する。

【別表】小児看護学実習　実習スケジュール

1）子ども園・幼稚園実習

日程	実習場所	実習項目
1日目（月）	学内	・オリエンテーション ・幼児期の発達についての学習及び発表
2日目（火）	こども園・幼稚園	・子どもの発達及び子どもへの支援
3日目（水）	こども園・幼稚園	
4日目（木）	こども園・幼稚園	
5日目（金）	学内	・幼稚園実習の学びのまとめ ・実習の振り返り

2）病院実習

日程	実習場所	実習項目
1日目	学内	・オリエンテーション ・小児看護技術ノートの作成
2日目	病院	・病院・病棟オリエンテーション ・担当患児の情報収集 ・シャドウイング（看護ケアの見学及び一部実施） ・担当看護師との振り返り ・カンファレンス
3日目	病院	
4日目	病院	
5日目	学内	・オンラインを活用した住居地域における障害児支援についてのリサーチ、発表 ・実習のまとめ

※病院実習については、施設により臨地実習の曜日が異なる場合がある。

科 目 別 実 習 計 画

No.9

実習科目	母性看護学実習		
実習単位	２単位（90 時間）		
実習時期	４年次　前期	実習期間	２週間
実習目的・目標	目的：妊娠・分娩・産褥各期にある女性と新生児及びその家族を対象として、ウェルネスの観点から、健康の維持増進および健康上の課題を解決するための基本的な実践能力を習得する。また、地域における母性看護の役割や継続看護の必要性を理解する。 目標：１．受け持ち事例の看護過程を展開し看護を考えることができる。 ２．安全、安楽な実践的な看護を提供することができる。 ３．母子関係の形成過程（母親役割への適応過程・愛着など）を促進するための関わりを説明できる。 ４．地域で生活している母子、家族を理解し継続的な母子保健活動の実際を説明できる。 ５．母性看護における職種間での連携の必要性を説明できる。		
実習方法	１．学生 6～9 名を１グループとし、病院と助産院、各１週間の実習を行う。 ２．実習初日に施設のオリエンテーションを受ける。 ３．病院では学生 1～2 名で１組の母児を受け持ち、看護過程を展開する。 ４．助産院では施設で実施しているケア（妊婦健診、産後ケア、母乳育児支援等）を学び、地域母子保健活動について理解する。 ５．日々の実習記録により看護を振り返り、翌日の看護計画を立案する。 ６．実習最終日にカンファレンスを実施し、実習の学びを深める。 ※実習スケジュールについては次頁別表参照		
実習場所	病院 大阪府済生会吹田病院　5 名×4 回　20 名 京都大学医学部附属病院　4 名×2 回　8 名 大阪医科薬科大学病院　3～5 名×4 回　15 名 三菱京都病院　3～5 名×4 回　16 名 京都桂病院　3～4 名×4 回　14 名 京都中部総合医療センター　3～4 名×2 回　7 名 計 80 名 助産院 長尾助産院　1～2 名×10 回　14 名 あかり助産院　2 名×10 回　14 名 まある助産所　1～3 名×10 回　21 名 ひまわり助産院　1～2 名×10 回　16 名 つぐみ助産院　1～2 名×10 回　15 名 計 80 名		
実習指導	１．病棟ごとに病院看護師の中から臨床指導者を配置する。		

形態	２．学生１グループ（3～6 名）に対し、１名の教員を配置する。 ３．教員または臨床指導者が直接的な看護実践の指導を行う。
実習指導教員	教授１名（田尻后子）、講師１名（早瀬麻子）、助教１名（岡崎翠）、非常勤１名（吉田遥） 計 4 名
単位認定と評価	出席日数、実習内容、実習態度、実習記録から実習目標の達成の程度を実習科目担当責任者が評価し、単位を認定する

【別表】母性看護学実習　実習スケジュール

	曜日	場所	実習内容	
			A グループ（3～5 名）	B グループ（3～5 名）
第１週	月	大学	実習オリエンテーション、復習テスト 学内演習（個別に新生児のアセスメントと沐浴チェック）	
	火	助産院 or 病院	〔助産院〕	〔病院〕 外来、分娩室、 褥室・新生児室 NICU・GCU
	水			
	木		カンファレンス	
	金		学内	カンファレンス
第２週	月	助産院 or 病院	〔病院〕 外来、分娩室、 褥室・新生児室 NICU・GCU	学内
	火			〔助産院〕
	水			
	木		カンファレンス	カンファレンス
	金	大学	学内カンファレンス 評価面接および記録整理	

科 目 別 実 習 計 画

No.10

実習科目	精神看護学実習		
実習単位	2 単位（90 時間）		
実習時期	4 年次　前期	実習期間	2 週間
実習目的・目標	目的：精神の健康に障害を持つ人々を理解し、その人の人権を擁護しながらセルフケア能力を高め、地域へつなげていくための看護実践に必要な知識や技術を学ぶ。 目標：1．対象者との対人関係のプロセスを振り返り、治療的関係の重要性を学ぶ。 2．精神科医療における治療や治療環境の特殊性を理解し、看護師の役割や責務を理解する。 3．精神障害者の退院促進と地域生活支援の方法を理解する。 4．看護師と他職種との連携や家族への支援について理解する		
実習方法	1．学生 1 グループを 5～6 名とし、2 グループ毎に各病院に配置する。 2．実習初日に各施設のオリエンテーションを受ける。 3．1 名の患者を受け持ち、看護過程を展開する。 4．就労継続支援事業所やデイケアにおいて、地域で暮らす精神障害を持つ人の生活を理解する。 5．実習最終日にカンファレンスを実施し、実習の学びを深める。 ※実習スケジュールについては次頁別表参照		
実習場所	病院 いわくら病院　12 名×3 回　36 名　2 週間／回 北山病院　6～8 名×3 回　22 名　2 週間／回 洛南病院　6～8 名×3 回　22 名　2 週間／回 計 80 名 就労継続支援事業所 いきいき・いわくら　12 名×3 回　36 名　2 週間／回の内 1 日 あむりた　12～16 名×3 回　44 名　2 週間／回の内 1 日 計 80 名		
実習指導形態	1．病棟ごとに看護師の中から臨床指導者を配置する。 2．学生 1 グループ（6～8 名）に対し、1 名の教員を配置する。 3．教員または臨床指導者が直接的な看護実践の指導を行う。		
実習指導教員	教授 1 名（小宮敬子）、　准教授 1 名（阿部あかね）、　助教 1 名（山岸若菜）、非常勤 1 名（村上結唯） 計 4 名		
単位認定と評価	出席日数、実習内容、実習態度、実習記録から実習目標の達成の程度を実習科目担当責任者が評価し、単位を認定する		

【別表】精神看護学実習　実習スケジュール

週	時間帯	月	火	水	木	金
第1週	午前	病院オリエンテーション	病棟実習	帰校日（学内実習）	病棟実習	病棟実習
	午後	病棟実習	病棟実習		病棟実習	病棟実習 中間カンファレンス
第2週	午前	病棟実習	病棟実習	帰校日（学内実習）	病棟実習	病棟実習
	午後	病棟実習	病棟実習		病棟実習	病棟実習 全体カンファレンス

※実習施設ごとにデイケアやアルコールミーティングの参加を設定する。

※2 週間の内 1 日は就労継続支援事業所の実習を行う。

科 目 別 実 習 計 画

No.11

実習科目	統合実践看護実習		
実習単位	2 単位（90 時間）		
実習時期	4 年次　後期	実習期間	2 週間
実習目的・目標	目的：看護学の学習を土台に、学生各自が医療や看護の今日的テーマや課題を選定し、学習課題を探求するために、実践を通して看護実践能力の向上を図る。 目標：　1．テーマ・学習課題を明確にする。 2．科学的思考に基づいた看護実践を展開する。 3．専門的な実践活動について主体的に学ぶ。 4．保健・医療チームの一員としての行動をとる。 5．看護観を深め、自己の看護活動の発展の方向を考える。		
実習方法	1．学生が学習テーマあるいは課題を設定する。 2．学生の希望を考慮し、実習施設と教員を決定する。 3．各自の学習テーマあるいは課題を追求するための実習計画を立て、看護を実践する。 4．保健・医療チームの一員としての行動をとる。 5．実習最終日にカンファレンスを実施し、実習の学びを深める。 6．実習の成果は看護研究Ⅱにおいて実践的論文としてまとめる。 ※実習スケジュールについては次頁別表参照		
実習場所	京都第一赤十字病院　9 名（基礎） 大原記念病院　5 名（基礎） 日本赤十字社大津赤十字病院　3 名（小児） 大阪府済生会吹田病院　2 名（小児） 近江八幡市立総合医療センター　3 名（小児） 京都府立医科大学附属病院　4 名（クリティカルケア） 京都市立病院　4 名（クリティカルケア） 8 名（慢性） 京都市修徳地域包括支援センター（1 週間）　2 名（地域・在宅） ステーションイルカ（1 週間）　2 名（地域・在宅） 訪問看護ステーションひなた（1 週間）　3 名（地域・在宅） 訪問看護ステーションひろば（1 週間）　2 名（地域・在宅） 訪問看護ステーション絆　（1 週間）　2 名（地域・在宅） 西陣病院/訪問看護ステーション「西陣」（1 週間）11 名（地域・在宅） 京都民医連中央病院　8 名（老年） 医療法人稲門会いわくら病院　8 名（精神） 京都市壬生児童館　3 名（母性） 京都府助産師会　4 名（母性））		

	村田機械及び京都予防医学センター　4名（公衆衛生） ナーシングクリエイト　4名（公衆衛生） 計80名
実習指導形態	学習テーマおよび課題に沿って、教員が引率指導を行う。 必要に応じて、臨床指導者も指導に携わる。
実習指導教員	教授8名（山本直美、中島小乃美、安藤千晶、薮下八重、濱吉美穂、田尻后子、小宮敬子、浜崎優子） 客員教授1名（末安民生） 准教授6名（清水奈穂美、利木佐起子、長谷川由香、鬼頭泰子、阿部あかね、田野中恭子） 講師7名（岡田朱民、冨澤理恵、駒井和子、趙崇来、高岡寿江、阿部慈美、早瀬麻子） 助教10名（野口遼、鈴木皓一朗、中谷香、山本真子、松川泰子、山岸若菜・吉原文子、岡崎翠・山岡怜未・丸繁裕太） 計 32名
単位認定と評価	出席日数、実習内容、実習態度、実習記録から実習目標の達成の程度を実習科目担当責任者が評価し、単位を認定する

【別表】基礎看護領域　実習スケジュール

※学習テーマの探求は、受け持ち患者の看護実践や医療／看護チームの看護活動を通じて実践する。

週	曜日	場所	実習内容
第1週	月	大学	実習オリエンテーション 自己の学習テーマに基づいた実習計画の確認・修正、実習計画書の完成
	火	病院	病院・病棟別のオリエンテーション 受け持ち患者紹介、患者の状況把握（全体像をつかむ）、看護上の問題の理解、情報収集、実習計画を修正、病棟の計画に沿って、指導の下にケア実施
	水	病院	看護計画（看護目標、実施計画）について指導を受ける 指導の下にケア実施、患者の状況把握、全体像およびアセスメントの修正
	木	大学	収集した情報の整理、関連図作成、看護問題の整理、看護計画の明確化、自己の学習テーマの修正および整理
	金	病院	患者の状況把握、全体像およびアセスメントの修正、指導の下にケア実施、中間カンファレンス（指導者を交えて看護の方向性の確認、自己の学習テーマに関する学習状況の報告）
第2週	月	病院	看護計画の確認、指導を受ける 看護実践（計画の実施と評価）、自己の学習テーマに関する振り返り
	火	病院	主体的な看護実践（計画の実施と評価） 自己の学習テーマに関する振り返り

	水	病院	主体的な看護実践（計画の実施と評価） 自己の学習テーマに関する振り返り
	木	病院	主体的な看護実践（計画の実施と評価） カンファレンス：実習および学習テーマの評価、自己の看護観
	金	大学	ゼミ内での発表会 各記録の整理、学習テーマの整理

【別表】地域・在宅看護領域　実習スケジュール

<table>
<tr><th>週</th><th>時間帯</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th></tr>
<tr><td rowspan="2">第
1
週</td><td>午前</td><td rowspan="2">学内
オリエンテーション</td><td>施設オリエンテーション</td><td colspan="3" rowspan="2">病棟・認定看護師業務・入退院支援
訪問看護ステーション・地域包括支援センター</td></tr>
<tr><td>午後</td><td>病棟</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第
2
週</td><td>午前</td><td colspan="2" rowspan="2">病棟・認定看護師業務・入退院支援
訪問看護ステーション・地域包括支援センター</td><td>実習まとめ</td><td rowspan="2">学内まとめ
カンファレンス・記録</td></tr>
<tr><td>午後</td><td>最終ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ
（施設）</td></tr>
</table>

【別表】クリティカルケア看護領域　実習スケジュール

週	曜日	場所	実習内容	備考
第 1 週	月	大学	受け持ち患者の選定・学習 実習計画発表の準備、リハーサル	レジュメ作成
	火	病院	病院・病棟オリエンテーション 実習計画発表（pp） 受け持ち患者の紹介, 実習計画に基づき看護実践･評価･修正	各施設に分かれて実習
	水	病院	看護実践・評価・修正	
	木	病院	看護実践・評価・修正	
	金	病院	看護実践・評価・修正	
第 2 週	月	病院	看護実践・評価・修正	
	火	病院	看護実践・評価・修正	
	水	大学	実習の共有、まとめ	
	木	大学	発表準備	レジュメ作成
	金	病院	実習内容のまとめ発表（pp）	各施設に分かれて実施

【別表】慢性看護領域　実習スケジュール

週	曜日	場所	実習内容
第	月	病院	オリエンテーション、患者紹介

1週			学習テーマの実習計画発表 情報収集/分析　ケアの見学・実施
	火	病院	情報収集/分析　ケアの見学・実施
	水	大学	情報の分析　面談 患者の全体像の整理
	木	病院	情報収集/分析 看護実践・リフレクション
	金	病院	情報収集/分析 看護実践・リフレクション 中間カンファレンス
第2週	月	病院	看護実践・リフレクション
	火	病院	
	水	病院	
	木	病院	看護実践・リフレクション 病棟最終カンファレンス
	金	大学	学内合同カンファレンス 記録整理　面談

※ 原則として1週目は水曜日を学内実習日とする。

【別表】老年看護領域　実習スケジュール

	月	火	水	木	金
1週目	病院	学内	病院		
	・オリエンテーション ・受持患者選定 ・情報収集	看護実践計画の追加修正	看護実践計画の実施.		
2週目	病院				学内
	看護実践計画の実施と評価			病院・病棟報告会	・実習の振り返り ・レポート作成

【別表】小児看護領域　実習スケジュール

	曜日	場所	実習内容
第1週	月	病院	病棟オリエンテーション
	火	病院	実習計画に基づき、実施
	水	病院	
	木	病院	
	金	病院	
第	月	病院	

	火	病院	臨地実習におけるまとめの発表
	水	学内	実習のまとめ、記録整理
	木	学内	
	金	学内	学内での最終カンファレンス

【別表】母性看護領域　実習スケジュール

週	曜日	場所	実習内容
第1週	月	大学	実習オリエンテーション 乳幼児を持つ母親への防災に関する健康教育の指導案の作成（計画書の作成）
	火	壬生児童館	地域で行われている子育て支援に参加する（子どもとの遊びや母親とのコミュニケーションを通し育児への思いを聞く）
	水	午前：京都府助産師会 午後：学内	午前：地域で行われている子育て支援に参加する 午後：健康教育の計画書の再検討、修正、
	木	防災センター （京都・大阪）	防災センターで災害の現状について見学、体験学習を実施し、健康教育に活かす。
	金	大学	中間カンファレンス 健康教育の資料作り、指導のデモンストレーション
第2週	月	壬生児童館	地域で行われている子育て支援に参加する（子どもとの遊びや母親とのコミュニケーションを通し育児への思いを聞く）
	火	地区踏査	大学周辺地域を歩いて、防災に関する情報（避難場所、避難表示など）の観察や地域住民と会話を通して防災の状況を把握する。
	水	午前：京都府助産師会 午後：大学	午前：地域で行われている子育て支援に参加する 午後：健康教育の資料作り、デモンストレーション
	木	午前：児童館 午後：大学	午前：乳幼児を持つ母親を対象に防災についての健康教育実施、評価 午後：健康教育の計画、実施、評価の振り返り
	金	大学	2週間を振り返り、テーマカンファレンス 各記録の整理

【別表】精神看護領域　実習スケジュール

週	時間帯	月	火	水	木	金

第1週	午前	病院オリエンテーション	病棟実習	病棟実習	病棟実習	帰校日（学内実習）
	午後	病棟実習	病棟実習	病棟実習	病棟実習 中間カンファレンス	
第2週	午前	病棟実習	病棟実習	帰校日（学内実習）	病棟実習	病棟実習
	午後	病棟実習	病棟実習		病棟実習	病棟実習 全体カンファレンス

【別表】公衆衛生看護領域　実習スケジュール

1．地域・母子保健

週	曜日	場所	実習内容
第1週	月	大学	オリエンテーション
	火	地域	午前：オリエンテーション 午後：教室見学
	水	地域	午前：事業見学 午後：インタビュー準備
	木	地域	午前：教室見学 午後：インタビュー
	金	地域	午前：インタビューまとめ 午後：事業見学
第2週	月	地域	午前：事業見学 午後：インタビュー
	火	地域	午後：教室見学 午後：インタビュー
	水	地域	午前：学びの整理 午後：施設カンファレンス
	木	地域	午後：施設カンファレンス 午後：教室見学
	金	大学	カンファレンス

2．産業保健

週	曜日	場所	実習内容
第	月	大学	オリエンテーション

1週	火	事業所	午前：村田機械オリエンテーション 午後：安全衛生委員会見学
	水	事業所	午前：説明・インタビュー 午後：社内見学・説明
	木	事業所	午前：インタビュー 午後：保健師活動説明
	金	事業所	午前：質疑応答・カンファレンス準備 午後：カンファレンス
第2週	月	大学	記録・準備
	火	事業所	午後：予防医学センターオリエンテーション 午後：健康相談見学
	水	事業所	午前：インタビュー 午後：健康相談見学
	木	事業所	午後：保健師活動説明・質疑応答 午後：カンファレンス
	金	大学	カンファレンス

科 目 別 実 習 計 画

No.12

実習科目	公衆衛生看護学実習Ⅰ		
実習単位	1単位（45時間）		
実習時期	4年次　前期	実習期間	1週間
実習目的 ・目標	目的：学校および職域での対象者の生活や環境、健康課題を学び、それぞれの保健活動の意義、養護教諭や保健師の役割を理解する。 目標：1．学校保健 1）学校の特性に基づく教育計画及び運営組織を知り、その中における学校保健の位置づけ目標計画について知ることができる。 2）生徒の心身・生活状況及び健康課題の特質を考えることができる。 3）養護教諭の活動を知り、生徒の健康の保持増進、健康課題の発見と支援の実際を知ることができる。 4）家庭や組織、地域の関係機関の各役割と連携を知ることができる。 5）保健室や養護教諭の役割を考えることができる。 2．産業保健 1）事業所の特性を踏まえ労働者の生活・健康課題の特質を考えることができる。 2）労働衛生の5管理と看護職の活動を知り、労働者の健康の保持増進、健康課題への支援の実際を知ることができる。 3）総合健診センターの機能、組織、業務内容を知ることができる。 4）社内外の関係職種、関係機関との連携について知ることができる。 5）健康管理室や健診センター、保健師の役割を考えることができる。		
実習方法	1．実習場所で計画しているオリエンテーションをうける。 2．各事業の目的、内容、対象、準備、スタッフの役割、評価について学ぶ。 3．実習後は指導者に質問、気づいたこと、考察を伝え、助言を得る。 4．学んだこと、考察を記録する。 ※実習スケジュールについては次頁別表参照		
実習場所	1．学校保健 華頂女子高等学校　3名 東山中学高等学校　7名 京都文教中学高等学校　7名 計17名 2．産業保健 京都信用金庫　5名 オムロンエキスパートリンク　6名 京都予防医学センター　6名 計17名		
実習指導 形態	各施設の実習指導者の指導を受けるとともに、教員 3 名が各施設を巡回指導する。		

実習指導教員	教授１名（浜崎優子)、准教授１名（田野中恭子)、助教１名（松川泰子)、非常勤（押栗泰代） 計 4名
単位認定と評価	出席日数、実習内容、実習態度、実習記録から実習目標の達成の程度を実習科目担当責任者が評価し、単位を認定する

【別表】公衆衛生看護学実習Ⅰ　実習スケジュール

＊各学生が学校保健、産業保健として各 2 日間実習。実習場所受け入れ人数上限があり、学校保健は 5 グループ、産業保健は 3 グループに分かれて 2 週間の間に実習。

以下のスケジュールは１人の学生の実習スケジュール例

場所	週		月	火	水	木	金
学校保健	第1週	午前	学内オリエンテーション	施設オリエンテーション	施設説明・見学生徒対応		
		午後		施設説明・見学生徒対応	施設カンファレンス		
	第2週	午前					
		午後					学内カンファレンス
産業保健	第1週	午前	学内オリエンテーション	施設オリエンテーション	施設説明・見学健康相談		
		午後		施設説明・見学健康相談	施設カンファレンス		
	第2週	午前					
		午後					学内カンファレンス

科 目 別 実 習 計 画

No.13

実習科目	公衆衛生看護学実習Ⅱ		
実習単位	4 単位（180 時間）		
実習時期	4 年次　前期	実習期間	4 週間
実習目的・目標	目的: 地域の特性と健康課題を包括的に捉え、公衆衛生看護活動の実際と役割・機能を理解する。また、保健師として地域における個人・家族・集団・地域の健康の維持・増進に寄与できる基礎的能力を養う。 目標: 1. 地域診断の過程を理解し、地域の特性と健康課題、公衆衛生看護活動を関連づけて理解できる。 2. 保健所と市町村における公衆衛生看護活動の組織・体系を理解できる。 3. 地域で生活している個人・家族・集団の健康の維持・増進を目指し、セルフケア能力を高める支援方法について理解できる。 4. 社会資源との連携や地域ケアシステムの必要性を理解できる。 5. 公衆衛生看護の理念と保健師の役割について理解できる。		
実習方法	1. 計画は実習指導者と相談し作成する。 2. 実習方法 1)事前に既存データをもとに実習地域の診断、健康課題の抽出、事業案作成を行う。 2)保健所や市町村のオリエンテーションをうける。 3)家庭訪問:看護計画を立案後、見学・協力実習を行い、所定の記録を提出する。 4)保健事業:オリエンテーションを受けた後、目標を設定して見学する。 終了後はグループ討議の上、記録にまとめ、指導者の助言を得る。 5)地区組織・小集団活動:活動および保健師活動の経過を聞き、活動に参加する。 6)健康教育:指導者と相談の上、健康教育の対象・テーマを決め、企画・実施・評価を行う。 7)カンファレンス:日々のカンファレンスでは学生間で学びの整理、共有を行う。 中間・最終カンファレンスでは学びのまとめを作成し、討議する。 ※実習スケジュールについては別表参照		
実習場所	京都府保健所および管内の市町村、京都市で行う。原則として 1 施設 5 名または 6 名の学生を配置する。 1．京都府（総受入れ日数 130 日） 2．京都市（総受入れ日数 130 日以内） 1・2 を合わせて計 17 名 ※施設一覧は別記（実習施設は京都府・京都市の決定により確定する）		
実習指導形態	1．実習施設別に指導者を配置する。 2．原則学生 1 グループに対し、教員 1 名を配置する。 3．保健師実習指導者、教員の指導のもとに行う。		
実習指導	教授 1 名（浜崎優子）、准教授 1 名（田野中恭子）、助教 1 名（松川泰子）、非		

教員	常勤（押栗泰代） 計 4 名	
単位認定と評価	出席日数、実習内容、実習態度、実習記録から実習目標の達成の程度を実習科目担当責任者が評価し、単位を認定する	
施設一覧	1．京都府保健所及び市町村（京都市を除く）	2．京都市
	京都府乙訓保健所 京都府山城北保健所 京都府山城南保健所 京都府南丹保健所 京都府中丹西保健所 京都府中丹東保健所 京都府丹後保健所 福知山市役所 舞鶴市役所 綾部市役所 宇治市役所 宮津市役所 亀岡市役所 城陽市役所 向日市役所 長岡京市役所 八幡市役所 京田辺市役所 京丹後市役所 南丹市役所 木津川市役所 大山崎町役場 久御山町役場 井手町役場 宇治田原町役場 笠置町役場 和束町役場 精華町役場 南山城村役場 京丹波町役場 伊根町役場 与謝野町役場	京都市北区役所保健福祉センター 京都市上京区役所保健福祉センター 京都市左京区役所保健福祉センター 京都市中京区役所保健福祉センター 京都市東山区役所保健福祉センター 京都市山科区役所保健福祉センター 京都市下京区役所保健福祉センター 京都市南区役所保健福祉センター 京都市右京区役所保健福祉センター 京都市右京区京北出張所 京都市西京区役所保健福祉センター 京都市西京区役所洛西支所保健福祉センター 京都市伏見区役所保健福祉センター 京都市伏見区深草支所役所保健福祉保健センター 京都市伏見区役所醍醐支所保健福祉センター

【別表】公衆衛生看護学実習Ⅱ　実習スケジュール

日　程		場　所	実　　習　　内　　容
第1週	月	学内	オリエンテーション、準備学習
	火	保健所・市	オリエンテーション、実習目標発表、地域診断発表
	水	保健所・市	オリエンテーション、保健福祉事業、訪問事例紹介
	木	保健所・市	保健福祉事業、健康教育（デモ）
	金	学内	記録、学びの共有、家庭訪問準備
第2週	月	学内	家庭訪問準備、健康教育準備
	火	保健所・市	家庭訪問①、訪問記録
	水	保健所・市	保健福祉事業、訪問事例紹介、中間カンファレンスの準備
	木	保健所・市	中間カンファレンス（訪問や前半の学び、課題共有）
	金	保健所・市	保健福祉事業
第3週	月	学内	記録、学びの共有、家庭訪問準備
	火	保健所・市	家庭訪問②、訪問記録
	水	保健所・市	保健福祉事業
	木	保健所・市	保健福祉事業（健康教育の実施）
	金	学内	記録、学びの共有、地域診断の見直し
第4週	月	保健所・市	最終カンファレンスの準備
	火	保健所・市	最終カンファレンス、まとめ
	水	学内	まとめ、記録
	木	学内	学内合同カンファレンス
	金	学内	面接

実習実施資格判定基準表

【資料8】

系列区分	授業科目	単位	必修・選択別		履修開始セメスター	実習											
						コミュニティ実習	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ	地域・在宅看護学実習	クリティカルケア看護学実習	慢性看護学実習	老年看護学実習	小児看護学実習	母性看護学実習	精神看護学実習	統合実践看護実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ（保健師課程）	公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健師課程）
学科基礎科目	アカデミック・スキルズ	2	必		2				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	仏教看護	1	必		3				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	基礎解剖学	1	必		1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	基礎生理学	1	必		1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	病理学概論	2	必		2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	栄養学	2	必		2				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	疾病論Ⅰ	2	必		2				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	疾病論Ⅱ	2	必		2				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	疾病論Ⅲ	2	必		3				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	疾病論Ⅳ	2	必		3					○	○	○	○	○	○	○	○	○
	薬理学	2	必		3				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	公衆衛生学	2	必		2				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会福祉	2	必		2												○	○
	保健医療福祉行政論	2	必		3												○	○
	保健統計学	2	必		4												○	○
	看護学概論	2	必		1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	看護実践基盤技術論	2	必		1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	フィジカルアセスメント技術	1	必		2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生活行動援助技術論	2	必		2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	看護過程論	2	必		3				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	診療援助技術論Ⅰ	1	必		3				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	診療援助技術論Ⅱ	1	必		4				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	基礎看護学実習Ⅰ	1	必		2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	基礎看護学実習Ⅱ	2	必		3				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	コミュニティ実習	1	必		1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地域・在宅看護学概論	1	必		2				○				○	○	○	○	○	○
	地域・在宅看護方法論Ⅰ	2	必		3				○				○	○	○	○	○	○
	地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	必		4				○				○	○	○	○	○	○
	地域・在宅看護学実習	2	必		6											○	○	○
	クリティカルケア看護学Ⅰ	2	必		4					○			○	○	○	○	○	○
	クリティカルケア看護学Ⅱ	1	必		5					○			○	○	○	○	○	○
	クリティカルケア看護学実習	3	必		6											○	○	○

系列区分	授業科目	単位	必修・選択別		履修開始セメスター	実習												
						コミュニティ実習	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ	地域・在宅看護学実習	クリティカルケア看護学実習	慢性看護学実習	老年看護学実習	小児看護学実習	母性看護学実習	精神看護学実習	統合実践看護実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ（保健師課程）	公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健師課程）
学科専攻科目	慢性看護学Ⅰ	2	必		4						○		○	○	○	○	○	○
	慢性看護学Ⅱ	1	必		5						○		○	○	○	○	○	○
	慢性看護学実習	3	必		6											○	○	○
	老年看護学概論	1	必		3							○	○	○	○	○	○	○
	老年看護方法論Ⅰ	2	必		4							○	○	○	○	○	○	○
	老年看護方法論Ⅱ	1	必		5							○	○	○	○	○	○	○
	老年看護学実習	3	必		6											○	○	○
	小児看護学概論	1	必		3								○			○	○	○
	小児看護方法論Ⅰ	2	必		4								○			○	○	○
	小児看護方法論Ⅱ	1	必		5								○			○	○	○
	小児看護学実習	2	必		7											※		
	母性看護学概論	1	必		3									○		○	○	○
	母性看護方法論Ⅰ	2	必		4									○		○	○	○
	母性看護方法論Ⅱ	1	必		5									○		○	○	○
	母性看護学実習	2	必		7											※		
	精神看護学概論	1	必		3										○	○	○	○
	精神看護方法論Ⅰ	2	必		4										○	○	○	○
	精神看護方法論Ⅱ	1	必		5										○	○	○	○
	精神看護学実習	2	必		7											※		
	公衆衛生看護学概論	2	必		4												○	○
	公衆衛生看護方法論Ⅰ	2		選	4												○	○
	公衆衛生看護方法論Ⅱ	2		選	5												○	○
	公衆衛生看護展開論Ⅰ	2		選	5												○	○
	公衆衛生看護展開論Ⅱ	2		選	5												○	○
	公衆衛生看護管理論Ⅰ	2		選	5												○	○
	公衆衛生看護管理論Ⅱ	2		選	5												○	○
	国際看護学	1	必		3												○	○
	災害看護学	1	必		5												○	○
	エンドオブライフケア論	1	必		5				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ホリスティックケアアプローチ	1	必		5				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	看護研究Ⅰ	1	必		7											※		
関連科目	看護疫学	2		選	4												○	○

※　単位習得見込み

公衆衛生看護学の選択科目は（公衆衛生看護方法論Ⅰを除き）保健師課程の学生が履修対象となる。

【資料9】

実習施設一覧

No.	実習施設名	実習施設名（書類記載名称）	受入れ実習名	受入れ人数	住所	大学からの距離
1	日本赤十字社 大津赤十字病院	大津赤十字病院	基礎看護学実習Ⅱ	13	滋賀県大津市長等1丁目1-35	約13Km
			クリティカルケア看護学実習	24		
			慢性看護学実習	16		
			小児看護学実習	4		
			統合実践看護実習（小児）	3		
2	京都府公立大学法人 京都府立医科大学附属病院	京都府立医科大学附属病院	基礎看護学実習Ⅱ	16	京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465	約4.1km
			クリティカルケア看護学実習	8		
			慢性看護学実習	24		
			統合実践看護実習（クリティカルケア）	4		
3	地方独立行政法人京都市立病院機構 京都市立病院	京都市立病院	基礎看護学実習Ⅰ	20	京都市中京区壬生東高田町1の2	約1.8km
			基礎看護学実習Ⅱ	20		
			クリティカルケア看護学実習	24		
			慢性看護学実習	32		
			統合実践看護実習（クリティカルケア）	4		
			統合実践看護実習（慢性）	8		
4	社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会吹田医療福祉センター 大阪府済生会吹田病院	大阪府済生会吹田病院	クリティカルケア看護学実習	24	大阪府吹田市川園町１番２号	約37Km
			慢性看護学実習	8		
			小児看護学実習	29		
			母性看護学実習	20		
			統合実践看護実習（小児）	2		
5	日本赤十字社 京都第一赤十字病院	京都第一赤十字病院	基礎看護学実習Ⅰ	27	京都市東山区本町15丁目749番地	約5.3Km
			基礎看護学実習Ⅱ	13		
			小児看護学実習	12		
			統合実践看護実習（基礎）	9		
6	地方独立行政法人 市立大津市民病院	市立大津市民病院	基礎看護学実習Ⅰ	15	滋賀県大津市本宮2丁目9番9号	15.9km
7	医療法人社団洛和会 洛和会丸太町病院	洛和会丸太町病院	基礎看護学実習Ⅰ	12	京都市中京区七本松通丸太町上ル	1.2km
			基礎看護学実習Ⅱ	12		
8	社会医療法人健康会 京都南病院グループ　京都南病院	京都南病院	基礎看護学実習Ⅰ	6	京都市下京区西七条南中野町8番地	約2.9km
			基礎看護学実習Ⅱ	6		
9	京都大原記念病院グループ　京都大原記念病院	京都大原記念病院	統合実践看護実習（基礎）	5	京都市左京区大原戸寺街334番地1	約16ｋｍ
10	社会福祉法人 京都市社会福祉協議会 京都市左京老人福祉センター	京都市左京老人福祉センター	コミュニティ実習	16	京都市左京区高野西開町5 京都市左京合同福祉センター1階	約6.1ｋｍ
11	社会福祉法人 京都市社会福祉協議会 京都市山科中央老人福祉センター	京都市山科中央老人福祉センター	コミュニティ実習	16	京都市山科区西野大手先町2－1 京都市山科総合福祉会館2階	約9.7ｋｍ
12	社会福祉法人 京都市社会福祉協議会 京都市醍醐老人福祉センター	京都市醍醐老人福祉センター	コミュニティ実習	16	京都市伏見区醍醐高畑町30－1 パセオダイゴロー西館1階	約11ｋｍ
13	社会福祉法人 京都市社会福祉協議会 京都市下京老人福祉センター	京都市下京老人福祉センター	コミュニティ実習	16	京都市下京区花屋町通室町西入乾町292 京都市下京総合福祉センター2階	約3.0km
14	社会福祉法人京都市社会福祉協議会 京都市右京中央老人福祉センター	京都市右京中央老人福祉センター	コミュニティ実習	16	京都市右京区太秦森ケ前町22－3 京都市右京合同福祉センター2階	約5.5ｋｍ
15	京都市境谷地域包括支援センター	京都市境谷地域包括支援センター	地域・在宅看護学実習	10	京都市西京区大枝沓掛町13番地222	約9.3ｋｍ
16	社会福祉法人七野会 京都市原谷地域包括支援センター	京都市原谷地域包括支援センター	地域・在宅看護学実習	2	京都市北区平野八丁柳町66-3	約3.3ｋｍ
17	社会福祉法人京都福祉サービス協会 京都市修徳地域包括支援センター	京都市修徳地域包括支援センター	地域・在宅看護学実習	8	京都市下京区新町通松原下る富永町110-1	約2.3ｋｍ
			統合実践看護実習（地域・在宅）	2		
18	社会福祉法人京都福祉サービス協会 京都市西院地域包括支援センター	京都市西院地域包括支援センター	地域・在宅看護学実習	4	京都市右京区西院上今田町18-3	約1.0ｋｍ

実習施設一覧

No.	実習施設名	実習施設名（書類記載名称）	受入れ実習名	受入れ人数	住所	大学からの距離
19	社会福祉法人京都福祉サービス協会 京都市紫野地域包括支援センター	京都市紫野地域包括支援センター	地域・在宅看護学実習	4	京都市北区紫野西野町15番地	約3.8ｋｍ
20	社会福祉法人京都福祉サービス協会 京都市本能地域包括支援センター	京都市本能地域包括支援センター	地域・在宅看護学実習	10	京都市中京区蛸薬師通油小路東入 元本能寺南町346番地	約1.4ｋｍ
21	社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会 京都市西ノ京地域包括支援センター	京都市西ノ京地域包括支援センター	地域・在宅看護学実習	8	京都市中京区東中合町2番地	約1.5ｋｍ
22	医療法人医仁会 京都市醍醐南部地域包括支援センター	京都市醍醐南部地域包括支援センター	地域・在宅看護学実習	2	京都市伏見区石田森南町9	約12ｋｍ
23	社会福祉法人京都市社会福祉協議会 京都市東山地域包括支援センター	京都市東山地域包括支援センター	地域・在宅看護学実習	4	京都市東山区渋谷通本町東入４丁目鐘鋳町415-4	約4.4ｋｍ
24	社会福祉法人京都市社会福祉協議会 京都市御池地域包括支援センター	京都市御池地域包括支援センター	地域・在宅看護学実習	8	京都市中京区御池通柳馬場東入東八幡町579番地	約2.3ｋｍ
25	社会福祉法人京都市社会福祉協議会 京都市仁和地域包括支援センター	京都市仁和地域包括支援センター	地域・在宅看護学実習	8	京都市上京区御前通一条下る東堅町132－1	約2.2ｋｍ
26	社会福祉法人京都市社会福祉協議会 京都市陶化地域包括支援センター	京都市陶化地域包括支援センター	地域・在宅看護学実習	4	京都市南区東九条東札辻町６－１	約5.8ｋｍ
27	社会福祉法人京都市社会福祉協議会 京都市葛野地域包括支援センター	京都市葛野地域包括支援センター	地域・在宅看護学実習	8	京都市右京区西京極葛野町3番地	約3.1ｋｍ
28	医療法人同仁会（社団）京都九条病院　訪問看護ステーション・マム	訪問看護ステーション・マム	地域・在宅看護学実習	2	京都市南区唐橋羅城門町10	約4.5ｋｍ
29	公益社団法人 京都保健会 訪問看護ステーション太秦安井	訪問看護ステーション太秦安井	地域・在宅看護学実習	2	京都府京都市右京区太秦棚森町18-13京医協ビル2階	約2.3ｋｍ
30	公益社団法人　京都保健会 吉祥院訪問看護ステーション	吉祥院訪問看護ステーション	地域・在宅看護学実習	3	京都市南区吉祥院井ノ口町43	約4.4ｋｍ
31	株式会社えいむ 訪問看護ステーションえいむ	訪問看護ステーションえいむ	地域・在宅看護学実習	4	京都市左京区聖護院蓮華蔵町29	約3.7ｋｍ
32	有限会社 パイン・コーン 訪問看護ステーションゆりかもめ	訪問看護ステーションゆりかもめ	地域・在宅看護学実習	4	京都市左京区下鴨狗子田町5-5	約6.7ｋｍ
33	合同会社ゆい 訪問看護ステーションゆい	訪問看護ステーションゆい	地域・在宅看護学実習	2	京都市南区吉祥院西ノ庄東屋敷町126フィエスタヴィラ506	約4.0ｋｍ
34	社会医療法人岡本病院（財団） 訪問看護ステーションひまわり	訪問看護ステーションひまわり	地域・在宅看護学実習	6	京都府久世郡久御山町佐山西ノ口100番地	約16ｋｍ
35	一般社団法人右京医師会 訪問看護ステーション右京医師会	訪問看護ステーション右京医師会	地域・在宅看護学実習	6	京都市右京区梅津神田町57番地	約3.7ｋｍ
36	有限会社ティ・ケイ・ディ・コーポレーション ステーション イルカ	ステーションイルカ	地域・在宅看護学実習	4	京都市右京区山ノ内山ノ下町15－13	約2.2ｋｍ
			統合実践看護実習（地域・在宅）	2		
37	株式会社訪問看護ひなた 訪問看護ステーションひなた	訪問看護ステーションひなた	地域・在宅看護学実習	12	京都市西京区牛ヶ瀬西柿町70Cアミーユ桂川１Ｆ	約6.6ｋｍ
			統合実践看護実習（地域・在宅）	3		
38	特定非営利活動法人　福祉広場 訪問看護ステーションひろば	訪問看護ステーションひろば	統合実践看護実習（地域・在宅）	2	京都府京都市北区平野東柳町38番地	約3.7km
39	株式会社絆 訪問看護ステーション絆	訪問看護ステーション絆	統合実践看護実習（地域・在宅）	2	京都府宇治市木幡西浦３４番地４	約14Km
			地域・在宅看護学実習	6		
40	ピース・トラスト株式会社 ピース・トラスト訪問看護ステーション	ピース・トラスト訪問看護ステーション	地域・在宅看護学実習	6	京都府京都市右京区太秦門田町7-16	約3.0km
41	医療法人社団京健会 訪問看護ステーションさいきょう	訪問看護ステーションさいきょう	地域・在宅看護学実習	12	京都市右京区西院北矢掛町39番地1	約1.8km
42	医療法人相馬病院 訪問看護ステーションそうま	訪問看護ステーションそうま	地域・在宅看護学実習	8	京都市上京区御前通今小路下ル南馬喰町911番地	約2.5km
43	社会医療法人健康会 訪問看護ステーションみなみ	訪問看護ステーションみなみ	地域・在宅看護学実習	3	京都府京都市下京区西七条南中野町8番地（京都南病院6階）	約2.9km
44	社会福祉法人 京都社会事業財団 西陣病院	西陣病院	統合実践看護実習（地域・在宅）	11	京都府京都市上京区五辻通六軒町西入溝前町1035	約2.8km
45	公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	京都民医連中央病院	老年看護学実習	64	京都府京都市右京区太秦土本町2-1	約3.6km
			統合実践看護実習（老年）	8		
46	公益社団法人信和会 京都民医連あすかい病院	京都民医連あすかい病院	老年看護学実習	16	京都府京都市左京区田中飛鳥井町８９番地	約6.0km
47	社会福祉法人和順共生会 特別養護老人ホーム　和順の里	和順の里	老年看護学実習	80	京都市北区大北山原谷乾町 102番１	約6.2km
48	医療法人稲門会　いわくら病院	いわくら病院	精神看護学実習	36	京都市左京区岩倉上蔵町101	約11.5km
			統合実践看護実習（精神）	8		
49	医療法人三幸会　北山病院	北山病院	精神看護学実習	22	京都市左京区岩倉上蔵町123番地	約13ｋｍ
50	京都府立 洛南病院	洛南病院	精神看護学実習	22	京都府宇治市五ヶ庄広岡谷2番地	約12km
51	特定非営利活動法人 中小企業家コンソーシアム京都 就労継続支援事業所あむりた	あむりた	精神看護学実習	44	京都市中京区西ノ京東栂尾町7	0km(大学施設内)
52	医療法人稲門会 就労継続支援B型施設 いきいき・いわくら	いきいき・いわくら	精神看護学実習	36	京都市左京区岩倉上蔵町60番地	約11.5km
53	近江八幡市立総合医療センター	近江八幡市立総合医療センター	統合実践看護実習（小児）	3	滋賀県近江八幡市土田町1379	約42Km

実習施設一覧

No.	実習施設名	実習施設名（書類記載名称）	受入れ実習名	受入れ人数	住所	大学からの距離
54	滋賀県立総合病院	滋賀県立総合病院	小児看護学実習	35	滋賀県守山市守山５丁目4-30	約29Km (住所変更後も距離は同じ)
55	学校法人佛教教育学園 幼保連携型認定こども園 佛教大学附属こども園	佛教大学附属こども園	小児看護学実習	74	京都市右京区嵯峨広沢西裏町36-1	約6Km
56	学校法人佛教教育学園 華頂短期大学附属幼稚園	華頂短期大学附属幼稚園	小児看護学実習	6	京都市東山区林下町400-7	約4Km
57	国立大学法人 京都大学医学部附属病院	京都大学医学部附属病院	母性看護学実習	8	京都市左京区聖護院川原町54	約4.5
58	大阪医科薬科大学病院	大阪医科薬科大学病院	母性看護学実習	15	高槻市大学町2番7号	約28.5
59	三菱京都病院	三菱京都病院	母性看護学実習	16	京都市西京区桂御所町1番地	約5.9
60	社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院	京都桂病院	母性看護学実習	14	京都市西京区山田平尾町17	約7.5
61	京都中部総合医療センター	京都中部総合医療センター	母性看護学実習	7	京都府南丹市八木町八木上野25	約32
62	長尾助産院	長尾助産院	母性看護学実習	14	京都府向日市寺戸町西田中瀬8-20	約8.9
63	あかり助産院	あかり助産院	母性看護学実習	14	大阪府高槻市宮田町3丁目1-19 -1	約35
64	出張さんばステーション聖護院 海（まある）助産所	まある助産所	母性看護学実習	21	京都市左京区聖護院川原町12-7	約3.9
65	ひまわり助産院	ひまわり助産院	母性看護学実習	16	京都市上京区東堀川通丸太町上る六町目２１０−１	約2.1
66	公益社団法人　京都市児童館学童連盟 京都市壬生児童館	壬生児童館	統合実践看護実習（母性）	3	京都市中京区西ノ京北小路町５	約1
67	公益社団法人 京都府助産師会	京都府助産師会	統合実践看護実習（母性）	4	京都府京都市中京区西ノ京南両町３３−１	約1.3
68	つぐみ助産院	つぐみ助産院	母性看護学実習	15	京都市北区紫野宮西町10-99	約5.0km
69	学校法人佛教教育学園 華頂女子高等学校	華頂女子高等学校	公衆衛生看護学実習Ⅰ	3	京都市東山区林下町3-456	約4km
70	学校法人佛教教育学園 東山中学・高等学校	東山中学高等学校	公衆衛生看護学実習Ⅰ	7	京都市左京区永観堂町51	約5.3km
71	学校法人京都文教学園 京都文教中学校・高等学校	京都文教中学高等学校	公衆衛生看護学実習Ⅰ	7	京都市左京区岡崎円勝寺町5	約3.9ｋｍ
72	京都信用金庫	京都信用金庫	公衆衛生看護学実習Ⅰ	5	京都市下京区四条通柳馬場東入立売東町7番地	約2.1ｋｍ
73	オムロンエキスパートリンク株式会社	オムロンエキスパートリンク	公衆衛生看護学実習Ⅰ	6	京都市下京区塩小路通堀川東入	約3.2ｋｍ
74	一般財団法人　京都予防医学センター	京都予防医学センター	公衆衛生看護学実習Ⅰ	6	京都市中京区西ノ京左馬寮町28番地	約1.5ｋｍ
			統合実践看護実習（公衆衛生）	4 ＊NO**75**一般財団法人京都予防医学センター（1週間）＋NO**123**村田機械株式会社（1週間）の計2週間実習を行う。		
75	京都市北区役所保健福祉センター	京都市北区役所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ	左記のいずれかの保健福祉センター1か所で6名実習 ※ 実習人数の詳細は京都府、京都市が決定する	京都市北区紫野東御所田町33-1	約4.5ｋｍ
76	京都市上京区役所保健福祉センター	京都市上京区役所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市上京区今出川通室町西入堀出シ町285番地	約2.5ｋｍ
77	京都市左京区役所保健福祉センター	京都市左京区役所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市左京区松ヶ崎堂ノ上町7-2	約5.5ｋｍ
78	京都市中京区役所保健福祉センター	京都市中京区役所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市中京区西堀川通御池下る西三坊堀川町521番地	約1ｋｍ
79	京都市東山区役所保健福祉センター	京都市東山区役所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市東山区清水五丁目130番地の6	約4.5ｋｍ
80	京都市山科区役所保健福祉センター	京都市山科区役所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市山科区椥辻池尻町14-2	約9.5ｋｍ
81	京都市下京区役所保健福祉センター	京都市下京区役所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市下京区西洞院通塩小路上る東塩小路町608-8	約3.5ｋｍ
82	京都市南区役所保健福祉センター	京都市南区役所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市南区西九条南田町1-3	約3.7ｋｍ
83	京都市右京区役所保健福祉センター	京都市右京区役所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市右京区太秦下刑部町12番地	約3ｋｍ
84	京都市右京区京北出張所	京都市右京区京北出張所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市右京区京北周山町上寺田1-1	約19ｋｍ
85	京都市西京区役所保健福祉センター	京都市西京区役所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市西京区上桂森下町25-1	約5.2ｋｍ
86	京都市西京区役所洛西支所保健福祉センター	京都市西京区役所洛西支所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市西京区大原野東境谷町2丁目1-2　洛西総合庁舎内	約9.5ｋｍ
87	京都市伏見区役所保健福祉センター	京都市伏見区役所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市伏見区鷹匠町39-2 伏見区総合庁舎内	約10ｋｍ
88	京都市伏見区役所深草支所保健福祉センター	京都市伏見区役所深草支所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市伏見区深草向畑町93-1 深草総合庁舎内	約8.5ｋｍ
89	京都市伏見区役所醍醐支所保健福祉センター	京都市伏見区役所醍醐支所保健福祉センター	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都市伏見区醍醐大構町28 醍醐総合庁舎内	約13ｋｍ

実習施設一覧

No.	実習施設名	実習施設名（書類記載名称）	受入れ実習名	受入れ人数	住所	大学からの距離
90	京都府乙訓保健所	京都府乙訓保健所	公衆衛生看護学実習Ⅱ	左記のいずれかの保健所2か所で11名が実習 ※ 実習人数の詳細は京都府、京都市が決定する	京都府向日市上植野町馬立8番地	約11.5ｋｍ
91	京都府山城北保健所	京都府山城北保健所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府宇治市宇治若森7-6	約18ｋｍ
92	京都府山城南保健所	京都府山城南保健所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府木津川市木津上戸18-1	約35.5ｋｍ
93	京都府南丹保健所	京都府南丹保健所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府南丹市園部町小山東町藤ノ木21	約34.5ｋｍ
94	京都府中丹西保健所	京都府中丹西保健所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府福知山市篠尾新町1丁目91番地	約95ｋｍ
95	京都府中丹東保健所	京都府中丹東保健所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府舞鶴市字倉谷1350-23	約86ｋｍ
96	京都府丹後保健所	京都府丹後保健所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府京丹後市峰山町丹波855	約180ｋｍ
97	福知山市役所	福知山市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ	左記のいずれかの市町村2か所で11名が実習 ※ 実習人数の詳細は京都府、京都市が決定する	京都府福知山市字内記13番地の1	約93km
98	舞鶴市役所	舞鶴市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府舞鶴市字北吸1044番地	約96ｋｍ
99	綾部市役所	綾部市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府綾部市若竹町8番地の1	約72km
100	宇治市役所	宇治市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府宇治市宇治琵琶33番地	約21ｋｍ
101	宮津市役所	宮津市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府宮津市字柳縄手345-1	約98km
102	亀岡市役所	亀岡市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府亀岡市安町野々神8番地	約23ｋｍ
103	城陽市役所	城陽市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府城陽市寺田東ノ口16番地、17番地	約26km
104	向日市役所	向日市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府向日市寺戸町中野20番地	約11ｋｍ
105	長岡京市役所	長岡京市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府長岡京市開田一丁目1番1号	約13ｋｍ
106	八幡市役所	八幡市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府八幡市八幡園内75	約21ｋｍ
107	京田辺市役所	京田辺市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府京田辺市田辺80	約30ｋｍ
108	京丹後市役所	京丹後市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府京丹後市峰山町杉谷889番地	約115ｋｍ
109	南丹市役所	南丹市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府南丹市園部町小桜町47番地	約36ｋｍ
110	木津川市役所	木津川市役所	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府木津川市木津南垣外110-9	約40ｋｍ
111	大山崎町役場	大山崎町役場	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府乙訓郡大山崎町字円明寺小字夏目3	約18ｋｍ
112	久御山町役場	久御山町役場	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府久世郡久御山町島田ミスノ38番地	約18ｋｍ
113	井手町役場	井手町役場	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府綴喜郡井手町大字井手小字東高月8番地	約34ｋｍ
114	宇治田原町役場	宇治田原町役場	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府綴喜郡宇治田原町大字立川小字坂口18-1	約30km
115	笠置町役場	笠置町役場	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府相楽郡笠置町笠置西通90-1	約51ｋｍ
116	和束町役場	和束町役場	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府相楽郡和束町大字釜塚小字生水14-2	約51ｋｍ
117	精華町役場	精華町役場	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府相楽郡精華町大字南稲八妻小字北尻70番地	約35ｋｍ
118	南山城村役場	南山城村役場	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府相楽郡南山城村大字北大河原小字久保14番地1	約57km
119	京丹波町役場	京丹波町役場	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府船井郡京丹波町蒲生蒲生野487番地1	約45ｋｍ
120	伊根町役場	伊根町役場	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府与謝郡伊根町字日出651	約122km
121	与謝野町役場	与謝野町役場	公衆衛生看護学実習Ⅱ		京都府与謝郡与謝野町字岩滝1798番地1	約104km
122	村田機械株式会社	村田機械	統合実践看護実習（公衆衛生）	4 ＊NO**75**一般財団法人京都予防医学センター（1週間）＋NO**123**村田機械株式会社（1間）の計2週間実習を行う。	京都市伏見区竹田向代町136	約6ｋｍ
123	ナーシングクリエイト株式会社	ナーシングクリエイト	統合実践看護実習（公衆衛生）	4 （2週間）	滋賀県大津市朝日が丘1丁目14-19	約15ｋｍ
124	社会福祉法人 京都社会事業財団 訪問看護ステーション「西陣」	訪問看護ステーション「西陣」	統合実践看護実習（地域・在宅）	11	京都市上京区五辻通り七松西入上ル老松町103-57	約2.9km

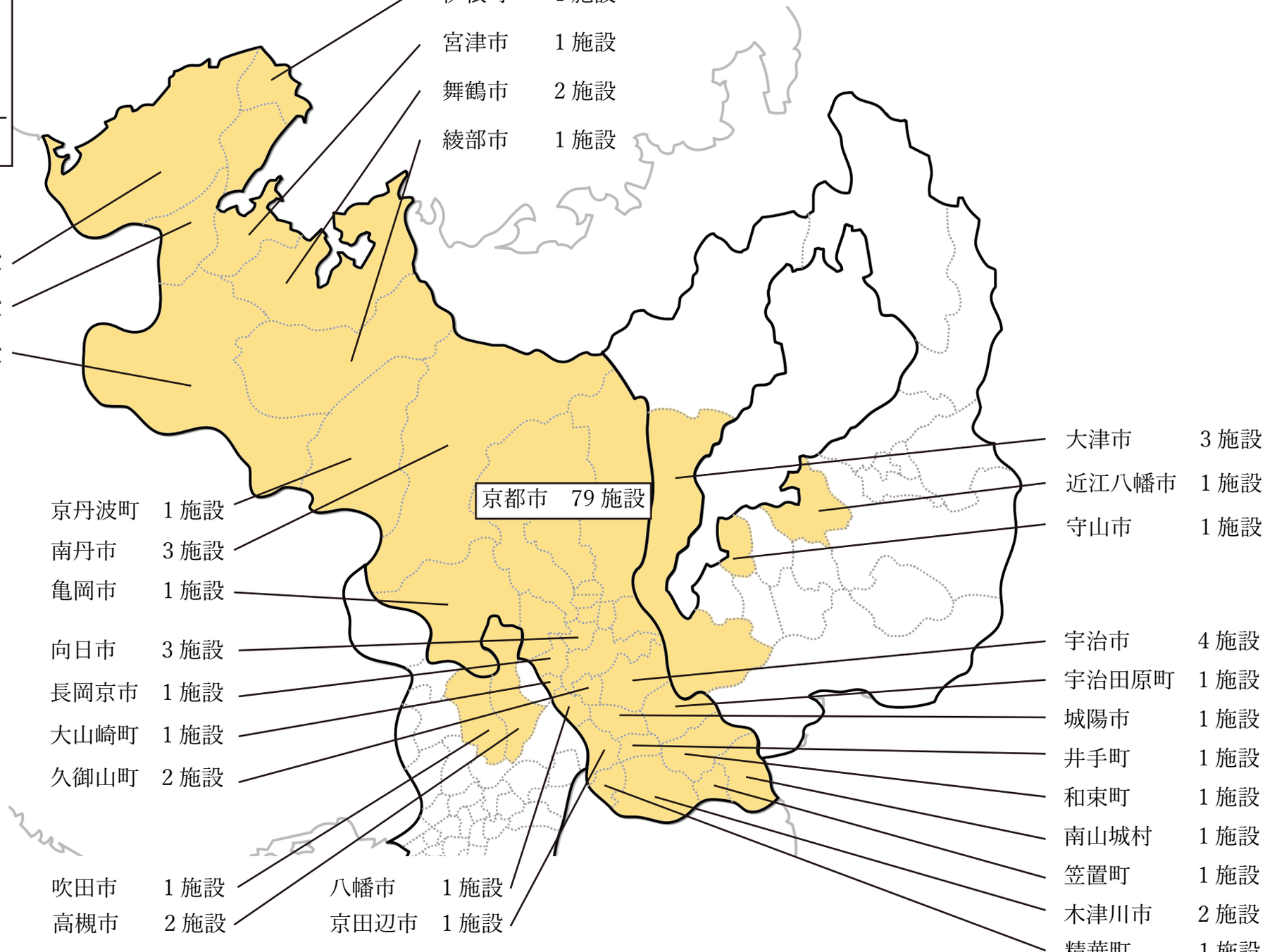
【資料 10】

※【資料 10】実習施設の承諾書については、省略

看護学部看護学科実習受入施設所在地

【資料11】

京都府	116 施設
滋賀県	5 施設
大阪府	3 施設
計	124 施設



臨地実習における個人情報の取り扱いに関する基本方針

臨地実習において、学生はケアの対象者である利用者の医療記録・看護記録などに触れる。また、これらの情報と学生自身の実践とを通じて看護学実習に関わる情報を得て、実習記録を作成する。教員は、学生のこれらの情報の取り扱い等について十分に指導することが必要となる。臨地実習に際しては、対象者の人権を尊重し、個人情報を保護するとともに、対象者への利益が最大となり、学生の学習効果が最大となることが期待される。

１．大学と実習施設との取り決め

臨地実習開始時に本学所定の「個人情報保護に関する誓約書」（本資料 別紙 1）を個々の学生が実習施設に提出する。患者に対しては、「佛教大学 看護学部看護学科 臨地実習説明・同意書」（別紙 2）を示し、教員と共に説明をする。ただし、実習施設にこれに関する規定が定めてある場合は、施設から十分な説明を受けた上で教員及び学生はこれに従う。

２．対象者への説明と同意

実習施設の管理者と担当教員は、個人情報の取り扱いについて対象者に説明し、同意を得る。同意を得る内容は、医療記録や看護記録から必要な情報を実習記録に記載すること、個人情報は匿名化すること、実習記録の保護方法、実習を通して知り得た個人情報についての守秘義務、目的外の使用はしないこと、などである。同意が得られない場合は実習の対象から除外する。学生は説明と同意の内容を十分に認識して実習に臨む。

対象患者に説明と同意について判断能力がない場合（認知障害者、精神障害者、知的障害者、意識障害者、18 歳未満者など）は、法定代理人（保護者、家族、その他）から臨床実習についての同意があることを確認する。

３．カルテ等の閲覧方法について

学生が看護記録や医療記録及び電子カルテを取り扱う場合は、実習施設の担当看護師の承諾を得た上で、所定の場所で閲覧し、閲覧後は元の場所に返却する。また、電子カルテの閲覧の際には、実習上必要な範囲についてのみの閲覧とする。

電子カルテ等の ID が付与された場合には、他者にその番号が知れることのないよう十分に注意するよう指導を徹底する。

４．個人情報の記載方法および取り扱いについて

個人情報の記載および実習記録の取り扱いに関しては、「実習共通要項」に「実習記録の取り扱い」（本資料 別紙 3）を示し、各実習科目のオリエンテーション時に以下の点を確認する。

1）対象者の氏名、生年月日、住所、電話番号、実習施設名など個人が特定できる可能性のある項目はメモや実習記録等に記載しない。
2）実習記録は 2 穴ファイルに綴じて管理し、所定の場所（実習施設、大学、自宅）以外では開かない。また、公共の場で実習記録を記載しない。
3）原則、実習記録の作成にパソコンの使用は禁止する。レポートをパソコンで作成する際は、自宅・学内のものに限定する。
4）診療記録や看護記録を学生がコピーやプリントアウトすることは禁止する。
5）カンファレンスに使用するなど記録物をコピーする際は、原則学内のコピー機か、大学から施設に持ち込んだコピー機を使用する。施設のコピー機を使用する場合、コピーは教員か臨地実習指導者の指導のもとに行い、コピー後は原本の取り忘れがないか複数名で確認する。
6）実習記録は厳重に管理し絶対に紛失しないよう十分注意する。万が一紛失した場合は、速やかに実習担当教員へ報告する。
7）実習中に使用したメモ、実習記録、カンファレンス用紙等が不要になった際には原則として学生が速やかにシュレッダーで裁断破棄する。
8）各臨地実習が終了した後、提出された実習記録は次学期開始以降に学生に返却されるが、それら実習記録が不要になった際には学生が責任をもって速やかにシュレッダーで裁断破棄する。各自のパソコンや USB 等に保存した情報も速やかに消去する。

5．個人情報の管理責任について

学生が実習中に知り得た個人情報の管理責任は、担当教員及び学生の両者にある。万一、情報が漏洩した場合は、「事故発生時の対応・報告」（資料 15）に準じて直ちに教員を通じ、実習施設責任者及び大学へ報告する。情報の漏洩により対象者に多大な不利益を与えることとなった場合は、その責任は上級管理者にまで及ぶため、守秘義務、個人情報の保護、診療情報の提供に関する責務等を教員・学生に周知徹底する。

6. 実習記録の開示請求について

学生の実習記録の開示を対象者やその家族に求められた場合、開示に応えられる範囲は限られる。学生の体験から得られた感想などの事項、教員からの指導に関わる事項については、学生個人の情報であり、情報開示の範囲には入らない。しかし、学生は対象者やその家族の同意を得て実習を行っているので、可能な限り対応する。

別紙１

個人情報保護に関する誓約書

（　施　設　名　）

（　施　設　長　名　）　様

貴施設での実習を行うにあたり、貴施設の個人情報に関する規定を遵守します。

また、実習期間中に知り得た個人情報、貴施設および貴施設関係機関の情報等を、実習期間中はもちろん実習期間終了後においても、第三者に故意または過失によって漏洩したり、貴施設に無断で使用しないこと、およびその結果として貴施設に損害をかけないことを誓約いたします。

年　　月　　日

学校法人佛教教育学園　佛教大学

看護学部看護学科

学生氏名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

別紙２

佛教大学 看護学部看護学科 臨地実習説明・同意書

本学科の学生が、患者様の日常生活の援助および診療の補助などの臨地実習をさせていただきます。看護学教育の必要性をご理解いただき、受け持ち患者様となられることにご協力をお願いいたします。

実習は、以下の基本的な考えに基づいて行われます。

1. 学生が行う看護について、事前に十分に説明し、患者様・ご家族様の同意を得て実施いたします。
2. 学生が看護を行う際には、事前に看護教員や看護師の助言・指導を受けて、患者様の安全性の確保を最優先に実践いたします。
3. 学生は、プライバシーを固く守り、実習を通して知り得た患者様・ご家族様に関する情報を他の人に漏らすことはありません。
4. 学生は感染症予防のため、実習開始前より実習期間を通して体温測定を行い、体調管理を行いながら慎重に行動しています。万一、実習中に体調不良が生じた際は、一時的に実習を中止させていただく場合があります。
5. 学生の実習への協力に同意されなくても、患者様の看護および診療に不利益が生じることはありません。また、同意された後でも、学生が行う看護についてお断りいただいても結構です。その場合も、不利益を受けることはありません。学生の実習に関するご意見、ご質問、ご希望がございましたら、いつでもお申しつけください。

実習科目名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習施設名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

説明日：　　年　　月　　日

説明者：所属：佛教大学看護学部看護学科

実習担当教員 氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※上記の説明者が異なる場合　所属：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

私は、佛教大学 看護学部 看護学科の学生が、臨地実習を行うことについて、上記のとおり説明を受けました。その内容について、理解・納得しましたので、下記の学生が受け持つことに同意します。

実習学生：佛教大学看護学部看護学科

＿＿＿年生　氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習期間：＿＿＿年　＿＿月　＿＿日　～　＿＿年　＿＿月　＿＿日

年　　月　　日

患者様・利用者様　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

代理同意人　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご本人との関係（＿＿＿＿＿＿＿＿）

別紙３

表．実習記録の取り扱い

<table>
<tr><th></th><th colspan="4">実習中</th><th colspan="2">実習終了後</th></tr>
<tr><th></th><th colspan="4"></th><th>（学内）</th><th>（自宅）</th></tr>
<tr><td>記録の流れ</td><td>【情報収集】
・診療/看護記録等
・対象者や家族
・学生自身の観察</td><td>【メモから転記】
・日々の実習記録等</td><td>【看護過程の展開】
・看護実践の記録</td><td>【その他】
・カンファレンス資料、メモ等</td><td>・提出
・教員による評価
・返却</td><td>・保管
・廃棄</td></tr>
<tr><td>学生の注意事項</td><td colspan="4">・診療/看護記録や検査データ等のコピーは禁止する。
・実習記録等の保管場所と記録する場所を徹底厳守する。
・実習記録は２穴ファイルに綴じて持ち歩き、実習場所や学内、自宅以外で開かない。
・個人が特定できない記録方法を遵守する。
・パソコンはレポート作成時のみ使用可であるが、インターネット接続下では使用しない。また使用してよいパソコンは学内と自宅のものに限定し、USB 等記録媒体の取り扱いは厳重に行う。
・スマートフォン等の情報端末機は使用しない。
・カンファレンスで使用する等、記録物をコピーする際は、教員か臨地実習指導者の指導のもとに行う。
・コピーは指定されたコピー機にて行い、コピー後は原本の取り忘れがないか複数名で確認する。</td><td>・実習の提出方法は実習科目担当者の指導に準ずる

・メモや実習記録等は学生が責任を持って廃棄するが、適切な廃棄が困難な場合には教員に相談する。USB 等のデータも忘れずに消去する。</td><td>・実習記録は自宅にて
学生が責任をもって管理、保管する。
不要になった際にはシュレッダーで裁断廃棄する。</td></tr>
</table>

【資料 13】

実習中の事故に関する取り決め

Ⅰ　事故防止

事故防止について、実習時間内だけでなく常に事故（アクシデント）が発生しないように注意を払い、また明らかな事故に至らなくても、一歩間違えば事故につながる可能性の高い出来事（インシデント）についても十分に注意を要することを説明する。また、不安なことが生じた場合は、具体的に学生が取る行動について下記の①～⑦を説明し、事故の発生防止に努める。

① 不安な事象が発生した場合は、速やかに担当看護師、担当教員、実習指導者に報告する。
② 看護援助の実施にあたっては、看護技術等の事前学習を十分に行う。
③ 個々の援助は対象者の心身の状態や環境を十分考慮し、同意を得て、臨地実習指導者や教員と共に実施する。
④ 対象者の状態や異常を感じたときは、近くの医療従事者に速やかに報告する。
⑤ 使用する物品は丁寧に取扱い、後始末や保管は確実に行う。
⑥ 他学生が事故に遭遇しないように学生同士が啓発予防行動を心がける。
⑦ 実習場所においては、チームの一員として自覚ある行動をとる。

Ⅱ　事故発生時の対応

事故発生時は次ページの図のように速やかに情報共有し、対応する。

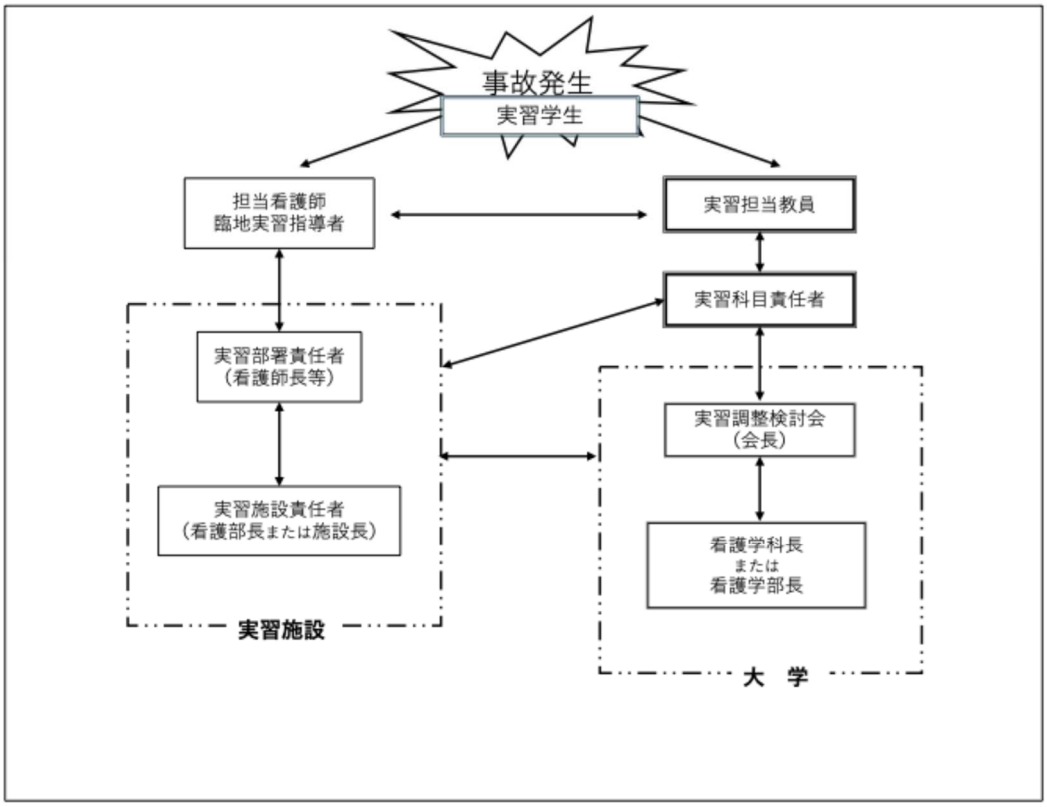


図. 事故発生時の連絡・指示体制

1　身体に影響を与える事故の発生時（転落・転倒、誤薬、熱傷、擦過傷等）

1）身体に影響を与える事故の発生時には、速やかに近くの看護師あるいは臨地実習指導者、教員に伝える。対象者の側に学生だけしかいない場合は、対象者の側を離れず緊急用ナースコールを用いて看護師を呼ぶなど、対象者の安全を第一に行動する。

2）臨地実習指導者と教員は事故の状況を確認し、実習施設責任者（看護師長）、実習科目責任者に報告する。実習科目責任者は実習調整検討会長、学科長、学部長へ報告を行い、大学内での対応を検討する。その後は大学および施設双方の取り決めによって対応を行う。大学と施設との協議は、事故のレベルに応じて実習科目責任者か、大学の担当者が行う。

3）学生および教員はともに時系列で丁寧に事象を振り返り「インシデント・アクシデント報告書」（別紙 1）を作成して実習施設、大学に報告する。振り返る際に、担当教員は学生の心的負荷に十分配慮して、できる限り複数の教員で援助的に関わるとともに、必要時には大学内の心理カウンセラーへの相談を勧める。

4）金銭的負担や、賠償責任が発生するような場合は、加入している「総合保証制度 Will」の手続きを行うよう指導する。

２　学生本人または他者に対する注射針等による事故

１）穿刺部位の洗浄、消毒をただちに行い医師の指示に従う。

２）学生は、「事故発生時の連絡・指示体制」にもとづいて教員、臨地実習指導者または実習施設責任者（看護師長）に報告し、指示に従う。

３）感染予防に関しては、受診し、医師の指示に従う。

４）学生は、速やかに加入している「日本看護学校協議会共済会の総合補償制度 Will」の手続きを行う。

３　物品等の破損・紛失等

１）学生は施設備品・物品及び患者の持ち物を破損した場合は、「事故発生時の連絡・指示体制」にもとづき、速やかに臨地実習指導者・教員に報告し、指示を受ける。

２）臨地実習指導者・教員は破損状況を確認し、実習施設責任者（看護師長)、実習責任者（教授）に報告する。

３）学生および教員は、「インシデント・アクシデント報告書を」作成して「実習施設、大学に報告する。

４）破損状況により、必要に応じて「日本看護学校協議会共済会の総合補償制度 Will」で対応する。

４　個人情報の漏洩、消失等

１）学生が実習記録等を紛失した場合は、教員と心当たりを探すと共に「事故発生時の連絡・指示体制」にもとづき速やかに対応する。

２）臨地実習指導者・教員は状況を確認し、病棟責任者および実習科目責任者に報告する。

３）学生および教員は時系列で丁寧に振り返り、「インシデント・アクシデント報告書」を作成し、科目担当者へ提出する。実習施設の求めに応じて提出する。

４）SNS を通じた情報漏洩などが発生した場合は、「事故・災害発生時の連絡体制」に准じて対応する。

① 実習担当教員は、情報流出の範囲を確認し、証拠データを保存する（紙媒体への印刷等）。

② 実習担当教員立ち会いのもとで当該学生にデータ消去を指示し確認する。

③ 学生間のみに情報が発信された場合は、情報を受信した学生全員にデータを転送しないよう指示する。次に受信した学生全員のデータ消去を指示し、最後に消去したことを確認する。

④ 実習担当教員または実習科目責任者は、必要に応じて同時期に実習を行っている教員への周知を検討し、連絡する。

⑤ 実習担当教員は当該学生とともに「インシデント・アクシデント報告書」を作成し、証拠データ（印刷等）とともに実習科目責任者へ提出する。実習科

目責任者は、実習調整検討会長に提出し、実習調整検討会長はそれを保管する。

⑥ 実習科目責任者、実習調整検討会長、学科長が協議をし、学部レベルでの対応が必要と判断した場合、実習調整検討会長より学生支援検討会長に報告し対応する。

⑦ 実習担当教員と実習科目責任者は、当該学生と、情報を受信した学生の指導を行う。

5. 災害時および交通機関の運行停止への対策

災害時、および交通機関の運行停止等の場合については、詳細を「実習共通要項」に記載するとともに、大学内での取り決めに基づいて休講および休講解除を行う。この時間外での対応が必要な場合は、学生自身の安全を確保した上で担当教員、または実習施設へ連絡し、対応を相談するよう指導する。

表．休講の解除について

運行再開または警報解除の時刻	開 始 時 刻
午前 6 時 30 分までに解除・開通	通常通り
午前 6 時 30 分から午前 10 時までに解除・開通	午後 1 時より実施
午前 10 時以降も解除・開通されない	全日休止

（STUDY GUIDE 参照）

6. **暴力・ハラスメント発生時の対応**

1）学生がハラスメントを受けた時の教員の対応

① 学生が対象者や臨地実習施設のスタッフからハラスメントを受けた場合は、基本的に「事故・災害発生時の連絡体制」に沿って報告・対応する。但し、誰からのハラスメントであるかによりこの通りではない。

② 学生が学生間や教員からハラスメントを受けた場合は、学生に佛教大学人権教育センターハラスメント相談室（電話　075-493-9109)、もしくは看護学科実習調整検討会長か看護学科長に相談できることを説明する。

③ 学生から相談を受けた教員は、実習科目責任者か実習調整検討会長、あるいは看護学科長に報告する。

2）学生がハラスメントを行った時の教員の対応

学生がハラスメントを行った場合は「事故・災害発生時の連絡体制」に沿って報告・対応する。ただし、誰へのハラスメントであるかによりこの通りではない。

別紙 1

インシデント・アクシデント報告書

＿＿＿

佛教大学インシデント・アクシデントレベル区分

レベル区分	内容
1-a	間違ったことが実施される前に**学生が**気付いた
1-b	間違ったことが実施される前に**指導者や教員が**気付いた
2	間違ったことが実施されたが、患者には被害や影響はなかった
3	間違ったことが実施されたことにより、安全確認のための検査や、軽微な処置（消毒、湿布、鎮痛剤投与等）が必要となった
4	間違ったことが実施されたことにより、濃厚あるいは継続的な治療が必要となった

【資料 14】

2026 年度

実習共通要項

BUKKYO UNIVERSITY

佛教大学看護学部看護学科

学籍番号	氏　名

実習共通要項　目次

Ⅰ. 看護学実習の概要 1

1. 実習の基本方針 1
2. 実習の目的 1
3. 実習の目標 1
4. 看護学実習の評価 1

Ⅱ. 看護学実習の構成と展開 2

1. 看護学実習の科目別内容 2
2. 臨地実習の指導体制 3

Ⅲ. 看護学実習における倫理的配慮 4

Ⅳ. 個人情報の取扱い 4

1. 個人情報の保護 4
2. 守秘義務 4
3. 診療・看護記録等の閲覧方法 5
4. 個人情報の記載方法と実習記録の取扱い（P.7 表 2 参照） 5
5. ソーシャルメディア使用にあたり 6

Ⅴ. 健康管理と感染予防対策 7

1. 健康管理 8
2. 具体的な感染予防対策と感染の伝播防止対策 8
3. 感染を疑う場合の対応 10
4. 感染時の対応 10
5. 感染症罹患等における補習実習について 11

Ⅵ. 看護学実習における留意事項 13

1. 実習態度 13
2. 礼儀とマナー 13
3. 暴力（ハラスメント・その他） 14
4. その他 15

Ⅶ. 事故などによる交通機関の遅延・運行停止に伴う実習時の対応 15

Ⅷ. 特別警報・暴風警報および災害時の対応 16

1. 災害や災害リスクに遭遇した場合の対応の原則 16
2. 実習休止の措置 16

Ⅸ. 臨地実習中の事故防止と報告 17

1. 主なアクシデントの種類 17
2. 事故予防における留意点 17
3. 事故発生時の対応・報告（図 3 参照） 18
4. 保険等の加入について 18

＜資料＞ 19

インシデント･アクシデント報告書 19
佛教大学インシデント・アクシデントレベル区分 20
佛教大学 看護学部看護学科 臨地実習説明・同意書 21
「感染症検査結果報告書」貼付欄 22
抗体価検査等の結果報告書 24
看護職の倫理綱領 25
看護技術到達度チェックリスト 26

Ⅰ．看護学実習の概要

1．実習の基本方針

本学科では、高い看護実践能力を習得するため、「生きた臨床」での学びとして臨地実習に最も重点を置く。臨地実習をとおして看護を支える思想とともに、知識・技術の習得から看護実践能力の向上までを目指す。その際、本学の建学の理念でもある共生（ともいき）の精神をもち、看護の対象となる人々の「生きる」と「健康」を第一義と考えた看護実践を行う。

2．実習の目的

臨地実習では、さまざまな場で生活する人のあらゆる健康レベル、発達段階に対して、講義・演習で学んだ各看護学等の統合した知識と技術を、対象への実際的な関わりをとおして実践し、対象に応じた総合的な看護実践能力と専門職としての倫理観・態度を育成することを目的とする。

3．実習の目標

1）さまざまな実習経験をとおして、個々の対象を尊重しながら、主体的に発展的な人間関係を築くように努め、対象を総合的に理解する能力を養う。

2）看護の対象となる人々を全人的・総合的に理解するとともに、健康レベルやライフステージにおける心身の状態や生活を理解し、その対象に応じた適切な看護を科学的な判断に基づいて計画的に実践する能力を養う。

3）看護に求められる高い職業倫理を身につけ、かつ人としての権利である人権を踏まえたヒューマンケアを実践する能力を養う。

4）地域における生活者と触れ合うことをとおして、地域コミュニティに関する理解や在宅看護における種々の課題や問題点を把握する能力を養う。

5）保健・医療・福祉分野における関連職種の役割や活動を理解し、多職種との連携や社会資源の活用をとおして、看護職としての役割と責務を考える。

6）臨地実習をとおして看護職としての自己覚知の確立と看護実践能力の充実・向上を図るために、研究的視点とそのための研究倫理をもつことの重要性を理解する。

4．看護学実習の評価

成績評価は、臨地実習指導者と情報交換しながら、実習内容、実習記録、実習態度、学生面接等によって総合的評価を行い、各実習科目責任者が単位認定を行う。

補習は原則として実施しない。

Ⅱ．看護学実習の構成と展開

1．看護学実習の科目別内容

看護学実習の展開は、1 年次から 4 年次に、様々な場所で、ライフステージや健康レベルの違う対象と向き合うことにより、看護実践能力を高め、主体的に学び続ける態度を養うことができるように、基礎から専門領域、統合実習へと段階的・発展的に学ぶ。

表 1．看護学実習の構成と展開

年次別	実習の内容	実習科目	単位数(時間数)
1 年次	1 年次は、早期体験実習としてコミュニティ実習を配置し、地域で暮らす人々を知り、生活者として理解する。 基礎看護学実習Ⅰは、病院や病棟の療養環境について理解し、患者と同じ立場で医療を考えながら、看護の役割を考える。	コミュニティ実習 基礎看護学実習Ⅰ	1(45) 1(45)
2 年次	基礎看護学実習Ⅱは、疾患を持つ対象の理解、看護過程の展開による基礎的な看護実践能力を養う。	基礎看護学実習Ⅱ	2(90)
3 年次	3 年次からは各専門領域の実習（地域・在宅看護学、クリティカルケア看護学、慢性看護学、老年看護学、）を配置し、疾患や対象、看護の場の違いなどから、看護の役割や継続看護について理解を深める。また、臨床推論に基づいた科学的な看護実践能力の習得を図る機会とする。全実習を通して様々な健康レベルの人々の価値観や考え方にふれ、自己の看護実践を振り返り、看護観や倫理観を高める。	地域・在宅看護学実習 クリティカルケア看護学実習 慢性看護学実習 老年看護学実習	2(90) 3(135) 3(135) 3(135)
4 年次	母性・小児・精神看護学の 3 領域において、対象や場の違いに応じた実習を通して、看護の専門性の理解と実践能力を習得する。また、実践者としての自己を振り返り、看護観や倫理観を高める。	母性看護学実習 小児看護学実習 精神看護学実習	2(90) 2(90) 2(90)
	選択　保健師課程の公衆衛生看護学実習は、地域社会における個人・家族・集団・地域の健康の維持・増進に焦点をあて、地域特性をふまえた健康問題の把握、地域保健活動の計画・実践・評価を行い、地域保健活動の展開能力を高める。	公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ	1(45) 4(180)
	統合実践看護実習は、4 年間の学修の集大成として理論と実践の統合を図る。自らが関心を持ったテーマを持ち、関連するフィールドで実習を行うことで、総合的実践能力を高める。	統合実践看護実習	2(90)

<table>
<tr><th>月
年次</th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td>1年次</td><td colspan="4"></td><td colspan="4">コミュニティ実習</td><td colspan="3"></td><td>基礎Ⅰ</td><td></td></tr>
<tr><td>2年次</td><td colspan="5"></td><td>基礎Ⅱ</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>3年次</td><td colspan="7"></td><td colspan="3">地域在宅・ｸﾘﾃｨｶﾙｹｱ・
慢性・
老年・</td><td></td><td>地域在宅・
ｸﾘﾃｨｶﾙｹｱ・
慢性・
老年</td><td></td></tr>
<tr><td>4年次</td><td></td><td colspan="3">小児・母性・精神・
公衆衛生Ⅰ</td><td colspan="2">公衆衛生Ⅱ</td><td>統合
実習</td><td colspan="5"></td></tr>
</table>

図 1．年次別臨地実習計画

2．臨地実習の指導体制

基本的には、実習担当教員は教育計画全体および学習進捗状況を巨視的に把握し、実習を推進する役割を担う。一方、臨地実習指導者は日常の看護業務の中で具体的な患者ケアをとおして実習指導を行う役割を担う。

1）実習担当教員と臨地実習指導者の役割と責任

学生への教育的な指導は実習担当教員が責任を持つが、各実習施設における患者・利用者への直接的な関わりについては、臨地実習指導者の責任のもとで協力を得ながら行う。医療機関の他、訪問看護ステーション、保健所・保健センター等の実習施設においても、臨地実習指導者講習の受講者を中心とした臨地実習指導者、あるいは十分な臨床経験を持つ専門家が、臨地実習指導者として実習担当教員と連携し指導にあたる。臨地実習指導者はベッドサイドでの看護の指導に責任を持つとともに、看護職としてのロールモデルを示し、学生への動機付けを行う。

2）役割分担

(1)臨地実習指導者の役割

臨地実習指導者は、実習目的・目標計画に基づき、実習指導を実施する。

①指導計画の修正および看護過程における指導や助言を行う。

②学習プロセスにおけるスタッフ間の連絡や調整を行う。

③患者ケアに責任を持ち、患者の安全を守る。

④指導上で得た情報を活用し、学習プロセスの評価に参加する。

⑤自己啓発に努め、看護職としてのロールモデルを示す。

(2)実習担当教員の役割

実習担当教員は、教育全体に責任を持つ立場で、学生が講義・演習での学びを臨床でどのように発展させているか、あるいは実践の場でどのような学習の転移をもたらしているのかを見届ける。

①実習の基本方針・目的・目標を臨地実習指導者に説明する。

②学生と臨地実習指導者の連絡や調整を行う。

③看護過程の学習上の指導や助言を行う。

④学生の学習態度および問題発生時に対応する。

Ⅲ．看護学実習における倫理的配慮

看護は、人間としての尊厳を維持し、健康で幸福であるという人々の普遍的なニーズに応え、人々の健康な生活の実現に貢献することを使命としている。その実践にあたっては、人々の生きる権利、尊厳を保つ権利、敬意のこもった看護を受ける権利、平等な看護を受ける権利などの人権を尊重することが求められる。

実習であっても学生は、看護職の倫理に基づく行動指針と責任範囲に則った行動を常に心がけ、本要項の巻末に示す『看護職の倫理綱領』（日本看護協会、2021 年）を熟読し実習に臨む。

また実習中に患者・利用者を受け持つ際には、施設責任者・担当教員と共に患者・利用者、または家族に「臨地実習説明・同意書」を用いて患者・利用者の安全とプライバシーが保護されること、実習への協力に同意しなくとも不利益を被ることがないことを説明し、受け持ち患者を引き受けることの同意を得て「臨地実習説明・同意書」に署名を貰う。用紙は複写とし、患者・利用者本人・実習施設・大学で保管する。なお、施設によって書面による同意を必要としない場合や、施設で所定の用紙を用いる場合もある。

Ⅳ．個人情報の取扱い

1．個人情報の保護

実習において、学生はケアの対象者の診療記録・看護記録などに触れる。実習記録には、これらの情報と学生自身が実践をとおして対象者に関する情報を得ることに加えて、学生と対象者との間で起こる現象や学生自身の心理・内面的現象が含まれる。学生および実習担当教員は、「個人情報保護法」に基づき、これらの個人情報を慎重に取り扱う必要がある。また、日本看護協会が提示する『看護職の倫理綱領』（日本看護協会、2021 年）についても十分に理解した上で、職業上の倫理をふまえた実践が求められる。

2．守秘義務

1）実習をとおして知り得た個人情報については、実習上、必要な場以外では口外しない。特に、実習場所以外（交通機関、公共の場）で対象者に関することを話さない。

2）対象者の診断・治療に関する情報を、不用意に本人やその家族に告げない。対象者に疾患についての話を行う場合は、必ず臨地実習指導者に許可を得る。

3）実習期間中に知り得た情報は、実習終了後も守秘義務があることを心にとめておく。

3．診療・看護記録等の閲覧方法

1）診療記録・看護記録および電子カルテを取り扱う場合は、臨地実習指導者の承諾を得た上で、所定の場所で閲覧する。閲覧後は必ず元の場所に返却する。
2）電子カルテの閲覧の際には、実習上必要な範囲についてのみの閲覧とする。
3）電子カルテ等の ID が付与された場合には、他者にその番号が知れることのないよう十分に注意する。

4．個人情報の記載方法と実習記録の取扱い（p.7 表 2 参照）

1）対象者の氏名、生年月日、住所、電話番号、実習施設名など個人が特定できる可能性のある項目はメモや実習記録等に記載しない。
2）実習記録は 2 穴ファイルに綴じて管理し、所定の場所（実習施設、大学、自宅）以外では開かない。また、公共の場で実習記録を記載しない。
3）原則、実習記録の作成にパソコンの使用は禁止する。レポートをパソコンで作成する際は、自宅・学内のものに限定する。
4）診療記録や看護記録を学生がコピーやプリントアウトすることは禁止する。
5）カンファレンスに使用するなど記録物をコピーする際は、原則学内のコピー機か、大学から施設に持ち込んだコピー機を使用する。施設のコピー機を使用する場合、コピーは教員か臨地実習指導者の指導のもとに行い、コピー後は原本の取り忘れがないか複数名で確認する。
6）実習記録は厳重に管理し絶対に紛失しないよう十分注意する。万が一紛失した場合は、速やかに実習担当教員へ報告する。
7）実習中に使用したメモ、実習記録、カンファレンス用紙等が不要になった際には原則として学生が速やかにシュレッダーで裁断破棄する。
8）各臨地実習が終了した後、提出された実習記録は次学期開始以降に学生に返却されるが、それら実習記録が不要になった際には学生が責任をもって速やかにシュレッダーで裁断破棄する。各自のパソコンや USB 等に保存した情報も速やかに消去する。

5. **ソーシャルメディア使用にあたり**

SNS（social networking service）などソーシャルメディアの利用にあたっては、以下の特性を理解した上で、有効に利用する必要がある。

1. ソーシャルメディア上の情報は、必ずしも正しいものとは限らない。
2. ソーシャルメディア上の情報は世界中に広まる。その発信内容は後で取り消すことができないもので、将来まで影響する。
3. ソーシャルメディア上でも社会的ルールを守らなければならない。
4. ソーシャルメディアでは、匿名であったとしても、複数の断片的な情報から個人を特定されることがある。
5. ソーシャルメディア上での不用意な発言は、家族や友人にまで被害が及ぶことがある。

特に実習中は様々な個人情報を扱うため、実習先の患者や家族、住民はもちろんのこと、臨地実習指導者や実習先、学生、教員など個人に関する情報、写真、動画等をソーシャルメディア上に発信しない。

＊情報の漏洩が認められた場合は、p.18 の 3. 事故発生時の対応・報告に準じ対応する。

表 2．実習記録の取扱い

<table>
<tr><th></th><th colspan="4">実習中</th><th colspan="2">実習終了後</th></tr>
<tr><th></th><th colspan="4"></th><th>（学内）</th><th>（自宅）</th></tr>
<tr><td>記録の流れ</td><td>【情報収集】
・診療/看護記録等
・対象者や家族
・学生自身の観察</td><td>【メモから転記】
・日々の実習記録等</td><td>【看護過程の展開】
・看護実践の記録</td><td>【その他】
・カンファレンス資料、メモ等</td><td>・提出
・教員による評価
・返却</td><td>・保管
・廃棄</td></tr>
<tr><td>学生の注意事項</td><td colspan="4">・診療/看護記録や検査データ等のコピーは禁止する。
・実習記録等の保管場所と記録する場所を徹底厳守する。
・実習記録は 2 穴ファイルに綴じて持ち歩き、実習場所や学内、自宅以外で開かない。
・個人が特定できない記録方法を遵守する。
・パソコンはレポート作成時のみ使用可であるが、インターネット接続下では使用しない。また使用してよいパソコンは学内と自宅のものに限定し、USB 等記録媒体の取り扱いは厳重に行う。
・スマートフォン等の情報端末機は使用しない。
・カンファレンスで使用する等、記録物をコピーする際は、教員か臨地実習指導者の指導のもとに行う。
・コピーは指定されたコピー機にて行い、コピー後は原本の取り忘れがないか複数名で確認する。</td><td>・実習の提出方法は実習科目担当者の指導に準ずる

・メモや実習記録等は学生が責任を持って廃棄するが、適切な廃棄が困難な場合には教員に相談する。USB 等のデータも忘れずに消去する。</td><td>・実習記録は自宅にて学生が責任をもって管理、保管する。
不要になった際にはシュレッダーで裁断廃棄する。</td></tr>
</table>

Ⅴ．健康管理と感染予防対策

1．健康管理

1）日頃から自己の健康管理に留意し、生活リズムを整え、手洗い・うがいを励行する。

2）実習 2 週間前から実習終了後 1 週間までは、「健康状態自己管理表」に必要事項を記入（朝、夜の 2 回/日）する。

3）体調不良時には実習担当教員へ速やかに報告・相談するとともに受診する。
実習終了後に体調不良となった場合は、直前の実習担当教員に報告・相談し、その後の指示を受ける。

4）速やかに受診できるよう、健康保険証を常に携帯しておく。

2．具体的な感染予防対策と感染の伝播防止対策

1）感染症検査結果の確認と自己管理

麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎、結核、B 型肝炎の 6 感染症の抗体価については、1 年生春学期に検査をするので、各自で検査結果について確認する。また、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の罹患歴と予防接種歴については、母子手帳等で確認しておく。

「感染症検査結果報告書」貼付欄（p.23・24）に、「検査報告書」を貼付し、「抗体価検査等の結果報告書」（p.25）についても随時記載する。

2）予防接種等について

(1)麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎

1 年生春学期に実施する感染症抗体検査において大学の抗体基準値（p.9 表 3）に満たない場合は抗体価による予防接種行動（p.9 図 2）に従い予防接種を行う。

(2) B 型肝炎

1 シリーズ（3 回）接種後に必ず抗体検査を行う。抗体価が基準に満たない場合は、校医と相談する。

(3)インフルエンザ

原則として実習までに予防接種を行い、抗体価を獲得する。予防接種をしたことがわかる用紙（領収書等）を「感染症検査結果報告書」に貼付する。

(4)結核

検査結果が判定保留、あるいは陽性の場合は結核感染を疑い、学校医の指示に従う。

＊ワクチンを接種した日にちと、抗体価は速やかに健康管理センターに報告する。

＊予防接種の可否や接種時期、接種対応場所、費用等に関しての相談は、実習担当教員、もしくは健康管理センターで応じている。

表 3.　抗体基準値

	検査法	陰性	低抗体価	陽性
麻疹 （はしか）	EIA（IgG）	＜2.0	2.0～15.9	≧16.0
	PA	＜16	16～128	≧256
	中和法	＜4	4 倍	≧8
風疹	EIA（IgG）	＜2.0	2.0～7.9	≧8.0
	HI	＜8	8～16	≧32
水痘 （水ぼうそう）	EIA（IgG）	＜2.0（－）	2.0～3.9（±）	≧4.0（＋）
	IAHA	＜2	2	≧4
	中和法	＜2	2	≧4
流行性耳下腺炎 （ムンプス）	EIA（IgG）	＜2.0（－）	2.0～3.9	≧4.0（＋）
B 型肝炎 （HBs 抗体）	EIA 法 CLIA 法 CLEIA 法			10mlU/mL 以上

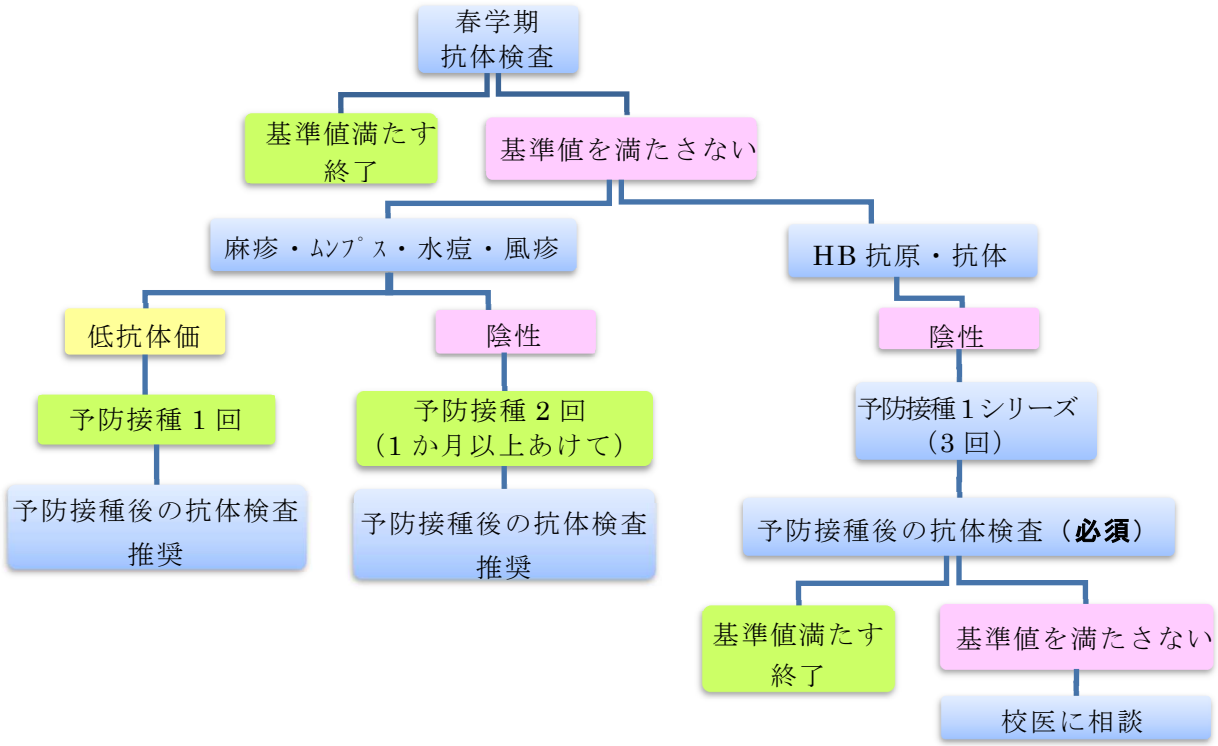


図 2.　抗体価による予防接種行動

3）感染予防対策

(1)実習 2 週間前からの留意事項

・海外渡航から実習 2 週間前までに帰国する。

・アルバイトは実習 2 週間前から原則禁止する。

(2)実習中の留意事項

・手指衛生を徹底する。

・ユニフォームは毎日洗濯し、清潔なものを着用する。

・通学時はマスク（不織布マスク）を着用し、新しいマスクに交換して実習する。

・3 密（密閉、密集、密接）を回避する。

・不要不急の外出を控え、人混みや繁華街への外出は避ける。

・食事中は黙食を徹底する。

・会話の際はマスクを着用する。

(3)感染経路別対策

①標準予防策（スタンダードプリコーション：Standard Precaution）

・対象と接する前後は、必ず衛生的手洗いをする。

・尿、便、血液、分泌液、口腔、滲出液などに接触するケアを行うときは、手袋・エプロン（専用ガウン）・マスク等を着用する。

②接触感染予防策（コンタクトプリコーション：Contact Precaution）

・感染症患者と接触する時は実習施設の指示に従い、感染症患者専用の物品を使用する。

・感染症患者に使用したリネン・寝衣・汚物等感染源となる可能性のあるものの取り扱いは、各実習施設で定められた方法に従う。

③空気感染予防策

・結核、水痘、麻疹などの患者と接触する時は、高性能サージカルマスク等を着用する。

④飛沫感染予防策

・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、インフルエンザ、風疹、百日咳などの患者と接する時は、サージカルマスクを着用する。

3．感染を疑う場合の対応

1）同居家族内、または実習グループ内の学生に感染者が出た場合、教員に速やかに報告・相談し、その後の指示を受ける。

2）健康状態自己管理表にある症状が 1 つでも出た場合、教員に速やかに報告・相談し、その後の指示を受ける。

4．感染時の対応

1）感染症発症

大学は学校感染症等の発生に対して学校保健安全法に基づいて対応する（p.12 表 4 参照）。また、感染症に罹患あるいは事故に遭遇した場合、p18 の図 3. 事故発生時の連絡・指示体制に準じて対応する。

(1) 学校感染症に罹患した疑いのある学生は、通学や実習を見合わせ、速やかに受診する。

(2) 学校感染症と診断された場合は実習担当教員に電話で連絡し、出席停止期間、実習への復帰時期についてなど、その後の指示を受ける。

(3) 病院の対応マニュアルなどの指示に従って必要な処置を受ける。

2）針刺し事故

直ちに刺入部の血液を絞り出し、流水で洗浄し、速やかに実習担当教員または臨地実習指導者に報告する。

3）体液暴露

流水で付着部位を洗浄し、速やかに実習担当教員または臨地実習指導者に報告する。

5．感染症罹患等における補習実習について

実習施設もしくは大学の感染症に対する方針により出席停止となった場合、補習実習を行うことがある。（p.12 表 4 参照）

表 4．学校において予防すべき感染症の種類、出席停止期間

種別	感染症	潜伏期間	出席停止期間
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属ＭＥＲＳコロナウイルスであるものに限る。）及び特定鳥インフルエンザ		治癒するまで
第2種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）	平均 3 日	発症後 5 日を経過し、かつ、解熱後 2 日を経過するまで
	百日咳	5～10 日	特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	10～12 日	解熱した後 3 日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	2～3 週間	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹	2～3 週間	発疹が消失するまで
	水痘	2～3 週間	全ての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	5～7 日	主要症状が消退した後 2 日を経過するまで
	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	不定	発症日を 0 日として 5 日を経過し、かつ、症状軽快後 24 時間経過するまで
	結核	不定	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	2～4 日	
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症		医師が感染の恐れがないと認めるまで

（学校保健安全法施行規則第三章感染症の予防　第 18 条 感染症の種類、第 19 条 出席停止の期間の基準：令和 5 年 4 月 28 日　文部科学省令第 22 号）

Ⅵ．看護学実習における留意事項

1．実習態度

1）実習前後の自己学習を行い、対象者のケアに積極的に参加するなど、主体的に実習に臨む。カンファレンス等では、積極的に意見交換を行い、学生間で学びの共有を図る。

2）保健・医療・福祉チームの一員として、対象者の生命、人間としての尊厳および権利を尊重し、看護学生としての責任と能力を自覚した行動をとる。

3）実習をとおして知り得た個人情報については、実習上、必要な場以外では口外しない。特に、実習場所以外(交通機関、公共の場)で、対象者や施設職員等に関することを話さないこと。

4）対象者の診断・治療に関する情報を、不用意に本人やその家族に告げない。対象者に疾患についての話を行う場合は、必ず臨地実習指導者に許可を得る。

5）分からないことや不確かなことは自己判断せず、実習担当教員または臨地実習指導者に相談する。必要なことは速やかに報告・連絡・相談を心がける。

6）自らの体調を管理し、健康状態を良好に保つことは、看護専門職を目指す学生としての責任といえる。実習中は規則正しい生活を送り、最良の健康状態で実習に臨むよう心がける。

(1) 朝食は摂取するようつとめる。
(2) 睡眠時間や学習時間確保につとめる。
(3) 実習期間中は、特にストレスの蓄積を避けるためにストレス発散方法を工夫する。個人で対応困難な時や不安が生じた場合は健康管理センターも活用する。
(4) 実習中に体調不良が生じた場合は、速やかに実習担当教員もしくは臨地実習指導者に報告する。体調不良により受診した場合、速やかに受診結果を実習担当教員に報告する。

2．礼儀とマナー

1）服装と身だしなみを整える。

(1) ユニフォームや靴は指定された清潔なものを着用し身だしなみに気をつける。
(2) ユニフォームは名札付きのものを着用し、名札の着用は実習領域の指定に準ずる。
(3) 頭髪は自然な色にし、顔や肩にかからないようにまとめる。
(4) 爪は短く切り、マニュキュアや濃い化粧、香料の強い化粧品はさける。
(5) アクセサリーは一切身につけない。
(6) 下着は肌が透けないもので、襟元や袖元から出ていない。
(7) 靴下は白色無地で踝が隠れる長さのものを着用する。
(8) カーディガンを着用する場合は、黒・紺・グレー・白色の無地のものとし、フードや飾りのついていないものにする。
(9) 髭は剃り、清潔な印象を保つ。

2）通学時の服装は、華美なものや露出度の高いものは避ける。
3）挨拶をきちんと行い、臨地実習指導者や対象者への言葉遣いに気をつける。
4）実習施設内では、大きな声で話したり、ふざけあったりせず、私語は慎む。
5）時間を厳守し、指定された時間の 5 分前には集合する。時間に余裕をもって行動し、交通安全に十分留意する。
6）実習中は自己の所在を明らかにし、実習場を離れる必要がある場合は、必ず実習担当教員または臨地実習指導者の許可を得る。すみやかに報告・連絡・相談する。
7）実習施設・機関内の指示に従い、更衣室・控室の整理整頓を行う。
8）実習施設内では携帯電話の電源を切る。
9）実習施設とその周囲、登下校は禁煙する。

3. 暴力（ハラスメント・その他）

暴力には身体的暴力、精神的暴力（言葉の暴力、いじめ、セクシャルハラスメント、その他いやがらせなど）がある。日本看護協会は、「保健医療福祉施設における暴力対策指針 - 看護者のために-」で使用する用語を次のように定義している。

身体的暴力：	他の人や集団に対して身体的な力を使って身体的､性的､あるいは精神的な危害を及ぼすものをいい､例えば､殴る､蹴る､叩く、突く、撃つ、押す、噛む、つねる等の行為
言葉の暴力：	個人の尊厳や価値を言葉によって傷つけたり、おとしめたり、敬意の欠如を示す行為
セクシャルハラスメント：	意に添わない性的誘いかけや好意的態度の要求等、性的ないやがらせ行為

1）ハラスメントとは

行為者の意図に関わらず、受け手が不快に感じ、それによって良好な環境で学習・就労を行う権利が侵害されることである。個人によって、あるいは性差や立場等によって受け止め方に違いがあり、「これくらいいいだろう」「相手もそう思っているはずだ」という勝手な憶測や思い込みをしない。

2）学生自身が対象者に対してハラスメントの加害者になる可能性があることを念頭におき行動する。
3）実習期間中にハラスメントを受けた、あるいは行なったと感じた場合は、実習担当教員、実習科目責任者、臨地実習指導者または大学の相談員(大学 HP 参照)に伝える。
4）学生がハラスメントを受けたときの具体的対応
(1) 相手に対して、はっきりと不快であることを告げる。自分で言えないときは、周囲の人に助けてもらう。
(2) 一人で悩まず、すぐ誰かに相談する。
(3) 相手の不快な言動を記録にとる。
(4) 実習担当教員もしくは大学の相談員に相談する。
①大学の相談員へのメールによる相談でもかまわない。相談者のプライバシーや名誉は必ず守られるので、自分を責めず安心して相談する。

②実習では、多様な年代の保健医療福祉職員ならびに対象者と関わることになる。実習施設は大学ではなく、実社会であることをよく理解した上で、ハラスメントを受けにくいように自分でも注意していく。

③大学にはハラスメント対策として学生の相談窓口（人権教育センターハラスメント相談室～大学 HP 参照）を設けているので活用する。

4．**その他**

1）実習施設への移動は、原則として公共交通機関を利用する。

2）やむを得ず遅刻・欠席する場合は、原則として実習開始までに、臨地実習指導者もしくは実習担当教員へ連絡する。

3）実習先への通学および帰宅途上にあるときや、実習中の移動時に交通事故に遭遇した場合は、できるだけ速やかに実習担当教員、実習施設に連絡をとる。ただし、自分が加害者になった場合は、まずは加害者として責任ある行動（警察や救急車を呼ぶ等）をとり、その後、実習担当教員等に連絡する。

4）連絡先など学生自身の個人情報を対象者に知らせない。また、対象者および家族から、金銭や貴重品の預かりや金品の贈答は一切行わない。やむを得ない場合は、臨地実習指導者または実習担当教員へ相談する。

Ⅶ．事故などによる交通機関の遅延・運行停止に伴う実習時の対応

事故等による交通機関の遅延や運行停止があり、実習施設へ遅刻また移動が困難な場合は、実習担当教員もしくは実習施設へ連絡し、指示を受ける。交通機関の「遅延証明書」等を持参する。

Ⅷ. 特別警報・暴風警報および災害時の対応

テレビ・ラジオ・インターネット等の報道により実習場所、実習場所と居住地の移動区間、自分の居住地に特別警報・暴風警報がでている場合や、災害時には「ただちに命を守る行動をとる」そして、実習担当教員および実習施設の指示に従う。
＊但し、朝、実習先に出かける時点で、自分の居住している地域に気象警報が出ていなくても、家屋から出ることや実習場所への移動が危険と判断される場合は、無理せず実習担当教員に連絡をとり相談する。

1. 災害や災害リスクに遭遇した場合の対応の原則

1）自己の安全確保を行う。
2）正確な情報の収集を行い、的確な判断に努める。
3）より危険な状況に陥らないような避難や行動をする。
4）実習担当教員もしくは実習施設に報告し、指示を受ける。
5） 災害など予期せぬ事態が発生した場合、安否や被災状況を把握することを目的に、「B-net」より安否確認のメールが配信される。受信を確認したら、「B-net」にログインし、安否確認アンケートに回答する（『STUDY GUIDE』参照）。

2. 実習休止の措置

1）気象によるもの
テレビ・ラジオ・インターネット等の報道により、実習場所、実習場所と居住地の移動区間、自分の居住地に、特別警報、暴風警報が発令された場合、実習担当教員と連絡をとり、その指示に従う。
＊ただし、朝、実習先に出かける時点で、自分の居住している地域に気象警報が出ていなくても、家屋から出ることや実習場所への移動が危険と判断される場合は、無理せず実習担当教員に連絡をとり相談する。

2）実習期間中に公共交通機関の停止がある場合
災害、ストライキ等によりいずれの交通機関も不通の場合は、実習担当教員に連絡をとり、その指示に従う。

3）実習休止の解除
特別警報、暴風警報の解除、交通機関の運行再開および特別警報、暴風警報解除の場合は、表 5 に準じて対応する。

表 5．休講の解除について

運行再開または警報解除の時刻	開 始 時 刻
午前 6 時 30 分までに解除・開通	通常通り
午前 6 時 30 分から午前 10 時までに解除・開通	午後 1 時より実施
午前 10 時以降も解除・開通されない	全日休止

（『STUDY GUIDE』参照）

Ⅸ. 臨地実習中の事故防止と報告

実習期間中は、実習時間内だけでなく常に事故(アクシデント) が発生しないように注意を払うことが大切である。明らかな事故に至らなくても、一歩間違えば事故につながる可能性の高い出来事（インシデント）についても注意すること。

・インシデント（ヒヤリ・ハット）：インシデント（ヒヤリ・ハット）とは、思いがけない出来事「偶発事象」で、これに対して適切な処理が行われないと「事故」となる可能性のある事象。
・アクシデント：インシデントに気付かなかったり、適切な処理が行われないと、傷害を引き起こし事故となる。医療におけるリスクマネジメントで取り扱う「事故」は、患者だけでなく来院者、職員に傷害が発生した場合を含む。

1. 主なアクシデントの種類

1） 対象者の身体に関する事故:転倒、転落、誤薬、擦過傷等
2） 学生の身体に関する事故:注射針刺入等の損傷、血液や体液暴露、感染症への罹患
3） 物品の破損・紛失に関する事故:医療物品や備品の破損・紛失、対象者の私物の破損・紛失等
4） 個人情報の取扱いに関する事故:個人情報の漏洩・消失、実習記録の紛失等

2. 事故予防における留意点

1）看護援助に関しては、慎重で責任のある行動をする。
2）個々の援助に関しても、利用者（または家族等の代理人）に説明し、同意を得る。
3）個々の援助は、対象者の心身の状態や環境に留意し、不安な場合は臨地実習指導者や教員に助言を受けて実施する。
4）看護技術等の事前練習を行い、正確で確実な技術で行うように努める。
5）対象者の状態や異常を感じたときは、医療従事者に速やかに報告する。
6）使用する物品は、丁寧に取扱い、後始末や保管は確実に行う。
7）実習に関わるすべての人（対象者・医療従事者・教員など）の情報の漏洩がないよう記録物や行動に留意する。（Ⅳ．個人情報の取扱い参照 ）
8）他学生が事故に遭遇しないように学生同士が啓発予防行動を心がける。
9）自らが感染源となったり、感染症の媒介者とならないように感染予防行動に留意する。（Ⅴ．健康管理と感染予防対策参照）
10）集中力や注意力の欠如から事故を起こすことがないよう、睡眠や食生活を整え、体調を整えて実習に臨む。（ Ⅵ．看護学実習における留意事項参照）
11）実習場所においては、チームの一員として自覚ある行動をとる。

実習中に「あれっ」と思ったことは、必ず相談する。ドキドキしながら、「これくらい黙っていても大丈夫、これくらいなら大丈夫」と言い聞かせなければならないような状況は危険である。対象者を守るためにも、自分だけで判断せず、必ず実習担当教員や臨地実習指導者に相談する。

3. 事故発生時の対応・報告（図 3 参照）

1）実習中に事故が発生した場合は、直ちに実習担当教員および臨地実習指導者等に報告し指示を受け、事故後の諸手続きを行う。

2）実習中の事故発生後、学生は速やかにインシデント・アクシデント報告書を実習担当教員に提出する。

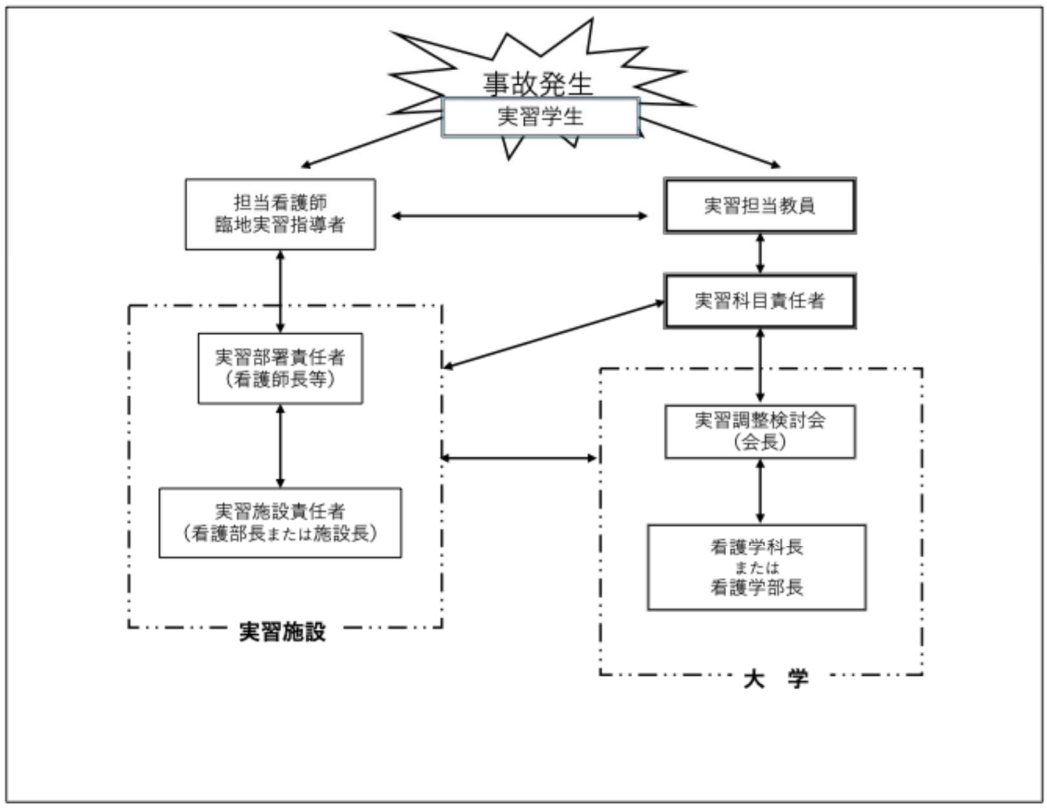


図 3　事故発生時の連絡・指示体制

*主なアクシデントの種類

① 対象者の身体に関する事故：転倒、転落、誤薬、擦過傷等

② 学生の身体に関する事故：注射針刺入等の損傷、血液や体液暴露、感染症への罹患等

③ 物品の破損・紛失に関する事故：医療物品や備品の破損・紛失、対象者の私物の破損・紛失等

④ 個人情報の取り扱いに関する事故：個人情報の漏洩・消失、実習記録の紛失等

4. 保険等の加入について

実習での感染事故や傷害事故など損害賠償を補償するために、保険料を本学が全額負担し、全学生を被保険者として「Will」（日本看護学校協議会共済会の総合補償制度）に加入している（『STUDY　GUIDE』参照）。

＜資料＞

インシデント・アクシデント報告書

＿＿＿

佛教大学インシデント・アクシデントレベル区分

レベル区分	内容
1-a	間違ったことが実施される前に**学生が**気付いた
1-b	間違ったことが実施される前に**指導者や教員が**気付いた
2	間違ったことが実施されたが、患者には被害や影響はなかった
3	間違ったことが実施されたことにより、安全確認のための検査や、軽微な処置（消毒、湿布、鎮痛剤投与等）が必要となった
4	間違ったことが実施されたことにより、濃厚あるいは継続的な治療が必要となった

佛教大学 看護学部看護学科 臨地実習説明・同意書

本学科の学生が、患者様の日常生活の援助および診療の補助などの臨地実習をさせていただきます。看護学教育の必要性をご理解いただき、受け持ち患者様となられることにご協力をお願いいたします。

実習は、以下の基本的な考えに基づいて行われます。

1. 学生が行う看護について、事前に十分に説明し、患者様・ご家族様の同意を得て実施いたします。
2. 学生が看護を行う際には、事前に看護教員や看護師の助言・指導を受けて、患者様の安全性の確保を最優先に実践いたします。
3. 学生は、プライバシーを固く守り、実習を通して知り得た患者様・ご家族様に関する情報を他の人に漏らすことはありません。
4. 学生は感染症予防のため、実習開始前より実習期間を通して体温測定を行い、体調管理を行いながら慎重に行動しています。万一、実習中に体調不良が生じた際は、一時的に実習を中止させていただく場合があります。
5. 学生の実習への協力に同意されなくても、患者様の看護および診療に不利益が生じることはありません。また、同意された後でも、学生が行う看護についてお断りいただいても結構です。その場合も、不利益を受けることはありません。学生の実習に関するご意見、ご質問、ご希望がございましたら、いつでもお申しつけください。

実習科目名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習施設名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

説明日：　　年　　月　　日

説明者：所属：佛教大学看護学部看護学科

実習担当教員 氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※上記の説明者が異なる場合　所属：＿＿＿＿＿＿＿＿

氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

私は、佛教大学 看護学部 看護学科の学生が、臨地実習を行うことについて、上記のとおり説明を受けました。その内容について、理解・納得しましたので、下記の学生が受け持つことに同意します。

実習学生：佛教大学看護学部看護学科

＿＿＿年生　氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習期間：＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日　～　＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日

年　　月　　日

患者様・利用者様　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

代理同意人　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご本人との関係（＿＿＿＿＿＿＿＿）

「感染症検査結果報告書」貼付欄

「感染症検査結果報告書」貼付欄

抗体価検査等の結果報告書

様

佛教大学看護学部看護学科　　実習生氏名（フリガナ）：

実習期間：　　年　　月　　日（　　）～　　年　　月　　日（　　）

B型肝炎

項目	検査日（西暦年月日）	検査方法（実施方法に○）	測定値	基準	ワクチン接種日（年月日）
HBs抗体	年　月　日	EIA・CLIA・CLEIA		≧10.0mIU/mL	1回目：　年　月　日 2回目：　年　月　日 3回目：　年　月　日
	年　月　日	EIA・CLIA・CLEIA			
備考					

麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎

項目	検査日（西暦年月日）	検査方法（1つに○）	測定値	基準			ワクチン接種日（年月日）
				陰性	偽陽性	陽性	
麻疹	年　月　日	EIA(IgG)		＜2	2-15.9	≧16.0	1回目：　年　月　日 2回目：　年　月　日
		PA		＜16	16-128	≧256	
		中和法		＜4	4	≧8	
風疹	年　月　日	EIA(IgG)		＜2	2-7.9	≧8.0	1回目：　年　月　日 2回目：　年　月　日
		HI		＜8	8-16	≧32	
水痘	年　月　日	EIA(IgG)		＜2(－)	2-3.9(±)	≧4(＋)	1回目：　年　月　日 2回目：　年　月　日
		IAHA		＜2	2	≧4	
		中和法		＜2	2	≧4	
流行性耳下腺炎	年　月　日	EIA(IgG)		＜2(－)	2-3.9	≧4(＋)	1回目：　年　月　日 2回目：　年　月　日
備考							

インフルエンザ

ワクチン接種日（年月日）	証明書または領収書（チェックしてください）
年　月　日	□　あり（実習共通要項に貼付済み）

結核

項目	検査日（年月日）	検査結果	基準
胸部レントゲン	年　月　日	異常の有無：あり　なし	異常なし
QFT/T-SPOT （いずれかに○）	年　月　日	陰性・判定保留 陽性・判定不可	陰性
備考			

Covid-19 ワクチン（西暦年月日）

1回目接種		2回目接種日	
3回目接種		最新の接種日 接種回数	

看護職の倫理綱領

2021 年 日本看護協会

前文

人々は、人間としての尊厳を保持し、健康で幸福であることを願っている。看護は、このような人間の普遍的なニーズに応え、人々の生涯にわたり健康な生活の実現に貢献することを使命としている。

看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象としている。さらに、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通して最期まで、その人らしく人生を全うできるようその人のもつ力に働きかけながら支援することを目的としている。

看護職は、免許によって看護を実践する権限を与えられた者である。看護の実践にあたっては、人々の生きる権利、尊厳を保持される権利、敬意のこもった看護を受ける権利、平等な看護を受ける権利などの人権を尊重することが求められる。同時に、専門職としての誇りと自覚をもって看護を実践する。

日本看護協会の『看護職の倫理綱領』は、あらゆる場で実践を行う看護職を対象とした行動指針であり、自己の実践を振り返る際の基盤を提供するものである。また、看護の実践について専門職として引き受ける責任の範囲を、社会に対して明示するものである。

1. 看護職は、人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重する。
2. 看護職は、対象となる人々に平等に看護を提供する。
3. 看護職は、対象となる人々との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて看護を提供する。
4. 看護職は、人々の権利を尊重し、人々が自らの意向や価値観にそった選択ができるよう支援する。
5. 看護職は、対象となる人々の秘密を保持し、取得した個人情報は適正に取り扱う。
6. 看護職は、対象となる人々に不利益や危害が生じているときは、人々を保護し安全を確保する。
7. 看護職は、自己の責任と能力を的確に把握し、実施した看護について個人としての責任をもつ。
8. 看護職は、常に、個人の責任として継続学習による能力の開発・維持・向上に努める。
9. 看護職は、多職種で協働し、よりよい保健・医療・福祉を実現する。
10. 看護職は、より質の高い看護を行うために、自らの職務に関する行動基準を設定し、それに基づき行動する。
11. 看護職は、研究や実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する。
12. 看護職は、より質の高い看護を行うため、看護職自身のウェルビーイング*の向上に努める。
13. 看護職は、常に品位を保持し、看護職に対する社会の人々の信頼を高めるよう努める。
14. 看護職は、人々の生命と健康をまもるため、さまざまな問題について、社会正義の考え方をもって社会と責任を共有する。
15. 看護職は、専門職組織に所属し、看護の質を高めるための活動に参画し、よりよい社会づくりに貢献する。
16. 看護職は、様々な災害支援の担い手と協働し、災害によって影響を受けたすべての人々の生命、健康、生活をまもることに最善を尽くす。

＊1948 年に出された「世界保健機関憲章」において“Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.”と述べられている。これを参考に、本倫理綱領においては、ウェルビーイングを身体的、精神的、社会的に良好な状態であることと意訳し、使用している。ウェルビーイングを一語の日本語に翻訳することが難しいこと、また、意味するところが曖昧であることから日常的に使用される言葉ではない。そのため、本倫理綱領では看護職のウェルビーイングへの親和性を高めるためカタカナ表記とした。

看護技術到達度チェックリスト　2022年度改訂版（修正版）

看護学基礎教育で習得すべき看護技術のチェックリストです。演習・実習での経験を積み重ね、卒業時に各項目毎の到達度を達成することを目指しましょう。

卒業時の到達レベル
＜演習＞　Ⅰ：モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる
　　Ⅱ：モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる
＜実習＞　Ⅰ：単独で実施できる
　　Ⅱ：指導の下で実施できる
　　Ⅲ：実施が困難な場合は見学する

＊各学年で到達したレベルを記載しておくこと

項目		技術の種類	卒業時の到達度		1年		2年		3年		4年		備考
			演習	実習	演習	実習	演習	実習	演習	実習	演習	実習	
1. 環境調整技術	1	快適な療養環境の整備	Ⅰ	Ⅰ									
	2	臥床患者のリネン交換	Ⅰ	Ⅱ									
2. 食事の援助技術	3	食事介助（嚥下障害のある患者を除く）	Ⅰ	Ⅰ									
	4	食事指導	Ⅱ	Ⅱ									
	5	経管栄養法による流動食の注入	Ⅰ	Ⅱ									
	6	経鼻胃チューブの挿入	Ⅰ	Ⅱ									
3. 排泄援助技術	7	排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）	Ⅰ	Ⅱ									
	8	膀胱留置カテーテルの管理	Ⅰ	Ⅲ									
	9	導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入	Ⅱ	Ⅲ									
	10	浣腸	Ⅰ	Ⅲ									
	11	摘便	Ⅰ	Ⅲ									
	12	ストーマ管理	Ⅱ	Ⅲ									
4. 活動・休息援助技術	13	車いすでの移送	Ⅰ	Ⅰ									
	14	歩行・移動介助	Ⅰ	Ⅰ									
	15	移乗介助	Ⅰ	Ⅱ									
	16	体位変換・保持	Ⅰ	Ⅰ									
	17	自動・他動運動の援助	Ⅰ	Ⅱ									
	18	ストレッチャー移送	Ⅰ	Ⅱ									
5. 清潔・衣生活援助技術	19	足浴・手浴	Ⅰ	Ⅰ									
	20	整容	Ⅰ	Ⅰ									
	21	点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	Ⅰ	Ⅰ									
	22	入浴・シャワー浴の介助	Ⅰ	Ⅰ									
	23	陰部の保清	Ⅰ	Ⅱ									
	24	清拭	Ⅰ	Ⅱ									
	25	洗髪	Ⅰ	Ⅱ									
	26	口腔ケア	Ⅰ	Ⅱ									
	27	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	Ⅰ	Ⅱ									
	28	新生児の沐浴・清拭	Ⅰ	Ⅱ									
6. 呼吸・循環を整える技術	29	体温調節の援助	Ⅰ	Ⅰ									
	30	酸素吸入療法の実施	Ⅰ	Ⅱ									
	31	ネブライザーを用いた気道内加湿	Ⅰ	Ⅱ									
	32	口腔内・鼻腔内吸引	Ⅱ	Ⅲ									
	33	気管内吸引	Ⅱ	Ⅲ									
	34	体位ドレナージ	Ⅰ	Ⅲ									

7. 創傷管理技術	35	褥瘡予防ケア	Ⅱ	Ⅱ								
	36	創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)	Ⅱ	Ⅱ								
	37	ドレーン類の挿入部の処置	Ⅱ	Ⅲ								
8. 与薬の技術	38	経口薬(バッカル錠、内服薬、舌下錠)の投与	Ⅱ	Ⅱ								
	39	経皮・外用薬の投与	Ⅰ	Ⅱ								
	40	坐薬の投与	Ⅱ	Ⅱ								
	41	皮下注射	Ⅱ	Ⅲ								
	42	筋肉内注射	Ⅱ	Ⅲ								
	43	静脈系路確保・点滴静脈内注射	Ⅱ	Ⅲ								
	44	点滴静脈内注射の管理	Ⅱ	Ⅱ								
	45	薬剤等の管理(毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む)	Ⅱ	Ⅲ								
	46	輸血の管理	Ⅱ	Ⅲ								
9. 救命救急処置技術	47	緊急時の応援要請	Ⅰ	Ⅰ								
	48	一次救命処置(Basic Life Support:BLS)	Ⅰ	Ⅰ								
	49	止血法の実施	Ⅰ	Ⅲ								
10. 症状・生体機能管理技術	50	バイタルサインの測定	Ⅰ	Ⅰ								
	51	身体計測	Ⅰ	Ⅰ								
	52	フィジカルアセスメント	Ⅰ	Ⅱ								
	53	検体(尿、血液等)の取扱い	Ⅰ	Ⅱ								
	54	簡易血糖測定	Ⅱ	Ⅱ								
	55	静脈血採血	Ⅱ	Ⅲ								
	56	検査の介助	Ⅰ	Ⅱ								
11. 感染予防技術	57	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗い	Ⅰ	Ⅰ								
	58	必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱	Ⅰ	Ⅰ								
	59	使用した器具の感染防止の取扱い	Ⅰ	Ⅱ								
	60	感染性廃棄物の取扱い	Ⅰ	Ⅱ								
	61	無菌操作	Ⅰ	Ⅱ								
	62	針刺し事故の防止・事故後の対応	Ⅰ	Ⅱ								
12. 安全管理の技術	63	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	Ⅰ	Ⅰ								
	64	患者の誤認防止策の実施	Ⅰ	Ⅰ								
	65	安全な療養環境の整備(店頭・転落・外傷予防)	Ⅰ	Ⅱ								
	66	放射線の被ばく防止策の実施	Ⅰ	Ⅰ								
	67	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施	Ⅱ	Ⅲ								
	68	医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等)の操作・管理	Ⅱ	Ⅲ								
13. 安楽確保の技術	69	安楽な体位の調整	Ⅰ	Ⅱ								
	70	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	Ⅰ	Ⅱ								
	71	精神的安寧を保つためのケア	Ⅰ	Ⅱ								

出典:令和2年10月30日　保健師助産師看護師学校養成所指定規則(昭和26年文部省・厚生省第1号)の改正省令による「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインについて」(医政発0331第21号)の一部改正に基づく「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」(別表13-2)。
＊令和4年4月1日より運用

佛教大学看護学部看護学科

【資料 15】

基本的な感染症対策

1. 実習開始までの対策

１）初年次のオリエンテーション

実習調整検討会が担当する感染症対策に関するオリエンテーションは、1 年生に対する以下の 3 回を実施している（本資料 表 1）。

第 1 回　感染症対策に関するオリエンテーション（4 月）

第 2 回　ワクチン接種状況の確認と血液検査の説明（10 月）

第 3 回　実習全体オリエンテーション（11 月）

感染症全般に関すること、冬期流行性感染症（インフルエンザ、ノロ・ロタウィルス等）予防対策について、検査結果およびワクチン接種状況の記録確認

なお、学生の感染症情報については、健康管理センターから、以下の手順により情報を得ることとする。

- 学生の感染症情報は、各学年の感染症対策担当者が各関係部署から情報を得る。なお、学生に抗体値の検査結果とワクチンの接種状況を健康管理センターに報告するよう指導する。
- 感染症対策担当者は、学生の感染症検査結果が陰性又は弱陽性の者を把握する。
- 感染症対策担当者は表 1 に基づき、実習開始時期の 4 か月前を目安に学生の感染症に関する情報を得ておく。

２） 2 年次以降の感染症対策

2 年次以降の感染症対策については、感染症対策担当者が中心となって、学生の感染症情報を把握するとともに、必要に応じて教育的な指導を行う（表 1. 参照）

３）実習開始前における感染症対策

実習担当教員または科目責任者は 1 年次の実習オリエンテーションにおいて感染症の検査結果確認と自己管理について以下の内容を説明する。

- 抗体価が十分出ない者は、原則に従いワクチン接種と抗体価検査を行う（図 1 参照）。
- 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎、B 型肝炎、結核の 6 感染症について、抗体検査の結果を大学から配信される検査結果報告書で確認する。施設側から提示を求められることもあるため、検査結果は実習共通要項に転記し、ワクチン接種したことがわかるものを実習共通要項の「感染症検査結果報告書貼付欄」に貼付するよう指導する。予防接種歴は共通要項の所定の記載用紙に随時記載するように伝える。さらに予防接種歴を母子手帳に記録している場合は、予防接種証明等を各自で複写して実習共通要項に貼付し記載するよう説明する。
- 2 年次以降の実習オリエンテーション時に、検査結果、ワクチン接種状況が実習共通要項に記載・貼付されているかを確認する。

４）その他感染症の予防接種ならびに抗体検査の考え方と対策について

- 結核：検査結果が判定保留、あるいは陽性の場合は結核感染を疑い、学校医の指示に従うことを説明する。
- インフルエンザ：インフルエンザの予防接種は、毎年受けることを推奨する。
- 百日咳：入学前の検査結果について、各自で確認することを説明する。
- その他 COVID-19 等、ワクチン対応可能な感染症はできるだけ予防接種を受けるように説明する。

５）実習担当教員は、実習 2 週間前から健康管理を行い、体温などの測定結果を「健康状態自己管理表」に記載するように学生に指示し、これに基づいて学生の健康状態を把握する。

６）実習前調整の際、実習施設の要請があれば学生に抗体価の提示を指示する。また、

施設に対して学校感染症発生時の学生対応等について配慮して頂けるような依頼を行う。さらに、実習施設での感染症発症状況や感染対策規定についても確認する。

⑦実習担当教員は、各実習施設からの要請に応じて抗体値検査を行い、結果を提出する。（表 2、図 1 参照）。

(2)実習中の感染症対策

① 実習担当教員は、学生の健康状態を把握するとともに、健康管理に努める。
② 実習施設の要請があれば、学生に抗体価の提示を指示する。
③ 実習担当教員は、感染症罹患者が発生した場合は、感染者（学生、受け持ち患者、病棟患者、施設外での交流者等）と、濃厚接触の可能性のある学生の状況を把握し、速やかに実習施設担当者・科目責任者に報告・相談をする。

(3)実習中に学生が感染症に罹患した場合の対応

① 実習担当教員は「事故発生時の連絡・指示体制」に準じ速やかに関係部署に報告し対応する（資料 15 図 1 参照）。
② 対応は、基本的には実習施設の規定に従う。規定がなければ大学のマニュアルに準じ、当該学生および関連する実習メンバー等への対応に向けた指示を科目責任者から受ける。（受診、抗体価の有無・予防接種歴・健康状態等の確認、科目責任者への診断書提出など）。
③ 実習科目責任者や実習担当教員は、学生へ受診等を指導し、受診後の経過観察を行う。

(4)実習終了後における感染症対策

① 感染症の潜伏期間を考慮し、学生は実習終了後も 1 週間体温測定などを行い「健康状態自己管理表」に記載する。実習科目責任者は実習終了後も学生の健康状態を把握する。
② 体調不良者が出た場合は受診等の指導を行い、科目担当者、保健医療技術実習センターと今後の対応を協議する。受診後は、健康管理センターが経過観察を行う。必要時は実習施設と連絡をとりあう。
③ 実習終了後に実習施設で感染症が発生した場合も実習期間中の対応に準じて連絡を取り合って対応していく。

表 1．年次別感染症対策スケジュール

<table>
<tr><td colspan="2">実習時期</td><td colspan="4">学年、実習科目</td></tr>
<tr><td>月</td><td>週数</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td>入学時 感染症対策に関するオリエンテーション</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td>2～</td><td>5 月初旬：予防接種及び抗体価検査に関するオリエンテーション</td><td></td><td></td><td rowspan="2">公衆衛生看護学実習Ⅰ</td><td rowspan="2">小児看護学実習
母性看護学実習
精神看護学実習</td></tr>
<tr><td>6
7</td><td>～末</td><td rowspan="7">感染症予防対策についてオリエンテーション

コミュニティ実習
＊この期間の中で 1 週間</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td>3～</td><td></td><td></td><td colspan="2" rowspan="3">公衆衛生看護学実習Ⅱ
＊この期間の中で 4 週間</td></tr>
<tr><td></td><td>4～5</td><td>基礎看護学実習Ⅱ</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">9</td><td>1～2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>～3</td><td></td><td></td><td colspan="2" rowspan="2">統合実習
＊この期間の中で 2 週間</td></tr>
<tr><td></td><td>3～</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">10</td><td>～ 1</td><td></td><td rowspan="5">ｸﾘﾃｨｶﾙｹｱ看護学実習
慢性看護学実習
老年看護学実習
地域・在宅看護学実習</td><td></td></tr>
<tr><td>3～</td><td></td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>11</td><td>～末</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>12</td><td>～末</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>1</td><td>2～末</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>3～4</td><td>基礎看護学実習Ⅰ
＊この期間の中で 1 週間</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">健康管理センターへの申請</td><td>11 月下旬</td><td>6 月上旬</td><td>7 月上旬</td><td colspan="2">3 月上旬</td></tr>
<tr><td colspan="2">証明書等の提出期間</td><td>11 月 4 週目の月曜日～12 月 2 週目の金曜日のみ</td><td>6 月 3 週目の月曜日～金曜日のみ</td><td>6 月 3 週目の月曜日～金曜日のみ</td><td colspan="2">2 月中旬の 3 週目の月曜日～金曜日のみ</td></tr>
<tr><td colspan="2">実習課から報告書受け取り</td><td>1 月上旬</td><td>7 月中旬</td><td>9 月上旬</td><td colspan="2">3 月下旬</td></tr>
<tr><td colspan="2">備考</td><td>10 月初旬：B 型肝炎ワクチン接種、抗体価検査について説明
11 月初旬：基礎看護学実習Ⅰ第 1 回目オリエンテーション（感染症予防対策、冬季感染症対策について説明）</td><td>4 月下旬：ワクチンの追加接種など必要事項の説明</td><td>秋学期履修ガイダンスで、インフルエンザの予防接種対策</td><td colspan="2">秋学期履修ガイダンスで、インフルエンザの予防接種対策</td></tr>
<tr><td colspan="2">感染症対策担当教員</td><td>基礎看護学、
地域・在宅看護学
（実習調整検討会）</td><td>基礎看護学</td><td>クリティカルケア看護学、慢性看護学、
老年看護学、
地域・在宅看護学</td><td colspan="2">春学期：小児看護学、母性看護学、精神看護学
秋学期： 各ゼミ</td></tr>
</table>

表 2. 抗体基準値

	検査法	陰性	低抗体価	陽性
麻疹 （はしか）	EIA（IgG）	＜2.0	2.0～15.9	≧16.0
	PA	＜16	16～128	≧256
	中和法	＜4	4 倍	≧8
風疹	EIA（IgG）	＜2.0	2.0～7.9	≧8.0
	HI	＜8	8～16	≧32
水痘 （水ぼうそう）	EIA（IgG）	＜2.0（－）	2.0～3.9（±）	≧4.0（＋）
	IAHA	＜2	2	≧4
	中和法	＜2	2	≧4
流行性耳下腺炎 （ムンプス）	EIA（IgG）	＜2.0（－）	2.0～3.9	≧4.0（＋）
B 型肝炎 （HBs 抗体）	EIA 法 CLIA 法 CLEIA 法			10mlU/mL 以上

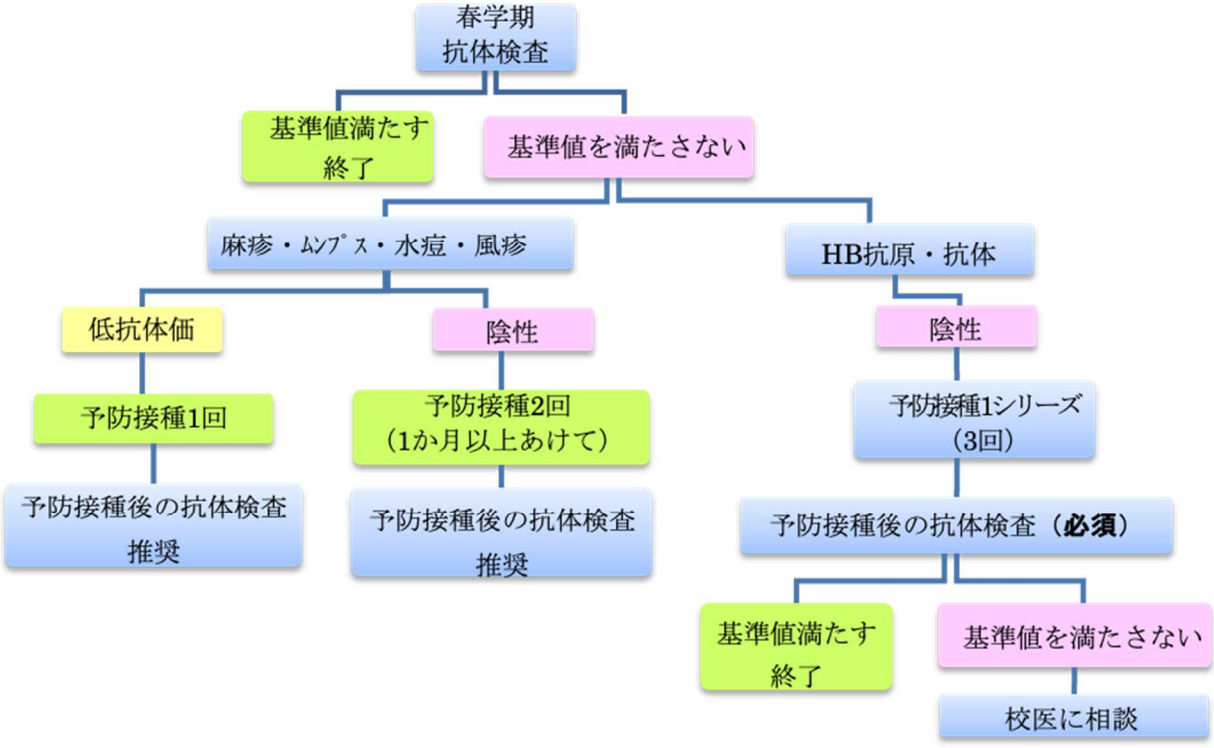
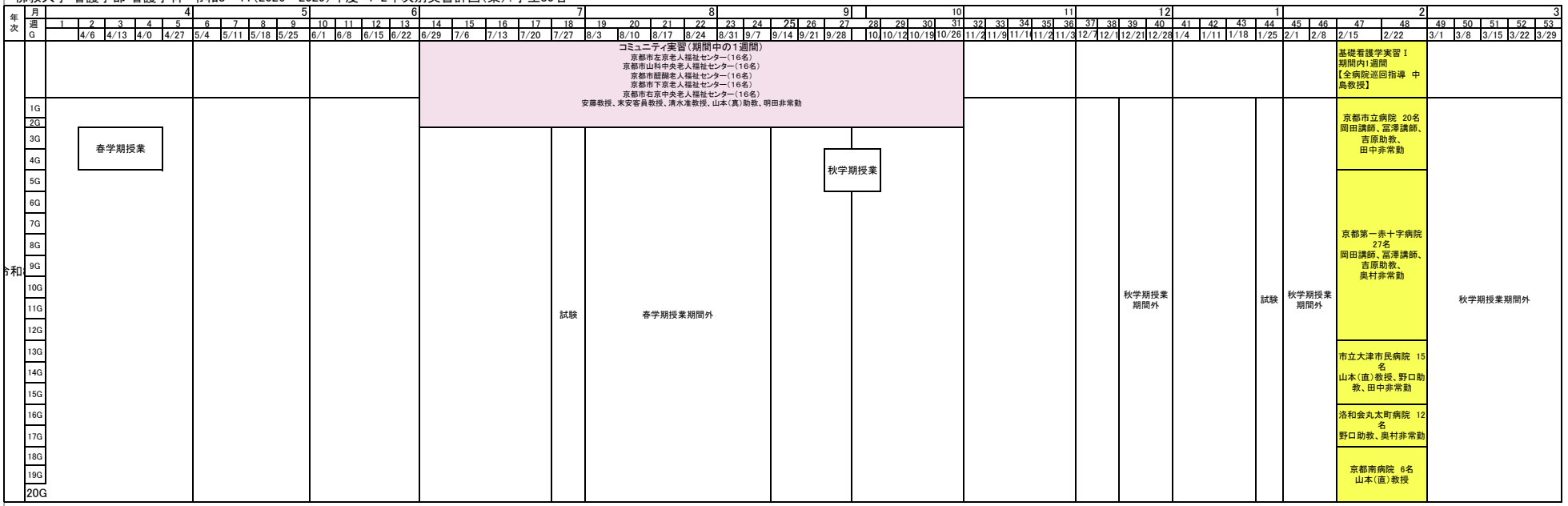
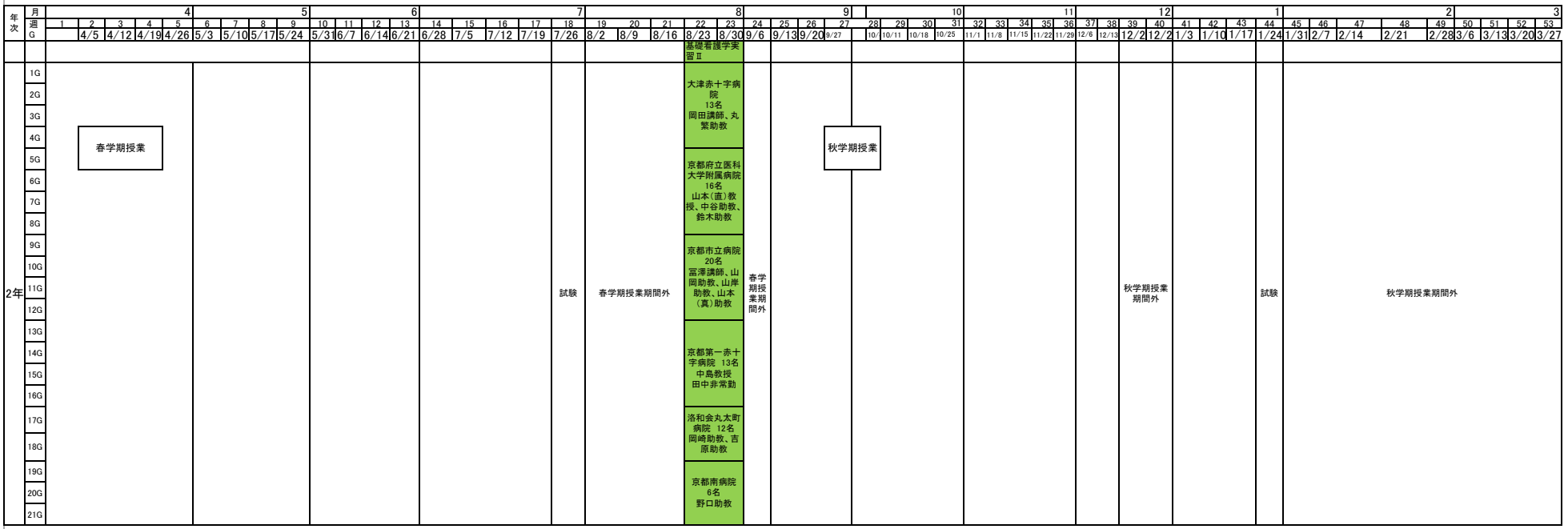


図 1.　抗体価による予防接種行動

佛教大学 看護学部 看護学科　令和8～11(2026～2029)年度　1-2年次別実習計画(案)：学生80名





佛教大学 看護学部 看護学科　令和8～11(2026～2029)年度　3年次別実習計画(案)：学生80名

年次	月	4				5					6					7	8					9	10					11					12				1				2				3	
	週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
	G	4/3	4/10	4/17	4/24	5/1	5/8	5/15	5/22	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26	7/3	7/10	7/17	7/24	7/31	8/7	8/14	8/21	8/28	9/4	9/11	9/18	9/25	10/2	10/9	10/16	10/23	10/30	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18	12/25	1/1	1/8	1/15	1/22	1/29	2/5	2/12	2/19	2/26	3/5	3/12	3/19	3/26
3年	1G	春学期授業																	試験	春学期授業期間外						生数80	8	慢性看護学実習16名		クリティカルケア看護学実習１６名			老年看護学実習16名			秋学期授業期間外					地域・在宅看護学実習16名			秋学期授業期間外									
																												京都府立医科大学附属病院 8名 薮下教授、山岡助教			大津赤十字病院 8名 大阪府済生会吹田病院 8名 利木准教授 趙講師 鈴木助教 北村非常勤			ブランク			京都民医連中央病院8名 濱吉教授 丸繁助教	和順の里8名 濱吉教授 丸繁助教		ブランク			訪問看護ステーション(7か所) ※1 地域包括支援センター(8か所) ※2 16名 安藤教授、清水准教授、駒井講師、山本(眞)助教、明田非常勤								
	2G																											京都市立病院 8名 薮下教授、高岡講師、小江非常勤																														
	3G																											ブランク	地域・在宅看護学実習１６名 訪問看護ステーション(7か所) ※1 地域包括支援センター(8か所) ※2 16名 安藤教授、清水准教授、駒井講師、山本(眞)助教、明田非常勤		慢性看護学実習 16名		大津赤十字病院 8名 薮下教授、高岡講師、小江 非常勤		クリティカルケア看護学実習１６名		京都市立病院 8名 利木准教授 趙講師 鈴木助教		ブランク									老年看護学実習 16名																														
	4G																															京都市立病院 8名 薮下教授、山岡助教					ブランク		京都市立病院 8名 利木准教授			京都民医連中央病院8名 濱吉教授 丸繁助教	和順の里8名 濱吉教授 丸繁助教																														
	5G																											老年看護学実習 16名			地域・在宅看護学実習１６名			慢性看護学実習 16名		クリティカルケア看護学実習１６名																														
	6G																											京都民医連あすかい病院8名 濱吉教授 丸繁助教	和順の里8名 濱吉教授 丸繁助教		ブランク	訪問看護ステーション(7か所) ※1 地域包括支援センター(8か所) ※2 16名 安藤教授、清水准教授、駒井講師、山本(眞)助教、明田非常勤			大津赤十字病院 8名 薮下教授、高岡講師、小江非常勤			京都府立医科大学附属病院 8名 薮下教授、山岡助教		京都市立病院 8名 趙講師 北村非常勤 大阪府済生会吹田病院 8名 鈴木助教									ブランク																														
	7G																											ブランク			老年看護学実習 16名			ブランク	地域・在宅看護学実習１６名		慢性看護学実習 16名																														
	8G																														京都民医連中央病院8名 濱吉教授 丸繁助教	和順の里8名 濱吉教授 丸繁助教			訪問看護ステーション(7か所) ※1 地域包括支援センター(8か所) ※2 16名 安藤教授、清水准教授、駒井講師、山本(眞)助教、明田非常勤		京都府立医科大学附属病院 8名 薮下教授、高岡講師、小江非常勤		京都市立病院 8名 薮下教授、山岡助教									クリティカルケア看護学実習１６名																														
	9G																											クリティカルケア看護学実習１６名			ブランク			老年看護学実習 16名			ブランク	地域・在宅看護学実習１６名									慢性看護学実習 16名																								
	10G																											大津赤十字病院 8名 京都府立医科大学附属病院 8名 利木准教授 趙講師 鈴木助教 北村非常勤						京都民医連中央病院8名 濱吉教授 丸繁助教	和順の里8名 濱吉教授 丸繁助教		訪問看護ステーション(7か所) ※1 地域包括支援センター(8か所) ※2 16名 安藤教授、清水准教授、駒井講師、山本(眞)助教、明田非常勤									京都市立病院 8名 薮下教授、山岡助教																														
																												和順の里8名 阿部(め)講師 吉行非常勤	京都民医連中央病院8名 阿部(め)講師 吉行非常勤																			大阪府済生会吹田病院 8名 薮下教授、高岡講師、小江非常勤																														

※1 令和10年度　地域・在宅看護学実習施設(訪問看護ステーション)学生人数

	実習施設名	1クール	2クール	3クール	4クール	5クール	計	実習担当教員
1	訪問看護ステーション・マム					2	2	教授1名(安藤千晶) 准教授(清水奈穂美) 講師1名(駒井和子) 助教1名(山本真子) 非常勤1名(明田朋子)
2	訪問看護ステーション太秦安井			2			2	
3	吉祥院訪問看護ステーション				3		3	
4	訪問看護ステーションえいむ		2	2			4	
5	訪問看護ステーションゆりかもめ		2	2			4	
6	訪問看護ステーションゆい					2	2	
7	訪問看護ステーションひまわり	3			3		6	
8	訪問看護ステーション右京区医師会	2			2	2	6	
9	ステーションイルカ	2	2				4	
10	訪問看護ステーションひなた		3	3	3	3	12	
11	訪問看護ステーション絆	2			2	2	6	
12	ピース・トラスト訪問看護ステーション	2	2	2			6	
13	訪問看護ステーションさいきょう	3		3	3	3	12	
14	訪問看護ステーションそうま	2	2	2		2	8	
15	訪問看護ステーションみなみ		3				3	
計		16	16	16	16	16	80	

※個別支援から地域支援の看護実践を学ぶために1週目に訪問看護ステーション実習、2週目に地域包括支援センターの実習を行う。

※2 令和10年度　地域・在宅看護学実習施設(地域包括支援センター)学生人数

	実習施設名	1クール	2クール	3クール	4クール	5クール	計	実習担当教員
1	京都市境谷地域包括支援センター		3	3	2	2	10	教授1名(安藤千晶) 准教授(清水奈穂美) 講師1名(駒井和子) 助教1名(山本真子) 非常勤1名(明田朋子)
2	京都市原谷地域包括支援センター	2					2	
3	京都市修徳地域包括支援センター	2	2		2	2	8	
4	京都市西院地域包括支援センター				2	2	4	
5	京都市紫野地域包括支援センター		2	2			4	
6	京都市本能地域包括支援センター		3	3	2	2	10	
7	京都市西ノ京地域包括支援センター	2	2		2	2	8	
8	京都市醍醐南部地域包括支援センター	2					2	
9	京都市東山地域包括支援センター	2		2			4	
10	京都市御池地域包括支援センター	2		2	2	2	8	
11	京都市仁和地域包括支援センター		2	2	2	2	8	
12	京都市陶化地域包括支援センター	2		2			4	
13	京都市葛野地域包括支援センター	2	2		2	2	8	
計		16	16	16	16	16	80	

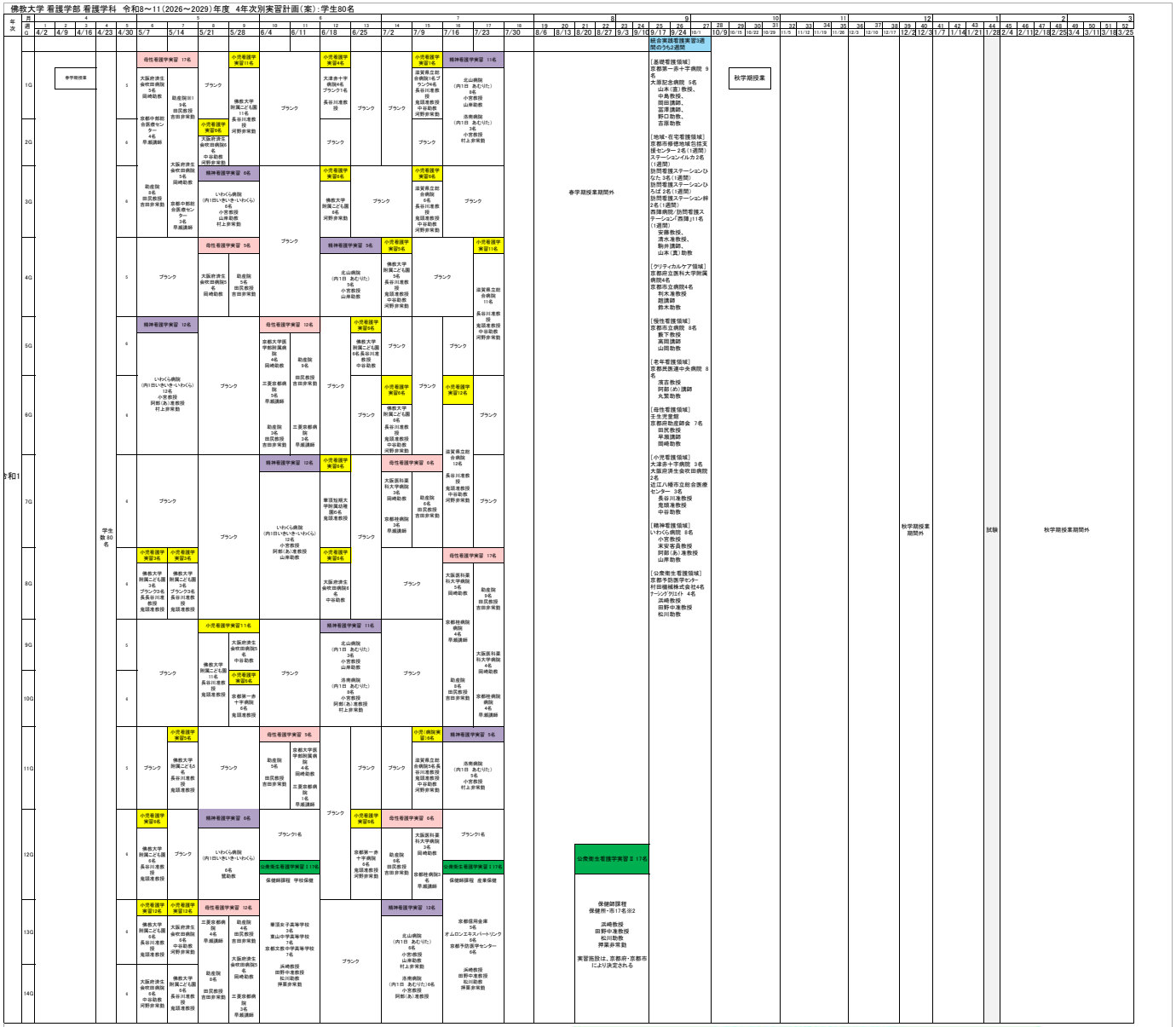


図1 令和11年度　母性看護学実習施設(助産院)学生人数

	実習施設名	1クール	2クール	3クール	4クール	5クール	6クール	計	実習担当教員
1	長尾助産院	2	4	3		2	3	14	
2	あかり助産院	4	2	3		2	3	14	教授1名（川沢 千子） 講師1名（平瀬 麻子） 助教1名（岡崎 勘） 非常勤1名（吉田 富）
3	青あらい助産院	4	4	4		4	5	21	
4	ひまわり助産院	4	3	4		2	3	16	
5	つくみ助産院	3	4	3		2	3	15	
計		17	17	17	0	12	17	80	

図2 令和11年度　公衆衛生看護学実習Ⅱ施設(行政)学生人数

	実習施設名	学生数	担当教員
1	京都市北区役所保健福祉センター	左記のいずれかの保健福祉センターか所で8名実習	教授1名（浜崎優子） 准教授1名（田野中恵子） 助教1名（松川恵子） 非常勤1名（押渕恭代）
2	京都市上京区役所保健福祉センター		
3	京都市左京区役所保健福祉センター		
4	京都市中京区役所保健福祉センター		
5	京都市東山区役所保健福祉センター		
6	京都市山科区役所保健福祉センター		
7	京都市下京区役所保健福祉センター		
8	京都市南区役所保健福祉センター		
9	京都市右京区役所保健福祉センター		
10	京都市西京区役所保健福祉センター		
11	京都市伏見区役所保健福祉センター		
12	京都市伏見区役所醍醐支所保健福祉センター		
13	京都市伏見区役所保健福祉センター		
14	京都市伏見区役所深草支所保健福祉センター		
15	京都市伏見区役所醍醐支所保健福祉センター		
16	京都府乙訓保健所	左記のいずれかの保健所2か所で11名が実習	
17	京都府山城北保健所		
18	京都府山城南保健所		
19	京都府南丹保健所		
20	京都府中丹西保健所		
21	京都府中丹東保健所		
22	京都府丹後保健所		
23	福知山市役所	左記のいずれかの市町村2か所で11名が実習	教授1名（浜崎優子） 准教授1名（田野中恵子） 助教1名（松川恵子） 非常勤1名（押渕恭代）
24	舞鶴市役所		
25	綾部市役所		
26	宇治市役所		
27	宮津市役所		
28	亀岡市役所		
29	城陽市役所		
30	向日市役所		
31	長岡京市役所		
32	八幡市役所		
33	京田辺市役所		
34	京丹後市役所		
35	南丹市役所		
36	木津川市役所		
37	大山崎町役場		
38	久御山町役場		
39	井手町役場		
40	宇治田原町役場		
41	笠置町役場		
42	和束町役場		
43	精華町役場		
44	南山城村役場		
45	京丹波町役場		
46	伊根町役場		
47	与謝野町役場		

実習前年度二月頃に、京都府・京都市が実習施設を確定する

実習科目別指導体制（教員配置） コミュニティ実習　　【資料17】

実習場所		実習時期	実習グループ	実習施設	学生数	実習担当教員	指導形態
京都市老人福祉センター	1	令和8年7月～10月（期間内1日）	1G	京都市左京老人福祉センター	8	教授1名（安藤千晶） 助教1名（山本真子）	1グループ毎に教員1名を配置し、巡回指導を行う。 各センターの実習担当者と連携を取りながら実習の指導を行う。
	2	令和8年7月～10月（期間内1日）	2G		8		
	3	令和8年7月～10月（期間内1日）	3G	京都市山科中央老人福祉センター	8	准教授1名（清水奈穂美）	
	4	令和8年7月～10月（期間内1日）	4G		8		
	5	令和8年7月～10月（期間内1日）	5G	京都市醍醐老人福祉センター	8	准教授1名（清水奈穂美）	
	6	令和8年7月～10月（期間内1日）	6G		8		
	7	令和8年7月～10月（期間内1日）	7G	京都市下京老人福祉センター	8	教授1名（安藤　千晶） 助教1名（山本真子）	
	8	令和8年7月～10月（期間内1日）	8G		8		
	9	令和8年7月～10月（期間内1日）	9G	京都市右京中央老人福祉センター	8	助教1名（山本真子） 非常勤1名（明田朋子）	
	10	令和8年7月～10月（期間内1日）	10G		8		

実習科目別指導体制（教員配置）

実習科目	実習時期	実習グループ	実習施設	学生数	実習担当教員		指導形態
基礎看護学実習Ⅰ	令和9年2月（第3～4週）期間内1週間	1G	京都市立病院	5	講師1名（岡田朱民）	教授1名（中島小乃美）	1～2グループ毎に教員1名を配置し、引率指導を行う。 教授または講師または助教は各施設に常駐し、臨地実習指導者と連携をとりながら実習指導を行う。 教授1名は各病院・病棟を巡回し、学生および教員への指導を行うが、特に助教のみが配置されている施設を重点的に巡回して指導する。
		2G		5	講師1名（冨澤理恵）		
		3G		5	助教1名（吉原文子）		
		4G		5	非常勤1名（田中亮子）		
		5G	京都第一赤十字病院	3	講師1名（岡田朱民）		
		6G		4			
		7G		3	講師1名（冨澤理恵）		
		8G		4			
		9G		4	助教1名（吉原文子）		
		10G		3			
		11G		3	非常勤1名（奥村祐香）		
		12G		3			
		13G	市立大津市民病院	5	教授1名（山本直美）		
		14G		5	非常勤1名（田中亮子）		
		15G		5	助教1名（野口遼）		
		16G	洛和会丸太町病院	6	助教1名（野口遼）		
		17G		6	非常勤1名（奥村祐香）		
		18G	京都南病院	2	教授1名（山本直美）		
		19G		2			
		20G		2			
基礎看護学実習Ⅱ	令和9年8月（第4～5週）	1G	大津赤十字病院	3	講師1名（岡田朱民）		1～2グループ毎に教員1名を配置し、引率指導を行う。 助教または講師または教授は各施設に常駐し、臨地実習指導者と連携をとりながら実習指導を行う。 巡回する教員を配置していないが、不測の事態が起こった場合には学科長に対応を依頼する。
		2G		4			
		3G		3	助教1名（丸繁裕太）		
		4G		3			
		5G	京都府立医科大学附属病院	3	教授1名（山本直美）		
		6G		3			
		7G		5	助教1名（中谷香）		
		8G		5	助教1名（鈴木皓一朗）		
		9G	京都市立病院	5	講師1名（冨澤理恵）		
		10G		5	助教1名（山岡怜未）		
		11G		5	助教1名（山岸若菜）		
		12G		5	助教1名（山本真子）		
		13G	京都第一赤十字病院	3	教授1名（中島小乃美）		
		14G		4			
		15G		3	非常勤（田中亮子）		
		16G		3			
		17G	洛和会丸太町病院	6	助教1名（岡崎翠）		
		18G		6	助教1名（吉原文子）		
		19G	京都南病院	2	助教1名（野口遼）		
		20G		2			
		21G		2			

実習科目別指導体制（教員配置）

実習科目	実習時期		実習グループ	実習施設	学生数	実習担当教員	指導形態
地域・在宅看護学実習（訪問看護ステーション）	1	令和10年10月（第2週）	3G・4G	訪問看護ステーションひまわり	3	教授1名（安藤千晶） 准教授（清水奈穂美） 講師1名（駒井和子） 助教1名（山本真子） 非常勤1名（明田朋子）	個別支援から地域支援の看護実践を学ぶために1週目に訪問看護ステーション実習、2週目に地域包括支援センターの実習を行う。 各施設の巡回指導を行う。各施設の臨地実習指導者と連携をとりながら実習の調整・指導を行う。 教授は実習全体の統括を行う。
				訪問看護ステーション右京医師会	2		
				ステーションイルカ	2		
				訪問看護ステーション絆	2		
				ピース・トラスト訪問看護ステーション	2		
				訪問看護ステーションさいきょう	3		
				訪問看護ステーションそうま	2		
	2	令和10年10月（第5週）	5G・6G	訪問看護ステーションえいむ	2	教授1名（安藤千晶） 准教授（清水奈穂美） 講師1名（駒井和子） 助教1名（山本真子） 非常勤1名（明田朋子）	
				訪問看護ステーションゆりかもめ	2		
				ステーションイルカ	2		
				訪問看護ステーションひなた	3		
				ピース・トラスト訪問看護ステーション	2		
				訪問看護ステーションそうま	2		
				訪問看護ステーションみなみ	3		
	3	令和10年11月（第3週）	7G・8G	訪問看護ステーション太秦安井	2	教授1名（安藤千晶） 准教授（清水奈穂美） 講師1名（駒井和子） 助教1名（山本真子） 非常勤1名（明田朋子）	
				訪問看護ステーションえいむ	2		
				訪問看護ステーションゆりかもめ	2		
				訪問看護ステーションひなた	3		
				ピース・トラスト訪問看護ステーション	2		
				訪問看護ステーションさいきょう	3		
				訪問看護ステーションそうま	2		
	4	令和10年12月（第2週）	9G・10G	吉祥院訪問看護ステーション	3	教授1名（安藤千晶） 准教授（清水奈穂美） 講師1名（駒井和子） 助教1名（山本真子） 非常勤1名（明田朋子）	
				訪問看護ステーションひまわり	3		
				訪問看護ステーション右京医師会	2		
				訪問看護ステーションひなた	3		
				訪問看護ステーション絆	2		
				訪問看護ステーションさいきょう	3		
	5	令和11年1月（第4週）	1G・2G	訪問看護ステーション・マム	2	教授1名（安藤千晶） 准教授（清水奈穂美） 講師1名（駒井和子） 助教1名（山本真子） 非常勤1名（明田朋子）	
				訪問看護ステーションゆい	2		
				訪問看護ステーション右京医師会	2		
				訪問看護ステーションひなた	3		
				訪問看護ステーション絆	2		
				訪問看護ステーションさいきょう	3		
				訪問看護ステーションそうま	2		
地域・在宅看護学実習（地域包括支援センター）	1	令和10年10月（第3週）	3G・4G	京都市原谷地域包括支援センター	2	教授1名（安藤千晶） 准教授（清水奈穂美） 講師1名（駒井和子） 助教1名（山本真子） 非常勤1名（明田朋子）	
				京都市修徳地域包括支援センター	2		
				京都市西ノ京地域包括支援センター	2		
				京都市醍醐南部地域包括支援センター	2		
				京都市東山地域包括支援センター	2		
				京都市御池地域包括支援センター	2		
				京都市陶化地域包括支援センター	2		
				京都市葛野地域包括支援センター	2		
	2	令和10年11月（第1週）	5G・6G	京都市境谷地域包括支援センター	3	教授1名（安藤千晶） 准教授（清水奈穂美） 講師1名（駒井和子） 助教1名（山本真子） 非常勤1名（明田朋子）	
				京都市修徳地域包括支援センター	2		
				京都市紫野地域包括支援センター	2		
				京都市本能地域包括支援センター	3		
				京都市西ノ京地域包括支援センター	2		
				京都市仁和地域包括支援センター	2		
				京都市葛野地域包括支援センター	2		
	3	令和10年11月（第4週）	7G・8G	京都市境谷地域包括支援センター	3	教授1名（安藤千晶） 准教授（清水奈穂美） 講師1名（駒井和子） 助教1名（山本真子） 非常勤1名（明田朋子）	
				京都市紫野地域包括支援センター	2		
				京都市本能地域包括支援センター	3		
				京都市東山地域包括支援センター	2		
				京都市御池地域包括支援センター	2		
				京都市仁和地域包括支援センター	2		
				京都市陶化地域包括支援センター	2		
	4	令和10年12月（第3週）	9G・10G	京都市境谷地域包括支援センター	2	教授1名（安藤千晶） 准教授（清水奈穂美） 講師1名（駒井和子） 助教1名（山本真子） 非常勤1名（明田朋子）	
				京都市修徳地域包括支援センター	2		
				京都市西院地域包括支援センター	2		
				京都市本能地域包括支援センター	2		
				京都市西ノ京地域包括支援センター	2		
				京都市御池地域包括支援センター	2		
				京都市仁和地域包括支援センター	2		
				京都市葛野地域包括支援センター	2		
	5	令和11年1月（第5週）	1G・2G	京都市境谷地域包括支援センター	2	教授1名（安藤千晶） 准教授（清水奈穂美） 講師1名（駒井和子） 助教1名（山本真子） 非常勤1名（明田朋子）	
				京都市修徳地域包括支援センター	2		
				京都市西院地域包括支援センター	2		
				京都市本能地域包括支援センター	2		
				京都市西ノ京地域包括支援センター	2		
				京都市御池地域包括支援センター	2		
				京都市仁和地域包括支援センター	2		
				京都市葛野地域包括支援センター	2		

実習科目別指導体制（教員配置）

実習科目	実習時期		実習グループ	実習施設	学生数	実習担当教員		指導形態
クリティカルケア看護学実習	1	令和10年 10月（第1週～第3週）	9G	大津赤十字病院	8	講師1名 （趙崇来） 非常勤 （北村多江）	准教授1名 （利木佐起子）	1グループ毎に教員1名を配置し、引率指導を行う。 助教または講師は各施設に常駐し、臨地実習指導者と連携をとりながら実習指導を行う。 准教授は各病院・病棟を巡回し、学生および教員への指導を行う。
			10G	京都府立医科大学附属病院	8	助教1名 （鈴木皓一朗）		
	2	令和10年 10月（第3週）～11月（第1週）	1G	大津赤十字病院	8	講師1名 （趙崇来） 非常勤 （北村多江）		
			2G	大阪府済生会吹田病院	8	助教1名 （鈴木皓一朗）		
	3	令和10年 11月（第2週～第4週）	3G	京都市立病院	8	講師1名 （趙崇来） 助教1名 （鈴木皓一朗）		
	4	令和10年 12月 （第1週～第3週）	4G	京都市立病院	8	准教授1名 （利木佐起子）		
			5G	京都市立病院	8	講師1名 （趙崇来） 非常勤 （北村多江）		
			6G	大阪府済生会吹田病院	8	助教1名 （鈴木皓一朗）		
	5	令和11年1月 （第2週～第4週）or（第3週～第5週）	7G	大津赤十字病院	8	講師1名 （趙崇来） 非常勤 （北村多江）		
			8G	大阪府済生会吹田病院	8	助教1名 （鈴木皓一朗）		

実習科目別指導体制（教員配置）

実習科目	実習時期		実習グループ	実習施設	学生数	実習担当教員		指導形態
慢性看護学実習	1	令和10年10月（第1週～第3週）	1G	京都府立医科大学附属病院	8	助教1名（山岡怜未）	教授1名（薮下八重）	1グループ毎に教員1名を配置し、引率指導を行う。 助教または講師は各施設に常駐し、臨地実習指導者と連携をとりながら実習指導を行う。 教授は各病院・病棟を巡回し、学生および教員への指導を行う。
			2G	京都市立病院	8	講師1名（高岡寿江） 非常勤1名（小江美奈子）		
	2	令和10年10月（第4週）～11月（第1週）	3G	大津赤十字病院	8	講師1名（高岡寿江） 非常勤1名（小江美奈子）		
			4G	京都市立病院	8	助教1名（山岡怜未）		
	3	令和10年11月（第2週～第4週）	5G	大津赤十字病院	8	講師1名（高岡寿江） 非常勤1名（小江美奈子）		
			6G	京都府立医科大学附属病院	8	助教1名（山岡怜未）		
	4	令和10年12月（第1週～第4週）	7G	京都府立医科大学附属病院	8	講師1名（高岡寿江） 非常勤1名（小江美奈子）		
			8G	京都市立病院	8	助教1名（山岡怜未）		
	5	令和11年1月（第2週～第4週）	9G	京都市立病院	8	助教1名（山岡怜未）		
			10G	大阪府済生会吹田病院	8	講師1名（高岡寿江） 非常勤1名（小江美奈子）		

実習科目別指導体制（教員配置）

実習科目		実習時期	実習グループ	実習施設	学生数	実習担当教員		指導形態
老年看護学実習 （病院・施設）	1	令和10年 10月（第1週）～10月（第3週） 各施設1.5週ずつ	5G	京都民医連あすかい病院 和順の里	8	教授1名 （濱吉美穂） 助教1名 （丸繁裕太）	教授1名 （濱吉美穂）	1グループ毎に教員2名を配置し、引率指導を行う。 各実習施設に、非常勤、助教、講師、教授のいづれか1名が常駐し、臨地実習指導者と連携をとりながら実習指導を行う。
	2	令和10年 10月（第1週）～10月（第3週） 各施設1.5週ずつ	6G	和順の里 京都民医連あすかい病院	8	講師1名 （阿部慈美） 非常勤1名 （吉行紀子）		
	3	令和10年 10月（第4週）～11月（第1週） 各施設1.5週ずつ	7G	京都民医連中央病院 和順の里	8	教授1名 （濱吉美穂） 助教1名 （丸繁裕太）		
	4	令和10年 10月（第4週）～11月（第1週） 各施設1.5週ずつ	8G	和順の里 京都民医連中央病院	8	講師1名 （阿部慈美） 非常勤1名 （吉行紀子）		
	5	令和10年 11月（第2週）～11月（第4週） 各施設1.5週ずつ	9G	京都民医連中央病院 和順の里	8	教授1名 （濱吉美穂） 助教1名 （丸繁裕太）		
	6	令和10年 11月（第2週）～11月（第4週） 各施設1.5週ずつ	10G	和順の里 京都民医連中央病院	8	講師1名 （阿部慈美） 非常勤1名 （吉行紀子）		
	7	令和10年 12月（第1週）～12月（第3週） 各施設1.5週ずつ	1G	京都民医連中央病院 和順の里	8	教授1名 （濱吉美穂） 助教1名 （丸繁裕太）		
	8	令和10年 12月（第1週）～12月（第3週） 各施設1.5週ずつ	2G	和順の里 京都民医連中央病院	8	講師1名 （阿部慈美） 非常勤1名 （吉行紀子）		
	9	令和11年 1月（第3週）～　1月（第5週） 各施設1.5週ずつ	3G	京都民医連中央病院 和順の里	8	教授1名 （濱吉美穂） 助教1名 （丸繁裕太）		
	10	令和11年 1月（第3週）～　1月（第5週） 各施設1.5週ずつ	4G	和順の里 京都民医連中央病院	8	講師1名 （阿部慈美） 非常勤1名 （吉行紀子）		

実習科目別指導体制（教員配置）

実習科目	実習時期	実習グループ	実習施設	学生数		実習担当教員	指導形態
小児看護学実習	1 令和11年 5月 （第1週）	8G	佛教大学附属こども園	3	15	准教授2名 （長谷川由香、 鬼頭泰子）	1グループ毎に教員1～2名を配置し、引率指導を行う。 こども園・幼稚園実習：幼稚園教諭・保育士と連携をとりながら教員1～2名が担当クラスを巡回する。 病院実習：教員は各施設に常駐し、臨地実習指導者と連携をとりながら実習指導を行う。
		12G		6			
		13G		6			
		14G	大阪府済生会吹田病院	6		助教1名（中谷香） 非常勤1名 （河野優那）	
	2 令和11年 5月 （第2週）	8G	佛教大学附属こども園	3	14	准教授2名 （長谷川由香、 鬼頭泰子）	
		11G		5			
		14G		6			
		13G	大阪府済生会吹田病院	6		助教1名（中谷香） 非常勤1名 （河野優那）	
	3 令和11年 5月 （第3週）	9G	佛教大学附属こども園	5	11	准教授2名 （長谷川由香、 鬼頭泰子）	
		10G		6			
		2G	大阪府済生会吹田病院	6		助教1名（中谷香） 非常勤1名 （河野優那）	
	4 令和11年 5月 （第4週）	1G	佛教大学附属こども園	5	11	准教授1名 （長谷川由香） 非常勤1名 （河野優那）	
		2G		6			
		10G	京都第一赤十字病院	6		准教授1名 （鬼頭泰子）	
		9G	大阪府済生会吹田病院	5		助教1名（中谷香）	
	5 令和11年 6月 （第3週）	7G	佛教大学附属こども園	6		非常勤1名 （河野優那）	
		3G	華頂短期大学附属幼稚園	6		准教授1名 （鬼頭泰子）	
		8G	大阪府済生会吹田病院	6		助教1名（中谷香）	
		1G	大津赤十字病院	4		准教授1名 （長谷川由香）	
	6 令和11年 6月 （第4週）	5G	佛教大学附属こども園	6		准教授1名 （長谷川由香） 助教1名（中谷香）	
		12G	京都第一赤十字病院	6		准教授1名 （鬼頭泰子） 非常勤1名 （河野優那）	
	7 令和11年 7月 （第1週）	4G	佛教大学附属こども園	5	11	准教授2名 （長谷川由香、 鬼頭泰子） 助教1名（中谷香） 非常勤1名 （河野優那）	
		6G		6			
	8 令和11年 7月 （第2週）	1G	滋賀県立総合病院	1	12	准教授2名 （長谷川由香、 鬼頭泰子） 助教1名（中谷香） 非常勤1名 （河野優那）	
		3G		6			
		11G		5			
	9 令和11年 7月 （第3週）	6G	滋賀県立総合病院	6	12	准教授2名 （長谷川由香、 鬼頭泰子） 助教1名（中谷香） 非常勤1名 （河野優那）	
		7G		6			
	10 令和11年 7月 （第4週）	4G	滋賀県立総合病院	5	11	准教授2名 （長谷川由香、 鬼頭泰子） 助教1名（中谷香） 非常勤1名 （河野優那）	
		5G		6			

※施設順は、1.こども園・幼稚園、2.病院実習の順に記載

実習科目別指導体制（教員配置）

実習科目	実習時期		実習グループ	実習施設	学生数	実習担当教員	指導形態
母性看護学実習	1	令和11年 5月 （第1週～第2週）	1～3G	大阪府済生会吹田病院	10	教授1名 （田尻后子） 講師1名 （早瀬麻子） 助教1名 （岡崎翠） 非常勤（吉田遥）	1グループ毎に教員1名を配置し、引率指導を行う。 助教と講師は各病院に常駐し、臨地実習指導者と連携をとりながら実習指導を行う。 教授と非常勤は助産院を巡回し学生指導を行う。 教授は実習全体の統括を行うとともに、非常勤への指導を行う。
			1～3G	京都中部総合医療センター	7		
			1～3G	長尾助産院	2		
			1～3G	あかり助産院	4		
			1～3G	まある助産所	4		
			1～3G	ひまわり助産院	4		
			1～3G	つぐみ助産院	3		
	2	令和11年 5月 （第3週～第4週）	4･13･14G	大阪府済生会吹田病院	10	教授1名 （田尻后子） 講師1名 （早瀬麻子） 助教1名 （岡崎翠） 非常勤（吉田遥）	
			4･13･14G	三菱京都病院	7		
			4･13･14G	長尾助産院	4		
			4･13･14G	あかり助産院	2		
			4･13･14G	まある助産所	4		
			4･13･14G	ひまわり助産院	3		
			4･13･14G	つぐみ助産院	4		
	3	令和11年 6月 （第1週～第2週）	5･6･11G	京都大学医学部附属病院	8	教授1名 （田尻后子） 講師1名 （早瀬麻子） 助教1名 （岡崎翠） 非常勤（吉田遥）	
			5･6･11G	三菱京都病院	9		
			5･6･11G	長尾助産院	3		
			5･6･11G	あかり助産院	3		
			5･6･11G	まある助産所	4		
			5･6･11G	ひまわり助産院	4		
			5･6･11G	つぐみ助産院	3		
	5	令和11年 7月 （第1週～第2週）	7･12G	大阪医科薬科大学病院	6	教授1名 （田尻后子） 講師1名 （早瀬麻子） 助教1名 （岡崎翠） 非常勤（吉田遥）	
			7･12G	京都桂病院	6		
			7･12G	長尾助産院	2		
			7･12G	あかり助産院	2		
			7･12G	まある助産所	4		
			7･12G	ひまわり助産院	2		
			7･12G	つぐみ助産院	2		
	6	令和11年 7月 （第3週～第4週）	8･9･10G	大阪医科薬科大学病院	9	教授1名 （田尻后子） 講師1名 （早瀬麻子） 助教1名 （岡崎翠） 非常勤（吉田遥）	
			8･9･10G	京都桂病院	8		
			8･9･10G	長尾助産院	3		
			8･9･10G	あかり助産院	3		
			8･9･10G	まある助産所	5		
			8･9･10G	ひまわり助産院	3		
			8･9･10G	つぐみ助産院	3		

実習科目別指導体制（教員配置）

実習科目	実習時期		実習グループ	実習施設	学生数	実習担当教員		指導形態
精神看護学実習	1	令和11年 5月 （第1週～第2週）	5G	いわくら病院	6	准教授1名 （阿部あかね）	教授1名 （小宮敬子）	1グループ毎に原則教員1名を配置し、引率指導を行う。 教授は日々のカンファレンスに参加し、学生への指導と実習全体の進捗状況を管理する。
				いきいき・いわくら				
			6G	いわくら病院	6	非常勤1名 （村上結唯）		
				いきいき・いわくら				
	2	令和11年 5月 （第3週～第4週）	3G	いわくら病院	6	助教1名 （山岸若菜）		
				いきいき・いわくら				
			12G	いわくら病院	6	非常勤1名 （村上結唯）		
				いきいき・いわくら				
	3	令和11年 6月 （第1週～第2週）	7G	いわくら病院	6	准教授1名 （阿部あかね）		
				いきいき・いわくら				
			8G	いわくら病院	6	助教1名 （山岸若菜）		
				いきいき・いわくら				
	4	令和11年 6月 （第3週～第4週）	4G	北山病院	5	助教1名 （山岸若菜）		
			9G		3			
			4・9G	あむりた	8			
			9G	洛南病院	2	准教授1名 （阿部あかね） 非常勤1名 （村上結唯）		
			10G		6			
			9・10G	あむりた	8			
	5	令和11年 7月 （第1週～第2週）	13G	北山病院	6	助教1名 （山岸若菜） 非常勤1名 （村上結唯）		
				あむりた				
			14G	洛南病院	6	准教授1名 （阿部あかね）		
				あむりた				
	6	令和11年 7月 （第3週～第4週）	1G	北山病院	5	助教1名 （山岸若菜）		
			2G		3			
			1・2G	あむりた	8			
			2G	洛南病院	3	非常勤1名 （村上結唯）		
			11G		5			
			2・11G	あむりた	8			

実習科目別指導体制（教員配置）

実習科目	実習時期	領域	実習施設	学生数	実習担当教員	指導形態
統合実践看護実習	令和11年 9月（第3週）～ 10月（第1週） 期間内2週間	基礎看護	京都第一赤十字病院 大原記念病院	14	教授2名（山本直美、中島小乃美）、講師2名（岡田朱民、冨澤理恵）、助教2名（野口遼、吉原文子）	1施設に教員1～3名を配置する。 学生の学習テーマに基づいて臨地で指導を行う。 日々の臨地での指導は、学内での講義を踏まえ、各領域で調整して行う。
		地域・在宅看護	京都市修徳地域包括支援センター ステーションイルカ 訪問看護ステーションひなた 訪問看護ステーションひろば 訪問看護ステーション 絆 西陣病院／訪問看護ステーション「西陣」	11	教授1名（安藤千晶）、准教授1名（清水奈穂美）、講師1名（駒井和子）、助教1名（山本真子）	
		クリティカルケア看護	京都府立医科大学附属病院 京都市立病院	8	准教授1名(利木佐起子)、講師1名（趙崇来）、助教1名（鈴木皓一朗）	
		慢性看護	京都市立病院	8	教授1名（薮下八重）、講師1名（高岡寿江）、助教1名（山岡怜未）	
		老年看護	京都民医連中央病院	8	教授1名（濱吉美穂）、講師1名（阿部慈美）、助教1名（丸繁裕太）	
		母性看護	京都市壬生児童館 京都府助産師会	7	教授1名((田尻后子)、講師1名（早瀬麻子）、助教1名（岡崎翠）	
		小児看護	大津赤十字病院 大阪府済生会吹田病院 近江八幡市立総合医療センター	8	准教授2名 （長谷川由香、 鬼頭泰子）、 助教1名（中谷香）	
		精神看護	いわくら病院	8	教授1名（小宮敬子）、客員教授1名（末安民生）、准教授1名（阿部あかね）、助教1名（山岸若菜）	
		公衆衛生看護	京都予防医学センター 村田機械 ナーシングクリエイト	8	教授1名（浜崎優子）、准教授1名（田野中恭子）、助教1名（松川泰子）	

実習科目別指導体制（教員配置）

実習科目	実習時期	実習グループ	実習施設	学生数	実習担当教員	指導形態
公衆衛生看護学 実習Ⅰ	学校保健 令和11年 6月（第1・2週） （各学生2日）	1G	華頂女子高等学校	3	教授1名（浜崎優子） 准教授1名（田野中恭子） 助教1名（松川泰子） 非常勤1名（押栗泰代）	1グループ毎に教員1～2名が各施設の巡回指導を行う。 学生は臨地実習指導者の指導を受けるとともに、教員は臨地実習指導者と連携をとりながら実習の調整・指導を行う。
		2G	東山中学高等学校	7		
		3G	京都文教中学高等学校	7		
	産業保健 令和11年 7月（第3・4週） （各学生2日）	1G	京都信用金庫	5	教授1名（浜崎優子） 准教授1名（田野中恭子） 助教1名（松川泰子） 非常勤1名（押栗泰代）	
		2G	オムロンエキスパートリンク	6		
		3G	京都予防医学センター	6		
公衆衛生看護学実習Ⅱ	令和11年8月 （第3あるいは4週） ～9月（第2週） の中で4週間	1G	1. 京都府保健所および管内の市町村 2. 京都市保健福祉センター	6	教授1名（浜崎優子） 准教授1名（田野中恭子） 助教1名（松川泰子） 非常勤1名（押栗泰代）	1グループ毎に教員1名を配置する。 学生は臨地実習指導者の指導を受けるとともに、教員は臨地実習指導者と連携をとりながら実習の調整・指導を行う。
		2G		6		
		3G		5		

グレーのセルは通常授業

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
基礎看護	山本直美									研修日																			研修日					
	中島 小乃美																			研修日									研修日					
	岡田 朱民																			研修日									研修日					
	冨澤 理恵									研修日																			研修日					
	野口 遼									研修日																			研修日					
	吉原 文子									研修日																			研修日					
地域・在宅看護	安藤 千晶	コミュニティ実習			研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日 春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	清水 奈穂美	コミュニティ実習			研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日 春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	山本 真子	コミュニティ実習								研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																			研修日 春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
クリティカルケア	利木 佐起子																								研修日				研修日					
	趙 崇来																								研修日				研修日					
	鈴木 皓一朗																								研修日				研修日					
慢性看護	藪下 八重																								研修日				研修日					
	高岡 寿江																								研修日				研修日					
	大霜 由貴子																								研修日				研修日					
老年看護	濵吉 美穂				研修日																								研修日					
	阿部 慈美				研修日																								研修日					
	安本 厚子				研修日																								研修日					

科担当時間割表[2026年(春学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
小児看護	長谷川 由香				研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																									研修日					
	鬼頭 泰子				研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																									研修日					
	中谷 香				研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																									研修日					
母性看護	田尻 后子																								研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
	早瀬 麻子																								研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
	宇佐美 智美																								研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
精神看護	小宮 敬子																								研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
	末安 民生 (客員教授)	コミュニティ実習																											春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	阿部 あかね																								研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
	山岸 若菜																								研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
公衆衛生看護	浜崎 優子				研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																									研修日					公衆衛生看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3週～9月2週)
	田野中 恭子				研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																									研修日					公衆衛生看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3週～9月2週)
	松川 泰子				研修日 (2023度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																									研修日					公衆衛生看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3週～9月2週)

科担当時間割表[2026年(秋学期)]

グレーのセルは通常授業

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
基礎看護	山本直美	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	中島 小乃美	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	岡田 朱民	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	富澤 理恵	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	野口 遼	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	吉原 文子	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
地域・在宅看護	安藤 千晶	コミュニティ実習			研修日																								研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	清水 奈穂美	コミュニティ実習			研修日																								研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	山本 真子	コミュニティ実習								研修日																			研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
クリティカルケア	利木 佐起子																							研修日 (2024年度入学生秋学期実習のため、実習期間は取得できない)					研修日					
	趙 崇来																							研修日 (2024年度入学生秋学期実習のため、実習期間は取得できない)					研修日					
	鈴木 皓一朗																							研修日 (2024年度入学生秋学期実習のため、実習期間は取得できない)					研修日					
慢性看護	藪下 八重																							研修日 (2024年度入学生秋学期実習のため、実習期間は取得できない)					研修日					
	高岡 寿江																							研修日 (2024年度入学生秋学期実習のため、実習期間は取得できない)					研修日					
	大霜 由貴子																							研修日 (2024年度入学生秋学期実習のため、実習期間は取得できない)					研修日					
老年看護	濱吉 美穂				研修日 (2024年度入学生秋学期実習のため、実習期間は取得できない)																									研修日					
	阿部 慈美				研修日 (2024年度入学生秋学期実習のため、実習期間は取得できない)																									研修日					
	安本 厚子				研修日 (2024年度入学生秋学期実習のため、実習期間は取得できない)																									研修日					

科担当時間割表[2026年(秋学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
小児看護	長谷川 由香																							研修日					研修日					
	鬼頭 泰子																							研修日					研修日					
	中谷 香																							研修日					研修日					
母性看護	田尻 后子																							研修日					研修日					
	早瀬 麻子																							研修日					研修日					
	宇佐美 智美																							研修日					研修日					
精神看護	小宮 敬子																							研修日					研修日					
	末安 民生 (客員教授)																																	
	阿部 あかね																							研修日					研修日					
	山岸 若菜				研修日																								研修日					
公衆衛生看護	浜崎 優子																							研修日					研修日					
	田野中 恭子																							研修日					研修日					
	松川 泰子																							研修日					研修日					

科担当時間割表[2027年(春学期)]

グレーのセルは通常授業

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月 1時間目	月 2時間目	月 3時間目	月 4時間目	月 5時間目	火 1時間目	火 2時間目	火 3時間目	火 4時間目	火 5時間目	水 1時間目	水 2時間目	水 3時間目	水 4時間目	水 5時間目	木 1時間目	木 2時間目	木 3時間目	木 4時間目	木 5時間目	金 1時間目	金 2時間目	金 3時間目	金 4時間目	金 5時間目	土 1時間目	土 2時間目	土 3時間目	土 4時間目	土 5時間目	備考欄(集中講義等)
基礎看護	山本直美	基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	中島 小乃美	基礎看護学実習Ⅱ																		研修日									研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	岡田 朱民	基礎看護学実習Ⅱ																		研修日									研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	冨澤 理恵	基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	野口 遼	基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	吉原 文子	基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
地域・在宅看護	安藤 千晶	コミュニティ実習								研修日 2024～2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない																			研修日 春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	清水 奈穂美	コミュニティ実習								研修日 2024～2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない																			研修日 春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	駒井 和子	コミュニティ実習								研修日 2024～2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない																			研修日 春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	山本 真子	コミュニティ実習													研修日 2024～2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない														研修日 春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
		基礎看護学実習Ⅱ													研修日														研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
クリティカルケア	利木 佐起子																							研修日					研修日					
	趙 崇来																							研修日					研修日					
	鈴木 皓一朗	基礎看護学実習Ⅱ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
慢性看護	藪下 八重																							研修日					研修日					
	高岡 寿江																							研修日					研修日					
	山岡 怜未	基礎看護学実習Ⅱ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	濱吉 美穂				研修日																								研修日					

科担当時間割表[2027年(春学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
老年看護	阿部　慈美				研修日																								研修日					
	丸繁　裕太	基礎看護学実習Ⅱ			研修日																								研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
小児看護	長谷川　由香				研修日 (2024年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日					
	鬼頭　泰子				研修日 (2024年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日					
	中谷　香	基礎看護学実習Ⅱ			研修日 (2024年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
母性看護	田尻　后子																							研修日 (2024年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
	早瀬　麻子																							研修日 (2024年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
	岡崎　翠	基礎看護学実習Ⅱ																						研修日 (2024年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
精神看護	小宮　敬子																							研修日 (2024年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
	来安 民生 (客員教授)	コミュニティ実習																											春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	阿部 あかね																							研修日 (2024年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
	山岸　若菜	基礎看護学実習Ⅱ																						研修日 (2024年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
公衆衛生看護	浜崎　優子				研修日 (2024年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日					公衆衛生看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3週～9月2週)
	田野中 恭子				研修日 (2024年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日					公衆衛生看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3週～9月2週)
	松川　泰子				研修日 (2024年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日					公衆衛生看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3週～9月2週)

科担当時間割表[2027年(秋学期)]

グレーのセルは通常授業

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
基礎看護	山本直美	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	中島 小乃美	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	岡田 朱民	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	富澤 理恵	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	野口 遼	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	吉原 文子	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
地域・在宅看護	安藤 千晶	コミュニティ実習			研修日																								研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	清水 奈穂美	コミュニティ実習			研修日																								研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	駒井 和子	コミュニティ実習			研修日																								研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	山本 真子	コミュニティ実習								研修日																			研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
クリティカルケア	利木 佐起子																							研修日 (2025年度入学生の秋学期実習のため、実習期間中は取得できず)					研修日					
	趙 崇来																							研修日 (2025年度入学生の秋学期実習のため、実習期間中は取得できず)					研修日					
	鈴木 皓一朗																							研修日 (2025年度入学生の秋学期実習のため、実習期間中は取得できず)					研修日					
慢性看護	藪下 八重																							研修日 (2025年度入学生の秋学期実習のため、実習期間中は取得できず)					研修日					
	高岡 寿江																							研修日 (2025年度入学生の秋学期実習のため、実習期間中は取得できず)					研修日					
	山岡 怜未																							研修日 (2025年度入学生の秋学期実習のため、実習期間中は取得できず)					研修日					
老年看護	濱吉 美穂				研修日 (2025年度入学生の秋学期実習のため、実習期間中は取得できず)																								研修日					
	阿部 慈美				研修日 (2025年度入学生の秋学期実習のため、実習期間中は取得できず)																								研修日					

科担当時間割表[2027年(秋学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
	丸繁 裕太				研修日 (2025年度入学生の秋学期実習のため、実習期間中は取得できず)																									研修日					
小児看護	長谷川 由香																							研修日					研修日					
	鬼頭 泰子																							研修日					研修日					
	中谷 香																							研修日					研修日					
母性看護	田尻 后子																							研修日					研修日					
	早瀬 麻子																							研修日					研修日					
	岡崎 翠																							研修日					研修日					
精神看護	小宮 敬子																							研修日					研修日					
	末安 民生 (客員教授)																																	
	阿部 あかね																							研修日					研修日					
	山岸 若菜				研修日																								研修日					
公衆衛生看護	浜崎 優子																							研修日					研修日					
	田野中 恭子																							研修日					研修日					
	松川 泰子																							研修日					研修日					

科担当時間割表[2028年(春学期)]

グレーのセルは通常授業

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
基礎看護	山本直美	基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	中島 小乃美	基礎看護学実習Ⅱ																		研修日									研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	岡田 朱民	基礎看護学実習Ⅱ																		研修日									研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	冨澤 理恵	基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	野口 遼	基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	吉原 文子	基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
地域・在宅看護	安藤 千晶	コミュニティ実習			研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日 春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	清水 奈穂美	コミュニティ実習			研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日 春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	駒井 和子	コミュニティ実習			研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日 春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	山本 真子	コミュニティ実習								研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																			研修日 春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間) 基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
		基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
クリティカルケア	利木 佐起子																												研修日					
	趙 崇来																												研修日					
	鈴木 皓一朗	基礎看護学実習Ⅱ																											研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
慢性看護	藪下 八重																												研修日					
	高岡 寿江																												研修日					
	山岡 怜未	基礎看護学実習Ⅱ																											研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	濱吉 美穂				研修日																								研修日					

科担当時間割表[2028年(春学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
老年看護	阿部　慈美				研修日																								研修日					
	丸繁　裕太	基礎看護学実習Ⅱ			研修日																								研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
小児看護	長谷川　由香				研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日					
	鬼頭　泰子				研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日					
	中谷　香	基礎看護学実習Ⅱ			研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
母性看護	田尻　后子																							研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
	早瀬　麻子																							研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
	岡崎　翠	基礎看護学実習Ⅱ																						研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
精神看護	小宮　敬子																							研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
	来安 民生 (客員教授)	コミュニティ実習																											春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	阿部 あかね																							研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					
	山岸　若菜	基礎看護学実習Ⅱ																						研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)					研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
公衆衛生看護	浜崎　優子				研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日					公衆衛生看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3週～9月2週)
	田野中 恭子				研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日					公衆衛生看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3週～9月2週)
	松川　泰子				研修日 (2025年度入学生春学期実習のため、実習期間中は取得できない)																								研修日					公衆衛生看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3週～9月2週)

グレーのセルは通常授業

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
基礎看護	山本直美	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	中島 小乃美	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	岡田 朱民	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	冨澤 理恵	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	野口 遼	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	吉原 文子	基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
地域・在宅看護	安藤 千晶	地域・在宅看護学実習	10月2週目～2029年2月1週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	地域・在宅看護学概論8週科目(1～5週目、その他の週は臨地実習 対応等)	移動 臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	研修日					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
				実習2週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	地域・在宅看護学概論8週科目(1～5週目、その他の週は臨地実習 学内日学生対応等)	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等						
		コミュニティ実習			研修日 秋学期実習期間中は取得できず																									研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	清水 奈穂美	地域・在宅看護学実習	10月2週目～2029年1月4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	地域・在宅看護学概論8週科目(6～8週目、その他の週は臨地実習対応等))	移動 臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	研修日					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
				実習2週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	地域・在宅看護学概論8週科目(6～8週目、その他の週は臨地実習 学内日学生対応等)	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等						
		コミュニティ実習			研修日 秋学期実習期間中は取得できず																									研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	駒井 和子	地域・在宅看護学実習	10月2週目～2029年1月4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	研修日					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
				実習2週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等						
		コミュニティ実習			研修日 秋学期実習期間中は取得できず																									研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
		地域・在宅看護学	10月2週目～2029年1月4週	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動						コミュニティ実習(5月～10月の

科担当時間割表[2028年(秋学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
	山本 真子	実習	2029年1月4週目	実習2週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					内5日間)
		コミュニティ実習								研修日 秋学期実習期間中は取得できず																					研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
クリティカルケア	利木 佐起子	クリティカルケア看護学実習	10月1週目～2029年1月4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	クリティカルケア看護学Ⅰ	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	研修日					
				実習2週目	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等 移動等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	クリティカルケア看護学Ⅰ	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等						
				実習3週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 移動等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	クリティカルケア看護学Ⅰ	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等 移動等	臨地実習 学内日 学生対応等 移動等	臨地実習 学内日 学生対応等 移動等	臨地実習 学内日 学生対応等 移動等	臨地実習 学内日 学生対応等 移動等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等						
	趙 崇来	クリティカルケア看護学実習	10月1週目～2029年1月4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	授業担当週は移動 その他の週は臨地実習 学生対応	クリティカルケア看護学Ⅰ(該当週数15週目) その他の週は臨地実習 学生対応	授業担当週は移動 臨地実習 学生対応等 その他の週は臨地実習 学生対応	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
	高岡　寿江	慢性看護学実習	10月1週目～1月末	実習2週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	授業担当週は移動その他の週は臨地実習学生対応	慢性看護学Ⅰ(該当週数4,9,13,14週目を担当、その他の週は臨地実習対応等)	授業担当週は学生対応等その他の週は臨地実習学生対応・移動等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	研修日					
				実習3週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	授業担当週は移動その他の週は移動学内学生対応等	慢性看護学Ⅰ(該当週数4,9,13,14週目を担当、その他の週は臨地実習対応等)	学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
	山岡　怜未	慢性看護学実習	10月1週目～1月末	実習1週目	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	研修日					
				実習2週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	研修日					
				実習3週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	移動中の学生対応等	学生対応等	学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
老年看護	濱吉　美穂	老年看護学実習	10月第1週～1月末	第1週	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ(当該週数1～3週目、5,12～15週目を担当、その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	研修日					
				第2週	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ(当該週数1～3週目、5,12～15週目を担当、その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
				第3週	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備、その他の週は臨地実習学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備、その他の週は臨地実習学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ(当該週数1～3週目、5,12～15週目を担当、その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備、その他の週は臨地実習学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備、その他の週は臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
	阿部　慈美	老年看護学実習	10月第1週～1月末	第1週	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備その他の週は臨地実習学内日学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ(当該週数4,7～11週目を担当、その他の週は臨地実習学生対)応	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備その他の週は臨地実習学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備その他の週は臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	研修日					
				第2週	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備その他の週は臨地実習学内日学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ(当該週数4,7～11週目を担当、その他の週は臨地実習学生対)応	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備その他の週は臨地実習学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備その他の週は臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					

科担当時間割表[2028年(秋学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
				第3週	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ(当該週数4,7~11週目を担当、その他の週は臨地実習学生対)応	臨地実習学生対応等 老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備	臨地実習学生対応等 老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
	丸繁 裕太	老年看護学実習	10月第1週～11月末	第1週	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等 移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習学内日学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ(当該週数6週目を担当、その他は臨地実習学内日学生対応等)	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
				第2週	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習学内日学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ(当該週数6週目を担当、その他は臨地実習学内日学生対応等)	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
				第3週	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ(当該週数6週目を担当、その他は臨地実習学内日学生対応等)	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
小児看護	長谷川 由香																								研修日					研修日					
	鬼頭 泰子																								研修日					研修日					
	中谷 香																								研修日					研修日					
母性看護	田尻 后子																								研修日					研修日					
	早瀬 麻子																								研修日					研修日					
	岡崎 翠																								研修日					研修日					
精神看護	小宮 敬子																								研修日					研修日					
	末安 民生(客員教授)																																		
	阿部 あかね																								研修日					研修日					
	山岸 若菜				研修日																									研修日					

科担当時間割表[2028年(秋学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
公衆衛生看護	浜崎 優子																							研修日					研修日					
	田野中 恭子																							研修日					研修日					
	松川 泰子																							研修日					研修日					

科担当時間割表[2029年(春学期)]

グレーのセルは通常授業

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
基礎看護	山本直美	基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) 基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	中島 小乃美	基礎看護学実習Ⅱ																		研修日									研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) 基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	岡田 朱民	基礎看護学実習Ⅱ																		研修日									研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) 基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	富澤 理恵	基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) 基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	野口 遼	基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	吉原 文子	基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
地域・在宅看護	安藤 千晶	コミュニティ実習			研修日																								研修日 春学期2週コミュニティ実習					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	清水 奈穂美	コミュニティ実習			研修日																								研修日 春学期2週コミュニティ実習					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	駒井 和子	コミュニティ実習			研修日																								研修日 春学期2週コミュニティ実習					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	山本 真子	コミュニティ実習								研修日																			研修日 春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
		基礎看護学実習Ⅱ								研修日																			研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
クリティカルケア	利木 佐起子																								研修日				研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) 看護倫理学8回科目該当週数(2週目)
	趙 崇来																								研修日				研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週)
	鈴木 皓一朗	基礎看護学実習Ⅱ																							研修日				研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
慢性看護	飯下 八重																								研修日				研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(1～15週) 看護倫理学8回科目該当週数(3週目)
	高岡 寿江																								研修日				研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週)
	山岡 怜未	基礎看護学実習Ⅱ																							研修日				研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	濱吉 美穂				研修日																								研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(5、9～15週) 看護倫理学9回科目該当週数(4週目)

科担当時間割表[2029年(春学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
老年看護	阿部　慈美				研修日																								研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週)
	丸繁　裕太	基礎看護学実習Ⅱ			研修日																								研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
小児看護	長谷川　由香	小児看護学実習	5月1週目～7月末	こども園・幼稚園実習	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 小児看護 学概論 8回科目該当週数(1-7週目)	授業準備・学生対応等等	看護学科 小児看護 方法論Ⅱ 8回科目(1～8週目)	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) 看護倫理学8回科目該当週数(5週目)
				病院実習	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 小児看護 学概論 8回科目該当週数(1-7週目)	授業準備・学生対応等等	看護学科 小児看護 方法論Ⅱ 8回科目(1～8週目)	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
	鬼頭　泰子	小児看護学実習	5月1週目～7月末	こども園・幼稚園実習	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 小児看護 学概論 8回科目該当週数(8週目)	授業準備・学生対応等等	看護学科 小児看護 方法論Ⅱ 8回科目(1～8週目)	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週)
				病院実習	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 小児看護 学概論 8回科目該当週数(8週目)	授業準備・学生対応等等	看護学科 小児看護 方法論Ⅱ 8回科目(1～8週目)	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
	中谷　香	小児看護学実習	5月1週目～7月末	こども園・幼稚園実習	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 小児看護 方法論Ⅱ 8回科目(1～8週目)	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
				病院実習	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 小児看護 方法論Ⅱ 8回科目(1～8週目)	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
		基礎看護学実習Ⅱ			研修日 (春学期実習期間ないは取得できない)																									研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
母性看護	田尻　后子	母性看護学実習	5月1週目～7月末	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 母性看護 概論 8回科目該当回数 3・4・6・8回・移動	移動 臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 母性看護 方法論Ⅱ 8回科目該当回数 4-6回目	授業準備・学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) 看護倫理学8回科目該当週数(6週目)
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 母性看護 概論 8回科目該当回数 3・4・6・8回・移動	移動 臨地実習 学生対応等等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 母性看護 方法論Ⅱ 8回科目該当回数 4-8回目	授業準備・学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	研修日					
	早瀬麻子	母性看護学実習	5月1週目～7月末	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 母性看護 概論 8回科目該当回数 5・6回・移動	移動 臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等 移動	看護学科 国際看護学 8回科目 1-8回目	授業準備・学生対応等	看護学科 母性看護 方法論Ⅱ 8回科目 該当回数 6-8回目	授業準備・学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週)
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 母性看護 概論 8回科目該当回数 5・6回・移動	移動 臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等 移動	看護学科 国際看護学 8回科目 該当回数 1-8回目	授業準備・学生対応等	看護学科 母性看護 方法論Ⅱ 8回科目 該当回数 6-8回目	授業準備・学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	臨地実習 学内日 学生対応	研修日					
	岡崎　翠	母性看護学実習	5月1週目～7月末	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
		基礎看護学実習Ⅱ																												研修日 (春学期実習期間ないは取得できない)					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
	小宮　敬子	精神看護学実習	5月1週目～7月末	実習1週目	看護学科 精神看護 学概論 8回科目該当週数(1-4週目)	移動 臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 精神看護 方法論Ⅱ 8回科目該当週数(1-4週目)	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) 看護倫理学8回科目該当週数(1.8週目)
				実習2週目	看護学科 精神看護 学概論 8回科目該当週数(1-4週目)	移動 臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 精神看護 方法論Ⅱ 8回科目該当週数(1-4週目)	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	研修日					

科担当時間割表[2029年(春学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
精神看護	末安 民生 (客員教授)	コミュニティ実習																											春学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	阿部 あかね	精神看護学実習	5月1週目～ 7月末	実習1週目	看護学科 精神看護学概論 8回科目該当週数(6-8週目)	移動 臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 精神看護 方法論Ⅱ 8回科目該当 週数(5-8週目)	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) 看護倫理学8回科目該当週数(7.8週目)
				実習2週目	看護学科 精神看護学概論 8回科目該当 週数(6-8週目)	移動 臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 精神看護 方法論Ⅱ 8回科目該当 週数(5-8週目)	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	研修日					
	山岸 若菜	精神看護学実習	5月1週目～ 7月末	実習1週目	看護学科 精神看護 学概論 8回科目該当 週数(5週目)	移動 臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 精神看護 方法論Ⅱ 8回科目該当 週数(1-2週目)	移動 臨地実習 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 精神看護 方法論Ⅱ 8回科目該当 週数(1-2週目)	移動 臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	研修日					
		基礎看護学実習Ⅱ																						研修日 (春学期実習期間ないは取得できない)					研修日					基礎看護学実習Ⅱ授業時間外期間(8月3～4週)
公衆衛生看護	浜崎 優子	公衆衛生看護学実習Ⅰ	6月1・2週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	公衆衛生 看護展開 論Ⅰ	公衆衛生 看護展開 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護管理 論Ⅰ	公衆衛生 看護管理 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) 公衆衛生看護活動論(4月)
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護展開 論Ⅰ	公衆衛生 看護展開 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護管理 論Ⅰ	公衆衛生 看護管理 論Ⅱ	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
			7月3・4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	公衆衛生 看護展開 論Ⅰ	公衆衛生 看護展開 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護管理 論Ⅰ	公衆衛生 看護管理 論Ⅱ	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護展開 論Ⅰ	公衆衛生 看護展開 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護管理 論Ⅰ	公衆衛生 看護管理 論Ⅱ	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
		公衆衛生看護学実習Ⅱ			研修日																								研修日					公衆衛生看護学実習Ⅱ 授業時間外期間(8月3週目～9月2週目)担当
	田野中 恭子	公衆衛生看護学実習Ⅰ	6月1・2週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	公衆衛生 看護展開 論Ⅰ	公衆衛生 看護展開 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護管理 論Ⅰ	公衆衛生 看護管理 論Ⅱ	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅰ(9～15週) 公衆衛生看護活動論(4月)
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護展開 論Ⅰ	公衆衛生 看護展開 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護管理 論Ⅰ	公衆衛生 看護管理 論Ⅱ	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
			7月3・4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	公衆衛生 看護展開 論Ⅰ	公衆衛生 看護展開 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護管理 論Ⅰ	公衆衛生 看護管理 論Ⅱ	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護展開 論Ⅰ	公衆衛生 看護展開 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護管理 論Ⅰ	公衆衛生 看護管理 論Ⅱ	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
		公衆衛生看護学実習Ⅱ			研修日																								研修日					公衆衛生看護学実習Ⅱ 授業時間外期間(8月3週目～9月2週目)担当
	松川 泰子	公衆衛生看護学実習Ⅰ	6月1・2週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	公衆衛生 看護展開 論Ⅰ	公衆衛生 看護展開 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護管理 論Ⅰ	公衆衛生 看護管理 論Ⅱ	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					公衆衛生看護活動論(4月)
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護展開 論Ⅰ	公衆衛生 看護展開 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護管理 論Ⅰ	公衆衛生 看護管理 論Ⅱ	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
			7月3・4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	公衆衛生 看護展開 論Ⅰ	公衆衛生 看護展開 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護管理 論Ⅰ	公衆衛生 看護管理 論Ⅱ	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護展開 論Ⅰ	公衆衛生 看護展開 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	公衆衛生 看護方法 論Ⅱ	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	公衆衛生 看護管理 論Ⅰ	公衆衛生 看護管理 論Ⅱ	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
		公衆衛生看護学実習Ⅱ			研修日																								研修日					公衆衛生看護学実習Ⅱ 授業時間外期間(8月3週目 ～9月2週目)担当

科担当時間割表[2029年(秋学期)]

グレーのセルは通常授業

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
基礎看護	山本直美	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	生活行動援助技術論	生活行動援助技術論	授業準備・学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	看護学科看護教育学8回科目(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	授業準備学生対応等	授業準備学生対応等	フィジカルアセスメント技術	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅱ
				実習2週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	生活行動援助技術論(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	生活行動援助技術論(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	授業準備・学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	看護学科看護教育学8回科目(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	フィジカルアセスメント演習準備	フィジカルアセスメント演習準備	フィジカルアセスメント演習準備	フィジカルアセスメント技術	学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
		基礎看護学実習Ⅰ																											研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	中島 小乃美	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	生活行動援助技術論	生活行動援助技術論	臨地実習学内日学生対応等	演習準備・学生対応等	診療援助技技術論Ⅱ	演習片付け・学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	看護学科アカデミックスキルズ	キャリアスキルズ2 8回科目(該当週数1、6-8週目)	臨地実習学内日学生対応等	フィジカルアセスメント技術	演習片付け・学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅱ
				実習2週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	生活行動援助技術論(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	生活行動援助技術論(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	診療援助技技術論Ⅱ(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	看護学科アカデミックスキルズ(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	キャリアスキルズ2 8回科目(該当週数1、6-8週目、こその他の週は臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
		基礎看護学実習Ⅰ																											研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	岡田 朱民	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習学内日学生対応等	授業準備・学生対応等	生活行動援助技術論	生活行動援助技術論	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	フィジカルアセスメント技術	演習片付け・学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅱ
				実習2週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	生活行動援助技術論(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	生活行動援助技術論(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
		基礎看護学実習Ⅰ																											研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	冨澤 理恵	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	生活行動援助技術論	生活行動援助技術論	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	フィジカルアセスメント技術	演習片付け・学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅱ
				実習2週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	生活行動援助技術論(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	生活行動援助技術論(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
		基礎看護学実習Ⅰ																											研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
				実習1週目	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	生活行動援助技術論	生活行動援助技術論	学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	看護学科アカデミックスキルズ	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	フィジカルアセスメント技術	演習片付け・学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	研修日					

科担当時間割表[2029年(秋学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
	野口 遼	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習2週目	臨地実習 学生対応 等	移動	生活行動 援助技術 論(休講、 後日補講) 臨地実習 学生対応 等	生活行動 援助技術 論(休講、 後日補講) 臨地実習 学生対応 等	学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	看護学科 アカデミック スキルズ (休講、後 日補講) 臨地実習 学生対応 等	フィジカル アセスメン ト 演習準備	フィジカル アセスメン ト 演習準備	フィジカル アセスメン ト技術	学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	研修日					
		基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	吉原 文子	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	生活行動 援助技術 論	生活行動 援助技術 論	学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	フィジカル アセスメン ト技術	演習片付 け・ 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	研修日					
				実習2週目	臨地実習 学生対応 等	移動	生活行動 援助技術 論(休講、 後日補講) 臨地実習 学生対応 等	生活行動 援助技術 論(休講、 後日補講) 臨地実習 学生対応 等	学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	フィジカル アセスメン ト 演習準備	フィジカル アセスメン ト 演習準備	フィジカル アセスメン ト 演習準備	フィジカル アセスメン ト技術	学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	研修日					
		基礎看護学実習Ⅰ																						研修日					研修日					基礎看護学実習Ⅰ授業時間外期間(2月3～4週の内1週間)
	安藤 千晶	統合実践看護実習	9月3～4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	授業準備・ 学生対応 等	授業準備・ 学生対応 等	地域・在宅 看護学概 論8週科目 (1～5週 目)	移動 臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅱ
				実習2週目	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等・移動	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等・移動	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	授業準備・ 学生対応 等	地域・在宅 看護学概 論8週科目 (1～5週 目)	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等					
		地域・在宅看護学実習	10月2週目～2030年2月1週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	授業準備・ 学生対応 等	授業準備・ 学生対応 等	地域・在宅 看護学概 論8週科目 (1～5週 目、 その他の 週は臨地 実習 対応 等)	移動 臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	研修日					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
				実習2週目	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	授業準備・ 学生対応 等	地域・在宅 看護学概 論8週科目 (1～5週 目、 その他の 週は臨地 実習 学内 日学生対 応等)	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等					
		コミュニティ実習			研修日																							研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	清水 奈穂美	統合実践看護実習	9月3～4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅱ
				実習2週目	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等/移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等					
				実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学内日 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等・移動	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動	授業準備・ 学生対応 等	授業準備・ 学生対応 等	地域・在宅 看護学概 論8週科目 (6～8週 目、その他 の週は臨 地実習対 応等)	移動 臨地実習 学生対応 等	臨地実習 学生対応 等 ・移動						
		地域・在宅看護学	10月2週目～																															

科担当時間割表[2029年(秋学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
地域・在宅看護		地域・在宅看護学実習	2030年1月4週目	実習2週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	授業準備・学生対応等	地域・在宅看護学概論9週科目（6～8週目、その他の週は臨地実習 学内日学生対応等）	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
		コミュニティ実習			研修日																								研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	駒井 和子	統合実践看護実習	9月3～4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	研修日					集中講義科目：看護研究Ⅱ
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動						
		地域・在宅看護学実習	10月2週目～2030年1月4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	研修日					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
				実習2週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等						
		コミュニティ実習			研修日																								研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
	山本真子	統合実践看護実習	9月3～4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	研修日					集中講義科目：看護研究Ⅱ
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等/移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動						
		地域・在宅看護学実習	10月2週目～2030年1月4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	研修日					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
				実習2週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動						
		コミュニティ実習								研修日																			研修日 秋学期2週コミュニティ実習					コミュニティ実習(5月～10月の内5日間)
		統合実践看護実習	9月3～4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 クリティカルケア看護学Ⅰ（休講、後日補講）	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 クリティカルケア看護実践8回科目目（休講、後日補講）	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等	看護マネジメント8回科目（休講）臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 移動等	研修日					
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 移動等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 クリティカルケア看護学Ⅰ（休講、後日補講）	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	クリティカルケア看護実践8回科目目（休講、後日補講）臨地実習 学内日指導	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応	看護マネジメント8回科目（休講、後日補講）臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 移動等	研修日					

科担当時間割表[2029年(秋学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
クリティカルケア	利木 佐起子	クリティカルケア看護学実習	10月1週目～2030年1月4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習/学生対応/クリティカルケア看護学Ⅰ(休講、後日補講)	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	クリティカルケア看護実践8回科目(休講、後日補講)臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	看護マネジメント8回科目(休講、後日補講)臨地実習 学生対応等	移動 臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅱ
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	クリティカルケア看護学Ⅰ	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	授業準備・学生対応等	クリティカルケア看護実践8回科目	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	看護マネジメント8回科目	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	研修日					
				実習3週目	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	クリティカルケア看護学Ⅰ	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	授業準備・学生対応等	クリティカルケア看護実践8回科目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	授業準備・臨地実習 学内日 学生対応等	看護マネジメント8回科目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
	趙 崇来	統合実践看護実習	9月3～4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習

科担当時間割表[2029年(秋学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
慢性看護	藪下 八重	統合実践看護実習	9月3～4週目	実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	授業担当週は移動 その他の週は臨地実習 学生対応	慢性看護学Ⅰ(該当週数1～3、5～8、10-12、15週目を担当。その他の週は臨地実習対応等)	授業担当週は 学生対応等 その他の週は臨地実習 学生対応・移動等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
		慢性看護学実習	10月1週目～2030年1月4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	授業担当週は移動 その他の週は臨地実習 学生対応	慢性看護学Ⅰ(該当週数1～3、5～8、10-12、15週目を担当。その他の週は臨地実習対応等)	授業担当 学生対応等 その他の週は臨地実習 学生対応・移動等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	研修日					
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	授業担当週は移動 その他の週は臨地実習 学生対応	慢性看護学Ⅰ(該当週数1～3、5～8、10-12、15週目を担当。その他の週は臨地実習対応等)	授業担当 学生対応等 その他の週は臨地実習 学生対応・移動等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
				実習3週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	授業担当週は移動 その他の週は移動 学内 学生対応等	慢性看護学Ⅰ(該当週数1～3、5～8、10-12、15週目を担当。その他の週は臨地実習対応等)	学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
	高岡 寿江	統合実践看護実習	9月3～4週目	実習1週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	授業担当週は移動 その他の週は臨地実習 学生対応	慢性看護学Ⅰ(該当週数4、9、13、14週目を担当。その他の週は臨地実習対応等)	授業担当週は 学生対応等 その他の週は臨地実習 学生対応・移動等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	研修日					
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	授業担当週は移動 その他の週は臨地実習 学生対応	慢性看護学Ⅰ(該当週数4、9、13、14週目を担当。その他の週は臨地実習対応等)	授業担当 学生対応等 その他の週は臨地実習 学生対応・移動等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
		慢性看護学実習	10月1週目～2030年1月4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	授業担当週は移動 その他の週は臨地実習 学生対応	慢性看護学Ⅰ(該当週数4、9、13、14週目を担当。その他の週は臨地実習対応等)	授業担当 学生対応等 その他の週は臨地実習 学生対応・移動等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	研修日					
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	授業担当週は移動 その他の週は臨地実習 学生対応	慢性看護学Ⅰ(該当週数4、9、13、14週目を担当。その他の週は臨地実習対応等)	授業担当 学生対応等 その他の週は臨地実習 学生対応・移動等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
				実習3週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	授業担当週は移動 その他の週は移動 学内 学生対応等	慢性看護学Ⅰ(該当週数4、9、13、14週目を担当。その他の週は臨地実習対応等)	学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
		統合実践看護実習	9月3～4週目	実習1週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	研修日					
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					

科担当時間割表[2029年(秋学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
	山岡 怜未	慢性看護学実習	10月1週目～2030年1月4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	研修日					
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	研修日					
				実習3週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	移動 学内 学生対応等	学生対応等	学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
老年看護	濱吉 美穂	統合実践看護実習	9月3～4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護 方法論Ⅰ	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	研修日					
				実習2週目	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	老年看護 方法論Ⅰ	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	研修日					
		老年看護学実習	10月1週目～2030年1月4週目	第1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等 移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ （当該週数1～3週目、5、12～15週目を担当、その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	研修日					
				第2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ （当該週数1～3週目、5、12～15週目を担当、その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
				第3週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	老年看護法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備、その他の週は臨地実習 学生対応等	老年看護法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備、その他の週は臨地実習 学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ （当該週数1～3週目、5、12～15週目を担当、その他の週は臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備、その他の週は臨地実習 学生対応等	老年看護法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備、その他の週は臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
		統合実践看護実習	9月3～4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	研修日					
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
	阿部 詩美			第1週	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ （当該週数4、7～11週目を担当、その他の週は臨地実習学生対）応	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	研修日					

科担当時間割表[2029年(秋学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
	阿部　恵美	老年看護学実習	10月1週目～2030年1月4週目	第2週	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ (当該週数4、7～11週目を担当、その他の週は臨地実習学生対)応	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
				第3週	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ (当該週数4、7～11週目を担当、その他の週は臨地実習学生対)応	臨地実習 学生対応等 老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備	臨地実習 学生対応等 老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
	丸繁　裕太	統合実践看護実習	9月3～4週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	研修日					
				実習2週目	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	研修日					
		老年看護学実習	10月1週目～2030年1月4週目	第1週	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等 移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ (当該週数6週目を担当、その他は臨地実習学内日 学生対応等)	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
				第2週	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ (当該週数6週目を担当、その他は臨地実習学内日 学生対応等)	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学内日学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
				第3週	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学生対応等	老年看護学方法論Ⅰ (当該週数6週目を担当、その他は臨地実習学内日 学生対応等)	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学生対応等	老年看護方法論Ⅰの授業担当日は学内で授業準備 その他の週は臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
小児看護	長谷川　由香	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	看護学科 アカデミックスキルズ (休講、後日補講) 臨地実習 学生対応・移動	キャリアスキルズ2 8回科目 (該当週数3週目) その他は臨地実習 学生対応	看護学科 小児看護方法論Ⅰ (該当週数8-12週目)	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅱ
				実習2週目	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	看護学科 アカデミックスキルズ	キャリアスキルズ2 8回科目 (該当週数3週目) その他は臨地実習 学生対応	看護学科 小児看護方法論Ⅰ (該当週数8-12週目)	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	研修日					
	鬼頭　泰子	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学内日 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等 ・移動	看護学科 アカデミックスキルズ (休講、後日補講) 臨地実習 学生対応等	移動	看護学科 小児看護方法論Ⅰ (該当週数1-7,15週目)	授業準備・ 学生対応等	授業準備・ 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	臨地実習 学生対応等	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅱ

科担当時間割表[2029年(秋学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
			月1週目	実習2週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	看護学科アカデミックスキルズ(1～15週)	臨地実習学内日学生対応等	看護学科小児看護方法論Ⅰ(該当週数1-7,15週目)	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
	中谷 香	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	小児看護方法論Ⅰ(該当週数13-14週目)	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	研修日					
				実習2週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	看護学科小児看護方法論Ⅰ(該当週数13-14週目)	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	研修日					
母性看護	田尻 后子	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習学内日学生対応等	看護学科母性看護方法論Ⅰ(該当週数1-2回目)	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	看護学科アカデミックスキルズ	キャリアスキルズ28回科目(該当週数2回目)その他は臨地実習学生対応	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅱ()
				実習2週目	授業準備・学生対応等	看護学科母性看護方法論Ⅰ(該当週数1-2回目)	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	看護学科アカデミックスキルズ(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	キャリアスキルズ28回科目(該当週数2回目)その他は臨地実習学生対応	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
	早瀬 麻子	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習学内日学生対応等	看護学科母性看護方法論Ⅰ(該当週数1-2回目)	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	移動	臨地実習学内日学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅱ()
				実習2週目	授業準備・学生対応等	看護学科母性看護方法論Ⅰ(該当週数1-2回目)	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	研修日					
	岡崎 翠	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習学内日学生対応等	看護学科母性看護方法論Ⅰ(該当週数1-2回目)	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	授業準備・学生対応等	看護学科診療援助技術論Ⅱ(休講、後日補講)授業準備・学生対応	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	看護学科アカデミックスキルズ	授業準備・学生対応等	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
				実習2週目	授業準備・学生対応等	看護学科母性看護方法論Ⅰ(該当週数1-2回目)	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	看護学科診療援助技術論Ⅱ(休講、後日補講)授業準備・学生対応	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	移動	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	看護学科アカデミックスキルズ(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	臨地実習学内学生対応等	研修日					
	小宮 敬子	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	看護学科精神看護方法論Ⅰ(該当週数1-6週目)	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	看護学科アカデミックスキルズ	キャリアスキルズ28回科目(該当週数4回目)その他は臨地実習学生対応	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅱ
				実習2週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	看護学科精神看護方法論Ⅰ(該当週数1-6週目)	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	看護学科アカデミックスキルズ(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	キャリアスキルズ28回科目(該当週数4回目)その他は臨地実習学生対応	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	研修日					
	末安 民生	統合実践看護実習	9月4週目～10	実習1週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	キャリアスキルズ28回科目(該当週数4回目)その他は臨地実習学生対応	移動・臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					集中講義科目:看護研究Ⅱ

科担当時間割表[2029年(秋学期)]

領域	氏名	実習名	実習期間	実習パターン	月					火					水					木					金					土					備考欄(集中講義等)
					1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
精神看護	(客員教授)	統合実践看護実習	月1週目	実習2週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	授業準備・学生対応等	キャリアスキルズ2 8回科目(該当週数4回目)その他は臨地実習学生対応	移動・臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動						集中講義科目:看護研究Ⅱ
	阿部 あかね	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	看護学科精神看護方法論Ⅰ(該当週数7-12週目)	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	授業準備・学生対応等	看護学科アカデミックスキルズ	移動・臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
				実習2週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	看護学科精神看護方法論Ⅰ(該当週数7-12週目)	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	看護学科アカデミックスキルズ(休講、後日補講)臨地実習学生対応等	移動・臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
	山岸 若菜	統合実践看護実習	9月4週目～10月1週目	実習1週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	授業準備・学生対応等	看護学科精神看護方法論Ⅰ(該当週数14-15週目)	移動・臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	研修日					
				実習2週目	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学内日学生対応等	看護学科精神看護方法論Ⅰ(該当週数14-15週目)	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学内日学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等・移動	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	臨地実習学生対応等	研修日					

海外語学研修参加者数

【資料19】

〈 〉看護学科参加学生数

No.	国／地域	学校名	語種 期間	認定 単位数	協定書・覚書	2020（令和2）年度	2021（令和3）年度	2022（令和4）年度	2023（令和5）年度	2024（令和6）年度
1	アメリカ／カリフォルニア	College of the Desert	英語 約20日間	4	・派遣留学・教育交流の協定	新型コロナウイルスの影響により中止	新型コロナウイルスの影響により中止	9	5	4〈1〉
2	オーストラリア／メルボルン	Deakin University	英語 約30日間	6	・覚書			16	9	16〈2〉
3	ニュージーランド／クライストチャーチ	University of Canterbury CCEL Christchurch	英語 約25日間	4	・覚書		6 ※オンラインにて実施	0 ※オンラインにて実施	0	最少催行人数未到達
4	マルタ共和国／バレッタ	University of Malta	英語 約20日間	4	・覚書		新型コロナウイルスの影響により中止	新型コロナウイルスの影響により中止	11〈2〉	23〈2〉
5	中国／北京市	北京語言大学	中国語 約10日間	2	・学術交流協定 ・語学研修に関する覚書				※募集見送り	最少催行人数未到達
6	台湾／花蓮	慈済大学	中国語 約20日間	4	・学術交流協定 ・学生短期交流留学制度に関する覚書				1	※募集中
7	台湾／台中	東海大学	中国語 約20日間	4	・学術交流協定 ・学生短期交流留学制度に関する覚書		3 ※オンラインにて実施	0 ※オンラインにて実施	最少催行人数未到達	実施なし
8	韓国／ソウル	東國大学校	朝鮮語 約15日間	4	・学術交流協定 ・学生短期交流留学制度に関する覚書 ・語学研修に関する覚書		新型コロナウイルスの影響により中止	新型コロナウイルスの影響により中止	13	6
9	ベトナム／ホーチミン市	HUTECH	ベトナム語 10日間	2	・学生交流に関する覚書					※募集中

○保健師国家試験受験資格課程の履修に関する内規（案）

第 1 条　本内規は，佛教大学学則第 24 条の 6 で規定された「保健師国家試験受験資格」取得にかかわる課程の履修に関する事項について定める。

第 2 条　保健師国家試験の受験資格を取得しようとする者は，佛教大学学則別表第 18 の 3(第 24 条の 6 関係)で規定された指定科目を履修しなければならない。

第 3 条　保健師国家試験受験資格課程を履修できる者は，本学保健医療技術学部看護学科に入学し，別表第 1 に定める授業科目を履修し単位を修得した後に，保健師国家試験受験資格課程の選考により許可された者に限る。

2　保健師国家試験受験資格課程の定員は最大 17 名とする。

3　保健師国家試験受験資格課程の選考時期は，第 2 学年次の秋学期終了後とする。

4　保健師国家試験受験資格課程の選考方法は，第 2 学年次秋学期までの学業成績、志望理由書および面接試験によって総合的に判定する。

第 4 条　保健師国家試験受験資格課程の履修に際して，期日までに課程受講料を別途納入しなければならない。納入されなかった場合，課程の履修は取り消される。なお，一旦納入された課程受講料は返却しない。また，課程受講料については，別表第 2 のとおりとする。

第 5 条　本内規に基く事務は，学生支援部学生支援課において行なう。

第 6 条　本内規の改廃は，学生支援機構会議の議を経て，保健医療技術学部教授会において審議・決定し，大学評議会の承認を経なければならない。

附　則

第 1 条　本内規は，平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

第 2 条　本内規は，平成 25 年 5 月 1 日から改正施行する。

第 3 条　本内規は，平成 30 年 4 月 1 日から改正施行する。

第 4 条　本内規は，平成 31 年 4 月 1 日から改正施行する。但し，平成 31 年 3 月 31 日以前に入学した者については，なお従前の規程による。

第５条　本内規は，令和４年４月１日から改正施行する。但し，令和４年３月 31 日以前に入学した者については，なお従前の規程による。

第６条　本内規は，令和８年４月１日から改正施行する。但し，令和８年３月 31 日以前に入学した者については，なお従前の規程による。

別表第 1(第 3 条関係)

科目区分	授業科目の名称	単位	授業科目の名称	単位
共通教養科目	ブッダと法然	2	IntensiveReading1	1
	IntensiveReading2	1	IntegratedCommunicationSkills1	1
	IntegratedCommunicationSkills2	1	IntegratedCommunicationSkills3	1
	IntegratedCommunicationSkills4	1	ICTリテラシー	2
	スタディ・スキルズ	2	キャリア・スキルズ1	1
	キャリア・スキルズ2	1		
			小計	14
学部基幹科目	医療概論	1		
			小計	1
学科基礎科目	アカデミック・スキルズ	2	仏教看護	1
	基礎解剖学	2	基礎生理学	2
	病理学概論	2	栄養学	2
	疾病論Ⅰ	2	疾病論Ⅱ	2
	疾病論Ⅲ	2	疾病論Ⅳ	2
	薬理学	1	公衆衛生学	2
	社会福祉	2	保健医療福祉行政論	2
			小計	26
学科専攻科目	看護学概論	2	看護実践基盤技術論	2
	フィジカルアセスメント技術	1	生活行動援助技術論	2
	看護過程論	1	診察援助技術論Ⅰ	1
	基礎看護学実習Ⅰ	1	基礎看護学実習Ⅱ	2
	コミュニティ実習	1	地域・在宅看護学概論	1
	地域・在宅看護学方法論Ⅰ	2	老年看護学概論	1
	小児看護学概論	1	母性看護学概論	1
	精神看護学概論	1	国際看護学	1
			小計	21
			合計	62

※2026 年度からのカリキュラム

【資料 21】

○佛教大学入学者選抜規程

平成７年４月１日

（目的）

第１条　本規程は，佛教大学の入学者の選抜に関する基本事項を定めることを目的とする。

（責任体制）

第２条　入学者の選抜にあたっての総括責任者は，学長とする。

２　入学者の選抜にあたっての実施責任者は，入学機構長とする。

（計画・実施体制）

第３条　入学者の選抜に関する業務の統一的な計画・実施は，入学機構会議が行なう。

２　入学者の選抜に関する実務を遂行するために入試本部を設ける。

（入学試験の種別）

第４条　本学が実施する入学試験の種別は，次のとおりとする。

(1)　一般選抜（A日程・B日程・C日程・大学入学共通テスト利用（前期・後期）・総合型選抜（自己推薦制）・社会人１年次）

(2)　学校推薦型選抜（公募制）

(3)　課外活動選抜

(4)　スポーツ強化枠選抜

(5)　指定校MU選抜

(6)　指定校高大連携選抜

(7)　同窓選抜

(8)　宗門後継者選抜

(9)　編入学選抜（一般編入学・社会人編入学・指定校編入学）

(10)　帰国・外国人生徒選抜

(11)　外国人留学生選抜・編入学選抜

(12)　別科選抜（外国人留学生を含む）

(13)　転籍試験

（一般選抜）

第５条　一般選抜は，A日程，B日程，C日程，大学入学共通テスト利用（前期・後期），社会人１年次入学に分割し，次の試験科目によって行なう。

(1)　A日程

英語と選択の２科目とする。選択は国語，数学より１科目を選択とする。なお，１受験に対して２学科までの併願をすることができる。

(2) B日程

仏教学部，文学部，歴史学部，社会学部，社会福祉学部では，英語・国語・選択の３科目とする。選択科目は日本史，世界史，公共，政治・経済，数学より１科目を選択とする。

教育学部では，英語・国語・選択の３科目とする。選択科目は日本史，世界史，公共，政治・経済，数学，化学より１科目を選択とする。

保健医療技術学部では，英語・国語・選択の３科目とする。選択科目は数学，生物，化学より１科目を選択とする。なお，英語民間試験の結果の併用および１受験に対して３学科までの併願をすることができる。

(3) C日程

英語と選択の２科目とする。選択は国語，数学より１科目を選択とする。なお，大学入学共通テストの高得点１科目の併用および１受験に対して２学科までの併願をすることができる。

(4) 大学入学共通テスト利用（前期）

大学入学共通テストの３教科３科目を利用する。複数科目を受験した場合は，高得点の科目を合否に使用する。「国語」はいずれも漢文を除く。

仏教学部，文学部，歴史学部，社会学部，社会福祉学部では，「外国語（英語，但し日本文学科および中国学科は英語または中国語）」・「国語」・「地歴公民・数学・理科・情報より最も高得点の１教科から１科目」とする。

教育学部では，「外国語（英語）」・「国語・地歴公民・数学・理科・情報より高得点の２教科２科目」とする。

保健医療技術学部では，「外国語（英語）」・「国語・数学・理科・情報より高得点の２教科２科目」とする。

なお，英語民間試験の結果を併用することができる。

(5) 大学入学共通テスト利用（後期）

大学入学共通テストの２教科２科目を利用する。複数科目を受験した場合は，高得点の科目を合否に使用する。「国語」はいずれも漢文を除く。

仏教学部，歴史学部，教育学部，社会学部，社会福祉学部では，「国語・外国語（英語）より高得点の１教科１科目」・「地歴公民・数学・理科・情報より高得点の１教

科１科目」とする。

文学部日本文学科・中国学科では，「国語・外国語（英語または中国語）より最も高得点の１教科１科目」とする。

文学部英米学科では，「外国語（英語）」・「地歴公民・数学・理科・情報から１科目」とする。

保健医療技術学部では，「外国語（英語）」・「国語・数学・理科・情報から１科目」とする。

なお，英語民間試験の結果を併用することができる。

(6) 総合型選抜（自己推薦制）

各学科指定の試験および面接によって行なう。なお，一次選考および二次選考を行なう。

(7) 社会人１年次入学（仏教学科）

論文および面接によって行なう。

（学校推薦型選抜）

第６条　学校推薦型選抜は，次のとおりとする。

(1) 学校推薦型選抜（公募制）は，基礎能力試験によって行なう。なお，１受験に対して２学科までの併願をすることができる。

(2) 課外活動選抜は，基礎能力試験（小論文を含む）および面接によって行なう。

(3) スポーツ強化枠選抜は，基礎能力試験（小論文を含む）および面接によって行なう。

(4) 指定校MU選抜は，小論文または基礎能力試験，および面接によって行なう。

(5) 指定校高大連携選抜は，小論文および面接によって行なう。

(6) 同窓選抜は，基礎能力試験・面接および書類審査によって行なう。

(7) 宗門後継者選抜は，基礎能力試験および面接によって行なう。

（編入学選抜）

第７条　編入学選抜は，次のとおりとする。

(1) 一般編入学選抜は，英語（中国学科は英語または中国語）・論文および面接によって行なう。

(2) 社会人編入学選抜は，論文および面接によって行なう。

(3) 指定校編入学選抜は，面接および書類審査によって行なう。

（帰国・外国人生徒選抜）

第８条　帰国・外国人生徒選抜は，小論文および面接によって行なう。

（外国人留学生選抜）

第９条　外国人留学生選抜は，論文および面接によって行なう。

（外国人留学生編入学選抜）

第10条　外国人留学生編入学選抜は，論文および面接によって行なう。

（別科選抜）

第11条　別科選抜（外国人留学生を含む）は，小論文および面接によって行なう。

（転籍試験）

第12条　転籍試験は，英語（中国学科は英語または中国語）・論文および面接によって行なう。但し，外国人留学生については外国人留学生編入学選抜を適用する。

（入学試験要項の決定）

第13条　入学者の選抜に関する入試日程・入試種別・試験科目等の入学試験要項は，入学機構会議の議を経て各学部教授会の承認を得る。

（入学試験要項の公表）

第14条　入学試験要項で公表する項目は，次のとおりとする。

(1)　入学試験を実施する学部・学科名

(2)　各学科の入学定員

(3)　選抜方法および学力検査等の教科・科目等

(4)　出願資格

(5)　出願書類・方法および出願期間

(6)　入学試験実施日・実施時間

(7)　入学試験会場

(8)　入学試験検定料

(9)　合格発表日およびその方法

(10)　入学手続方法

(11)　その他の必要事項

（入学試験における特別措置）

第15条　身体に障がいのある入学志願者の試験実施にあたっては，志願者の要望を考慮し，必要に応じて特別の措置を講じる場合がある。

２　その他，必要に応じて特別の措置を講じる場合がある。

（合格者の決定）

第16条　合格者の決定は，入学機構会議および各学部教授会の議を経て学長が行なう。

（入学許可の要件）

第17条　合格者が入学許可を得るためには，次の各号すべてを充足しなければならない。

(1)　所定の期日までに入学金および学費・諸費を納入する。

(2)　所定の期日までに入学手続書類を提出する。

(3)　入学宣誓式に出席する。

（学費・諸費の返還）

第18条　次の各号のすべてを充足した合格者に対し，学費・諸費を返還することがある。なお返還金額は，入学金と返還に要する手数料を除いたものとする。

(1)　所定の期日までに入学金および学費・諸費を納入したもの。

(2)　所定の期日までに入学辞退および学費の返還を申請したもの。

（規程の改廃）

第19条　本規程の改廃は，各学部教授会の議を経て，大学評議会の承認を得なければならない。

附　則

第１条　本規程は，平成７年４月１日から施行する。

第２条　本規程は，平成８年４月１日から改正施行する。

第３条　本規程は，平成９年４月１日から改正施行する。

第４条　本規程は，平成10年４月１日から改正施行する。

第５条　本規程は，平成11年４月１日から改正施行する。

第６条　本規程は，平成13年４月１日から改正施行する。

第７条　本規程は，平成14年４月１日から改正施行する。

第８条　本規程は，平成16年４月１日から改正施行する。

第９条　本規程は，平成17年４月１日から改正施行する。

第10条　本規程は，平成18年４月１日から改正施行する。

第11条　本規程は，平成20年４月１日から改正施行する。

第12条　本規程は，平成21年４月１日から改正施行する。

第13条　本規程は，平成23年４月１日から改正施行する。

第14条　本規程は，平成24年４月１日から改正施行する。

第15条　本規程は，平成25年４月１日から改正施行する。

第16条　本規程は，平成27年４月１日から改正施行する。

第17条　本規程は，平成28年４月１日から改正施行する。

第18条　本規程は，平成29年４月１日から改正施行する。

第19条　本規程は，平成30年４月１日から改正施行する。

第20条　本規程は，令和２年４月１日から改正施行する。

第21条　本規程は，令和３年４月１日から改正施行する。

第22条　本規程は，令和３年４月１日から改正施行する。

第23条　本規程は，令和６年４月１日から改正施行する。

2026年度　看護学科ゲストスピーカー予定

【資料22】

	学年	科目	氏名	所属・住所（県名）	肩書き	依頼理由	依頼者	コマ数	交通費	金額
1	1	看護学概論	林田五郎	京都市	京都喉友会 副会長	入学間もない1年生を対象にした当事者授業である。喉頭がんで声帯摘出術を受け、食道発声を身に付けて会話を可能にした患者の語りを聞くことで、看護の対象を知るとともに今後の学習の動機づけになることを目的とする。	山本直美	1	500× 2=1,000	1,000
2	2	診療援助技術論Ⅰ	福田文彦	明治東洋医学専門学校 （大阪府吹田市）	鍼灸学科 鍼灸学科長	近年、西洋医学だけではなく統合医療という考え方が導入されており、臨床の現場でも鍼灸師と医師が協力して化学療法の副作用の軽減を試みている。その視点は看護にも共通し、活用できる技術も多いため専門家による講義を依頼した。	中島小乃美	1	1,000× 2=2,000	2,000
3	2	クリティカルケア 看護学Ⅰ	上村　笑	大津赤十字病院 （大津市）	皮膚排泄ケア認定 看護師	排泄経路変更に伴う生活の再構築やボディ・イメージ変容に対する専門的な看護実践に関する講義を受けることで、クリティカルケア看護の特徴を学ぶ機会とする。	利木佐起子	1	1,000× 2=2,000	2,000
4	3	クリティカルケア 看護学Ⅱ	徳田　瑞枝	兵庫医科大学病院 （兵庫県西宮市）	救急看護認定看護師・特定行為看護師	救急看護認定看護師招聘により、急変時の看護の講義・演習を実施することで、よりリアルな学びを得られることを確信する。	趙　崇来	1	1,000× 2=2,000	2,000
5	2	慢性看護学Ⅰ	中川紀直	京都市立病院 （京都府京都市）	がん放射線療法 看護認定看護師	臨床で活躍中のがん放射線療法認定看護師から放射線療法を受けるがん患者への支援の実際を学ぶことで、がん看護への関心を高め、専門的知識を深める機会とする。	藪下八重	1	150×2=300	300
6	3	慢性看護学Ⅱ	小江奈美子	京都大学医学部附属病院（京都府京都市）	慢性疾患看護 CNS	糖尿病患者への長期にわたる療養生活支援の実際を、学生がより専門的な視点で学ぶことを目的に、看護実践者である慢性疾患看護専門看護師に講義ならびに演習でのデモンストレーションを担当頂く。	髙岡寿江	1	490×2＝980	980
7	2	母性看護学概論	はたちさこ	ボランティアリサーチャー（カナダ在住）	講師	LGBTｑに関する理解をより深めるために、当事者から講義をして頂く。	田尻后子	1	0	0
8	3	小児看護方法論Ⅱ	中島輝美	京都府立医科大学附属病院	新生児集中ケア認定看護師	特殊性のあるNICU（新生児集中治療室）看護について、学びを深めることができるため	鬼頭泰子	1	450×2=900	900
9	3	精神看護方法論Ⅰ	加藤由香	医療法人小憩会 ACT-ひふみ(大阪府)	認定看護師	重症の精神障害者であっても地域生活を継続できる。看護職の強みを活かし、ストレングスを引き出すことで、本人の思い中心のケアを展開できることを精神科認定看護師から学ぶ	阿部あかね	1	580× 2=1,160	1,160
10	3	地域・在宅看護方法論Ⅱ	多氣真弓	西陣病院	皮膚・排泄ケア認定看護師	実習病院において皮膚・排泄ケア認定看護師として勤務し、在宅療養者へのかかわりももっている	植村小夜子	1	230×2=460	460
11	3	公衆衛生看護学概論	鈴木凪子	京都市	行政保健師	地域住民の健康課題と行政保健師の活動の実際を学ぶため。	浜崎優子	1	300×2=600	600
12	3	公衆衛生看護展開論Ⅱ	中川直子	京都市	養護教諭	児童生徒の健康問題と養護教諭の活動の実際について学ぶため。	田野中恭子	1	500×2=1,000	1,000
13	3	災害看護学	山田裕基	兵庫医科大学病院 （兵庫県西宮市）	救急看護認定看護師	第三次救命救急センターで認定看護師として活躍している中、DMATとの一員として東北地震の際の災害看護の実践的な講義を受けることで、災害看護の理解・学習動機に繋がる。	利木佐起子	1	2,000× 2=4,000	4,000
14	1	コミュニティ実習	調整中	中京区地域介護予防推進センター	職員（健康運動指導士予定）	高齢者が、介護を必要とせずにいつまでも元気に暮らせるよう、地域における介護予防の拠点として運営し、地域の身近な会場で専門のスタッフの指導による介護予防プログラム介護予防に関する普及啓発や、地域での自主的な介護予防に関する活動の支援について情報を得ることで実習での学びを深めるため。	清水奈穂美	1	230×2=460	460
合計								14		16,860

2026年度　看護学科ゲストスピーカー予定

【資料22】

	学年	科目	氏名	所属・住所（県名）	肩書き	依頼理由	依頼者	コマ数	交通費	金額
1	1	看護学概論	林田五郎	京都市	京都喉友会 副会長	入学間もない1年生を対象にした当事者授業である。喉頭がんで声帯摘出術を受け、食道発声を身に付けて会話を可能にした患者の語りを聞くことで、看護の対象を知るとともに今後の学習の動機づけになることを目的とする。	山本直美	1	500×2=1,000	1,000
2	2	診療援助技術論Ⅰ	福田文彦	明治東洋医学専門学校（大阪府吹田市）	鍼灸学科 鍼灸学科長	近年、西洋医学だけではなく統合医療という考え方が導入されており、臨床の現場でも鍼灸師と医師が協力して化学療法の副作用の軽減を試みている。その視点は看護にも共通し、活用できる技術も多いため専門家による講義を依頼した。	中島小乃美	1	1,000×2=2,000	2,000
3	2	クリティカルケア看護学Ⅰ	上村　笑	大津赤十字病院（大津市）	皮膚排泄ケア認定看護師	排泄経路変更に伴う生活の再構築やボディ・イメージ変容に対する専門的な看護実践に関する講義を受けることで、クリティカルケア看護の特徴を学ぶ機会とする。	利木佐起子	1	1,000×2=2,000	2,000
4	3	クリティカルケア看護学Ⅱ	徳田　瑞枝	兵庫医科大学病院（兵庫県西宮市）	救急看護認定看護師・特定行為看護師	救急看護認定看護師招聘により、急変時の看護の講義・演習を実施することで、よりリアルな学びを得られることを確信する。	趙　崇来	1	1,000×2=2,000	2,000
5	2	慢性看護学Ⅰ	中川紀直	京都市立病院（京都府京都市）	がん放射線療法看護認定看護師	臨床で活躍中のがん放射線療法認定看護師から放射線療法を受けるがん患者への支援の実際を学ぶことで、がん看護への関心を高め、専門的知識を深める機会と	藪下八重	1	150×2=300	300
6	3	慢性看護学Ⅱ	小江奈美子	京都大学医学部附属病院（京都府京都市）	慢性疾患看護CNS	糖尿病患者への長期にわたる療養生活支援の実際を、学生がより専門的な視点で学ぶことを目的に、看護実践者である慢性疾患看護専門看護師に講義ならびに演習でのデモンストレーションを担当頂く。	髙岡寿江	1	490×2＝980	980
7	2	母性看護学概論	はたちさこ	ボランティアリサーチャー（カナダ在住）	講師	LGBT q に関する理解をより深めるために、当事者から講義をして頂く。	田尻后子	1	0	0
8	3	小児看護方法論Ⅱ	中島輝美	京都府立医科大学附属病院	新生児集中ケア認定看護師	特殊性のあるNICU（新生児集中治療室）看護について、学びを深めることができるため	鬼頭泰子	1	450×2=900	900
9	3	精神看護方法論Ⅰ	加藤由香	医療法人小憩会ACT-ひふみ(大阪府)	認定看護師	重症の精神障害者であっても地域生活を継続できる。看護職の強みを活かし、ストレングスを引き出すことで、本人の思い中心のケアを展開できることを精神科認定看護師から学ぶ	阿部あかね	1	580×2=1,160	1,160
10	3	地域・在宅看護方法論Ⅱ	多氣真弓	西陣病院	皮膚・排泄ケア認定看護師	実習病院において皮膚・排泄ケア認定看護師として勤務し、在宅療養者へのかかわりももっている	植村小夜子	1	230×2=460	460
11	3	公衆衛生看護学概論	鈴木凪子	京都市	行政保健師	地域住民の健康課題と行政保健師の活動の実際を学ぶため。	浜崎優子	1	300×2=600	600
12	3	公衆衛生看護展開論Ⅱ	中川直子	京都市	養護教諭	児童生徒の健康問題と養護教諭の活動の実際について学ぶため。	田野中恭子	1	500×2=1,000	1,000
13	3	災害看護学	山田裕基	兵庫医科大学病院（兵庫県西宮市）	救急看護認定看護師	第三次救命救急センターで認定看護師として活躍している中、DMATとの一員として東北地震の際の災害看護の実践的な講義を受けることで、災害看護の理解・学習動機に繋がる。	利木佐起子	1	2,000×2=4,000	4,000
14	1	コミュニティ実習	調整中	中京区地域介護予防推進センター	職員（健康運動指導士予定）	高齢者が、介護を必要とせずにいつまでも元気に暮らせるよう、地域における介護予防の拠点として運営し、地域の身近な会場で専門のスタッフの指導による介護予防プログラム介護予防に関する普及啓発や、地域での自主的な介護予防に関する活動の支援について情報を得ることで実習での学びを深めるため。	清水奈穂美	1	230×2=460	460
合計								14		16,860

【資料 23】

○佛教大学就業規程

平成７年４月１日

第１章　総則

（目的）

第１条　本規程は，労働基準法の趣旨に基き学校法人佛教教育学園（以下「法人」という。）が設置する佛教大学および佛教大学附属こども園に勤務する職員の就業に関する事項を定めることを目的とする。

（適用範囲）

第２条　本規程において職員とは，専任の教育職員，事務職員をいう。

２　教育職員とは，大学については教授，准教授，講師，助教とし，附属こども園については保育教諭をいう。

３　事務職員とは，事務員，道場指導員，寮監，看護師，保健師，電気主任技術者，学生相談室相談員および図書館専門員をいう。

４　専任の職員以外の者についての規程は，別に定める。

（規程の遵守）

第３条　職員は，本規程の定めるところに従い，大学の建学精神を遵奉し，その伝統を重んじ，これに背反する言動なきよう努めなければならない。

２　職員は，本規程およびこれに付属する諸規程を遵守し，上級者の職務上の指示命令に従い，自己の職務に専念し，大学の秩序を維持するとともに，互いに協力してその職責を遂行し，事業目的の達成に努めなければならない。

３　大学は職員の基本的人権を尊重し,その福利厚生を図ることに努力しなければならない。

４　附属こども園に勤務する教育職員についての就業に関する規程は，別に定める。

（人事）

第４条　職員の採用，退職および解雇等に関する人事は，理事長が行ない，昇任（役職位任免），異動，出向，海外勤務，休職および復職に関する人事は，学長が行なう。但し，教育職員の人事に関する事項については学部教授会の，事務職員については部局長会の，それぞれの議を経なければならない。

２　事務職員の人事についての規程は，別に定める。

３　職員の懲戒に関する手続きは，別に定める。

第２章　採用および配置転換

（採用志望者の提出書類）

第５条　大学に就業を志望する者は，大学の指定する次の必要書類を学長に提出しなければならない。

(1)　自筆履歴書

(2)　写真（最近３カ月）

(3)　健康診断書

(4)　その他必要とする書類

（採用）

第６条　新たに職員を採用するときは，次の各号をふまえ，志望者の中から所定の手続きを経て選考し，学長の上申により理事長がこれを決定する。但し，事務職員の採用については，別に定める事務職員採用内規による。

(1)　勤務に耐えうる心身状況にあること。

(2)　従事する職務に必要な資格，免許または技能を有すること。

（変更の届出）

第７条　職員は，次に掲げる各号について，変更のあった場合，その都度所属長に届け出なければならない。

(1)　就職後の学歴または資格の異動

(2)　住所の変更

(3)　扶養家族の異動

(4)　婚姻，改姓，改名その他身上の変更に関する事項

（試用期間）

第８条　新たに採用する事務職員について採用の日から３カ月の試用期間を設ける。但し，特殊な技能または経験を有する事務職員に対しては，試用期間を設けないことがある。

２　試用期間を経て正式に採用された者の試用期間は，その者の在職年数に算入する。

３　試用期間中または試用期間満了の際，引き続き勤務することが不適当と認めた場合（本規程第44条第１項第３号），その者を解雇する。この場合採用後14日を越えて勤務した者については，30日分の賃金を支払うものとする。

（配置転換，職種，職名の変更）

第９条　事務職員の配置転換（出向，海外勤務含む）および職種，職名の変更は，事務職員の能力，経験，心身状況その他を考慮して，大学が業務上必要な場合これを行なう。

２　前項の配置転換または職種，職名の変更の命を受けた者は，正当な理由がない限りこれを拒むことはできない。但し，事情がある者は，その理由を具した書面をもって所属長に

上申することができる。

3　出向は，別に定める事務職員出向規程による。

4　海外勤務は，別に定める事務職員海外勤務規程による。

（業務の引継）

第10条　事務職員は人事に異動のあった場合，業務の引継ぎを所属長またはこれに代わる者に行なわなければならない。

第３章　服務

（遵守事項）

第11条　職員は，服務にあたって次の各号を遵守しなければならない。

(1)　大学の名誉を重んじ職員としての品位を保つこと。

(2)　勤務に係る規程および同付属の規程ならびに職務上の指示に忠実に従うこと。

(3)　勤務時間中は職務の遂行に専念すること。

(4)　業務上の都合により学長から職務の変更を命ぜられた場合は，旧職務を引き継いだ上新職務に専念すること。

(5)　常に研修に努めること。

(6)　設備および備品などの取り扱いを丁重にし，所定の場所に保管すること。

(7)　金品，物品および備付諸表簿の出納を明確にし，所定の場所に保管すること。

（承認事項）

第12条　職員は，次の各号の場合には学長に届け出て，その承認を得なければならない。

(1)　日曜日，夏期休暇等の休業日に学生を招集し，または学生を学外に引率する場合

(2)　所定の納付金以外の金銭を学生より徴収する場合

(3)　他の事業を営み，もしくは公私の他の事業または事務に従事する場合

(4)　その他所定の届け出るべき事項

2　事務職員が，学長印または大学印を使用しようとする場合，学長の承認を得なければならない。

3　職員が大学施設内において所定の授業以外の講習，集会，演説および放送をし，または文書および図画を配布，掲示しようとする場合は，あらかじめ学長の承認を得なければならない。

（禁止事項）

第13条　職員は，次の各号の一に該当する行為をしてはならない。

(1)　職務上の地位を利用して自己の利益を図ること。

(2)　職務上の権限を超えまたは権限を濫用して専断的な行為をなすこと。

(3)　職務上知り得た秘密を漏らし，または大学の不利益となるおそれのある事実を他に告げること。

(4)　性的な言動により，他の職員，学生または関係者に不快感を与え，学習，教育・研究または就業環境を悪化させること。

(5)　職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景とした，業務の適正な範囲を超える言動により，他の職員に精神的・身体的な苦痛を与えたり，就業環境を悪化させること。

(6)　教育・研究の場における地位または権力を背景にして行なう不適切な言動，指導または待遇により，学生の学習・研究意欲を低下させ，または学習・研究環境を悪化させること。

(7)　妊娠，出産，育児および介護等の申し出ならびに利用を理由とする否定的な言動により，他の職員に精神的・身体的な苦痛を与えたり，就業環境を悪化させること。

(8)　前４号以外の行為のほか，職場におけるあらゆるハラスメントにより，他の職員，学生または関係者に不快感を与え，学習，教育・研究または就業環境を悪化させること。

（入場の禁止と退場）

第14条　職員が次の各号の一に該当する場合は，入場させないことがあり，また退場させることがある。

(1)　業務に必要でない火気および凶器その他危険と認められるものを所持する場合

(2)　酒気を帯びている場合

(3)　衛生上有害と認められるものを所持する場合

(4)　出勤停止の処分を受けている場合

(5)　業務を妨害し，もしくは大学の風紀および秩序をみだし，またはみだす恐れのある場合

(6)　その他前各号に準ずる場合

（災害に際しての防護）

第15条　職員は，火災その他の災害に際しては，施設設備を防護し，特に学生の安全に処し，重要書類等の保全を図らなければならない。

（出勤記録）

第16条　職員は，出退勤の際には出退時間の打刻をしなければならない。

（欠勤，遅刻，早退および私用外出）

第17条　事務職員はやむをえず欠勤，遅刻もしくは早退をするとき，または勤務時間中外出するときは，予め願い出て所属長の承認を得なければならない。傷病その他の事故により予め願い出ることができないときは，事後すみやかに願い出て追認を得なければならない。

２　職員において，傷病による欠勤が１週間以上に及ぶとき，その他大学が必要と認めたときは，職員は療養見込期間を記載した医師の診断書を添えて願い出なければならない。この場合，大学が必要と認めたときには，大学が指定する医師の診断書を提出しなければならない。

３　事務職員が，欠勤，遅刻，早退，および勤務中私用で外出した場合は，その日数および時間数に比例して，賃金を差し引くことが出来る。但し，次の各号の一に該当する場合はこの限りでない。

⑴　公民権行使または大学が承認した公共団体の用務をするとき。

⑵　証人，鑑定人等として裁判所，議会等に出頭するとき。

⑶　業務上の傷病によるとき。

⑷　感染拡大を防止する必要がある感染症等（以下「感染症等」という。）の予防のために就業制限を受けたとき。

⑸　天変地異，交通機関等の事故によるとき。

⑹　その他前各号に準ずる場合で大学が認めたとき。

第４章　給与

（給与規程）

第18条　給与に関する規程は，別に定める。

２　職員の昇給については毎年４月に行なうことができる。

第５章　勤務

（勤務時間）

第19条　事務職員の勤務時間は，１日８時間（休憩時間を除く），１週につき40時間を原則とし，始業および終業時間は次のとおりとする。但し，業務上の都合により，原則に反しない範囲でその時刻を変更することができる。

２　始業時刻は午前９時とし，終業時刻は午後６時とする。

３　妊娠中の職員が交通事情等により著しく通勤が困難な場合，請求により１日30分の範囲で遅出，繰上げ退出および時差出勤を認めるものとする。

（教育職員の勤務）

第20条　教育職員の勤務時間は，前条の規定にかかわらず，学部教授会の意志を尊重し，学長が決定する。

２　授業，学生指導，学部教授会，その他大学の運営に関する諸会議および大学の定める行事等に出勤しなければならない。

（休憩時間）

第21条　事務職員の休憩時間は，１時間とする。但し，業務の都合により分割して与える場合がある。

２　前項に定める休憩時間は原則として一斉にこれを与えるものとし，業務の都合上，一斉に与えられない場合は交替でこれを与える。

（時間内通院）

第22条　妊娠中の職員が母子保健法に定める定期健康診査のために勤務時間内に通院する必要のある場合は，請求により１日を超えない範囲内で次の通院時間を与える。

⑴　妊娠23週（第６月末）まで　４週間に１回

⑵　妊娠24週（第７月）から35週（第９月末）まで　２週間に１回

⑶　妊娠36週（第10月）から　１週間に１回

（育児時間）

第22条の２　生後満１年に達しない生児を育てる職員が育児時間を請求した場合には，第21条に定める休憩時間のほかに，１日２回各30分の育児時間を与える。

（休日）

第23条　事務職員の休日は，次の各号に掲げるものとする。

⑴　毎週土曜日および日曜日

⑵　国民の祝日に関する法律に規定する休日

⑶　年末年始

⑷　その他学長が必要と認めた日

（休日振替）

第24条　業務の都合上事務職員の全部または一部に対して，前条に定める休日によらず勤務させることがある。

２　前条に定める休日によらず勤務させるときは，予め別に休日を定める。

（時間外勤務および休日勤務）

第25条　大学は，業務の都合上または臨時の必要がある場合，事務職員の過半数を代表する者との協定に基いて，第19条に定める勤務時間を延長し，または第23条に定める休日

に勤務させることがある。

2　妊娠中の職員の時間外および休日の勤務は，労働基準法に定める範囲とする。

3　時間外勤務を命じた場合は，別に定める規程により時間外勤務手当を支給する。

（非常災害時の勤務）

第26条　災害その他避けることのできない事由でやむを得ない場合は，臨時に就業時間を変更し，または休日勤務をさせることがある。

2　大学は，天災事変，交通障害，感染症の流行，その他の事情により，通常業務を行なうことが困難または不適切であると判断したときは,特定の職員または全職員に在宅勤務を命じることができる。

（宿日直勤務）

第27条　業務の都合上，事務職員は宿日直の勤務をすることがある。

2　宿日直勤務は，別に定める佛教大学宿直細則による。

3　宿日直手当は，別に定める佛教大学給与規程による。

（休暇）

第28条　事務職員は，次の各号に掲げる休暇を受けることができる。

(1)　年次有給休暇

(2)　夏期特別休暇

(3)　婚姻休暇

(4)　忌引休暇

(5)　生理休暇

(6)　産前産後休暇

(7)　特別休暇

(8)　つわり休暇

(9)　積立有給休暇

(10)　子どもの看護休暇

(11)　介護休暇

2　前項の休暇は有給とする。

（年次有給休暇と夏期特別休暇）

第29条　大学は，別に定めるところにより，事務職員に年次有給休暇と夏期特別休暇を与える。

（婚姻休暇）

第30条　事務職員またはその子等が婚姻するときは，本人の場合７日以内，子または兄弟の場合２日の婚姻休暇を受けることができる。

２　婚姻休暇の起算は，原則として当日から３日以内とする。

（忌引休暇）

第31条　事務職員の親族が死亡したときは，次の区分により当日またはその翌日から忌引休暇を受けることができる。

死亡した者		父母	子	祖父母	孫	兄弟姉妹	伯叔父母	配偶者
日数	血族	7	5	5	1	5	1	7
	姻族	7	―	1	―	3	1	

２　生計を一にする姻族および養親子は前項の血族の規定を準用する。

３　葬儀等のため遠隔地に赴く必要のある場合は，その往復に要する日数を第１項の区分の日数に加算することができる。

４　父母，配偶者および子女の年忌については，１日の休暇を受けることができる。

（生理休暇）

第32条　女子事務職員で生理日の就業が著しく困難なときは，生理休暇を受けることができる。但し，有給で１回につき２日以内とする。

（産前産後休暇）

第33条　出産予定の女子事務職員は，出産予定日の６週間（多胎妊娠の場合にあっては14週間）前の日から，産後８週間の休暇を受けることができる。

２　出産日が予定日より遅れたときは，産前休暇を延長することができる。

（特別休暇）

第34条　事務職員が，次の各号の一に該当するときには特別休暇を与える。但し，教育職員には第６号の特別休暇のみを与える。

(1)　感染症等にかかり勤務が不可能になったとき。その必要と認められる期間。

(2)　非常災害または交通機関の事故等不可抗力の事由により勤務が不可能となったとき。その必要と認められる期間または時間。

(3)　選挙その他公民としての権利を行使するとき。その必要と認められる期間または時間。

(4)　大学に届け出て証人または鑑定人等として権利を行使するとき。その必要と認められる期間または時間。

(5)　業務上の事由および通勤中の負傷，または疾病にかかったため勤務ができなくなっ

たとき。その必要と認められる期間。

(6)　業務外の事由により傷病にかかり，入院および自宅加療のため勤務できなくなったとき，下記の休暇を与える。

勤務年数	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上
休暇付与日数	15日	30日	60日	90日

但し，この休暇については学長がその都度審査し決定する。

(7)　前各号のほか，学長が特に必要と認めたとき。その必要と認められる期間または時間。

（つわり休暇）

第34条の２　妊娠中の職員がつわりにより勤務することが著しく困難である場合は，本人の届出により特別休暇を与える。但し，７日以上にわたるときは医師の診断書を必要とする。

（積立有給休暇）

第34条の３　別に定めるところの積立有給休暇を受けることができる。

（子どもの看護休暇）

第34条の４　子どもの看護休暇については，別に定める子どもの看護休暇規程による。

（介護休暇）

第34条の５　介護休暇については，別に定める介護休暇規程による。

（休暇の申請）

第35条　事務職員が，第28条の休暇を受けようとするときは事前に，やむを得ない事由のある場合は事後直ちに，学長に届け出て，その承認を受けなければならない。

（研修）

第35条の２　職員は，その職務遂行のため自発的に研修に励み，且つ大学の行なう研修をうけなければならない。

２　事務職員の研修は，別に定める事務職員研修規程による。

（旅行届）

第36条　職員が，任地を離れて国外旅行をするときは，行先，期日等を届け出なければならない。

（出張）

第37条　業務の都合により職員に出張を命ずることがある。その場合，別に定めるところ

の出張旅費を支給する。但し，出張旅費についてその一部または全額を支給しないことがある。

第６章　休職，育児休職，出生時育児休職，介護休職，復職，退職および解雇

（休職）

第38条　職員の休職については，別に定める職員休職規程による。

（育児休職・出生時育児休職）

第39条　育児休職，出生時育児休職および育児短時間勤務については，別に定める育児休職および育児短時間勤務に関する規程による。

（介護休職）

第39条の２　介護休職および介護短時間勤務については，別に定める介護休職および介護短時間勤務に関する規程による。

（復職）

第40条　休職者の復職については，別に定める職員休職規程による。

（退職）

第41条　職員が，次の各号の一に該当する場合は退職とする。

(1)　本人が死亡したとき。

(2)　本人が休職期間を満了し，且つ復職できないとき。

(3)　定年に達したとき。

２　前項第２号の規定にかかわらず，職務上の傷病により休職を命ぜられた者については，別にこれを取り扱う。

（定年）

第42条　職員の定年については，別に定める佛教大学定年規程による。

２　職員は，定年に達した日の属する年度末に退職するものとする。

（退職の願出と承認）

第43条　職員が自己の都合により退職しようとする場合は，60日前までに書面をもって所属長に退職を願い出て，理事長の承認を得なければならない。

（解雇）

第44条　職員が，次の各号の一に該当するときは解雇する。

(1)　勤務成績が著しく不良により，就業に適さないと認めたとき。

(2)　心身に故障があり勤務にたえられないと認めたとき。

(3)　事務職員の試用期間中または試用期間満了の際，引き続き勤務させることを不適当

と認めたとき。

(4)　法人もしくは大学のやむをえない業務の都合のとき。

(5)　禁固以上の刑に処せられたとき。

(6)　第５条の提出書類に虚偽の記載のあったとき。

２　前項の規定により解雇するときは，30日前に予告するか，または30日分の賃金を支給する。

（退職金）

第45条　職員が退職または，解雇になった場合には退職金を支給する。但し，免職になった者および第８条第３項に該当する者は，これを支給しない。

２　退職金の支給については，別に定める佛教大学職員退職金規程による。

（引継ぎ）

第46条　職員が退職または解雇になった場合には，速やかに保管物品および書類と共に担当業務を所属長またはこれに代わる者に引継がなければならない。

第７章　表彰および懲戒

（表彰および懲戒）

第47条　職員の表彰および懲戒については，別に定める職員表彰規程および職員懲戒規程による。

第８章　安全および衛生

（安全および衛生の注意義務）

第48条　職員は，安全および衛生に関する業務に協力して，危害の発生を未然に防止し，健康の保持のために安全および衛生に必要な事項を遵守しなければならない。

（安全保持および災害防止）

第49条　職員は，前条の事項を達成するため次の事項を遵守しなければならない。

(1)　職場は常に整理整頓し，消火設備等の点検を行なうとともに，その使用方法に習熟し通路および非常口等に物品を置いてはならない。

(2)　職員は，安全装置，保護具およびその他危険施設の保全に留意し，その位置ならびに取扱方法を熟知しなければならない。

(3)　火災その他災害を発見し，またその恐れがあることを知ったときは，臨機の処置をとるとともに，直ちに所属長に報告し，職員相互に協力して，その被害を最小限に止めるように努めなければならない。

（防火管理）

第50条　職員は防火管理の規程を遵守し，防火管理責任者に協力して防火につとめなければならない。

（保健衛生）

第51条　職員は常に保健衛生に留意し，これに関する大学の指示を守らなければならない。

（衛生委員会）

第51条の２　大学は，労働安全衛生法に基き，衛生委員会を設置する。

（衛生管理者，産業医）

第52条　大学は労働安全衛生法に基き，衛生管理者および産業医を選任する。

（健康診断および予防接種）

第53条　職員は，次の健康診断および予防接種を受けなければならない。

(1)　毎年行なう定期健康診断

(2)　その他必要に応じて行なう臨時健康診断

(3)　法律で定める予防接種

２　職員は前項に従わなければならない。但し，やむを得ない事由により受診等ができない場合には，他の医療機関による診断等を受け，その結果を証明する書面を提出するものとする。

３　大学は職員に対し，健康診断の結果に基いて適当な療養その他の処置を指示することがある。この場合，職員は指示に従わなければならない。

（ストレスチェック）

第53条の２　大学は，職員に対し，毎年１回，心理的な負担の程度を把握するため，ストレスチェック検査を実施する。

２　大学は，前項の検査を受けた職員のうち，法令で定める要件に該当する者が希望する場合は，医師による面接指導を実施する。

３　前項の面接指導を行なった場合，大学は，医師の意見を聴いた上で，職員の健康保持のために必要な措置を講じなければならない。

（就業禁止）

第54条　職員が，次の各号の一に該当するときは，医師の認定により就業を禁止する。

(1)　精神上の障害のために，現に自身を傷つけ，または他人に害を及ぼすおそれのある者

(2)　感染症等にかかり就業が困難な者

(3)　就業した場合，病気昂進のおそれがある者

(4)　その他職場の衛生上その就業が困難な者

（母性健康管理）

第54条の２　職員は，所属長を通じ大学に申しでることにより，妊娠中および出産後の健康管理に関する措置の適用を受けることができる。

２　母性健康管理に関する措置およびその手続等については,別に定める母性健康管理の措置に関する細則による。

（感染症等への対応）

第55条　職員および同居家族が感染症等にかかりまたはその疑いがある場合は，直ちに医療機関による適切な措置を受けなければならない。

第９章　災害補償

（届出）

第56条　職員は，業務上の事由および通勤により，負傷または疾病にかかった場合は大学に対して速やかに届け出をしなければならない。

（補償）

第57条　大学は，職員が業務上の事由および通勤による負傷，疾病または死亡等が生じた場合には労働者災害補償保険法の定めるところにより補償を行なう。

２　業務上の範囲および通勤の範囲については，法令の定めるところによる。

（法定外補償）

第58条　大学は，前条の規定により職員が補償を受ける対象となった場合でも，別に定める規程により労働者災害補償保険法以外の補償を行なうことがある。

（葬祭料）

第59条　職員が，業務上死亡した場合には，葬祭を行なう者に対して葬祭料を支払うものとする。

（打切補償）

第60条　災害補償を受ける職員が，療養後３年を経過しても負傷または傷病が治癒しない場合には，補償を打ち切る。

（規程の改正）

第61条　本規程の改正については，教員会および職員会の意見を徴し，大学評議会の議を経て学長の上申により理事長が決定する。

（細則）

第62条　本規程の細則については，別に定める。

附　則

第１条　本規程は，平成７年４月１日から施行する。但し，本規程は「佛教大学就業規則（昭和49年４月１日施行）」の表題および条文を改正し，新規に制定したものである。

２　本規程の改正については，教員会および職員会の意見書を添えて，所轄の労働基準監督署に届け出ること。

第２条　本規程は，平成９年４月１日から改正施行する。

第３条　本規程は，平成10年４月１日から改正施行する。

第４条　本規程は，平成11年４月１日から改正施行する。

第５条　本規程は，平成12年４月１日から改正施行する。

第６条　本規程は，平成13年４月１日から改正施行する。

第７条　本規程は，平成14年４月１日から改正施行する。但し，学校法人華頂学園との合併（文部科学省認可平成14年２月28日）による。

第８条　本規程は，平成17年４月１日から改正施行する。

第９条　本規程は，平成17年８月１日から改正施行する。

第10条　本規程は，平成19年４月１日から改正施行する。

第11条　本規程は，平成21年４月１日から改正施行する。但し，学校法人東山学園との合併（文部科学省認可平成21年１月６日）および学校法人の名称を浄土宗教育資団から佛教教育学園に変更（文部科学省認可平成21年３月31日）を行なったことによる。

第12条　本規程は，平成22年４月１日から改正施行する。

第13条　本規程は，平成22年６月30日から改正施行する。

第14条　本規程は，平成23年４月１日から改正施行する。

第15条　本規程は，平成28年４月１日から改正施行する。

第16条　本規程は，平成28年７月19日から改正施行する。

第17条　本規程は，平成29年４月１日から改正施行する。

第18条　本規程は，令和２年４月１日から改正施行する。

第19条　本規程は，令和３年４月１日から改正施行する。

第20条　本規程は，令和４年４月１日から改正施行する。

第21条　本規程は，令和４年10月１日から改正施行する。

第22条　本規程は，令和５年４月１日から改正施行する。

○佛教大学定年規程

昭和49年４月１日

（目的）

第１条　本規程は，佛教大学就業規程第42条に規定する職員の定年に関する事項を定めることを目的とする。

（定年）

第２条　佛教大学に専任として勤務する者の定年を次のとおり定める。

(1)　教員の定年を満70歳とし，定年に達した年度末を以て退職とする。但し，経歴審査のみで業績審査をしない講師（実習指導講師，通信教育部研究室講師）は満65歳とする。

(2)　前号の規定に関わらず，実習指導講師のうち教育研究機関および企業等を定年退職した者の定年は，令和７年度および令和８年度採用者は満66歳，令和９年度および令和10年度採用者は満67歳，令和11年度および令和12年度採用者は満68歳，令和13年度および令和14年度採用者は満69歳，令和15年度以降採用者は満70歳とする。

(3)　事務職員の定年を満65歳とし，定年に達した年度末を以て退職とする。

（定年除外）

第３条　前条の規定は，学長の職にある者について任期中は，これを適用しない。

（規程の改廃）

第４条　本規程の改廃は，大学評議会の意見を徴し，学長がこれを決定する。

附　則

第１条　本規程は，昭和49年４月１日から施行する。

第２条　本規程は，昭和50年４月１日から改正施行する。

第３条　本規程は，昭和52年３月31日から改正施行する。

第４条　本規程は，平成３年４月１日から改正施行する。

第５条　本規程は，平成５年４月１日から改正施行する。

第６条　本規程は，平成７年４月１日から改正施行する。

第７条　本規程は，平成９年４月１日から改正施行する。

第８条　本規程は，平成12年４月１日から改正施行する。

第９条　本規程は，令和６年４月１日から改正施行する。

【資料 25】

○佛教大学特別任用教員規程

平成３年４月１日

（目的）

第１条　本規程は，佛教大学特別任用教員の採用・期間・服務および待遇等に関する基準を定めることを目的とする。

（趣旨）

第２条　特別任用教員は，学術研究ならびに教育・研究上における教員組織のうえで特に必要と認められる場合におくものとする。

（採用）

第３条　特別任用教員の採用は，学長が特に必要と認めた者について，年度ごとに計画的に行うものとし，学部教授会の議を経て採用することができる。

２　特別任用教員は，原則として学部に所属するものとする。

３　特別任用教員の職階は，教授・准教授・講師とする。但し，任用期間内の昇任は行なわない。

４　特別任用教員の採用およびその基準は，本学の「教員選考委員会規程」「教員選考基準」および「教員選考手続」を準用する。

（任用期間等）

第４条　特別任用教員の任用期間は３年以内とする。但し，２年を限度として期間の延長をすることができる。

２　特別任用教員の任用期間は，前項の任期にかかわらず，本学の定年を限度とする。

３　前２項の規定にかかわらず，学部学科の設置等の申請に伴う人事については，別途期間を定めて任用することができる。

４　特別任用教員の再任用にあたっては，前条第４項を準用する。但し，再任用における審査（昇任を含む）は，当該教員の任期中の研究業績等によるものとする。

（業務）

第５条　特別任用教員は，所属する学部において教育・研究指導およびその他の業務にたずさわるものとする。

２　特別任用教員は，学部教授会に出席する義務を負わない。

３　特別任用教員は，学部・大学院等の役職を解く。

（授業担当等）

第６条　特別任用教員の授業担当責任時間は，週４コマ（８時間）とする。

（給与等）

第７条　特別任用教員の給与は月給制とし，給与基準の基本給表Ａ６級を適用する。担当責任時数をこえて授業を担当した場合は，特別任用教員の職階に応じて，「給与基準」に定める授業増担手当を支給する。

２　定期昇給は行なわない。

３　退職金は支給しない。

（社会保険等）

第８条　特別任用教員の社会保険への加入については，雇用契約書に基くものとする。

（服務）

第９条　特別任用教員の服務は，佛教大学就業規程を準用する。

（事務所管）

第10条　特別任用教員の受け入れ事務は，学部事務課が行なうものとする。

（規程の改廃）

第11条　本規程の改廃は，大学評議会の意見を徴し，学長がこれを決定する。

附　則

第１条　本規程は，平成３年４月１日から施行する。但し，本規程は「佛教大学嘱託教員規程（昭和52年３月31日施行）」の表題および条文を改正し，新規に制定したものである。

第２条　本規程は，平成５年４月１日から改正施行する。

第３条　本規程は，平成７年４月１日から改正施行する。

第４条　本規程は，平成９年４月１日から改正施行する。

第５条　本規程は，平成16年４月１日から改正施行する。但し，本規程は「佛教大学嘱託教授規程（平成３年４月１日施行）」の表題および各条文を改正したものである。

第６条　本規程は，平成25年４月１日から改正施行する。但し，本規程は「佛教大学嘱託教授・特別任用教授規程（平成３年４月１日施行）」の表題および各条文を改正したものである。

本規程の改正に伴い，嘱託教授採用制度を廃止する。改正施行日に嘱託教授である者は，任期まで旧規程を適用し引き続き就任できるものとする。

第７条　本規程は，平成26年４月１日から改正施行する。

本規程の改正に伴い，改正施行日に特別任用教授である者は，旧規程を適用し，引き続き就任できるものとする。

第８条　本規程は，令和３年４月１日から改正施行する。

第９条　本規程は，令和４年４月１日から改正施行する。

【資料 26】

○佛教大学客員教授規程

平成11年10月20日

（趣旨）

第１条　本規程は，佛教大学客員教授（以下「客員教授」という。）の招聘について，必要な事項を定める。

（定義・招聘期間）

第２条　本規程でいう「客員教授」とは，学術文化芸術活動，社会貢献活動等の領域において顕著な業績を有し，且つ本学の教育研究の充実発展を図り，加えて，本学の社会的価値を高めうる者で，国内外を問わず，期間を定めて，３年以内に限って招聘する者をいう。

２　本規程により招聘する客員教授は，次のとおりとする。

(1)　学術研究において特に優れた知識および経験を有し，その活動内容が本学の教育・研究の向上および社会貢献に必要であると学長が認めた者（以下「招聘A」という。）

(2)　学術文化芸術活動，社会貢献活動等の領域において顕著な業績または特に優れた知識および経験を有する者で，本学の存在を社会に発信できると学長が認めた者（以下「招聘B」という。）

(3)　学術交流協定校の教授の職にある者で，協定に基き，学長が認めた者（以下「招聘C」という。）

３　招聘期間は，２年を限度として期間の延長をすることができる。

（所属）

第３条　客員教授は，原則，大学所属の非常勤とし，特定の学部，研究科等に所属しないものとする。

（客員教授招聘委員会）

第４条　客員教授の候補者について，調整・審議を行なうため，学長の下に，客員教授招聘委員会（以下「招聘委員会」という。）を置く。

２　招聘委員会に関する規程は，別途定める。

（申請）

第５条　客員教授の招聘申請は，学長，各学部長，各大学院研究科長，各機構長から行なうものとし，原則として前年度の９月末日までに次の書類を，招聘委員会委員長まで提出しなければならない。

(1)　申請書（本学所定）

(2)　写真貼付の履歴書（学歴・職歴・研究業績等）

(3)　所属機関の代表者の推薦状

(4)　最終学歴証明書

(5)　教育・研究計画書

(6)　その他学長が必要とする書類等

2　前項の書類を受理した招聘委員会委員長は，第６条に定める招聘手続きを行なう。

（招聘手続き・招聘人数）

第６条　客員教授の任用は，前条による申請に基き，招聘委員会が候補者を推薦し，大学評議会の議を経て，学長が行なう。

2　各年度の招聘人数は次のとおりとする。

(1)　招聘A　若干名

(2)　招聘B　若干名

(3)　招聘C　若干名

3　招聘が決定した後，招聘計画を変更または中止する場合は，招聘委員会および大学評議会の承認を得なければならない。

（活動）

第７条　客員教授は，次の各号に掲げる一以上に該当する活動に従事する。

(1)　本学が要請する学術研究活動

(2)　本学が要請する学生の教育・研究指導

(3)　本学が要請する教育・研究に関する助言、指導、支援

(4)　本学が開催する講演会・シンポジウム等における講演・参加

(5)　本学と地域社会との交流推進活動

(6)　本学の広報宣伝活動

(7)　その他，客員教授招聘委員会が必要と認めた活動

2　前項第２号に従事し授業科目を担当する場合は,担当予定授業科目の審議機関である教育推進機構会議,大学院委員会または宗門後継者養成委員会のいずれかの議を経なければならない。

（処遇）

第８条　客員教授の処遇は，別表１のとおりとする。

2　客員教授が，本学の要請により出張する場合は，本学の専任教員の出張とみなし，「国内出張旅費規程」および「海外出張旅費規程」を準用する。

3　客員教授は，必要に応じて本学の諸施設を利用することができ，且つ本学の諸行事に参

加できる。

（通知）

第９条　客員教授に任用された者には，招聘状を発行し身分証明書を交付する。

（権能）

第10条　客員教授は，本学の教授会の構成員になることはできない。但し，学部教授会，大学院研究科教授会ならびに各機構会議，各種委員会は，必要に応じて客員教授に出席を求め，その意見を聴くことができる。

（事務処理）

第11条　客員教授招聘に関する事務取扱は，次のとおりとする。

(1)　第４条第１項に定める招聘委員会に関する事務は，学長室企画課が行なうものとする。

(2)　任用決定後の受け入れに関する事務は，総務部人事課が行なうものとする。

（規程の改廃）

第12条　本規程の改廃は，招聘委員会の議を経て，大学評議会の承認を得なければならない。

附　則

第１条　本規程は，平成11年10月20日から施行する。但し，本規程は，「佛教大学客員教授規程」（昭和59年９月１日施行）の条文を全面改正し，新規に制定したものである。

第２条　本規程の施行に伴い，「研究者招聘規程」（昭和59年９月１日施行）および「佛教大学客員教授学生指導規程」（平成元年４月１日施行）は廃止する。

第３条　本規程は，平成12年４月１日から改正施行する。

第４条　本規程は，平成15年４月１日から改正施行する。

第５条　本規程は，平成16年４月１日から改正施行する。

第６条　本規程は，平成24年４月１日から改正施行する。

第７条　本規程は，令和４年４月１日から改正施行する。但し，令和４年４月１日付任用の客員教授については，改正施行後３年間は、従前の規定を適用する。

別表１（第８条関係）

処遇	
給与	原則，年俸制とし，第7条第1項各号に規定する活動内容によって，決定する。 なお，第7条第1項第2号により，授業科目を担当する場合は，

	別途，非常勤講師手当に準じて支給する。
宿舎	原則，提供しないものとする。但し，第7条第1項各号に規定する活動内容によって，決定する。
交通費	原則，非常勤講師の交通費を支給する。但し，第7条第1項各号に規定する活動内容によって，別途支給する場合がある。
医療費	本人負担

【資料 27】

○佛教大学の教員の任期に関する規程

平成15年４月１日

（趣旨）

第１条　本規程は，大学の教員等の任期に関する法律（平成９年法律第82号。以下「法」という。）第５条第２項の規定に基き，本学における教員の任期に関し必要な事項を定めるものとする。

（任期を定める組織等）

第２条　法第５条第１項・第４条第１項各号により任期を定めて採用する教員（以下「任期付教員」という。）の教育研究組織，職名，任期に関する事項は，別表のとおりとする。

２　本学が学部学科の設置等を申請する場合において，前項により採用した任期付教員を当該申請にかかる学部学科の教員とするときは，前項にかかわらず，その教員の任期を５年間から必要な期間に（但し，採用から10年以内の期間に限る。）変更することができる。

３　任期終了後（前項により変更された任期が終了した場合を含む。），継続して任期のある教員として再任することはない。

（採用）

第３条　任期付教員を採用する場合は，本学の教員選考委員会規程，教員選考基準および教員選考手続きを準用する。

（同意）

第４条　任期を定めて採用する場合には，採用される者の同意を同意書（別紙様式）により得なければならない。

２　第２条第２項により任期を変更した場合は，当該任期を変更した者の同意を変更同意書（別紙様式）により得なければならない。

（就業条件等）

第５条　第２条第１項または第２項の任期以外の就業条件は，本学の就業規程，給与規程，職員退職金規程およびその他の関連する諸規程の定めるところによる。

（業務）

第６条　任期付教員は，所属する教育研究組織における通常の業務を行なうものとする。

（規程の公表）

第７条　本規程を制定または改廃したときは，公表する。

（その他）

第８条　本規程に定めるもののほか，本規程の実施に関し必要な事項は，大学評議会の議を

経て，学長が定める。

（規程の改廃）

第９条　本規程の改廃は，大学評議会の意見を徴し，学長がこれを決定する。

附　則

第１条　本規程は，平成15年４月１日から施行する。

第２条　本規程は，平成19年４月１日から改正施行する。

第３条　本規程は，平成21年４月１日から改正施行する。

第４条　本規程は，平成23年４月１日から改正施行する。

第５条　本規程は，平成25年４月１日から改正施行する。

第６条　本規程は，令和３年４月１日から改正施行する。

第７条　本規程は，令和６年11月１日から改正施行する。

別表（第２条関係）

所属	対象となる職名	任期	根拠
仏教学部	教授・准教授・講師	5年	（任期制法）第5条第1項・第4条第1項各号
文学部	教授・准教授・講師	5年	
歴史学部	教授・准教授・講師	5年	
教育学部	教授・准教授・講師	5年	
社会学部	教授・准教授・講師	5年	
社会福祉学部	教授・准教授・講師	5年	
保健医療技術学部	教授・准教授・講師・助教	5年	

＊各学部については，採用を希望する学部のみとする。

別紙様式(第4条第1項関係)

同　意　書

令和　　年　　月　　日

学校法人佛教教育学園
理事長　　様

氏　名　　印

私は，佛教大学○○○○○に就任するに際し，大学の教員等の任期に関する法律(平成9年法律第82号)第4条第2項および佛教大学の教員の任期に関する規程第4条第1項に基づき，下記のとおりの任期により採用されるものであることに同意します。

なお，下記任期の終了後には，任期の更新および任期付教員としての再採用がなされないことを了解しました。

記

令和　　年　　月　　日から令和　　年　　月　　日まで

(注―○○の部分には，所属部署名および職名を記入。)

別紙様式（第４条第２項関係）

変　更　同　意　書

令和　年　月　日

学校法人佛教教育学園

理事長　　様

氏名　　印

私は，佛教大学○○○○○○に就任するに際し，大学の教員等の任期に関する法律（平成9年法律第82号）第４条第２項および佛教大学の教員の任期に関する規程第４条第１項に基づき提出しました同意書について，下記のとおり任期を変更することに同意します。

また，同規程第２条第３項に基づき，任期終了後に任期のある教員として再任用がなされないことを了解しました。

記

令和　　年　　月　　日から令和　　年　　月　　日まで

（注－○○の部分には，所属部署名および職名を記入）

別紙様式（第４条第１項関係）

別紙様式（第４条第２項関係）

教室配当一覧

【資料28】

■春学期

講時	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	1年　スポーツ実技Ｈ１　メインホール(紫野C) 2年　精神看護学概論Ｈ　Ｎ1-201(二条C)	1年　ブッダと法然Ｈ６　Ｎ1-701(二条C) 2年　疾病論ⅢＨ　Ｎ1-702(二条C) 3年　公衆衛生看護展開論ＩＨ　Ｎ1-323（在宅・公衆衛生・精神看護学実習室）(二条C)	2年　疾病論ⅣＨ　Ｎ1-701(二条C) 3年　公衆衛生看護方法論ⅡＨ　Ｎ1-323（在宅・公衆衛生・精神看護学実習室）(二条C)	1年　General English１Ｈ２　5-204(紫野C) 1年　キャリア・スキルズ１Ｈ１　Ｎ1-304(二条C) 1年　スポーツ実技Ｈ１５　メインホール(紫野C) 3年　ホリスティックケアアプローチＨ　Ｎ1-207(二条C)	1年　スポーツ実技Ｈ５　メインホール(紫野C) 3年　公衆衛生看護管理論ＩＨ　Ｎ1-323（在宅・公衆衛生・精神看護学実習室）(二条C)
2	1年　初級中国語１Ｈ１　1-418(紫野C)	1年　職業世界を知るＨ　5-201(紫野C) 1年　仏教看護論Ｈ　Ｎ1-702(二条C) 1年　仏教看護論Ａ　Ｎ1-702(二条C) 2年　母性看護学概論Ｈ　Ｎ1-701(二条C) 3年　公衆衛生看護展開論ⅡＨ　Ｎ1-323（在宅・公衆衛生・精神看護学実習室）(二条C)	1年　スポーツ理論Ｈ１　1-517(紫野C) 1年　スポーツ理論Ｈ２　1-517(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ７　第1体育室(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ８　メインホール(紫野C) 1年　基礎生理学Ｈｃ　Ｎ1-202(二条C) 2年　老年看護学概論Ｈ　Ｎ1-701(二条C) 3年　公衆衛生看護方法論ⅡＨ　Ｎ1-323（在宅・公衆衛生・精神看護学実習室）(二条C)	1年　初級朝鮮語１Ｈ３　7-102(紫野C) 1年　初級フランス語１Ｈ５　1-419(紫野C) 1年　マイファーストキャリアＨ　1-420(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ１０　メインホール(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ１３　第1体育室(紫野C) 1年　医療概論Ｈ　Ｎ1-701(二条C) 3年　エンドオブライフケア論Ｈ　Ｎ1-201(二条C)	1年　初級中国語１Ｈ６　6-401(紫野C) 1年　中級ドイツ語１Ｈ　6-503(紫野C) 1年　初級フランス語１Ｈ３　1-401(紫野C) 1年　初級ベトナム語１Ｈ１　6-403(紫野C) 1年　スポーツ理論Ｈ３　5-201(紫野C) 1年　スポーツ理論Ｈ４　6-001(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ１７　メインホール(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ１８　第3体育室(紫野C) 3年　公衆衛生看護管理論ⅡＨ　Ｎ1-323（在宅・公衆衛生・精神看護学実習室）(二条C)
3	1年　初級朝鮮語１Ｈ２　1-401(紫野C) 1年　ICTリテラシーＨ４２　Ｎ1-203（情報処理教室）(二条C) 1年　ICTリテラシーＨ４３　Ｎ1-204（情報処理教室）(二条C) 1年　統計学の基礎を学ぶＨ　1-505（情報処理教室5）(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ３　第1体育室(紫野C) 2年　診療援助技術論ＩＨ　Ｎ1-701(二条C) 3年　慢性看護学ⅡＨ　Ｎ1-202(二条C)	1年　中級中国語１Ｈ　(紫野C) 1年　初級朝鮮語１Ｈ１　5-505(紫野C) 1年　初級フランス語１Ｈ１　5-403(紫野C) 1年　プログラミングを学ぶＨ　1-314（情報処理教室6）(紫野C) 1年　キャリア形成とマネジメントＨ　1-313(紫野C) 3年　公衆衛生看護展開論ⅡＨ　Ｎ1-323（在宅・公衆衛生・精神看護学実習室）(二条C) 1年　生化学Ｈ　Ｎ1-702(二条C)	1年　Integrated Communication Skills１Ｈ３７　Ｎ1-203（情報処理教室）(二条C) 1年　Integrated Communication Skills１Ｈ３８　Ｎ1-208(二条C) 1年　Integrated Communication Skills１Ｈ３９　Ｎ1-202(二条C) 1年　Integrated Communication Skills１Ｈ４０　Ｎ1-207(二条C) 1年　初級朝鮮語２Ｈ１　1-417(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ９　メインホール(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ１２　第1体育室(紫野C) 2年　公衆衛生学Ｈ　Ｎ1-701(二条C) 3年　国際看護学Ｈ　Ｎ1-201(二条C)	1年　Communication Seminar１Ｈ　1-408(紫野C) 1年　初級英語会話１Ｈ　5-302(紫野C) 1年　初級中国語１Ｈ８　1-310(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ２　第3体育室(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ１４　メインホール(紫野C) 1年　看護学概論Ｈ　Ｎ1-701(二条C) 2年　小児看護学概論Ｈ　Ｎ1-202(二条C) 3年　精神看護方法論ⅡＨ　Ｎ1-201(二条C)	1年　中級朝鮮語１Ｈ　6-503(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ６　メインホール(紫野C) 1年　看護実践基盤技術論Ｈ　Ｎ1-701(二条C)
4	1年　初級中国語１Ｈ３　5-304(紫野C) 1年　初級中国語１Ｈ４　5-204(紫野C) 1年　初級ドイツ語１Ｈ２　5-502(紫野C) 2年　自己表現とコミュニケーションＨ　5-401(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ４　第1体育室(紫野C) 1年　基礎解剖学Ｈｂ　Ｎ1-201(二条C) 3年　クリティカルケア看護学ⅡＨ　Ｎ1-701(二条C)	1年　General English１Ｈ１　(紫野C) 1年　Skill-building（TOEIC500）１Ｈ　6-401(紫野C) 1年　Skill-building（TOEIC600）１Ｈ　1-311(紫野C) 2年　薬理学Ｈ　Ｎ1-701(二条C) 3年　老年看護方法論ⅡＨ　Ｎ1-202(二条C)	1年　Intensive Reading１Ｈ５０　Ｎ1-211(二条C) 1年　Integrated Communication Skills２Ｈ３７　Ｎ1-208(二条C) 1年　Integrated Communication Skills２Ｈ３８　Ｎ1-203（情報処理教室）(二条C) 1年　Integrated Communication Skills２Ｈ３９　Ｎ1-207(二条C) 1年　Integrated Communication Skills２Ｈ４０　Ｎ1-202(二条C) 1年　English Lecture１Ｈ　5-205(紫野C) 1年　初級中国語１Ｈ５　6-401(紫野C) 1年　初級中国語１Ｈ９　1-310(紫野C) 1年　初級朝鮮語１Ｈ５　5-302(紫野C) 1年　初級ベトナム語１Ｈ２　5-204(紫野C) 1年　ライフ・キャリアデザインＨ　5-101(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ１１　メインホール(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ２０　第3体育室(紫野C)	1年　初級ドイツ語１Ｈ３　5-402(紫野C) 1年　中級フランス語１Ｈ　5-204(紫野C) 1年　中級ベトナム語１Ｈ　5-203(紫野C) 2年　地域・在宅看護方法論ＩＨ　Ｎ1-202(二条C) 3年　母性看護方法論ⅡＨ　Ｎ1-201(二条C)	1年　初級朝鮮語１Ｈ４　6-501(紫野C) 1年　初級フランス語１Ｈ２　1-415(紫野C) 1年　データサイエンスの基礎を実践するＡ１　1-314（情報処理教室6）(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ１６　第1体育室(紫野C) 1年　スポーツ実技Ｈ１９　メインホール(紫野C) 1年　看護実践基盤技術論Ｈ　Ｎ1-701(二条C)
5	1年　初級ドイツ語１Ｈ１　5-502(紫野C)	1年　Intensive Reading１Ｈ３７　Ｎ1-201(二条C) 1年　Intensive Reading１Ｈ３８　Ｎ1-202(二条C) 1年　Intensive Reading１Ｈ３９　Ｎ1-208(二条C) 1年　Intensive Reading１Ｈ４０　Ｎ1-211(二条C) 1年　初級中国語１Ｈ２　5-304(紫野C)	1年　初級中国語１Ｈ７　5-204(紫野C) 1年　初級朝鮮語１Ｈ６　7-401(紫野C) 1年　初級朝鮮語２Ｈ２　1-414(紫野C) 3年　災害看護学Ｈ　Ｎ1-201(二条C)	2年　保健医療福祉行政論Ｈ　Ｎ1-202(二条C) 3年　小児看護方法論ⅡＨ　Ｎ1-701(二条C)	

教室配当一覧

■秋学期

講時	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	1年　スポーツ実技Ａ１　メインホール(紫野C)	1年　データサイエンスの基礎を実践するＡ２　1-314（情報処理教室6）(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ１０　メインホール(紫野C)	1年　スポーツ実技Ａ６　メインホール(紫野C) 1年　病理学概論Ａｂ　Ｎ1-201(二条C) 2年　看護疫学Ａ　Ｎ1-208(二条C)	1年　General English２Ａ２　1-509(紫野C) 1年　アカデミック・スキルズＡ　Ｎ1-201(二条C)	1年　疾病論ＩＡ　Ｎ1-201(二条C)
2	1年　初級中国語２Ａ１　1-508(紫野C) 1年　スポーツ理論Ａ１　5-202(紫野C) 1年　スポーツ理論Ａ２　5-202(紫野C) 2年　母性看護方法論ＩＡ　Ｎ1-202(二条C)	1年　統計学の基礎を学ぶＡ　1-314（情報処理教室6）(紫野C) 1年　キャリア形成とマネジメントＡ　5-201(紫野C) 1年　職業世界を知るＡ　6-301(紫野C) 2年　診療援助技術論ⅡＡ　Ｎ1-201(二条C)	1年　スポーツ理論Ａ３　1-517(紫野C) 1年　スポーツ理論Ａ４　1-517(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ７　第1体育室(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ８　メインホール(紫野C) 2年　精神看護方法論ＩＡ　Ｎ1-202(二条C) 3年　ホリスティックケアアプローチＡ　Ｎ1-304(二条C) 1年　感染免疫学Ａ　Ｎ1-201(二条C)	1年　佛教大学の理念と歴史Ａ　1-415(紫野C) 1年　初級朝鮮語２Ａ３　1-310(紫野C) 1年　初級フランス語２Ａ５　5-203(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ１３　第1体育室(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ１７　メインホール(紫野C) 2年　保健統計学Ａ　Ｎ1-201(二条C)	1年　初級中国語２Ａ６　1-401(紫野C) 1年　初級フランス語２Ａ３　6-502(紫野C) 1年　初級ベトナム語２Ａ１　6-103(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ１５　メインホール(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ１８　第3体育室(紫野C) 1年　疾病論ⅡＡ　Ｎ1-201(二条C)
3	1年　初級朝鮮語２Ａ２　6-103(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ３　第1体育室(紫野C) 1年　看護過程論Ａ　Ｎ1-201(二条C) 2年　公衆衛生看護学概論Ａ　Ｎ1-202(二条C)	1年　中級中国語２Ａ　6-503(紫野C) 1年　初級朝鮮語２Ａ１　1-414(紫野C) 1年　初級フランス語２Ａ１　5-202(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ５　メインホール(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ１２　第1体育室(紫野C) 1年　栄養学Ａｂ　Ｎ1-702(二条C) 2年　クリティカルケア看護学ＩＡ　Ｎ1-201(二条C)	1年　Integrated Communication Skills３Ａ３７　Ｎ1-204（情報処理教室）(二条C) 1年　Integrated Communication Skills３Ａ３８　Ｎ1-208(二条C) 1年　Integrated Communication Skills３Ａ３９　Ｎ1-201(二条C) 1年　Integrated Communication Skills３Ａ４０　Ｎ1-207(二条C) 1年　スポーツ理論Ａ５　1-517(紫野C) 1年　スポーツ理論Ａ６　1-517(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ９　メインホール(紫野C) 2年　老年看護方法論ＩＡ　Ｎ1-202(二条C) 4年　看護教育学Ａ　Ｎ1-211(二条C)	1年　Communication Seminar２Ａ　1-406(紫野C) 1年　初級英語会話２Ａ　5-302(紫野C) 1年　初級中国語２Ａ８　6-403(紫野C) 1年　初級ドイツ語２Ａ３　1-412(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ２　第3体育室(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ１４　メインホール(紫野C) 1年　生活行動援助技術論Ａ　Ｎ1-202(二条C) 2年　小児看護方法論ＩＡ　Ｎ1-201(二条C)	1年　中級朝鮮語２Ａ　5-303(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ２０　メインホール(紫野C) 1年　地域・在宅看護学概論Ａ　Ｎ1-201(二条C)
4	1年　初級中国語２Ａ３　1-404(紫野C) 1年　初級中国語２Ａ４　5-506(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ４　第1体育室(紫野C) 1年　フィジカルアセスメント技術Ａ　Ｎ1-201(二条C) 2年　公衆衛生看護方法論ＩＡ　Ｎ1-202(二条C)	1年　General English２Ａ１　5-504(紫野C) 1年　Skill-building（TOEIC500）２Ａ　1-312(紫野C) 1年　Skill-building（TOEIC600）２Ａ　1-311(紫野C) 2年　自己表現とコミュニケーションＡ　1-416(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ１６　第1体育室(紫野C) 1年　社会福祉Ａ　Ｎ1-702(二条C) 2年　慢性看護学ＩＡ　Ｎ1-201(二条C)	1年　Integrated Communication Skills４Ａ３７　Ｎ1-208(二条C) 1年　Integrated Communication Skills４Ａ３８　Ｎ1-204（情報処理教室）(二条C) 1年　Integrated Communication Skills４Ａ３９　Ｎ1-207(二条C) 1年　Integrated Communication Skills４Ａ４０　Ｎ1-201(二条C) 1年　English Lecture２Ａ　5-205(紫野C) 1年　初級中国語２Ａ５　1-418(紫野C) 1年　初級中国語２Ａ９　7-407(紫野C) 1年　初級ベトナム語２Ａ２　5-402(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ１１　メインホール(紫野C)	1年　初級ドイツ語２Ａ２　6-204(紫野C) 1年　中級フランス語２Ａ　5-203(紫野C) 1年　中級ベトナム語２Ａ　6-103(紫野C) 1年　生活行動援助技術論Ａ　Ｎ1-202(二条C) 2年　地域・在宅看護学実習Ａ　Ｎ1-209(二条C)	1年　初級朝鮮語２Ａ４　5-303(紫野C) 1年　初級フランス語２Ａ２　6-502(紫野C) 1年　スポーツ実技Ａ１９　メインホール(紫野C)
5	1年　初級ドイツ語２Ａ１　5-403(紫野C)	1年　Intensive Reading２Ａ３７　Ｎ1-201(二条C) 1年　Intensive Reading２Ａ３８　Ｎ1-202(二条C) 1年　Intensive Reading２Ａ３９　Ｎ1-208(二条C) 1年　Intensive Reading２Ａ４０　Ｎ1-211(二条C) 1年　初級中国語２Ａ２　6-204(紫野C) 2年　臨床心理学Ａ　Ｎ1-701(二条C)	1年　Intensive Reading１Ａ５０　Ｎ1-211(二条C) 1年　初級中国語２Ａ７　6-501(紫野C) 1年　初級朝鮮語１Ａ　6-402(紫野C) 1年　データサイエンスの基礎を実践するＡ３　1-314（情報処理教室6）(紫野C)	2年　地域・在宅看護方法論ⅡＡ　Ｎ1-209(二条C)	

【資料 29】

○佛教大学規程

昭和42年４月１日

第１条　本規程は，佛教大学学則（以下「学則」という。）等に基き，適正な大学行政と運営の円滑化を図る基本的事項を定める。

第２条　学則第３条第６項に定める大学院学則（学位規程を含む。），こども園園則，別科（仏教専修）規程および通信教育規程ならびに学則第62条に定める附属施設・附置機関の規程については，別に定める。

第３条　大学の適正な運営を推進するために次の組織を設ける。

(1)　入学機構，学生支援機構，教育推進機構，研究推進機構，生涯学習機構

(2)　大学評価室，質保証推進室，災害対策室，人事開発室，学生支援推進室，課外活動支援室，情報推進室，二条キャンパス支援室

(3)　学内委員会

２　前項各号に関する規程は，別に定める。

第４条　学長は佛教大学学長選挙規程に基いて選出された者を理事長が任命する。

２　事務局長は学長の推挙した者を理事長が任命する。

３　前２項を除く教職員は学長が任命する。

第５条　学長は，大学を代表し，教学および管理運営のすべてを統轄する。

第６条　副学長は，学長を助け，命を受けて次の各号に定める職務を遂行する。

(1)　教学および管理運営に関する学長の職務を遂行する。

(2)　学長に事故あるときは，学長の職務を代行する。

(3)　第１号のもとで，機構会議・学内委員会を統轄し，その運営に対して責任を負うとともに，大学の教育・研究活動を統括する。

第６条の２　学長特別補佐を置くことができる。

２　学長特別補佐は，学長が命じた大学の基本施策等にかかわる業務を遂行するものとする。

第６条の３　大学における教育・研究の適正な運営をはかるために機構長を置く。

２　機構長は，機構内の事務部とセンターおよび室を統轄し，当該機構の部長と協議のうえ，機構の運営に対して責任を負うとともに，機構間の連携と調整をはかる。

第７条　学部長・大学院研究科長は，教学に関する事項を統括して学部・大学院研究科の運営に対して責任を負うとともに，学部・研究科における教育・研究活動を統括する。

第８条　大学の適正な管理運営を遂行するために，部局長等を置く。

２　事務局長は大学の事務を統轄し，法人の事務については，法人の事務局長と相互に協力

するものとする。

3　事務局次長は，事務局長職務を補佐し，事務局長に事故あるときはその職務を代行する。

4　部長あるいは担当部長は，所轄課の分掌業務を統轄管理する。

5　課長および担当課長は，各事務を所轄する部長等の命を受けて，所轄課の担当する事務を執行処理する。

6　課長補佐は，所属課長等の命を受けて，定められた事務の範囲において課長を補佐し，その担当する事務を処理する。

7　主任は，所属課の事務職員を指導し，その担当する事務を処理する。

第８条の２　大学の職員は，法人事務局の職員を兼務することができる。

第９条　学長は，学内の人事ならびに予算編成および執行について次の権限を持つ。

(1)　副学長，学長特別補佐，機構長，附属こども園長，事務局長，事務局次長，第８条第４項に該当する者，学則第62条に定める附属施設・附置機関の長および室長の任命。但し，事務部長については，事務局長の推薦を受けた者の中から任命する。

(2)　課長以下の職員の任免については，部局長会に諮問した上で決定する。

(3)　教員の任免については，教員選考委員会，各学部教授会の議を経て，学長がこれを決定する。

(4)　予算編成および執行については，事務局長の具申により決定する。

第10条　大学の教育・研究組織および事務組織は，別に定める。

第11条　学部に学生支援，教育推進，研究推進，生涯学習の各担当主任を置き，学科に学科長を置く。

2　大学院研究科に大学院担当主任を置き，大学院研究科の各専攻に専攻主任を置く。

第12条　教員は，学部長・大学院研究科長の所轄のもとに教育・研究を行なうものとする。

第13条　大学の事務を処理するために，第10条の事務組織における部局を置く。

2　各部局の事務分掌規程は，別に定める。

3　各部局においても法人の委任事務をつかさどる。

第14条　事務局における職位として，事務局長，事務局次長，部長・担当部長，課長・担当課長，課長補佐，主任および課員を置く。

2　担当部長は，部長と協議のうえ，各部局の業務の一部を統轄し，業務遂行に支障をきたさないようその役割分担を明確にし，業務を処理する。

3　担当課長は，課長と協議のうえ，所属課の業務の一部を統轄し，業務遂行に支障をきたさないようその役割分担を明確にし，業務を処理する。

第14条の２　各部局に参与を置くことができる。参与は，大学または所属部署の基本方針に基き，特に学長が命じた大学の基本施策等にかかわる業務を遂行するものとする。

第15条　部課長の公務長期出張および疾病による長期欠勤が生じた場合には部課長事務取扱者を置くことができる。

第16条　大学評議会は，学則第61条に基き，その業務を行なう。

２　大学の運営に関する重要事項は，大学評議会の議を経て，学長が決定する。

第17条　学部教授会は学則第59条および通信教育規程第８条によって構成し，その業務を行なう。

２　学部教授会規程は，別に定める。

第18条　大学院研究科教授会は大学院学則第75条によって構成し，その業務を行なう。

２　大学院研究科教授会規程は，別に定める。

第19条　大学の適正な管理事務を遂行するために部局長会および課長会を設ける。

２　部局長会は，事務局長，事務局次長および事務部局の部長をもって構成する。

３　課長会は，課長をもって構成する。

第20条　教員会は，教員間の意見調整を図るため，専任教員をもって構成し，学長がこれを招集する。

第21条　職員会は，職員間の意見調整を図るため，専任職員をもって構成し，事務局長がこれを招集する。

第22条　教職員連絡会は，専任の教員および職員をもって構成し，原則として定例に開催する。

２　教職員連絡会は，各学部教授会，大学院各研究科教授会，部局長会および大学評議会における審議事項のうち必要なものについて報告する。

第23条　会議は，特に定めるもの以外は，構成員の３分の２以上が出席（委任状を含む）し，その過半数の賛同がなければ議決することができない。

第24条　名誉教授および名誉博士号の授与についての取扱いは，佛教大学名誉教授授与規程および佛教大学名誉博士号授与規程として別に定める。

第25条　教職員の服務を厳正にし，その福利厚生を図るための関連規程を別に定める。

第26条　教職員と学生との協議機関として大学協議会を設け，その運営については大学協議会規程として別に定める。

第27条　本学の消防管理のために，消防署と連携のもと防火管理規程を別に定める。

第28条　本学の振興に資することを目的として，本学関係の外郭諸団体を組織し，その会

則を別に定めることができる。

第29条　本学諸規程の改廃は，特に定める場合の他は，大学評議会の議を経て，学長が決定する。

第30条　諸規程の施行に関する必要事項については，内則あるいは基準として別に定めることができる。

第31条　本規程の改廃は，大学評議会の承認を得なければならない。

附　則

第１条　本規程は，昭和42年４月１日から施行する。

第２条　本規程は，昭和46年４月１日から改正施行する。

第３条　本規程は，昭和48年４月１日から改正施行する。

第４条　本規程は，昭和49年４月１日から改正施行する。

第５条　本規程は，昭和50年４月１日から改正施行する。

第６条　本規程は，昭和51年４月１日から改正施行する。

第７条　本規程は，昭和52年４月１日から改正施行する。

第８条　本規程は，昭和53年４月１日から改正施行する。

第９条　本規程は，昭和54年４月１日から改正施行する。

第10条　本規程は，昭和56年４月１日から改正施行する。

第11条　本規程は，昭和57年４月１日から改正施行する。

第12条　本規程は，昭和58年４月１日から改正施行する。

第13条　本規程は，昭和60年４月１日から改正施行する。

第14条　本規程は，昭和61年４月１日から改正施行する。

第15条　本規程は，昭和63年４月１日から改正施行する。

第16条　本規程は，平成元年４月１日から改正施行する。

第17条　本規程は，平成２年４月１日から改正施行する。

第18条　本規程は，平成３年４月１日から改正施行する。

第19条　本規程は，平成４年４月１日から改正施行する。

第20条　本規程は，平成５年４月１日から改正施行する。

第21条　本規程は，平成６年４月１日から改正施行する。

第22条　本規程は，平成７年４月１日から改正施行する。

第23条　本規程は，平成８年４月１日から改正施行する。

第24条　本規程は，平成８年７月10日から改正施行する。

第25条　本規程は，平成９年４月１日から改正施行する。

第26条　本規程は，平成10年４月１日から改正施行する。

第27条　本規程は，平成12年４月１日から改正施行する。

第28条　本規程は，平成14年４月１日から改正施行する。但し，本規程の改正は，学校法人華頂学園との合併（文部科学大臣認可：平成14年２月28日）による。

第29条　本規程は，平成15年４月１日から改正施行する。

第30条　本規程は，平成16年４月１日から改正施行する。

第31条　本規程は，平成18年４月１日から改正施行する。

第32条　本規程は，平成19年４月１日から改正施行する。

第33条　本規程は，平成20年４月１日から改正施行する。

第34条　本規程は，平成21年４月１日から改正施行する。

第35条　本規程は，平成22年４月１日から改正施行する。

第36条　本規程は，平成23年４月１日から改正施行する。

第37条　本規程は，平成24年４月１日から改正施行する。

第38条　本規程は，平成27年４月１日から改正施行する。

第39条　本規程は，平成28年４月１日から改正施行する。

第40条　本規程は，平成28年９月１日から改正施行する。

第41条　本規程は，平成29年４月１日から改正施行する。

第42条　本規程は，平成30年４月１日から改正施行する。

第43条　本規程は，平成31年４月１日から改正施行する。

第44条　本規程は，令和５年４月１日から改正施行する。

第45条　本規程は，令和６年４月１日から改正施行する。

2021（令和３）年度 佛教大学各学部における自己点検・評価シート

提出日	令和４年３月 16 日
報告者	保健医療技術学部学部長
教授会開催日	令和４年３月 16 日

【今年度の学部の運営方針】

〇今年度の学部の運営方針

コロナ禍においても、これまでの教育体制の質を落とすことなく学部のディプロマポリシーに掲げている内容に則した学生を輩出できるように努める。

〇運営方針に基づき実施した主な取り組み

・低学年から、個別面談を行い学生の精神状態や学習状態を把握し、教員間で情報共有することでこれまで以上に学生支援体制の強化を行った。
・学内の演習・実習授業においてコロナ感染に十分に考慮した対面授業を実施した。
・予定していた臨床実習が、コロナ感染拡大により中止となった際には、臨床実習指導者を WEB 授業の講師として招聘するなどして迅速かつこれまでの臨床実習にて学習した質の担保ができるように学内実習の体制を強化した。

〇主な取り組みにおける成果や課題等

・学生アンケートの結果からも概ね身について力として、本学部が掲げるディプロマポリシーに則しており、コロナ禍であったが提供した教育体制には概ね問題はなかったと判断することができる。
・国際的な視野を身につける」「外国語でコミュニケーションする」の項目においては身についたという回答は低く、ディプロマポリシーに挙げる「国際化に対応して活躍する」という点については今後の課題である。

【点検・評価】

（1）学生が身についたと考えている力と、大学（学部）が求めている学習成果と、そのために提供している教育内容の現状について記入してください。
参考資料：「佛教大学 2020 年度卒業時調査結果報告書」 pp.88-89

○現状

保健医療技術学部のディプロマポリシーとして、以下を挙げている。

1. 建学の理念に基づいて、共生と平等、人間尊重、平和への希求を体現し、人類の進歩に貢献する力を有している

2. 医療人として常に人の側にたって、人とともに人生の苦しみとたたかう強い意志や意欲を有している

3. 医学・医療・保健の世界で活躍するために必要な学力を有し、常に実践の質を高める努力を続ける力を有している

4. 医療・保健の現場で必要とされる読み書き能力や良好なコミュニケーション能力を有している

5. 研究の面白さや研究的思考方法の基礎を修得することによって、将来、臨床とともに研究も行いうる資質をもっている

6. 互いの専門性の理解のうえにたった対等な立場でのチーム医療や連携実践のあり方を追求する能力を有している

7. 今後のさらなる医学・医療・保健の高度化・国際化・情報化に対応して活躍する力をもっている

今回の卒業時アンケートの結果では、「必要な情報を収集・整理する」「現状を分析し問題点や課題を発見する」「ものごとを批判的・多面的に考える」「人と協力しながらものごとを進める」「粘り強く取り組む姿勢をもつ」「学び続ける力を持つ」「グループの中で責任を持って行動する」「専門分野の知識・技術を身につける」「道筋を立て論理的問題を解決する」の項目において 90%以上の学生が身についた力と回答している。これらは、本学部のディプロマポリシーに挙げている全項目に関連しており本学部で提供している教育が 4 年間の学生生活で身についていると判断できる。しかし、「国際的な視野を身につける」「外国語でコミュニケーションする」の項目においては身についたという回答は低く、ディプロマポリシーに挙げる「国際化に対応して活躍する」という点については不十分あるという結果であった。

〇現状を踏まえて行った取組

・低学年からの個別面談の実施やひとつの科目に複数人の教員が関わり指導し、グループワークについてもディスカッションが深まるようにファシリテートしている。

・理学・作業療法学科では、指定規則改正に伴うカリキュラム改編を行いこれまで以上に高度な専門性を学ぶための専門基礎科目の配当や OSCE(客観的臨床能力試験)を導入し、より臨床に近い技能の習得について学習するための科目を導入した。

〇取組における成果や課題

・語学や国際的視点を持つといった点については、身についたという実感が低く、今後、広い視野を持ち世界で活躍できる人材を育成するために、あらたに取り組みを検討する必要がある。しかし、指定規則の変更により、必須単位数が増加しており、学生がゆとりをもって学習する機会をどのように提供するかは、カリキュラムの構造的な変更が必要であり、中長期的課題と捉えている。

・理学・作業療法学科の新カリキュラムについては、現在進行中であり今後、成果を判定する評価方法、分析手段、改善策の立案、実施に向けた仕組みを整理しなければならない。

（2）休退学者数の推移をもとに、学生を取り巻く環境と、大学（学部）が実施している取組とに相関関係があると考えられますか。関連性があると想定される場合は、その取組について記入してください。

参考資料：休退学者数推移（2016-2021 年度)、退学理由（2016-2020）

〇現状

・本学部内の 2016 年～2020 年の休学者合計 74 名（年間平均 14.8 名)。退学者 47 名（年間平均 9.4 名）となっている。休学の中でも半期休学の学生は、単位調整のための場合が多く復学し卒業に至る学生も少なくない。

・休学については、学習能力・意欲減退、精神面で問題を抱える学生が停滞し休学を経て退学となることが多い。また、医療目指す志望動機や意欲が不十分なままに入学し進路変更をする学生が近年では多く見受けられる。

〇現状を踏まえて行った取組

・各学科にて学年担任を置き、学生個別面談や学生支援課、学生相談室などへの連携を図りサポート体制を整えている。教員会にて学生情報を共有し適切な学生支援の策を講じている。他には、導入教育科目において複数教員が指導にあたり個別的に関わることができるようにしている。また他学年交流会を開催し学年を超えた学生同士の学習方法や悩み相談などができるように交流場を設けることもしている。

〇取組における成果や課題

・進路について悩む学生は一定数存在いるが、近年では特に、学習の困難さに加え精神的なケアを必要とする学生が増加しており、またコロナ禍において教員や学生同士の交流が困難な状況にあり孤立する学生もいるため、今以上に学生相談室と連携を図る支援体制の強化が必要である。

2022（令和 4）年度 佛教大学各学部における自己点検・評価シート

提出日	
報告者	藤川　孝満
教授会開催日	令和 5 年 4 月 19 日

【今年度の学部の運営方針】

〇今年度の学部の運営方針

・コロナ禍が未だ続く中においても、これまでの教育体制の質を落とすことなく学部のディプロマポリシーに掲げている内容に則した学生を輩出できるように努める。

〇運営方針に基づき実施した主な取り組み

・3 学科供に新カリキュラムに即した運用形態を実施した。
・学内の演習・実習授業においてコロナ感染を十分に配慮した対面授業を実施した。
・予定していた臨床実習が、コロナ感染拡大により中止となった際には、臨床実習指導者を WEB 授業の講師として招聘するなど、迅速かつこれまでの臨床実習にて学習した質の担保ができるように、学内実習体制を検討した。

〇主な取り組みにおける成果や課題等

・学生アンケートの結果からも概ね身についた力としては、本学部が掲げるディプロマポリシーに則しており、昨年に続きコロナ禍であったが、提供した教育体制には概ね問題はなかった。
・「国際的な視野を身につける」「外国語でコミュニケーションする」の項目においては身についたとの回答は低く、ディプロマポリシーに挙げる「国際化に対応して活躍する」という点については今後の課題である。
・2 学科（理学療法学科・作業療法学科）においては、2023 年度が新カリキュラム完成年度を迎えるにあたり、来年度は振り返りが必要となる。
・低学年の学習キャンパスが 2 つに分かれていることから、科目配置に制限がかかる。

【点検・評価】

（1）現行カリキュラムについてDPとの関連で点検・評価を行い、成果や課題があれば記入してください。あわせて課題に対する改善の方向性があれば記入してください。
参考資料：カリキュラムに関するアンケート、カリキュラムツリー、
カリキュラムマップ、学科の学年別到達目標

○現状

理学・作業療法学科においては、2020 年度からの指定規則改正に則した科目設定を行い、高度な専門性を学ぶための専門基礎科目の配当や OSCE（客観的臨床能力試験）を導入した。臨床に近い技能の修得について学習するための科目や、臨床実習においては臨床参加型実習を取り入れ、臨床実習指導者と教員とが今まで以上に連携を強化し指導する体制を導入したカリキュラムが進行中である。

看護学科においては、2022 年度新カリキュラムにおいて、DP をより意識した内容となっている。「コミュニティ実習」を 1 年次に新設し、地域での生活者を看護実践の対象として意識化を図っている。また、AR/VR システムの導入やシミュレーションなど学習方法の工夫を行っている。

○成果や課題

【成果】

3 学科ともに新カリキュラム進行中であるため、その成果を検証するまでには至っていない。

【課題】

医療の高度化、情報化、国際化に対応できる」を達成するための科目群が充実できていない。

○課題に対する改善の方向性等

海外の医療系大学との交流や災害地へのフィールド学習などを取り入れた経験型学習機会の検討、専門性を有した専任教員（非常勤講師招聘）の配置が望ましいと考える。

（2）現行の 3 ポリシー（DP,CP,AP）の内容について点検・評価を行い、成果や課題があれば簡潔に記入してください。あわせて課題に対する改善の方向性があれば記入してください。
参考資料：カリキュラムに関するアンケート、カリキュラムツリー、
カリキュラムマップ、学科の学年別到達目標、
「2021 年度卒業生学修実態調査」、「2021 年度卒業時調査」

○現状

現行の 3 ポリシーに特段問題を認めない。

○成果や課題

【成果】

国家試験合格率は全国平均を上回り、専門職育成の視点からは、一定の効果をあげている。学修実態調査や卒業時調査においても、専門的知識の習得に関する満足度は高く、成長実感が高い。これらの結果より成果をあげていると考える。

【課題】

基礎学力調査において読解力、問題解決力（対人関係、計画、実行、思考力）低下を認めた。またコミュニケーションスキルに問題を抱える学生も少なくないため、医療従事者を育成する本学部においてはこれらへの対応が必要である。

○課題に対する改善の方向性等

「専門学習のための日本語表現」「入門ゼミ」を通して少人数ゼミ制、シミュレーション学習、ディベート学習、アクティブラーニングなどを取り入れる。それに加えて、入学初期から定期的な学習支援や個別面談、他学科を含む学生間の交流を継続的に実施していく。

2023（令和 5）年度 佛教大学各学部における自己点検・評価シート

提出日	令和 6 年 5 月 22 日
学部名	保健医療技術学部
報告者	末安　民生
教授会開催日	令和 6 年 5 月 22 日

【2023（令和 5）年度運営方針・活動計画に掲げる目標への達成度】

掲げた達成目標について、その達成度とその判断に至った根拠を記入してください。なお、達成度は、Ａ＝十分に達成できた、Ｂ＝ほぼ達成できた、Ｃ＝半分程度達成できた、Ｄ＝達成できなかった。
また、複数の目標を掲げている場合は、それぞれについて評価してください。

目標	達成度の根拠	達成度
ICT 教育の導入強化、専門職連携教育・多職種連携(IPE/IPW)を目指し、FD 研修なども活用して時代に適合した保健医療教育の深化、質の向上を図る。	FD 研修をふまえ AR/VR システムを導入し、シミュレーション教育等、新たな学習方法を取り入れた。結果としてコミュニケーション能力の向上等の学習効果がみられた。(p.3)	A
新型コロナウイルス感染は予断を許さない状況が続いているため、安全な学修・実習環境を平時と同様に充実させる。	二条キャンパスでの感染防御は、病を個人の責任に帰さないという確たる方針で感染対策に取り組み、臨床実習、対面授業は滞りなく実施できた。（p.6）	A
少人数ゼミ制による「専門学修のための日本語表現」、「入門ゼミ」などを通して、対話を重視し自己と他者の関係性に気づきを得るような機会と自ら学ぶ姿勢態度を養う。	1 年次より学生の学力、学習姿勢を教員間で共有するように努め、学ぶ姿勢を養うようにしている。しかし読解力の低下などもあり成績不振者が増加しつつある現状を踏まえ、今後も更に個別的な対応などが必要である。（p.8）	B
競争的研究費も得ながら、研究成果は学会にとどまらずさまざまな方法で社会に発信する。	科研費だけでなく、シミュレーション教育導入のための文部科学省からの外部資金も獲得し、論文や海外での学会発表、Web サイト等で研究成果を発信している。（p.7）	A

【2023（令和 5）年度運営方針・活動計画の評価】

2023（令和 5）年度運営方針・活動計画について、点検・評価を行い、成果や課題があれば記入してください。

〇現状

1. 学部の教育内容、学科のカリキュラムを自己点検・評価し、近未来の学部の将来像を検討している。
2. 学科の特色と教員の特性が最大限に活かせるよう「学部教職員が対話できる機会」と雰囲気を育むよう努めている。3 学科 4 学年に必要な教育実践を学部教職員が一体となって実現するため、学科長を中心に諸課題の解決を図っている。
3. 多様な問題を抱えた学生へのサポートを、必要に応じて学生相談センターや学生支援課と連携して行っている。
4. 教員の研究支援については、研究補助制度の周知及び活用方法を周知している。

〇成果や課題

1. これまで作成したカリキュラムマップ・カリキュラムツリーをもとにカリキュラムの全体像や教育目標を教員間で共有し、保健医療技術学部の新学科の構想や既存の学科の今後のあるべき方向性や関係性を検討した。今後の課題として、3 学科並びに新学科の方向性を更に加速して考える必要がある。
2. 学生が 4 年間の学修の航路を自覚し、主体的に学ぶツールとして、カリキュラムツリーの活用方法を検討し、履修計画立案に役立てる必要がある。
3. 様々な課題案件について教員間で対話を行い、問題解決を図った。
4. 教員、学生支援機構主任、関係部署等と学生の情報共有・連携を行い、学生に合わせたサポートや進路指導を行った。
5. 学術支援課と協働し、教員からも外部資金の獲得方法の説明を行い、科研費を含めた外部資金への応募を促進した。

〇課題に対する改善の方向性等

1. 二条キャンパスの今後や、新学科の設置検討を通じて、時勢に応じた学部の役割を考えていく。
2. 学生が 4 年間の学修の航路を自覚し、主体的に学ぶツールとして、カリキュラムツリーの活用方法を検討し、履修計画立案に役立てる。まずは、各セメスターのオリエンテーションにおいて、カリキュラムツリーを学生に明示し、履修計画に役立つツールとして活用していく。
3. 多様な学生に対応できるように、引き続き関係者で情報共有を行い、学生のサポートを行う必要がある。

4.　教育活動や組織運営を維持しつつ、教員の研究活動を促進する必要がある。

【点検・評価】

（1）現行カリキュラムについてDPとの関連で点検・評価を行い、成果や課題があれば記入してください。あわせて課題に対する改善の方向性があれば記入してください。
参考資料：カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、
学科の学年別到達目標、2022年度卒業生学修実態調査等

○現状

理学療法学科・作業療法学科では、2020年度からの指定規則改正に基づいた新カリキュラムにて実施し、今年度で完成年度となった。高度な専門性を学ぶために専門基礎科目を配当するとともに、客観的臨床能力試験を導入した。さらに、診療参加型実習による臨床実践成果の重層化に取り組んだ。また、公認パラスポーツ指導員資格取得過程を配置するために学務課ならびに二条キャンパス事務と連携を図り準備を行った。

看護学科では、2022年度から保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正にともない、ICTの活用やコミュニケーション能力の強化、臨床判断能力や地域に暮らす人々の理解等、よりDPを意識した教育内容を展開している。また、1年次に新設した「コミュニティ実習」はアーリー・エクスポージャーとして生活者とふれあい、地域を知ることを通して看護の意義を学ぶ機会となっている。シミュレーション教育では、基礎科目をはじめ専門科目にわたってAR/VRシステムを導入し、より実践的な学習方法を取り入れている。

○成果や課題

理学療法学科・看護学科の国家試験合格率は全国平均を上回っており、また作業療法学科は全国平均近くであった。このことは、専門職育成の視点から、一定の効果を示しているといえる。

また、学部では2022年度学修実態調査や卒業時調査において、専門的知識の習得に関する満足度は高く、成長実感が高いと評価されている。DP修得度では、「かなり身についた」「ある程度は身についた」の合計でみると、修得度平均は95.0%と高く、すべての項目で9割を超える。

理学療法学科・作業療法学科では、2023年度より公認パラスポーツ指導員の取得課程を開設するとともに、将来、養成校の教員要件となる教育関連科目4単位以上の取得が在学中に可能となった。現在、カリキュラム進行中のためその成果を検証するまでには至っていない。

学部の課題として、2022年度自己点検・評価においてディプロマポリシーに挙げる「国際化に対応して活躍する」が、十分に達成されていないとの指摘がある。2022年

自己点検評価においても、「医療の高度化、情報化、国際化に対応できる」を達成するための科目群が充実していないとの指摘があり、これについては、新カリキュラム作成に向け、継続して検討する必要がある。

また、2022 年度基礎学力調査において「読解力、問題解決力の低下」が見られ、「コミュニケーションスキル」に問題を抱える学生が少なくないことが示されている。「コミュニケーションスキル」は、学習修得度とも関連があり、早急に取り組むべき課題と考える。

看護学科において、「コミュニティ実習」は、1 年次に看護の対象となる人々の健康と暮らしについての学びを通して、対象の理解やコミュニケーションスキルを高めるための効果的な基盤づくりとなった。また、AR/VR システムも活用した各専門分野でのシミュレーション演習は、コミュニケーション能力や協同学習、看護技術、アセスメント能力においても高い学習効果がみられた。これらは、DP に掲げた「共感性豊かな人間性」や「看護実践能力」、「地域社会への貢献能力」等の育成につながっている。

○課題に対する改善の方向性等

1. 全学体制で取り組んでいる 2026 年度からの新カリキュラムの改編に向けて、現行カリキュラムをさらに見直し、これまでの課題に挙がっていた医療の高度化、情報化、国際化についての特色あるカリキュラムへ検討が必要である。
2. 「コミュニケーションスキル」に対しては、4 年間の学びのベースとなる導入教育である「専門学修のための日本語表現」、「入門ゼミ」において、対話を重視し、自己と他者の関係性に気づきを得る機会を提供することで、自ら学ぶ姿勢・態度を養う。
3. 国家試験合格率を向上させるために、読解力などの低下が著しい学生には個別での関わりを強化する。また、クラス全体としても複数人の教員で関わりをさらに増やし、国家試験問題への取り組み方などの解説を行い、学生の回答力を高める。
4. 作業療法学科では臨床実習前後評価を客観的共用試験(CBT: Computer Based Testing)導入し臨床実習前後での成績に反映するとともに国家試験への指導を兼ねて早期から専門基礎科目を理解し実習や国家試験に応用できるよう指導する。

（2）現行の 3 ポリシー（DP,CP,AP）の内容について点検・評価を行い、成果や課題があれば簡潔に記入してください。あわせて課題に対する改善の方向性があれば記入してください。

参考資料：カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、
学科の学年別到達目標、2022 年度卒業生学修実態調査等

○現状

現行の 3 ポリシー（DP,CP,AP）の内容については、特段問題を認めないが、2026 年度からの大学改革に基づいた３ポリシーの検討を行うことが必要である。

学部、学科改変に向け、現在、質保証推進委員会で検討を進めている３ポリシーの見直しにあたり、学部からディプロマポリシー案を提出した。今後、同委員会からの依頼に基づき、各学部の点検評価組織においてピアレビューを行い、その結果について質保証推進委員に報告する予定である。

○成果や課題

2022 年度卒業生学修実態調査から、大学の学びで育成される５つの汎用的能力のうち、３学科とも「チームワーク力の修得度」が高い。また、「チームワーク力の修得度」が高い学生ほど、「実践的な授業や学び（チームでディスカッション・グループワーク等)」によく取り組んでおり、「議論する経験」が１年次から３年次にかけて伸びている。これは DP に掲げる「医療・保健の現場で必要とされる読み書き能力や良好なコミュニケーション能力を有している」に関して、一定の成果を挙げていると判断できる。

一方で、大学生活で経験した項目として、「挑戦する経験」が１年次から３年次で伸びていない。特に、「チームワーク力の修得度」が低い学生は、「挑戦する経験／続ける経験／解決策を立案する経験」が伸びておらず、「医学・医療・保健の世界で活躍するために必要な学力を有し、常に実践の質を高める努力を続ける力を有している」とする DP に関して、改善に向けた取り組みを検討する必要がある。また、資料やデータ分析を検討する能力が低く、１年から３年生でこれらが伸びていない結果となっている。

現行カリキュラムを基盤として、医療に限定せず幅広く活躍できる人材の育成と医療の高度化、情報化、国際化に通じる人材育成のための DP、CP を策定し、DP を実現するためのカリキュラムの構造化・可視化の検討が必要である。そして DP、CP に合致する AP を考える必要がある。

○課題に対する改善の方向性等

上述の課題を解決するために、学科内にカリキュラム検討委員会を設置し３ポリシーや新しいカリキュラム案を提示し学科教員会にて検討する。

「挑戦する経験」の伸び悩みに対しては、初年次から目標を設定し、「どのような理学療法士・作業療法士・看護職になりたい」というビジョンを描き、その後の４年間を目標に向けて活動することが重要である。そのためには、小目標を設定し、段階的に成功体験を重ねることで、学習成果を高められるよう教育内容の充実を図る。具体的な方策として、体験や実践を通して得た情報を整理し応用する能力を高めるため、実践的な学びの機会を提供する。あわせて、授業への取り組みや成績、出欠状況が悪い学生を抽出し、迅速にフォローする仕組みと体制を強化する。

「チームワーク力」を高めるためには、ゼミや演習等で、学生間で積極的にコミュニケーションをとり、チームで目標達成できるように支援する。また、臨地実習では多職連携を意識した学びが必須であり、実習目標を明確にし、その効果を評価するなど、教

育的な関わりを強化する。

（3）教育活動・授業運営に関して、成果や課題があれば簡潔に記入してください。あわせて課題に対する改善の方向性があれば記入してください。
参考資料：2023 年度学生生活実態調査

○現状

2023 年 5 月より新型コロナウイルス感染症が感染法上 5 類となったが、ポストコロナという社会的背景を危機的な状況として捉え、教育活動・授業運営を見直してきた。二条キャンパスでの感染防御は、病を個人の責任に帰さないという確たる方針で感染対策に取り組み、臨床実習、対面授業は滞りなく実施できた。

ICT 教育については、FD 研修で得た知見を参考に ICT 教育の導入強化と活用を検討し、時代に適合した保健医療教育の深化と質の向上を図っている。特にシミュレーション教育の学習計画・実践、評価についての研修を積み重ね、質の向上を目指している。

○成果や課題

新型コロナウイルス感染拡大が予断を許さない状況下にあっても、安全な学修・実習環境を提供できた。

看護学科においては、シミュレーション教育として AR/VR システムを導入するため文部科学省からの外部資金（ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業）を獲得し、AR/VR システムを活用した結果、一定の成果が得られ、少人数での円滑なシミュレーション教育として有効な教育ツールであることが判明した。

課題としては、各科目の授業運営について、FD 研修や授業に関する議論をすることが必要である。

○課題に対する改善の方向性等

今後も感染対策を継続し、安全な学習環境の提供に努める。教員間での FD を実施し、より良い授業運営方法を議論する機会を設ける。

（4）学習指導・学習支援に関して、成果や課題があれば簡潔に記入してください。あわせて課題に対する改善の方向性や要望があれば記入してください。
参考資料：2023 年度学生生活実態調査

○現状

１年間を通して、いずれかの学年が常に病院等での臨床実習によって学習を重ねて

いる学部の特徴から、新型コロナウイルス感染症が感染法上 5 類となっても気を緩めずに 円滑な実習が実現できるように細心の注意を払ってきた。キャンパス内でも感染予防活動を継続し、感染対策を徹底すると同時に、日ごろから学生と教職員間の意思疎通に配慮し、学生と教職員間で情報共有の機会を絶やさないように努めてきた。

読解力の低下などもあり成績不振者が増加しつつある現状を踏まえ、1 年次より学生の学力、学習姿勢を担任と科目担当教員が共有に努めている。その上で、学生に合わせて必要な学習指導・学習支援を工夫し、さらに国家試験にむけた学習支援を行っている。

しかし、2023 年度学生生活実態調査から、授業への希望に関して、「学生の理解度を把握しながら授業を進めてほしい」が他学部と比べて高値を示している（全体 25.0%、理学療法学科 32.7%、作業療法学科 48.6%、看護学科 39.5%）。国家資格取得のため、学習すべき項目が多く、１講義中に教授する内容が過大となる傾向にあることは否めない。

また、今ある不安と悩みに関する質問において、「学業」と回答する学生数の割合が高い（全体 50.7%、理学療法学科 74.5%、作業療法学科 73.0%、看護学科 66.3%）。これらから、単位修得、臨床実習、国家試験など、常時、課題をクリアし続けねばならず、不安な心理状況を抱えている学生が多いことが推測される。

○成果や課題

先述の通り、2 学科の国家試験合格率は全国平均を上回り、1 学科は全国平均近くであった。特に、看護師、保健師は、ともに 100%を維持している。このことは、学習指導・学習支援さらに専門職育成の観点から十分な成果を示しているといえる。

2022 年度卒業時調査において、進路満足度は「とても満足している」「まあ満足している」の合計が 100.0%（全体 90.0%）と大学全体より 10pt 高い。うち「とても満足している」は 47.0%（全体 40.0%）と全体より５pt 以上高い。成長実感度においても、「とても実感している」「まあ実感している」の合計が 99.3%（全体 91.0）と高く、学生指導・支援に関して、いずれも成果を上げていると判断できる。

引き続き、現在の学びと将来との関わりについて、イメージできるように、学年進行に応じて支援することが肝要と考える。また、低学年からの教員との個別的な関わりを増やす、成績不振者への履修指導を早期に開始し、学習への意欲を保つための支援を継続する必要がある。

○課題に対する改善の方向性等

学生に対して、先述のカリキュラムツリーに加え、学年別到達目標についてオリエンテーションの際に説明を行い、将来のビジョンを描きながら学習計画を立案できるように、支援体制を強化する。学業に対して高い意欲を持ち続けられるよう、引き続き、現在の学びと将来との関わりについて、イメージできるように、学年進行に応じて支援

する。さらに、課題や授業時間についても学生の理解度や負担を考慮し見直していく必要がある。

また、学年担任との個別面談を実施するとともに、成績不振学生等については学科内の学生支援担当教員が履修指導を含めた個別面談を実施するなど、複数の教員で関わる体制を構築する。1年次の「専門学修ための日本語表現」において複数の教員にて関わり、読む・理解する・書くことなどの他者との対話・表現の学修を支援する。

（5）その他、研究活動、学生募集、社会貢献に関して、成果や課題があれば簡潔に記入してください。あわせて課題に対する改善の方向性や要望があれば記入してください。
参考資料：2022 年度佛教大学教育研究活動年報

研究活動に関しては、教員の多くが科研費などの外部資金に応募し、獲得できるように、教育活動や組織運営を維持しつつ、教員の研究活動を促進する必要がある。

そこで、学術支援課と協働し、外部資金の獲得方法などの説明会を開催し、科研費を含めた外部資金への応募を促進している。また、本学における研究補助制度及び活用方法を周知する機会も設けている。今後、二条キャンパス図書室における資料の充実及び運用方法の検討、研究時間の確保などの課題を学科、学部で継続して協議する。また、研究成果をさまざまな方法で社会に向け発信できるように、支援体制を整備する。

学生募集に関しては、オープンキャンパスが好評で、受験する大学として選ばれている点が成果として挙げられる。今後も、学科の魅力を発信し、更なる充実を図り、オープンキャンパスでの対応を強化し、受験者獲得につなげたい。

看護学科の国家試験合格率が看護師、保健師とも 100%を維持できていることは本学・本学科の重要な評価要素であり、大学として HP 等で有効にアピール頂きたい。また、国試対策の支援のみならず、学生生活への支援として、面談や他学年交流会、卒業生においてもホームカミングデーを企画し、個々の学生の思いやニーズに寄り添うよう努めていることも学生募集における魅力の1つと考える。

社会貢献では、二条キャンパスでの公開講座、研修会やオープンラーニングセンターでの講演、子育て支援活動などを実施している。作業療法学科では、今後は中学・高校などへの福祉体験授業なども行い、更に作業療法を知らせていく必要がある。看護学科では、京都市 IHEAT への参画、能登地震災害ボランティア活動の実施など、学内外での活動も積極的に実施している。

今後も教育、研究、社会貢献の活動を展開し、二条周辺地域との交流促進を図り、学生と教員が常に探求心を持ち、保健医療の専門技術を高められるように、諸活動を育む。

以上

【資料 31】

○事務職員面接規程

平成12年４月１日

（目的）

第１条　本規程は，事務職員人事規程第７条に基き，専任事務職員の人事管理の適正な運営を促進するとともに，より一層の資質向上と士気の高揚およびコミュニケーションの円滑化を図ることを目的とする面接について定めるものである。

（面接の種類）

第２条　面接の種類・面接の時期は，次のとおりである。

⑴　目標面接　前期（４月初旬），後期（10月初旬）

⑵　中間面接　前期（７月中旬から８月中旬），後期（12月中旬から１月中旬）

⑶　育成面接　前期（10月初旬），後期（４月初旬）

（面接の内容・時期）

第３条　面接の内容・時期は，次のとおりである。

⑴　目標面接　目標の共有化および職務基準の明確化を図るために，上司と部下が話し合い，仕事の設定をすること。

⑵　中間面接　目標面接で設定した目標がうまく実行されているかどうか，その年の中程に上司と部下が進捗状況を確認し，軌道修正すべき点があれば適宜指導することにより，目標が達成できるように話し合うこと。さらに職務基準に追加・修正が必要な場合はこれを行なう。

⑶　育成面接　目標の達成結果について部下と面接し，問題点の指摘や事態の改善について話し合い，部下の今後の能力開発についてどのような行動を起こせばよいか指示・指導をすること。

（面接対象者）

第４条　面接の対象者は原則として，人事考課の被考課者とする。

（面接者の責務）

第５条　面接を実施する際は，上司は部下に対し公平公正にして，部下の能力育成を念頭に入れて行なうこととする。

（主管部署）

第６条　本規程に関する事務は，人事課が行なう。

（規程の改廃）

第７条　本規程の改廃は，部局長会の議を経て，大学評議会の承認を得なければならない。

附　則

第１条　本規程は，平成12年４月１日から施行する。

第２条　本規程は，平成14年４月１日から改正施行する。

【資料 32】

○事務職員研修規程

平成９年４月１日

（目的）

第１条　本規程は，事務職員人事規程第９条の規定により，専任事務職員（以下「職員」という。）に関して行われる研修について必要な事項を定めることを目的とする。

（意義）

第２条　研修は，本学の建学の精神に基き，教育と訓練によって必要な知識と技能を習得させ，職員の能力・資質の向上と自己啓発を促し，本学の教育研究活動等の適切且つ効果的な運営および業務の推進を図る人材を養成することを目的とする。また，長期的な人材養成の一環として，継続的・計画的に行なうものとする。

（研修の種類）

第３条　研修の種類は，次のとおりとする。（別表Ⅰ参照）

⑴　大学研修

大学職員として職務を遂行するにあたり，各職能および役職位に必要な知識・技能を習得し，職務遂行能力の向上および大学の管理・運営の向上を目指すことを目的とし，大学が有機的に計画する研修。

⑵　部署研修

日常業務に密着した実践的な知識・技能を習得し，職務遂行能力の向上を目指すことを目的とし，各部署が有機的に計画する研修。

⑶　自己啓発研修

職員が自発的に職務遂行上必要な知識・技能等を習得することを目的とし，個人が有機的に計画する研修。なお，大学の支援を申請することができる。

（実施）

第４条　第３条第１号の研修については，部局長会の承認を得て実施する。

２　第３条第２号の研修については，所属長の承認を得て実施する。

３　第３条第３号の別表Ⅱに定める支援については，所属長を経て，部局長会の議決により実施する。

（予算，支援，勤務）

第５条　第３条第１号の研修については，次のとおりとする。（別表Ⅱ参照）

⑴　予算については，人事課において計上し，執行する。但し，出張費は支給しない。

⑵　旅費が生じた場合は，国内出張旅費規程に準じて支給する。

(3)　当該研修に係る日は，全て勤務扱いとする。

第５条の２　第３条第２号の研修については，次のとおりとする。（別表Ⅱ参照）

(1)　予算については，当該部署において計上し，執行する。但し，出張費は支給しない。

(2)　旅費が生じた場合は，国内出張旅費規程に準じて支給する。

(3)　当該研修に係る日は，全て勤務扱いとする。

第５条の３　第４条第３項において承認を受けた研修の予算については人事課において計上し，執行する。但し，出張費は支給しない。（別表Ⅱ参照）

（報告書の提出義務）

第６条　本規程に基き研修を実施した者は，報告書を所属長を経て，事務局長に提出する。

第７条　本規程に関する事務は，人事課が行なう。但し，人権に関する研修については，人権教育センターが行なう。

（規程の改廃）

第８条　本規程の改廃は，部局長会の議を経て，大学評議会の承認を得なければならない。

附　則

第１条　本規程は，平成９年４月１日から施行する。

第２条　本規程は，平成10年４月１日から改正施行する。

第３条　本規程は，平成14年４月１日から改正施行する。

第４条　本規程は，平成23年４月１日から改正施行する。

第５条　本規程は，平成29年４月１日から改正施行する。

第６条　本規程は，平成31年４月１日から改正施行する。

別表Ⅰ（第３条関係）

			採用前	職能資格							
				書記補	書記	主事補	主事	副参事	参事	幹事	上級幹事
大学研修	必須研修	人権研修		●	●	●	●	●	●	●	●
		人事考課研修							●	●	●
	SD研修	全体研修		●	●	●	●	●	●	●	●
		職能研修		●	●	●	●	●	●	●	●
		役職研修					●	●	●	●	●

		学外研修							○	○	
		SDゼミナール（大学コンソーシアム京都主催）				○	○	○	○	○	○
	採用前研修		●								
	その他大学が計画・案内する研修			●	●	●	●	●	●	●	●
部署研修（日常業務に通じる各種研修・講習会）				●	●	●	●	●	●	●	●
自己啓発研修（個人・共同研修，通信教育，大学院，外部機関講座）				●	●	●	●	●	●	●	●

※●は定員なし。○は定員あり。

別表Ⅱ（第５条，第５条の２，第５条の３関係）

		大学研修	部署研修	自己啓発研修
決裁		部局長会	所属長	部局長会
予算		人事課	各部署	人事課
経費等取扱	受講料	○	○	●
	交通費	○	○	●
	宿泊費	○	○	●
	出張費	×	×	×
	公務	○	○	●

※　●については，部局長会で審議し決定する。

看護学科卒業生進路状況一覧(2019-2023年度)　【資料33】

区　分	2019	2020	2021	2022	2023
卒業生数【A】	66	59	*69*	67	61
求職者数【B】	64	57	*61*	63	60
求職率(%)【B/A】	*97.0*	*96.6*	*88.4*	*94.0*	*98.4*
就職者数【C】	64	57	*61*	63	60
就職率(%)【C/B】	*100.0*	*100.0*	*100.0*	*100.0*	*100.0*
就職率(%)【C/A】	*97.0*	*96.6*	*88.4*	*94.0*	*98.4*

学生の確保の見通し等を記載した書類　目次

（１）新設組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. ２

（２）人材需要の社会的な動向等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. ３

（３）学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. ８

（４）新設組織の定員設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 27

（１）新設組織の概要

① 新設組織の概要（名称，入学定員，収容定員，所在地）

新設組織	入学 定員	収容 定員	所在地 （教育研究を行うキャンパス）
佛教大学看護学部看護学科	80 人	320 人	京都府京都市中京区西ノ京東栂尾町 7

② 新設組織の特色

佛教大学（以下、本学）は、既設の保健医療技術学部看護学科（以下、既設組織）を新たに看護学部看護学科（以下、看護学部）として学部化を図り、収容定員を増員する。

既設組織からの変更点は以下に示す。

新設・ 既設	組織の名称	入学 定員	収容 定員	保健師・看護師学校 としての入学定員	新設組織開設後 の予定
既設	佛教大学 **保健医療技術学部看護学科**	**65 人**	**260 人**	看護師学校：**65 人** 保健師学校：**15 人**	**学生募集停止 （廃止）**
新設	佛教大学 **看護学部看護学科**	**80 人**	**320 人**	看護師学校：**80 人** 保健師学校：**17 人**	―

※学位の分野「保健衛生学関係（看護学関係）」、及び所在地（教育研究を行うキャンパス）については、変更は生じない。

看護学部では、本学の建学の理念を具現化し、本学の人材養成の特色領域と有機的に教育連携ができる新たな教育分野として、保健医療福祉の需要の増大や高度に進歩した医療技術に十分対応ができ、かつ地域保健・地域医療に貢献できる質の高い看護職を養成する。そのためには、新たな看護学部としてより学問的な立ち位置を高め、かつ実学の学部として理論と実践のバランスを重視した看護基礎教育提供の場を再構築することで、高度な専門知識と技術を備え、看護の対象の尊厳を重んじた倫理的な看護を実践できる人材養成を目指す必要があると考える。また、看護学部では、後述する多様化する社会や保健医療現場のニーズに対応できる能力を有する具体的な人材養成の目標として、以下の８項目を掲げる。

①人を思いやり、共感しうる豊かな人間性を有する人材
②看護学および隣接領域に関する学識と基礎的な看護実践能力（知識・技術・態度）を有する人材
③研究的思考の修得により、よりよい看護を追求する資質を有する人材
④他者との良質なコミュニケーション能力を有する人材
⑤多職種連携における看護の役割を理解し、活動できる能力を有する人材
⑥地域社会への貢献ができる能力を有する人材
⑦災害支援・グローバル看護に貢献できる能力を有する人材
⑧保健・医療の高度化・情報化に関心をもち自己研鑽できる意志を有する人材

（２）人材需要の社会的な動向等

① 新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

現代社会においては、超高齢化が進行し、「保健・医療・福祉」領域において、ヒューマンケアの中核的担い手としての質の高い看護師・保健師（以下、看護職）を育成することが急務となっている。また、わが国は、地域医療及び高齢者医療施策、生活習慣病予防や COVID-19 のような感染症対策の強化、さらには介護予防や特定健診・特定保健指導の重症化予防対策など様々な課題にも直面している。今後、より一層高齢化が進み、医療・福祉・介護の需要が急増するが、その一方で労働人口が減少することによる社会的課題（いわゆる 2040 年問題）に対処するための中核的な人材の確保も急務となってきている。

総務省統計局などの調査によると、生産年齢人口は令和２（2020）年の 7,509 万人から令和 22（2040）年には 6,213 万人へと急激に減少すると推計され、現役世代が急減するとともに、高齢化が進行し、看護需要の増大が想定される。

一方、「看護職員の需給推計結果（都道府県別）」によると、令和７（2025）年の都道府県全体としての看護職の需要数はその供給数を上回り、都道府県別にみた場合、 特に都市部では依然として不足傾向が予測される。なかでも大阪府や京都府の特に北部地域の看護職の不足は深刻である。【資料１】

さらに、「『「2040 年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」に基づくマンパワーシミュレーション』の「現状投影ベース」等に基づく看護職員の需給推計」によると、高齢者の増加とともに訪問介護施設・事業所における看護職の需要が高まるとともに、保健所や社会福祉施設、事業所等における看護職の需要も高まっていくことが予測される。【資料２】

また、『第七次看護職員需給見通しに関する検討会報告書』にも「養成段階において看護基礎教育の質の担保を図ることが看護師の人材定着促進にも効果を挙げるものと考えられる。」と示されていることから、より質の高い看護実践力を身につけられる看護基礎教育を提供する場の確保が必要である。【資料３】

以上のような現状の社会的課題を解消すべく、看護学部の開設に向け、本学における看護職の養成ならびに看護職養成人数の増員の必要性について、京都府庁との面談を通して確認を行っており、中・長期的に見て、看護職者養成の需要は高いと認識している。

今後は、18 歳人口の減少により看護職養成者数の絶対数減少が見込まれるが、超高齢多死社会において地域医療構想が推進される中で、多様な場面で専門性の高い看護実践ができる人材養成は、わが国においての重要な課題であり、多様な場で自らの強い意志を持って活躍できる看護師・保健師の継続的な養成は必要不可欠である。

従って、新たに看護学部としてより学問的な立ち位置を高めた形で看護基礎教育提供の場を再構築すると共に、養成する学生数（入学定員）を増員することは、社会的な意義も大きいと考える。

② 中長期的な１８歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析

全国的及び地域別から見た 18 歳人口の動向について、文部科学省「学校基本調査」に基づく予測値は、令和６（2024）年度の 106.3 万人を 100％とした場合、看護学部の開設予定年度にあたる令和８（2026）年度には 109.3 万人（102.7％）、完成年度にあたる令和 11（2029）年度には 106.8 万人（100.4％）、開設予定年度から 10 年後にあたる令和 17（2035）年度には 97.1 万人（91.3％）。また、本学既設組織における入学者の都道府県内訳の上位５都道府県に位置する近畿２府３県（京都府、滋賀県、大阪府、兵庫県、奈良県）の 18 歳人口の予測値は、令和６(2024)年度の 167,697 人を 100％とした場合、令和８(2026)年度には 171,327 人(102.2％)、令和 11（2029）年度には 166,710 人（99.4％）、令和 17（2035）年度には 151,792（90.5％）と減少傾向にある。【資料４】

18 歳人口減少の推計は示されているが、リクルート進学総研「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 近畿版」によると、近畿２府３県（京都府、滋賀県、大阪府、兵庫県、奈良県）の 2014 年から 2023 年にかけての大学進学率については、京都府は 59.2％から 69.6％に、滋賀県は 49.3％から 57.4％に、大阪府は 51.8％から 63.7％に、兵庫県は 54.6％から 63.8％に、奈良県は 50.9％から 60.0％に、２府３県の平均値を見ても 10％程度上昇しており、安定した進学傾向があると言える。【資料５】

また一方で、文部科学省の「大学進学時の都道府県別流入・流出者数」を見ると、流入超過するのは９都府県のみとなっており、その内本学を置く京都府は、府外からの流入者数が最も多い東京都の 76,451 人に次いで 19,704 人と高い数値を示している。【資料６】

加えて、看護学部を置く本学二条キャンパスは、京都市中京区の JR 二条駅前という交通の利便性が高いため、学生募集地域も格段に広まる。現に既設組織の入学者の出身都道府県の割合から見ても、京都府出身者は 42.6％、隣接する滋賀県・大阪府・兵庫県・奈良県出身者は 50.6％との割合で、京都府及び隣接する都道府県からの通学圏となっており、京都府における人口減少のかなりの部分を補えると考える。【資料７】

③ 新設組織の主な学生募集地域

まず、本学が所在する京都府における直近年度の出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位５都道府県）は、京都府 24.4％（8,543 人）、大阪府 19.0％（6,653 人）、滋賀県 9.0％（3,319 人）、兵庫県 7.4％（2,589 人）、奈良県 4.0％（1,386 人）となっている。（別紙１）

これに対し、本学既設組織開設以降の入学者の都道府県内訳（本学調べ）に基づき、上位に位置する京都府、滋賀県、大阪府、兵庫県、奈良県が、看護学部の学生募集地域の中心になると考えている。具体的には、平成 24（2012）年度に既設組織開設以降の入学者総数 850 人の都道府県別内訳（上位 5 都道府県）は、京都府 42.6％（362 人）、滋賀県 30.2％（257 人）、大阪府 16.1％（137 人）、兵庫県 2.4％（20 人）、奈良県 1.9％（16 人）となっており、概ね同一性があると言える。【資料７】

既設組織への入学者の出身都道府県に基づき、より多くの学生の確保が見込める地域を更に選定した場合、看護学部の主な学生募集地域は、京都府、滋賀県、大阪府が中心となり、大阪

府については、特にこれまで比較的京都府に近い市に居住し、通学経路として私鉄沿線（阪急電鉄京都線、京阪電鉄京阪本線）を利用している者が多い傾向であることから、特に６つの市（茨木、吹田、高槻、豊中、寝屋川、枚方）が中心となると言える。中長期的な 18 歳人口予測に鑑みても、主な学生募集地域の設定は妥当であると考える。

この他に、大学進学時において県外への流出者が多く、比較的京都府に近い石川県、福井県、三重県に居住する高校生をターゲットとし、今後学生募集活動地域を広げていきたい。また、これまでの入学者が、北は宮城県、南は鹿児島県といったおおよそ全国的な広がりを見せていることから、進学相談会等の企画運営会社が全国的に開催する各種説明会にも積極的に参加し、全国からの学生確保に努めていきたいと考えている。

以上のことから、看護学部の学生募集地域は、近畿２府３県（京都府、滋賀県、大阪府、兵庫県、奈良県）となるが、その中でも主として本学が所在する京都府、京都府に隣接する滋賀県、大阪府（特に茨木、吹田、高槻、豊中、寝屋川、枚方の６つの市）が中心となる。ただし、これまで同様に本学の建学の理念、看護学部の特色、人材養成の目的、ポリシーを理解し入学を希望する学生については、地域を限定せず広く受け入れを行っていきたいと考えている。

次に、本学が所在する京都府における定員充足状況については、令和４（2022）年度は 101.30％、令和５（2023）年度は 101.37％、令和６（2024）年度は 98.44％と減少している。しかしながら、日本私立学校振興・共済事業団の「令和６（2024）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向」の地域別の動向における京都府の志願者倍率は 9.91 倍と高い数値である。【資料８】

また、学問分野（系統区分）における保健系学部の定員充足状況については、令和４（2022）年度は 99.28％、令和５（2023）年度は 96.79％、令和６（2024）年度は 91.04％と減少傾向にある。【資料８】しかしながら、以下に示す本学既設組織の過去 3 ヵ年の入学者選抜試験志願状況での志願倍率は、令和４（2022）年度は 21.4 倍、令和５（2023）年度は 17.7 倍、令和６（2024）年度は 19.3 倍といった高い数値であり、現在、近隣の看護系学科を設置している大学の中でも高い志願者倍率を保持している。

【既設組織における過去 3 ヵ年の入学者選抜試験志願状況】

既設組織	入学定員	志願者数（合計）			志願倍率		
		令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度	令和6 (2024) 年度	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度	令和6 (2024) 年度
保健医療技術学部看護学科	65	1,391	1,149	1,252	**21.4**	**17.7**	**19.3**

以上のことから、本学が所在する京都府の定員充足状況、ならびに保健系学部の定員充足状況に対する本学既設組織の入学者選抜志願状況から、看護学部の受験者が大幅に減少することはなく、安定的に学生確保の見通しがあると考える。

④ 既設組織の定員充足状況

直近 5 年間の既設学科の入学定員の充足状況は、通学課程が別紙２－１～１５、通信教育課程が別紙２－１６～２６のとおりである。

本学では、主として「総合型選抜」、「学校推薦型選抜」、「一般選抜」、「大学入学共通テスト利用選抜（前期・後期）」の選抜方法を実施し、学生確保に努めている。特徴として、学校推薦型選抜及び一般選抜による入学者の割合がいずれの学科においてもそれぞれ 3 割程度と高くなっている。

仏教学部仏教学科については、入学定員充足率（平均）は 0.93 で、入学者総数（平均）に対して、特に一般選抜による合格の入学者の割合が 19.3%とやや高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

文学部日本文学科については、入学定員充足率（平均）は 1.10 で、入学者総数（平均）に対して、特に学校推薦型選抜による合格の入学者の割合が 38.1%と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

文学部中国学科については、入学定員充足率（平均）は 0.86 で、入学者総数（平均）に対して、特に一般選抜による合格の入学者の割合が 28.9%と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

文学部英米学科については、入学定員充足率（平均）は 1.03 で、入学者総数（平均）に対して、特に一般選抜による合格の入学者の割合が 37.5%と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

歴史学部歴史学科については、入学定員充足率（平均）は 1.08 で、入学者総数（平均）に対して、特に学校推薦型選抜による合格の入学者の割合が 39.2%と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

歴史学部歴史文化学科については、入学定員充足率（平均）は 1.07 で、入学者総数（平均）に対して、特に学校推薦型選抜による合格の入学者の割合が 35.1%と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

教育学部教育学科については、入学定員充足率（平均）は 1.06 で、入学者総数（平均）に対して、特に一般選抜による合格の入学者の割合が 34.1%と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

教育学部幼児教育学科については、入学定員充足率（平均）は 1.12 で、入学者総数（平均）に対して、特に学校推薦型選抜による合格の入学者の割合が 29.6%と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

教育学部臨床心理学科については、入学定員充足率（平均）は 1.10 で、入学者総数（平均）に対して、特に学校推薦型選抜による合格の入学者の割合が 36.3%と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

社会学部現代社会学科については、入学定員充足率（平均）は 1.04 で、入学者総数（平均）に対して、特に一般選抜による合格の入学者の割合が 30.7%と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

社会学部公共政策学科については、入学定員充足率（平均）は 1.03 で、入学者総数（平均）に対して、特に一般選抜による合格の入学者の割合が 31.5%と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

社会福祉学部社会福祉学科については、入学定員充足率（平均）は 1.03 で、入学者総数（平

均）に対して、特に学校推薦型選抜による合格の入学者の割合が 42.8％と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

保健医療技術学部理学療法学科については、入学定員充足率（平均）は 1.07 で、入学者総数（平均）に対して、特に一般選抜による合格の入学者の割合が 30.2％と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

保健医療技術学部作業療法学科については、入学定員充足率（平均）は 1.07 で、入学者総数（平均）に対して、特に学校推薦型選抜による合格の入学者の割合が 25.6％と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。

新設組織の看護学部看護学科と関連する既設組織である保健医療技術学部看護学科については、入学定員充足率（平均）は 1.03 で、入学者総数（平均）に対して、特に一般選抜による合格の入学者の割合が 33.8％と高くなっており、他の選抜とも概ね定員どおりに入学者を確保している。また、別紙２－１５のとおり、それぞれの平均値を見ても受験者数 1,253 人、競争倍率 4.3 倍と十分な値であり、看護学部の入学定員を 80 人とした場合でも、定員の充足は可能であると考える。

なお、既設組織の仏教学部及び文学部中国学科における直近５年間の入学定員の充足状況について、1.00 を下回っているが、現在、より一層受験生にとって、わかりやすく、かつ成長が実感できる新たな教育プログラムの構築を目指して、全学的なカリキュラム改革に取り組んでいる。加えて、本学の多様な学びの魅力と養成する人材の社会的需要を丁寧に広報し、学生を確保できるよう様々な取り組みを推進していくことで入学定員充足率を上げていきたいと考えている。

また、通信教育課程の各学部学科の直近５年間の入学定員の充足状況については、別紙２－１６～２のとおりである。本学の通信教育課程は、昭和 28（1953）年に社会人に高等教育の機会を設けることを目的として西日本最初となる通信教育部（仏教学部仏教学科）を設置して以来、生涯学習の根幹となるべく、通学課程で開設する学部学科に併設し、現在では６学部 11 学科を開設している。「いつでも、どこでも、だれでも」をキャッチフレーズに多くの方に対して門戸を広げるため、大学通信教育設置基準に定められる範囲において入学定員を大きく設定してきた。これにより、本学通信教育課程では日本全国を対象に広く学生募集を行ってきたが、近年では多くの大学で通信教育課程が開設され、地域ごとの入学者の分散化が進み、その傾向は本学通信教育課程においても顕著に表れ、入学者数が年々減少し、現在に至っている。

このような経緯及び通信教育課程としての役割を認識しつつも、入学定員の充足を図るため、本学通信教育課程では以下のような改善計画を予定している。

入学者獲得に向けて、今後も引き続き、教育連携を締結している高等学校をはじめ、近畿圏の通信制、定時制高等学校、本学が教育の提供ができる学問分野において取り組みを行っている高等学校への直接訪問を柱とした学生募集活動を強化するとともに、社会的需要に応える実践的な教育課程とその魅力、取得可能な教員免許状、諸資格について効果的に広報を行い、季刊誌への広告掲載、大手検索エンジンでのリスティング広告によって、特に社会人入学者、編入学者の獲得を目指していきたい。なお、令和９（2027）年度通信教育課程改革に向け、新たな教育課程・教育制度の構築、学費体系の見直し等を進めるなかで、適切な入学定員の設定に

ついても検討を進めている。

また、本学は、平成 18（2006）年度の保健医療技術学部開設以降、保健医療分野の有為な人材養成を行ってきており、その経験・ノウハウを更に発展させ、現在わが国が抱える継続的な人口減少、急速な少子高齢化の進展とともに、高齢者特有の疾病や生活習慣病等の増加という社会的課題に対し、健康科学の最前線に立ち、新しい設備、テクノロジー、データを駆使して、個別化された健康管理や予防医療を推進する多様な知識とスキルを持つ専門人材を養成するため、令和９（2027）年度に保健医療技術学部に新たな学科として健康スポーツ科学科（入学定員：60 人）の設置を構想している。

（３）学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学の近接する学問分野を持つ既設組織である保健医療技術学部看護学科において、より多くの高校生に学科の特色、養成する人材像等の理解を深めてもらえる機会を提供し、安定的な学生確保に向けた取組を実施している。（別紙３）

本学では、学生確保の専門部署として入学部を配置しており、学生募集及び募集広報の事務を分掌している。また、入学部の事務職員だけでなく、他部署の事務職員を入試アドバイザーとして学外進学相談会への派遣、各学部学科に配置している高大連携担当教員を中心とした教員によるオープンキャンパスでの対応や高等学校での出張講義への派遣など、全学体制で学生募集活動に取り組んでいる。

＜具体的な取組＞

〇オープンキャンパス
〇学外進学相談会（地区相談会）
〇高等学校訪問
〇高等学校教員対象進学説明会
〇高等学校での出張講義
〇入試対策講座
〇各種資料（大学案内・パンフレット等）の作成・配付
〇本学ホームページ
〇YouTube 及び SNS（Instagram・LINE・X 等）での情報発信
〇大学情報誌等への情報掲載

１）オープンキャンパス

本学が最も力を入れている方策の一つとして、充実したオープンキャンパスの実施が挙げられる。毎年３月～12 月の期間でオープンキャンパスを紫野キャンパスと二条キャンパスで同時開催し、主なプログラムとして、大学紹介、学科紹介、入試概要説明、教員・在学生との個別相談、ミニ講義体験、実習室見学を含めたキャンパス見学ツアー

を実施している。

【オープンキャンパス来場者数】

入試対象年度 （開催年度）	全体参加者数	参加者数内訳	
		二条キャンパス	看護学科 受験対象者
令和６年度入試対象 （令和５年度開催）	7,171 人	1,544 人	716 人
令和５年度入試対象 （令和４年度開催）	6,738 人	1,365 人	627 人

令和５（2023）年度に開催したオープンキャンパスにおける参加者（受験対象者）数は、延べ 716 人であり、令和４（2022）年度の参加者（受験対象者）627 人と比較して増加している。

また、この他に放課後オープンキャンパスとして、５月から８月の月末金曜日に計４日間開催し、普段の学生の様子を直接感じることができる機会を設ける等の短時間で充実したプログラムを提供しており、令和５（2023）年度は 138 人、令和４（2022）年度は 113 人の参加者を得ており、参加者より通常のオープンキャンパスとは違う開催時期、プログラムに一定の高い評価を得ている。

高校生にとって本学のオープンキャンパスに参加することは、大学の雰囲気や学びの環境を体感でき、深く知るうえで貴重な機会となっており、また、本学教員をはじめオープンキャンパスのスタッフである既設学科の学生の活発で真摯な対応に触れることが安定した受験者数の確保に繋がっている。

２）学外進学相談会（地区相談会）

本学では、全国各地で開催する進学相談会に、入学部の事務職員や入学部以外の事務職員を入試アドバイザーとして派遣し、個別相談を実施している。なお、応対する事務職員間で知識の差が出ないように、毎年度入試アドバイザーとして派遣する前に入学部事務職員による事前研修を開講し、近年の傾向、前年度と比較した入試制度の改正点や高校生に伝えるべき本学のアピールポイント等の情報共有を図ったうえで派遣している。

個別相談では、パンフレットや WEB サイトではわからない入試のポイント、学科の特色、学生生活、奨学金制度、取得可能な免許・資格等について詳しく説明を受けることができる。関西圏以外の受験者にとっては、自身が住む地域で相談できる機会の提供となっている。過去２年間の各種説明会への参加回数ならびに個別相談者数の実績は以下のとおりである。

【進学相談会開催実績】

入試対象年度 （開催年度）	各種説明会への参加回数	個別相談者数
令和６年度入試対象 （令和５年度開催）	76 回	800 人
令和５年度入試対象 （令和４年度開催）	86 回	798 人

※来訪者に対する全体説明等の開催形態の場合の人数は除外している。

３）高等学校訪問

本学では、入学部事務職員が、学生募集における重点エリアと設定する府県（京都府、滋賀県、大阪府、兵庫県、奈良県、石川県、福井県）を中心に、本学に対する出願実績を有する高等学校を訪問し、進路指導担当教員と面会し、意見交換の機会をいただいている。過去２年間の高等学校訪問の実績は以下のとおりである。

【高等学校訪問実績】

入試対象年度（開催年度）	訪問校数	内訳	
		府県	訪問校数
令和６年度入試対象（令和５年度開催）	405 校	京都府	197 校
		滋賀県	83 校
		大阪府	64 校
		奈良県	31 校
		兵庫県	９校
		福井県	10 校
		石川県	６校
		岡山県	３校
		岐阜県	１校
		山口県	１校
令和５年度入試対象（令和４年度開催）	410 校	京都府	198 校
		滋賀県	79 校
		大阪府	72 校
		奈良県	29 校
		兵庫県	９校
		福井県	10 校
		石川県	８校
		岡山県	５校

４）高等学校教員対象進学説明会

本学では、毎年高等学校教員を対象に、京都（本学）会場、大阪会場、滋賀会場にて、前年度入試結果報告及び当年度入試概要説明を中心に、本学の現状や取り組みの紹介等、進学説明会を開催している。過去２年間の高等学校教員対象進学説明会の実績は以下のとおりである。

【高等学校教員対象進学説明会開催実績】

入試対象年度（開催年度）	開催日	出席者数
令和６年度入試対象（令和５年度開催）	６月 19 日（水）・20 日（木）・27 日（火）	52 人
令和５年度入試対象（令和４年度開催）	６月 16 日（木）・21 日（火）・22 日（水）	59 人

また、本学が主催する進学説明会以外にも、京都府看護学校連絡協議会が主催する看護フェアによる高等学校教員への大学案内の機会を積極的に活用し、本学の特色等をプレゼンテーションすることにより、高等学校の進路指導担当教員に対し、本学で学ぶうえでのメリットをアピールすることに努めている。

5）高等学校での出張講義

本学では、高大連携の一環として、また、高校生に大学で学ぶことの意義や面白さ、学問領域の深さや広さを感じとり、進路選択について考える機会を提供することを目的として、各学部学科に配置する高大連携担当教員を中心に本学教員を派遣し、高等学校との様々な連携事業を推進している。その中でも高等学校での出張講義は、実際に本学教員が高等学校に出向き、高校生に大学の授業を体感してもらうことにより、本学の魅力を伝え、志望者を増やす努力を続けている。過去２年間の高等学校での出張講義の実績は以下のとおりである。

【高等学校での出張講義開催実績】

入試対象年度 （開催年度）	大学全体教員派遣件数	内、看護学科教員派遣件数
令和６年度入試対象 （令和５年度開催）	69 件	７件
令和５年度入試対象 （令和４年度開催）	56 件	４件

6）入試対策講座

本学では、受験者向けに外部教育機関の塾講師を招き、出題傾向や効果的な対策方法を解説する等の様々な入試対策講座を提供している。また、遠方在住等の理由で当日対面での受講が難しい受験者のために、後日オンデマンド配信型の講座も提供しており、受験者のニーズを満たし、モチベーション向上につなげられている。過去２年間の入試対策講座の実績は以下のとおりである。

【入試対策講座開催実績】

入試対象年度 （開催年度）	開催日	受講者数
令和６年度入試対象 （令和５年度開催）	10 月８日（日）・15 日（日）	602 人
	12 月 17 日（日）・23 日（土）	308 人
令和５年度入試対象 （令和４年度開催）	10 月８日（土）・９日（日）・15 日（土）	602 人
	12 月 10 日（日）・23 日（金）	255 人

7）資料請求者

本学では、大学の概要、学部学科での学び、学生生活、就職支援、入試情報等を掲載した大学案内を作成し、出願実績を有する高等学校訪問の際に持参し、高校生が学校内で本学の情報を目にできるように努めている。またホームページや進学関連 WEB サイトからの資料請求者に対し、自宅へ送付している。その際、必要に応じてイベント開催情報等のリーフレットを添付し、オープンキャンパスや進学相談系の参加へ誘導できるよ

うに努めている。今後の課題として、オープンキャンパスや資料請求等の一次接触から、志願、入学までの状況を定量的にデータ管理することで、学生募集の最適化に努めていきたい。

【資料請求者件数（月別集計）実績】

	接触者数（延べ数）		接触者数（実数）		発送者数（延べ数）	
	令和５(2023)年度	令和４(2022)年度	令和５(2023)年度	令和４(2022)年度	令和５(2023)年度	令和４(2022)年度
４月	5,129	4,741	4,128	4,017	3,880	10,172
５月	6,097	6,933	5,011	5,862	16,122	18,195
６月	7,491	8,478	6,027	7,055	36,287	39,974
７月	6,764	6,551	5,528	5,318	26,325	11,183
８月	5,763	6,807	4,521	5,352	4,765	5,654
９月	2,992	3,810	1,922	2,270	25,806	23,298
10月	3,732	4,361	2,817	3,233	25,591	3,832
11月	2,651	2,127	2,159	1,662	15,118	15,150
12月	2,546	2,780	1,837	1,960	2,162	2,335
１月	1,730	1,494	1,312	1,020	1,397	1,325
２月	1,191	1,288	889	874	999	1,033
３月	0	0	0	0	2	1
合計	46,086	49,370	36,151	38,623	158,454	132,152

※通常３月請求分は、４月分に加算し、集計している

８）本学ホームページアクセス数

本学では、大学の概要、学部学科での学び、学生生活、就職支援、入試情報等を掲載する大学案内とは別に、より分かりやすく、より速く情報を高校生に届けられるよう、ホームページによる情報発信に努めている。閲覧する端末の内訳よりパソコンとスマートフォン等のモバイル端末との利用数において大差がないことから、より高校生が見やすく感じられるよう、更にモバイル端末用のページの充実化を図っていきたい。

以下に本学ホームページへの直近年度のアクセス数を以下に示す。

○本学トップページ（http://www.bukkyo-u.ac.jp/）

年月	閲覧数	内訳	
		PCでの閲覧数	Mobileでの閲覧数
2023年４月	76,206	41,977	34,229
2023年５月	49,600	30,753	18,847

2023年6月	54,848	35,107	19,741
2023年7月	59,959	36,408	23,551
2023年8月	49,688	22,220	27,468
2023年9月	42,977	22,286	20,691
2023年10月	46,460	26,679	19,781
2023年11月	42,707	24,122	18,585
2023年12月	41,576	23,886	17,690
2024年1月	45,662	26,169	19,493
2024年2月	46,349	24,013	22,336
2024年3月	46,398	21,799	24,599
合計	602,430	335,419	267,011
平均	50,203	27,952	22,251
最大	76,206	41,977	34,229
最小	41,576	21,799	17,690

○本学入試情報サイト（http://www.bukkyo-u.ac.jp/find/）

年月	閲覧数	内訳	
		PCでの閲覧数	Mobileでの閲覧数
2023年4月	7,309	2,696	4,613
2023年5月	6,175	2,798	3,377
2023年6月	7,721	3,481	4,240
2023年7月	10,570	4,784	5,786
2023年8月	9,785	4,177	5,608
2023年9月	13,700	5,172	8,528
2023年10月	15,530	5,895	9,635
2023年11月	22,560	6,953	15,607
2023年12月	15,256	5,029	10,227
2024年1月	20,238	6,464	13,774
2024年2月	19,210	5,529	13,681
2024年3月	10,400	3,481	6,919
合計	158,454	56,459	101,995
平均	13,205	4,705	8,500
最大	22,560	6,953	15,607
最小	6,175	2,696	3,377

9）本学入学部SNSの登録者数

本学では、YouTubeや本学入学部が運用する各種SNSの展開による広報活動にも積極的に取り組んでいる。

本学公式 YouTube チャンネルでは、大学紹介、オープンキャンパスの案内、学生が制作したキャンパス紹介動画、学生による社会連携センター活動報告会、学術講演会・シンポジウムの記録映像等、大学の取り組みやイベントに関する多岐にわたる情報を発信している。これらの動画を通じて、本学の教育・研究活動や学生生活、社会との連携等、様々な側面を視聴できるように努めている。

また、本学公式 SNS アカウントでは、学生の活動、イベント情報、入試関連情報、キャンパスの風景、学生の活躍等、大学に関する様々な情報を幅広く紹介している。本学入学部が運用する SNS アカウントをフォローすることで、本学の最新情報をタイムリーに入手できるように努めている。以下に各種 SNS の登録者数を以下に示す。

【SNS 登録者数（2025 年１月現在)】

SNS	登録者数	情報発信数（年間）	情報発信頻度
Instagram	1,240 人	100	週に２回程度
LINE	14,250 人	80	週に１回程度
X	274 人	100	週に２回程度
合計	15,764 人	280	―

イ　新設組織における取組とその目標

新たに設置する看護学部は、既設組織の学部化を図り、収容定員の増員を踏まえた改組を行うため、既設学部学科と同様の学生募集活動を展開し、更に強化していく。本学では、更に高等学校等教育機関との信頼関係を構築しつつ、高大連携事業の実質化に向けた取り組みを推進することを目的に、令和５（2023）年度に高大連携センターを設置し、高等学校の設置学科、コースや高等学校独自の取り組み、本学の学部学科編成の関連性等、「学びの継続」の観点を踏まえ、高等学校のニーズに合わせた高大連携プログラムの構築を目指している。高校生が自ら選択し、入学する学部学科にミスマッチを生じさせないようにし、大学での学びにスムーズに移行できるよう、高大接続教育、入学準備教育、学部・学科の専門教育等が体系的につながった継続的な連携プログラムを提供していきたいと考えている。そのような趣旨のもと、看護学部における求める人材像、教育内容と特色、卒業後のビジョン等を如何に高校生に的確に伝え、理解されるべく様々な学生募集活動の取り組みを展開し、多様な入学者選抜を実施し、志願者及び入学者の確保につなげていきたい。

それぞれの取組における目標を次のとおりとする。

・オープンキャンパスについては、別紙３のとおり過去２年の実績（R5：159 人、R6：156 人）より、看護学部を志望する受験対象者参加者数の目標を 170 人とする。開催日程については、これまでと同様に年間で７回の開催とするが、ホームページ、YouTube 及び SNS での情報発信を強化する。また、各回のリーフレットを制作し、学外進学相談会での配付や資料請求者に同封にて送付する等、オープンキャンパスの参加へ誘導する。

・学外進学相談会（地区相談会）については、別紙３のとおり過去２年の実績（R5：798 人、R6：800 人）を踏まえ、これまで個人を特定する情報や志望学科等の情報収集は任

意としており、実数把握は困難な状況であるが、入学者数の見込みに関する分析が行えるよう、志望学科等の受験対象者数の把握に努め、看護学部を志望する受験対象者参加者数の目標を 80 人とする。これまでの取組に加え、特に看護・医療系大学の進学相談会への積極的に参加し、個別相談対応者数の増加を目指したい。

・高等学校訪問については、別紙３のとおり過去２年の実績（R5：410 校、R6：405 校）より、過去既設学科への受験実績を有する高等学校への訪問を強化し、同等数である 410 校を目標とする。なお、実際に高校生を対象に校内ガイダンスの機会をいただけるよう努め、オープンキャンパスや進学相談会への参加へ誘導していきたい。

・高校教員対象進学説明会については、別紙３のとおり過去２年の実績（R5：59 人、R6：52 人）より、これまでと同様に年間で３回の開催とするが、開催日時・場所・形態等について検討を重ね、より多くの参加者が得られるよう取り組んでいきたい。

・出張講義については、別紙３のとおり過去２年の実績（R5 看護学科教員派遣：4 件、R6 看護学科教員派遣：7 件）より、10 件を目標とし、校内で本学教員による講義を受講することで、大学での学びの面白さ、学問領域の深さや広さを感じ、本学に対する理解を深め、出願につなげていきたい。

・入試対策講座については、別紙３のとおり過去２年の実績（R5：857 人、R6：910 人）より、参加者総数の目標を 950 人とする。受験予定者のニーズを満たすような講座内容を企画し、ホームページや SNS によるアナウンスの時期や内容を精査したうえで実施していきたい。

・資料請求者数については、別紙３のとおり過去２年の実績（R5：132,152、R6：158,454 人）より、160,000 人からの資料請求を目標とする。これに加え、高等学校での資料設置やオープンキャンパスや進学相談会での配付も強化し、高校生に閲覧してもらう機会を増やしていきたい。

・SNS 等による情報発信については、年間情報発信数 300 を目標とし、様々な側面からの情報発信に努め、本学への理解を深める機会を提供することで、オープンキャンパスや進学相談会への参加へ誘導し、本学への出願につなげていきたい。

また、看護学部の開設については、高校生への理解も重要であるが、学生の臨地実習の受け入れに支援いただいている地域における医療・保健・福祉に携わる保健医療福祉関係者にも理解いただくことも重要であると考えることから、看護学部開設記念行事を計画している。

具体的には、令和８（2026）年４月開設前に、京都府・京都市行政関係者、実習施設の臨地実習指導者・看護部長、卒業生等を招き、講師２名による看護職者のオンボーディング（人材定着）及びキャリア形成関する基調講演を行い、その後、本学での学びや取組等への理解を深める機会として情報意見交換会を行いたい。

ウ　当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数

看護学部における入学者の見込みについて、これまでの既設組織で行ってきた取組は、すべて参加する高校生にとってのニーズを満たしているものと捉えているため、従来の取組の継続ならびに強化をしていきたいと考えている。また、今後も継続するオープンキャンパス

や進学相談会を中心とした取組への参加者数・受験対象者数や、入学者選抜試験における志願者数や競争倍率の実績を丁寧に分析していき、より一層高校生に対して本学の魅力を伝え、高校生にとってのニーズを満たせる取組となるよう改善し強化していきたい。

また、過去２年間に実施してきたオープンキャンパスに参加した受験対象者数は、令和６（2024）年度入学者入試 716 人、令和５（2023）年度入学者入試 627 人であり、来場者数も年々増加傾向にあること、オープンキャンパスに参加した受験対象者数と比較して入学者選抜試験受験者数が、令和６（2024）年度入学者入試は 1,252 人、令和５（2023）年度入学者入試は 1,165 人であったことから、オープンキャンパスだけでなく、他で実施している PR 活動も効果的であることから、高校生へのアピールが十分に行えていると考えている。

以上のことから、今後も各種取組の開催日数を増やし、受験者と教職員・在学生が直接対話する機会を増やす等の充実化を図り、更に参加者数を増員させることで、入学定員 80 人の充足が可能であると考える。

② 競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性

【競合校の選定理由】

本学看護学部では、これまでの既設組織への入学者の出身都道府県等の実績に基づき、より多くの学生確保が見込める地域として、京都府、滋賀県、及び大阪府（特に、茨木市、吹田市、高槻市、豊中市、寝屋川市、枚方市）を中心に、主な学生募集地域と設定している。なお、中長期的な 18 歳人口予測に鑑みても、主な学生募集地域の設定は妥当であると考える。その中で、まず本学と類似する、学位の分野が保健衛生学関係（看護学関係）の学科で、かつ同等程度の入学定員を置く私立大学を競合校として考える。その他の要素として、学力層（偏差値）が考えられるが、本学は、他大学の併願も含め、近しい偏差値を競合校として設定する。

以上の要件から、競合校として考えるのは、以下の７つの大学である。

【競合校として選定する大学】

大学名　学部・学科名	所在地	入学定員	偏差値
佛教大学　看護学部 看護学科	**京都府京都市中京区**	**80**	**47.5～50.0**
同志社女子大学　看護学部 看護学科	京都府京田辺市	90	52.5～55.0
京都橘大学　看護学部 看護学科	京都府京都市山科区	95	52.5
京都先端科学大学　健康医療学部 看護学科	京都府京都市右京区	80	47.5
京都光華女子大学　健康科学部 看護学科	京都府京都市右京区	85	47.5
大和大学　保健医療学部 看護学科	大阪府吹田市	100	50.0
千里金蘭大学　看護学部 看護学科	大阪府吹田市	90	47.5
摂南大学　看護学部 看護学科	大阪府枚方市	100	50.0

※偏差値・・・河合塾が公表する数値に基づき作成

【競合校と比較した際の本学看護学部の優位性】

本学看護学部の優位性について、以下の観点より分析する。

・教育の内容と方法

本学は、1912 年創立の歴史ある大学で、教育・福祉・医療系分野において長年の実績を持つ。看護学部の教育は、仏教の思想を教育の基盤としており、「共生」「他者理解」を重視する仏教的価値観を背景とした教育を提供し、倫理観や患者中心の看護を強く意識したカリキュラムを整えている。特に高齢者ケアや終末期医療において、仏教的視点を活かしたケアの学びができる点は強みであり、看護師としての人間性を養う点においてアドバンテージになると言える。広範な保健医療技術の枠組みの中で、最新の医療技術やシミュレーション教育、臨床実習を組み合わせたカリキュラムを構築している。実際の現場で求められる判断力・技術の習得と、理論に裏打ちされた知識の両輪で学生を育成している。また、看護学部のみならず、他学部（教育・社会福祉・臨床心理・医療分野）との連携が可能であり、看護学と関連分野を広く学べる環境が整っている。看護学に関する知識や技術の習得にとどまらず、患者の心理・社会的側面への理解を深めることができ、特に理学療法学科、作業療法学科の学生との交流において情報交換することは臨地実習でも活かされ、チーム医療の観点でも有益であり、競合校との比較分析の観点において、本学の大きな特長と言える。

看護学科を置く多くの大学は附属の医療機関を持たないが、本学看護学部は地域の医療機関との連携が強く、京都市内の大規模病院や本学卒業生の多くが施設長を務める福祉施設等の臨地実習先との連携を図り、幅広く質の高い臨時実習経験を積める環境を整えている。また、臨地実習のフォロー体制も手厚く、教員との距離が近く、個別指導が受けやすい環境を整えている。このことは、以下に示すとおり、教員１人あたりの学生数から見て、競合校と比較しても本学は少人数制教育の充実が図れていると言える。

【競合校における教員１人あたりの学生数】

大学名　学部・学科名	入学定員	教員数	教員１人あたりの学生数
佛教大学　看護学部 看護学科	**80**	**33**	**2.42**
同志社女子大学　看護学部 看護学科	90	32	2.81
京都橘大学　看護学部 看護学科	95	38	2.50
京都先端科学大学　健康医療学部 看護学科	80	17	4.71
京都光華女子大学　健康科学部 看護学科	85	29	2.93
大和大学　保健医療学部 看護学科	100	15	6.67
千里金蘭大学　看護学部 看護学科	90	37	2.43
摂南大学　看護学部 看護学科	100	38	2.63
			平均　3.39

・入学者選抜（競合校の実施時期、入学手続き時期との関係）

入学者選抜の実施時期については，多くが受験する併願可能な一般選抜を中心に比較する。【資料９】

一般選抜については、多くの大学で２月初旬から３月上旬にかけて実施し、合格発表については、概ね実施後１週間から２週間程度で行っている。

偏差値（河合塾が公表する数値）から見た場合の本学と同等もしくは上位層の大学と選抜試験実施日の日程重複はなく、受験者にとって十分な受験機会を提供できていると考えている。

また、入学金納入期限を含む入学手続き期間については、３月の選抜試験実施の場合は、いずれの大学も翌年度４月に入学者受け入れ準備期間を要するため、あまり期間に猶予を与えることができない状況であるが、３月以外の入学手続き期間については、いずれの大学も競合校と併願する受験者にとって十分な期間を確保していると言える。

本学は、受験から入学手続きまでのスケジュールが明確かつ計画的に設定されている。各種選抜試験における選抜方法の評価基準についても明確であり、入学後の教育との連動性が考慮されているため、学生の適性に即した入学が実現できる。その結果として学習環境への適応や卒業後の実践力向上につながっていることから、受験者にとって安心して進路選択ができる環境を提供していると言える。

・学生納付金、奨学金制度等の就学支援の内容

学生納付金については、これまでの既設組織で設定した入学初年度の年間納付金が、競合校と比較して高い設定であった。競合校 7 校における、初年度の学生納付金（入学金除く総額）の平均は、約 1,575 千円（総額の平均は、約 6,853 千円）となっている。【資料 10】

これに対し、特に入学年次における学費支弁者の負担軽減や 4 年間の年間納付金額の均一化を図る等の検討を行い、以下のとおり学費改定を行う。

	1 年目学費	2 年目学費	3 年目学費	4 年目学費	合計
現行	1,950,000 円	1,790,000 円	1,790,000 円	1,790,000 円	7,320,000 円
改定案	1,850,000 円	1,840,000 円	1,840,000 円	1,840,000 円	7,370,000 円

・1 年目学費内訳
現　行：入学金 200,000 円、授業料 1,350,000 円、教育充実費(設備費)400,000 円
改定案：入学金 250,000 円、授業料 1,350,000 円、教育充実費(設備費)250,000 円
・2 年目以降学費内訳
現　行：授業料 1,390,000 円、教育充実費(設備費)400,000 円
改定案：授業料 1,390,000 円、教育充実費(設備費)450,000 円

具体的な学生納付金の設定にあたっては収支均衡、対外的な競争力、一般的な平均水準等について総合的に勘案した結果として、学生 1 人あたり 4 年間で、総額 7,120 千円（入学金を除く）を学生納付金として設定した。内訳は、初年度の授業料 1,350 千円、

教育充実費 250 千円、2 年目以降の授業料総額 4,170 千円、教育充実費総額 1,350 千円としている。

以上のように、看護学部の学生納付金は、競合校における平均金額よりやや高い設定となっているが、最新の医療技術やシミュレーション教育機器等を用いた教育の実施及び充実した臨地実習を組み込んだカリキュラムを提供するための継続的な教育研究環境の整備に充てている。更に基幹教員 1 人あたりの学生比率が競合校よりも低く、丁寧かつ手厚く行き届いた少人数教育の充実化を図っていると考える。

また、本学は学業成績や家庭の経済状況に応じた多様な奨学金制度を設けており、経済的な負担を軽減する支援体制を整えている。これらの奨学金制度は、学内外への情報提供や相談窓口等の充実により、学生一人ひとりに寄り添った支援を実現している。

具体的には、入学者選抜に関する奨学制度として、一般選抜（B 日程）及び大学入学共通テスト利用選抜（前期）において、当該選抜における総合得点の得点率が 80%以上の合格者で、かつ各学部合格者の上位５%以内にある者に対し、半期学費（授業料・教育充実費）相当額を奨学金として最大４年間支給する「佛教大学入学試験成績優秀者奨学金」を設けている。また、近畿圏外の学生を対象にした「佛教大学入学支援奨学金」は、看護師資格をはじめとして、国内の様々な地域から本学の教育を受ける機会を提供できるようにしている。

入学後は、京都市看護師修学資金融資制度を利用できる貸付制度を設けており、また、京都府看護師等修学資金をはじめ、各府県による看護師等修学資金の情報提供を行い、経済的な理由による修学断念を防ぎながら、看護師不足に悩む地方自治体への橋渡しも行っている。

なお、学費支弁者に係る不慮の事故や失業などには「佛教大学緊急奨学金」として授業料の免除を行い、災害救助法適用地域で被災された方に対しては、「被災者に対する奨学金規程」により被災状況に応じた奨学金支給を準備し、家計急変の場合でも、安心して修学し勉学に励むことができる体制を整えている。

経済事情による奨学金制度申請者に対しては、丁寧な面談を実施し、申請以外の奨学金や減免制度もあわせて紹介する等、きめ細かく、できるだけ多くの学生に奨学金制度による支援を行えるように努めている。

この他に、前年度の修得単位により学部等で上位の学生には、佛教大学奨学金を支給している。

・就職支援の内容

就職支援について、本学では、低学年時からのキャリア形成を意識付けさせるための科目を配置し、少人数教育のなかで個別の相談や指導を行える体制を組んでいる。また、学生の希望する進路に応じて、就職や進学に向けた情報提供、総合的に就職活動を支援する組織として、進路支援部進路就職課を配置している。各学部に全般的な学生支援を担う専任教員の他、専任事務職員、資格を有するキャリア・アドバイザーを配置し、手厚いサポートを行っている。

また、資格取得や試験対策のための各種講座を開講し、社会人としての準備や自身の考えるスキルアップの支援になるよう資格取得を目指す学生に向けた学内講座も開講している。

看護学部では、基本的な看護師国家試験受験資格に加え、専門看護師や認定看護師、各種専門分野の資格取得に向けた講座や実習機会を提供しており、これにより、卒業後の進路選択の幅を広げ、専門性を高めたキャリア形成につながっていると考える。競合校も同様の資格取得に向けた支援を行っているが、本学の場合、それらの教育内容とサポート体制が、直接高い国家試験合格率の保持に結びついている点において、学生の実力形成に大きなメリットがあると考える。

以下に過去５年間の看護学科卒業者・求職者に対する就職率を示す。

【看護学科卒業者・求職者に対する就職率〔令和元（2019）～令和５（2023）年度〕】

	令和元(2019)年度	令和２(2020)年度	令和３(2021)年度	令和４(2022)年度	令和５(2023)年度
卒業者数　【A】	66	59	69	67	61
求職者数　【B】	64	57	61	63	60
求職率（%）　【B/A】	**97.0**	**96.6**	**88.4**	**94.0**	**98.4**
就職者数　【C】	64	57	61	63	60
就職率（%）　【C/B】	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**
就職率（%）　【C/A】	**97.0**	**96.6**	**88.4**	**94.0**	**98.4**

※「卒業者数」-「求職者数」の差は、大学院、専修科・別科（主に助産師課程等）への進学者数

・取得できる資格

看護師国家試験受験資格	看護師課程の所定の単位を修得することにより、資格取得
保健師国家試験受験資格	定員17人（予定）の選抜制 保健師課程の所定の単位を修得することにより、資格取得

以上のとおり、看護学部では、本学学則に基づき、全員が卒業と同時に看護師国家試験受験資格を取得できる。また、保健師国家試験受験資格については、その課程を履修するにあたり、入学者に対し最大 17 人の定員〔令和７（2025）年５月に看護師学校等変更承認申請予定（文部科学省医学教育宛)〕を設け、別に定める内規に従い、選考試験を実施している。選考試験に合格し、本学学則に規定した単位を修得した場合、保健師国家試験受験資格を取得できる。

看護師国家試験受験資格及び保健師国家試験受験資格については、競合校のいずれの大学においても取得できるが、本学の特筆すべき点は国家試験への高い合格率である。国家試験合格を目指すための徹底したカリキュラムと模擬試験、対策講座が組み込まれており、常に高い合格率の保持に寄与している。実勢的な教育内容と理論の充実が、資格取得に直結する強みのある教育と言える。

【競合校における学校別国家試験合格率】

大学名　学部・学科名	国家試験合格率（2024年2月）	
	看護師国家試験	保健師国家試験
佛教大学　看護学部 看護学科	**100.0%**	**100.0%**
同志社女子大学　看護学部 看護学科	97.8%	100.0%
京都橘大学　看護学部 看護学科	97.9%	100.0%
京都先端科学大学　健康医療学部 看護学科	100.0%	100.0%
京都光華女子大学　健康科学部 看護学科	91.3%	100.0%
大和大学　保健医療学部 看護学科	96.7%	100.0%
千里金蘭大学　看護学部 看護学科	93.5%	93.8%
摂南大学　看護学部 看護学科	97.2%	100.0%

【出典】厚生労働省「第113回看護師国家試験」「第110回保健師国家試験」
学校別合格者状況（新卒・既卒の総数）

・その他（京都市内にある利便性）

本学看護学部が所在する二条キャンパスは、京都市中京区のJR二条駅前という通学の利便性が競合校と比較しても格段に高い場所にあり、実習先となる医療機関や福祉施設等へのアクセス面においても大きなメリットがあると言える。

イ　競合校の入学志願者動向等

日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」の「学部系統別の動向（大学）」において、本学が設置を検討している看護学部と同系統である看護系の志願倍率は以下のとおりである。

看護学部	令和２（2020）年度	令和３（2021）年度	令和４（2022）年度	令和５（2023）年度	令和６（2024）年度
入学定員（人）	9,150	9,203	9,723	9,978	10,455
志願者数（人）	54,346	50,733	51,399	48,896	43,923
志願者率（倍）	5.94	5.51	5.29	4.90	4.20

【出典】日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」〔令和２（2020）年度～令和６（2024）年度〕

全国の看護系学部における志願倍率は、令和２（2020）年度から令和６（2024）年度まで4.2倍～5.94倍と安定的に高い水準を保っている。

次に、競合校における過去３年間（令和４（2022）年度から令和６（2024）年度）までの入学志願状況を以下に示す。【資料11】

本学を含む看護学科を設置している競合校における入学定員が705人であるのに対し、令和６（2024）年度の志願者数は8,751人となっており、受験者からの需要は極めて高く、そ

のなかでも本学看護学部の志願倍率は、競合校の７大学中１位もしくは２位の値を保持している。

以上のように、全国の看護系学部において高く保持している志願倍率や、競合校における過去３年間（令和４（2022）年度から令和６（2024）年度）の入学者選抜試験実施状況より、本学既設組織の志願倍率は更に高い水準を保っていることは明確である。また、近年において他大学の志願者数が減少傾向にあるにも関わらず、本学既設組織は増加している状況であることから、今後看護学部の入学定員を 15 人増員した場合でも、志願者数が定員を下回ることは考えにくく、志願する学生にとってのメリットは大きいと考える。

ウ　新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

（３）②イ 競合校の入学志願動向等で言及したように、全国の看護系学部における志願倍率は、令和２（2020）年度から令和６（2024）年度まで 4.2 倍～5.94 倍と安定的に高い水準を保っているが、以下のとおり競合校において入学定員未充足が見られる。【資料 11】

【競合校の入学定員未充足状況】

大学名　学部・学科名	入学定員充足状況	
	対象年度	入学定員充足率
京都先端科学大学　健康医療学部 看護学科	令和６（2024）年度	0.89
千里金蘭大学　看護学部 看護学科	令和６（2024）年度	0.98
摂南大学　看護学部 看護学科	令和４（2022）年度	0.99
	令和６（2024）年度	0.93

しかしながら、３校ともに過去３年間における入学定員充足率の平均値は、1.00 を超えており、適切な定員管理がなされている思料されるため、本学看護学部の学生確保において影響はないと考える。

エ　学生納付金の設定の理由

学生納付金については、大学の経営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を重視しつつ、大学の将来の発展を目的とする施設･設備の充実を考慮するとともに、近隣他大学の類似学部学科における学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度に収支の均衡が計れることを前提に教育研究経費比率や経営経費依存率を見据え、本学部学科の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点にもとづき設定している。

具体的には、本学科の完成年度（令和 11（2029）年度）における通学部門全体の消費支出のうち、人件費、教育研究経費、管理経費の経費合計額に相当する額を令和 11（2029）年度の各学部における学生納付金収入額の金額按分で算出すると、看護学部学生 1 人あたり約 2,356 千円となる。

以上のように、具体的な学生納付金の設定にあたっては収支均衡、対外的な競争力、一般

的な平均水準等について総合的に勘案した結果として、学生１人あたり４年間で、総額 7,120 千円（入学金を除く）を学生納付金として設定した。内訳は、初年度の授業料 1,350 千円、教育充実費 250 千円、2 年目以降の授業料総額 4,170 千円、教育充実費総額 1,350 千円としている。

③ 先行事例分析

大阪青山大学は令和６年度に健康科学部看護学科（入学定員 80 人）を廃止し、令和６（2024）年４月看護学部看護学科（入学定員 90 人）に改組している。

当時の健康科学部の学生１人あたりの学生納付金については、第１学年次は 1,976 千円、第２学年次から第４学年次までは 1,680 千円（保健師課程履修者には、実習費として 60 千円を別途徴収）とし、卒業までに 6,976 千円（保健師課程履修者は 7,036 千円）の納付設定であった。現在の看護学部看護学科の学生納付金は、第１学年次は 1,966 千円、第２学年次から第４学年次までは 1,670 千円とし、卒業までに 6,976 千円（保健師課程履修者は 7,036 千円）の納付設定であり、改組前と比較して 50 千円の減額としている。

看護学部看護学科の令和６（2024）年度の入学者数は 107 人（入学定員充足率 118.9%）、健康科学部看護学科の令和５（2023）年度は 93 人（入学定員充足率 116.3%）となっており、改組前後ともに学生確保ができている。（学生納付金及び入学者数（入学定員充足率）は、大学ホームページに記載の情報に基づく）。

その他に近年多くの大学が「看護学部」として開設（例えば、令和７（2025）年度開設予定であれば、植草学園大学、別府大学、藍野大学、神戸常盤大学が挙げられる）しており、他大学においても、より一層高校生に明確に学びがイメージできる学部名とする動きであると推察する。また、看護学部の収容定員を増員することは、近年京都府をはじめとする看護職の人材不足解消に貢献するべく、社会的要請に対応するものである。

④ 学生確保に関するアンケート調査

看護学部を設置するにあたり、入学定員に係る学生の確保の見通しを定量的データから検証するために、第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）による高校２年生（調査実施時）を対象として、「佛教大学看護学部看護学科（仮称）設置構想についての高校生アンケート調査」を実施した。

以下は、高校生アンケート調査の結果である。

＜高校生アンケート調査＞実施概要

調査内容	本学が 2026 年 4 月に設置構想中の看護学部における学生確保の見通しを検証するために、高校生アンケートを実施した。 アンケート項目は全７問で、全て選択肢式とした。
調査実施時期	2024 年 10 月～2025 年 2 月

調査対象	2025 年度の大学入試を受験する可能性が最も高い**高校 2 年生**（2024 年度時点）をアンケートの対象とした。依頼対象校は以下とした。 ■ 看護学部の基礎となる既設の保健医療技術学部看護学科へ志願実績のある 301 校（近畿圏中心。一部、北陸・中国地方の高校を含む）にアンケート依頼をし、54 校よりアンケート実施の協力を得た。 ■ 2024 年度オープンキャンパス来場者
実施高校	合計 54 校 近畿地方：54 校（滋賀県 7 校、京都府 20 校、大阪府 17 校、兵庫県 2 校、奈良県 4 校、和歌山県 2 校） そ の 他： 2 校（石川県 1 校、福井県 1 校）
実施人数	7,490人
調査実施方法	協力先の高校に高校生アンケート調査用紙、看護学部リーフレットを必要部数送付。ホームルームで配付の上、その場で回答し回収いただいた。
調査項目	■ 回答者基本状況（居住地、性別、高校卒業後の進路、志望する大学等の設置者、興味のある学問分野） ■ 佛教大学看護学部について（受験意向、入学意向）

高校生アンケート調査では、看護学部の特色・学費・アクセスなどをリーフレットで示した上で、実施概要で示したように回答者基本情報と、看護学部への受験・入学意向等について回答を求め、高校生 7,490 人から回答を得た。

本学の看護学部に対し 466 人が受験意向を示しており（「第一志望として受験する」109 人、「第二志望として受験する」87 人、「第三志望以降として受験する」270 人）、予定する入学定員計 80 名の 5.8 倍の水準に及ぶことが明らかとなった。

一方、「大学」進学、進学希望する大学の設置者として「私立」、興味のある学問分野として「看護学」を選択した者は合計 656 人で、その上で看護学部を「第一志望として受験する」としたのは 47 人、「第二志望として受験する」53 人、「第三志望以降として受験する」139 人、以上を合計すると 239 人であった。また、「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は 46 人、それとは別に「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計で 154 人いた。

なお、本アンケートは＜高校生アンケート調査＞実施概要で示したように看護学部の基礎となる既設の保健医療技術学部看護学科へ志願実績のある 301 校に依頼しているが、期日や高校側の都合によりアンケート回答が得られたのは 54 校分（加えてオープンキャンパス分）に留まる。つまり本アンケート調査はあくまで志願実績校一部の結果に留まり、アンケート回答が得られなかった残りの高校でも同等程度の受験・入学希望者がいると推察されることから、全体では依頼 301 校÷実施 54 校＝5.5 倍（小数点第二位以下切り捨て）の受験・入学希望者が見込まれることが推察される。よって、第一～第三志望以降の合計で 239 人の受験希望者がいたことを踏まえると、1,315 人程度（＝239 人×5.5 倍）の受験希望者は確保できると想定され

る。入学希望者についても「第一志望⇒入学する」のみで 253 人（＝46 人×5.5 倍)、「第二志望または第三以降⇒志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は 847 人（＝154 人×5.5 倍)。【資料 12】

また、本学では、入学後の基礎学力調査受検時にアンケート調査を実施しており、その回答集計より既設組織への入学者の傾向として、本学を第一志望とする受験者は年々増加しているものの約 50%程度であり、第二希望が約 30%程度、第三希望以下が約 20%程度となっていることから、今回高校生を対象に実施したアンケート調査項目の数から、その割合を乗じて考えた結果からも、看護学部の入学定員 80 人を十分に満たすと考えられる。

【看護学科入学時アンケート回答集計〔本学志望度〕】

学部・学科名	入学年度	入学者数	本学志望度		
			第一志望	第二志望	第三志望以下
保健医療技術学部 看護学科	令和２(2020) 年度	67 人	22 人	32 人	13 人
			32.8%	47.8%	19.4%
	令和３(2021) 年度	68 人	26 人	30 人	12 人
			38.2%	44.1%	17.6%
	令和４(2022) 年度	65 人	32 人	23 人	10 人
			49.2%	35.4%	15.4%
	令和５(2023) 年度	70 人	38 人	22 人	10 人
			54.3%	31.4%	14.3%
	令和６(2024) 年度	66 人	35 人	20 人	11 人
			53.0%	30.3%	16.7%
平　均			45.5%	37.8%	16.7%

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

看護学部を設置するにあたり、看護学部で養成する人材の需要を定量的データから検証するために、第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）による医療機関、福祉施設、行政等を対象として、「佛教大学看護学部看護学科（仮称）設置構想についての人材需要アンケート調査」を実施した。

以下は、人材需要アンケート調査の結果である。

＜人材需要アンケート調査＞実施概要

調査内容	本学が 2026 年 4 月に設置構想中の看護学部が養成する人材について、人材需要アンケートを実施した。 アンケート項目は全 10 問で、9 問を選択肢式、1 問を記述式とした。
調査実施時期	2024 年 11 月～12 月
調査対象	看護学部の基礎となる既設の保健医療技術学部看護学科の卒業生の採用実績先

（送付先）	または求人票送付元であった医療機関、福祉施設、行政など　計 1,064 箇所に送付
回収件数	221 箇所（回収率 20.8%）
調査実施方法	調査対象先の人事･採用担当者宛に依頼状･人材需要アンケート調査用紙･看護学部リーフレット・返送用封筒を各 1 部送付した（依頼状には WEB 回答用サイトへの URL・QR コードを記載）。ご協力いただける場合は、紙方式・WEB 方式のいずれかのみで回答いただいた。
調査項目	■　回答元基本情報（所在地、業種、従業員・職員規模） ■　佛教大学看護学部について（養成する人材（看護師・保健師）の社会ニーズ、養成する人材（看護師・保健師）の採用意向 及び 採用したい場合の採用可能人数(単年度)、看護学部に期待する点）

人材需要アンケート調査では、看護学部の特色・学費・アクセスなどをリーフレットで示した上で、回答元の基本情報に加え、看護学部が養成する看護師・保健師それぞれの社会ニーズと、養成する看護師・保健師それぞれの採用意向等について回答を求め 221 箇所から回答を得た。所在地としては「大阪府」70 箇所（31.7%）が最も多く、次いで本学所在地の「京都府」48 箇所（21.7%）や「兵庫県」29 箇所（13.1%）、「滋賀県」26 箇所（11.8%）など近畿圏が多数を占めた。業種別では「病院（特定機能病院以外）」128 箇所（57.9%）が最も多く、「病院（特定機能病院）」13 箇所（5.9%）、「診療所・クリニック」9 箇所（4.1%）を含めると、医療機関が全体の 7 割近くであった。次いで「保健所・自治体」30 箇所（13.6%）が多く、「高齢者・介護福祉施設」14 箇所（6.3%）、「訪問看護ステーション」8 箇所（3.6%）など、保健師・看護師が活躍する保健・医療・福祉の現場から回答を得た。従業員・職員規模では「300 名以上 1,000 名未満」74 箇所（33.5%）が最も多く、次いで「100 名以上 300 名未満」62 箇所（28.1%）、「1,000 名以上」51 箇所（23.1%）であった。

本学の看護学部が養成する「看護師」人材について「ニーズは高い」とした回答が 139 箇所（62.9%）、「ニーズはある程度高い」の 53 箇所（24.0%）とあわせるとそのニーズを認めたのは 192 箇所（86.9%）で、全体の 9 割近くを占めた。さらに養成する「看護師」人材の採用意向については「採用したい」としたのは 154 箇所（69.7%）で全体の約 7 割を占め、その上で示された採用可能人数（単年度）は合計して 378 人であった。また、看護学部が養成する「保健師」人材について「ニーズは高い」とした回答が 49 箇所（22.2%）、「ニーズはある程度高い」の 61 箇所（27.6%）とあわせるとそのニーズを認めたのは 110 箇所（49.8%）で、全体の半数を占めた。さらに養成する「保健師」人材の採用意向については「採用したい」としたのは 38 箇所（17.2%）で、その上で示された採用可能人数（単年度）は合計して 50 人であった。

このように本学の看護学部が養成する看護師・保健師に対しては、高い人材需要と採用意向が示される結果となった。【資料 13】

（４）新設組織の定員設定の理由

上述のとおり、現代社会において急激な人口減少が進むとともに、超高齢化が進行し、看護需要の増大が想定され、本学が所在する京都府においても看護職の不足は深刻であるなか、「保健・医療・福祉」領域において、ヒューマンケアの中核的担い手としての質の高い看護師・保健師（以下、看護職）を育成することが急務となっている。また、今後 18 歳人口の減少により看護職養成者数の絶対数減少が見込まれるが、超高齢多死社会において地域医療構想が推進される中で、多様な場面で専門性の高い看護実践ができる人材養成は、わが国においての重要な課題であり、多様な場で自らの強い意志を持って活躍できる看護師・保健師の継続的な養成は必要不可欠である。

そのような現状の社会的課題を解消するために、これまで本学が培ってきた看護職養成の強みを生かすべく看護学部を開設し、より一層質の高い看護職養成の教育環境を整備することにより、養成人数を増員することは、中・長期的に見ても、その必要性は高いと言える。

従って、新たに看護学部としてより学問的な立ち位置を高めた形で看護基礎教育提供の場を再構築すると共に、養成する学生数（入学定員）を増員することは、社会的な意義も大きいと考えることから、看護学部の入学定員は、80 人とする。

これは、（２）④で言及したように、新設組織の看護学部看護学科と関連する既設組織である保健医療技術学部看護学科の直近５年間の入学定員の充足状況をみても、受験者数（平均）1,253 人、競争倍率（平均）4.3 倍であるといった十分な値である。また、（３）④の学生確保に関するアンケート調査結果において、前提となる「大学」進学、かつ「私立」「看護学」を選択する者の合計 656 人の内、本学看護学部を「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は 46 人、それとは別に「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計で 154 人と高い数値が示されており、加えて、本学が入学後に実施するアンケート調査結果に基づくこれまでの既設組織への入学者傾向からみても、看護学部の入学定員数以上の入学意向があることは明らかである。

また、（３）②ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性で言及したように、看護学部では、基幹教員数を教授 10 人、准教授６人、講師７人、助教 10 人の計 33 人体制と更に強化する計画している。それによって基幹教員 1 人あたりの学生数は 2.42 人となり、更に学生一人ひとりに対する少人数制教育の充実が図れ、丁寧かつ手厚く行き届いた教育環境を提供できると判断した。

最後に、本学における収容定員の増員については、昨今の看護職の人材不足という社会的課題を踏まえて、京都府庁やこれまで本学卒業生の就職先として受け入れていただいた医療機関との面談時、ならびに人材需要アンケート調査結果より、本学での看護職養成人数の増員について歓迎する多くの意見をいただいている。具体的には、本学看護学部が養成する人材に対する採用意向人数（単年度）は、看護師が 378 人、保健師が 50 人と非常に高い数値が示された。このように、看護学部における教育活動に対する社会からの期待は大きいことから、設定した入学定員については、問題なく充足できるものと考える。

学生の確保の見通し等を記載した書類　資料目次

（別紙１）　新設組織が置かれる都道府県への入学状況・・・・・・・・・・・p. ２

（別紙２－１）～（別紙２－２６）
既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）・・・・・・・・p. ３

（別紙３）　既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績・・・・・・p. 29

【資料１】　看護職員の需給推計結果（都道府県別）・・・・・・・・・・・・・p. 31

【資料２】　『「2040 年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」に基づくマンパワーのシミュレーション』の「現状投影ベース」等に基づく看護職員の需要推計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 32

【資料３】　第七次看護職員需給見通しに関する検討会報告書・・・・・・・p. 33

【資料４】　学校基本調査に基づく 18 歳人口予測・・・・・・・・・・・・・・p. 36

【資料５】　進学者数・進学率（現役）の推移（近畿地方府県別 2014 年～2023 年）・・・・・・・・・・・・・p. 37

【資料６】　大学進学時の都道府県別流入・流出者数・・・・・・・・・・・・p. 38

【資料７】　佛教大学保健医療技術学部看護学科 入学者出身都道府県内訳集計表・・・・・・・・・・・・・・p. 39

【資料８】　令和６（2024）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向・・・・p. 40

【資料９】　競合校における入学者選抜実施状況・・・・・・・・・・・・・・・p. 45

【資料１０】　競合校における入学初年度年間納付金額及び在学期間納付金総額・・・・・・・・・・・・・・p. 46

【資料１１】　競合校における入学志願状況表・・・・・・・・・・・・・・・・p. 47

【資料１２】　佛教大学看護学部看護学科（仮称）設置構想についての高校生アンケート調査報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 48

【資料１３】　佛教大学看護学部看護学科（仮称）設置構想についての人材需要アンケート調査報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 64

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙１

〇出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位５都道府県）※直近年度

	都道府県名	人　　数	構成比
1	京都府	8,543人	24.4%
2	大阪府	6,653人	19.0%
3	滋賀県	3,139人	9.0%
4	兵庫県	2,589人	7.4%
5	奈良県	1,386人	4.0%
	全　　体	35,019人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

〇新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地（都道府県）	充足率		
		令和４年度	令和５年度	令和６年度
1	京都府	101.30%	101.37%	98.44%
2				

※２校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

〇新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和４年度	令和５年度	令和６年度
1	保健系学部（大学）	99.28%	96.79%	91.04%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１

大学学部学科等名：佛教大学仏教学部仏教学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		6人	8人	8人	9人	10人	8人
	延べ人数	志願者数	9人	5人	9人	5人	6人	7人
		受験者数	9人	5人	9人	5人	6人	7人
		合格者数	9人	5人	9人	5人	6人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	9人	5人	9人	5人	6人	7人
		受験者数	9人	5人	9人	5人	6人	7人
		合格者数	9人	5人	9人	5人	6人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	入学者数		9人	5人	8人	5人	6人	7人
学校推薦型選抜	募集人数		8人	5人	5人	4人	5人	5人
	延べ人数	志願者数	164人	224人	117人	85人	93人	137人
		受験者数	164人	221人	113人	81人	93人	134人
		合格者数	82人	56人	54人	58人	87人	67人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	58人	53人	46人	55人	81人	59人
	実人数	志願者数	91人	64人	42人	23人	27人	49人
		受験者数	91人	64人	42人	22人	27人	49人
		合格者数	53人	30人	28人	18人	26人	31人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	29人	27人	20人	15人	20人	22人
	入学者数		24人	3人	8人	3人	6人	9人
一般選抜	募集人数		20人	18人	19人	18人	17人	18人
	延べ人数	志願者数	317人	126人	128人	72人	87人	146人
		受験者数	313人	115人	119人	64人	86人	139人
		合格者数	116人	104人	89人	37人	68人	83人
		うち追加合格者数	12人	4人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	102人	96人	78人	31人	54人	72人
	実人数	志願者数	162人	58人	52人	31人	42人	69人
		受験者数	158人	53人	50人	27人	41人	66人
		合格者数	70人	53人	44人	20人	39人	45人
		うち追加合格者数	4人	3人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	56人	45人	33人	14人	25人	35人
	入学者数		14人	8人	11人	6人	14人	11人
共通テスト利用入試	募集人数		4人	4人	3人	3人	3人	3人
	延べ人数	志願者数	19人	7人	10人	6人	9人	10人
		受験者数	19人	7人	10人	6人	9人	10人
		合格者数	15人	7人	9人	6人	8人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	13人	7人	7人	4人	8人	8人
	実人数	志願者数	19人	7人	10人	6人	9人	10人
		受験者数	19人	7人	10人	6人	9人	10人
		合格者数	15人	7人	9人	6人	8人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	13人	7人	7人	4人	8人	8人
	入学者数		2人	0人	2人	2人	0人	1人
その他の特別選抜	募集人数		22人	25人	25人	26人	25人	25人
	延べ人数	志願者数	15人	30人	39人	36人	42人	32人
		受験者数	15人	30人	39人	36人	42人	32人
		合格者数	15人	28人	38人	36人	42人	32人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	1人	3人	6人	2人	3人
	実人数	志願者数	15人	30人	39人	36人	42人	32人
		受験者数	15人	30人	39人	36人	42人	32人
		合格者数	15人	28人	38人	36人	42人	32人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	1人	3人	6人	2人	3人
	入学者数		12人	27人	35人	30人	40人	29人
合計	募集人数		60人	60人	60人	60人	60人	60人
	延べ人数	志願者数	524人	392人	303人	204人	237人	332人
		受験者数	520人	378人	290人	192人	236人	323人
		合格者数	237人	200人	199人	142人	211人	198人
		うち追加合格者数	12人	4人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	176人	157人	135人	96人	145人	142人
	実人数	志願者数	296人	164人	152人	101人	126人	168人
		受験者数	292人	159人	150人	96人	125人	164人
		合格者数	162人	123人	128人	85人	121人	124人
		うち追加合格者数	4人	3人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	101人	80人	64人	39人	55人	68人
	入学者数		61人	43人	64人	46人	66人	56人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	60人	60人	60人	60人	60人	60人
入学定員充足率	1.02	0.72	1.07	0.77	1.10	0.93
歩留率	0.26	0.22	0.32	0.32	0.31	0.29

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－２

大学学部学科等名：佛教大学文学部日本文学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	4人	10人	12人	15人	10人
	延べ人数	志願者数		12人	11人	12人	9人	11人
		受験者数		12人	11人	12人	9人	11人
		合格者数		8人	11人	12人	9人	10人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		12人	11人	12人	9人	11人
		受験者数		12人	11人	12人	9人	11人
		合格者数		8人	11人	12人	9人	10人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数			8人	11人	12人	9人	10人
学校推薦型選抜	募集人数		32人	31人	24人	23人	24人	27人
	延べ人数	志願者数	531人	521人	509人	463人	505人	506人
		受験者数	531人	521人	507人	447人	491人	499人
		合格者数	149人	221人	245人	295人	429人	268人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	106人	181人	192人	235人	370人	217人
	実人数	志願者数	208人	179人	153人	137人	122人	160人
		受験者数	208人	179人	153人	132人	120人	158人
		合格者数	85人	88人	98人	112人	110人	99人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	42人	48人	45人	52人	51人	48人
	入学者数		43人	40人	53人	60人	59人	51人
一般選抜	募集人数		54人	47人	44人	42人	41人	46人
	延べ人数	志願者数	830人	558人	512人	309人	352人	512人
		受験者数	815人	545人	494人	299人	336人	498人
		合格者数	232人	252人	236人	157人	197人	215人
		うち追加合格者数	39人	0人	0人	0人	0人	8人
		辞退者数	175人	198人	197人	124人	157人	170人
	実人数	志願者数	350人	240人	221人	135人	137人	217人
		受験者数	343人	230人	215人	129人	132人	210人
		合格者数	131人	127人	121人	80人	94人	111人
		うち追加合格者数	15人	0人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	74人	73人	82人	47人	54人	66人
	入学者数		57人	54人	39人	33人	40人	45人
共通テスト利用入試	募集人数		12人	9人	6人	6人	4人	7人
	延べ人数	志願者数	54人	56人	55人	40人	43人	50人
		受験者数	54人	56人	55人	40人	43人	50人
		合格者数	26人	22人	22人	23人	23人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	26人	21人	22人	21人	21人	22人
	実人数	志願者数	54人	56人	55人	40人	43人	50人
		受験者数	54人	56人	55人	40人	43人	50人
		合格者数	26人	22人	22人	23人	23人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	26人	21人	22人	21人	21人	22人
	入学者数		0人	1人	0人	2人	2人	1人
その他の特別選抜	募集人数		22人	29人	36人	37人	36人	32人
	延べ人数	志願者数	27人	34人	35人	44人	37人	35人
		受験者数	27人	34人	34人	44人	35人	35人
		合格者数	26人	33人	33人	42人	35人	34人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	7人	5人	9人	8人	7人
	実人数	志願者数	27人	34人	35人	44人	37人	35人
		受験者数	27人	34人	34人	44人	35人	35人
		合格者数	26人	33人	33人	42人	35人	34人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	7人	5人	9人	8人	7人
	入学者数		20人	26人	28人	33人	27人	27人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数	1442人	1181人	1122人	868人	946人	1112人
		受験者数	1427人	1168人	1101人	842人	914人	1090人
		合格者数	433人	536人	547人	529人	693人	548人
		うち追加合格者数	39人	0人	0人	0人	0人	8人
		辞退者数	313人	407人	416人	389人	556人	416人
	実人数	志願者数	639人	521人	475人	368人	348人	470人
		受験者数	632人	511人	468人	357人	339人	461人
		合格者数	268人	278人	285人	269人	271人	274人
		うち追加合格者数	15人	0人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	148人	149人	154人	129人	134人	143人
	入学者数		120人	129人	131人	140人	137人	131人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	120人	120人	120人	120人	120人	120人
入学定員充足率	1.00	1.08	1.09	1.17	1.14	1.10
歩留率	0.28	0.24	0.24	0.26	0.20	0.24

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－３

大学学部学科等名：佛教大学文学部中国学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	3人	4人	5人	7人	5人
	延べ人数	志願者数		2人	2人	6人	4人	4人
		受験者数		2人	2人	6人	4人	4人
		合格者数		2人	2人	6人	4人	4人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		2人	2人	6人	4人	4人
		受験者数		2人	2人	6人	4人	4人
		合格者数		2人	2人	6人	4人	4人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数			2人	2人	6人	4人	4人
学校推薦型選抜	募集人数		12人	11人	10人	7人	10人	10人
	延べ人数	志願者数	216人	148人	77人	60人	64人	113人
		受験者数	216人	143人	77人	60人	62人	112人
		合格者数	76人	44人	68人	53人	53人	59人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	53人	35人	55人	47人	51人	48人
	実人数	志願者数	98人	57人	31人	23人	21人	46人
		受験者数	98人	55人	31人	23人	19人	45人
		合格者数	45人	26人	30人	19人	17人	27人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	22人	17人	17人	13人	15人	17人
	入学者数		23人	9人	13人	6人	2人	11人
一般選抜	募集人数		20人	18人	18人	17人	15人	18人
	延べ人数	志願者数	296人	86人	148人	64人	91人	137人
		受験者数	284人	82人	146人	63人	88人	133人
		合格者数	79人	69人	116人	46人	69人	76人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	59人	55人	104人	40人	56人	63人
	実人数	志願者数	144人	37人	64人	32人	39人	63人
		受験者数	137人	35人	63人	32人	38人	61人
		合格者数	48人	31人	57人	24人	32人	38人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	28人	17人	45人	18人	19人	25人
	入学者数		20人	14人	12人	6人	13人	13人
共通テスト利用入試	募集人数		5人	4人	3人	3人	3人	4人
	延べ人数	志願者数	53人	23人	17人	6人	9人	22人
		受験者数	53人	23人	17人	6人	9人	22人
		合格者数	26人	20人	15人	5人	9人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	22人	14人	14人	4人	8人	12人
	実人数	志願者数	53人	23人	17人	6人	9人	22人
		受験者数	53人	23人	17人	6人	9人	22人
		合格者数	26人	20人	15人	5人	9人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	22人	14人	14人	4人	8人	12人
	入学者数		4人	6人	1人	1人	1人	3人
その他の特別選抜	募集人数		13人	14人	15人	18人	15人	15人
	延べ人数	志願者数	17人	26人	22人	21人	13人	20人
		受験者数	17人	26人	22人	21人	13人	20人
		合格者数	17人	26人	21人	21人	13人	20人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	5人	10人	6人	4人	6人
	実人数	志願者数	17人	26人	22人	21人	13人	20人
		受験者数	17人	26人	22人	21人	13人	20人
		合格者数	17人	26人	21人	21人	13人	20人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	5人	10人	6人	4人	6人
	入学者数		14人	21人	11人	15人	9人	14人
合計	募集人数		50人	50人	50人	50人	50人	50人
	延べ人数	志願者数	582人	285人	266人	157人	181人	294人
		受験者数	570人	276人	264人	156人	176人	288人
		合格者数	198人	161人	222人	131人	148人	172人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	137人	109人	183人	97人	119人	129人
	実人数	志願者数	312人	145人	136人	88人	86人	153人
		受験者数	305人	141人	135人	88人	83人	150人
		合格者数	136人	105人	125人	75人	75人	103人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	75人	53人	86人	41人	46人	60人
	入学者数		61人	52人	39人	34人	29人	43人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	50人	50人	50人	50人	50人	50人
入学定員充足率	1.22	1.04	0.78	0.68	0.58	0.86
歩留率	0.31	0.32	0.18	0.26	0.20	0.25

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－４

大学学部学科等名：佛教大学文学部英米学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		3人	5人	5人	6人	10人	6人
	延べ人数	志願者数	7人	3人	2人	0人	1人	3人
		受験者数	7人	3人	2人	0人	1人	3人
		合格者数	5人	3人	2人	0人	1人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	7人	3人	2人	0人	1人	3人
		受験者数	7人	3人	2人	0人	1人	3人
		合格者数	5人	3人	2人	0人	1人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		5人	3人	2人	0人	1人	2人
学校推薦型選抜	募集人数		22人	18人	14人	12人	13人	16人
	延べ人数	志願者数	264人	272人	182人	201人	280人	240人
		受験者数	258人	270人	181人	200人	280人	238人
		合格者数	123人	78人	164人	176人	241人	156人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	87人	73人	141人	157人	204人	132人
	実人数	志願者数	115人	97人	74人	71人	89人	89人
		受験者数	114人	95人	73人	71人	89人	88人
		合格者数	63人	34人	70人	66人	89人	64人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	27人	29人	47人	47人	52人	40人
	入学者数		36人	5人	23人	19人	37人	24人
一般選抜	募集人数		26人	25人	26人	25人	22人	25人
	延べ人数	志願者数	333人	212人	234人	172人	185人	227人
		受験者数	324人	205人	225人	162人	180人	219人
		合格者数	93人	180人	175人	121人	150人	144人
		うち追加合格者数	0人	14人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	75人	147人	142人	102人	117人	117人
	実人数	志願者数	160人	86人	114人	89人	79人	106人
		受験者数	155人	83人	109人	85人	76人	102人
		合格者数	55人	75人	85人	66人	69人	70人
		うち追加合格者数	0人	4人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	37人	42人	52人	47人	36人	43人
	入学者数		18人	33人	33人	19人	33人	27人
共通テスト利用入試	募集人数		6人	5人	4人	4人	3人	4人
	延べ人数	志願者数	37人	35人	27人	18人	20人	27人
		受験者数	37人	35人	27人	18人	20人	27人
		合格者数	30人	34人	23人	18人	18人	25人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	28人	33人	22人	17人	18人	24人
	実人数	志願者数	37人	35人	27人	18人	20人	27人
		受験者数	37人	35人	27人	18人	20人	27人
		合格者数	30人	34人	23人	18人	18人	25人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	28人	33人	22人	17人	18人	24人
	入学者数		2人	1人	1人	1人	0人	1人
その他の特別選抜	募集人数		13人	17人	21人	23人	22人	19人
	延べ人数	志願者数	21人	41人	21人	28人	34人	29人
		受験者数	21人	41人	21人	28人	34人	29人
		合格者数	19人	40人	21人	28人	34人	28人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	17人	6人	9人	14人	10人
	実人数	志願者数	21人	41人	21人	28人	34人	29人
		受験者数	21人	41人	21人	28人	34人	29人
		合格者数	19人	40人	21人	28人	34人	28人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	17人	6人	9人	14人	10人
	入学者数		13人	23人	15人	19人	20人	18人
合計	募集人数		70人	70人	70人	70人	70人	70人
	延べ人数	志願者数	662人	563人	466人	419人	520人	526人
		受験者数	647人	554人	456人	408人	515人	516人
		合格者数	270人	335人	385人	343人	444人	355人
		うち追加合格者数	0人	14人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	196人	270人	311人	285人	353人	283人
	実人数	志願者数	340人	262人	238人	206人	223人	254人
		受験者数	334人	257人	232人	202人	220人	249人
		合格者数	172人	186人	201人	178人	211人	190人
		うち追加合格者数	0人	4人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	98人	121人	127人	120人	120人	117人
	入学者数		74人	65人	74人	58人	91人	72人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	70人	70人	70人	70人	70人	70人
入学定員充足率	1.06	0.93	1.06	0.83	1.30	1.03
歩留率	0.27	0.19	0.19	0.17	0.20	0.21

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－５

大学学部学科等名：佛教大学歴史学部歴史学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	6人	8人	10人	13人	9人
	延べ人数	志願者数		9人	8人	16人	17人	13人
		受験者数		8人	8人	16人	17人	12人
		合格者数		3人	6人	10人	11人	8人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数		9人	8人	16人	17人	13人
		受験者数		8人	8人	16人	17人	12人
		合格者数		3人	6人	10人	11人	8人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数			3人	6人	10人	11人	8人
学校推薦型選抜	募集人数		33人	33人	22人	22人	21人	26人
	延べ人数	志願者数	591人	525人	575人	611人	593人	579人
		受験者数	589人	520人	571人	609人	591人	576人
		合格者数	120人	217人	258人	296人	327人	244人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	89人	177人	199人	247人	272人	197人
	実　人　数	志願者数	213人	188人	181人	186人	164人	186人
		受験者数	212人	186人	181人	186人	163人	186人
		合格者数	63人	92人	106人	116人	113人	98人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	32人	52人	47人	67人	58人	51人
	入学者数		31人	40人	59人	49人	55人	47人
一般選抜	募集人数		52人	42人	42人	40人	37人	43人
	延べ人数	志願者数	924人	677人	747人	443人	481人	654人
		受験者数	903人	661人	715人	430人	471人	636人
		合格者数	230人	328人	232人	173人	172人	227人
		うち追加合格者数	7人	72人	0人	0人	0人	16人
		辞退者数	168人	285人	191人	136人	153人	187人
	実　人　数	志願者数	425人	263人	278人	189人	163人	264人
		受験者数	419人	257人	270人	182人	159人	257人
		合格者数	144人	170人	120人	88人	78人	120人
		うち追加合格者数	4人	31人	0人	0人	0人	7人
		辞退者数	82人	127人	79人	51人	59人	80人
	入学者数		62人	43人	41人	37人	19人	40人
共通テスト利用入試	募集人数		8人	7人	5人	5人	5人	6人
	延べ人数	志願者数	65人	55人	57人	54人	39人	54人
		受験者数	65人	55人	57人	54人	39人	54人
		合格者数	27人	24人	29人	21人	16人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	25人	22人	25人	20人	16人	22人
	実　人　数	志願者数	65人	55人	57人	54人	39人	54人
		受験者数	65人	55人	57人	54人	39人	54人
		合格者数	27人	24人	29人	21人	16人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	25人	22人	25人	20人	16人	22人
	入学者数		2人	2人	4人	1人	0人	2人
その他の特別選抜	募集人数		17人	22人	33人	33人	34人	28人
	延べ人数	志願者数	25人	26人	36人	40人	42人	34人
		受験者数	24人	26人	35人	40人	42人	33人
		合格者数	21人	25人	33人	37人	40人	31人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	5人	13人	8人	7人	8人
	実　人　数	志願者数	25人	26人	36人	40人	42人	34人
		受験者数	24人	26人	35人	40人	42人	33人
		合格者数	21人	25人	33人	37人	40人	31人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	5人	13人	8人	7人	8人
	入学者数		15人	20人	20人	29人	33人	23人
合計	募集人数		110人	110人	110人	110人	110人	110人
	延べ人数	志願者数	1605人	1292人	1423人	1164人	1172人	1331人
		受験者数	1581人	1270人	1386人	1149人	1160人	1309人
		合格者数	398人	597人	558人	537人	566人	531人
		うち追加合格者数	7人	72人	0人	0人	0人	16人
		辞退者数	288人	489人	428人	411人	448人	413人
	実　人　数	志願者数	728人	541人	560人	485人	425人	548人
		受験者数	720人	532人	551人	478人	420人	540人
		合格者数	255人	314人	294人	272人	258人	279人
		うち追加合格者数	4人	31人	0人	0人	0人	7人
		辞退者数	145人	206人	164人	146人	140人	160人
	入学者数		110人	108人	130人	126人	118人	118人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入　学　定　員	110人	110人	110人	110人	110人	110人
入学定員充足率	1.00	0.98	1.18	1.15	1.07	1.08
歩　留　率	0.28	0.18	0.23	0.23	0.21	0.23

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－６

大学学部学科等名：佛教大学歴史学部歴史文化学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	4人	6人	7人	10人	7人
	延べ人数	志願者数		5人	7人	11人	20人	11人
		受験者数		5人	7人	11人	20人	11人
		合格者数		5人	7人	11人	14人	9人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		5人	7人	11人	20人	11人
		受験者数		5人	7人	11人	20人	11人
		合格者数		5人	7人	11人	14人	9人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数			5人	7人	11人	14人	9人
学校推薦型選抜	募集人数		21人	21人	14人	14人	13人	17人
	延べ人数	志願者数	275人	253人	288人	238人	346人	280人
		受験者数	275人	253人	286人	238人	346人	280人
		合格者数	81人	108人	152人	178人	148人	133人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	53人	97人	121人	146人	116人	107人
	実人数	志願者数	112人	102人	93人	72人	89人	94人
		受験者数	112人	102人	93人	72人	89人	94人
		合格者数	47人	52人	63人	62人	59人	57人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	19人	41人	32人	30人	27人	30人
	入学者数		28人	11人	31人	32人	32人	27人
一般選抜	募集人数		32人	26人	25人	24人	21人	26人
	延べ人数	志願者数	529人	416人	534人	169人	316人	393人
		受験者数	510人	399人	507人	162人	305人	377人
		合格者数	191人	257人	143人	92人	94人	155人
		うち追加合格者数	19人	0人	0人	0人	0人	4人
		辞退者数	159人	214人	125人	80人	80人	132人
	実人数	志願者数	259人	157人	185人	77人	100人	156人
		受験者数	251人	152人	181人	73人	96人	151人
		合格者数	108人	109人	75人	50人	39人	76人
		うち追加合格者数	7人	0人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	76人	66人	57人	38人	25人	52人
	入学者数		32人	43人	18人	12人	14人	24人
共通テスト利用入試	募集人数		6人	5人	4人	4人	4人	5人
	延べ人数	志願者数	43人	33人	45人	26人	37人	37人
		受験者数	43人	33人	45人	26人	37人	37人
		合格者数	20人	26人	21人	17人	20人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	19人	25人	21人	17人	19人	20人
	実人数	志願者数	43人	33人	45人	26人	37人	37人
		受験者数	43人	33人	45人	26人	37人	37人
		合格者数	20人	26人	21人	17人	20人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	19人	25人	21人	17人	19人	20人
	入学者数		1人	1人	0人	0人	1人	1人
その他の特別選抜	募集人数		11人	14人	21人	21人	22人	18人
	延べ人数	志願者数	16人	19人	24人	20人	26人	21人
		受験者数	16人	18人	24人	20人	26人	21人
		合格者数	14人	16人	22人	18人	26人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	0人	3人	3人	5人	3人
	実人数	志願者数	16人	19人	24人	20人	26人	21人
		受験者数	16人	18人	24人	20人	26人	21人
		合格者数	14人	16人	22人	18人	26人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	0人	3人	3人	5人	3人
	入学者数		11人	16人	19人	15人	21人	16人
合計	募集人数		70人	70人	70人	70人	70人	70人
	延べ人数	志願者数	863人	726人	898人	464人	745人	739人
		受験者数	844人	708人	869人	457人	734人	722人
		合格者数	306人	412人	345人	316人	302人	336人
		うち追加合格者数	19人	0人	0人	0人	0人	4人
		辞退者数	234人	336人	270人	246人	220人	261人
	実人数	志願者数	430人	316人	354人	206人	272人	316人
		受験者数	422人	310人	350人	202人	268人	310人
		合格者数	189人	208人	188人	158人	158人	180人
		うち追加合格者数	7人	0人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	117人	132人	113人	88人	76人	105人
	入学者数		72人	76人	75人	70人	82人	75人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	70人	70人	70人	70人	70人	70人
入学定員充足率	1.03	1.09	1.07	1.00	1.17	1.07
歩留率	0.24	0.18	0.22	0.22	0.27	0.23

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－７

大学学部学科等名：佛教大学教育学部教育学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		3人	5人	10人	12人	15人	9人
	延べ人数	志願者数	7人	8人	11人	17人	16人	12人
		受験者数	7人	8人	11人	17人	16人	12人
		合格者数	4人	8人	11人	14人	13人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	7人	8人	11人	17人	16人	12人
		受験者数	7人	8人	11人	17人	16人	12人
		合格者数	4人	8人	11人	14人	13人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		4人	8人	11人	14人	13人	10人
学校推薦型選抜	募集人数		38人	33人	26人	25人	25人	29人
	延べ人数	志願者数	1015人	1121人	1292人	1125人	1226人	1156人
		受験者数	1003人	1104人	1270人	1109人	1224人	1142人
		合格者数	102人	161人	170人	198人	294人	185人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	76人	123人	141人	157人	253人	150人
	実人数	志願者数	370人	347人	367人	314人	292人	338人
		受験者数	367人	343人	362人	311人	292人	335人
		合格者数	61人	80人	78人	92人	102人	83人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	35人	42人	49人	51人	61人	48人
	入学者数		26人	38人	29人	41人	41人	35人
一般選抜	募集人数		54人	50人	49人	47人	44人	49人
	延べ人数	志願者数	1689人	1467人	1418人	1152人	1005人	1346人
		受験者数	1658人	1439人	1382人	1140人	990人	1322人
		合格者数	261人	304人	248人	266人	200人	256人
		うち追加合格者数	5人	0人	20人	85人	0人	22人
		辞退者数	205人	247人	202人	224人	165人	209人
	実人数	志願者数	633人	514人	503人	416人	340人	481人
		受験者数	623人	507人	494人	412人	334人	474人
		合格者数	151人	160人	146人	150人	106人	143人
		うち追加合格者数	4人	0人	15人	37人	0人	11人
		辞退者数	95人	103人	100人	108人	71人	95人
	入学者数		56人	57人	46人	42人	35人	47人
共通テスト利用入試	募集人数		14人	10人	6人	6人	6人	8人
	延べ人数	志願者数	92人	92人	79人	87人	82人	86人
		受験者数	92人	92人	79人	87人	82人	86人
		合格者数	38人	32人	33人	39人	41人	37人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	37人	30人	33人	38人	38人	35人
	実人数	志願者数	92人	92人	79人	87人	82人	86人
		受験者数	92人	92人	79人	87人	82人	86人
		合格者数	38人	32人	33人	39人	41人	37人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	37人	30人	33人	38人	38人	35人
	入学者数		1人	2人	0人	1人	3人	1人
その他の特別選抜	募集人数		21人	32人	39人	40人	40人	34人
	延べ人数	志願者数	71人	69人	66人	61人	70人	67人
		受験者数	70人	69人	66人	58人	70人	67人
		合格者数	60人	67人	60人	58人	68人	63人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	14人	22人	15人	22人	17人	18人
	実人数	志願者数	71人	69人	66人	61人	70人	67人
		受験者数	70人	69人	66人	58人	70人	67人
		合格者数	60人	67人	60人	58人	68人	63人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	14人	22人	15人	22人	17人	18人
	入学者数		46人	45人	45人	36人	51人	45人
合計	募集人数		130人	130人	130人	130人	130人	130人
	延べ人数	志願者数	2874人	2757人	2866人	2442人	2399人	2668人
		受験者数	2830人	2712人	2808人	2411人	2382人	2629人
		合格者数	465人	572人	522人	575人	616人	550人
		うち追加合格者数	5人	0人	20人	85人	0人	22人
		辞退者数	332人	422人	391人	441人	473人	412人
	実人数	志願者数	1173人	1030人	1026人	895人	800人	985人
		受験者数	1159人	1019人	1012人	885人	794人	974人
		合格者数	314人	347人	328人	353人	330人	334人
		うち追加合格者数	4人	0人	15人	37人	0人	11人
		辞退者数	181人	197人	197人	219人	187人	196人
	入学者数		133人	150人	131人	134人	143人	138人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	130人	130人	130人	130人	130人	130人
入学定員充足率	1.02	1.15	1.01	1.03	1.10	1.06
歩留率	0.29	0.26	0.25	0.23	0.23	0.25

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－８

大学学部学科等名：佛教大学教育学部幼児教育学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数				0人	7人	10人	9人
	延べ人数	志願者数				17人	14人	16人
		受験者数				17人	14人	16人
		合格者数				7人	9人	8人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				0人	0人	0人
	実人数	志願者数				17人	14人	16人
		受験者数				17人	14人	16人
		合格者数				7人	9人	8人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				0人	0人	0人
	入学者数					7人	9人	8人
学校推薦型選抜	募集人数				40人	14人	15人	23人
	延べ人数	志願者数			613人	589人	464人	555人
		受験者数			611人	589人	452人	551人
		合格者数			203人	94人	56人	118人
		うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人
		辞退者数			139人	68人	49人	85人
	実人数	志願者数			178人	139人	95人	137人
		受験者数			177人	139人	92人	136人
		合格者数			93人	39人	25人	52人
		うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人
		辞退者数			29人	13人	18人	20人
	入学者数				64人	26人	7人	32人
一般選抜	募集人数				40人	29人	26人	32人
	延べ人数	志願者数			403人	345人	227人	325人
		受験者数			395人	340人	226人	320人
		合格者数			122人	37人	116人	92人
		うち追加合格者数			0人	0人	20人	7人
		辞退者数			85人	31人	96人	71人
	実人数	志願者数			136人	108人	83人	109人
		受験者数			133人	106人	83人	107人
		合格者数			63人	20人	53人	45人
		うち追加合格者数			0人	0人	11人	4人
		辞退者数			26人	14人	33人	24人
	入学者数				37人	6人	20人	21人
共通テスト利用入試	募集人数				0人	4人	4人	4人
	延べ人数	志願者数				20人	16人	18人
		受験者数				20人	16人	18人
		合格者数				8人	6人	7人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				8人	5人	7人
	実人数	志願者数				20人	16人	18人
		受験者数				20人	16人	18人
		合格者数				8人	6人	7人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				8人	5人	7人
	入学者数					0人	1人	1人
その他の特別選抜	募集人数				0人	26人	25人	26人
	延べ人数	志願者数				47人	54人	51人
		受験者数				47人	54人	51人
		合格者数				46人	53人	50人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				2人	6人	4人
	実人数	志願者数				47人	54人	51人
		受験者数				47人	54人	51人
		合格者数				46人	53人	50人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				2人	6人	4人
	入学者数					44人	47人	46人
合計	募集人数		0人	0人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	1016人	1018人	775人	936人
		受験者数	0人	0人	1006人	1013人	762人	927人
		合格者数	0人	0人	325人	192人	240人	252人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	20人	7人
		辞退者数	0人	0人	224人	109人	156人	163人
	実人数	志願者数	0人	0人	314人	331人	262人	302人
		受験者数	0人	0人	310人	329人	259人	299人
		合格者数	0人	0人	156人	120人	146人	141人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	11人	4人
		辞退者数	0人	0人	55人	37人	62人	51人
	入学者数		0人	0人	101人	83人	84人	89人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員			80人	80人	80人	80人
入学定員充足率			1.26	1.04	1.05	1.12
歩留率			0.31	0.43	0.35	0.36

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
幼児教育学科は令和4年度開設。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－９

大学学部学科等名：佛教大学教育学部臨床心理学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	2人	4人	5人	10人	5人
	延べ人数	志願者数		2人	6人	9人	11人	7人
		受験者数		2人	6人	8人	11人	7人
		合格者数		2人	6人	8人	10人	7人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		2人	6人	9人	11人	7人
		受験者数		2人	6人	8人	11人	7人
		合格者数		2人	6人	8人	10人	7人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数			2人	6人	8人	10人	7人
学校推薦型選抜	募集人数		16人	16人	16人	15人	16人	16人
	延べ人数	志願者数	278人	279人	390人	442人	392人	356人
		受験者数	276人	276人	389人	438人	388人	353人
		合格者数	47人	99人	159人	158人	159人	124人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	35人	74人	124人	118人	125人	95人
	実人数	志願者数	113人	90人	105人	115人	92人	103人
		受験者数	112人	90人	105人	113人	91人	102人
		合格者数	26人	40人	61人	67人	53人	49人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	14人	15人	26人	27人	19人	20人
	入学者数		12人	25人	35人	40人	34人	29人
一般選抜	募集人数		27人	23人	32人	31人	26人	28人
	延べ人数	志願者数	546人	355人	386人	282人	248人	363人
		受験者数	528人	344人	350人	276人	242人	348人
		合格者数	117人	81人	131人	77人	67人	95人
		うち追加合格者数	8人	0人	0人	0人	0人	2人
		辞退者数	85人	63人	100人	63人	55人	73人
	実人数	志願者数	229人	144人	151人	128人	98人	150人
		受験者数	222人	139人	143人	124人	95人	145人
		合格者数	73人	50人	70人	39人	34人	53人
		うち追加合格者数	5人	0人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	41人	32人	39人	25人	22人	32人
	入学者数		32人	18人	31人	14人	12人	21人
共通テスト利用入試	募集人数		6人	5人	4人	4人	4人	5人
	延べ人数	志願者数	35人	44人	31人	32人	28人	34人
		受験者数	35人	44人	31人	32人	28人	34人
		合格者数	22人	17人	15人	19人	18人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	21人	17人	14人	17人	15人	17人
	実人数	志願者数	35人	44人	31人	32人	28人	34人
		受験者数	35人	44人	31人	32人	28人	34人
		合格者数	22人	17人	15人	19人	18人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	21人	17人	14人	17人	15人	17人
	入学者数		1人	0人	1人	2人	3人	1人
その他の特別選抜	募集人数		11人	14人	24人	25人	24人	20人
	延べ人数	志願者数	28人	22人	22人	33人	37人	28人
		受験者数	27人	22人	22人	32人	36人	28人
		合格者数	22人	22人	21人	31人	32人	26人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	1人	3人	4人	4人	4人
	実人数	志願者数	28人	22人	22人	33人	37人	28人
		受験者数	27人	22人	22人	32人	36人	28人
		合格者数	22人	22人	21人	31人	32人	26人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	1人	3人	4人	4人	4人
	入学者数		16人	21人	18人	27人	28人	22人
合計	募集人数		60人	60人	80人	80人	80人	72人
	延べ人数	志願者数	887人	702人	835人	798人	716人	788人
		受験者数	866人	688人	798人	786人	705人	769人
		合格者数	208人	221人	332人	293人	286人	268人
		うち追加合格者数	8人	0人	0人	0人	0人	2人
		辞退者数	147人	155人	241人	202人	199人	189人
	実人数	志願者数	405人	302人	315人	317人	266人	321人
		受験者数	396人	297人	307人	309人	261人	314人
		合格者数	143人	131人	173人	164人	147人	152人
		うち追加合格者数	5人	0人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	82人	65人	82人	73人	60人	72人
	入学者数		61人	66人	91人	91人	87人	79人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	60人	60人	80人	80人	80人	72人
入学定員充足率	1.02	1.10	1.14	1.14	1.09	1.10
歩留率	0.29	0.30	0.27	0.31	0.30	0.30

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１０

大学学部学科等名：佛教大学社会学部現代社会学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	6人	10人	14人	20人	13人
	延べ人数	志願者数		9人	12人	15人	19人	14人
		受験者数		9人	12人	15人	19人	14人
		合格者数		8人	12人	13人	17人	13人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		9人	12人	15人	19人	14人
		受験者数		9人	12人	15人	19人	14人
		合格者数		8人	12人	13人	17人	13人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数			8人	12人	13人	17人	13人
学校推薦型選抜	募集人数		66人	61人	40人	39人	42人	50人
	延べ人数	志願者数	1268人	744人	1027人	691人	1253人	997人
		受験者数	1265人	735人	1024人	688人	1245人	991人
		合格者数	213人	276人	315人	471人	346人	324人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	157人	222人	266人	378人	280人	261人
	実人数	志願者数	538人	303人	360人	238人	360人	360人
		受験者数	537人	299人	358人	236人	359人	358人
		合格者数	132人	148人	149人	183人	156人	154人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	76人	94人	100人	90人	90人	90人
	入学者数		56人	54人	49人	93人	66人	64人
一般選抜	募集人数		90人	84人	80人	76人	72人	80人
	延べ人数	志願者数	1565人	1064人	1120人	577人	856人	1036人
		受験者数	1526人	1021人	1084人	548人	837人	1003人
		合格者数	429人	508人	305人	264人	178人	337人
		うち追加合格者数	20人	80人	0人	0人	0人	20人
		辞退者数	336人	436人	238人	210人	141人	272人
	実人数	志願者数	732人	441人	475人	289人	329人	453人
		受験者数	712人	425人	458人	273人	321人	438人
		合格者数	262人	253人	184人	158人	110人	193人
		うち追加合格者数	16人	35人	0人	0人	0人	10人
		辞退者数	169人	181人	117人	104人	73人	129人
	入学者数		93人	72人	67人	54人	37人	65人
共通テスト利用入試	募集人数		10人	10人	10人	10人	8人	10人
	延べ人数	志願者数	85人	70人	76人	41人	53人	65人
		受験者数	85人	70人	76人	41人	53人	65人
		合格者数	39人	41人	43人	27人	28人	36人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	38人	39人	38人	25人	26人	33人
	実人数	志願者数	85人	70人	76人	41人	53人	65人
		受験者数	85人	70人	76人	41人	53人	65人
		合格者数	39人	41人	43人	27人	28人	36人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	38人	39人	38人	25人	26人	33人
	入学者数		1人	2人	5人	2人	2人	2人
その他の特別選抜	募集人数		34人	39人	60人	61人	58人	50人
	延べ人数	志願者数	75人	80人	102人	89人	112人	92人
		受験者数	74人	77人	102人	89人	111人	91人
		合格者数	54人	74人	94人	86人	103人	82人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	9人	23人	11人	22人	14人
	実人数	志願者数	75人	80人	102人	89人	112人	92人
		受験者数	74人	77人	102人	89人	111人	91人
		合格者数	54人	74人	94人	86人	103人	82人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	9人	23人	11人	22人	14人
	入学者数		49人	65人	71人	75人	81人	68人
合計	募集人数		200人	200人	200人	200人	200人	200人
	延べ人数	志願者数	2993人	1967人	2337人	1413人	2293人	2201人
		受験者数	2950人	1912人	2298人	1381人	2265人	2161人
		合格者数	735人	907人	769人	861人	672人	789人
		うち追加合格者数	20人	80人	0人	0人	0人	20人
		辞退者数	536人	706人	565人	624人	469人	580人
	実人数	志願者数	1430人	903人	1025人	672人	873人	981人
		受験者数	1408人	880人	1006人	654人	863人	962人
		合格者数	487人	524人	482人	467人	414人	475人
		うち追加合格者数	16人	35人	0人	0人	0人	10人
		辞退者数	288人	323人	278人	230人	211人	266人
	入学者数		199人	201人	204人	237人	203人	209人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	200人	200人	200人	200人	200人	200人
入学定員充足率	1.00	1.01	1.02	1.19	1.02	1.04
歩留率	0.27	0.22	0.27	0.28	0.30	0.27

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１１

大学学部学科等名：佛教大学社会学部公共政策学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		3人	4人	8人	10人	15人	8人
	延べ人数	志願者数	6人	6人	11人	16人	17人	11人
		受験者数	6人	6人	11人	16人	17人	11人
		合格者数	3人	6人	11人	14人	17人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	6人	6人	11人	16人	17人	11人
		受験者数	6人	6人	11人	16人	17人	11人
		合格者数	3人	6人	11人	14人	17人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		3人	6人	11人	14人	17人	10人
学校推薦型選抜	募集人数		36人	34人	24人	22人	23人	28人
	延べ人数	志願者数	551人	271人	411人	374人	462人	414人
		受験者数	547人	271人	410人	373人	461人	412人
		合格者数	83人	100人	176人	232人	121人	142人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	60人	71人	145人	195人	106人	115人
	実人数	志願者数	254人	124人	161人	127人	138人	161人
		受験者数	253人	124人	160人	126人	138人	160人
		合格者数	57人	65人	87人	96人	54人	72人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	34人	36人	56人	59人	39人	45人
	入学者数		23人	29人	31人	37人	15人	27人
一般選抜	募集人数		48人	48人	46人	44人	41人	45人
	延べ人数	志願者数	1075人	678人	715人	358人	521人	669人
		受験者数	1034人	645人	688人	340人	507人	643人
		合格者数	274人	311人	186人	188人	177人	227人
		うち追加合格者数	6人	18人	0人	0人	0人	5人
		辞退者数	221人	266人	150人	151人	153人	188人
	実人数	志願者数	508人	274人	288人	171人	191人	286人
		受験者数	490人	255人	279人	164人	188人	275人
		合格者数	178人	148人	118人	93人	82人	124人
		うち追加合格者数	3人	11人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	125人	103人	82人	56人	58人	85人
	入学者数		53人	45人	36人	37人	24人	39人
共通テスト利用入試	募集人数		9人	8人	6人	6人	4人	7人
	延べ人数	志願者数	83人	51人	59人	21人	27人	48人
		受験者数	83人	51人	59人	21人	27人	48人
		合格者数	38人	37人	33人	16人	16人	28人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	36人	37人	31人	15人	16人	27人
	実人数	志願者数	83人	51人	59人	21人	27人	48人
		受験者数	83人	51人	59人	21人	27人	48人
		合格者数	38人	37人	33人	16人	16人	28人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	36人	37人	31人	15人	16人	27人
	入学者数		2人	0人	2人	1人	0人	1人
その他の特別選抜	募集人数		24人	26人	36人	38人	37人	32人
	延べ人数	志願者数	50人	57人	58人	54人	73人	58人
		受験者数	49人	57人	57人	54人	73人	58人
		合格者数	44人	53人	54人	54人	73人	56人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	10人	6人	10人	14人	9人
	実人数	志願者数	50人	57人	58人	54人	73人	58人
		受験者数	49人	57人	57人	54人	73人	58人
		合格者数	44人	53人	54人	54人	73人	56人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	10人	6人	10人	14人	9人
	入学者数		40人	43人	48人	44人	59人	47人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数	1765人	1063人	1254人	823人	1100人	1201人
		受験者数	1719人	1030人	1225人	804人	1085人	1173人
		合格者数	442人	507人	460人	504人	404人	463人
		うち追加合格者数	6人	18人	0人	0人	0人	5人
		辞退者数	321人	384人	332人	371人	289人	339人
	実人数	志願者数	901人	512人	577人	389人	446人	565人
		受験者数	881人	493人	566人	381人	443人	553人
		合格者数	320人	309人	303人	273人	242人	289人
		うち追加合格者数	3人	11人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	199人	186人	175人	140人	127人	165人
	入学者数		121人	123人	128人	133人	115人	124人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	120人	120人	120人	120人	120人	120人
入学定員充足率	1.01	1.03	1.07	1.11	0.96	1.03
歩留率	0.27	0.24	0.28	0.26	0.28	0.27

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１２

大学学部学科等名：佛教大学社会福祉学部社会福祉学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	5人	10人	14人	20人	12人
	延べ人数	志願者数		9人	16人	27人	30人	21人
		受験者数		9人	16人	26人	30人	20人
		合格者数		9人	16人	26人	30人	20人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		9人	16人	27人	30人	21人
		受験者数		9人	16人	26人	30人	20人
		合格者数		9人	16人	26人	30人	20人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数			9人	16人	26人	30人	20人
学校推薦型選抜	募集人数		80人	77人	44人	43人	45人	58人
	延べ人数	志願者数	690人	701人	966人	636人	527人	704人
		受験者数	687人	697人	964人	632人	521人	700人
		合格者数	248人	390人	389人	402人	461人	378人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	168人	306人	307人	347人	390人	304人
	実人数	志願者数	293人	240人	309人	191人	160人	239人
		受験者数	291人	238人	308人	190人	158人	237人
		合格者数	143人	158人	167人	140人	141人	150人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	63人	74人	85人	85人	70人	75人
	入学者数		80人	84人	82人	55人	71人	74人
一般選抜	募集人数		123人	117人	89人	85人	81人	99人
	延べ人数	志願者数	1415人	821人	990人	403人	560人	838人
		受験者数	1372人	798人	970人	397人	545人	816人
		合格者数	493人	643人	390人	303人	234人	413人
		うち追加合格者数	45人	33人	23人	8人	0人	22人
		辞退者数	397人	556人	341人	242人	196人	346人
	実人数	志願者数	602人	322人	384人	163人	218人	338人
		受験者数	590人	314人	378人	160人	215人	331人
		合格者数	280人	266人	203人	131人	107人	197人
		うち追加合格者数	26人	11人	13人	4人	0人	11人
		辞退者数	184人	179人	154人	70人	69人	131人
	入学者数		96人	87人	49人	61人	38人	66人
共通テスト利用入試	募集人数		12人	13人	11人	11人	9人	11人
	延べ人数	志願者数	61人	47人	95人	29人	37人	54人
		受験者数	61人	47人	95人	29人	37人	54人
		合格者数	33人	37人	49人	25人	26人	34人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	30人	35人	46人	23人	24人	32人
	実人数	志願者数	61人	47人	95人	29人	37人	54人
		受験者数	61人	47人	95人	29人	37人	54人
		合格者数	33人	37人	49人	25人	26人	34人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	30人	35人	46人	23人	24人	32人
	入学者数		3人	2人	3人	2人	2人	2人
その他の特別選抜	募集人数		55人	58人	66人	67人	65人	62人
	延べ人数	志願者数	104人	109人	91人	103人	105人	102人
		受験者数	102人	106人	90人	103人	104人	101人
		合格者数	99人	101人	87人	102人	103人	98人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	11人	13人	11人	12人	11人
	実人数	志願者数	104人	109人	91人	103人	105人	102人
		受験者数	102人	106人	90人	103人	104人	101人
		合格者数	99人	101人	87人	102人	103人	98人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	11人	13人	11人	12人	11人
	入学者数		91人	90人	74人	91人	91人	87人
合計	募集人数		270人	270人	220人	220人	220人	240人
	延べ人数	志願者数	2270人	1687人	2158人	1198人	1259人	1714人
		受験者数	2222人	1657人	2135人	1187人	1237人	1688人
		合格者数	873人	1180人	931人	858人	854人	939人
		うち追加合格者数	45人	33人	23人	8人	0人	22人
		辞退者数	603人	908人	707人	623人	622人	693人
	実人数	志願者数	1060人	727人	895人	513人	550人	749人
		受験者数	1044人	714人	887人	508人	544人	739人
		合格者数	555人	571人	522人	424人	407人	496人
		うち追加合格者数	26人	11人	13人	4人	0人	11人
		辞退者数	285人	299人	298人	189人	175人	249人
	入学者数		270人	272人	224人	235人	232人	247人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	270人	270人	220人	220人	220人	240人
入学定員充足率	1.00	1.01	1.02	1.07	1.05	1.03
歩留率	0.31	0.23	0.24	0.27	0.27	0.27

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１３

大学学部学科等名：佛教大学保健医療技術学部理学療法学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	1人	2人	3人	3人	2人
	延べ人数	志願者数		5人	1人	10人	13人	7人
		受験者数		5人	1人	10人	13人	7人
		合格者数		1人	1人	7人	6人	4人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		5人	1人	10人	13人	7人
		受験者数		5人	1人	10人	13人	7人
		合格者数		1人	1人	7人	6人	4人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数			1人	1人	7人	6人	4人
学校推薦型選抜	募集人数		12人	12人	10人	10人	10人	11人
	延べ人数	志願者数	437人	314人	337人	392人	375人	371人
		受験者数	437人	310人	337人	388人	375人	369人
		合格者数	48人	38人	48人	35人	41人	42人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	28人	24人	34人	29人	33人	30人
	実人数	志願者数	123人	92人	91人	94人	70人	94人
		受験者数	123人	92人	91人	91人	70人	93人
		合格者数	25人	23人	26人	14人	13人	20人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	9人	12人	8人	5人	8人
	入学者数		20人	14人	14人	6人	8人	12人
一般選抜	募集人数		18人	16人	15人	14人	14人	15人
	延べ人数	志願者数	454人	272人	158人	238人	226人	270人
		受験者数	448人	269人	152人	233人	222人	265人
		合格者数	49人	28人	44人	39人	26人	37人
		うち追加合格者数	0人	0人	13人	13人	0人	5人
		辞退者数	32人	17人	29人	27人	17人	24人
	実人数	志願者数	143人	90人	78人	97人	67人	95人
		受験者数	141人	88人	74人	93人	65人	92人
		合格者数	26人	18人	28人	25人	17人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	6人	8人	0人	3人
		辞退者数	9人	7人	13人	13人	8人	10人
	入学者数		17人	11人	15人	12人	9人	13人
共通テスト利用入試	募集人数		3人	3人	3人	3人	3人	3人
	延べ人数	志願者数	9人	16人	14人	16人	6人	12人
		受験者数	9人	16人	14人	16人	6人	12人
		合格者数	2人	7人	8人	5人	3人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	7人	8人	5人	3人	5人
	実人数	志願者数	9人	16人	14人	16人	6人	12人
		受験者数	9人	16人	14人	16人	6人	12人
		合格者数	2人	7人	8人	5人	3人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	7人	8人	5人	3人	5人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数		7人	8人	10人	10人	10人	9人
	延べ人数	志願者数	11人	20人	15人	27人	28人	20人
		受験者数	11人	20人	15人	26人	28人	20人
		合格者数	9人	19人	13人	23人	26人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	5人	1人	6人	3人	4人
	実人数	志願者数	11人	20人	15人	27人	28人	20人
		受験者数	11人	20人	15人	26人	28人	20人
		合格者数	9人	19人	13人	23人	26人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	5人	1人	6人	3人	4人
	入学者数		6人	14人	12人	17人	23人	14人
合計	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	911人	627人	525人	683人	648人	679人
		受験者数	905人	620人	519人	673人	644人	672人
		合格者数	108人	93人	114人	109人	102人	105人
		うち追加合格者数	0人	0人	13人	13人	0人	5人
		辞退者数	65人	53人	72人	67人	56人	63人
	実人数	志願者数	286人	223人	199人	244人	184人	227人
		受験者数	284人	221人	195人	236人	182人	224人
		合格者数	62人	68人	76人	74人	65人	69人
		うち追加合格者数	0人	0人	6人	8人	0人	3人
		辞退者数	19人	28人	34人	32人	19人	26人
	入学者数		43人	40人	42人	42人	46人	43人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	1.08	1.00	1.05	1.05	1.15	1.07
歩留率	0.40	0.43	0.37	0.39	0.45	0.41

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１４

大学学部学科等名：佛教大学保健医療技術学部作業療法学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		3人	3人	5人	5人	6人	4人
	延べ人数	志願者数	9人	8人	6人	6人	9人	8人
		受験者数	9人	7人	6人	5人	9人	7人
		合格者数	4人	5人	6人	4人	9人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	9人	8人	6人	6人	9人	8人
		受験者数	9人	7人	6人	5人	9人	7人
		合格者数	4人	5人	6人	4人	9人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		4人	5人	6人	4人	9人	6人
学校推薦型選抜	募集人数		15人	12人	8人	8人	5人	10人
	延べ人数	志願者数	201人	184人	120人	92人	151人	150人
		受験者数	201人	184人	120人	92人	149人	149人
		合格者数	45人	45人	39人	34人	69人	46人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	30人	38人	32人	24人	54人	36人
	実人数	志願者数	55人	45人	29人	25人	38人	38人
		受験者数	55人	45人	29人	25人	37人	38人
		合格者数	22人	17人	15人	15人	22人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	10人	8人	5人	7人	7人
	入学者数		15人	7人	7人	10人	15人	11人
一般選抜	募集人数		13人	14人	12人	12人	11人	12人
	延べ人数	志願者数	182人	164人	64人	137人	90人	127人
		受験者数	181人	158人	54人	132人	90人	123人
		合格者数	54人	57人	40人	26人	24人	40人
		うち追加合格者数	15人	0人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	42人	45人	29人	22人	21人	32人
	実人数	志願者数	74人	53人	32人	63人	33人	51人
		受験者数	73人	50人	29人	60人	33人	49人
		合格者数	31人	24人	25人	21人	15人	23人
		うち追加合格者数	8人	0人	0人	0人	0人	2人
		辞退者数	19人	12人	14人	17人	12人	15人
	入学者数		12人	12人	11人	4人	3人	8人
共通テスト利用入試	募集人数		4人	3人	3人	3人	3人	3人
	延べ人数	志願者数	14人	10人	7人	17人	2人	10人
		受験者数	14人	10人	6人	17人	2人	10人
		合格者数	5人	4人	5人	12人	1人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	4人	4人	10人	1人	5人
	実人数	志願者数	14人	10人	7人	17人	2人	10人
		受験者数	14人	10人	6人	17人	2人	10人
		合格者数	5人	4人	5人	12人	1人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	4人	4人	10人	1人	5人
	入学者数		0人	0人	1人	2人	0人	1人
その他の特別選抜	募集人数		5人	8人	12人	12人	15人	10人
	延べ人数	志願者数	18人	25人	22人	26人	19人	22人
		受験者数	18人	25人	22人	26人	18人	22人
		合格者数	14人	24人	21人	26人	18人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	4人	4人	4人	2人	3人
	実人数	志願者数	18人	25人	22人	26人	19人	22人
		受験者数	18人	25人	22人	26人	18人	22人
		合格者数	14人	24人	21人	26人	18人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	4人	4人	4人	2人	3人
	入学者数		12人	20人	17人	22人	16人	17人
合計	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	424人	391人	219人	278人	271人	317人
		受験者数	423人	384人	208人	272人	268人	311人
		合格者数	122人	135人	111人	102人	121人	118人
		うち追加合格者数	15人	0人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	79人	91人	69人	60人	78人	75人
	実人数	志願者数	170人	141人	96人	137人	101人	129人
		受験者数	169人	137人	92人	133人	99人	126人
		合格者数	76人	74人	72人	78人	65人	73人
		うち追加合格者数	8人	0人	0人	0人	0人	2人
		辞退者数	33人	30人	30人	36人	22人	30人
	入学者数		43人	44人	42人	42人	43人	43人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	1.08	1.10	1.05	1.05	1.08	1.07
歩留率	0.35	0.33	0.38	0.41	0.36	0.36

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１５

大学学部学科等名：佛教大学保健医療技術学部看護学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	2人	4人	5人	7人	5人
	延べ人数	志願者数		6人	8人	11人	14人	10人
		受験者数		6人	7人	11人	14人	10人
		合格者数		4人	6人	5人	6人	5人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		6人	8人	11人	14人	10人
		受験者数		6人	7人	11人	14人	10人
		合格者数		4人	6人	5人	6人	5人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数			4人	6人	5人	6人	5人
学校推薦型選抜	募集人数		21人	21人	13人	12人	13人	16人
	延べ人数	志願者数	631人	544人	776人	696人	720人	673人
		受験者数	625人	538人	764人	687人	718人	666人
		合格者数	89人	109人	117人	154人	148人	123人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	64人	96人	97人	134人	134人	105人
	実人数	志願者数	192人	162人	192人	159人	145人	170人
		受験者数	190人	162人	191人	157人	145人	169人
		合格者数	49人	45人	53人	50人	46人	49人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	24人	32人	33人	30人	32人	30人
	入学者数		25人	13人	20人	20人	14人	18人
一般選抜	募集人数		30人	27人	25人	24人	22人	26人
	延べ人数	志願者数	703人	550人	550人	404人	454人	532人
		受験者数	687人	541人	537人	398人	449人	522人
		合格者数	130人	199人	99人	124人	104人	131人
		うち追加合格者数	8人	0人	14人	14人	28人	13人
		辞退者数	100人	163人	83人	104人	92人	108人
	実人数	志願者数	231人	181人	204人	128人	155人	180人
		受験者数	226人	178人	198人	125人	153人	176人
		合格者数	74人	89人	57人	59人	46人	65人
		うち追加合格者数	3人	0人	10人	10人	7人	6人
		辞退者数	44人	53人	41人	39人	34人	42人
	入学者数		30人	36人	16人	20人	12人	23人
共通テスト利用入試	募集人数		5人	4人	4人	4人	4人	4人
	延べ人数	志願者数	21人	27人	29人	21人	19人	23人
		受験者数	21人	27人	29人	21人	19人	23人
		合格者数	10人	15人	15人	13人	11人	13人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	10人	15人	15人	12人	11人	13人
	実人数	志願者数	21人	27人	29人	21人	19人	23人
		受験者数	21人	27人	29人	21人	19人	23人
		合格者数	10人	15人	15人	13人	11人	13人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	10人	15人	15人	12人	11人	13人
	入学者数		0人	0人	0人	1人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数		9人	11人	19人	20人	19人	16人
	延べ人数	志願者数	20人	31人	37人	33人	45人	33人
		受験者数	20人	31人	37人	33人	45人	33人
		合格者数	17人	29人	30人	32人	43人	30人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	14人	7人	8人	9人	9人
	実人数	志願者数	20人	31人	37人	33人	45人	33人
		受験者数	20人	31人	37人	33人	45人	33人
		合格者数	17人	29人	30人	32人	43人	30人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	14人	7人	8人	9人	9人
	入学者数		12人	15人	23人	24人	34人	22人
合計	募集人数		65人	65人	65人	65人	65人	65人
	延べ人数	志願者数	1375人	1158人	1400人	1165人	1252人	1270人
		受験者数	1353人	1143人	1374人	1150人	1245人	1253人
		合格者数	246人	356人	267人	328人	312人	302人
		うち追加合格者数	8人	0人	14人	14人	28人	13人
		辞退者数	179人	288人	202人	258人	246人	235人
	実人数	志願者数	464人	407人	470人	352人	378人	414人
		受験者数	457人	404人	462人	347人	376人	409人
		合格者数	150人	182人	161人	159人	152人	161人
		うち追加合格者数	3人	0人	10人	10人	7人	6人
		辞退者数	83人	114人	96人	89人	86人	94人
	入学者数		67人	68人	65人	70人	66人	67人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	65人	65人	65人	65人	65人	65人
入学定員充足率	1.03	1.05	1.00	1.08	1.02	1.03
歩留率	0.27	0.19	0.24	0.21	0.21	0.23

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
・一般選抜（Ａ日程）と一般選抜（Ｂ日程）は重複算出。
・学科併願は重複算出。
・辞退者数は延べ人数・実人数とも、「入学者数―合計者数」で算出。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１６

大学学部学科等名：佛教大学仏教学部仏教学科（通信教育課程）

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
学校推薦型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
一般選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
共通テスト利用入試	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
その他の特別選抜	募集人数		300人	300人	100人	100人	100人	180人
	延べ人数	志願者数	15人	19人	23人	23人	16人	19人
		受験者数	15人	19人	23人	23人	16人	19人
		合格者数	15人	19人	23人	23人	16人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	15人	19人	23人	23人	16人	19人
		受験者数	15人	19人	23人	23人	16人	19人
		合格者数	15人	19人	23人	23人	16人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		15人	19人	23人	23人	16人	19人
合計	募集人数		300人	300人	100人	100人	100人	180人
	延べ人数	志願者数	15人	19人	23人	23人	16人	19人
		受験者数	15人	19人	23人	23人	16人	19人
		合格者数	15人	19人	23人	23人	16人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	15人	19人	23人	23人	16人	19人
		受験者数	15人	19人	23人	23人	16人	19人
		合格者数	15人	19人	23人	23人	16人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		15人	19人	23人	23人	16人	19人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入　学　定　員	300人	300人	100人	100人	100人	180人
入学定員充足率	0.05	0.06	0.23	0.23	0.16	0.15
歩　留　率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１７

大学学部学科等名：佛教大学文学部日本文学科（通信教育課程）

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
学校推薦型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
一般選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
共通テスト利用入試	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
その他の特別選抜	募集人数		300人	300人	100人	100人	100人	180人
	延べ人数	志願者数	20人	25人	42人	20人	34人	28人
		受験者数	20人	25人	42人	20人	34人	28人
		合格者数	20人	25人	42人	20人	34人	28人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	20人	25人	42人	20人	34人	28人
		受験者数	20人	25人	42人	20人	34人	28人
		合格者数	20人	25人	42人	20人	34人	28人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		20人	25人	42人	20人	34人	28人
合計	募集人数		300人	300人	100人	100人	100人	180人
	延べ人数	志願者数	20人	25人	42人	20人	34人	28人
		受験者数	20人	25人	42人	20人	34人	28人
		合格者数	20人	25人	42人	20人	34人	28人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	20人	25人	42人	20人	34人	28人
		受験者数	20人	25人	42人	20人	34人	28人
		合格者数	20人	25人	42人	20人	34人	28人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		20人	25人	42人	20人	34人	28人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入　学　定　員	300人	300人	100人	100人	100人	180人
入学定員充足率	0.07	0.08	0.42	0.20	0.34	0.22
歩　留　率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１８

大学学部学科等名：佛教大学文学部中国学科（通信教育課程）

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
学校推薦型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
一般選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
共通テスト利用入試	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
その他の特別選抜	募集人数		150人	150人	50人	50人	50人	90人
	延べ人数	志願者数	2人	5人	9人	14人	6人	7人
		受験者数	2人	5人	9人	14人	6人	7人
		合格者数	2人	5人	9人	14人	6人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	2人	5人	9人	14人	6人	7人
		受験者数	2人	5人	9人	14人	6人	7人
		合格者数	2人	5人	9人	14人	6人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	5人	9人	14人	6人	7人
合計	募集人数		150人	150人	50人	50人	50人	90人
	延べ人数	志願者数	2人	5人	9人	14人	6人	7人
		受験者数	2人	5人	9人	14人	6人	7人
		合格者数	2人	5人	9人	14人	6人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	2人	5人	9人	14人	6人	7人
		受験者数	2人	5人	9人	14人	6人	7人
		合格者数	2人	5人	9人	14人	6人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	5人	9人	14人	6人	7人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	150人	150人	50人	50人	50人	90人
入学定員充足率	0.01	0.03	0.18	0.28	0.12	0.13
歩留率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１９

大学学部学科等名：佛教大学文学部英米学科（通信教育課程）

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
学校推薦型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
一般選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
共通テスト利用入試	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
その他の特別選抜	募集人数		300人	300人	100人	100人	100人	180人
	延べ人数	志願者数	26人	34人	34人	31人	28人	31人
		受験者数	26人	34人	34人	31人	28人	31人
		合格者数	26人	34人	34人	31人	28人	31人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	26人	34人	34人	31人	28人	31人
		受験者数	26人	34人	34人	31人	28人	31人
		合格者数	26人	34人	34人	31人	28人	31人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		26人	34人	34人	31人	28人	31人
合計	募集人数		300人	300人	100人	100人	100人	180人
	延べ人数	志願者数	26人	34人	34人	31人	28人	31人
		受験者数	26人	34人	34人	31人	28人	31人
		合格者数	26人	34人	34人	31人	28人	31人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	26人	34人	34人	31人	28人	31人
		受験者数	26人	34人	34人	31人	28人	31人
		合格者数	26人	34人	34人	31人	28人	31人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		26人	34人	34人	31人	28人	31人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入　学　定　員	300人	300人	100人	100人	100人	180人
入学定員充足率	0.09	0.11	0.34	0.31	0.28	0.23
歩　留　率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－２０

大学学部学科等名：佛教大学歴史学部歴史学科（通信教育課程）

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
学校推薦型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
一般選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
共通テスト利用入試	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
その他の特別選抜	募集人数		150人	150人	100人	100人	100人	120人
	延べ人数	志願者数	33人	31人	34人	40人	46人	37人
		受験者数	33人	31人	34人	40人	46人	37人
		合格者数	33人	31人	34人	40人	46人	37人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	33人	31人	34人	40人	46人	37人
		受験者数	33人	31人	34人	40人	46人	37人
		合格者数	33人	31人	34人	40人	46人	37人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		33人	31人	34人	40人	46人	37人
合計	募集人数		150人	150人	100人	100人	100人	120人
	延べ人数	志願者数	33人	31人	34人	40人	46人	37人
		受験者数	33人	31人	34人	40人	46人	37人
		合格者数	33人	31人	34人	40人	46人	37人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	33人	31人	34人	40人	46人	37人
		受験者数	33人	31人	34人	40人	46人	37人
		合格者数	33人	31人	34人	40人	46人	37人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		33人	31人	34人	40人	46人	37人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入　学　定　員	150人	150人	100人	100人	100人	120人
入学定員充足率	0.22	0.21	0.34	0.40	0.46	0.33
歩　留　率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－２１

大学学部学科等名：佛教大学歴史学部歴史文化学科（通信教育課程）

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
学校推薦型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
一般選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
共通テスト利用入試	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
その他の特別選抜	募集人数		300人	300人	100人	100人	100人	180人
	延べ人数	志願者数	17人	14人	25人	29人	33人	24人
		受験者数	17人	14人	25人	29人	33人	24人
		合格者数	17人	14人	25人	29人	33人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	17人	14人	25人	29人	33人	24人
		受験者数	17人	14人	25人	29人	33人	24人
		合格者数	17人	14人	25人	29人	33人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		17人	14人	25人	29人	33人	24人
合計	募集人数		300人	300人	100人	100人	100人	180人
	延べ人数	志願者数	17人	14人	25人	29人	33人	24人
		受験者数	17人	14人	25人	29人	33人	24人
		合格者数	17人	14人	25人	29人	33人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	17人	14人	25人	29人	33人	24人
		受験者数	17人	14人	25人	29人	33人	24人
		合格者数	17人	14人	25人	29人	33人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		17人	14人	25人	29人	33人	24人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入　学　定　員	300人	300人	100人	100人	100人	180人
入学定員充足率	0.06	0.05	0.25	0.29	0.33	0.19
歩　留　率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－２２

大学学部学科等名：佛教大学教育学部教育学科（通信教育課程）

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
学校推薦型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
一般選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
共通テスト利用入試	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
その他の特別選抜	募集人数		1000人	1000人	400人	400人	400人	640人
	延べ人数	志願者数	76人	80人	75人	57人	66人	71人
		受験者数	76人	80人	75人	57人	66人	71人
		合格者数	76人	80人	75人	57人	66人	71人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	76人	80人	75人	57人	66人	71人
		受験者数	76人	80人	75人	57人	66人	71人
		合格者数	76人	80人	75人	57人	66人	71人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		76人	80人	75人	57人	66人	71人
合計	募集人数		1000人	1000人	400人	400人	400人	640人
	延べ人数	志願者数	76人	80人	75人	57人	66人	71人
		受験者数	76人	80人	75人	57人	66人	71人
		合格者数	76人	80人	75人	57人	66人	71人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	76人	80人	75人	57人	66人	71人
		受験者数	76人	80人	75人	57人	66人	71人
		合格者数	76人	80人	75人	57人	66人	71人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		76人	80人	75人	57人	66人	71人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入　学　定　員	1000人	1000人	400人	400人	400人	640人
入学定員充足率	0.08	0.08	0.19	0.14	0.17	0.13
歩　留　率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－２３

大学学部学科等名：佛教大学教育学部幼児教育学科（通信教育課程）

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
学校推薦型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
一般選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
共通テスト利用入試	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
その他の特別選抜	募集人数				50人	50人	50人	50人
	延べ人数	志願者数			11人	17人	7人	12人
		受験者数			11人	17人	7人	12人
		合格者数			11人	17人	7人	12人
		うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人
		辞退者数			0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数			11人	17人	7人	12人
		受験者数			11人	17人	7人	12人
		合格者数			11人	17人	7人	12人
		うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人
		辞退者数			0人	0人	0人	0人
	入学者数				11人	17人	7人	12人
合計	募集人数		0人	0人	50人	50人	50人	50人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	11人	17人	7人	12人
		受験者数	0人	0人	11人	17人	7人	12人
		合格者数	0人	0人	11人	17人	7人	12人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	11人	17人	7人	12人
		受験者数	0人	0人	11人	17人	7人	12人
		合格者数	0人	0人	11人	17人	7人	12人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	11人	17人	7人	12人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員			50人	50人	50人	50人
入学定員充足率			0.22	0.34	0.14	0.23
歩留率			1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
幼児教育学科は令和4年度開設。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－２４

大学学部学科等名：佛教大学社会学部現代社会学科（通信教育課程）

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
学校推薦型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
一般選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
共通テスト利用入試	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
その他の特別選抜	募集人数		500人	500人	300人	300人	300人	380人
	延べ人数	志願者数	17人	20人	25人	23人	20人	21人
		受験者数	17人	20人	25人	23人	20人	21人
		合格者数	17人	20人	25人	23人	20人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	17人	20人	25人	23人	20人	21人
		受験者数	17人	20人	25人	23人	20人	21人
		合格者数	17人	20人	25人	23人	20人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		17人	20人	25人	23人	20人	21人
合計	募集人数		500人	500人	300人	300人	300人	380人
	延べ人数	志願者数	17人	20人	25人	23人	20人	21人
		受験者数	17人	20人	25人	23人	20人	21人
		合格者数	17人	20人	25人	23人	20人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	17人	20人	25人	23人	20人	21人
		受験者数	17人	20人	25人	23人	20人	21人
		合格者数	17人	20人	25人	23人	20人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		17人	20人	25人	23人	20人	21人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	500人	500人	300人	300人	300人	380人
入学定員充足率	0.03	0.04	0.08	0.08	0.07	0.06
歩留率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－２５

大学学部学科等名：佛教大学社会学部公共政策学科（通信教育課程）

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
学校推薦型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
一般選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
共通テスト利用入試	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
その他の特別選抜	募集人数		500人	500人	100人	100人	100人	260人
	延べ人数	志願者数	6人	5人	6人	4人	3人	5人
		受験者数	6人	5人	6人	4人	3人	5人
		合格者数	6人	5人	6人	4人	3人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	6人	5人	6人	4人	3人	5人
		受験者数	6人	5人	6人	4人	3人	5人
		合格者数	6人	5人	6人	4人	3人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		6人	5人	6人	4人	3人	5人
合計	募集人数		500人	500人	100人	100人	100人	260人
	延べ人数	志願者数	6人	5人	6人	4人	3人	5人
		受験者数	6人	5人	6人	4人	3人	5人
		合格者数	6人	5人	6人	4人	3人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	6人	5人	6人	4人	3人	5人
		受験者数	6人	5人	6人	4人	3人	5人
		合格者数	6人	5人	6人	4人	3人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		6人	5人	6人	4人	3人	5人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	500人	500人	100人	100人	100人	260人
入学定員充足率	0.01	0.01	0.06	0.04	0.03	0.03
歩留率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－２６

大学学部学科等名：佛教大学社会福祉学部社会福祉学科（通信教育課程）

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
学校推薦型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
一般選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
共通テスト利用入試	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実　人　数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	入学者数							
その他の特別選抜	募集人数		1200人	1200人	200人	200人	200人	600人
	延べ人数	志願者数	42人	57人	58人	46人	32人	47人
		受験者数	42人	57人	58人	46人	32人	47人
		合格者数	42人	57人	58人	46人	32人	47人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	42人	57人	58人	46人	32人	47人
		受験者数	42人	57人	58人	46人	32人	47人
		合格者数	42人	57人	58人	46人	32人	47人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		42人	57人	58人	46人	32人	47人
合計	募集人数		1200人	1200人	200人	200人	200人	600人
	延べ人数	志願者数	42人	57人	58人	46人	32人	47人
		受験者数	42人	57人	58人	46人	32人	47人
		合格者数	42人	57人	58人	46人	32人	47人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	42人	57人	58人	46人	32人	47人
		受験者数	42人	57人	58人	46人	32人	47人
		合格者数	42人	57人	58人	46人	32人	47人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		42人	57人	58人	46人	32人	47人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入　学　定　員	1200人	1200人	200人	200人	200人	600人
入学定員充足率	0.04	0.05	0.29	0.23	0.16	0.15
歩　留　率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙３

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：佛教大学二条キャンパスオープンキャンパス

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	1365人	1544人	①取組概要 希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設組織の特色や養成する人材像の紹介、入試概要説明、ミニ講義体験、実習室見学、教員・在学生との個別相談、キャンパス見学ツアーを実施。 R5年度入試対象（R4開催）：計６回開催（3/20，6/5，7/17，8/6，8/7，10/9） R6年度入試対象（R5開催）：計７回開催（3/21，6/4，7/16，8/5，8/6，10/8，12/17） ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 オープンキャンパス参加者（受験対象者）のうち、約20%～30%が受験し、7%～8%が入学する傾向がある。すなわち、既設組織における過去5年間の志願倍率の平均値が19.5倍と高い数値を保持していることから、他で実施しているPR活動も効果的であり、増員分の志願者数及び入学者数も十分に期待できる。
うち受験対象者数(b)	627人	716人	
うち受験者数(c)	159人	156人	
うち入学者数(d)	47人	56人	
（受験率 c/b）	25.4%	21.8%	
（入学率 d/b）	7.5%	7.8%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：学外進学相談会（地区相談会）

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	798人	800人	①取組概要 全国各地で開催される進学相談会で個別相談を実施し、本学の魅力、学べる分野等の説明を行い、本学への理解を深め、出願につなげる。 R5年度入試対象（R4開催）：計86回開催 R6年度入試対象（R5開催）：計76回開催 ※一部開催形態が来訪者に対する全体説明等の理由により本学受験対象者の算出できない場合は、参加者総数より除いている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 個別相談希望者に対する個人を特定する情報や志望学科等の情報の収集は任意としており、受験対象者数等の実数把握はできていない。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：高等学校訪問

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要 学生募集における重点エリアを中心に、本学に対する出願実績を有する高等学校を訪問し、進路指導担当教員と面会し、入試制度の説明をはじめ、本学の現状や取り組み等を紹介し、進路指導に活かしていただき、結果的に本学への出願につなげる。 R5年度入試対象（R4開催）：410校 R6年度入試対象（R5開催）：405校 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 入学者選抜試験に係る説明に加えて、本学の現状や取り組み等を高校の先生方に理解いただき、直接進路指導にあたられる高等学校の先生を介して、本学への出願につながることが期待できる。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：高校教員対象進学説明会

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	59人	52人	①取組概要 高等学校の教員を対象とし、京都（本学）会場、大阪会場、滋賀会場にて、前年度入学者選抜試験結果報告および当年度入学者選抜試験概要説明を中心に、本学の現状や取り組み等の紹介など、進学説明会を実施。 R5年度入試対象（R4開催）：計3回開催（6/16，6/21，6/22） R6年度入試対象（R5開催）：計3回開催（6/19，6/20，6/27） ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 入学者選抜試験に係る説明に加えて、本学の現状や取り組み等を高校の先生方に理解いただき、高等学校の先生を介して、本学への出願につながることが期待できる。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：出張講義

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要 高大連携の一環として、また、高校生に大学で学ぶことの意義や面白さ、学問領域の深さや広さを感じとり、進路選択について考える機会を提供することを目的として、本学教員による「出張講義」等を実施。 R5年度入試対象（R4開催）：56件（内、看護学科教員派遣は4件） R6年度入試対象（R5開催）：69件（内、看護学科教員派遣は7件） ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 本学教員による講義を受講することで、大学で学ぶことの面白さ、学問領域の深さや広さを感じることで、本学への興味を示し、出願につながることが期待できる。なお、高校生全体に対して講義を行うため、受験対象者等の確認は行っていない。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

⑥募集を行った学科等名称及び取組の名称：入試対策講座

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	857人	910人	①取組概要 受験者向けに外部教育機関の塾講師を招き、出題傾向や効果的な対策方法を解説する等の様々な入試対策講座を提供する。 R5年度入試対象（R4開催）：計５回開催（10/8, 10/9, 10/15, 12/10, 12/23） R6年度入試対象（R5開催）：計４回開催（10/8, 10/15, 12/17, 12/23） ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 本学に興味を示す受験予定者のニーズを満たし、モチベーション向上を図ることで、本学への出願につながることが期待できる。なお、受験対象者数は、受講申込時の志望学科等の情報は確認しておらず、全学科対象の総数となるため、記載できない。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

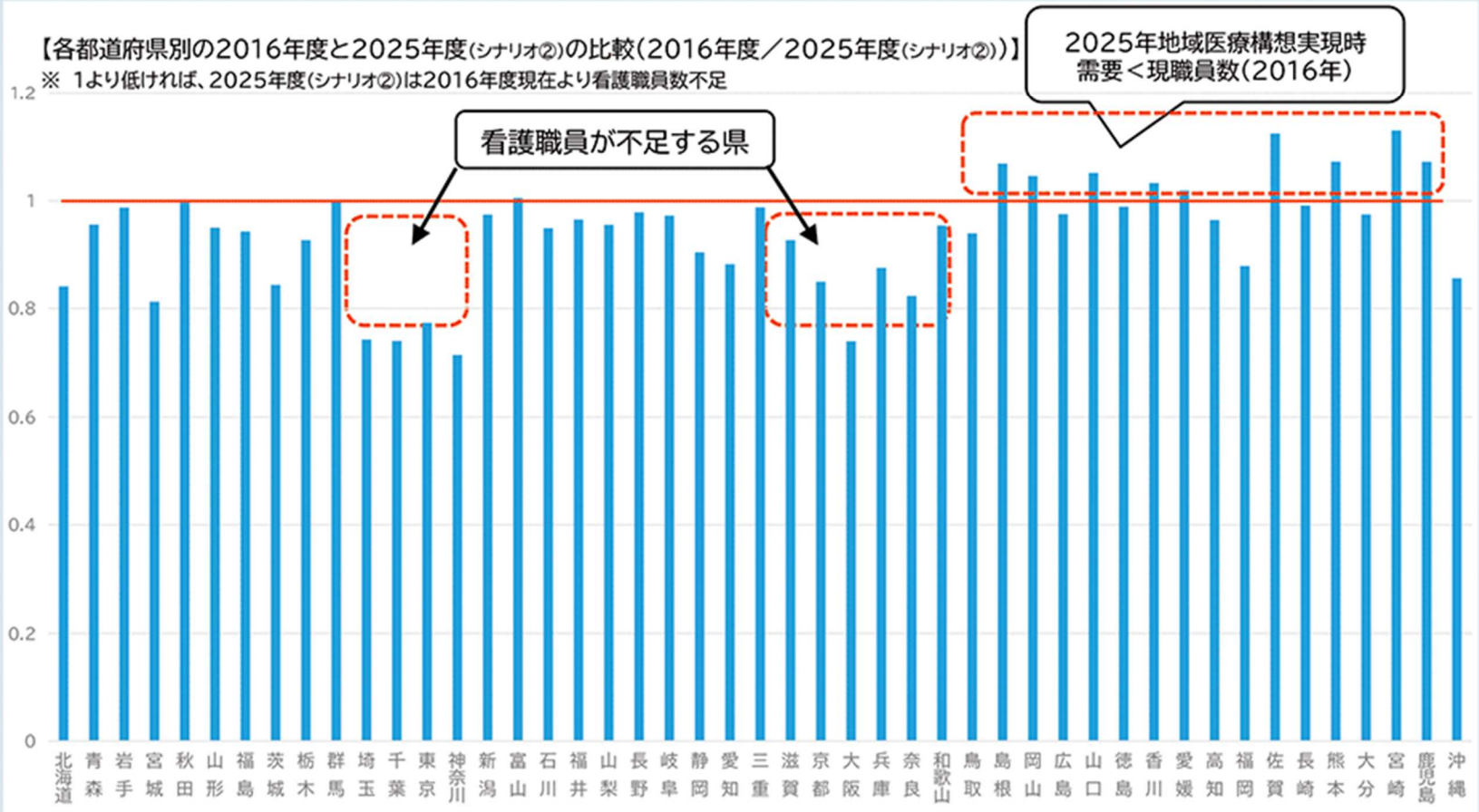
⑦募集を行った学科等名称及び取組の名称：資料請求

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	132152人	158454人	①取組概要 佛教大学の概要、学部学科での学び、学生生活、就職支援、入試情報などを掲載した大学案内を作成し、ホームページや進学関連Webサイトより資料請求者の自宅へ送付する。また、必要に応じてイベント開催情報等のリーフレットを添付する。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 他のPR活動での情報発信を通して、資料請求増を図り、オープンキャンパスや進学相談会の参加へ誘導する。なお、受験対象者については、志望学科ごとの集計が難しく、全学科対象の総数となるため、記載できない。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)	1165人	1252人	
うち入学者数(d)	70人	66人	
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

⑧募集を行った学科等名称及び取組の名称：入学部SNS等による情報発信

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)		15764人	①取組概要 YouTubeや本学入学部が運用する各種SNSによる広報活動を通して、入試関連情報をはじめ、本学の教育・研究活動や学生生活、社会との連携等の情報を積極的に発信し、本学への理解を深める機会を提供する。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 本学に興味を示す受験予定者のニーズを満たし、モチベーション向上を図ることで、本学への出願につながることが期待できる。なお、SNS登録者については、2025年1月現在の総数であるため、年度ごとの記載はできない。また、志望学科を踏まえた個人の情報は確認しておらず、全学科対象の総数となるため、記載できない。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

図表2-1-11　看護職員の需給推計結果（都道府県別）



資料：厚生労働省医政局看護課において作成。

（注）　看護職員の需要推計は、ワーク・ライフ・バランスの実現を前提に、看護職員の超過勤務時間や年次有給休暇の取得日数などの条件について、看護職員の労働環境の変化に対応して幅を待たせた推計を行っている。具体的には以下の3つのパターンを設定している。

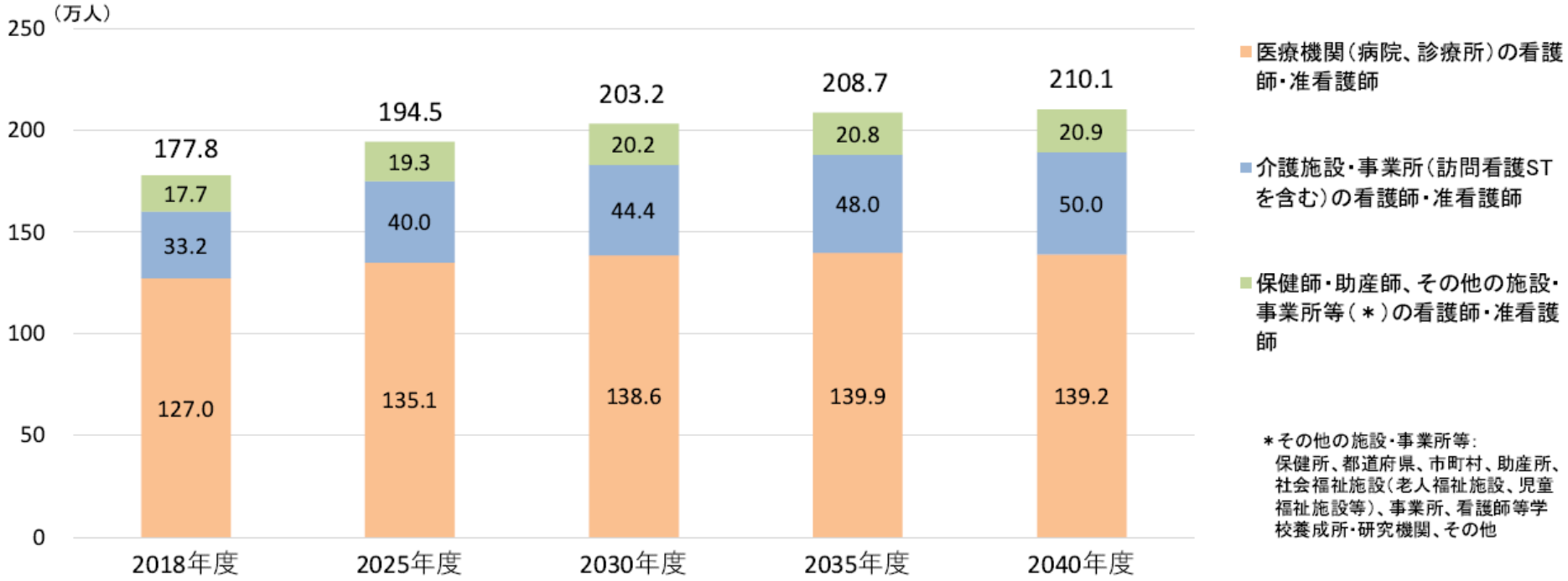
シナリオ①　1か月あたり超過勤務時間：10時間以内　1年あたり有給休暇取得日数：5日以上
シナリオ②　1か月あたり超過勤務時間：10時間以内　1年あたり有給休暇取得日数：10日以上
シナリオ③　1か月あたり超過勤務時間：0時間　1年あたり有給休暇取得日数：20日以上

出典：厚生労働省『令和４年版 厚生労働省白書―社会保障を支える人材の確保―』（https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/kousei/21/）

（参考）『「2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」に基づくマンパワーのシミュレーション』（2018年５月21日厚生労働省）の「現状投影ベース」等に基づく看護職員の需要推計

『「2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」に基づくマンパワーのシミュレーション』（2018年５月）の「現状投影ベース」等に基づく看護職員の需要推計を行うと、訪問看護を含む介護分野での需要の増大等に伴って、2040年に向けて、看護職員の需要が増大するものと推計される。

※「医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会 中間とりまとめ」（2019年11月15日）における需要推計とは、足下の就業者数や推計方法等が異なるため、推計結果が異なる。



【推計方法】
○「医療機関（病院、診療所）の看護師・准看護師」については、「2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」の「医療推計バックデータ」の現状投影ベース（注）を用いて推計。
○「介護施設・事業所（訪問看護STを含む）の看護師・准看護師」については、「2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」の「介護推計バックデータ」の現状投影ベース（注）を用いて推計。
○「保健師・助産師、その他の施設・事業所等の看護師・准看護師」は、2017年（平成29年）医療施設調査（静態）及び2020年（令和2年）医療施設調査（静態）の実績値を用いて、①2018年の病院・診療所の保健師・助産師数の推計値を算出し、2018年度（平成30年度）衛生行政報告例から、②2018年のその他の施設・事業所等の保健師・助産師・看護師・准看護師の実績値を算出し、①・②の合計値を2018年度の人数（足下）とした上で、『「医療機関及び介護施設・事業所の看護師・准看護師の総合計」の対2018年度伸び率』に応じて増加するものとして推計（「2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」の「バックデータ全体まとめ」で示された「その他の福祉分野」の推計方法に準拠）。
（注）現状投影ベース：医療・介護サービスの足元の年齢階級別の受療率等（入院・外来の受療率、サービスごとの利用率）を基に機械的に将来の患者数や利用者数を計算し、この将来の患者数や利用者数に、足下における一定の患者数・利用者数当たりの看護師数及び准看護師数を乗ずることによって算出。

9

出典：厚生労働省　「第１回医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師等確保基本指針検討部会資料」（https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_33348.html）

【資料３】

第七次看護職員需給見通しに関する検討会報告書

平成２２年１２月２１日

【出典】厚生労働省「第七次看護職員需給見通しに関する検討会」報告書より ※該当ページのみ抜粋
(https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000z6kk.html)

２０２５（平成３７）年に、需要数が供給数を上回る結果となった。しかしながら、長期推計においては、今後の制度改革の進展により、医療提供体制の機能分化がどのようになされるか、多様な就業形態がどのように定着していくかといった要素が大きな影響をもたらすことから、上記の研究結果については、今後の看護職員確保対策を検討していくに当たって参考となる知見と位置付けるべきものと考えられる。

４．看護職員確保対策の推進

看護職員確保対策については、これまでも看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針等に基づき各般の施策が講じられてきたところであるが、平成２３年から平成２７年までの看護職員需給見通しを着実に実現していくためには、定着促進を始めとして、養成促進、再就業支援にわたる看護職員確保対策について一層の推進を図っていくことが必要不可欠である。

平成２２年６月に閣議決定された「新成長戦略」においては、医療・介護・健康関連産業は「日本の成長牽引産業」として位置付けられているとともに、質の高い医療・介護サービスを安定的に提供できる体制を整備することとされており、そうした観点からも看護職員の確保対策を推進していくことは重要な課題である。

（１）養成促進

養成力の確保に関して、国においては、民間立の看護師等養成所の運営に対する支援や、助産師養成所・看護師養成所２年課程（通信制）の開設準備に必要な専任教員等配置経費に対する支援を実施している。

また、都道府県においても看護師等養成所の運営に対する補助を始めとして、県立大学養成所の運営、修学資金貸与事業の実施、看護体験・看護の日等の普及啓発の推進、就職ガイダンスに取り組んでいるところである。

医療の高度化、療養の場や国民のニーズの多様化といった変化に的確に対応することができる資質の高い人材を看護職員として養成していくためには、引き続き上記のような促進策を講じていく必要があるとともに、養成段階において看護基礎教育の質の担保を図ることが後述の定着促進にも効果を挙げるものと考えられる。

今回の需給見通しにおいては、平成２７年までの間の１８歳人口が大きく変化しないこと、社会人や他分野の学部等を卒業した入学者の増加が見られること等から、入学者の減

少など少子化の影響は見込まれていないところである。

しかしながら、中長期的には、少子化の一層の進行も予想されることから、例えば、現在１３％程度である看護師等学校養成所の入学者　男性比率についてその向上を図ること等も含めた対応を検討していくことが必要である。

また、多様な社会経験を有する者にとっても、看護師等学校養成所を経て看護職員となることが魅力的な選択となるよう、就学支援等の強化を図っていくべきである。

（２）定着促進

看護職員の離職率が改善されない限り、養成を促進しても需給状況を改善することは困難であることから、定着の促進を図ることは極めて重要な課題となっている。

① 職場定着の現状

今般の看護職員需給見通し策定のために都道府県が実施した調査によれば、常勤退職者の主な退職理由としては、本人の健康問題、人間関係、家族の健康・介護問題、出産・育児、結婚等が多く列挙されていた。

この点に関しては、既に離職した看護職員となった者を対象として実施した社団法人日本看護協会の調査においては、妊娠・出産、結婚、勤務時間が長い・超過勤務が多いといった理由が挙げられていた。

また、都道府県が実施した調査における本人の健康問題という回答の背景には、看護職員の不規則なシフト、夜勤回数の多さ、超過勤務の多さなど過酷な労働条件があるのではないかとも指摘されている。

他方、前述の都道府県による調査においては、看護職員の定着促進を促すために効果を挙げている取組みについても質問をしており、調査票に回答した施設からは、有給休暇の取得促進、人を育て個人を大切にする風土づくり、超過勤務削減のための取組み、研修体制の確立、外部研修への援助等によるキャリアアップの支援、多様な勤務形態の導入等が多く挙げられていた。

② 勤務環境の改善

入院医療への対応を考慮すれば、看護職員の勤務において夜勤という要素を切り離すことはできない。他方、医療の高度化等に伴い、勤務実態も多忙なものとなっているが、夜勤による交代制勤務を伴う過酷な超過勤務の継続は慢性的な疲労に　がり、医療

学校基本調査に基づく18歳人口予測

【全国】

学校基本調査	18歳人口			算出定義
	年	人数	増減割合	
学校基本調査公表	**令和6（2024）**	**1,063,451**	**100.0%**	令和3（2021）年　中学校卒業者＋中等教育学校前期課程修了者＋義務教育学校卒業者の人数
学校基本調査に基づく予測	令和7（2025）	1,090,562	102.5%	令和4（2022）年　中学校卒業者＋中等教育学校前期課程修了者＋義務教育学校卒業者の人数
学校基本調査に基づく予測	**令和8（2026）**	**1,092,664**	**102.7%**	令和5（2023）年　中学校卒業者＋中等教育学校前期課程修了者＋義務教育学校卒業者の人数
学校基本調査に基づく予測	令和9（2027）	1,085,123	102.0%	令和6（2024）年　中学校卒業者＋中等教育学校前期課程修了者＋義務教育学校卒業者の人数
学校基本調査に基づく予測	令和10（2028）	1,069,950	100.6%	令和6（2024）年　中学校3年生＋中等教育学校前期課程3年生＋義務教育学校9年生の生徒数
学校基本調査に基づく予測	**令和11（2029）**	**1,067,555**	**100.4%**	令和6（2024）年　中学校2年生＋中等教育学校前期課程2年生＋義務教育学校8年生の生徒数
学校基本調査に基づく予測	令和12（2030）	1,048,971	98.6%	令和6（2024）年　中学校1年生＋中等教育学校前期課程1年生＋義務教育学校7年生の生徒数
学校基本調査に基づく予測	令和13（2031）	1,036,250	97.4%	令和6（2024）年　小学校6年生＋義務教育学校6年生の児童数
学校基本調査に基づく予測	令和14（2032）	1,024,561	96.3%	令和6（2024）年　小学校5年生＋義務教育学校5年生の児童数
学校基本調査に基づく予測	令和15（2033）	1,014,564	95.4%	令和6（2024）年　小学校4年生＋義務教育学校4年生の児童数
学校基本調査に基づく予測	令和16（2034）	1,006,056	94.6%	令和6（2024）年　小学校3年生＋義務教育学校3年生の児童数
学校基本調査に基づく予測	**令和17（2035）**	**970,564**	**91.3%**	令和6（2024）年　小学校2年生＋義務教育学校2年生の児童数

【近畿２府３県（滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県）】

学校基本調査	18歳人口			算出定義
	年	人数	増減割合	
学校基本調査公表	**令和6（2024）**	**167,697**	**100.0%**	令和3（2021）年　中学校卒業者＋中等教育学校前期課程修了者＋義務教育学校卒業者の人数
学校基本調査に基づく予測	令和7（2025）	171,447	102.2%	令和4（2022）年　中学校卒業者＋中等教育学校前期課程修了者＋義務教育学校卒業者の人数
学校基本調査に基づく予測	**令和8（2026）**	**171,327**	**102.2%**	令和5（2023）年　中学校卒業者＋中等教育学校前期課程修了者＋義務教育学校卒業者の人数
学校基本調査に基づく予測	令和9（2027）	170,337	101.6%	令和6（2024）年　中学校卒業者＋中等教育学校前期課程修了者＋義務教育学校卒業者の人数
学校基本調査に基づく予測	令和10（2028）	167,036	99.6%	令和6（2024）年　中学校3年生＋中等教育学校前期課程3年生＋義務教育学校9年生の生徒数
学校基本調査に基づく予測	**令和11（2029）**	**166,710**	**99.4%**	令和6（2024）年　中学校2年生＋中等教育学校前期課程2年生＋義務教育学校8年生の生徒数
学校基本調査に基づく予測	令和12（2030）	164,395	98.0%	令和6（2024）年　中学校1年生＋中等教育学校前期課程1年生＋義務教育学校7年生の生徒数
学校基本調査に基づく予測	令和13（2031）	162,043	96.6%	令和6（2024）年　小学校6年生＋義務教育学校6年生の児童数
学校基本調査に基づく予測	令和14（2032）	159,084	94.9%	令和6（2024）年　小学校5年生＋義務教育学校5年生の児童数
学校基本調査に基づく予測	令和15（2033）	157,516	93.9%	令和6（2024）年　小学校4年生＋義務教育学校4年生の児童数
学校基本調査に基づく予測	令和16（2034）	155,943	93.0%	令和6（2024）年　小学校3年生＋義務教育学校3年生の児童数
学校基本調査に基づく予測	**令和17（2035）**	**151,792**	**90.5%**	令和6（2024）年　小学校2年生＋義務教育学校2年生の児童数

【出典】18歳人口概算は、文部科学省「学校基本統計」（令和3（2021）年～令和6（2024）年）より、表内「算出定義」欄の定義内容に基づき作成

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：府県別：2014～2023年）

			2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
滋賀	卒業者数（人）		12,082	12,360	12,656	12,884	12,737	12,729	12,786	12,548	12,129	11,765
	進学者数（人）	大学	5,951	6,011	6,168	6,405	6,170	6,271	6,521	6,565	6,635	6,748
		短期大学	793	850	787	799	782	697	702	637	574	500
		専門学校	1,965	2,049	2,114	2,171	2,137	2,148	2,113	2,187	2,006	1,885
	進学率（%）	大学	49.3	48.6	48.7	49.7	48.4	49.3	51.0	52.3	54.7	57.4
		短期大学	6.6	6.9	6.2	6.2	6.1	5.5	5.5	5.1	4.7	4.2
		専門学校	16.3	16.6	16.7	16.9	16.8	16.9	16.5	17.4	16.5	16.0
京都	卒業者数（人）		22,250	22,966	22,813	23,480	23,074	23,240	22,541	22,049	21,821	21,359
	進学者数（人）	大学	13,178	13,911	13,846	14,256	13,959	14,158	14,155	14,444	14,670	14,868
		短期大学	1,303	1,254	1,231	1,243	1,134	1,044	1,019	868	824	652
		専門学校	3,096	3,155	3,128	3,217	3,162	3,106	3,111	3,033	2,884	2,795
	進学率（%）	大学	59.2	60.6	60.7	60.7	60.5	60.9	62.8	65.5	67.2	69.6
		短期大学	5.9	5.5	5.4	5.3	4.9	4.5	4.5	3.9	3.8	3.1
		専門学校	13.9	13.7	13.7	13.7	13.7	13.4	13.8	13.8	13.2	13.1
大阪	卒業者数（人）		71,537	73,971	74,542	75,967	75,146	73,952	72,659	70,413	68,114	66,443
	進学者数（人）	大学	37,040	39,169	40,561	40,882	40,461	40,096	41,060	41,801	42,281	42,322
		短期大学	4,640	4,657	4,385	4,368	4,139	3,886	3,749	3,338	2,930	2,446
		専門学校	10,770	11,155	10,953	11,413	10,987	11,401	11,566	10,913	10,066	9,389
	進学率（%）	大学	51.8	53.0	54.4	53.8	53.8	54.2	56.5	59.4	62.1	63.7
		短期大学	6.5	6.3	5.9	5.7	5.5	5.3	5.2	4.7	4.3	3.7
		専門学校	15.1	15.1	14.7	15.0	14.6	15.4	15.9	15.5	14.8	14.1
兵庫	卒業者数（人）		45,473	46,090	46,442	47,411	46,566	46,132	45,077	44,167	42,635	41,608
	進学者数（人）	大学	24,839	25,625	25,773	26,442	26,118	26,046	26,108	26,567	26,645	26,547
		短期大学	2,326	2,330	2,296	2,267	2,035	1,983	2,012	1,787	1,391	1,265
		専門学校	6,364	6,399	6,418	6,606	6,145	6,198	6,336	6,212	5,480	5,375
	進学率（%）	大学	54.6	55.6	55.5	55.8	56.1	56.5	57.9	60.2	62.5	63.8
		短期大学	5.1	5.1	4.9	4.8	4.4	4.3	4.5	4.0	3.3	3.0
		専門学校	14.0	13.9	13.8	13.9	13.2	13.4	14.1	14.1	12.9	12.9
奈良	卒業者数（人）		12,000	12,153	12,166	12,282	12,158	11,630	11,830	11,338	11,102	10,497
	進学者数（人）	大学	6,107	6,525	6,458	6,483	6,453	6,308	6,508	6,416	6,530	6,294
		短期大学	777	733	659	696	573	554	534	540	463	363
		専門学校	1,658	1,494	1,687	1,726	1,698	1,520	1,604	1,454	1,385	1,312
	進学率（%）	大学	50.9	53.7	53.1	52.8	53.1	54.2	55.0	56.6	58.8	60.0
		短期大学	6.5	6.0	5.4	5.7	4.7	4.8	4.5	4.8	4.2	3.5
		専門学校	13.8	12.3	13.9	14.1	14.0	13.1	13.6	12.8	12.5	12.5
和歌山	卒業者数（人）		8,937	9,102	8,904	8,986	8,793	8,715	8,482	7,968	7,816	7,289
	進学者数（人）	大学	3,837	3,731	3,853	3,819	3,705	3,779	3,965	3,943	4,016	3,815
		短期大学	535	560	518	533	461	414	366	323	333	300
		専門学校	1,594	1,729	1,620	1,502	1,580	1,522	1,523	1,458	1,297	1,185
	進学率（%）	大学	42.9	41.0	43.3	42.5	42.1	43.4	46.7	49.5	51.4	52.3
		短期大学	6.0	6.2	5.8	5.9	5.2	4.8	4.3	4.1	4.3	4.1
		専門学校	17.8	19.0	18.2	16.7	18.0	17.5	18.0	18.3	16.6	16.3

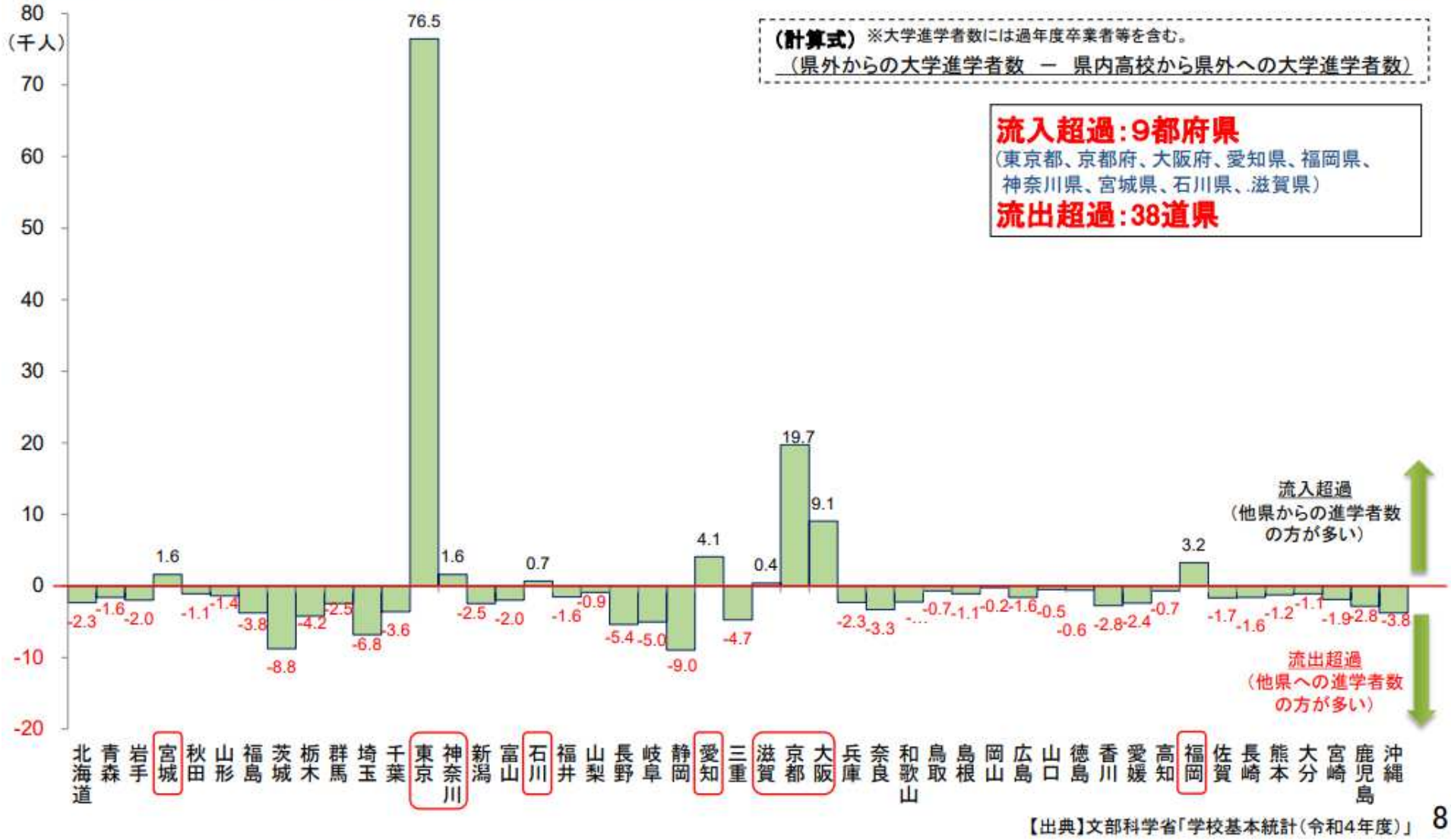
※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業者数　　：高等学校卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・進学者数　　：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
※専門学校＝専修学校専門課程

6　リクルート進学総研

出典：リクルート進学総研「マーケットリポート 2023」
(https://souken.shingakunet.com/research/pdf/2023_souken_report/2023_kinki_souken_report.pdf)

大学進学時の都道府県別流入・流出者数

○ 大学進学時の各都道府県における流入者・流出者数をみると、流入超過が9都府県、流出超過が38道県となっている。
○ 東京都には76,451人、京都府には19,704人、大阪府には9,069人が流入している一方、静岡県からは8,952人、茨城県からは8,779人、埼玉県からは6,804人が流出している。



出典：文部科学省 参考資料集「大学等進学者数に関するデータ」（https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/content/000255573.pdf）

佛教大学保健医療技術学部看護学科 入学者出身都道府県内訳集計表〔平成24（2012）年度～令和６（2024）年度〕

入学年度 / 出身都道府県	平成24 (2012) 年度		平成25 (2013) 年度		平成26 (2014) 年度		平成27 (2015) 年度		平成28 (2016) 年度		平成29 (2017) 年度		平成30 (2018) 年度		令和元 (2019) 年度		令和2 (2020) 年度		令和3 (2021) 年度		令和4 (2022) 年度		令和5 (2023) 年度		令和6 (2024) 年度		総計	
宮城県					1	1.4%																					1	0.1%
東京都			1	1.5%																							1	0.1%
新潟県													1	1.6%									1	1.4%			2	0.2%
富山県					1	1.4%			1	1.6%			1	1.6%													3	0.4%
石川県	1	1.6%	1	1.5%	1	1.4%									1	1.5%											4	0.5%
福井県	1	1.6%			1	1.4%	1	1.4%													1	1.6%					4	0.5%
長野県	1	1.6%																	1	1.5%							2	0.2%
岐阜県	1	1.6%																									1	0.1%
静岡県			1	1.5%							1	1.7%									1	1.6%					3	0.4%
愛知県											1	1.7%			1	1.5%			2	3.0%							4	0.5%
三重県					2	2.8%	1	1.4%	1	1.6%																	4	0.5%
滋賀県	10	15.6%	17	25.8%	21	29.6%	17	24.6%	19	31.1%	17	28.3%	21	33.3%	30	44.1%	22	34.4%	23	34.3%	22	35.5%	19	27.5%	19	28.8%	257	30.2%
京都府	22	34.4%	20	30.3%	17	23.9%	27	39.1%	25	41.0%	30	50.0%	29	46.0%	29	42.6%	28	43.8%	33	49.3%	30	48.4%	39	56.5%	33	50.0%	362	42.6%
（内、京都市）	17	26.6%	14	21.2%	12	16.9%	14	20.3%	12	19.7%	19	31.7%	16	25.4%	17	25.0%	21	32.8%	21	31.3%	16	25.8%	26	37.7%	13	19.7%	218	25.6%
大阪府	16	25.0%	15	22.7%	15	21.1%	18	26.1%	11	18.0%	7	11.7%	8	12.7%	7	10.3%	12	18.8%	5	7.5%	6	9.7%	8	11.6%	9	13.6%	137	16.1%
兵庫県	2	3.1%	6	9.1%	5	7.0%	2	2.9%			2	3.3%									1	1.6%			2	3.0%	20	2.4%
奈良県	6	9.4%	2	3.0%					2	3.3%			2	3.2%			2	3.1%			1	1.6%			1	1.5%	16	1.9%
和歌山県	1	1.6%			2	2.8%			1	1.6%	1	1.7%	1	1.6%											1	1.5%	7	0.8%
鳥取県			1	1.5%	1	1.4%	1	1.4%																	1	1.5%	4	0.5%
岡山県			1	1.5%	1	1.4%	1	1.4%			1	1.7%															4	0.5%
広島県					1	1.4%													1	1.5%							2	0.2%
山口県	2	3.1%			1	1.4%																	1	1.4%			4	0.5%
香川県							1	1.4%											1	1.5%							2	0.2%
高知県	1	1.6%	1	1.5%	1	1.4%																					3	0.4%
福岡県									1	1.6%													1	1.4%			2	0.2%
鹿児島県																			1	1.5%							1	0.1%
総計	64	100.0%	66	100.0%	71	100.0%	69	100.0%	61	100.0%	60	100.0%	63	100.0%	68	100.0%	64	100.0%	67	100.0%	62	100.0%	69	100.0%	66	100.0%	850	100.0%

令和6（2024）年度
私立大学・短期大学等
入学志願動向

日本私立学校振興・共済事業団

【出典】日本私立学校振興・共済事業団「令和６（2024）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向」より　※該当ページのみ抜粋
(https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouR6.pdf)

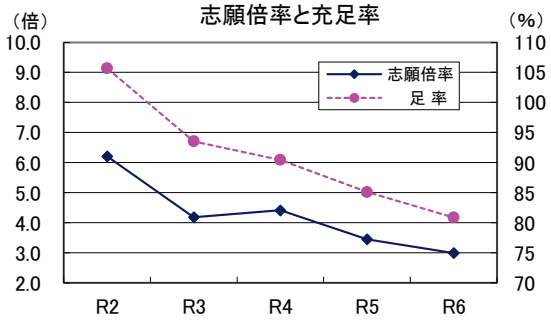
２．地域別の動向（大学・学校別）

全国を21の地域に区分した。集計は学校所在地ごととした。

地域区分	年度	集計学校数	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員充足率 E/A
		校	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
北海道	R5	23	10,978	34,331	33,504	22,515	10,818	3.13	67.20	48.05	98.54
	R6	24	11,058	33,361	32,571	23,448	10,426	3.02	71.99	44.46	94.28
	増減	1	80	△ 970	△ 933	933	△ 392	△ 0.11	4.79	△ 3.59	△ 4.26
東北（宮城を除く）	R5	23	5,086	10,690	10,464	7,033	4,272	2.10	67.21	60.74	84.00
	R6	23	5,056	10,021	9,772	6,512	3,951	1.98	66.64	60.67	78.14
	増減	0	△ 30	△ 669	△ 692	△ 521	△ 321	△ 0.12	△ 0.57	△ 0.07	△ 5.86
宮城	R5	11	8,439	30,572	29,988	18,916	8,299	3.62	63.08	43.87	98.34
	R6	12	8,629	29,716	29,160	19,177	8,357	3.44	65.76	43.58	96.85
	増減	1	190	△ 856	△ 828	261	58	△ 0.18	2.68	△ 0.29	△ 1.49
関東（埼玉、千葉、東京、神奈川を除く）	R5	24	10,408	39,295	38,238	18,866	10,145	3.78	49.34	53.77	97.47
	R6	24	10,634	40,088	38,972	19,510	10,884	3.77	50.06	55.79	102.35
	増減	0	226	793	734	644	739	△ 0.01	0.72	2.02	4.88
埼玉	R5	26	17,637	73,674	70,329	42,551	17,196	4.18	60.50	40.41	97.50
	R6	25	15,565	67,238	64,117	35,794	14,194	4.32	55.83	39.65	91.19
	増減	△ 1	△ 2,072	△ 6,436	△ 6,212	△ 6,757	△ 3,002	0.14	△ 4.67	△ 0.76	△ 6.31
千葉	R5	26	16,199	181,096	172,912	67,202	15,467	11.18	38.86	23.02	95.48
	R6	26	16,142	175,270	167,647	65,083	15,258	10.86	38.82	23.44	94.52
	増減	0	△ 57	△ 5,826	△ 5,265	△ 2,119	△ 209	△ 0.32	△ 0.04	0.42	△ 0.96
東京	R5	118	184,186	1,625,399	1,543,334	570,084	190,553	8.82	36.94	33.43	103.46
	R6	116	186,339	1,649,086	1,563,707	572,396	190,437	8.85	36.61	33.27	102.20
	増減	△ 2	2,153	23,687	20,373	2,312	△ 116	0.03	△ 0.33	△ 0.16	△ 1.26
神奈川	R5	27	23,316	128,821	121,868	65,867	23,048	5.53	54.05	34.99	98.85
	R6	27	23,355	119,837	112,718	60,564	22,489	5.13	53.73	37.13	96.29
	増減	0	39	△ 8,984	△ 9,150	△ 5,303	△ 559	△ 0.40	△ 0.32	2.14	△ 2.56
甲信越	R5	23	5,874	13,983	13,663	10,195	5,654	2.38	74.62	55.46	96.25
	R6	23	5,954	12,604	12,232	9,551	5,458	2.12	78.08	57.15	91.67
	増減	0	80	△ 1,379	△ 1,431	△ 644	△ 196	△ 0.26	3.46	1.69	△ 4.58
北陸	R5	13	5,724	23,354	22,441	15,475	5,302	4.08	68.96	34.26	92.63
	R6	13	5,784	22,676	21,776	15,605	5,128	3.92	71.66	32.86	88.66
	増減	0	60	△ 678	△ 665	130	△ 174	△ 0.16	2.70	△ 1.40	△ 3.97
東海（愛知を除く）	R5	21	9,170	31,282	30,344	22,366	8,183	3.41	73.71	36.59	89.24
	R6	21	9,170	29,514	28,830	22,001	8,299	3.22	76.31	37.72	90.50
	増減	0	0	△ 1,768	△ 1,514	△ 365	116	△ 0.19	2.60	1.13	1.26
愛知	R5	45	36,639	264,031	257,066	123,800	37,278	7.21	48.16	30.11	101.74
	R6	45	36,730	268,189	260,967	125,813	36,322	7.30	48.21	28.87	98.89
	増減	0	91	4,158	3,901	2,013	△ 956	0.09	0.05	△ 1.24	△ 2.85
近畿（京都、大阪、兵庫を除く）	R5	14	4,553	15,718	15,137	9,146	3,875	3.45	60.42	42.37	85.11
	R6	14	4,488	13,452	13,008	8,846	3,630	3.00	68.00	41.04	80.88
	増減	0	△ 65	△ 2,266	△ 2,129	△ 300	△ 245	△ 0.45	7.58	△ 1.33	△ 4.23
京都	R5	26	37,215	376,530	357,741	137,971	37,726	10.12	38.57	27.34	101.37
	R6	26	37,317	369,753	352,697	134,254	36,733	9.91	38.06	27.36	98.44
	増減	0	102	△ 6,777	△ 5,044	△ 3,717	△ 993	△ 0.21	△ 0.51	0.02	△ 2.93
大阪	R5	53	49,585	502,691	478,851	172,045	50,271	10.14	35.93	29.22	101.38
	R6	52	49,858	498,768	475,220	179,257	50,588	10.00	37.72	28.22	101.46
	増減	△ 1	273	△ 3,923	△ 3,631	7,212	317	△ 0.14	1.79	△ 1.00	0.08
兵庫	R5	28	23,902	140,774	133,029	65,346	22,461	5.89	49.12	34.37	93.97
	R6	27	23,662	150,114	141,527	66,264	22,448	6.34	46.82	33.88	94.87
	増減	△ 1	△ 240	9,340	8,498	918	△ 13	0.45	△ 2.30	△ 0.49	0.90
中国（広島を除く）	R5	21	8,767	24,248	23,571	16,157	7,146	2.77	68.55	44.23	81.51
	R6	21	8,957	21,781	21,190	14,533	7,014	2.43	68.58	48.26	78.31
	増減	0	190	△ 2,467	△ 2,381	△ 1,624	△ 132	△ 0.34	0.03	4.03	△ 3.20
広島	R5	14	9,013	33,511	32,852	22,292	8,290	3.72	67.86	37.19	91.98
	R6	14	9,008	35,749	35,243	24,967	7,808	3.97	70.84	31.27	86.68
	増減	0	△ 5	2,238	2,391	2,675	△ 482	0.25	2.98	△ 5.92	△ 5.30
四国	R5	9	4,355	10,073	9,886	8,582	3,677	2.31	86.81	42.85	84.43
	R6	10	4,425	9,295	9,111	8,316	3,373	2.10	91.27	40.56	76.23
	増減	1	70	△ 778	△ 775	△ 266	△ 304	△ 0.21	4.46	△ 2.29	△ 8.20
九州（福岡を除く）	R5	28	12,305	29,658	29,249	21,394	11,675	2.41	73.14	54.57	94.88
	R6	28	12,300	28,277	27,625	21,164	11,604	2.30	76.61	54.83	94.34
	増減	0	△ 5	△ 1,381	△ 1,624	△ 230	△ 71	△ 0.11	3.47	0.26	△ 0.54
福岡	R5	27	19,284	123,070	119,341	56,221	19,263	6.38	47.11	34.26	99.89
	R6	27	19,443	119,682	116,444	57,625	20,329	6.16	49.49	35.28	104.56
	増減	0	159	△ 3,388	△ 2,897	1,404	1,066	△ 0.22	2.38	1.02	4.67
全国計	R5	600	502,635	3,712,801	3,543,808	1,494,024	500,599	7.39	42.16	33.51	99.59
	R6	598	503,874	3,704,471	3,534,534	1,490,680	494,730	7.35	42.17	33.19	98.19
	増減	△ 2	1,239	△ 8,330	△ 9,274	△ 3,344	△ 5,869	△ 0.04	0.01	△ 0.32	△ 1.40

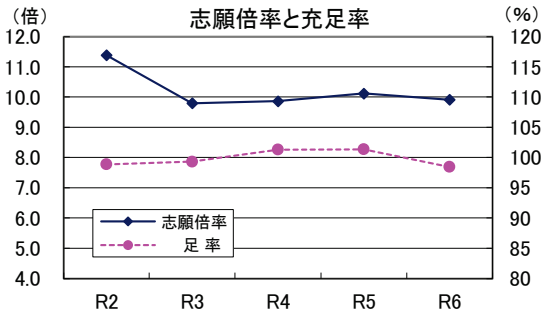
近畿（京都、大阪、兵庫を除く）

年　　度	R2	R3	R4	R5	R6
学 校 数	14	15	15	14	14
志願倍率	6.21	4.19	4.41	3.45	3.00
充 足 率	105.70	93.54	90.45	85.11	80.88



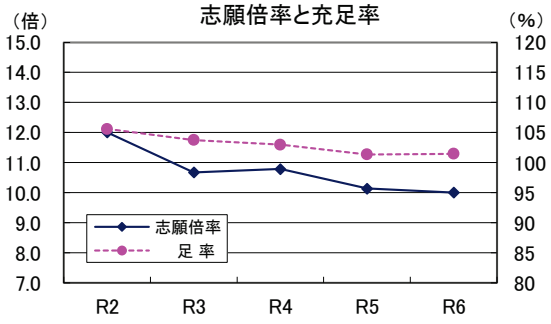
京都

年　　度	R2	R3	R4	R5	R6
学 校 数	26	26	26	26	26
志願倍率	11.38	9.80	9.86	10.12	9.91
充 足 率	98.86	99.32	101.30	101.37	98.44



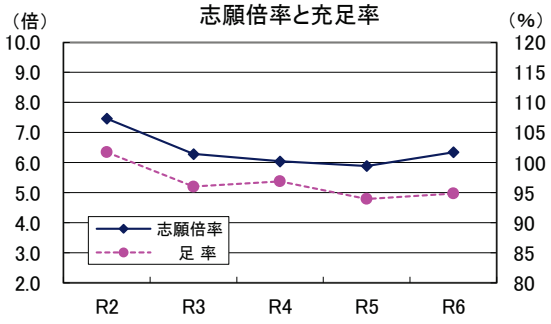
大阪

年　　度	R2	R3	R4	R5	R6
学 校 数	50	52	53	53	52
志願倍率	12.01	10.67	10.79	10.14	10.00
充 足 率	105.60	103.74	102.97	101.38	101.46



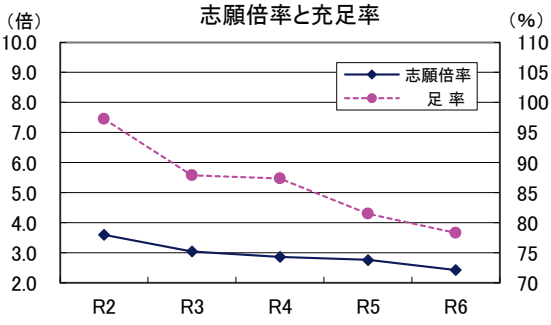
兵庫

年　　度	R2	R3	R4	R5	R6
学 校 数	30	29	28	28	27
志願倍率	7.46	6.29	6.04	5.89	6.34
充 足 率	101.72	96.01	96.89	93.97	94.87



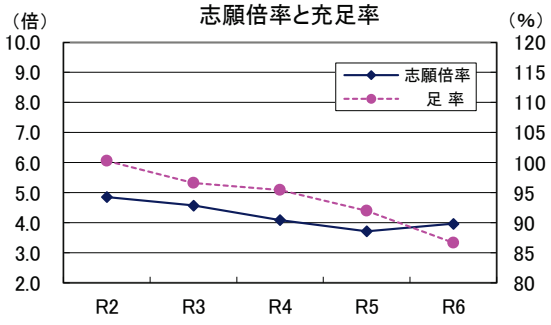
中国（広島を除く）

年　　度	R2	R3	R4	R5	R6
学 校 数	22	22	21	21	21
志願倍率	3.61	3.04	2.87	2.77	2.43
充 足 率	97.25	87.91	87.37	81.51	78.31



広島

年　　度	R2	R3	R4	R5	R6
学 校 数	14	14	14	14	14
志願倍率	4.86	4.57	4.09	3.72	3.97
充 足 率	100.29	96.62	95.46	91.98	86.68



４．学部系統別の動向（大学）

全学部を『今日の私学財政』の系統区分と同様に区分した（学部系統区分については、27ページを参照）。

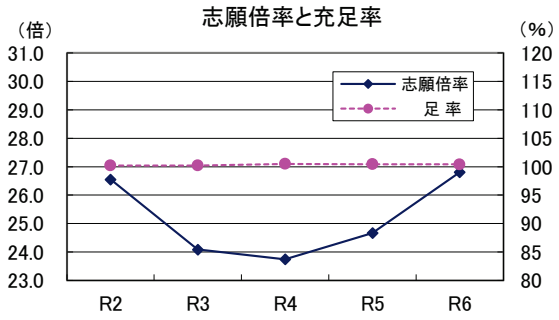
系統区分	年度	集計学部数	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員充足率 E/A
		学部	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
医学	R5	31	4,153	102,449	94,948	9,455	4,171	24.67	9.96	44.11	100.43
	R6	31	4,243	113,753	105,149	9,751	4,261	26.81	9.27	43.70	100.42
	増減	0	90	11,304	10,201	296	90	2.14	△ 0.69	△ 0.41	△ 0.01
歯学	R5	17	1,995	7,423	6,811	3,875	1,566	3.72	56.89	40.41	78.50
	R6	17	1,995	7,982	7,286	3,795	1,525	4.00	52.09	40.18	76.44
	増減	0	0	559	475	△ 80	△ 41	0.28	△ 4.80	△ 0.23	△ 2.06
薬学	R5	60	11,276	74,627	69,834	32,753	10,674	6.62	46.90	32.59	94.66
	R6	62	11,416	71,663	67,239	31,993	10,304	6.28	47.58	32.21	90.26
	増減	2	140	△ 2,964	△ 2,595	△ 760	△ 370	△ 0.34	0.68	△ 0.38	△ 4.40
保健系	R5	272	40,720	171,920	164,994	80,009	39,414	4.22	48.49	49.26	96.79
	R6	279	41,435	153,563	147,498	78,305	37,724	3.71	53.09	48.18	91.04
	増減	7	715	△ 18,357	△ 17,496	△ 1,704	△ 1,690	△ 0.51	4.60	△ 1.08	△ 5.75
理・工学系	R5	172	60,899	745,076	709,765	293,618	62,044	12.23	41.37	21.13	101.88
	R6	171	60,725	753,291	718,490	298,211	60,355	12.40	41.51	20.24	99.39
	増減	△ 1	△ 174	8,215	8,725	4,593	△ 1,689	0.17	0.14	△ 0.89	△ 2.49
農学系	R5	25	8,850	82,069	77,130	32,361	9,144	9.27	41.96	28.26	103.32
	R6	25	8,890	86,942	82,152	31,883	9,028	9.78	38.81	28.32	101.55
	増減	0	40	4,873	5,022	△ 478	△ 116	0.51	△ 3.15	0.06	△ 1.77
人文科学系	R5	251	68,526	474,386	455,194	206,138	65,979	6.92	45.29	32.01	96.28
	R6	252	68,939	486,534	466,734	209,248	66,154	7.06	44.83	31.62	95.96
	増減	1	413	12,148	11,540	3,110	175	0.14	△ 0.46	△ 0.39	△ 0.32
社会科学系	R5	541	174,614	1,355,134	1,295,485	519,139	179,337	7.76	40.07	34.55	102.70
	R6	543	174,681	1,338,226	1,278,347	517,288	179,019	7.66	40.47	34.61	102.48
	増減	2	67	△ 16,908	△ 17,138	△ 1,851	△ 318	△ 0.10	0.40	0.06	△ 0.22
家政学	R5	81	15,113	46,651	44,251	26,088	13,452	3.09	58.95	51.56	89.01
	R6	82	15,114	41,015	38,585	24,687	12,662	2.71	63.98	51.29	83.78
	増減	1	1	△ 5,636	△ 5,666	△ 1,401	△ 790	△ 0.38	5.03	△ 0.27	△ 5.23
教育学	R5	114	19,038	90,525	86,541	43,267	17,433	4.75	50.00	40.29	91.57
	R6	115	18,838	89,036	84,860	42,165	17,244	4.73	49.69	40.90	91.54
	増減	1	△ 200	△ 1,489	△ 1,681	△ 1,102	△ 189	△ 0.02	△ 0.31	0.61	△ 0.03
体育学	R5	11	5,190	10,413	10,184	7,102	5,191	2.01	69.74	73.09	100.02
	R6	10	4,670	9,417	9,121	6,129	4,579	2.02	67.20	74.71	98.05
	増減	△ 1	△ 520	△ 996	△ 1,063	△ 973	△ 612	0.01	△ 2.54	1.62	△ 1.97
芸術系	R5	57	14,448	60,391	57,834	24,676	15,217	4.18	42.67	61.67	105.32
	R6	56	14,500	63,311	60,393	24,222	15,191	4.37	40.11	62.72	104.77
	増減	△ 1	52	2,920	2,559	△ 454	△ 26	0.19	△ 2.56	1.05	△ 0.55
その他	R5	318	77,813	491,737	470,837	215,543	76,977	6.32	45.78	35.71	98.93
	R6	327	78,428	489,738	468,680	213,003	76,684	6.24	45.45	36.00	97.78
	増減	9	615	△ 1,999	△ 2,157	△ 2,540	△ 293	△ 0.08	△ 0.33	0.29	△ 1.15
合　計	R5	1,950	502,635	3,712,801	3,543,808	1,494,024	500,599	7.39	42.16	33.51	99.59
	R6	1,970	503,874	3,704,471	3,534,534	1,490,680	494,730	7.35	42.17	33.19	98.19
	増減	20	1,239	△ 8,330	△ 9,274	△ 3,344	△ 5,869	△ 0.04	0.01	△ 0.32	△ 1.40

学部系統別の動向　過去５ヵ年の推移（大学）

過去５ヵ年における学部系統別の学部数、志願倍率、入学定員充足率を下表に示した。

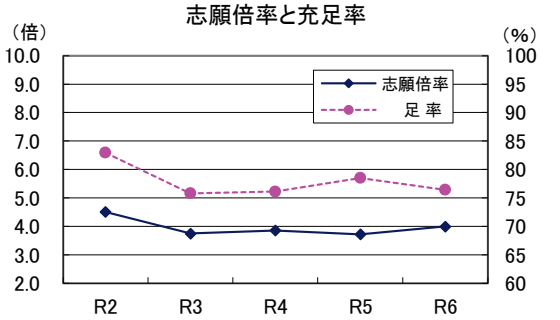
医学

年　　度	R2	R3	R4	R5	R6
学 部 数	31	31	31	31	31
志願倍率	26.55	24.09	23.75	24.67	26.81
充 足 率	100.20	100.20	100.51	100.43	100.42



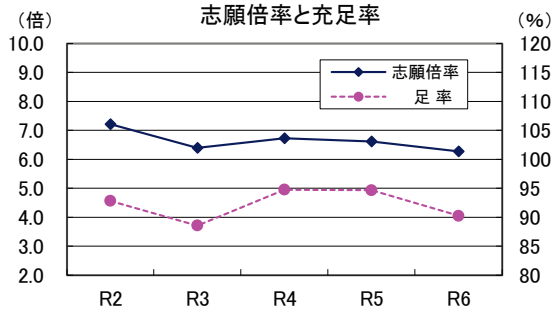
歯学

年　　度	R2	R3	R4	R5	R6
学 部 数	17	17	17	17	17
志願倍率	4.51	3.75	3.86	3.72	4.00
充 足 率	82.98	75.83	76.13	78.50	76.44



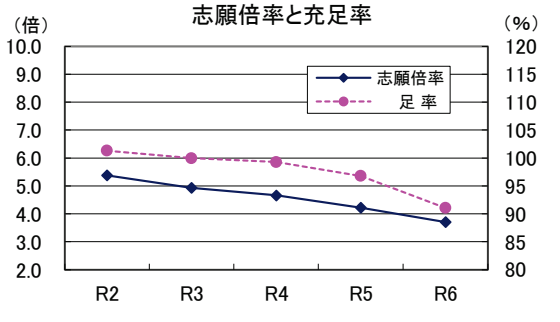
薬学

年　　度	R2	R3	R4	R5	R6
学 部 数	59	60	60	60	62
志願倍率	7.22	6.40	6.73	6.62	6.28
充 足 率	92.82	88.61	94.79	94.66	90.26



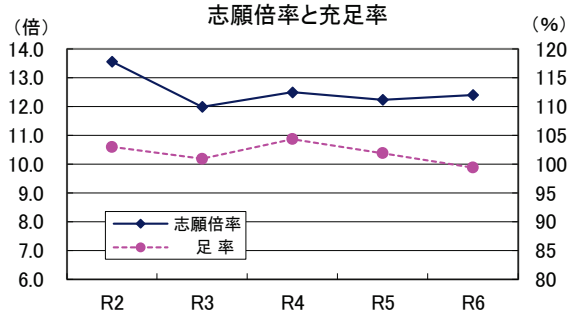
保健系

年　　度	R2	R3	R4	R5	R6
学 部 数	244	254	266	272	279
志願倍率	5.38	4.93	4.66	4.22	3.71
充 足 率	101.34	99.97	99.28	96.79	91.04



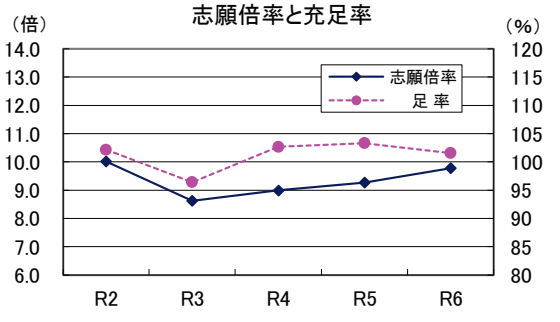
理・工学系

年　　度	R2	R3	R4	R5	R6
学 部 数	157	162	166	172	171
志願倍率	13.56	11.99	12.49	12.23	12.40
充 足 率	102.97	100.90	104.35	101.88	99.39



農学系

年　　度	R2	R3	R4	R5	R6
学 部 数	23	25	25	25	25
志願倍率	10.02	8.63	8.99	9.27	9.78
充 足 率	102.15	96.41	102.65	103.32	101.55



競合校における入学者選抜実施状況

	一般選抜①			一般選抜②			一般選抜③		
	試験日	合格発表	手続期限	試験日	合格発表	手続期限	試験日	合格発表	手続期限
佛教大学	1/31・2/1	2/13	2/20・2/27	2/2・3	2/13	2/20・2/27	3/5	3/13	3/19
同志社女子大学	1/26・27・28・29	2/10	2/21・3/6	—	—	—	3/9	3/14	3/21
京都橘大学	1/23・24	2/7	2/13・3/10	2/11	2/20	2/28・3/10	3/7	3/18	3/21
京都先端科学大学	2/1・2・3	2/14	2/26・3/7	2/20	3/3	3/11・3/21	3/6	3/14	3/21
京都光華女子大学	2/2・3	2/10	2/21・3/7	2/17	2/26	3/7	3/10	3/14	3/21
大和大学	1/28・29・30	2/10	2/21・3/11	2/4・5	2/10	2/21・3/11	3/1	3/13	3/25
千里金蘭大学	1/23	2/3	2/17・2/28	2/9	2/17	2/28・3/21	3/2	3/10	3/21
摂南大学	1/21・22	2/6	2/26	2/8	2/21	3/3	3/5	3/14	3/21

※各大学のホームページにて公開されている情報に基づき作成。

【資料10】

競合校における入学初年度年間納付金額及び在学期間納付金総額

（単位：円）

順位	大学名	学部名	学科名	入学初年度年間納付金額						順位	在学期間（４・６ヵ年間）納付金総額					入学検定料	
				総額		内訳					総額	内訳					
					前年度比較	入学金	授業料＋教育充実費等	授業料	教育充実費等			入学金	授業料＋教育充実費等	授業料	教育充実費等		前年度比較
1	佛教大学	保健医療技術学部	看護学科	1,950,000	－	200,000	1,750,000	1,350,000	400,000	3	7,320,000	200,000	7,155,000	5,520,000	1,635,000	35,000	－
2	京都先端科学大学	健康医療学部	看護学科	1,907,740	－	260,000	1,647,740	1,050,000	597,740	6	7,007,740	260,000	6,747,740	4,200,000	2,547,740	35,000	－
3	摂南大学	看護学部	看護学科	1,900,000	－	250,000	1,650,000	1,550,000	100,000	1	7,650,000	250,000	7,400,000	6,200,000	1,200,000	35,000	－
4	千里金蘭大学	看護学部	看護学科	1,880,000	▼	200,000	1,680,000	1,020,000	660,000	7	6,920,000	200,000	6,720,000	4,080,000	2,640,000	30,000	－
5	**★佛教大学**	**看護学部**	**看護学科 ※学費改定後**	**1,850,000**	**－**	**250,000**	**1,600,000**	**1,350,000**	**250,000**	**2**	**7,370,000**	**250,000**	**7,120,000**	**5,520,000**	**1,600,000**	**35,000**	**－**
6	大和大学	保健医療学部	看護学科	1,790,000	▲	200,000	1,590,000	1,560,000	30,000	4	7,195,000	200,000	6,995,000	6,840,000	155,000	35,000	－
7	京都光華女子大学	看護福祉ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部	看護学科	1,760,000	－	250,000	1,510,000	1,260,000	250,000	5	7,040,000	250,000	6,790,000	5,790,000	1,000,000	35,000	－
8	京都橘大学	看護学部	看護学科	1,730,000	－	250,000	1,480,000	1,200,000	280,000	7	6,920,000	250,000	6,670,000	4,800,000	1,870,000	35,000	－
9	同志社女子大学	看護学部	看護学科	1,726,000	▼	260,000	1,466,000	1,226,000	240,000	9	6,910,000	260,000	6,650,000	5,690,000	960,000	35,000	－
競合校における平均金額				**1,813,391**		**238,571**	**1,574,820**	**1,266,571**	**308,249**		**7,091,820**	**238,571**	**6,853,249**	**5,371,429**	**1,481,820**	**34,286**	

「前年度比較」 ▲：増額改定、－：据え置き、▼：減額改定

競合校における入学志願状況表〔令和４（2022）～令和６（2024）年度〕

大学名 学部学科	所在地	入学定員			志願者数（合計）			志願倍率			合格者数			入学者数			入学定員充足率			
		令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	過去3年間の平均値
佛教大学 保健医療技術学部 看護学科	京都府京都市中京区	65	65	65	1,391	1,149	1,252	21.4	17.7	19.3	267	328	312	65	70	66	1.00	1.08	1.02	**1.03**
同志社女子大学 看護学部 看護学科	京都府京田辺市	90	90	90	1,363	1,163	1,146	15.1	12.9	12.7	248	273	288	94	95	90	1.04	1.06	1.00	**1.03**
京都橘大学 看護学部 看護学科	京都府京都市山科区	95	95	95	1,556	1,418	1,417	16.4	14.9	14.9	306	297	350	102	98	102	1.07	1.03	1.07	**1.06**
京都先端科学大学 健康医療学部 看護学科	京都府京都市右京区	80	80	80	316	423	319	4.0	5.3	4.0	133	217	209	80	94	71	1.00	1.18	0.89	**1.02**
京都光華女子大学 看護福祉ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部 看護学科	京都府京都市右京区	85	85	85	323	298	186	3.8	3.5	2.2	170	176	164	95	92	86	1.12	1.08	1.01	**1.07**
大和大学 保健医療学部 看護学科	大阪府吹田市	100	100	100	2,027	1,755	1,879	20.3	17.6	18.8	281	368	484	110	126	140	1.10	1.26	1.40	**1.25**
千里金蘭大学 看護学部 看護学科	大阪府吹田市	90	90	90	1,003	891	721	11.1	9.9	8.0	311	300	330	100	106	88	1.11	1.18	0.98	**1.09**
摂南大学 看護学部 看護学科	大阪府枚方市	100	100	100	2,485	2,274	1,831	24.9	22.7	18.3	599	565	519	99	118	93	0.99	1.18	0.93	**1.03**
計		705	705	705	10,464	9,371	8,751			—	2,315	2,524	2,656	745	799	736				—

【出典】各大学のホームページにて公開されている数値を参照。なお、不明な年度については、旺文社パスナビ（https://passnavi.obunsha.co.jp/）の情報に基づき作成。

【資料12】

佛教大学

看護学部看護学科（仮称）

設置構想についての高校生アンケート調査

報告書

目次

1.　高校生アンケート調査 概要..... 2

2.　調査実施高等学校等一覧..... 3

3.　高校生アンケート調査 集計結果..... 4

4.　高校生アンケート調査 結果の要点..... 8

添付資料：

高校生アンケート調査用紙..... 10

「看護学部看護学科（仮称）」概要..... 12

1. 高校生アンケート調査 概要

調査目的	令和7年（2025年）度に佛教大学が設置構想中の「看護学部看護学科（仮称） 」（入学定員80名）における志願者・入学者等の学生確保の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	［調査対象］ 令和7年3月に高校卒業予定である高校2年生（令和6年度） ［調査地域］ 「看護学部看護学科（仮称）」の主たる学生募集エリアと想定される高校54校から調査の協力を得た。 また、オープンキャンパスに来場した学生には個別で調査の協力を得た。
調査内容	・回答者の基本情報（性別、居住地） ・卒業後の志望進路 ・志望する大学等の設置者 ・興味のある学問分野 ・佛教大学「看護学部看護学科（仮称）」への受験・入学意向
調査時期	令和6年10～令和7年2月
調査方法	① アンケート用紙・「看護学部看護学科（仮称）」概要およびリーフレットを必要部数送付。ホームルーム等で配付の上、その場で回答し回収いただいた。 ② オープンキャンパス実施分については、協力を承諾いただいた来場者に対し、個別にアンケート用紙・「看護学部看護学科（仮称）」概要およびリーフレットを配布し、その場で回答いただいた。
回収件数	有効回答数7,490件（計54校7,482件、オープンキャンパス8件）

2.　調査実施高等学校等一覧

番号	高校コード	高校名	回収数
1	17503A	金沢高等学校	104
2	18123E	美方高等学校	82
3	25119E	八幡高等学校	88
4	25128D	水口高等学校	189
5	25144F	玉川高等学校	299
6	25146B	甲西高等学校	220
7	25501H	滋賀短期大学附属高等学校	207
8	25504B	近江兄弟社高等学校	157
9	25508E	光泉カトリック高等学校	26
10	26106J	嵯峨野高等学校	259
11	26107G	桂高等学校	37
12	26108E	北嵯峨高等学校	244
13	26111E	向陽高等学校	164
14	26119A	亀岡高等学校	73
15	26120D	園部高等学校	100
16	26141G	紫野高等学校	51
17	26144A	南丹高等学校	106
18	26504H	京都外大西高等学校	76
19	26506D	花園高等学校	197
20	26507B	東山高等学校	42
21	26513G	京都文教高等学校	230
22	26514E	華頂女子高等学校	81
23	26518H	京都光華高等学校	58
24	26520K	京都聖母学院高等学校	132
25	26522F	京都西山高等学校	186
26	26525A	京都明徳高等学校	57
27	26530G	福知山成美高等学校	72
28	26539A	京都成章高等学校	277
29	26540D	京都翔英高等学校	166
30	27102A	東淀川高等学校	39
31	27136F	長尾高等学校	15
32	27146C	布施高等学校	48
33	27161G	東住吉高等学校	38
34	27291E	大冠高等学校	11
35	27506K	賢明学院高等学校	94
36	27507H	大阪学芸高等学校	560
37	27525F	上宮高等学校	39
38	27527B	大阪高等学校	555
39	27536A	大阪信愛学院高等学校	197
40	27548E	四條畷学園高等学校	103
41	27559A	箕面自由学園高等学校	74
42	27561B	常翔学園高等学校	34
43	27562A	大阪産業大学附属高等学校	93
44	27587F	東海大学付属大阪仰星高等学校	22
45	27590F	初芝富田林高等学校	169
46	27594J	上宮太子高等学校	11
47	28531F	仁川学院高等学校	96
48	28550B	滝川第二高等学校	121
49	29104J	生駒高等学校	113
50	29113H	橿原高等学校	293
51	29501K	奈良育英高等学校	345
52	29503F	天理高等学校	85
53	30106A	粉河高等学校	188
54	30503A	和歌山信愛高等学校	159
55	-	オープンキャンパス	8
合計			7490

3.　高校生アンケート調査 集計結果

※「構成比」（%）はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問1　あなたの現在の居住地をお答えください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
滋賀県	1,270	17.0%
京都府	2,385	31.8%
大阪府	2,194	29.3%
兵庫県	267	3.6%
奈良県	820	10.9%
和歌山県	337	4.5%
その他	206	2.8%
無回答	11	0.1%
合計	7,490	100.0%

問2　あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
男性	3,359	44.8%
女性	3,894	52.0%
回答しない	170	2.3%
無回答	67	0.9%
合計	7,490	100.0%

問3　卒業後の進路をどのように考えていますか。（あてはまるものすべて）

選択肢	回答数	回答割合
大学	6,282	83.9%
短期大学	361	4.8%
専門職大学	279	3.7%
専門職短期大学	49	0.7%
専門学校	1,355	18.1%
就職	332	4.4%
その他	154	2.1%
無回答	67	0.9%
合計	7,490	100.0%

※複数回答のため回答数はのべ／回答割合＝回答数÷アンケート回答者全体数

問4　問３で①～④を選択した方に質問です。（※問3で①～④を選択しなかった方は問５に進んでください）
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（あてはまるものすべて）

選択肢	回答数	回答割合
私立	5,561	74.2%
国立	1,420	19.0%
公立	1,583	21.1%
無回答	0	0.0%
合計	7,490	100.0%

※複数回答のため回答数はのべ／回答割合＝回答数÷アンケート回答者全体数

問５　高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（あてはまるものすべて）※現時点で進学を希望されていない方も進学する場合を想像してお答えください。

選択肢	回答数	回答割合	選択肢	回答数	回答割合
看護学	949	12.7%	食物学	279	3.7%
医学	274	3.7%	被服学	85	1.1%
歯学	117	1.6%	住居学	47	0.6%
薬学	248	3.3%	児童学	119	1.6%
保健その他	487	6.5%	家政その他	22	0.3%
数学	165	2.2%	農学	191	2.6%
物理学	136	1.8%	農芸化学	28	0.4%
生物	164	2.2%	農業工学	24	0.3%
化学	265	3.5%	農業経済学	31	0.4%
地学	49	0.7%	水産学	74	1.0%
理学その他	95	1.3%	農学その他	59	0.8%
機械工学	337	4.5%	商船学	41	0.5%
電気通信工学	233	3.1%	美術	216	2.9%
土木建築工学	227	3.0%	デザイン	450	6.0%
応用理学	41	0.5%	音楽	344	4.6%
応用化学	77	1.0%	芸術その他	175	2.3%
工学その他	169	2.3%	教育学	622	8.3%
文学	595	7.9%	小学校課程	178	2.4%
史学	231	3.1%	中・高校課程	340	4.5%
哲学	183	2.4%	体育学	448	6.0%
心理学	832	11.1%	教育その他	143	1.9%
人文科学その他	69	0.9%	教養学	91	1.2%
社会学	713	9.5%	総合科学	58	0.8%
社会福祉学	205	2.7%	国際学	588	7.9%
法学・政治学	437	5.8%	人間科学	213	2.8%
商学・経済学	1,322	17.7%	その他	711	9.5%
社会科学その他	95	1.3%	無回答	0	0.6%
家政学	66	0.9%	合計	7,490	100.0%

※複数回答のため回答数はのべ／回答割合＝回答数÷アンケート回答者全体数

問6　佛教大学が2026年に設置構想中の「看護学部 看護学科(仮称)」の受験を希望しますか。次より１つ選択してください。

選択肢	回答数	回答割合
第一志望として受験する	109	1.5%
第二志望として受験する	87	1.2%
第三志望以降として受験する	270	3.6%
受験しない	6,877	91.8%
無回答	147	2.0%
合計	7,490	100.0%

問7　上記、問６で①～③を選択した方に質問です。佛教大学が2026年に設置構想中の「看護学部 看護学科(仮称)」に合格した場合、入学を希望しますか。次より１つ選択してください。

選択肢	回答数	回答割合
入学する	135	29.0%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	282	60.5%
入学しない	39	8.4%
無回答	10	2.1%
合計	466	100.0%

問７のうち問６で「第一志望として受験する」を選択した回答者のみの回答

選択肢	回答数	回答割合
入学する	87	79.8%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	10	9.2%
入学しない	6	5.5%
無回答	6	5.5%
合計	109	100.0%

4.　高校生アンケート調査 結果の要点

（1）受験・入学意向クロス集計結果（「3. 高校生アンケート調査 集計結果」より）

高校生アンケート調査の問６結果より、「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」の合計として466人が佛教大学「看護学部 看護学科(仮称)」に対し受験意向を持ち、予定する入学定員80名の5.8倍の水準に及ぶことが明らかとなった。

「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は87人おり、「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」のした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計272人いた。

受験意向		入学意向	
第一志望として受験する	109	入学する	87
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	10
第二志望として受験する	87	入学する	30
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	54
第三志望以降として受験する	270	入学する	18
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	218

（2）受験・入学意向五重クロス集計結果（「3. 高校生アンケート調査 集計結果」より）

「（1）受験・入学意向クロス集計結果」について、更に高校卒業後の進路に「大学」を選択し、その上で志望する大学の設置者に「私立」を選択し、興味のある学問分野として「看護学」を選択した上で、佛教大学「看護学部 看護学科(仮称)」に受験・入学意向を示した人数を確認した。

前提となる「大学」進学、かつ「私立」「看護学」を選択する者は合計656人で、その上で佛教大学「看護学部 看護学科(仮称)」を「第一志望として受験する」としたのは47人、「第二志望として受験する」53人、「第三志望以降として受験する」139人と合計すると239人で、依然として予定する入学定員80名に達する水準であった。

「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は46人であるが、本アンケートは佛教大学「看護学部 看護学科(仮称)」の基礎となる学科である保健医療技術学部看護学科の近年の志願実績校301校にアンケート依頼をし、54校から協力を得ている。期日等の理由から協力が得られていない高校が247校あるが、これらの高校の多くからも佛教大学保健医療技術学部看護学科は継続して志願者・入学者を得ていることから、仮に301校（依頼高校）÷ 54校（実施高校）＝5倍程度（端数切捨）とすると、全体では230人程度、「大学」進学、かつ「私立」「看護学」に興味を持ち、佛教大学「看護学部 看護学科(仮称)」への強い受験・入学意向を持つ高校生が存在すると推察される。

進路		学校種		学問分野		受験意向		入学意向	
大学	6,282	私立	5,360	看護学	656	第一志望として受験する	47	入学する	46
								志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	1
						第二志望として受験する	53	入学する	17
								志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	36
						第三志望として受験する	139	入学する	11
								志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	118

佛教大学「看護学部 看護学科(仮称)」設置構想についての高校生アンケート
(対象：高校２年生の皆さん)

佛教大学では2026年度より、「看護学部　看護学科（仮称)」を設置構想中です。本学ではこのアンケート調査結果を参考に、本構想の充実を図っていきたいと考えています。なお、この調査の結果は、統計資料としてのみ用い、他の用途に使用することはありません。

※「看護学部　看護学科（仮称)」に関する本アンケート調査への回答は1回のみとなります。
※本アンケート調査は佛教大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
※本アンケート調査および学部概要資料に記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

記入要領	1. 回答は**所定の欄を塗りつぶしてください。** 2. 回答用紙を汚したり、折り曲げたりしないでください。 3. 記入は必ず**鉛筆及びシャープペンシル**で濃く書いてください。	記入例	良い例 ● 悪い例 ✓ ⊙ ⊖ ○ ●

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

問１　あなたの現在の居住地をお答えください。(あてはまるもの1つ)

① 滋賀県　② 京都府　③ 大阪府　④ 兵庫県　⑤ 奈良県　⑥ 和歌山県　⑦ その他

問２　あなたの性別をお答えください。(あてはまるもの1つ)

① 男性　② 女性　③ 回答しない

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

問３　卒業後の進路をどのように考えていますか。
(あてはまるものすべて)

① 大学　② 短期大学　③ 専門職大学　④ 専門職短期大学
⑤ 専門学校　⑥ 就職　⑦ その他

▶問４　問３で①～④を選択した方に質問です。(※問3で①～④を選択しなかった方は問５に進んでください)
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(あてはまるものすべて)

① 私立　② 国立　③ 公立

→裏面に続く

問５　高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
（あてはまるものすべて）※現時点で進学を希望されていない方も進学する場合を想像してお答えください。

保　健	① 看護学	② 医学	③ 歯学	④ 薬学	⑤ 保健その他	
理　学	⑥ 数学	⑦ 物理学	⑧ 化学	⑨ 生物	⑩ 地学	⑪ 理学その他
工　学	⑫ 機械工学	⑬ 電気通信工学	⑭ 土木建築工学	⑮ 応用理学	⑯ 応用化学	⑰ 工学その他
人文科学	⑱ 文学	⑲ 史学	⑳ 哲学	㉑ 心理学	㉒ 人文科学その他	
社会科学	㉓ 社会学	㉔ 社会福祉学	㉕ 法学･政治学	㉖ 商学･経済学	㉗ 社会科学その他	
家　政	㉘ 家政学	㉙ 食物学	㉚ 被服学	㉛ 住居学	㉜ 児童学	㉝ その他
農　学	㉞ 農学	㉟ 農芸化学	㊱ 農業工学	㊲ 農業経済学	㊳ 水産学	㊴ 農学その他
商　船	㊵ 商船学					
芸　術	㊶ 美術	㊷ デザイン	㊸ 音楽	㊹ 芸術その他		
教　育	㊺ 教育学	㊻ 小学校課程	㊼ 中･高校課程	㊽ 体育学	㊾ 教育その他	
その他	㊿ 教養学	(51) 総合科学	(52) 国際学	(53) 人間科学	(54) その他	

ここからは別添の佛教大学が設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称）」の学部概要資料を見てからお答えください

問６　佛教大学が2026年に設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称）」の受験を希望しますか。
次より１つ選択してください。

① 第一志望として受験する　② 第二志望として受験する
③ 第三志望以降として受験する　④ 受験しない

▶問７　**上記、問６で①～③を選択した方に質問です。**
佛教大学が2026年に設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称）」に合格した場合、入学を希望しますか。
次より１つ選択してください。

① 入学する
② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
③ 入学しない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

2026年4月、佛大看護が生まれ変わります。

看護学部看護学科

仮称・設置構想中

※保健医療技術学部看護学科を発展的改組予定

佛教大学
BUKKYO UNIVERSITY

佛教大学「看護学部 看護学科（仮称）」は
充実した設備や総合大学の利点を活かした教育で全人的ケアができる
確かな臨床実践力をもつ看護師・保健師を養成します。

佛教大学「看護学部 看護学科（仮称）」設置の理念・必要性

超高齢社会が加速する我が国では、ヒューマンケアの中核的な担い手としての質の高い看護師・保健師（以下、看護職）を育成することが急務となっています。また、地域医療及び高齢者医療施策の充実化や、COVID-19のような新興感染症への対策強化、介護予防や特定健診・特定保健指導による重症化予防対策など、様々な場面において看護職の担う役割は大きくなっています。

このような状況を踏まえ、高度に進歩した医療技術に対応できる看護職、地域の保健医療福祉の中核的な専門職として社会ニーズに貢献できる看護職を養成することを目的として、保健医療技術学部看護学科から「看護学部看護学科（仮称）」へと深化します。

カリキュラム＜教育課程＞の特色

1 習熟度に応じた臨地実習

1年生から病院などの施設や地域で実習し、3・4年生ではさまざまな領域の看護を経験し、実践力に磨きをかけます。数人のグループに教員1名がつき、濃密な実習を行います。本学では実習指導体制が整っている施設にご協力いただき臨地実習を行っています。

実習期間が変更・延長となる場合があります。　※保健師課程受講者のみ

学年	1年生	2年生	3年生	4年生		
科目名	コミュニティ実習 基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ	領域別の看護学実習 （地域在宅・クリティカルケア・慢性・老年）	領域別の看護学実習 （小児・母性・精神）	総合実践看護実習	公衆衛生看護学 実習Ⅰ・Ⅱ※
内容	地域で暮らす生活者を知る実習を経験した後、既習した看護の知識や、コミュニケーション技法を積極的に活用し、看護に対する理解を深める。	病院で療養中の患者理解を深め、療養や暮らしを支えるために必要となる看護実践を学ぶ。	それぞれの看護領域において、患者・療養者への看護実践に必要な知識や技術を習得する。	小児・母性・精神それぞれの看護領域において、患者への看護実践に必要な知識や技術を習得する。	自ら医療や看護の今日的テーマと課題を選定し、学習課題を探求する実践課程を通して、看護実践能力の向上を図る。	地域や職域・学校での対象者の生活環境、健康課題を理解し、健康の保持・増進に向けた保健活動に必要な知識や技術を習得する。
期間・時期	コミュニティ実習 1週間（6月～10月） 基礎看護学実習Ⅰ 1週間（2月）	2週間（9月）	いずれの領域も 2～3週間（10月～2月）	いずれの領域も 2週間（5月～7月）	2週間（10月）	1週間（6月～7月） 4週間（8月～9月）

実習予定施設

病院・助産院 等（50音順）
いわくら病院、大阪医科薬科大学病院、大阪府済生会吹田病院、大津赤十字病院、近江八幡市立総合医療センター、北山病院、京都市立病院、京都第一赤十字病院、京都大学医学部附属病院、京都府助産師会、京都府立医科大学附属病院、滋賀県立小児保健医療センター、市立大津市民病院、長尾助産院、西陣病院、日本バプテスト病院、三菱京都病院、洛和会丸太町病院、海助産所　その他

高齢者施設 等
京都市地域介護予防推進センター、京都市老人福祉センター、特別養護老人ホーム「和順の里」
その他8カ所

こども園・幼稚園
佛教大学附属こども園、華頂短期大学附属幼稚園

訪問看護ステーション 等
京都市内をはじめとする訪問看護ステーション　11カ所
地域包括支援センター 13カ所

行政・学校・産業
保健所・市町保健センター、中学・高等学校、企業・健診センター

2 人の心に寄り添える力を養う独自の教育

人間の生を支える「仏教看護」や「ホリスティックケアアプローチ」、安心して人生の終焉を迎えるケアを行う「エンドオブライフケア」の科目を開設。本学の「共生（ともいき）」の理念をもとに人の心に寄り添える力を養います。

3 実践力と探究心を養成

これまでの学習を土台に、4年生の「看護研究」「統合実践看護実習」では、学生が自己の学習テーマを設定し、臨地において科学的思考に基づいた看護実践を展開します。学習テーマに基づいた実践レポートとしてまとめることで、この取り組みを通して自己の看護観を深めるとともに、今後の専門的な看護活動について考え、探究心・研究思考を養います。

ピックアップ授業

VRを用いた学習
フィジカルアセスメント技術

患者さんの体を系統的に観察するために、学生同士のロールプレイを通して問診・視診・触診・聴診・打診などの技術を学びます。さらにVRを用いて、健康障害のある仮想空間の患者さんの身体状況を観察します。この演習によってリアルに患者さんを感じ、体に起こっている異常をいち早くアセスメントする力を身につけます。

患者の気持ちに寄り添う援助を学ぶ
生活行動援助技術論

この授業では、病気や障害によって日常の生活行動に問題を持つ患者を援助するための基本的知識・技術・態度を学びます。学生同士で臨床現場を想定したロールプレイを実施し、衣生活、清潔、食事、排泄の援助について原理原則を理解しながら患者の気持ちに寄り添う援助方法を習得します。

学生納付金

1年目（入学金含む）	2年目以降
1,875,500円	1,844,500円

※上記金額には入学金・授業料・教育充実費・諸経費を含みます。
※予定であり変更となる場合があります。

看護学が学べる周辺大学

京都先端科学大学　京都橘大学　京都光華女子大学　同志社女子大学

アクセス

二条キャンパス　〒604-8418　京都市中京区西ノ京東栂尾町7

JR「京都」駅より約5分。JR・地下鉄「二条」駅下車。
市内各所より市バス利用、「二条駅前」バス停下車。

For More Information

佛教大学 入試情報サイト

佛教大学入学部から入試やオープンキャンパスなどの最新情報をお届けします。
https://www.bukkyo-u.ac.jp/find/

問合せ先
佛教大学〈企画課〉
TEL 075 (491) 2141 [月～金] 9：00～17：00
Mail new-faculty@bukkyo-u.ac.jp

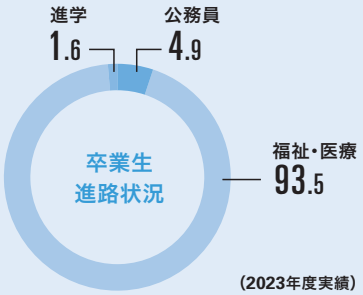
紫野キャンパス
〒603-8301
京都市北区紫野花ノ坊町96

二条キャンパス
〒604-8418
京都市中京区西ノ京東栂尾町7

学部・学科名称	看護学部 看護学科（仮称）	入学定員	80名（収容定員320名）
開設予定時期	2026年（令和8年）4月を予定	修業年限	4年
開設予定場所	二条キャンパス 京都市中京区西ノ京東栂尾町7	取得学位	学士（看護学）

卒業後の進路・取得可能な資格

※保健医療技術学部 看護学科の実績に基づきます。



（2023年度実績）
単位：%

主な就職先・進路先

【福祉・医療】日本赤十字社 京都第一赤十字病院／（大）京都府立医科大学附属病院／（大）滋賀医科大学 医学部附属病院／（独）京都市立病院機構／（大）東京大学 東京大学医学部附属病院／（学）東京医科大学 東京医科大学病院／日本赤十字社 京都第二赤十字病院／（学）大阪医科薬科大学 大阪医科薬科大学病院／日本赤十字社 大阪赤十字病院／（学）関西医科大学 関西医科大学附属病院／（大）京都大学 医学部附属病院【公務員】京都府庁（保健師）／京都市役所（保健師）／長浜市役所（保健師）／福知山市役所（保健師）／箕面市役所（保健師）／【進学】洛和会京都看護学校（助産師課程） など

取得可能な資格

- **看護師（国家試験受験資格）**
- **保健師（国家試験受験資格）**

保健師課程（定員15名）で、保健師受験資格取得者は所定科目を修得すれば養護教諭二種と第一種衛生管理者の免許状の授与申請も可能です。

- **養護教諭二種免許**
- **第一種衛生管理者免許**

養成する人材像

佛教大学「看護学部看護学科（仮称）」は本学が既に置く医学リハビリテーション領域、教育関連領域とともにこれまでの伝統をさらに発展させ、人間の尊厳の重視と、高い理念、倫理、規範に裏づけられた崇高な精神とともに、ヒューマンケアの中核的担い手として看護の新たな価値を創造する力を有する人材を養成します。

アドミッションポリシー

豊かな人間性と倫理観を持ち、看護学の向上に努めて社会に貢献できる看護師、保健師を育成するため、次のような人を求めています。

- 看護学を学ぶために必要な基礎学力と継続する力を持ち、論理的に考えることができる人
- 看護職としてのスキルを高め、地域の人々の健康に貢献したいという意欲がある人
- 看護学を学び、豊かな感性と高い思考力、判断力を身につけようと努力できる人
- 相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現する力がある人
- 人に深い関心をもち、人の可能性を信じ、自分も他者も大切にできる人
- 人を思いやり、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる人

【資料13】

佛教大学

看護学部看護学科（仮称）

設置構想についての人材需要アンケート調査

報告書

目次

1.　人材需要アンケート調査 概要..... 2

2.　人材需要アンケート調査 集計結果..... 3

3.　人材需要アンケート調査 結果の要点..... 8

添付資料

人材需要アンケート調査用紙..... 10

「看護学部看護学科（仮称）」概要..... 12

1.　人材需要アンケート調査 概要

調査目的	令和7年（2025年）度に佛教大学が設置構想中の「看護学部看護学科（仮称）」（入学定員80名）における卒業後の採用・就職（人材需要）の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	［調査対象］ 佛教大学保健医療技術学部宇看護学科の採用実績先、求人票送付元など ［業種］　医療機関、福祉施設、地方自治体 ［調査地域］　京都府他の近畿二府四県を中心とする全国 ［依頼件数］　1,064件
調査内容	・回答対象先の基本情報（業種・所在地・従業員／職員規模） ・佛教大学「看護学部看護学科（仮称）」卒業生の人材ニーズ ・佛教大学「看護学部看護学科（仮称）」卒業生の採用意向
調査時期	令和6年11月～12月
調査方法	調査対象事業所に対しアンケートを郵送し依頼することにより実施 （紙方式・web方式での回答方法を案内し、いずれかで回答を依頼）
回収件数	有効回答数221件（回収率20.8%）

2.　人材需要アンケート調査 集計結果

※「構成比」（%）はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問１　貴社の本社または貴団体の本部所在地について、お答えください。

選択肢	回答数	回答割合
北海道	0	0.0%
青森県	0	0.0%
岩手県	0	0.0%
宮城県	0	0.0%
秋田県	0	0.0%
山形県	0	0.0%
福島県	0	0.0%
茨城県	1	0.5%
栃木県	0	0.0%
群馬県	0	0.0%
埼玉県	0	0.0%
千葉県	4	1.8%
東京都	6	2.7%
神奈川県	6	2.7%
新潟県	0	0.0%
富山県	0	0.0%
石川県	0	0.0%
福井県	0	0.0%
山梨県	0	0.0%
長野県	0	0.0%
岐阜県	0	0.0%
静岡県	3	1.4%
愛知県	2	0.9%
三重県	3	1.4%
滋賀県	26	11.8%
京都府	48	21.7%
大阪府	70	31.7%
兵庫県	29	13.1%
奈良県	8	3.6%
和歌山県	1	0.5%
鳥取県	0	0.0%
島根県	1	0.5%
岡山県	3	1.4%
広島県	1	0.5%
山口県	1	0.5%
徳島県	0	0.0%
香川県	0	0.0%
愛媛県	0	0.0%
高知県	0	0.0%
福岡県	5	2.3%
佐賀県	0	0.0%
長崎県	1	0.5%
熊本県	0	0.0%
大分県	0	0.0%
宮崎県	0	0.0%
鹿児島県	0	0.0%
沖縄県	0	0.0%
無回答	2	0.9%
合計	221	100.0%

問２　貴事業所の業種についてお答えください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
病院（特定機能病院以外）	128	57.9%
病院（特定機能病院）	13	5.9%
診療所・クリニック	9	4.1%
高齢者・介護福祉施設	14	6.3%
訪問看護ステーション	8	3.6%
保健所・自治体	30	13.6%
地域支援センター等	1	0.5%
その他	23	10.4%
無回答	0	0.0%
合計	221	100.0%

問３　貴事業所の従業員・職員規模として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
20名未満	9	4.1%
20名以上100名未満	19	8.6%
100名以上300名未満	62	28.1%
300名以上1,000名未満	74	33.5%
1,000名以上	51	23.1%
無回答	6	2.7%
合計	221	100.0%

問４　佛教大学が設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称）」の卒業生の「看護師」人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
ニーズは高い	139	62.9%
ニーズはある程度高い	53	24.0%
ニーズはあまりない	6	2.7%
ニーズはない	2	0.9%
わからない	14	6.3%
無回答	7	3.2%
合計	221	100.0%

問５　佛教大学が設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称）」の卒業生を「看護師」として、採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
採用したい	154	69.7%
採用しない	10	4.5%
わからない	53	24.0%
無回答	4	1.8%
合計	221	100.0%

問６　問５で「採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
1人	19	8.6%
2人	18	8.1%
3人	18	8.1%
4人	6	2.7%
5人以上	38	17.2%
人数は未確定だが、最低1人	55	24.9%
無回答	0	0.0%
合計	154	100.0%

問７　佛教大学が設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称）」の卒業生の「保健師」人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
ニーズは高い	49	22.2%
ニーズはある程度高い	61	27.6%
ニーズはあまりない	35	15.8%
ニーズはない	26	11.8%
わからない	43	19.5%
無回答	7	3.2%
合計	221	100.0%

問８　佛教大学が設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称）」の卒業生を「保健師」として、採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つ）のコピー

選択肢	回答数	回答割合
採用したい	38	17.2%
採用しない	91	41.2%
わからない	77	34.8%
無回答	15	6.8%
合計	221	100.0%

問９　問８で「採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
1人	14	6.3%
2人	0	0.0%
3人	2	0.9%
4人	0	0.0%
5人以上	2	0.9%
人数は未確定だが、最低1人	20	9.0%
無回答	0	0.0%
合計	38	100.0%

※佛教大学が設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称）」について期待される点、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

番号	回答
1	訪問看護などこれからの医療現場の実態にも合わせた看護師の教育に期待しています。
2	新卒採用も積極的にしており、当会としても新設されることは嬉しく思います。 パンフレットにあるアドミッションポリシーの求める人材はまさに当会でも求めている人材です。 地域が異なりますが、ご縁がありましたら幸いです。
3	特になし
4	現場と教育現場の意識の差異が少なくなることを望んでおります。
5	看護の分野だけでなく、多角的な視野から物事を捉えられる人材の育成
6	精神科患者は診療科に関わらずおられます。精神科看護に興味を待っていただき、患者に向き合える、寄り添える人財になっていただければと思います。
7	大学も京都府内であることから、ぜひ保健師の採用につなげていきたいと考えます。 当町のPR冊子等を配架いただけたら幸甚です。
8	知識はもちろんですが、世代や職種を超えて職場の雰囲気を共に高めていくことができる協調性があり且つ熱意のあるような方を採用することができればと思っております。
9	淡路島に興味がある方是非とも当院で働いてみませんか。
10	考える力、コミュニケーション力のある看護師を是非育成してください
11	看護師の有効求人倍率が2倍を超え、看護師不足が、深刻化している現状で入学定員の増員は非常にありがたいです。 滋賀県出身の学生が当院へUターンしてくれたら嬉しいです。
12	弊社は訪問看護や看護小規模多機能施設があり、介護職員だけではなく看護師のニーズが高くあります。 施設は福岡県だけですが、九州に興味がある方、働いてみたい方がいらっしゃると嬉しいです。
13	少子化の中、看護師・助産師をめざす方が一人でも多く増えていき、素晴らしい人材を育成され、人材不足の医療現場に送り出していただくことを期待します。
14	全国的な看護師不足の昨今、学生には本人の地元就職の斡旋、公立病院や大学病院だけでなく、小さな民間病院にも目を向けて就職活動するようご指導願いたいです。
15	専門的な知識がある方や思いやりのある方に育成されることを期待いたします。
16	看護師の求人は当院としましても大きな課題です。 貴大学との関係性を共有できればと存じます。
17	湖北出身者は地元で活躍できるような、キャリア支援をお願いします。
18	これまで大きく違うところがよく分かりません。大きく変わるところはどこですか？
19	当院は滋賀県の北西部に位置し、人材確保が年々困難になってきております。地域医療に貢献していただける人材育成をお願い致します。
20	看護職の若い担い手をたくさん養成していただきたいです。
21	京都府南部地域への就職にもお力添え頂ければ幸いです。
22	看護師不足は国全体での課題だと考えています。 その中で、新たな取り組みをされることはすごく重要なことだと思っております。
23	看護を学び看護を語り看護を発展させる人材育成ができる看護職の育成

3.　人材需要アンケート調査 結果の要点

（1）佛教大学「看護学部 看護学科(仮称)」が養成する看護師に係るニーズ、採用意向

佛教大学「看護学部 看護学科(仮称)」が養成する看護師の社会ニーズについては「ニーズは高い」139箇所（62.9%）、「ニーズはある程度高い」53箇所（24.0%）で合計すると192箇所（86.9%）がそのニーズの高さを認める結果となった。
また、154箇所（69.7%）が採用意向を示し、その上での採用可能人数（単年度）合計は予定する入学定員80名の4.7倍となる378人であった。

問４　養成する人材の社会ニーズ（看護師）

ニーズは高い・ある程度高い	192事業所	86.9%
ニーズはない・あまりない・わからない・無回答	29事業所	13.1%
合計	221事業所	100.0%

問５　卒業生の採用意向（看護師）

採用したい	154事業所	69.7%
採用しない・わからない・無回答	67事業所	30.3%
合計	221事業所	100.0%

問６　問５で「採用したい」とした場合の採用意向人数（単年度）

	1人	2人	3人	4人	5人以上	人数は未定だが、最低1人	無回答	合計
「採用したい」の回答数	19	18	18	6	38	55	0	154
採用可能人数計（回答数×採用可能人数）	**19人**	**36人**	**54人**	**24人**	**190人**	**55人**	**0人**	**378人**

※「5人以上」は5人として計算した。
※「人数は未定だが、最低1人」は1人として計算した。

（２）佛教大学「看護学部 看護学科(仮称)」が養成する保健師に係るニーズ、採用意向

佛教大学「看護学部 看護学科(仮称)」が養成する保健師の社会ニーズについては「ニーズは高い」49箇所（22.2%）、「ニーズはある程度高い」61箇所（27.6%）で合計すると110箇所（49.8%）がそのニーズの高さを認める結果となった。
また、38箇所（17.2%）が採用意向を示し、その上での採用可能人数（単年度）合計は50人であった。

問７　養成する人材の社会ニーズ（保健師）

ニーズは高い・ある程度高い	110事業所	49.8%
ニーズはない・あまりない・わからない・無回答	111事業所	50.2%
合計	221事業所	100.0%

問８　卒業生の採用意向（保健師）

採用したい	38事業所	17.2%
採用しない・わからない・無回答	183事業所	82.8%
合計	221事業所	100.0%

	1人	2人	3人	4人	5人以上	人数は未定だが、最低1人	無回答	合計
「採用したい」の回答数	14	0	2	0	2	20	0	38
採用可能人数計（回答数×採用可能人数）	**14人**	**0人**	**6人**	**0人**	**10人**	**20人**	**0人**	**50人**

※「5人以上」は5人として計算した。
※「人数は未定だが、最低1人」は1人として計算した。

佛教大学「看護学部 看護学科（仮称）」
設置構想についての人材需要アンケート

佛教大学では、2026 年度より、保健医療技術学部看護学科を発展させ「看護学部 看護学科（仮称）」を設置構想中です。設置構想を推進するにあたり、新たに学部化することについてのニーズを的確にとらえることが重要と考え、設置構想についての採用意向に関する調査を実施させていただきたく存じます。
なお、この調査の結果は、統計資料としてのみ用い、他の用途に使用することはありません。また、設置計画は予定であり、今後変更となる可能性があります。

※このアンケート調査は佛教大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
※本アンケートおよびリーフレットに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

記入要領	1. 回答は**所定の欄を塗りつぶしてください。** 2. この用紙は電算処理しますので汚さないようにしてください。 3. 記入は必ず**鉛筆及びシャープペンシル**で濃く書いてください。	【記入例】● 北海道 0 茨城県

問１　貴事業所の代表所在地をお答えください。（あてはまるもの１つ）

0 北海道	0 青森県	0 岩手県	0 宮城県	0 秋田県	0 山形県	0 福島県
0 茨城県	0 栃木県	0 群馬県	0 埼玉県	0 千葉県	0 東京都	0 神奈川県
0 新潟県	0 富山県	0 石川県	0 福井県	0 山梨県	0 長野県	0 岐阜県
0 静岡県	0 愛知県	0 三重県	0 滋賀県	0 京都府	0 大阪府	0 兵庫県
0 奈良県	0 和歌山県	0 鳥取県	0 島根県	0 岡山県	0 広島県	0 山口県
0 徳島県	0 香川県	0 愛媛県	0 高知県	0 福岡県	0 佐賀県	0 長崎県
0 熊本県	0 大分県	0 宮崎県	0 鹿児島県	0 沖縄県		

問２　貴事業所の業種についてお答えください。（あてはまるもの１つ）

0 病院（特定機能病院以外）	0 病院（特定機能病院）	0 診療所・クリニック
0 高齢者・介護福祉施設	0 訪問看護ステーション	0 保健所・自治体
0 地域支援センター等	0 その他	

問３　貴事務所の従業員・職員規模として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの１つ）

0 20 名未満	0 20 名以上 100 名未満	0 100 名以上 300 名未満
0 300 名以上 1,000 名未満	0 1,000 名以上	

ここからは別添の佛教大学が設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称）」の
「リーフレット」をご確認いただき、ご回答をお願いいたします。

◆「看護師」人材のニーズについてお伺いいたします

問４　佛教大学が設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称）」の卒業生の「看護師」人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの１つ）

0 ニーズは高い	0 ニーズはある程度高い	0 ニーズはあまりない
0 ニーズはない	0 わからない	

問５　佛教大学が設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称)」の卒業生を「看護師」として、採用したいと思われますか。(あてはまるもの１つ)

0 ①採用したい　0 ②採用しない　0 ③わからない

問６　問５で「①採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

0 1人　0 2人　0 3人
0 4人　0 5人以上　0 人数は未確定だが、最低１人

◆「保健師」人材のニーズについてお伺いいたします

問７　佛教大学が設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称)」の卒業生の「保健師」人材についての社会ニーズについてお答えください。(あてはまるもの１つ)

0 ニーズは高い　0 ニーズはある程度高い　0 ニーズはあまりない
0 ニーズはない　0 わからない

問８　佛教大学が設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称)」の卒業生を「保健師」として、採用したいと思われますか。(あてはまるもの１つ)

0 ①採用したい　0 ②採用しない　0 ③わからない

問９　問８で「①採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

0 1人　0 2人　0 3人
0 4人　0 5人以上　0 人数は未確定だが、最低１人

※　佛教大学が設置構想中の「看護学部 看護学科（仮称)」について期待される点、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

※　宜しければ貴社名をお教えください。こちらは、どの企業にご返送いただいたかを把握するための質問であり、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・団体が識別できる情報として公表されることはございません。(ゴム印の押印でも問題ございません)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

2026年4月、佛大看護が生まれ変わります。

看護学部看護学科

仮称・設置構想中

※保健医療技術学部看護学科を発展的改組予定

佛教大学
BUKKYO UNIVERSITY

佛教大学「看護学部 看護学科（仮称）」は
充実した設備や総合大学の利点を活かした教育で全人的ケアができる
確かな臨床実践力をもつ看護師・保健師を養成します。

佛教大学「看護学部 看護学科（仮称）」設置の理念・必要性

超高齢社会が加速する我が国では、ヒューマンケアの中核的な担い手としての質の高い看護師・保健師（以下、看護職）を育成することが急務となっています。また、地域医療及び高齢者医療施策の充実化や、COVID-19のような新興感染症への対策強化、介護予防や特定健診・特定保健指導による重症化予防対策など、様々な場面において看護職の担う役割は大きくなっています。

このような状況を踏まえ、高度に進歩した医療技術に対応できる看護職、地域の保健医療福祉の中核的な専門職として社会ニーズに貢献できる看護職を養成することを目的として、保健医療技術学部看護学科から「看護学部看護学科（仮称）」へと深化します。

カリキュラム＜教育課程＞の特色

1 習熟度に応じた臨地実習

1年生から病院などの施設や地域で実習し、3・4年生ではさまざまな領域の看護を経験し、実践力に磨きをかけます。数人のグループに教員1名がつき、濃密な実習を行います。本学では実習指導体制が整っている施設にご協力いただき臨地実習を行っています。

実習期間が変更・延長となる場合があります。　※保健師課程受講者のみ

学年	1年生	2年生	3年生	4年生		
科目名	コミュニティ実習 基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ	領域別の看護学実習 （地域在宅・クリティカルケア・慢性・老年）	領域別の看護学実習 （小児・母性・精神）	総合実践看護実習	公衆衛生看護学 実習Ⅰ・Ⅱ※
内容	地域で暮らす生活者を知る実習を経験した後、既習した看護の知識や、コミュニケーション技法を積極的に活用し、看護に対する理解を深める。	病院で療養中の患者理解を深め、療養や暮らしを支えるために必要となる看護実践を学ぶ。	それぞれの看護領域において、患者・療養者への看護実践に必要な知識や技術を習得する。	小児・母性・精神それぞれの看護領域において、患者への看護実践に必要な知識や技術を習得する。	自ら医療や看護の今日的テーマと課題を選定し、学習課題を探求する実践課程を通して、看護実践能力の向上を図る。	地域や職域・学校での対象者の生活環境、健康課題を理解し、健康の保持・増進に向けた保健活動に必要な知識や技術を習得する。
期間・時期	コミュニティ実習 1週間（6月～10月） 基礎看護学実習Ⅰ 1週間（2月）	2週間（9月）	いずれの領域も 2～3週間（10月～2月）	いずれの領域も 2週間（5月～7月）	2週間（10月）	1週間（6月～7月） 4週間（8月～9月）

実習予定施設

病院・助産院 等（50音順）
いわくら病院、大阪医科薬科大学病院、大阪府済生会吹田病院、大津赤十字病院、近江八幡市立総合医療センター、北山病院、京都市立病院、京都第一赤十字病院、京都大学医学部附属病院、京都府助産師会、京都府立医科大学附属病院、滋賀県立小児保健医療センター、市立大津市民病院、長尾助産院、西陣病院、日本バプテスト病院、三菱京都病院、洛和会丸太町病院、海助産所　その他

高齢者施設 等
京都市地域介護予防推進センター、京都市老人福祉センター、特別養護老人ホーム「和順の里」
その他8カ所

こども園・幼稚園
佛教大学附属こども園、華頂短期大学附属幼稚園

訪問看護ステーション 等
京都市内をはじめとする訪問看護ステーション　11カ所
地域包括支援センター 13カ所

行政・学校・産業
保健所・市町保健センター、中学・高等学校、企業・健診センター

2 人の心に寄り添える力を養う独自の教育

人間の生を支える「仏教看護」や「ホリスティックケアアプローチ」、安心して人生の終焉を迎えるケアを行う「エンドオブライフケア」の科目を開設。本学の「共生（ともいき）」の理念をもとに人の心に寄り添える力を養います。

3 実践力と探究心を養成

これまでの学習を土台に、4年生の「看護研究」「統合実践看護実習」では、学生が自己の学習テーマを設定し、臨地において科学的思考に基づいた看護実践を展開します。学習テーマに基づいた実践レポートとしてまとめることで、この取り組みを通して自己の看護観を深めるとともに、今後の専門的な看護活動について考え、探究心・研究思考を養います。

ピックアップ授業

VRを用いた学習
フィジカルアセスメント技術

患者さんの体を系統的に観察するために、学生同士のロールプレイを通して問診・視診・触診・聴診・打診などの技術を学びます。さらにVRを用いて、健康障害のある仮想空間の患者さんの身体状況を観察します。この演習によってリアルに患者さんを感じ、体に起こっている異常をいち早くアセスメントする力を身につけます。

患者の気持ちに寄り添う援助を学ぶ
生活行動援助技術論

この授業では、病気や障害によって日常の生活行動に問題を持つ患者を援助するための基本的知識・技術・態度を学びます。学生同士で臨床現場を想定したロールプレイを実施し、衣生活、清潔、食事、排泄の援助について原理原則を理解しながら患者の気持ちに寄り添う援助方法を習得します。

学生納付金

1年目（入学金含む）	2年目以降
1,875,500円	1,844,500円

※上記金額には入学金・授業料・教育充実費・諸経費を含みます。
※予定であり変更となる場合があります。

看護学が学べる周辺大学

京都先端科学大学　京都橘大学　京都光華女子大学　同志社女子大学

アクセス

二条キャンパス　〒604-8418　京都市中京区西ノ京東栂尾町7

JR「京都」駅より約5分。JR・地下鉄「二条」駅下車。
市内各所より市バス利用、「二条駅前」バス停下車。

For More Information

佛教大学 入試情報サイト

佛教大学入学部から入試やオープンキャンパスなどの最新情報をお届けします。
https://www.bukkyo-u.ac.jp/find/

問合せ先
佛教大学〈企画課〉
TEL 075 (491) 2141 [月～金] 9：00～17：00
Mail new-faculty@bukkyo-u.ac.jp

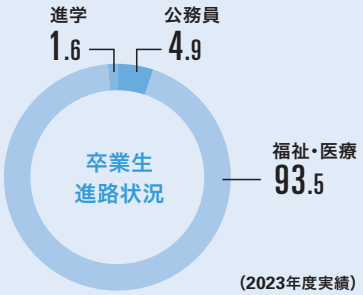
紫野キャンパス
〒603-8301
京都市北区紫野花ノ坊町96

二条キャンパス
〒604-8418
京都市中京区西ノ京東栂尾町7

学部・学科名称	看護学部 看護学科（仮称）	入学定員	80名（収容定員320名）
開設予定時期	2026年（令和8年）4月を予定	修業年限	4年
開設予定場所	二条キャンパス 京都市中京区西ノ京東栂尾町7	取得学位	学士（看護学）

卒業後の進路・取得可能な資格

※保健医療技術学部 看護学科の実績に基づきます。



（2023年度実績）
単位：%

主な就職先・進路先

【福祉・医療】日本赤十字社 京都第一赤十字病院／(大)京都府立医科大学附属病院／(大)滋賀医科大学 医学部附属病院／(独)京都市立病院機構／(大)東京大学 東京大学医学部附属病院／(学)東京医科大学 東京医科大学病院／日本赤十字社 京都第二赤十字病院／(学)大阪医科薬科大学 大阪医科薬科大学病院／日本赤十字社 大阪赤十字病院／(学)関西医科大学 関西医科大学附属病院／(大)京都大学 医学部附属病院 【公務員】京都府庁(保健師)／京都市役所(保健師)／長浜市役所(保健師)／福知山市役所(保健師)／箕面市役所(保健師)／【進学】洛和会京都看護学校(助産師課程) など

取得可能な資格

- **看護師（国家試験受験資格）**
- **保健師（国家試験受験資格）**

保健師課程（定員15名）で、保健師受験資格取得者は所定科目を修得すれば養護教諭二種と第一種衛生管理者の免許状の授与申請も可能です。

- **養護教諭二種免許**
- **第一種衛生管理者免許**

養成する人材像

佛教大学「看護学部看護学科（仮称）」は本学が既に置く医学リハビリテーション領域、教育関連領域とともにこれまでの伝統をさらに発展させ、人間の尊厳の重視と、高い理念、倫理、規範に裏づけられた崇高な精神とともに、ヒューマンケアの中核的担い手として看護の新たな価値を創造する力を有する人材を養成します。

アドミッションポリシー

豊かな人間性と倫理観を持ち、看護学の向上に努めて社会に貢献できる看護師、保健師を育成するため、次のような人を求めています。

- 看護学を学ぶために必要な基礎学力と継続する力を持ち、論理的に考えることができる人
- 看護職としてのスキルを高め、地域の人々の健康に貢献したいという意欲がある人
- 看護学を学び、豊かな感性と高い思考力、判断力を身につけようと努力できる人
- 相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現する力がある人
- 人に深い関心をもち、人の可能性を信じ、自分も他者も大切にできる人
- 人を思いやり、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる人

別記様式第３号（その１）

教　　員　　名　　簿

学　長　又　は　校　長　の　氏　名　等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 （千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ｻﾄｳ　ｶｽﾞﾕｷ 佐藤　和順 ＜令和７年４月＞		博士 （学校教育学）		佛教大学　学長 （令和7年4月～令和11年3月）

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（看護学部看護学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
1	基（主専）	教授（学部長）	ﾔﾌﾞｼﾀ ﾔｴ 藪下　八重 ＜令和8年4月＞		修士（看護学） ※		キャリア・スキルズ1	○	1前	1	1	佛教大学 保健医療技術学部 教授 （平30.4）	○		○	学部教育課程委員会	４日	
							慢性看護学Ⅰ ※	○	2後	1.5	1							
							慢性看護学Ⅱ	○	3前	1	1							
							慢性看護学実習	○	3後	3	1							
							看護倫理学 ※	○	4前	0.1	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.9	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
2	基（主専）	教授（学科長）	ﾊﾏﾖｼ ﾐｷ 濱吉　美穂 ＜令和8年4月＞		博士（看護学）		キャリア・スキルズ1	○	1前	1	1	佛教大学 保健医療技術学部 教授 （平25.4）	○		○	学部教育課程委員会	４日	
							老年看護学概論 ※	○	2前	0.6	1							
							老年看護方法論Ⅰ ※	○	2後	1.1	1							
							老年看護方法論Ⅱ	○	3前	1	1							
							老年看護学実習	○	3後	3	1							
							エンドオブライフケア論 ※	○	3前	0.5	1							
							看護倫理学 ※	○	4前	0.1	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.6	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
3	基（主専）	教授	ｱﾝﾄﾞｳ(ｵｵﾑﾗ) ﾁｱｷ 安藤(大村)　千晶 ＜令和8年4月＞		博士（看護学）		キャリア・スキルズ1	○	1前	1	1	佛教大学 保健医療技術学部 教授 （令7.4）	○		○	学部教育課程委員会	４日	
							コミュニティ実習	○	1通	1	1							
							地域・在宅看護学概論 ※	○	1後	0.6	1							
							地域・在宅看護方法論Ⅰ ※	○	2前	0.8	1							
							地域・在宅看護方法論Ⅱ	○	3前	1	1							
							地域・在宅看護学実習	○	3後	2	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
4	基（主専）	教授	ｺﾐﾔ ｹｲｺ 小宮　敬子 ＜令和8年4月＞		博士（看護学）		キャリア・スキルズ2	○	1後	1	1	佛教大学 保健医療技術学部 教授 （令7.4）	○		○	学部教育課程委員会	４日	
							アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1							
							精神看護学概論 ※	○	2前	0.5	1							
							精神看護方法論Ⅰ ※	○	2後	0.8	1							
							精神看護方法論Ⅱ ※	○	3前	0.2	1							
							精神看護学実習	○	4前	2	1							
							看護倫理学 ※	○	4前	0.1	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
5	基（主専）	教授	ﾀｼﾞﾘ(ﾎｿﾀ) ｷﾐｺ 田尻(細田)　后子 ＜令和8年4月＞		博士（保健医療学）		キャリア・スキルズ2	○	1後	1	1	佛教大学 保健医療技術学部 教授 （平25.4）	○		○	学部教育課程委員会	４日	
							アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1							
							母性看護学概論 ※	○	2前	0.7	1							
							母性看護方法論Ⅰ ※	○	2後	0.6	1							
							母性看護方法論Ⅱ	○	3前	1	1							
							母性看護学実習	○	4前	2	1							
							看護倫理学 ※	○	4前	0.1	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（看護学部看護学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
6	基（主専）	教授	ﾅｶｼﾏ ｺﾉﾐ 中島　小乃美 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		キャリア・スキルズ2	○	1後	1	1	佛教大学 保健医療技術学部 教授（平24.4）	○		○	学部教育課程委員会	４日	
							アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1							
							仏教看護		2前	1	1							
							看護実践基盤技術論	○	1前	2	1							
							フィジカルアセスメント技術	○	1後	1	1							
							生活行動援助技術論	○	1後	2	1							
							看護過程論	○	2前	1	1							
							診療援助技術論Ⅰ	○	2前	1	1							
							診療援助技術論Ⅱ	○	2後	1	1							
							基礎看護学実習Ⅰ	○	1後	1	1							
							基礎看護学実習Ⅱ	○	2前	2	1							
							ホリスティックケアアプローチ	○	3前	1	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
7	基（主専）	教授	ﾊﾏｻﾞｷ ﾕｳｺ 浜崎　優子 ＜令和8年4月＞		博士（医学）		キャリア・スキルズ2	○	1後	1	1	佛教大学 保健医療技術学部 教授（平28.4）	○		○	学部教育課程委員会	４日	
							アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1							
							公衆衛生看護学概論 ※	○	2後	1.8	1							
							公衆衛生看護方法論Ⅰ ※	○	2後	0.3	1							
							公衆衛生看護方法論Ⅱ		3前	2	1							
							公衆衛生看護展開論Ⅰ		3前	2	1							
							公衆衛生看護展開論Ⅱ ※		3前	0.1	1							
							公衆衛生看護管理論Ⅰ		3前	2	1							
							公衆衛生看護管理論Ⅱ ※		3前	1.8	1							
							公衆衛生看護活動論		4前	2	1							
							公衆衛生看護学実習Ⅰ		4前	1	1							
							公衆衛生看護学実習Ⅱ		4前	4	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
8	基（主専）	教授	ﾔｽｲ ｺｳｲﾁﾛｳ 安居　幸一郎 ＜令和8年4月＞		博士（医学）		生命を考える		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 保健医療技術学部 教授（平30.4）	○		○	学部教育課程委員会	４日	
							病理学概論		1後	2	1							
							疾病論Ⅰ		1後	2	1							
							疾病論Ⅱ		1後	2	1							
							疾病論Ⅲ		2前	2	1							
							公衆衛生看護方法論Ⅱ		3前	2	1							
							臨床推論	○	4後	1	1							
9	基（主専）	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾅｵﾐ 山本　直美 ＜令和8年4月＞		博士（保健学）		キャリア・スキルズ1	○	1前	1	1	佛教大学 保健医療技術学部 教授（平28.4）	○		○	学部教育課程委員会	４日	
							看護学概論	○	1前	2	1							
							看護実践基盤技術論	○	1前	2	1							
							フィジカルアセスメント技術	○	1後	1	1							
							生活行動援助技術論	○	1後	2	1							
							看護過程論	○	2前	1	1							
							診療援助技術論Ⅰ	○	2前	1	1							
							診療援助技術論Ⅱ	○	2後	1	1							
							基礎看護学実習Ⅰ	○	1後	1	1							
							基礎看護学実習Ⅱ	○	2前	2	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
							看護教育学	○	4後	1	1							

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（看護学部看護学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
10	基（主専）	准教授	ｱﾍﾞ ｱｶﾈ 阿部　あかね ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1	佛教大学 保健医療技術学部 准教授 （平24.4）	○		○	学部教育課程委員会	4日	
							精神看護学概論 ※	○	2前	0.4	1							
							精神看護方法論Ⅰ ※	○	2後	0.8	1							
							精神看護方法論Ⅱ ※	○	3前	0.5	1							
							精神看護学実習	○	4前	2	1							
							看護倫理学 ※	○	4前	0.4	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
11	基（主専）	准教授	ｷﾄｳ ﾔｽｺ 鬼頭　泰子 ＜令和8年4月＞		博士 （保健学）		アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1	佛教大学 保健医療技術学部 准教授 （平25.4）	○		○	学部教育課程委員会	4日	
							小児看護学概論 ※	○	2前	0.1	1							
							小児看護方法論Ⅰ ※	○	2後	1	1							
							小児看護方法論Ⅱ	○	3前	1	1							
							小児看護学実習	○	4前	2	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
12	基（主専）	准教授	ｼﾐｽﾞ ﾅｵﾐ 清水　奈穂美 ＜令和8年4月＞		修士 （看護学）		コミュニティ実習	○	1通	1	1	佛教大学 保健医療技術学部 准教授 （令4.4）	○		○	学部教育課程委員会	4日	
							地域・在宅看護学概論 ※	○	1後	0.4	1							
							地域・在宅看護方法論Ⅰ ※	○	2前	0.8	1							
							地域・在宅看護方法論Ⅱ	○	3前	1	1							
							地域・在宅看護学実習	○	3後	2	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
13	基（主専）	准教授	ﾀﾉﾅｶ ｷﾖｳｺ 田野中　恭子 ＜令和8年4月＞		博士 （保健学）		アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1	佛教大学 保健医療技術学部 准教授 （平24.4）	○		○	学部教育課程委員会	4日	
							公衆衛生看護学概論 ※	○	2後	0.1	1							
							公衆衛生看護方法論Ⅰ ※	○	2後	1.4	1							
							公衆衛生看護方法論Ⅱ		3前	2	1							
							公衆衛生看護展開論Ⅰ		3前	2	1							
							公衆衛生看護展開論Ⅱ ※		3前	1.6	1							
							公衆衛生看護管理論Ⅰ		3前	2	1							
							公衆衛生看護管理論Ⅱ ※		3前	0.1	1							
							公衆衛生看護活動論		4前	2	1							
							公衆衛生看護学実習Ⅰ		4前	1	1							
							公衆衛生看護学実習Ⅱ		4前	4	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
14	基（主専）	准教授	ﾊｾｶﾞﾜ ﾕｶ 長谷川　由香 ＜令和8年4月＞		博士 （教育学）		キャリア・スキルズ2	○	1後	1	1	佛教大学 保健医療技術学部 准教授 （平30.4）	○		○	学部教育課程委員会	4日	
							アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1							
							小児看護学概論 ※	○	2前	0.9	1							
							小児看護方法論Ⅰ ※	○	2後	0.7	1							
							小児看護方法論Ⅱ	○	3前	1	1							
							小児看護学実習	○	4前	2	1							
							看護倫理学 ※	○	4前	0.1	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（看護学部看護学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
15	基（主専）	准教授	ﾘｷ ｻｷｺ 利木　佐起子 ＜令和8年4月＞		修士 （看護学） ※		キャリア・スキルズ1	○	1前	1	1	佛教大学 保健医療技術学部 准教授 （平24.4）	○		○	学部教育課程委員会	4日	
							クリティカルケア看護学Ⅰ ※	○	2後	1.9	1							
							クリティカルケア看護学Ⅱ	○	3前	1	1							
							クリティカルケア看護学実習	○	3後	3	1							
							災害看護学	○	3前	1	1							
							看護倫理学 ※	○	4前	0.1	1							
							看護マネジメント	○	4後	1	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
							クリティカルケア看護実践	○	4後	1	1							
16	基（主専）	講師	ｱﾍﾞ ﾒｸﾞﾐ 阿部　慈美 ＜令和8年4月＞		修士 （応用情報科学）		スタディ・スキルズ	○	1前	2	1	佛教大学 保健医療技術学部 講師 （平30.4）	○		○	学部教育課程委員会	4日	
							老年看護学概論 ※	○	2前	0.3	1							
							老年看護方法論Ⅰ ※	○	2後	0.8	1							
							老年看護方法論Ⅱ	○	3前	1	1							
							老年看護学実習	○	3後	3	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
17	基（主専）	講師	ｵｶﾀﾞ ｱｹﾐ 岡田　朱民 ＜令和8年4月＞		博士 （看護学）		スタディ・スキルズ	○	1前	2	1	佛教大学 保健医療技術学部 講師 （平29.4）	○		○	学部教育課程委員会	4日	
							看護実践基盤技術論	○	1前	2	1							
							フィジカルアセスメント技術	○	1後	1	1							
							生活行動援助技術論	○	1後	2	1							
							看護過程論	○	2前	1	1							
							診療援助技術論Ⅰ	○	2前	1	1							
							診療援助技術論Ⅱ	○	2後	1	1							
							基礎看護学実習Ⅰ	○	1後	1	1							
							基礎看護学実習Ⅱ	○	2前	2	1							
							ホリスティックケアアプローチ	○	3前	1	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
18	基（主専）	講師	ｺﾏｲ ｶｽﾞｺ 駒井　和子 ＜令和9年4月＞		修士 （看護学）		地域・在宅看護方法論Ⅰ ※	○	2前	0.4	1	医療法人青葉会 訪問看護ステーションさと水口 統括所長 （平27.12）	○		○	学部教育課程委員会	4日	
							地域・在宅看護方法論Ⅱ	○	3前	1	1							
							地域・在宅看護学実習	○	3後	2	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
19	基（主専）	講師	ﾀｶｵｶ(ｱﾗｷ) ﾋｻｴ 高岡（荒木）寿江 ＜令和8年4月＞		修士 （保健看護）		スタディ・スキルズ	○	1前	2	1	佛教大学 保健医療技術学部 講師 （平24.4）	○		○	学部教育課程委員会	4日	
							慢性看護学Ⅰ ※	○	2後	0.5	1							
							慢性看護学Ⅱ	○	3前	1	1							
							慢性看護学実習	○	3後	3	1							
							エンドオブライフケア論 ※	○	3前	0.5	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（看護学部看護学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
20	基（主専）	講師	ﾁｮｳ ｽｳﾗｲ 趙　崇来 ＜令和8年4月＞		修士（人間健康科学）※		スタディ・スキルズ	○	1前	2	1	佛教大学 保健医療技術学部講師（令4.9）	○		○	学部教育課程委員会	４日	
							クリティカルケア看護学Ⅰ ※	○	2後	0.1	1							
							クリティカルケア看護学Ⅱ	○	3前	1	1							
							クリティカルケア看護学実習	○	3後	3	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
							クリティカルケア看護実践	○	4後	1	1							
21	基（主専）	講師	ﾄﾐｻﾞﾜ ﾘｴ 冨澤　理恵 ＜令和8年4月＞		博士（看護学）		アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1	大阪公立大学看護学部講師（令4.4）	○		○	学部教育課程委員会	４日	
							看護実践基盤技術論	○	1前	2	1							
							フィジカルアセスメント技術	○	1後	1	1							
							生活行動援助技術論	○	1後	2	1							
							看護過程論	○	2前	1	1							
							診療援助技術論Ⅰ	○	2前	1	1							
							診療援助技術論Ⅱ	○	2後	1	1							
							基礎看護学実習Ⅰ	○	1後	1	1							
							基礎看護学実習Ⅱ	○	2前	2	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
22	基（主専）	講師	ﾊﾔｾ ﾏｺ 早瀬　麻子 ＜令和8年4月＞		博士（保健学）		アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1	佛教大学 保健医療技術学部講師（令2.4）	○		○	学部教育課程委員会	４日	
							母性看護学概論 ※	○	2前	0.3	1							
							母性看護方法論Ⅰ ※	○	2後	0.7	1							
							母性看護方法論Ⅱ	○	3前	1	1							
							母性看護学実習	○	4前	2	1							
							国際看護学	○	2前	1	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
23	基（主専）	助教	ｵｶｻﾞｷ ﾐﾄﾞﾘ 岡崎　翠 ＜令和9年4月＞		学士（保健学）		基礎看護学実習Ⅱ	○	2前	2	1	大阪医科薬科大学病院看護師（令元.4）			○	学部教育課程委員会	４日	
							母性看護方法論Ⅰ ※	○	2後	0.6	1							
							母性看護方法論Ⅱ	○	3前	1	1							
							母性看護学実習	○	4前	2	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
24	基（主専）	助教	ｽｽﾞｷ ｺｳｲﾁﾛｳ 鈴木　皓一朗 ＜令和8年4月＞		学士（保健学）		基礎看護学実習Ⅱ	○	2前	2	1	佛教大学 保健医療技術学部助教（令7.4）			○	学部教育課程委員会	４日	
							クリティカルケア看護学Ⅱ	○	3前	1	1							
							クリティカルケア看護学実習	○	3後	3	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
25	基（主専）	助教	ﾅｶﾀﾆ ｶｵﾘ 中谷　香 ＜令和8年4月＞		修士（臨床教育学）		基礎看護学実習Ⅱ	○	2前	2	1	佛教大学 保健医療技術学部助教（令3.4）			○	学部教育課程委員会	４日	
							小児看護方法論Ⅰ ※	○	2後	0.3	1							
							小児看護方法論Ⅱ	○	3前	1	1							
							小児看護学実習	○	4前	2	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（看護学部看護学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
26	基（主専）	助教	ﾉｸﾞﾁ ﾘﾖｳ 野口　遼 ＜令和8年4月＞		修士（看護学）		アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1	佛教大学 保健医療技術学部 助教（令4.4）			○	学部教育課程委員会	４日	
							看護実践基盤技術論	○	1前	2	1							
							フィジカルアセスメント技術	○	1後	1	1							
							生活行動援助技術論	○	1後	2	1							
							看護過程論	○	2前	1	1							
							診療援助技術論Ⅰ	○	2前	1	1							
							診療援助技術論Ⅱ	○	2後	1	1							
							基礎看護学実習Ⅰ	○	1後	1	1							
							基礎看護学実習Ⅱ	○	2前	2	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
27	基（主専）	助教	ﾏﾂｶﾜ(ｵｸ) ﾔｽｺ 松川(億) 泰子 ＜令和8年4月＞		修士（医科学）		アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1	佛教大学 保健医療技術学部 助教（令7.4）			○	学部教育課程委員会	４日	
							公衆衛生看護学概論 ※	○	2後	0.1	1							
							公衆衛生看護方法論Ⅰ ※	○	2後	0.3	1							
							公衆衛生看護方法論Ⅱ		3前	2	1							
							公衆衛生看護展開論Ⅰ		3前	2	1							
							公衆衛生看護展開論Ⅱ ※		3前	0.3	1							
							公衆衛生看護管理論Ⅰ		3前	2	1							
							公衆衛生看護管理論Ⅱ ※		3前	0.1	1							
							公衆衛生看護活動論		4前	2	1							
							公衆衛生看護学実習Ⅰ		4前	1	1							
							公衆衛生看護学実習Ⅱ		4前	4	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
28	基（主専）	助教	ﾏﾙｼｹﾞ ﾕｳﾀ 丸繁　裕太 ＜令和9年4月＞		学士（保健学）		基礎看護学実習Ⅱ	○	2前	2	1	京都第一赤十字病院 看護師（令5.10）			○	学部教育課程委員会	４日	
							老年看護学概論 ※	○	2前	0.1	1							
							老年看護方法論Ⅰ ※	○	2後	0.1	1							
							老年看護方法論Ⅱ	○	3前	1	1							
							老年看護学実習	○	3後	3	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
29	基（主専）	助教	ﾔﾏｵｶ ﾚﾐ 山岡　怜未 ＜令和9年4月＞		学士（保健学）		基礎看護学実習Ⅱ	○	2前	2	1	済生会滋賀県病院SCU 看護師（令2.1）			○	学部教育課程委員会	４日	
							慢性看護学Ⅱ	○	3前	1	1							
							慢性看護学実習	○	3後	3	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
30	基（主専）	助教	ﾔﾏｷﾞｼ ﾜｶﾅ 山岸　若菜 ＜令和8年4月＞		修士（応用人間科学）		基礎看護学実習Ⅱ	○	2前	2	1	京都看護大学 助教（令6.4）			○	学部教育課程委員会	４日	
							精神看護学概論 ※	○	2前	0.1	1							
							精神看護方法論Ⅰ ※	○	2後	0.3	1							
							精神看護方法論Ⅱ ※	○	3前	0.3	1							
							精神看護学実習	○	4前	2	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
31	基（主専）	助教	ﾔﾏﾓﾄ ﾏｺ 山本　真子 ＜令和8年4月＞		修士（保健看護）		基礎看護学実習Ⅱ	○	2前	2	1	佛教大学 保健医療技術学部 助教（令3.4）			○	学部教育課程委員会	４日	
							コミュニティ実習	○	1通	1	1							
							地域・在宅看護方法論Ⅱ	○	3前	1	1							
							地域・在宅看護学実習	○	3後	2	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（看護学部看護学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
32	基（主専）	助教	ﾖｼﾊﾗ ｱﾔｺ 吉原　文子 ＜令和8年4月＞		修士（看護学）		アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1	神戸女子大学看護学部 助教（令3.4）			○	学部教育課程委員会	４日	
							看護実践基盤技術論	○	1前	2	1							
							フィジカルアセスメント技術	○	1後	1	1							
							生活行動援助技術論	○	1後	2	1							
							看護過程論	○	2前	1	1							
							診療援助技術論Ⅰ	○	2前	1	1							
							診療援助技術論Ⅱ	○	2後	1	1							
							基礎看護学実習Ⅰ	○	1後	1	1							
							基礎看護学実習Ⅱ	○	2前	2	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
33	基（専他）	教授	ｽｴﾔｽ ﾀﾐｵ 末安　民生 ＜令和8年4月＞		修士（医療福祉）		キャリア・スキルズ1	○	1前	1	1	佛教大学 保健医療技術学部 客員教授（令7.4）			○	学部教育課程委員会	４日	
							キャリア・スキルズ2	○	1後	1	1							
							保健医療福祉行政論		2前	2	1							
							コミュニティ実習	○	1通	1	1							
							看護研究Ⅰ ※	○	4前	0.5	1							
							看護研究Ⅱ	○	4後	1	1							
							統合実践看護実習	○	4通	2	1							
34	その他	教授	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾞｭﾝ 安藤　潤 ＜令和8年4月＞		経済学修士		くらしの中の経済		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 社会学部 教授（令元.4）						
35	その他	教授	ｲ ｽﾝﾖﾌﾟ 李　昇燁 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		海外語学研修（韓国語）		1・2・3・4通	1	1	佛教大学 歴史学部 教授（平23.4）						
36	その他	教授	ｲﾄｳ ﾏｻﾋﾛ 伊藤　真宏 ＜令和8年4月＞		文学修士		佛教大学の理念と歴史		1前	2	1	佛教大学 仏教学部 教授（平23.4）						
							仏教の人間観と死生観		1・2・3・4前・後	4	2							
37	その他	教授	ｳﾙﾊ ｼｹﾞﾋｺ 漆葉　成彦 ＜令和8年4月＞		医学士		病と人間の歩み		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 保健医療技術学部 教授（平18.4）						
							医療概論		1前	1	1							
							疾病論Ⅳ ※		2前	0.9	1							
							公衆衛生学		2前	2	1							
38	その他	教授	ｵｵﾆｼ ﾏｷｺ 大西　磨希子 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		日本の仏教芸術とその鑑賞		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 仏教学部 教授（平22.4）						
39	その他	教授	ｵｻﾞﾜ ﾋﾄｼ 小澤　一史 ＜令和8年4月＞		医学博士		基礎解剖学		1前	2	1	佛教大学 保健医療技術学部 教授（令4.4）						
							基礎生理学		1前	2	1							
40	その他	教授	ｶｲ ﾋﾃﾞﾕｷ 貝　英幸 ＜令和9年4月＞		文学修士		プロジェクトB		2・3・4通	2	1	佛教大学 歴史学部 教授（平12.4）						
41	その他	教授	ｺﾝﾄﾞｳ ﾄｼｵ 近藤　敏夫 ＜令和8年4月＞		文学修士		個人と社会の関係を考える		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 社会学部 教授（平6.4）						
42	その他	教授	ｻｲﾄｳ ﾄｼﾋｺ 斉藤　利彦 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		大学コンソーシアム		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 歴史学部 教授（平24.4）						
43	その他	教授	ｻｶﾓﾄ ﾂﾄﾑ 坂本　勉 ＜令和8年4月＞		修士（社会学）		福祉と社会		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 社会福祉学部 教授（平12.4）						
44	その他	教授	ｻｸﾀ ｾｲｲﾁﾛｳ 作田　誠一郎 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		プロジェクトA		2・3・4通	2	1	佛教大学 社会学部 教授（平27.4）						
45	その他	教授	ﾋﾀﾞｶ ﾖｼｷ 日高　佳紀 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		ことばと文学		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 文学部 教授（令5.4）						
46	その他	教授	ﾌｼﾞｶﾜ ﾀｶﾐﾂ 藤川　孝満 ＜令和8年4月＞		博士（工学）		人間の仕組みと活動		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 保健医療技術学部 教授（平20.4）						

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（看護学部看護学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
47	その他	教授	ﾓﾁﾄﾞﾒ ｺｳｼﾞ 持留　浩二 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		海外語学研修（英語）		1・2・3・4通	1	1	佛教大学 文学部 教授 （平15.4）						
48	その他	准教授	ｲﾁｶﾜ ｻﾀﾞﾀｶ 市川　定敬 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		ブッダと法然 東洋と西洋における思想・哲学・宗教	○	1前 1・2・3・4前・後	2 4	1 2	佛教大学 仏教学部 准教授 （平27.4）						
49	その他	准教授	ｲﾈﾅｶﾞ ﾄﾓﾖ 稲永　知世 ＜令和8年4月＞		修士 （言語文化学）		文化の中から考える多文化共生		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 文学部 准教授 （令元.4）						
50	その他	准教授	ｾﾍﾞ ｹｲｺ 瀬邊　啓子 ＜令和8年4月＞		博士 （言語文化学）		アジアの暮らし 海外語学研修（中国語） 海外語学研修（ベトナム語）		1前 1・2・3・4通 1・2・3・4通	2 1 1	1 1 1	佛教大学 文学部 准教授 （平20.4）						
51	その他	准教授	ﾅｶﾆｼ ｴｲｲﾁ 中西　英一 ＜令和9年9月＞		博士 （保健学）		精神看護方法論Ⅰ ※	○	2後	0.1	1	佛教大学 保健医療技術学部 准教授 （令2.4）						
52	その他	准教授	ﾐﾔﾑﾗ ｷｮｳﾍｲ 宮村　教平 ＜令和8年4月＞		博士 （法学）		日本国憲法		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 教育学部 准教授 （令元.4）						
53	その他	准教授	ﾒﾄﾞﾛｯｸ ﾐﾅｵ ﾏﾔ ﾒﾄﾞﾛｯｸ 皆尾 麻弥 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		英語圏の暮らし		1前	2	1	佛教大学 文学部 准教授 （平26.4）						
54	その他	講師	ｴｽﾀ ﾃｨﾅ ｵｯﾄﾏﾝ Esta Tina Ottman ＜令和8年4月＞		Doctor of Philosophy （英国）		Communication Seminar１ Communication Seminar２ English Lecture１ English Lecture２		1前 1前 1前 1前	2 2 2 2	1 1 1 1	同志社大学 神教学際研究センター リサーチフェロー （令4.4）						
55	その他	講師	ｼﾞｮﾝ ｱｼｭﾊﾞｰﾝ John F.Ashburne ＜令和8年4月＞		Bachelor of Arts （英国）		初級英語会話１ 初級英語会話２		1前 1前	1 1	1 1	佛教大学 非常勤講師 （平14.4）						
56	その他	講師	ﾙｲ ﾍﾞｼﾞｴ Louis BEZIERS ＜令和8年4月＞		Master in Public Policy （仏国）		中級フランス語		1前	1	1	アンスティチュ・フレンセ関西 教務部　講師 （平23.1）						
57	その他	講師	ﾁｭｰﾝ ｼ ｷﾝ ﾎｱ Truong Thi Kim Hoa ＜令和8年4月＞		修士 （言語文化学）		初級ベトナム語１ 初級ベトナム語２		1前 1前	1 1	1 1	佛教大学 非常勤講師 （平24.4）						
58	その他	講師	ｳｨﾘｱﾑ ﾌｪﾈﾙ William Fennell ＜令和8年4月＞		Master of Arts （米国）		General English２		1前	1	1	佛教大学 文学部 講師 （平29.4）						
59	その他	講師	ｱｹﾀﾞ ﾄﾓｺ 明田　朋子 ＜令和8年4月＞		博士 （人間健康科学）		コミュニティ実習 地域・在宅看護学実習	○ ○	1通 3後	1 2	1 1	佛教大学 保健医療技術学部 講師 （令4.3まで）						
60	その他	講師	ｱｻﾀﾞ ﾋﾄﾐ 浅田　瞳 ＜令和8年4月＞		博士 （教育学）		教育事情を知る		1・2・3・4前・後	4	2	京都文教大学 臨床心理学部 准教授 （令5.4）						
61	その他	講師	ｱｼﾊﾗ ﾉﾘｺ 芦原　典子 ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		ICTリテラシー		1前	2	1	佛教大学 非常勤講師 （平17.4）						
62	その他	講師	ｲｹｻﾞﾜ ﾀﾞｲ 池澤　大 ＜令和8年4月＞		学士 （経済学）		ライフ・キャリアデザイン		1・2・3前・後	2	2	野村証券株式会社 京都支店 法人課長(平19.4)						
63	その他	講師	ｲｼｼﾞ ｱｲｺ 石治　藍子 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		Integrated Communication Skills１ Integrated Communication Skills２ Integrated Communication Skills３ Integrated Communication Skills４		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	佛教大学 非常勤講師 （平23.4）						
64	その他	講師	ｲﾄｳ ﾂﾊﾞｻ 伊藤　翼 ＜令和8年4月＞		博士 （理学）		数学の言葉で世界を観る		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 教育学部 講師 （令4.4）						
65	その他	講師	ｳｴﾃﾞ ﾋﾛｼ 上出　浩 ＜令和8年4月＞		修士 （法学）		プログラミングを学ぶ		1前	2	1	佛教大学 非常勤講師 （平10.4）						

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（看護学部看護学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
66	その他	講師	ｳｴﾉ ｼﾞｭﾝ 上野　潤 ＜令和8年4月＞		修士 （文学） （韓国）		初級韓国語１ 初級韓国語２		1前 1前	1 1	1 1	京都芸術大学 客員教授 （平29.4）						
67	その他	講師	ｵｴ ﾅﾐｺ 小江　奈美子 ＜令和10年9月＞		修士 （看護学）		慢性看護学実習	○	3後	3	1	京都大学医学部附属病院専門看護師 （令7.3まで）						
68	その他	講師	ｵｵｷﾀ ｾﾂｺ 大北　勢津子 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		Intensive Reading１ Intensive Reading２ Skill-building（TOEIC500） １ Skill-building（TOEIC500） ２		1前 1後 1前 1前	1 1 1 1	1 1 1 1	佛教大学 非常勤講師 （平22.4）						
69	その他	講師	ｵｵﾀﾆ ﾕｳﾔ 大谷　侑也 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		自然と地理		1・2・3・4前・後	4	2	摂南大学 国際学部 講師 （令5.4）						
70	その他	講師	ｵｶﾓﾄ ﾖｳﾉｽｹ 岡本　洋之介 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		初級中国語１ 初級中国語２		1前 1前	1 1	1 1	佛教大学 非常勤講師 （平14.4）						
71	その他	講師	ｵｸﾑﾗ ﾕｶ 奥村　祐香 ＜令和8年9月＞		学士 （看護学）		基礎看護学実習Ⅰ	○	1後	1	1	(医)岡藤会岡藤クリニック 看護師 （令7.1）						
72	その他	講師	ｵｼﾝｸﾞﾘ ﾔｽﾖ 押栗　泰代 ＜令和11年4月＞		修士 （看護学）		公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ		4前 4前	1 4	1 1	ﾅｰｼﾝｸﾞｸﾘｴｲﾄ(株) 代表取締役 （平23.2）						
73	その他	講師	ｶﾜｸﾞﾁ ﾅﾙﾄ 川口　成人 ＜令和8年4月＞		博士 （歴史学）		前近代の世界・日本		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 非常勤講師 （令6.4）						
74	その他	講師	ｶﾜﾉ ﾕｳﾅ 河野　優那 ＜令和11年4月＞		学士 （保健学）		小児看護学実習	○	4前	2	1	兵庫県立こども病院 看護師 （令2.4）						
75	その他	講師	ｶﾝﾉｳ ﾌﾐｶ 金納　史佳 ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		心の世界を考える		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 非常勤講師 （平30.4）						
76	その他	講師	ｷｼﾞ ﾐﾁｵ 貴治　康夫 ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		生物の世界		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 非常勤講師 （令4.4）						
77	その他	講師	ｷﾀﾑﾗ ﾀｴ 北村　多英 ＜令和10年9月＞		学士 （保健学）		クリティカルケア看護学実習	○	3後	3	1	(株)ベストライフ・プロモーション 保健師 （令6.8）						
78	その他	講師	ｷﾄﾞ ﾀｶﾋﾛ 木戸　隆宏 ＜令和8年4月＞		理学士		栄養学 生化学 感染免疫学		1後 1前 1後	2 2 1	1 1 1	佛教大学 非常勤講師 （令4.9）						
79	その他	講師	ｷﾇｶﾞﾜ ﾌﾐ 衣川　二三 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		地球人になろう ―グローバリゼーションと文化― 世界のニュースから見る日本		1前 1・2・3・4前・後	2 4	1 2	佛教大学 非常勤講師 （平27.4）						
80	その他	講師	ｷﾑ ﾋｮﾝｿﾝ 金　賢善 ＜令和8年4月＞		修士 （人間・環境学）		中級韓国語		1前	1	1	佛教大学 非常勤講師 （平22.4）						
81	その他	講師	ｷｮｳ ｼｮｳ 喬　昭 ＜令和8年4月＞		博士 （文化交渉学）		中級中国語		1前	1	1	佛教大学 文学部 講師 （令6.4）						
82	その他	講師	ｷﾖｶﾜ ｻﾁｴ 清川　祥恵 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		General English１		1前	1	1	佛教大学 文学部 講師 （令3.4）						
83	その他	講師	ｸｽｷ ｲｽﾞﾐ 楠木　泉 ＜令和9年4月＞		博士 （医学）		疾病論Ⅳ ※		2前	1.1	1	京都府立医科大学大学院 保健看護学研究科 教授 （令2.4）						
84	その他	講師	ｸﾘﾓﾄ ﾕﾐ 栗本　裕見 ＜令和8年4月＞		修士 （法学）		世界と日本の政治		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 非常勤講師 （平19.4）						
85	その他	講師	ｺｳﾉ ﾘｮｳﾀ 河野　良太 ＜令和9年4月＞		経営修士 （専門職）		職業世界を知る		2・3前・後	2	2	島根県大阪事務所 移住計画プランナー 会計年度職員(平31.4)						

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（看護学部看護学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
86	その他	講師	ｾｷﾓﾄ ﾐﾎ 関本　美穂 ＜令和9年9月＞		医学博士		看護疫学		2後	2	1	京都府立医科大学大学院 医学研究科 講師 （令6.4）						
87	その他	講師	ﾀﾅｶ ﾋﾛｷ 田中　宏樹 ＜令和8年9月＞		博士 （情報学）		データサイエンスの基礎を実践する		1後	1	1	京都大学大学院 情報学研究科 特定研究員 （令6.4）						
88	その他	講師	ﾀﾅｶ ﾘｮｳｺ 田中　亮子 ＜令和8年9月＞		修士 （学術）		基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ	○ ○	1後 2前	1 2	1 1	大阪青山大学 看護学部 講師 （令5.4）						
89	その他	講師	ﾀﾅﾍﾞ ｼｮｳﾍｲ 田辺　翔平 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		Integrated Communication Skills１ Integrated Communication Skills２ Integrated Communication Skills３ Integrated Communication Skills４		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	佛教大学 非常勤講師 （平29.4）						
90	その他	講師	ﾂｼﾞ ﾏｻｺ 辻　昌子 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		初級フランス語１ 初級フランス語２		1前 1前	1 1	1 1	佛教大学 非常勤講師 （平28.4）						
91	その他	講師	ﾃﾗﾆｼ ﾕｳｲﾁ 寺西　裕一 ＜令和9年4月＞		修士 （政策学）		自己表現とコミュニケーション		2・3前・後	2	2	有限会社ユウセイプランニング 代表 （平13.6）						
92	その他	講師	ﾄﾞｲ ﾌﾕｷ 土井　冬樹 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		世界の民族文化		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 非常勤講師 （令6.4）						
93	その他	講師	ﾅｲﾄｳ ﾐﾁﾖ 内藤　みちよ ＜令和9年4月＞		文学修士 ※		臨床心理学		2前	1	1	佛教大学 非常勤講師 （平14.8）						
94	その他	講師	ﾅｶﾞｵ ﾌﾐﾀｶ 長尾　文孝 ＜令和8年4月＞		修士 （環境科学） ※		統計学の基礎を学ぶ		1前	2	1	佛教大学 非常勤講師 （平11.4）						
95	その他	講師	ﾅｶｼﾞﾏ ｼﾝﾍﾟｲ 中嶋　晋平 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		情報・メディアと社会		1・2・3・4前・後	4	2	鹿児島大学 「鹿児島の近現代」 教育研究センター 特任助教 （令5.4）						
96	その他	講師	ﾅｶﾞｼﾏ ﾋｻｴ 長嶋　久恵 ＜令和8年4月＞		修士 （人間科学）		キャリア形成とマネジメント		1・2・3前・後	2	2	佛教大学 非常勤講師 （令元.4）						
97	その他	講師	ﾅｶﾀ ﾋﾛｼｹﾞ 中田　博維 ＜令和8年4月＞		法学士		マイファーストキャリア		1・2・3前・後	2	2	毎日新聞社 大阪本社地方部 記者 （平2.4）						
98	その他	講師	ﾆｼﾓﾄ ｱｷｵ 西本　明央 ＜令和8年4月＞		修士 （文学） ※		初級ドイツ語１ 初級ドイツ語２		1前 1前	1 1	1 1	佛教大学 非常勤講師 （平12.4）						
99	その他	講師	ﾉｶﾞ ﾀｶｵ 野田　隆生 ＜令和9年4月＞		修士 （社会福祉学）		仏教看護		2前	1	1	華頂短期大学 幼児教育学科 准教授 （平16.4）						
100	その他	講師	ﾋﾗｵ ﾏｻﾋﾛ 平尾　昌宏 ＜令和8年4月＞		文学修士 ※		中級ドイツ語		1前	1	1	佛教大学 非常勤講師 （平14.4）						
101	その他	講師	ﾌｼﾞｲ ﾀｹｼ 藤井　健志 ＜令和9年4月＞		博士 （薬学）		薬理学		2前	1	1	同志社女子大学 薬学部 教授 （平25.4）						
102	その他	講師	ﾌｼﾞｵｶ ﾏｻｷ 藤岡　真樹 ＜令和8年4月＞		博士 （人間･環境学）		近現代の世界・日本		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 非常勤講師 （平30.4）						
103	その他	講師	ﾎﾞｸ ｷﾞﾝｷ 朴　銀姫 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		世界の中の日本文化・京都文化		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 非常勤講師 （平21.4）						
104	その他	講師	ﾏﾂｵ ｱｷｺ 松尾　章子 ＜令和8年4月＞		修士 （教育学） （米国）		Intensive Reading１ Intensive Reading２		1前 1後	1 1	1 1	華頂短期大学 総合文化学科 教授 （平17.4）						
105	その他	講師	ﾏﾂﾓﾄ ｴｲｼﾞ 松本　榮次 ＜令和8年4月＞		博士 （学校教育学）		宇宙を考える		1・2・3・4前・後	4	2	松本司法書士事務所 司法書士 （令2.12）						

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（看護学部看護学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
106	その他	講師	ﾏﾂﾓﾄ ｻﾄｺ 松本　聡子 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		Integrated Communication Skills１ Integrated Communication Skills２ Integrated Communication Skills３ Integrated Communication Skills４		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	佛教大学 非常勤講師 （平8.4）						
107	その他	講師	ﾏﾂﾓﾄ ﾄｷｺ 松本　聡子 ＜令和8年9月＞		修士 （社会福祉学）		社会福祉		1後	2	1	佛教大学 非常勤講師 （平24.4）						
108	その他	講師	ﾐｭｰﾘ ﾏｷｺ ﾐｭｰﾘ 真貴子 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		Intensive Reading１ Intensive Reading２ Skill-building（TOEIC600）１ Skill-building（TOEIC600）２		1前 1後 1前 1前	1 1 1 1	1 1 1 1	佛教大学 非常勤講師 （令4.4）						
109	その他	講師	ﾑﾗｲ ｼｹﾞﾐﾂ 村井　繁光 ＜令和8年4月＞		修士 （法学）		スポーツ理論 スポーツ実技		1前・後 1前・後	4 4	2 2	佛教大学 非常勤講師 （平18.8）						
110	その他	講師	ﾑﾗｶﾐ ﾕｲ 村上　結唯 ＜令和11年4月＞		学士 （保健学）		精神看護学実習	○	4前	2	1	(一財)長岡記念財団 長岡ヘルスケアセンター 看護師 （令7.1）						
111	その他	講師	ﾓﾛｵｶ ﾃﾂﾔ 諸岡　哲也 ＜令和8年4月＞		修士 （文学）		日本事情		1前	2	1	佛教大学 非常勤講師 （平27.9）						
112	その他	講師	ﾔｽﾀﾆ　ﾓﾄﾉﾌﾞ 安谷　元伸 ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		ICTリテラシー		1前	2	1	四条畷学園短期大学 ライフデザイン総合学科 准教授 （平28.4）						
113	その他	講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾘｴ 山本　理恵 ＜令和8年4月＞		修士 （言語・文化学）※		中級ベトナム語		1前	1	1	佛教大学 非常勤講師 （平22.4）						
114	その他	講師	ﾕｶﾜ ﾑﾈﾉﾘ 湯川　宗紀 ＜令和8年4月＞		修士 （社会学） ※		エコロジーを考える		1・2・3・4前・後	4	2	佛教大学 非常勤講師 （平16.4）						
115	その他	講師	ﾖｼｲ ｹﾝｺﾞ 吉井　健悟 ＜令和9年9月＞		博士 （医学）		保健統計学		2後	2	1	京都府立医科大学大学院 生命基礎数理学 講師 （平25.8）						
116	その他	講師	ﾖｼｲ ﾏﾘｺ 吉井　麻里子 ＜令和8年4月＞		修士 （文学） ※		Intensive Reading１ Intensive Reading２ Integrated Communication Skills１ Integrated Communication Skills２ Integrated Communication Skills３ Integrated Communication Skills４		1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	佛教大学 非常勤講師 （平24.4）						
117	その他	講師	ﾖｼﾀﾞ ﾊﾙｶ 吉田　遥 ＜令和11年4月＞		学士 （保健学）		母性看護学実習	○	4前	2	1	京都岡本記念病院 看護師 （令4.4）						
118	その他	講師	ﾖｼﾐ ｹﾝｼﾞ 吉見　憲二 ＜令和8年9月＞		博士 （国際情報通信学）		データサイエンスの基礎を学ぶ		1後	2	1	成蹊大学 経営学部 教授 （令2.4）						
119	その他	講師	ﾖｼﾕｷ ﾉﾘｺ 吉行　紀子 ＜令和10年9月＞		博士 （看護学）		老年看護学実習	○	3後	3	1	佛教大学 非常勤講師 （令3.1）						
120	その他	講師	ﾘｭｳ ｶｸﾖｳ 劉　赫洋 ＜令和8年4月＞		博士 （外国語教育学）		異文化への扉 ―多文化共生のための外国語―		1前	2	1	佛教大学 文学部 講師 （令5.4）						
121	その他	助教	ｳｻﾐ ﾄﾓﾐ 宇佐美　智美 ＜令和8年9月＞		修士 （看護学）		アカデミック・スキルズ	○	1後	2	1	佛教大学 保健医療技術学部 助教 （令4.4）						

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基幹教員の年齢構成・学位保有状況

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	2人	人	4人	2人	8人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	2人	2人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	人	3人	人	1人	人	4人	
	修　士	人	人	人	1人	人	人	1人	2人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	1人	1人	1人	人	人	3人	
	修　士	人	人	1人	1人	2人	人	人	4人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	1人	2人	2人	1人	人	人	6人	
	学　士	人	4人	人	人	人	人	人	4人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	1人	6人	1人	5人	2人	15人	
	修　士	人	1人	3人	4人	3人	人	3人	14人	
	学　士	人	4人	人	人	人	人	人	4人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，基幹教員についてのみ作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　「基幹教員の年齢構成・学位保有状況」欄の「基幹教員」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合，「専任教員」と読み替えること。
5　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。